

研究活動

1. 研究内容と成果発表状況

研究活動の状況(研究課題)

研究活動の状況(研究成果)

(1993年1月-1996年6月,印刷中を含む。)

2. 共同研究,受託研究等の実施状況

国内外・学内の共同研究,受託研究の実施状況

(1993~1996年)

3. 研究費の状況

(科学研究費補助金の採択状況,学外からの資金導入状況等)

4. 学会活動

学会の役員、委員等

学会誌の編集委員等

学会の主催(国内・国外)

(1993~1996年)

5. 学会賞等の受賞状況

Ⅲ 研究活動

1 研究内容と成果発表状況

10 基礎医学講座(解剖学第 1, 解剖学第 2, 生理学第 1, 生理学第 2, 生化学, 分子病態学, 薬理学, 病理学第 1, 病理学第 2, 微生物学), 4 社会医学講座(衛生学, 公衆衛生学, 法医学, 寄生虫学), 18 臨床医学講座(内科学第 1, 内科学第 2, 内科学第 3, 外科学第 1, 外科学第 2, 産科産婦人科学, 整形外科学, 脳神経外科学, 眼科学, 耳鼻咽喉科学, 皮膚科学, 泌尿器科学, 神経精神医学, 小児科学, 放射線医学, 麻酔・蘇生学, 臨床検査医学, 口腔外科学), 反射研究施設, 嫌気性菌実験施設, 動物実験施設及び薬剤部, 中央放射線部, 輸血部, 救急部などで活発な研究がなされている。

各講座, 研究施設等の主な研究内容については, 次表のとおりである。

(1) 各講座・研究施設等の主な研究内容(平成 8 年 7 月現在)

基礎医学講座

解剖学第 1

1. Ca 代謝関連ホルモンに関する電子顕微鏡的研究
2. 重力環境が動物に及ぼす影響についての形態学的研究
3. ヒトの血管系についての解剖学的研究

解剖学第 2

1. 感覚情報処理機構の形態学的解析
2. 小脳・前庭系神経路の形態学的解析
3. 小脳の生後発達の形態学的解析
4. 神経情報伝達機構の形態・生理・薬理学的解析

生理学第 1,

1. 循環生理: 血圧調節系のシステム解析, 各臓器の血流調節, 各種生理活性物質血行動態および自律神経系への影響, 体液恒常性維持機構, NaCl の代謝機構, 腸管における吸収排泄に対する自律神経性調節
2. 病態生理: 塩感受性高血圧の発症機序, 肝硬変時の体液恒常性維持機構の破綻機序, 循環ショック時の自律神経系異常
3. 神経生理, 神経薬理: 神経伝達物質, 特に低酸素のカテコールアミン遊離機構に対する影響, 一酸化窒素の神経伝達物質遊離機構に対する影響, これらの条件が細胞内カルシウム調節機構をはじめとするセカンドメッセンジャー機構や受容体等に及ぼす影響

生理学第 2 ,

1. 血漿アルブミン分子の構造と機構及び病態に関する研究
2. 蛋白質一般の高次構造形成過程の物理化学的研究
3. 核磁気共鳴測定法による生体内における水の存在状態に関する研究
4. Magnetic Resonance Imaging における新しい撮像法開発の研究

生化学,

1. 生体膜脂質の物性並びに情報変換機構
2. 細胞増殖・分化・癌化と膜脂質代謝応答
3. 炎症・アレルギー・免疫関連細胞の機能発現機構と病態
4. カルシウム動態の分子機構
5. 病原性真菌細胞の分子生物学・生化学的研究

分子病態学,

1. 染色体分配に関与する遺伝子 aik の機能解析
2. GTP 結合蛋白質の構造と機能
3. TGF- β により誘導される遺伝子 TSC-22 の機能解析
4. 新規ヒトユビキチン結合酵素遺伝子の機能解析

薬理学,

1. 病態動物の作成とその循環調節機構の解明
2. 臨床薬効評価と Therapeutic Drug Monitoring (TDM)
3. 抗血栓薬及び血管肥厚抑制薬の薬効評価
4. 骨吸収因子の作用メカニズムの解明
5. 白血球機能とそれに及ぼす薬物の影響

病理学第 1 ,

1. 消化器癌発生機構に関する実験病理学的研究
2. 癌の発生予防, 発生要因検出のための病理学的研究
3. 悪性腫瘍及び前駆病変診断の細胞病理学的研究

病理学第 2 ,

1. リンパ増殖性疾患の分化抗原, DNA の解析
2. 悪性リンパ腫の組織発生の研究
3. 自己免疫疾患発症機序の細胞遺伝学的研究

4. 腫瘍の免疫学的, 分子生物学的診断
5. 分子生物学的手法による腫瘍治療の実験的研究
6. ヒト腫瘍抗原の分子生物学的解析

微生物学

1. 細菌分類と微生物の系統発生に関する研究
2. 感染症の分子診断学
3. 食細胞内で増殖する微生物の分子遺伝学

社会医学講座

衛生学

1. 老人性痴呆に関する疫学的・社会病理学的研究
2. 振動障害・騒音性難聴に関する職業保健的研究
3. 農業労働による負担と生理的反応とくに腰痛に関する研究
4. 小児成人病に関する研究
5. 不慮の事故に関する疫学的研究

公衆衛生学,

1. 食習慣を中心としたライフスタイルと癌発生に関する疫学的研究
2. 日系米人の癌発生パターンとその背景因子に関する疫学的研究
3. 地域・職場における精神保健ならびに健康教育に関する研究
4. 日本人の健康観, 医療行動, 地域医療システムに関する研究

法医学,

1. 肺を中心とする in situ 観察と各死因の法医病理学的研究
2. ショック時早期に諸臓器に発生する形態学的変化の研究
3. SIDS における肺での換気障害の形態学的変化の研究
4. 薬物代謝酵素の法医学, 組織化学的研究
5. DNA 多型に関する法医学的研究

寄生虫学

1. 宿主-寄生体相互関係の細胞生物学的研究
2. 免疫・DNA 診断法の開発
3. 感染防御免疫・ワクチン開発の基礎研究

4. 環境生物とアレルギー

臨床医学講座

内科学第 1 ,

1. 急性・慢性肝不全の病態と治療に関する研究
2. 肝壊死と再生の病態連繋とその制御機構に関する研究
3. ビタミン A 類緑化合物による癌の化学予防と分化誘導療法に関する研究

内科学第 2 ,

1. 狭心症・心筋梗塞の発症のメカニズムと治療
2. 心筋症の発症のメカニズムと治療
3. 成人の川崎病の治療
4. 肺動静脈系に関する実験的・臨床的研究

内科学第 3 ,

1. 各種下垂体疾患の診断・治療に関する研究
 - a. クッシング病の病態と治療に関する研究
 - b. 下垂体疾患と自己免疫機序との関連についての研究
2. 高血圧症への内分泌学的アプローチ
3. ステロイドホルモンの生合成, 作用機序に関する分子生物学的研究
4. 糖尿病と他の内分泌疾患との関連についての研究
5. インスリン作用機序・低抗性機序の研究
6. 糖尿病性神経症, 血管障害の診断・成因に対する MRI によるアプローチ
7. 抗甲状腺ホルモン自己抗体と甲状腺疾患の関連についての研究

外科学第 1 ,

1. 心臓・血管・呼吸器及び消化器外科学の臨床研究
2. 消化器及び胸部悪性腫瘍等の外科腫瘍学的研究
3. 臓器保存・移植免疫等の臓器移植の研究
4. 補助心臓等の人工臓器の研究
5. 外科的血栓止血学的研究

外科学第 2 ,

1. 内因性 LAK, CTL 誘導法の開発と受動免疫療法
2. RT-PCR 法を用いた各種癌関連遺伝子発現誘導能の研究
3. 遊離肝細胞脾内移植による肝補助法の開発と人工肝の開発

4. 血行性転移の機序と周手術期の影響の研究
5. 核 DNA, AGNORs, P53, nm23, CerbB 2, APC 遺伝子の解析と癌悪性度の研究
6. DDS を用いた targeting cancer chemotherapy の開発
7. CEA キットと癌性腹膜炎の早期診断法の開発

産科産婦人科学,

1. 婦人科腫瘍のオンコジーンと性ステロイドの関連の研究
2. 性ステロイドと増殖因子の分子生物学的研究
3. 膜レセプターの応答と婦人科腫瘍
4. 細菌フローラと婦人科病変に関する研究
5. エストロゲンによる婦人科腫瘍発生・発育に係る機構
6. 抗菌, 抗癌化学療法
7. 内分泌療法
8. 漢方

整形外科学,

1. 健常者・運動障害例の動作分析並びに脊柱・関節バイオメカニクスに関する研究
2. 同種骨・軟骨・人工材料による関節置換に関する基礎的・臨床的研究
3. 骨の細胞動態機能並びに骨量減少防止に関する基礎的・疫学的研究
4. 悪性骨軟部腫瘍の治療に関する研究
5. 関節リュウマチの病態に関する免疫学的・生化学的研究
6. 骨関節感染症に関する研究
7. 末梢神経損傷に関する研究
8. 各種薬剤の長期投与による骨・軟骨代謝への影響

脳神経外科学,

1. 悪性脳腫瘍の治療に関する研究
2. 脳血管攣縮の成因, 病態及び治療に関する研究
3. 脳虚血と脳保護に関する研究
4. Photodynamic therapy による悪性腫瘍治療に関する研究
5. ウイリス動脈輪閉塞症の成因並びに脳循環動態に関する研究
6. 新しい画像解析法の臨床応用

眼科学,

1. 緑内障性視神経障害の病態生理に関する研究

2. 緑内障手術における代謝拮抗剤の応用に関する研究
3. 眼内血液循環に関する生理学的及び形態学的研究
4. 各種レーザーの眼内組織に及ぼす影響に関する形態学的研究
5. 眼底疾患への画像解析法の応用による新しい治療法の開発

耳鼻咽喉科学,

1. めまい・平衡障害の基礎的・臨床的研究
2. 平衡訓練に関する研究
3. 平衡機能の発達と加齢変化に関する研究
4. 宇宙における錯覚・失認対策法に関する研究
5. 耳鼻咽喉科疾患の免疫反応における細胞応答についての研究
6. 耳鼻咽喉科腫瘍に関する基礎的・臨床的研究
7. 耳鼻咽喉科感染症に関する基礎的・臨床的研究

皮膚科学,

1. 自己免疫性水泡症の発症機序とシグナル伝達
2. 先天性表皮水泡症の分子生物学的研究
3. 表皮細胞の細胞骨格と細胞接着の正常と異常
4. 表皮細胞の角化制御と細胞内情報伝達機構
5. 強皮症線維芽細胞の細胞内情報伝達機構の生化学的研究
6. 乾癬培養ケラチノサイト及び線維芽細胞の相互作用についての実験的研究
7. 皮膚悪性上皮性腫瘍及び間葉系腫瘍の起源細胞についての免疫組織学的及び免疫細胞学的研究
8. 皮膚真菌症と病原性真菌の電顕と生化学的研究

泌尿器科学,

1. 尿路感染症の基礎的・臨床的研究
2. 性行為感染症の診断法の改良に関する研究
3. 尿路・性器腫瘍における腫瘍マーカーの確立に関する研究
4. 尿路・性器腫瘍の化学療法に関する基礎的・臨床的研究
5. 腎不全治療における臨床的研究

神経精神医学,

1. 精神分裂病, 躁うつ病, 非定型精神病の精神病理学的研究
2. 登校拒否, 摂食障害, 自閉症など児童・青年期の精神医学的諸問題に関する研究
3. 老年期の精神障害に関する研究

4. 心身症及びリエゾン精神医学に関する研究
5. アルコール・薬物関連障害並びに精神保健に関する研究

小児科学,

1. 先天性免疫不全症の病因病態に関する遺伝子学的研究
2. アレルギー疾患発症に関する免疫学的, 遺伝子学的研究
3. 遺伝性ムコ多糖症の遺伝子レベルでの研究
4. ペルオキシソーム病の遺伝子レベルでの研究
5. 有機酸代謝異常症の遺伝子レベルでの研究

放射線医学,

1. 消化管悪性腫瘍の X 線診断及び前臨床期癌の効率的集団検診法の開発
2. 早期肺癌の X 線診断及び肺癌集団検診法の開発
3. 画像診断法 (X 線, RI, HR, CT, US, MRI) による早期肝癌の診断法の開発
4. Interventional Radiology の臨床応用
5. 難治性癌に対する放射線治療を主体とした集団的治療法の開発
6. 核医学による脳機能測定, 悪性腫瘍の診断

麻酔・蘇生学,

1. 麻酔・ストレス中の呼吸・循環反射に関する臨床的研究
2. 脳・脊髄循環に対する麻酔及び関連薬に関する研究
3. 麻酔・疼痛のシグナル伝達とその制御機構に関する神経化学的研究
4. 新しい心肺・脳蘇生法の開発に関する研究
5. 心臓機能モニターの開発

臨床検査医学,

1. 血清リポ蛋白 (a)の生理的及び病態的意義について
2. 血清リポ蛋白及びアポ蛋白代謝について
3. 癌の免疫組織化学的研究
4. 臨床化学検査の測定法について
5. トリプトファン代謝と脳神経系との関連性について

口腔外科学

1. 骨代謝に関する研究
2. 顎関節症の発症原因に関する研究
3. 骨肉腫における化骨機転に関する研究

4. 炎症性骨吸収に関する研究
5. 腫瘍による間接的骨吸収について

救急部

1. 救急疾患に関する臨床的研究
2. 大動脈瘤発生および破裂に関する研究
3. 急性動脈閉塞症に関する基礎的・臨床的研究

薬剤部,

1. 医療品製剤の薬剤学的評価
2. 院内特殊製剤の開発とその臨床応用
3. 薬物の生体内動態
4. 薬物相互作用

施設

反射研究施設,

1. 前庭・自律神経反射に対する無重力模擬実験, 特に脳循環を中心とする宇宙生理学
2. 前庭・姿勢・動眼反射の脳・中枢性機序の研究
3. 随意運動の高次運動領による調節機序の解明
4. 左右大脳皮質の強調機構の生理的・薬理的研究
5. 定常磁場の神経活動に対する作用の解明

嫌気性菌実験施設,

1. 嫌気性菌と固有細胞叢
2. 嫌気性菌の潜在的病原性
3. 嫌気性菌感染症の細菌学・診断法
4. 抗嫌気性菌作用のある化学療法薬
5. 嫌気性菌による院内感染

動物実験施設,

1. 発癌, 特に消化器系臓器の発癌の研究
2. 発癌過程におけるギャップ結合, 細胞間連絡の役割に関する研究
3. 肝細胞初代培養を用いた, 癌原物質, 変異原物質のスクリーニング
4. 発癌の化学予防の研究
5. 抗酸化物質の検索とその発癌修飾作用の研究

研究活動の状況(研究課題・研究成果)

(1993年1月-1996年6月,印刷中を含む。)

基礎医学

解剖学第一教室 解剖学第二教室 生理学第一教室 生理学第二教室 生化学教室

分子病態学教室 薬理学教室 病理学第一教室 病理学第二教室 微生物学教室

社会医学

衛生学教室 公衆衛生学教室 法医学教室 寄生虫学教室

臨床医学

内科学第一教室 内科学第二教室 内科学第三教室 外科学第一教室 外科学第二教室

産婦人科学教室 整形外科学教室 脳神経外科学教室 眼科学教室

耳鼻咽喉科学教室 皮膚科学教室 泌尿器科学教室 神経精神医学教室 小児科学教室

放射線医学教室 麻酔・蘇生医学教室 臨床検査医学教室 口腔外科学教室

医学部附属施設

反射研究施設 嫌気性菌実験施設 動物実験施設

附属病院

輸血部 薬剤部

解剖学第一講座

著書 (和文)

正村静子：上皮小体，電子顕微鏡でみるミクロの世界 ～生物編～，日本電子顕微鏡学会編，東京，学際企画，1995. 174-175 分担執筆

総説 (和文)

正村静子，江村正一，磯野日出夫：上皮小体の形態と機能．解剖学雑誌 68, 5-29 (1993)

江村正一，正村静子，磯野日出夫：上皮小体 分泌調節因子としての血清 Ca と自律神経．(連載講座 - 新しい観点からみた器官) 生体の科学 44, 146-152 (1993)

正村静子，早川大輔：上皮小体の血管構築．細胞 27, 1-5 (1995)

原著 (和文)

高橋啓一，松永隆信，青木隆明，佐藤克平，磯野日出夫，正村静子：ヒト骨盤における髓内血行の観察 (第 1 報)．Hip Joint 19, 398-401 (1993)

横井達夫，青木隆明，糸数万正，松永隆信，正村静子：解剖標本による腕橈関節および橈骨頭骨梁構造の観察．日本肘関節研究会雑誌 1, 37-38 (1994)

江村正一，内海倫也，早川大輔，玉田 章，山平トモ，寺沢岸子，正村静子，磯野日出夫：ゴールデン・ハムスター上皮小体の実質細胞における空胞様小体に関する研究 - 幼弱期のカルシウム投与による空胞様小体の消長 - ．日本臨床電子顕微鏡学会誌 27, 77-84 (1994)

高橋啓一，松永隆信，青木隆明，佐藤克平，磯野日出夫，正村静子：ヒト骨盤における髓内血行の観察 (第 2 報)．Hip Joint 20, 137-142 (1994)

玉田 章，早川大輔，山平トモ，寺沢岸子，江村正一，磯野日出夫，正村静子：ウズラ上皮小体の電顕的研究 孵卵 15 日 ．岐大医短紀要 1, 1-8 (1994)

江村正一，早川大輔，玉田 章，寺沢岸子，山平トモ，寺沢岸子，磯野日出夫，正村静子：遺伝性蓄積性疾患における直腸粘膜の骨髓移植による影響．岐大医短紀要 1, 9-15 (1994)

江村正一，早川大輔，陳華岳，玉田章，磯野日出夫，正村静子：ムコ多糖症の形質細胞に見られた線維状構造物の微細構造．岐大医短紀要 2, 39-43 (1995)

原著 (欧文・国内)

Utsumi M, Emura S, Hayakawa D, Yamahira T, Terasawa K, Tamada A, Isono H, Shoumura S: Ultrastructure of the parathyroid gland of magnesium-treated golden hamster exposed to a hypergravity environment: A stereological study. *Okajimas Folia Anat Jpn* 70, 209-218 (1993)

Utsumi M, Nose T, Tsurumi K, Shoumura S, Ohno N: The effect of ultraviolet b irradiation treatments on the ultrastructure of the golden hamster parathyroid gland. *Photomedicine and Photobiology* 16, 41-44 (1994)

原著 (欧文・国外)

Oda H, Arakawa M, Kambara K, Nakahara K, Segawa T, Ando F, Kawada T, Hirakawa S, Shoumura S, Isono H: Ultrastructural substrates for increased lung water content in experimental pulmonary edema. *Histol Histopath* 8, 73-82 (1993)

Emura S, Utsumi M, Hayakawa D, Yamahira T, Terasawa K, Tamada A, Arakawa M, Kawada T, Isono H, Shoumura S: Effects of prostaglandin E2 on the ultrastructure of the golden hamster parathyroid gland. *Histol Histopath* 9, 269-273 (1994)

Emura S, Hayakawa D, Yamahira T, Terasawa K, Tamada A, Arakawa M, Isono H, Shoumura S: Effects of progesterone on the ultrastructure of the golden hamster parathyroid gland. *Histol Histopath* 10, 907-911 (1995)

Itokazu M, Takahashi K, Matsunaga T, Hayakawa D, Emura S, Isono H, Shoumura S: A study of the arterial supply of the human acetabulum using a corrosion casting method. *Clinical Anatomy* in press

解剖学第二講座

著書 (和文)

長崎幸雄：脳の発生過程にもとづいた身体運動の生後発達 - 特に小脳皮質との関連性 - , 情報系体育科教育研究の系譜, 坂本和丈 松岡重信編, 東京,新体育社, 1994. 147-162

長崎幸雄：選手とコーチのためのスポーツ医科学用語集 , 岐阜県体育協会スポーツ医科学委員会編, 岐阜,岐阜県体育協会, 1995.

総説 (和文)

伊藤和夫：機能からみた解剖・生理 視る (解剖学的). Brain Nursing 9, 41-45 (1993)

長崎幸雄, 小野塚実：身体運動の生後発達と小脳皮質との関連性. 教育医学 38, 276-282 (1993)

小野塚実, 渡邊和子, 長崎幸雄, 小園知, 山本 哲：一般社会におけるてんかんの正しい認識. 教育医学 41, 185-194 (1995)

渡邊和子, 長崎幸雄, 小園 知, 山本 哲, 小野塚実：学習・記憶のメカニズム - 最近の動向 - . 教育医学 41, 180-184 (1995)

長崎幸雄, 渡邊和子, 小園 知, 山本 哲, 小野塚実：身体運動の加齢変化に関連する神経機構について. 教育医学 41, 268-272 (1996)

原著 (和文)

西山勝弘, 坂口和子, 小野塚実, 坂口 洋：E. Coli 由来のポリシアル酸化合物のエレクトロスプレー分析への応用. 日本医用マススペクトル学会誌 20, 97-100 (1995)

小野塚実, 渡邊和子：神経電位とマイクロ電極の作製. クロマトグラフィー 17, 98-101 (1996)

西山勝弘, 坂口 洋, 坂口和子, 小野塚実, 川瀬俊夫, 斉藤 滋：HPLC-ESI/MS システムを用いたポリシアル酸の分析. クロマトグラフィー 17, 158-159 (1996)

小園 知, 林 弘之, 山本 哲, 長崎幸雄, 渡邊和子, 小野塚実, 原田 寧, 浜島浩史, 平野

修助：母体性高フェニールアラニン血症の脳組織における髄鞘形成。必須アミノ酸研究会誌，印刷中（1996）

原著（欧文・国内）

Watanabe K, Onozuka M: Glutamate-induced membrane hyperpolarization in Euhadra neurons: Involvement of protein phosphorylation. *Cell Struct Funct* 18, 629 (1993)

Matsunami K, Kawashima T, Ueki S, Fujita M and Konishi T: Topography of commissural fibers in the corpus callosum of the cat: a study using WGA-HRP method. *Neurosci Res* 20, 137-148 (1994)

Yamamoto A, Ozono S, Onozuka M, Omori K, Tashiro Y, Fukami Y: Immunocytochemical localization of Na, K-ATPase in rat muscle spindles. *Cell Struct Funct* 19, 179-187 (1994)

Onozuka, M, Imai S, Watanabe K, Ozono S: An albumin-like 70K glycoprotein found in cobalt-induced epileptic focus of rat cerebrum (I). *Cell Struct Funct* 19, 531 (1994)

Watanabe K, Imai S, Ozono S, Onozuka, M: An albumin-like 70K glycoprotein found in cobalt-induced epileptic focus of rat cerebrum (II). *Cell Struct Funct* 19, 531 (1994)

Ozono S, Sato K, Ito Y, Kubota N, Hayashi H, Kato H, Onozuka M: Immunohistochemical localization of estrogen receptors in the submandibular gland tumors of female rats. *Cell Struct Funct* 19, 35-340 (1994)

Nagasaki S, Ozono S, Watanabe K, Yamamoto T, Onozuka M: An age-related changes in the cerebellar cortical thickness of the altricial animals: a possible linkage to the determination of training time of human physical movements. *J Edu Health Sci* 41, 235-241 (1995)

Seto-Ohshima A, Karasawa N, Nagatsu I, Uchida K, Isobe T, Imai S, Ozono S, Onozuka, M: Nuclear localization of P70-like protein in neurons of the superior colliculus and substantia nigra of the gerbil. *Acta Histochem Cytochem* 28, 461-463 (1995)

原著（欧文・国外）

Funase K, Watanabe K, Onozuka M: Augmentation of bursting pacemaker activity by serotonin in an identified Achatina neuron: An increase in sodium and calcium-activated negative slope resistance via cyclic AMP-dependent protein phosphorylation. *J Exp Biol* 175,

33-44 (1993)

Yamamoto T, Sakada S, Ozono S, Onozuka M, Fukami Y: A novel stretch receptors in the jaw of the rat. *Brain Res* 607, 261-269 (1993)

Onozuka M, Watanabe K, Imai S, Nagasaki S, Yamamoto T: Lidocaine suppresses the sodium current in Euhadra neurons which is mediated by cAMP-dependent protein phosphorylation. *Brain Res* 628, 335-339 (1993)

Ogawa-Meguro R, Shigemoto R, Itoh K, Konishi A, Mizuno N: Immunohistochemical localization of substance p receptor in the superior colliculus - a light and electron microscope study in the rat. *Neurosci Lett* 166, 135-138 (1994)

Jotwani G, Itoh K, Wadhwa S: Immunohistochemical localization of tyrosine hydroxylase, substance P, neuropeptide-Y and leucine-enkephalin in developing human retinal amacrine cells. *Dev Brain Res* 77, 285-289 (1994)

Onozuka M, Watanabe K, Nagata K, Imai S: Involvement of a Ca^{2+} /calmodulin-dependent protein kinase II-associated mechanism in the induction of an outward potassium current by quisqualate. *Brain Res* 650, 336-340 (1994)

Watanabe K, Onozuka M: Glutamate elicits an outward K^{+} current which is normally suppressed by a Ca^{2+} /calmodulin-dependent protein kinase II. *Brain Res* 654, 352-356 (1994)

Ozono S, Sato K, Ito Y, Kubota N, Hayashi H, Kato H, Yamamoto T, Watanabe K, Onozuka M: Immunohistochemical evidence that tumor elicits the synthesis of estrogen receptors in the submandibular gland of female rats. *Experientia* 51, 220-222 (1995)

Onozuka M, Imai S, Isobe T, Yen C.-T, Watanabe K: Purification and characterization of a novel 70 kDa protein associated with seizure activities. *Neurochem Res* 20, 901-905 (1995)

Nagasaki S, Ozono S, Kawamura K, Yamamoto T, Watanabe K, Onozuka M: Regional differences in the age-related reduction of the cerebellar cortical thickness in senescence-accelerated mice. *Med Sci Res* 23, 425-427 (1995)

Yamamoto T, Ozono S, Watanabe K, Nagasaki S, Onozuka M: Maturation of static sensitivity is related to expansion of the capsular space in rat buccal stretch receptors. *Neurosci Lett* 199, 61-64 (1995)

Yamamoto T, Ozono S, Onozuka M: Structural and functional development of the buccal stretch receptor of the rat. In: *Brain and Oral Functions: Oral Motor Function and Dysfunction*. Morimoto T, Matsuya T, Takada K, ed, Amsterdam, Elsevier, 1995. 381-384, 1995

Onozuka M, Watanabe K, Nagasaki S, Nishiyama K: Dotarizine, a newly produced diphenylpiperazine derivative calcium channel blocker, inhibits [³H]spiperone binding to striatal dopamine receptors. *Med Sci Res* 24, 57-59 (1996)

Onozuka M, Watanabe K, Nagasaki S, Ozono S, Yamamoto T, Hayashi H, Karasawa N, Nagatsu I: Involvement of dotarizine in nigrostriatal dopamine system of adult and aged rats: biochemical and immunohistochemical analysis. *Biogenic Amines* 12, 69-82 (1996)

Onozuka M, Watanabe K: Suppression by calmodulin of glutamate-induced potassium current in identified snail neurons. *Neurosci Lett* 204, 105-108 (1996)

Onozuka M, Watanabe K, Nagasaki S, Yamamoto T, Nishiyama K, Ozono S: Evidence that a new diphenylpiperazine derivative, dotarizine, has no effect on nigrostriatal dopamine content in rats. *Med Sci Res* 24, 113-115 (1996)

Onozuka M, Watanabe K: Intracellularly applied anti-P70 antibody blocks the induction of abnormal membrane properties by pentylentetrazole in identified Euhadra neurons. *Brain Res*, in press (1996)

Yamamoto T, Ozono S, Watanabe K, Nagasaki S, Onozuka M: Structural and functional maturation of the buccal stretch receptor of the rat. *Exp Brain Res*, in press (1996)

その他

山脇恭二, 古田善伯, 今井 一, 長崎幸雄, 小林和典, 山本浩貴, 杉浦春雄: 岐阜県国体強化指定選手における等速性筋力の 3 年間の推移. 92 年岐阜スポーツ医学報告書, 113-147 (1993)

古田善伯, 山脇恭二, 今井 一, 長崎幸雄, 山本浩貴, 小林和典, 杉浦春雄: 岐阜県

国体強化選手の等速筋力の評価法の検討. 92 年岐阜スポーツ医科学報告書, 276-282 (1993)

小野塚実, 出浦滋之, 藤田雅文, 長崎幸雄: てんかんけいれんに関する研究: 特にてんかんラット大脳皮質において特異的に出現する 70K 水溶性蛋白の生理・生化学. 金原一郎記念医学医療振興財団助成金研究報告集 1, 15-16 (1995)

長崎幸雄, 小園 知, 渡邊和子, 山本 哲, 小野塚実: SAM 小脳における系統発生的に異なる部位の皮質層の生後発達. 第 12 回老化促進モデルマウス (SAM) 研究協議会抄録集, 19-20 (1996)

生理学第一講座

著書 (欧文)

Takeuchi H, Santos DE, Liu GJ, Araki Y, Zhang W, Emaduddin M, Kakitsuba N: Identifications in the ganglia and neurotransmitters of giant neurones of an African giant snail (*Achatina fulica* Ferussac). Proceeding of Malacological Society of the Philippines, 1993. 62-84

Takeuchi H, Liu GJ, Kim KH, Santos DE, Emaduddin M, Zhang W, Araki Y: Neuroexcitatory tetrapeptide having a D-phenylalanine residue, achatin-I, isolated from the ganglia an African giant snail (*Achatina fulica* Ferussac). "Environment and Physiology", (ed Mallick BN). New Delhi, India, 1994. 41-53

Takeuchi H, Emaduddin M, Araki Y, Zhang W, Han XY, Salunga TL, Wong SM: Further study on the effects of achatin-I, an *Achatina* endogenous neuroexcitatory tetrapeptide having a D-phenylalanine residue, on *Achatina* neurones. *Acta Biologica Hungarica*, 1995. Vol 46, 395-400

総説 (和文)

森田啓之, 細見 弘: 交感神経活動の調節機構と心臓血管中枢. *Cardiac Practice* 4, 257-261 (1993)

渡邊和子, 長崎幸雄, 小園 知, 山本 哲, 小野塚実: 学習・記憶のメカニズム. *教育医学* 41(2), 180-184 (1995)

小野塚実, 渡邊和子, 長崎幸雄, 小園 知, 林 弘之, 山本 哲: 一般社会におけるてんかんの正しい認識. *教育医学* 41(2), 185-194 (1995)

森田啓之: 体液恒常性維持にみられる予測制御機構. *循環器科* 39, 314-320 (1996)

長崎幸雄, 渡邊和子, 小園 知, 山本 哲, 小野塚実: 身体運動の加齢変化に関連する神経機構について. *教育医学* 41(3), 268-272 (1996)

総説 (欧文・国内)

Morita H, Matsuda T, Tanaka K, Hosomi M: Role of hepatic receptors in controlling body

fluid homeostasis. Jpn J Physiol 45, 355-368 (1995)

総説 (欧文・国外)

Morita H, Matsuda T, Ohyama H, Hagiike M, Horiba T, Miyake K, Yamanouchi H, Hosomi H: Role of the liver in regulating of extracellular NaCl homeostasis, 7th. Symposium on Salt Vol , 299-304 (1993)

Hosomi H, Morita H: Hepatorenal and hepatointestinal reflexes in sodium homeostasis, News in Physiological Science 11, 103-107 (1996)

原著 (和文)

村上 宏, 武田智博, 田中 聰, 香川広司, 森田啓之, 細見 弘: 腸管内圧上昇時の空腸吸収に及ぼす自律神経の影響. 自律神経 30, 546-550 (1993)

寺澤総介, 李 憲, 近藤直美, 折居忠夫: 乳幼児期の急性散発性非 A 非 B 型肝炎例の HCV 関連各種抗体よりみた C 型肝炎ウイルスの関与についての検討. 日本小児栄養消化器病学会雑誌 7, 198-205 (1993)

劉 国君, ディヴィナ・E・サントス, ムハンマド・エマドゥディン, 荒木陽子, 竹内 宏: Achatin-I の神経修飾作用. 神経化学 32(1), 254-255 (1993)

ディヴィナ・E・サントス, 劉 国君, 張 唯, 荒木陽子, 竹内 宏: Triprolidine の Achatin-I に対する拮抗作用. 神経化学 32(1), 458-459 (1993)

李 憲, 竹内 宏: 培養ウシ副腎クロム親和細胞からの一酸化窒素刺激によるカテコールアミン遊離. 神経化学 33, 508-509 (1994)

張 唯, 荒木陽子, ツキジデス・L・サルンガ, 竹内 宏: Achatina fulica 巨大神経細胞に対する L - グルタミン酸関連物質の作用. 神経化学 33(1), 650-651 (1994)

小野塚実, 渡邊和子: 神経電位とマイクロ電極の作成. クロマトグラフィ - 17, 88-90 (1996)

長崎幸雄, 小園 知, 渡邊和子, 山本 哲, 小野塚実: SAM 小脳における系統発生的に異なる部位の皮膚層の生後発達. 老化促進モデルマウス (SAM) 研究協議会抄録集, 19-20 (1996)

小園 知, 林 弘之, 山本 哲, 長崎幸雄, 渡邊和子, 小野塚実, 原田 寧, 浜島浩史, 平野 修助: 母体性高フェニールアラニン血症の脳組織における髓鞘形成. 必須アミノ酸研究会誌, 印刷中 (1996)

原著 (欧文・国内)

Chowdhury MRK, Uemura N, Nishida Y, Morita H, Hosomi H: Effects of endothelins on fluid and NaCl absorption across the jejunum in anesthetized dogs. *Jpn J Physiol* 43, 709-726 (1993)

Miwa S, Lee K, Narumiya S: Pharmacological properties of nicotinic acetylcholine receptors on adrenal chromaffin cells and their modification by hypoxic exposure. *Jpn J Psychopharmacol* 13, 119-128 (1993)

Watanabe K, Onozuka M: Glutamate-induced membrane hyperpolarization in Euhadra neurons: Involvement of protein phosphorylation. *Cell Struct Funct* 18, 629 (1993)

Onozuka M, Imai S, Watanabe K, Ozono S: An albumin-like 70K glycoprotein found in cobalt-induced epileptic focus of rat cerebrum (I). *Cell Struct Funct* 19, 531 (1994)

Watanabe K, Imai S, Ozono S, Onozuka M: An albumin-like 70K glycoprotein found in cobalt-induced epileptic focus of rat cerebrum (II). *Cell Struct Funct* 19, 531 (1994)

Nagamachi K, Shitara K, Yamashita Y, Morita H, Nishida Y, Maeta H, Tanaka S, Hosomi H: Role of endogenous opioids and central opioid receptors in cerebral cortical blood flow autoregulation. *Jpn J Physiol* 45, 137-149 (1995)

Nagasaki S, Ozono S, Watanabe K, Yamamoto T, Onozuka M: An age-related changes in cerebellar cortical thickness of the altricial animals: a possible linkage to the determination of training time of human physical movements. *J Edu Health Sci* 41, 235-241 (1995)

原著 (欧文・国外)

Morita H, Matsuda T, Furuya F, Khanchowdhury MR, Hosomi H: Hepatorenal reflex plays an important role in natriuresis after high NaCl food intake in conscious dogs. *Circulation Res* 72, 552-559 (1993)

Fujiki N, Kawada T, Uemura N, Nishida Y, Morita H, Hosomi H: Sulfite suppresses

transducer function of the carotid sinus baroreceptor. *J Autonomic Nervous System* 43, 139-150 (1993)

Lee K, Sekine A: Effects of hypoxia on the stimulus-release coupling mechanisms in cultured bovine adrenal chromaffin cells. *Naunyn-Schmiedeberg's Arch Pharmacol* 348, 275-281 (1993)

Funase K, Watanabe K, Onozuka M: Augmentation of bursting pacemaker activity by serotonin in an identified Achatina neuron: An increase in sodium and calcium-activated negative slope resistance via cyclic AMP-dependent protein phosphorylation. *J Exp Biol* 175, 33-44 (1993)

Onozuka M, Watanabe K, Imai S, Nagasaki S, Yamamoto T: Lidocaine suppresses the sodium current in Euhadra neurons which is mediated by cAMP-dependent protein phosphorylation. *Brain Res* 628, 335-339 (1993)

Kagawa K, Suzuki S, Matsushita K, Uemura N, Morita H, Hosomi H: Relationship between the suppressive actions on intestinal absorption and cGMP production for the natriuretic peptide family in dogs. *Clinical Exp Pharmacol Physiol* 21, 83-92 (1994)

Tanaka K, Morita H, Suwaki H, Hosokawa K, Hosomi H: Effects of microinjection of Kainic acid into the nucleus tractus solitarius on fluid and NaCl absorption across the jejunum. *J Autonomic Nervous System* 48, 97-104 (1994)

Morita H, Tanaka K, Hosomi H: Chemical inactivation of the nucleus tractus solitarius abolished hepatojejunal reflex in the rat. *J Autonomic Nervous System* 48, 207-212 (1994)

Onozuka M, Watanabe K, Nagata K, Imai S: Involvement of a Ca^{2+} /calmodulin-dependent protein kinase II-associated mechanism in the induction of an outward potassium current by quisqualate. *Brain Res* 650, 336-340 (1994)

Watanabe K, Onozuka M: Glutamate elicits an outward K^{+} current which is normally suppressed by a Ca^{2+} /calmodulin-dependent protein kinase II. *Brain Res* 654, 352-356 (1994)

Liu GJ, Santos DE, Emaduddin M, Araki Y, Takeuchi H: Modulatory effects of Achatin-I.

Neurochem Res 19(7), 875-876 (1994)

Santos DE, Liu GJ, Zhang W, Araki Y, Takeuchi H: Antagonistic effect of triprolidine on Achatin-I excitation. *Neurochem Res* 19(7), 896-897 (1994)

Murakami H, Takeda T, Kagawa K, Morita H, Tanaka S, Hosomi H: The role of extrinsic nervous system in jejunal absorption during elevation of intraluminal pressure in anesthetized dogs. *J Autonomic Nervous System* 51, 237-244 (1995)

Morita H, Chen Q, Hosomi H: Role of hepatic nerves in long term control of NaCl homeostasis in Wister-Kyoto rats. *J Autonomic Nervous System* 54, 9-15 (1995)

Tanaka K, Matsuda T, Morita H, Hosomi H: Depressed sensitivity of the hepatoportal NaCl receptors in rats with carbon tetrachloride-induced liver cirrhosis. *American J Physiol* 269, R1390-R1395 (1995)

Chen Q, Morita H, Nishida Y, Hosomi H: Effects of a high-salt diet on tissue noradrenaline concentrations in Dahl salt-resistant and sensitive rats. *Clinical Exp Pharmacol Physiol Suppl* 1, S209-S211 (1995)

Lee K, Ito A, Koshimura K, Ohue T, Takagi Y, Miwa S: Differential effects of hypoxia on ligand binding properties of nicotinic and muscarinic acetylcholine receptors on cultured bovine adrenal chromaffin cells. *J Neurochemistry* 64, 874-882 (1995)

Nagasaki S, Ozono S, Kawamura S, Watanabe K, Yamamoto T, Onozuka M: Regional differences in the age-related reduction of the cerebellar cortical thickness in senescence-accelerated mice. *Med Sci Res* 23, 425-427 (1995)

Ozono S, Sato K, Ito Y, Kubota N, Hayashi H, Kato H, Yamamoto T, Watanabe K, Onozuka M: Immunohistochemical evidence that tumor elicits the synthesis of estrogen receptors in the submandibular gland of female rats. *Experientia* 5, 220-222 (1995)

Onozuka M, Imai S, Isobe T, Yen CT, Watanabe K: Purification and characterization of a novel 70 kDa brain protein associated with seizure activities. *Neurochem Res* 20, 901-905 (1995)

Yamamoto T, Ozono S, Watanabe K, Nagasaki S, Onozuka M: Maturation of static sensitivity

is related to expansion of the capsular space in rat buccal stretch receptors. *Neurosci Lett* 199, 61-64 (1995)

Araki Y, Liu GJ, Zhang W, Takeuchi H, Muneoka E: Further mapping of the *Achatina* giant neurone types sensitive to the neuroactive peptides isolated from invertebrates. *General Pharmacol* 26, 1701-1708 (1995)

Matsuda T, Morita H, Hosomi H, Okada M: Response of renal nerve activity to high NaCl food intake in dogs with liver cirrhosis. *Hepatology* 23, 303-309 (1996)

Yamashita Y, Nagamachi K, Morita H, Nishida Y, Tanaka S, Maeta H, Hosomi H: Intravenously injected naloxone reverses the decrease in renal sympathetic nerve activity seen during hypotensive hemorrhage in conscious rabbits by acting through central mechanisms. *J Autonomic Nervous System* 57, 57-62 (1996)

Morita H, Yamashita Y, Nishida Y, Tokuda M, Hatase O, Hosomi H: Fos Induction in rat brain neurons following stimulation of the hepatoportal Na-sensitive mechanism. *American J Physiol*, in press

Onozuka M, Watanabe K, Nagasaki S, Nishiyama K: Dotarizine, a newly produced diphenylpiperazine derivative calcium channel blocker, inhibits [³H]spiperone binding to striatal dopamine receptors. *Med Sci Res* 24, 57-59 (1996)

Onozuka M, Watanabe K, Nagasaki S, Yamamoto T, Nishiyama K, Ozono S: Evidence that a new diphenylpiperazine derivative, dotarizine, has no effect on nigrostriatal dopamine content in rats. *Med Sci Res* 24, 113-115 (1996)

Onozuka M, Watanabe K, Nagasaki S, Ozono S, Hayashi H, Yamamoto T, Karasawa N, Nagatsu I: Involvement of dotarizine in nigrostriatal dopamine system of adult and aged rats: biochemical and immunohistochemical analysis. *Biogenic Amines* 12, 69-82 (1996)

Onozuka M, Watanabe K: Suppression by calmodulin of glutamate-induced potassium current in identified snail neurons. *Neurosci Lett* 204, 105-108 (1996)

Onozuka M, Watanabe K: Intracellularly applied anti-P70 antibody blocks the induction of abnormal membrane properties by pentylentetrazole in identified *Euhadra* neurons. *Brain*

Res 716, 187-191 (1996)

Yamamoto T, Ozono S, Watanabe K, Nagasaki S, Onozuka M: Structural and functional maturation of the baccal stretch receptor of the rat. *Exp Brain Res* 111, 169-177 (1996)

Takeuchi H, Araki Y, Emaduddin M, Zhang W, Han XY, Salunga TL, Wong SM: Identifiable Achatina giant neurones: their localizations in ganglia, axonal pathways and pharmacological features. *General Pharmacol* 27, 3-32 (1996)

生理学第二講座

著書 (和文)

曾我美 勝, 恵良聖一, 桑田一夫, 亘 弘 : 1H-NMR でみた水の構造と生体内の水, 水科学とおいしい水, 工業技術会編, 東京, 研修社・工業技術会(株), 30-43 (1993)

恵良聖一 : マルチ機能タンパク質 : 血清アルブミン, 東京, 共立出版, 105 (1996)

著書 (欧文)

Sogami M, Era S, Takasaki A, Kuwata K, Kajihara T, Ejiri K, Nakamura K, Koseki T, Doi E: 1H-NMR studies on the molten-globule state of ovalbumin, Molecular Environment of Intra- and Extracellular Sodium (eds. Seo Y et al.), Kenbun Printing, Okazaki, 89-92 (1993)

Era S, Sogami M, Takasaki A, Kuwata K, Ejiri K, Kajihara T, Nakamura K, Watari H: Structural transition of human serum albumin in the acidic region: the N^F and F^E transitions, Molecular Environment of Intra- and Extracellular Sodium (eds. Seo Y et al.), Kenbun Printing, Okazaki, 93-95 (1993)

Sogami M, Era S, Takasaki A, Kuwata K, Erata T, Tasaki A, Kato K, Ejiri K, Kajihara T, Nakamura K, Watari H: Intermolecular cross-relaxation in bovine plasma albumin gel and solution states: basic studies on magnetization transfer contrast (MTC) imaging, Molecular Environment of Intra- and Extracellular Sodium (eds. Seo Y et al.), Kenbun Printing, Okazaki, 97-100 (1993)

Takasaki A, Sogami M, Era S, Uyesaka N, Kato K, Nakamura K, Ejiri K, Kajihara T, Hasegawa S, Ohashi K, Itoh M: Intermolecular cross-relaxation phenomena in blood: basic studies on MR-angiography under the magnetization transfer, Molecular Environment of Intra- and Extracellular Sodium (eds. Seo Y et al.), Kenbun Printing, Okazaki, 101-104 (1993)

Era S, Sogami M, Nakamura K, Takasaki A : Cross-relaxation studies on the state of water in synthetic copolymer gels: basic studies on phantom for magnetic resonance imaging, Molecular Environment of Intra- and Extracellular Sodium (eds. Seo Y et al.), Kenbun Printing, Okazaki, 105-108 (1993)

Nakamura K, Era S, Sogami M, Takasaki A: Comparative ¹H-NMR studies on the state of water in intact and scratched mouse lenses, Molecular Environment of Intra- and Extracellular Sodium (eds. Seo Y et al.), Kenbun Printing, Okazaki, 109-112 (1993)

総説 (和文)

惠良聖一：タンパク質の膜透過とモルテン・グロビュール状態. 膜 (MEMBRANE) 18(6), 318-324 (1993)

惠良聖一, 桑田一夫, 曾我美 勝, 加藤一夫, 亘 弘：¹H-NMR よりみた生体組織内の水の特性 基礎研究から臨床医学応用へ. 生物物理 34, 78-85 (1994)

惠良聖一：蛋白質の構造特性と生体膜透過. nanoGIGA 3, 1933-1936 (1994)

桑田一夫：タンパク質・核酸系の核磁気緩和現象 () オフ・レゾナンス照射効果を中心に . 生物物理 35, 205-209 (1995)

原著 (和文)

廖 登稔, 森本泰司, 林 知也, 仲西宏元, 西川弘恭: 中潜時聴覚誘発電位と針刺激. 臨床脳波 35 (4), 241-244 (1993)

野崎正勝, 丹羽雅之, 河野健一, Al-Essa Luay, 惠良聖一, 加藤晋二, 井高英一, 山口道広, 大野公男: 末梢血由来および腹腔内滲出多形核白血球の活性酸素産生に対する c-AMP 系の反応性の差. 岐阜大地共研セ研報 3, 13-18 (1993)

篠田昭八郎, 川岸與志男, 松岡敏男, 今井 一, 杉森弘幸, 山本佳代: 岐阜大学 1 年生の肥満・やせの意識調査. 岐阜大教養研報 29, 191-200 (1993)

杉森弘幸, 山本佳代, 松岡敏男, 今井 一, 川岸與志男, 篠田昭八郎: 本学学生の体力及び運動能力に関する調査報告 (第 11 報) 平成 4 年度入学生の体力・運動能力 . 岐阜大教養研報 29, 201-216 (1993)

松岡敏男, 杉森弘幸, 今井 一, 川岸與志男, 篠田昭八郎, 山本佳代: 大学生の生活と健康に関する研究. 岐阜大教養研報 29, 217-238 (1993)

惠良聖一, 中村浩二, 曾我美 勝, 高崎昭彦, 中上 寧: 交差緩和時間測定による合成高分子ゲル及びマウス水晶体内の水構造の研究. NMR 討論会講演要旨集 32, 179-182 (1993)

曾我美 勝, 惠良聖一, 桑田一夫, 高崎昭彦, 惠良田知樹, 田崎 明, 江尻和隆, 梶原孝彦, 加藤一夫, 中村浩二, 巨 弘: ウシ血漿アルブミン溶液, ゲル状態における分子間交差緩和現象の研究 Magnetization Transfer Contrast (MTC) Imaging の基礎的研究. NMR 討論会講演要旨集 32, 341-344 (1993)

林 知也: In vivo ^{31}P -NMR による強縮負荷した老化促進型マウス骨格筋エネルギー代謝の解析. 明治鍼灸医学 12, 55-64 (1993)

曾我美 勝, 惠良聖一, 巨 弘: タンパク質の溶液 ゲル変換における水構造変化. 食品の物性に関するシンポジウム講演要旨集 20, 8-9 (1993)

桑田一夫, Schleich T: O-ROESY 法による分子内部運動の解析. NMR 討論会講演要旨集 33, 67-70 (1994)

曾我美 勝, 惠良聖一, 高崎昭彦, 桑田一夫, 梶原孝彦, 小関泰平, 土居悦四郎: 交差緩和時間測定による卵白アルブミン (OVA)・molten-globule 状態の研究. NMR 討論会講演要旨集 33, 99-102 (1994)

曾我美 勝, 惠良聖一, 加藤一夫, 高崎昭彦, 桑田一夫, 上坂伸宏, 梶原孝彦, 中村浩二: タンパク質の溶液ゲル 変換における水性状の変化 磁化移動現象とスピン・格子緩和時間. NMR 討論会講演要旨集 33, 103-106 (1994)

上坂伸宏, 曾我美 勝, 惠良聖一, 高崎昭彦, 加藤一夫, 中村浩二, 長谷川節雄: 巨大ヘモグロビン集合体形成赤血球の分子間交差緩和現象の研究. NMR 討論会講演要旨集 33, 107-108 (1994)

篠田昭八郎, 杉森弘幸, 山本佳代, 今井 一, 松岡敏男, 川岸與志男, 芹澤幹雄: 岐阜大学 1 年生の健康調査. 岐阜大教養研報 30, 271-284 (1994)

松岡敏男, 杉森弘幸, 山本佳代, 今井 一, 川岸與志男, 篠田昭八郎: 大学生の生活と健康に関する研究 第 2 報 . 岐阜大教養研報 30, 285-308 (1994)

今井 一, 杉森弘幸, 山本佳代, 松岡敏男, 川岸與志男, 篠田昭八郎: 皮脂厚法による本学女子学生の体脂肪率. 岐阜大教養研報 30, 309-322 (1994)

杉森弘幸, 山本佳代, 松岡敏男, 今井 一, 川岸與志男, 篠田昭八郎: 本学学生の体力及び運動能力に関する調査報告 (第 12 報) 平成 5 年度入学生の体力・運動能力 . 岐阜大教養研報 30, 323-340 (1994)

桑田一夫: イメージングと磁化移動. 日磁医誌 15 (Suppl), 73-76 (1995)

上坂伸宏, 曾我美 勝, 恵良聖一, 加藤一夫, 長谷川節雄, 大西忠博, Schechter AN: 不安定異常ヘモグロビン赤血球の磁化移動の研究. NMR 討論会講演要旨集 34, 239-240 (1995)

曾我美 勝, 恵良聖一, 桑田一夫, 梶原孝彦, 亘 弘: 酸性側における血清アルブミン構造転移の研究 molten globule-like state. NMR 討論会講演要旨集 34, 241-244 (1995)

恵良聖一, 曾我美 勝, 梶原孝彦, 小関泰平, 土居悦四郎: 交差緩和時間測定による卵白アルブミン (OVA) モルテン・グロビュール状態の研究. NMR 討論会講演要旨集 34, 245-248 (1995)

曾我美 勝, 加藤一夫, 恵良聖一, 桑田一夫, 上坂伸宏, 梶原孝彦, 中上 寧: 新しい分子間交差緩和時間測定法とその応用. NMR 討論会講演要旨集 34, 249-252 (1995)

桑田一夫, Schleich T: O-ROESY 法による核酸及び蛋白質分子内部運動の解析. NMR 討論会講演要旨集 34, 337-338 (1995)

林 知也, 桑田一夫, 下山雄平, 恵良聖一, 中村浩二, 亘 弘: Vector EPR による牛血清アルブミンの動的構造. ESR 討論会講演要旨集 34, 97-99 (1995)

篠田昭八郎, 山本佳代, 杉森弘幸, 今井 一, 松岡敏男, 川岸與志男: 岐阜大学工学部夜間主コース学生の健康調査. 岐阜大教養研報 32, 203-218 (1995)

今井 一, 山本佳代, 玉腰由美, 杉森弘幸, 松岡敏男, 川岸與志男, 奥田英二, 篠田昭八郎: 本学女子学生の体脂肪率 (第 1 報). 岐阜大教養研報 33, 191-202 (1995)

杉森弘幸, 山本佳代, 今井 一, 松岡敏男, 川岸與志男, 篠田昭八郎: 大学生の投動作用に関する一考察 (1) 一般女子学生のソフトボール投げとハンドボール投げについて . 岐阜大教養研報 33, 203-214 (1995)

山本佳代, 杉森弘幸, 松岡敏男, 今井 一, 川岸與志男, 奥田英二, 篠田昭八郎, 玉腰由美:

本学学生の体力及び運動能力に関する調査報告 (第 13 報) 平成 6 年度入学生の体力・運動能力 . 岐阜大教養研報 33, 215-229 (1995)

恵良聖一, 曾我美 勝, 梶原孝彦, 小関泰平, 土居悦四郎: ¹H-NMR による卵白アルブミンの酸性 pH 領域での構造転移 モルテン・グロビュール状態. 第 2 回「タンパク質立体構造の構築原理」ワークショップ, 71 (1995)

原著 (欧文・国内)

Komabayashi T, Noguchi M, Izawa T, Suda K, Tsuboi M: Mechanism of isoprenaline-stimulated diacylglycerol formation in rat parotid acinar cells. *Jpn J Pharmacol* 62, 379-385 (1993)

Era S, Kuwata K, Sogami M, Kato K, Watari H: ¹H-NMR studies on the physical state of water in living system Basic studies and clinical application. *JRDC Forum for Multi-disciplinary Researches "Water Structure and Properties "*, 25-28 (1994)

Sogami M, Era S: ¹H-NMR and CD studies on the structural transition of plasma albumin in the acidic region the molten globule-like state. *2nd Workshop "Principles of Protein Architecture"*, 67 (1995)

Kuwata K: Assessment of the internal dynamics of nucleic acids and proteins using O-ROESY. *2nd workshop "Principles of Protein Architecture"*, 204 (1995)

原著 (欧文・国外)

Fujinami H, Komabayashi T, Izawa T, Nakamura T, Suda K, Tsuboi M: Recovery of α_1 -receptors and adenylate cyclase from desensitization induced by short term heat exposure in rat parotid glands. *Gen Pharmac* 24, 205-210 (1993)

Fujinami H, Komabayashi T, Izawa T, Suda K, Tsuboi M: in vivo adaptative regulation of muscarinic receptors and muscarinic stimulation-induced Ca^{2+} mobilization during short-term heat exposure in rat parotid glands. *Comp Biochem Physiol* 105C, 451-457 (1993)

Tsuboi M, Harasawa K, Izawa T, Komabayashi T, Suda K: Intralysosomal pH and release of lysosomal enzymes in the rat liver after exhaustive exercise. *J Appl Physiol* 74, 1628-1634 (1993)

Suda K, Izawa T, Komabayashi T, Tsuboi M, Era S: Effect of insulin on adipocyte lipolysis in exercise-trained rats. *J Appl Physiol* 74, 2935-2939 (1993)

Kuwata K, Era S, Sogami M: The kinetic studies on the intramolecular SH, S-S exchange reaction of bovine mercaptalbumin. *Biochim Biophys Acta* 1205, 317-324 (1994)

Kuwata K, Brooks D, Yang H, Schleich T: Relaxation matrix formalism for rotating frame spin-lattice proton NMR relaxation and magnetization transfer. *J Magn Reson B* 104, 11-25 (1994)

Brooks D, Kuwata K, Schleich T: Determination of proton magnetization transfer rate constants in heterogenous biological systems. *Magn Reson Med* 31, 331-336 (1994)

Kuwata K, Schleich T: Off-resonance rotating-frame nuclear Overhauser effect spectroscopy. *J Magn Reson A* 111, 43-49 (1994)

Era S, Kuwata K, Imai H, Nakamura K, Hayashi T, Sogami M: Age-related change in redox state of human serum albumin. *Biochim Biophys Acta* 1247, 12-16 (1995)

Kuwata K, Schleich T: Polarization operator formalism description of the off-resonance ROESY experiment. *J Magn Reson A* 114, 219-229 (1995)

Brooks D, Patrick L, Kuwata K, Schleich T: Reevaluation of the off-resonance rotating-frame nuclear Overhauser effect (O-ROESY) experiment. *J Magn Reson A* 117, 307-310 (1995)

Kuwata K, Ueki S, Era S, Sogami M, Watari H: Spin-lattice relaxation times of water in polarized and depolarized rabbit vagus nerves. *Biochem Biophys Res Commun* 215, 459-466 (1995)

Kuwata K, Era S, Sogami M, Amano H, Nagaoka S, Kato K, Takahashi K, Kitazawa Y, Watari H: Comparative ¹H-NMR studies on the physical state of water in soft contact lens and mouse lens. *Biochim Biophys Acta* 1289, 369-376 (1996)

Hayashi T, Kuwata K, Shimoyama Y, Era S, Nakamura K, Watari H: Dynamics of bovine serum albumin by vector EPR spectroscopy. *Reports Progr Polymer Phys Jpn*, in press

その他

曾我美 勝, 恵良聖一, 亘 弘 : Magnetization transfer と生体内水構造. アドバンスト MR 入門講座テキスト 1, 9-22 (1993)

曾我美 勝, 恵良聖一, 亘 弘 : Magnetization transfer と生体内水構造 . アドバンスト MR 入門講座テキスト 2, 10-29 (1994)

恵良聖一, 桑田一夫, 曾我美 勝, 亘 弘 : 生体組織内の水の特性 基礎研究から臨床応用へ. 非破壊生体計測に関する研究連絡会ニューズレター 17, 13-16 (1994)

曾我美 勝, 恵良聖一, 加藤一夫, 亘 弘 : $^1\text{H-NMR}$ による生体内・水性状の研究. 機能水シンポジウム '94 (平成 5 年度研究助成報告書), 95-99 (1994)

生化学講座

著書 (和文)

野澤義則：生体膜の異常に基づく疾患, バイオメンブランシステム - 生体膜と生命現象. 水島昭二, 宇井理生編, 東京, 講談社サイエンティフィック, 1993. 172-178

中島 茂, 野澤義則：生体膜リン脂質代謝とその生理的意義, 最新生体膜システム. 水島昭二, 宇井理生編, 東京, 講談社サイエンティフィック, 1993. 89-96

永田浩一, 野澤義則：GTP 結合蛋白質と血小板, Annual Review 血液 1993. 高久史磨, 宮崎澄雄, 斉藤英彦, 溝口秀昭編, 東京, 中外医学社, 1993. 175-183

野澤義則：メディエーターによる酵素活性の調節, 酵素実験法 . 大野素徳, 崎山文夫, 高橋健治編, 東京, 廣川書店, 1993. 595-612

野澤義則, 中島 茂：Phospholipase C 系 - IP 3 と DG, 生体における情報伝達. 田中千賀子, 西塚泰美編, 東京, 南江堂, 1993. 188-195

相原英孝, 大森正英, 尾庭きよ子, 竹中晃子, 田村 明, 長村洋一, 野澤義則：イラスト生化学入門 - 栄養素の旅 - . 東京, 東京教学社, 1993. 175p

加納宏行, 野澤義則：カルシウムのシグナル伝達機構, Bioscience Series. 小島 至編, 東京, 中外医学社, 1993. 26-39

永田浩一, 中島 茂, 野澤義則：G タンパク質とホスホリパーゼ, レセプター - 基礎と臨床 - . 井村裕夫, 岡 哲雄, 芳賀達也, 岸本英爾編, 東京, 朝倉書店, 1993. 56-66

野澤義則, 金保安則：ホスホリパーゼ系, 膜学実験シリーズ (生体膜編). 野澤義則, 神野耕太郎, 井上圭三, 大木和夫編, 東京, 共立出版, 1994. 49-54

中島 茂：血小板膜, 膜学実験シリーズ (生体膜編). 野澤義則, 神野耕太郎, 井上圭三, 大木和夫編, 東京, 共立出版, 1994. 82-86

永田浩一：クロマトグラフィーによる蛋白質精製, 膜学実験シリーズ (生体膜編). 野澤義則, 神野耕太郎, 井上圭三, 大木和夫編, 東京, 共立出版, 1994. 125-129

野澤義則：原生動物細胞オルガネラ，膜学実験シリーズ（生体膜編）。野澤義則，神野耕太郎，井上圭三，大木和夫編，東京，共立出版，1994. 108-111

野澤義則：スフィンゴシン，KEY WORD 1994-'95 炎症・免疫系。柏崎禎夫，室田誠逸編，東京，先端医学社，1994. 154-155

中島 茂，野澤義則：セラミド，KEY WORD 1994-'95 炎症・免疫系。柏崎禎夫，室田誠逸編，東京，先端医学社，1994. 162-163

加納宏行，野澤義則：ホスホリパーゼ D，KEY WORD 1994-'95 炎症・免疫系。柏崎禎夫，室田誠逸編，東京，先端医学社，1994. 220-221

中島 茂，野澤義則：血小板凝集の生化学，血液病学 第 2 版。三輪史朗，青木延雄，柴田昭編，東京，文光堂，1994. 309-317

野澤義則：脂質からみた生体膜，生体膜 - 新しい膜学への道。宇井理生，香川靖雄，春日雅人，野澤義則編，東京，講談社サイエンティフィック，1995. 1-58

香川靖雄，野澤義則：図説医化学，第 3 版。東京，南山堂，1995. 506p

坂野喜子，中島 茂，野澤義則：第 4 章 細胞シグナル物質，ホスホリパーゼ A2, C, D, [バイオマニュアル UP シリーズ] シグナル伝達実験法。宇井理生編，東京，羊土社，1996. 130-141

野澤義則，熊田裕一：血管平滑筋のリン脂質シグナリング，血管・血小板の生物学。日高弘義，大熊 稔，蔵本 淳，池田康夫，島田和幸編，東京，金芳堂，1996. 123-133

野澤義則：G 蛋白質と細胞内メッセンジャーの産生，標準分子医化学。藤田道也，渋谷正史，小島 至編，東京，医学書院，印刷中

中島 茂，野澤義則：イノシトールリン脂質代謝産物受容体，レセプター分子薬理学的アプローチ。日高弘義編，東京，講談社サイエンティフィック，印刷中

中島 茂，野澤義則：細胞表層の分子構造と細胞間コミュニケーション，分子生物学の展開，第 3 巻 高等動物の分子生物学。三浦謹一郎，関口睦夫，村松正實，畑中正一，山田康之編，

東京, 朝倉書店, 印刷中

岡野幸雄, 中島 茂, 野澤義則: IP3 と DG, ニューロサイエンス講座 第 5 巻 二次メッセンジャーと産生酵素. 竹縄忠臣, 野村靖幸編, 東京, 廣川書店, 印刷中

野澤義則: 膜の構造とリン脂質の役割, 最新内科学大系, 内科総論, 第 2 巻 科学としての内科学. 井村裕夫編, 東京, 中山書店, 印刷中

足立尊仁, 野澤義則: リン脂質による情報伝達 . 肝における受容体と情報伝達「肝臓病学」(Basic Hepatology). 戸田剛太郎, 織田正也, 清澤研道, 坪内博仁, 中沼安二編, 東京, 医学書院, 印刷中

野澤義則: 情報伝達とリン脂質代謝, 生物薬科学実験講座 3 脂質. 井上圭三, 瀧 孝雄, 中川靖一編, 東京, 廣川書店, 印刷中

加納宏行, 野澤義則: ホスファチジルイノシトールのリン酸化反応, 生物薬科学実験講座 3 脂質. 井上圭三, 瀧 孝雄, 中川靖一編, 東京, 廣川書店, 印刷中

中島 茂, 野澤義則: ホスホリパーゼ A2, 生物薬科学実験講座 5 生体膜の構造と機能. 石橋貞彦, 寺田 弘編, 東京, 廣川書店, 印刷中

坂野喜子, 野澤義則: ホスホリパーゼ C, 生物薬科学実験講座 5 生体膜の構造と機能. 石橋貞彦, 寺田 弘編, 東京, 廣川書店, 印刷中

金保安則, 野澤義則: ホスホリパーゼ D, 生物薬科学実験講座 5 生体膜の構造と機能. 石橋貞彦, 寺田 弘編, 東京, 廣川書店, 印刷中

著書 (欧文)

Nozawa Y, Banno Y, Nagata K: Regulation of phosphoinositide-specific phospholipase C activity in human platelets, *Advances in Experimental Medical and Biology*, Vol.334, *Mechanisms of Platelet Activation and Control*, (ed Authi KS, Watson SP, Kakkar VV). Plenum Press, New York and London, 1993. 37-48

Umeki S, Nozawa Y: Lipid composition of membranes involved in membrane traffic in Tetrahymena, *Advances in Cell and Molecular Biology of Membranes*, Vol. 2B, *Membrane Traffic in Protozoa*, (ed Tartakoff A M, Plattner H). JAI Press Inc, Greenwich, 1993. 447-465

Nakashima S, Nozawa Y: Receptor-mediated phospholipase D in secretory cells, *Lipid Mediators in Health and Disease (LMHD)*, (ed Zor U). Freund Publishing House Ltd, London, 1994. 65-69

Hara A, Inazu A, Deyashiki Y, Nozawa Y: Substrate specificity and kinetic mechanism of *Tetrahymena* 20 α -hydroxysteroid dehydrogenase, *Advance in Experimental Medicine and Biology*, Vol. 372, *Enzymology and Molecular Biology of Carbonyl Metabolism*, (ed Weiner H, Holmes RS, Wermuth B). Plenum Press, New York, 1995. 249-258

Nakashima S, Banno Y, Nozawa Y: Role of signal-transducing phospholipase A₂, C and D in platelet activation. *Advances in Molecular and Cell Biology Series*, Vol. 17, *The Platelet*, (ed Lapetina EG). JAI Press Inc, Greenwich, 1996. 253-274

Kitajima Y, Nozawa Y: Lipids and dimorphism of *Candida albicans* and *Sporothrix schenckii*, *Lipids of Pathogenic Fungi*, (ed Prasad R, Ghannoum MA). CRC Press Inc, 1996. 215-230

Umeki S, Nozawa Y: Adenylate and guanylate cyclase in *Tetrahymena*. *Progress in Molecular and Subcellular Biology*, Vol. 17, *Signaling Mechanisms in Protozoa and Invertebrates*, (ed Csaba G, Muller N). Springer-Verlag, Berlin, 1996. 40-60

Nakashima S, Banno Y, Nozawa Y: Platelet phospholipase C, D, *Handbook of Experimental Pharmacology*, Vol. 126, *Platelets and Their Factors*, (ed Bruchhausen V, Walter U). Springer-Verlag, Heidelberg, in press

Higashida H, Hashii M, Yokoyama S, Taketo M, Hoshi N, Noda M, Zhong ZG, Shahidullah M, Minabe Y, Nakashima S, Nozawa Y: Bradykinin B₂ receptors and signal transduction analyzed in NG108-15 neuroblastoma x glioma hybrid cells, B₂ receptor-transformed CHO cells and ras-transformed NIH3T3 fibroblasts, *Progress in Brain Research*, (ed Kruger L). Elsevier Science Publisher B.V. in press

総説 (和文)

坂井隆之, 野沢義則: 新しい情報変換酵素, ホスホリパーゼ D. *実験医学 (増刊 バイオシグナル実験法)* 11, 80-84 (1993)

野沢義則: 細胞膜シグナル変換の分子機構. *日皮会誌* 103, 1525-1528 (1993)

岡野幸雄, 傳 涛, 野澤義則: 画像解析法 (生物現象解析: Ca²⁺ 濃度分布) 癌化線維芽細胞における Ca²⁺ オシレーション. 日皮会誌 103, 1668-1669 (1993)

野澤義則: 情報伝達におけるレシチン (PC) 分解とその意義 - ホスホリパーゼ C, D を中心に. 生化学 65, 25-29 (1993)

野澤義則: 膜リン脂質と細胞増殖シグナル. 特集: 細胞増殖と疾患. MeBio 10, 52-58 (1993)

岡野幸雄, 野澤義則: c-MET/HGF レセプターとその細胞内情報伝達機構. 特集: HGF - 形態形成・組織再生・癌化. 実験医学 11, 34-40 (1993)

野澤義則: Candida albicans の二形性. 臨床と微生物 (増刊 微生物と感染症 21 世紀への歩み) 120, 867-874 (1993)

野澤義則: レシチンと情報伝達. 特集: 脂質研究 - 最近の話題. 医学のあゆみ 167, 835-838 (1993)

永田浩一, 野澤義則: シナプス分泌における GTP 結合蛋白質の機能. 特集: シナプス伝達 - 分泌機構研究の新展開. MeBio 10, 80-84 (1993)

野澤義則, 坂野喜子, 中島 茂: イノシトールリン脂質情報伝達研究の動向. 実験医学 (増刊 情報伝達研究の新しい展開) 11, 12-16 (1993)

永田浩一, 小池晃彦, 鈴木武志, 野澤義則: 血小板活性化の情報伝達. 実験医学 (増刊 情報伝達研究の新しい展開) 11, 191-196 (1993)

金保安則, 加納宏行, 小池晃彦, 岡野幸雄, 野澤義則: ホスホリパーゼ D の活性化機構. 実験医学 (増刊 情報伝達研究の新しい展開) 11, 31-37 (1993)

中島 茂, 坂野喜子, 野澤義則: 細胞内情報伝達の分子メカニズム. 呼吸 13, 719-727 (1994)

中島 茂, 野澤義則, 工藤修三: イノシトール. 日本臨床 (広範囲血液・尿化学検査・免疫学的検査) 683, 738-741 (1995)

中島 茂, 野澤義則 : フォスホリパーゼ D の細胞増殖制御における役割. 医学のあゆみ 173, 182-123 (1995)

中島 茂, 坂野喜子, 野澤義則 : 細胞活動におけるホスホリパーゼ D の役割と活性調節機構. 蛋白質 核酸 酵素 40, 877-888 (1995)

永田浩一, 野澤義則 : GTPase スーパーファミリー. 特集 : 遺伝子・タンパク質のファミリー・スーパーファミリー. 生体の科学 46, 581-583 (1995)

中島 茂, 野澤義則 : 好中球活性化とカルシウム. 特集 : アレルギーとカルシウム. CLINICAL CALCIUM 5, 22-26 (1995)

野澤義則, 大木和夫 : 生体膜脂質の動的構造と情報変換. 特集 : 脂質工学—現状と未来. 油化学 44, 721-724 (1995)

野澤義則 : 脂質と情報伝達. 特集 : 脂質 再発見 - 注目される脂質の新しい機能. 細胞工学 14, 1255-1263 (1995)

中島 茂 : 血小板活性化と膜リン脂質代謝. 血栓止血誌 7, 2-10 (1996)

野澤義則 : コレステロールと生体膜. 特集 : Up Date コレステロールのすべて - 基礎と臨床 - . 現代医療 28, 21-24 (1996)

野澤義則 : Rab と血小板. 実験医学 (増刊 GTP 結合蛋白質) 14, 242-243 (1996)

野澤義則, 岩崎愛彦, 中島 茂 : 信号伝達と細胞の最終分化 - ケラチノサイト. 特集 : 細胞分化. 生体の科学 47, 220-225 (1996)

大口健司, 野澤義則 : ホスホリパーゼ D(PLD) 活性調節と低分子量 GTP 結合蛋白質. 特集 : 膜脂質シグナリングの最新動向. 膜 21, 177-183 (1996)

野澤義則 : イノシトールリン脂質情報伝達. 実験医学 (増刊 シグナリングと脂質) 14, 18-22 (1996)

坂野喜子, 野澤義則 : ホスホリパーゼ C の多様性. 実験医学 (増刊 シグナリングと脂質) 14, 86-92 (1996)

中島 茂, 坂野喜子, 野澤義則: 血小板活性化における膜脂質シグナリング. 特集: 分泌異常による先天性凝固線溶因子欠乏症. 血液・腫瘍科, 印刷中

中島 茂, 坂野喜子, 野澤義則: 血小板膜脂質と情報伝達. 特集: 血小板機能とその新しい展開. 細胞, 印刷中

総説 (欧文・国外)

Nagata K, Nozawa Y: GTP-binding proteins in human platelets, Trends in Comp Biochem Physiol 1, 463-482 (1993)

Noda M, Okano Y, Nozawa Y, Egorova A, Higashida H: Endothelin induces phosphoinositide metabolite-dependent cellular responses in NG108-15 hybrid cells, Ann New York Acad Sci 707, 482-485 (1993)

Boyle SM, Szanislo PJ, Nozawa Y, Jacobson ES, Cole GT: Potential molecular targets of metabolic pathways, J Med Vet Mycol 32, 79-89 (1994)

原著 (和文)

熊田貴彦, 藤宮 大, 宮田英雄, 坂野喜子, 野澤義則: ラット好塩基球形白血病 (RBL-2H3) 細胞の抗原刺激および Ca^{2+} イオノフォア刺激によるセロトニン分泌応答と蛋白質チロシンリン酸化. アレルギー 42, 64-72 (1993)

川村廣美, 北川 章, 河合 清, 森 悟, 野澤義則: 血清アルブミンとの相互作用に関する分光蛍光学的研究. マイコトキシン 39, 13-18 (1994)

井上稲子, ファリバ ミルポド, 清島真理子, 森 俊二, 野澤義則: Cryptococcus neoformans の増殖過程における脂質合成に関する研究. 真菌誌 35, 421-425 (1994)

中村好克, 藤宮 大, 熊田貴彦, 小塩勝博, 宮田英雄, 中島 茂, 野澤義則: ラット好塩基球形白血病 (RBL-2H3) 細胞の抗原刺激によるホスホリパーゼ D 活性化に対する Pemirolast Potassium の効果. アレルギー 44, 624-629 (1995)

小塩勝博, 中村好克, 宮田英雄, 坂野喜子, 中島 茂, 野澤義則: ラット好塩基球形白血病 (RBL-2H3) 細胞のホスホリパーゼ D の活性化及び分泌応答におけるプロテインキナーゼ C アイソザイムの関与. アレルギー 44, 1410-1417 (1995)

加藤幸弘, 坂野喜子, 中島 茂, 岡 伸光: 骨芽細胞様細胞 MC3T3-E1 の分化初期応答におけるプロスタグランジン F₂ の作用 - グリセロリン酸とアスコルビン酸による分化誘導. 口科誌, 45, 1-12 (1996)

原著 (欧文・国内)

Suzuki N, Matsunaga T, Kanaho Y, Nozawa Y: The mechanism of bradykinin-induced arachidonic acid release in osteoblast-like MC3T3-E1 cells: Phospholipase A₂ activation by bradykinin and its regulation by protein kinase C and calcium. J Jpn Orthop Assoc 67, 935-943 (1993)

Liu B, Nakashima S, Kanoh H, Takano T, Shimizu T, Nozawa Y: Activation of phospholipase D in Chinese hamster ovary cells expressing platelet-activating factor receptor. J Biochem 116, 882-891 (1994)

Kawai K, Kitagawa A, Nakamura T, Nozawa Y: Biological activities of naphthoquinone pigment xanthomegnin from dermatophytes. Proc Jpn Soc Animal Biochem 31, 29-36 (1994)

Fujimiya H, Nakashima S, Kumada T, Nakamura Y, Miyata H, Nozawa Y: An antiallergic drug, pemirolast potassium, inhibits inositol 1,4,5-trisphosphate production and Ca²⁺ mobilization in antigen-stimulated rat basophilic leukemia (RBL-2H3) cells. Jpn J Allergol 43, 142-151 (1994)

Nakamura Y, Nakashima S, Fujimiya H, Kumada T, Kato Y, Miyata H, Nozawa Y: Effect of an antiallergic drug, pemirolast potassium on tyrosine phosphorylation and MAP kinase activation in antigen-stimulated rat basophilic leukemia (RBL-2H3) cells. Jpn J Allergol 44, 34-44 (1995)

Mirbod F, Nakashima S, Mori S, Kitajima Y, Nozawa Y: Phospholipid biosynthesis in growing and non-growing conditions in *Candida albicans*. Jpn J Med Mycol 36, 53-59 (1995)

Yano K, Kanoh H, Nakashima T, Sakai N, Yamada H, Nozawa Y: Activation of phosphoinositide-specific phospholipase C by transferrin in porcine cerebral arterial smooth muscle cells. Neurol Med Chir 35, 205-208 (1995)

原著 (欧文・国外)

Toth S, Fu T, Nozawa Y, Casaba G: The effect of epinephrine on the intracellular free calcium of parent and Ki-ras-transfected cell. *Biochem Biophys Res Commun* 190, 353-361 (1993)

Yada Y, Polakowska RR, Okano Y, Nozawa Y: Protein kinase C-dependent expression of type I transglutaminase mRNA in ganglioside GQ1b- and calcium-stimulated human keratinocytes. *Biochem Biophys Res Commun* 190, 688-694 (1993)

Okano Y, Mizuno K, Osada S, Nakamura T, Nozawa Y: Tyrosine phosphorylation of phospholipase C in c-met/HGF receptor-stimulated hepatocytes: Comparison with HepG2 hepatocarcinoma cells. *Biochem Biophys Res Commun* 190, 842-848 (1993)

Takenaka K, Kishino J, Arita H, Okano Y, Sakai N, Yamada H, Nozawa Y: Biological activity of the endothelin family in cultured basilar arterial smooth muscle cell. *Neurol Res* 15, 29-32 (1993)

Zhang W, Hara A, Sakai N, Andoh T, Yamada H, Nozawa Y: Radiosensitization and inhibition of deoxyribonucleic acid repair in rat glioma cells by long-term treatment with 12-O-tetradecanoyl-phorbol 13-acetate. *Neurosurgery* 32, 432-437 (1993)

Zhang W, Yamada H, Sakai N, Nozawa Y: Sensitization of C6 glioma cells to radiation by staurosporine, a potent protein kinase C inhibitor. *J Neuro Oncol* 15, 1-7 (1993)

Kumada T, Miyata H, Nozawa Y: Involvement of tyrosine phosphorylation in IgE receptor-mediated phospholipase D activation in rat basophilic leukemia (RBL-2H3) cells. *Biochem Biophys Res Commun* 191, 1363-1368 (1993)

Nakashima T, Takenaka K, Nisimura Y, Andoh T, Sakai N, Yamada H, Banno Y, Okano Y, Nozawa Y: Phospholipase C activity in cerebrospinal fluid following subarachnoid hemorrhage related to brain damage. *J Cereb Blood Flow Metab* 13, 255-259 (1993)

Kanoh H, Kanaho Y, Nozawa Y: Requirement of adenosine 5'-triphosphate and Ca²⁺ for guanosine 5'-triphosphate-binding protein-mediated phospholipase D activation in rat pheochromocytoma PC12 cells. *Neurosci Lett* 151, 146-149 (1993)

Kanaho Y, Nakai Y, Katoh M, Nozawa Y: The phosphatase inhibitor 2,3-diphosphoglycerate interferes with phospholipase D activation in rabbit peritoneal neutrophil. *J Biol Chem* 268, 1111-1115 (1993)

12492-12497 (1993)

Banno Y, Sakai T, Kumada T, Nozawa Y: Potentiation by cholera toxin of bradykinin-induced inositol phosphate production in the osteoblast-like cell line MC3T3-E1. *Biochem J* 292, 401-408 (1993)

Koike T, Hirai K, Morita T, Nozawa Y: Stem cell factor-induced signal transduction in rat mast cells. *J Immunol* 151, 359-366 (1993)

Nagata K, Okano Y, Nozawa Y: Evidence for presence of a low Mr GTP-binding protein, ram p25, in human platelet membranes. *Platelets* 4, 268-274 (1993)

Banno Y, Okano Y, Furukawa K, Tiedtke A, Kobata A, Nozawa Y: Processing and secretion of lysosomal acid α -glucosidase in *Tetrahymena* wild type and secretion-deficient mutant cells. *J Euk Microbiol* 40, 515-520 (1993)

Nagata K, Nozawa Y: Subcellular localization of a low Mr GTP-binding protein, c25KG, in resting and stimulated human platelets. *Biochem Biophys Res Commun* 195, 1081-1088 (1993)

Hashii M, Nozawa Y, Higashida H: Bradykinin-induced cytosolic Ca^{2+} oscillations and inositol tetrakisphosphate-induced Ca^{2+} influx in voltage-clamped ras-transformed NIH/3T3 fibroblasts: *J Biol Chem* 268, 19403-19410 (1993)

Kida N, Yoshimura T, Takahashi H, Nagao S, Nozawa Y, Furukawa Y, Mori K, Hayashi K: Estrogen-inducible pS2 protein is not the key regulatory component in the proliferation of human breast cancer cells (MCF-7): *Eur J Biochem* 215, 671-676 (1993)

Mirbod F, Mori S, Nozawa Y: Methods for phospholipid extraction in *Candida albicans*: an extraction method with high efficacy. *J Med Veter Mycol* 31, 405-409 (1993)

Seishima M, Takagi H, Okano Y, Mori S, Nozawa Y: Ganglioside-induced terminal differentiation of human keratinocytes: early biochemical events in signal transduction. *Arch Dermatol Res* 285, 397-401 (1993)

Mori S, Kawai K, Nozawa Y, Koyama K, Natori S: The impairing effects of chaetochromin D

on mitochondrial respiration and structure. *Mycotoxin Res* 9, 85-93 (1993)

Koike T, Mizutani T, Hirai K, Morita Y, Nozawa Y: SCF/c-KIT receptor-mediated arachidonic acid liberation in rat mast cells. *Biochem Biophys Res Commun* 197, 1570-1577 (1993)

Alam S, Banno Y, Nozawa Y: Purification and characterization of phospholipase C preferentially hydrolysing phosphatidylcholine in *Tetrahymena* membranes. *J Euk Microbiol* 40, 775-781 (1993)

Ozeki T, Osada K, Seishima M, Mori S, Nozawa Y: Decreased bradykinin binding sites in fibroblasts from progressive systemic scleroderma. *Arch Dermatol Res* 286, 133-136 (1994)

Banno Y, Okano Y, Nozawa Y: Thrombin-mediated phosphoinositide hydrolysis in Chinese hamster ovary cells overexpressing phospholipase C-1. *J Biol Chem* 269, 15846-15852 (1994)

Nagata K, Takemasa T, Alam S, Hattori T, Watanabe Y, Nozawa Y: Cloning of cDNAs encoding a cell-cycle-regulatory GTP-binding low-Mr (GBLM) protein, Ran/TC4, from micronucleated *Tetrahymena thermophila* and amiconucleated *Tetrahymena pyriformis*. *Gene* 144, 123-125 (1994)

Nakashima S, Chatani Y, Nakamura M, Miyoshi N, Kohno M, Nozawa Y: Tyrosine phosphorylation and activation of mitogen-activated protein kinases by thrombin in human platelets: possible involvement in late arachidonic acid release. *Biochem Biophys Res Commun* 198, 497-503 (1994)

Sugiyama T, Sakai T, Nozawa Y, Oka N: Prostaglandin F₂-stimulated phospholipase D activation in osteoblast-like MC3T3-E1 cells: involvement in sustained 1,2-diacylglycerol production. *Biochem J* 298, 479-484 (1994)

Osada S, Okano Y, Saji S, Nozawa Y: Spontaneous Ca²⁺ release from a caffeine and ryanodine-sensitive intracellular Ca²⁺ store in freshly prepared hepatocytes. *Hepatology* 19, 514-517 (1994)

Banno Y, Asano T, Nozawa Y: Proteolytic modification of membrane-associated

phospholipase C- by μ -calpain enhances its activation by G-protein subunits in human platelets. FEBS Lett 340, 185-188 (1994)

Hashii M, Hirata M, Ozaki S, Nozawa Y, Higashida H: Ca^{2+} influx evoked by inositol-3,4,5,6-tetrakisphosphate in ras-transformed NIH/3T3 fibroblasts. FEBS Lett 340, 276-280 (1994)

Inazu A, Sato K, Nakayama T, Deyashiki Y, Hara A, Nozawa Y: Purification and characterization of a novel dimeric 20 α -hydroxysteroid dehydrogenase from Tetrahymena pyriformis. Biochem J 297, 195-200 (1994)

Kumada T, Nakashima S, Miyata H, Nozawa Y: Potent activation of phospholipase D by phenylarsine oxide in rat basophilic leukemia (RBL-2H3) cells. Biochem Biophys Res Commun 199, 792-798 (1994)

Hashii M, Hirata M, Ozeki S, Nozawa Y, Higashida H: Ca^{2+} influx gated by inositol-3,4,5,6-tetrakisphosphate in NIH/3T3 fibroblasts. Biochem Biophys Res Commun 200, 1300-1306 (1994)

Kameyama Y, Nagata K, Mizuno-Kamiya M, Yokota Y, Fujita A, Nozawa Y: Localization of a low Mr GTP-binding protein, rap1 protein, in plasma membranes and secretory granule membranes of rat parotid gland. Life Sci 55, 213-219 (1994)

Kumada T, Banno Y, Miyata H, Nozawa Y: Phosphoinositide hydrolysis in Ki-ras-transformed fibroblasts stimulated by platelet-derived growth factor and bradykinin. Int J Biochem 26, 1049-1054 (1994)

Suzuki T, Nakashima S, Nozawa Y: Inhibition of phosphatidylinositol 4-phosphate 5-kinase by cyclic AMP in human platelets. Platelets 5, 258-265 (1994)

Suzuki T, Nakashima S, Nozawa Y: Regulation of phosphatidylinositol 4-phosphate 5-kinase by protein kinase C in human platelet membranes. Platelets 5, 336-342 (1994)

Nagata K, Nozawa Y: Haemoglobin inhibits GTP-hydrolysis and GDP/GTP-exchange activities of a low Mr GTP-binding protein, ras p21. Br J Haematol 88, 706-711 (1994)

Yoshimi N, Wang A, Makita H, Suzuki M, Okano Y, Banno Y, Nozawa Y, Mori H: Reduced expression of phospholipase C- β , a signal transducing enzyme, in rat colon neoplasms induced by methylazoxymethanol acetate. *Mol Carcinogenesis* 11, 192-196 (1994)

Alam S, Banno Y, Nakashima S, Nozawa Y: Defective phospholipase D activation in Ki-ras-transformed NIH3T3 cells: Evidence for downstream of PLC- β 1 in PDGF-mediated signal transduction. *Biochem Biophys Res Commun* 207, 460-466 (1995)

Banno Y, Nakahima S, Hachiya T, Nozawa Y: Endogeneous cleavage of phospholipase C- β 3 by agonist-induced activation of calpain in human platelets. *J Biol Chem* 270, 4318-4324 (1995)

Takemura OS, Iinuma M, Tosa H, Miguel OG, Moreira EA, Nozawa Y: A flavone from leaves of *Arrabidaea chica* f. *cuprea*. *Phytochemistry* 38, 1299-1300 (1995)

Aoyama Y, Seishima M, Mori S, Kitajima Y, Okano Y, Nozawa Y: Involvement of protein kinase C in bradykinin-induced intracellular calcium increase in primary cultured human keratinocytes. *J Dermatol Sci* 9, 111-116 (1995)

Nagata K, Nozawa Y: A low Mr GTP-binding protein, Rap1, in human platelets: localization, translocation and phosphorylation by cyclic AMP-dependent protein kinase. *Br J Haematol* 90, 180-186 (1995)

Ibrahim AS, Mirbod F, Filler SG, Banno Y, Cole GT, Kitajima Y, Edwards JE, Nozawa Y, Ghannoum MA: Evidence implying phospholipase as a virulence factor of *Candida albicans*. *Infect Immun* 63, 1993-1998 (1995)

Fujita H, Lahman L, Janmey PA, Kwiakowski DJ, Stossel TP, Banno Y, Nozawa Y, Muller L, Ishizaki A, Kuzumaki N: Functions of [His 321] gelsolin isolated from a flat revertant of ras-transformed cells. *Eur J Biochem* 229, 615-620 (1995)

Seishima M, Aoyama Y, Mori S, Nozawa Y: Involvement of phospholipase D in ganglioside GQ1b-induced biphasic production of diacylglycerol in human keratinocytes. *J Invest Dermatol* 104, 835-838 (1995)

Ohguchi K, Banno Y, Nakashima S, Nozawa Y: Activation of membrane-bound phospholipase

D by protein kinase C in HL60 cells: Synergistic action of a small GTP-binding protein RhoA. *Biochem Biophys Res Commun* 211, 306-311 (1995)

Nakashima S, Banno Y, Watanabe T, Nakamura Y, Mizutani T, Sakai H, Zhao Y, Sugimoto Y, Nozawa Y: Depletion and site-directed mutagenesis of EF-hand domain of phospholipase-C 1: Effects of its activity. *Biochem Biophys Res Commun* 211, 364-369 (1995)

Mirbod F, Banno Y, Ghannoum MA, Ibrahim AS, Nakashima S, Kitajima Y, Cole GT, Nozawa Y: Purification and characterization of lysophospholipase-transacylase (h-LPTA) from a highly virulent strain of *Candida albicans*. *Biochim Biophys Acta* 1257, 181-189 (1995)

Adachi T, Nakashima S, Saji S, Nakamura T, Nozawa Y: Roles of prostaglandin production and mitogen-activated protein kinase activation in hepatocyte growth factor-mediated rat hepatocyte proliferation. *Hepatology* 21, 1668-1674 (1995)

Liu B, Nakashima S, Takano T, Shimizu T, Nozawa Y: Implication of protein kinase C in PAF-stimulated phospholipase D activation in Chinese hamster ovary (CHO) cells expressing PAF receptor. *Biochem Biophys Res Commun* 214, 418-423 (1995)

Ishizuka T, Nakashima T, Yamamoto M, Kajita K, Yamada K, Wada H, Itaya S, Yasuda K, Nozawa Y: Effects of wortmannin on glucose uptake and protein kinase C activity in rat adipocytes. *Diabetes Res Clin Practice* 29, 143-152 (1995)

Nagata K, Okano Y, Nozawa Y: Identification of heterotrimeric GTP-binding proteins in human megakaryoblastic leukemia cell line, MEG-01, and their alteration during cellular differentiation. *Life Sci* 57, 1675-1681 (1995)

Kumada T, Nakashima S, Nakamura Y, Miyata H, Nozawa Y: Antigen-mediated phospholipase D activation in rat basophilic leukemia (RBL-2H3) cells: possible involvement of calcium/calmodulin. *Biochim Biophys Acta* 1258, 107-114 (1995)

Yoshimi N, Ino N, Suzui M, Tanaka T, Nakashima S, Nakamura M, Nozawa Y, Mori H: The mRNA overexpression of inflammatory enzymes, phospholipase A₂, cyclooxygenase, in the large bowel mucosa and neoplasms of F344 rats treated with naturally occurring carcinogen, 1-hydroxy-anthraquinone. *Cancer Lett* 97, 75-82 (1995)

Nakashima S, Mizutani T, Nakamura Y, Takemura SO, Nakamura M, Miyata H, Katagiri Y, Nozawa Y: Effects of selective phosphodiesterase type IV inhibitor, rolipram, on signal transducing phospholipases in neutrophil: Inhibition of phospholipases A₂, D but not C. *Comp Biochem Physiol* 112C, 137-143 (1995)

Nagata K, Okano Y, Nozawa Y: Possible interaction of haemoglobin with a low Mr GTP-binding protein, ram p25. *Biochem Mol Biol Int* 35, 507-515 (1995)

Nagata K, Sakagami H, Kondo H, Nozawa Y: Identification and localization of gene expression of a low Mr GTP-binding protein, ram p25 in pituitary gland. *Biochem Biophys Res Commun* 217, 1223-1230 (1995)

Ohguchi K, Banno Y, Nakashima S, Nozawa Y: Regulation of membrane-bound phospholipase D by protein kinase C in HL60 cells. *J Biol Chem* 271, 4366-4372 (1996)

Nakamura Y, Nakashima S, Ojio K, Banno Y, Miyata H, Nozawa Y: C₂-ceramide inhibits IgE-mediate phospholipase D but not C activation in rat basophilic leukemia (RBL-2H3) cells. *J Immunol* 156, 256-262 (1996)

Nakashima S, Zhao Y, Nozawa Y: Molecular cloning of Δ^9 fatty acid desaturase from protozoan *Tetrahymena thermophila* and its mRNA expression during thermal membrane adaptation. *Biochem J* 317, 29-34 (1996)

Liu B, Nakashima S, Ito S, Nozawa Y: PLD activation in Chinese hamster ovary (CHO) cells transfected with PGF₂ receptor cDNA. *Prostaglandins* 51, 233-248 (1996)

Adachi T, Nakashima S, Saji S, Nakamura T, Nozawa Y: Mitogen-activated protein kinase activation in hepatocyte growth factor-stimulated rat hepatocytes: Involvement of protein tyrosine kinase and protein kinase C. *Hepatology* 23, 1244-1253 (1996)

Kovacs P, Csaba G, Ito Y, Nozawa Y: Phospholipase D activity in the *Tetrahymena pyriformis*. *Biochem Biophys Res Commun* 222, 359-361 (1996)

Banno Y, Nakashima S, Ohsawa M, Nozawa Y: Differential translocation of phospholipase C isozymes to integrin-mediated cytoskeletal complexes in thrombin-stimulated human platelets. *J Biol Chem* 271, 14989-14994 (1996)

Kumada T, Nakashima S, Nakamura Y, Miyata H, Nozawa Y: Phenylarsine oxide (PAO) - mediated activation of phospholipase D in rat basophilic leukemia (RBL-2H3) cells: Possible involvement of calcium and protein kinase C. *Immunobiology* 195, 347-359 (1996)

Sakai H, Nakashima S, Yoshimura S, Nakatani K, Shinoda J, Sakai N, Yamada H, Nozawa Y: Suppressed expression of CD44 variant isoforms during human glioma A172 cell differentiation induced by cyclic AMP. *Neurosci Lett* 250, 189-192 (1996)

Nakamura Y, Nakashima S, Kumada T, Ojio K, Miyata H, Nozawa Y: Brefeldin A inhibits antigen- or calcium ionophore-stimulated but not PMA-induced phospholipase D activation in rat basophilic leukemia (RBL-2H3) cells. *Immunobiology* 195, 231-242 (1996)

Alam S, Nakashima S, Deyashiki Y, Banno Y, Hara A, Nozawa Y: Molecular cloning of a gene encoding acid α -glucosidase from *Tetrahymena pyriformis*. *J Euk Microbiol* 43, 295-303 (1996)

Nagata K, Okano Y, Nozawa Y: Protein kinase C isozymes in human megakaryoblastic leukemia cell line, MEG-01: Possible involvement of the isozymes in the differentiation process of MEG-01 cells. *Br J Haematol* 93, 762-771 (1996)

Ojio K, Banno Y, Nakashima S, Kato N, Watanabe K, Lyerly DM, Miyata H, Nozawa Y: Effect of *Clostridium difficile* toxin B on IgE receptor-mediated signal transduction in rat basophilic leukemia cells: inhibition of phospholipase D activation. *Biochem Biophys Res Commun* 224, 591-596 (1996)

Yoshimura S, Nakashima S, Ohguchi K, Sakai H, Shinoda J, Sakai N, Nozawa Y: Differential mRNA expression of phospholipase D (PLD) isozymes during cAMP-induced differentiation in C6 glioma cells. *Biochem Biophys Res Commun* 225, 494-499 (1996)

Banno Y, Ito Y, Ojio K, Kanoh H, Nakashima S, Nozawa Y: Membrane-associated phospholipase D activity in neural cell line PC12. *J Lipid Mediators and Cell Signaling*, in press

Mirbod F, Nakashima S, Kitajima Y, Ghannoum MA, Cannon RD, Nozawa Y: Molecular cloning of a gene encoding translation initiation factor (TIF) from *C. albicans*. *J Med Vet*

Mycol, in press

Hashii M, Nakashima S, Yokoyama S, Enomoto K, Minabe Y, Nozawa Y, Higashida H: Bradykinin-activated two signal pathways of protein tyrosine phosphorylation and formation of inositol tetrakisphosphates merge at the Ca²⁺ influx process in ras-transformed NIH3T3 fibroblast cells. Biochem J, in press

Adachi T, Nakashima S, Saji S, Nakamura T, Nozawa Y: Phospholipase D activation in hepatocyte growth factor-stimulated rat hepatocytes; Implication in the expressions of c-jun and c-fos. Hepatology, in press

Zhao Y, Nakashima S, Nozawa Y: Molecular cloning of delta 9 fatty acid desaturase and growth associated changes in its mRNA expression in Tetrahymena pyriformis, Eur J Proistol, in press

その他

Nozawa Y, Mirbod F, Banno Y, Ibrahim AS, Nakashima S, Kitajima Y, Cole GT, Ghannoum MA: Lysophospholipase-transacylase as a virulence factor in Candida albicans. Genes and Genomes in Medically Important Fungi, Proceedings of the First International Symposium on Deep Mycoses, (ed Tanaka K, Magee PT, Yamaguchi H), Foundation for Advancement of International Science, 167-173 (1996)

Nozawa Y, Nakashima S, Ohguchi K, Banno Y: Membrane lipids and signal transduction. BIO JAPAN'96, in press

坂野喜子：低分子量 G 蛋白質の新しい機能 - 情報変換ホスホリパーゼ D の活性化因子。蛋白質核酸酵素, フラクシオンコレクター 40, 1752 (1995)

坂野喜子, 中島 茂：G 蛋白質. ホスホリパーゼ C との関係. 現代医療 27, 329-333 (1995)

野澤義則：生体膜の非対称性, 相転移温度, 相転移, 相分離, 側方拡散, ダニエリ. ダブリンのモデル, 鞭毛膜. 生化学辞典, 印刷中

野澤義則：ホスホリパーゼ C, D, リン酸化 - 脱リン酸サイクル. 分子細胞生物学辞典, 印刷中

分子病態学講座

著書 (和文)

岡野幸雄, 中島 茂, 永田浩一: 細胞内情報伝達機構, 図説分子病態学, 初版, 一瀬白帝, 鈴木宏治編, 東京, 中外医学社, 1995. 35-41

著書 (欧文)

Nozawa Y, Banno Y, Nagata K: Regulation of phosphoinositide-specific phospholipase C activity in human platelets, Mechanisms of Platelet Activation and Control, (ed Authi KS et al). Plenum Press, New York, 1993. 37-47

総説 (和文)

金保安則, 加納宏行, 小池晃彦, 岡野幸雄, 野沢義則: ホスホリパーゼ D の活性化機構. 実験医学 11, 1925-1931 (1993)

原著 (欧文・国外)

Yada Y, Polakowska RR, Okano Y, Nozawa Y: Protein kinase C-dependent expression of type I transglutaminase mRNA in ganglioside GQ1b- and calcium-stimulated human keratinocytes. Biochem Biophys Res Commun 190, 688-694 (1993)

Okano Y, Mizuno K, Osada S, Nakamura T, Nozawa Y: Tyrosine phosphorylation of phospholipase C in c-met/HGF receptor-stimulated hepatocytes: Comparison with HepG2 hepatocarcinoma cells. Biochem Biophys Res Commun 190, 842-848 (1993)

Banno Y, Okano Y, Furukawa K, Tiedtke A, Kobata A, Nozawa Y: Processing and secretion of lysosomal acid α -glucosidase in Tetrahymena wild type and secretion-deficient mutant cells. J Euk Microbiol 40, 515-520 (1993)

Takenaka K, Kishino J, Arita H, Okano Y, Sakai N, Yamada H, Nozawa Y: Biological activity of the endothelin family in cultured basilar arterial smooth muscle cells. Neurol Res 15, 29-32 (1993)

Nagata K, Nozawa Y: Subcellular localization of a low Mr GTP-binding protein, c25KG, in resting and stimulated human platelets. Biochem Biophys Res Commun 195, 1081-1088 (1993)

Nagata K, Okano Y, Suzuki T, Nozawa Y: Evidence for the presence of a low Mr GTP-binding protein, ras p21, in human platelet membranes. *Platelets* 4, 268-274 (1993)

Katoh M, Hirono M, Takemasa T, Kimura M, Watanabe Y: A micronucleus-specific sequence exists in the 5'-upstream region of calmodulin gene in *Tetrahymena thermophila*. *Nucleic Acids Res* 21, 2409-2414 (1993)

Osada S, Okano Y, Saji S, Nozawa Y: Spontaneous Ca^{2+} release from a caffeine and ryanodine-sensitive intracellular Ca^{2+} store in freshly prepared hepatocytes. *Hepatology* 19, 514-517 (1994)

Noda M, Okano Y, Nozawa Y, Egorova A, Higashida H: Endothelin induces phosphoinositide metabolite-dependent cellular responses in NG108-15 hybrid cells. *Ann New York Acad Sci* 707, 482-485 (1993)

Nakashima T, Takenaka K, Nishimura Y, Andoh T, Sakai N, Yamada H, Banno Y, Okano Y, Nozawa Y: Phospholipase C activity in cerebrospinal fluid following subarachnoid hemorrhage related to brain damage. *J Cerebral Blood Flow Metabolism* 13, 255-259 (1993)

Banno Y, Okano Y, Nozawa Y: Thrombin-mediated phosphoinositide hydrolysis in chinese hamster ovary cells overexpressing phospholipase C- α 1. *J Biol Chem* 269, 15846-15852 (1994)

Yoshimi N, Wang A, Makita H, Suzui M, Mori H, Okano Y, Banno Y, Nozawa Y: Reduced expression of phospholipase C- α 1, a signal-transducing enzyme, in rat colon neoplasms induced by methylazoxymethanol acetate. *Mol Carcinogenesis* 11, 192-196 (1994)

Nagata K, Nozawa Y: Haemoglobin inhibits GTP-hydrolysis and GDP/GTP-exchange activities of a low Mr GTP-binding protein, ras p21. *Brit J Haematol* 88, 706-711 (1994)

Kameyama Y, Nagata K, Mizuno-Kamiya M, Yokota Y, Fujita A, Nozawa Y: Localization of a low Mr GTP-binding protein, rap1 protein, in plasma membranes and secretory granule membranes of rat parotid gland. *Life Sci* 55, 213-219 (1994)

Nagata K, Takemasa T, Alam S, Hattori T, Watanabe Y & Nozawa Y: Cloning of cDNAs encoding a cell-cycle-regulatory GTP-binding low-Mr (GBLM) protein, Ran/TC4, from

micronucleated *Tetrahymena thermophila* and amiconucleated *Tetrahymena pyriformis*. *Gene* 144, 123-125 (1994)

Aoyama Y, Seishima M, Mori S, Kitajima Y, Okano Y, Nozawa Y: Involvement of protein kinase C in bradykinin-induced intracellular calcium increase in primary cultured human keratinocytes. *J Dermatol Sci* 9, 111-116 (1995)

Nagata K, Okano Y, Nozawa Y: Possible interaction of haemoglobin with a low Mr GTP-binding protein, rap p25. *Biochem Mol Biol Intl* 35, 507-515 (1995)

Nagata K, Okano Y, Nozawa Y: Identification of heterotrimeric GTP-binding proteins in human megakaryoblastic leukemia cell line, MEG-01, and their alteration during cellular differentiation. *Life Sci* 57, 1675-1685 (1995)

Nagata K, Nozawa Y: A low Mr GTP-binding protein, Rap1, in human platelets: localization, translocation and phosphorylation by cyclic AMP-dependent protein kinase. *Brit J Haematol* 90, 180-186 (1995)

Imai A, Ohno T, Iida K, Ohsuye K, Okano Y, Tamaya T: A frame-shift mutation of the androgen receptor gene in a patient with receptor-negative complete testicular feminization: comparison with a single base substitution in a receptor-reduced incomplete form. *Ann Clin Biochem* 32, 482-486 (1995)

Morita H, Daidoh H, Nagata K, Okano Y, Sudoh Y, Maruyama T, Sarui H, Ishizuka T, Akagi K, Hishisho I, Yasuda K: A family of multiple endocrine neoplasia type 2A: Genetic analysis and clinical features. *Endocrine J* 43, 25-30 (1996)

薬理学講座

著書 (和文)

中島光好, 植松俊彦, 金丸光隆:新版看護学全書 6 薬理学, 1 版. 東京,メヂカルフレンド社, 1993. 169p

植松俊彦:薬理学, '93 看護婦国家試験問題・解答集, 東京,メヂカルフレンド社, 1993. 53-54, 183-185

植松俊彦:薬効評価のための新しい臨床薬理学的手法, 続医薬品の開発 8 薬効評価 1 版, 中島光好編, 東京,廣川書店, 1993. 31-39

植松俊彦:薬理学, '94 看護婦国家試験問題・解答集, 東京,メヂカルフレンド社, 1994. 47-48, 137-141

植松俊彦:総論 各論第 4, 5, 7, 10, 12, 14-18 章, シンプル薬理学, 1 版, 中島・萩野編, 東京, 南江堂, 1994. 2-39, 90-93, 122-132, 156-162, 178-184, 202-253

植松俊彦:薬理学, '95 看護婦国家試験問題・解答集, 東京,メヂカルフレンド社, 1995. 67-68

植松俊彦:5. 臨床第 相試験, 医薬品開発と臨床試験 治験のあり方を考える, 中野重行編, 東京, ライフサイエンス出版, 1995. 45-52

植松俊彦:薬理学, '96 看護婦国家試験問題・解答集, 東京,メヂカルフレンド社, 1996. 24-25

植松俊彦, 岩本喜久生編:臨床薬理学, 1 版, 東京, 南江堂, 印刷中

植松俊彦:臨床薬物動態学, 薬理学, 1 版, 高折・福田編, 東京, 廣川書店, 印刷中

植松俊彦:§9 Pharmacokinetics & Pharmacodynamics, 医系薬理学 1 版, 遠藤・橋本・後藤編, 東京,中外医学社, 印刷中

植松俊彦, 中島光好:心血管系に影響を及ぼす心外因子 F 薬物と心臓, 新心臓病学, 3 版, 東京,医学書院, 印刷中

丹羽雅之，植松俊彦ら：臨床薬理学：代表的薬物の体内動態パラメーター値，植松俊彦・岩本喜久生編，南江堂，東京，印刷中

著書 (英文)

Uematsu T, Mizuno A, Kosuge K: Human scalp hair as biopsy material suitable for quantitative analysis in therapeutic drug monitoring, Hair testing for drugs of abuse: international research on standards and technology, (ed Cone EJ, Welch MJ, Babecki MBG). National Institute of Health, Rockville, 1994. 333-346

Uematsu T, Matsuno H: Using of time marker to improve the reliability of sectional analysis of hair versus time of exposure, the 1995 international conference and workshop for hair analysis in forensic toxicology, (ed de Zeeuw A, Al Hosani I, Al Munthiri S, Maqbool A). The Public Relation Department, Abu Dhabi, 1995. 76-89

Uematsu T, Niwa M, Kozawa O: Axial distribution of nicotine content along hair shaft as an indicator of individual smoking behavior, the 1995 international conference and workshop for hair analysis in forensic toxicology, (ed de Zeeuw A, Al Hosani I, Al Munthiri S, Maqbool A). The Public Relation Department, Abu Dhabi, 1995. 203-216

総説 (和文)

植松俊彦：新薬の老年者への適用 (3) H₂-受容体拮抗薬-1. 老年消化器病 6, 89-91 (1994)

丹羽雅之，植松俊彦：新薬の老年者への適用 (4) H₂-受容体拮抗薬-2. 老年消化器病 6, 167-169 (1994)

植松俊彦：Thrombolytic agents について. Coronary 11, 273-277 (1994)

丹羽雅之，植松俊彦：新薬の老年者への適用 (5) 防御因子系薬物. 老年消化器病 7, 97-99 (1995)

丹羽雅之，植松俊彦：新薬の老年者への適用 (6) 消化管運動機能改善薬. 老年消化器病 7, 179-182 (1995)

植松俊彦，松野浩之：新しい血栓溶解薬はウロキナーゼ，t-PA より優れているか. Medicina 32, 1517-1519 (1995)

植松俊彦：体内動態の予測 臨床より. 臨床薬理 26, 541-543 (1995)

植松俊彦：臨床第 1 相試験のポイント. 臨床薬理 26, 607-610 (1995)

植松俊彦：新しい薬物投与法の開発とその評価 毛髪内薬物分析による薬物投与法の評価.
臨床薬理の進歩 '95, 53-61 (1995)

植松俊彦：薬効の予測性 臨床より. 臨床医薬 11, 1-5 (1995)

松野浩之, Vermeylen J., Hoylaerts MF.：血管再狭窄におけるインテグリン機能抑制の意義 .
日薬理誌 106, 143-155 (1995)

植松俊彦, 松野浩之：毛髪を用いた薬剤服用モニタリング. 臨床皮膚科 50(増刊), 104-108
(1996)

植松俊彦：苦手科目の克服法 薬理. 看護学生 44(3), 10-12 (1996)

丹羽雅之, 植松俊彦：新薬の老年者への適用 (7) 制吐剤としてのセロトニン 3 - 受容体拮
抗薬. 老年消化器病 8, 91-93 (1996)

総説 (欧文・国外)

Uematsu T: Drug analysis in hair samples and its clinical implications, Asia Pacific J
Pharmacol 9, 43-48 (1994)

原著 (和文)

丹羽雅之, 河野健一, 小林雅司, 野崎正勝, 鶴見介登：インドメタシンプロドラッグ (アセ
メタシン, プログルメタシン, インドメタシンファルネシル, CP - 331) の好中球活
性酸素産生に及ぼす影響, 炎症 13, 477-482 (1993)

中島光好, 植松俊彦, 金丸光隆, 仁木敏晴, 笹辺裕行, 小富正昭：プラニジピンの臨床第 1
相試験 (第 1 報). 薬理と臨床 4, 865-878 (1994)

中島光好, 植松俊彦, 金丸光隆, 仁木敏晴, 笹辺裕行, 小富正昭：プラニジピンの臨床第 1
相試験 (第 2 報). 薬理と臨床 4, 879-887 (1994)

河野健一, 野崎正勝, 丹羽雅之, 鶴見介登:新規抗炎症薬 Zaltoprofen と New Quinolone

系抗菌薬の薬物相互作用：他の抗炎症薬との比較. 応用薬理 48, 289-296 (1994)

服部雅仁, 野崎正勝, 下中浩之, 丹羽雅之, 河野健一, 太田宗一郎, 鶴見介登, 土肥修司：局所麻酔薬の物性と生物活性相関 好中球機能の抑制を指標として . 麻酔と蘇生 30, 257-259 (1994)

中島光好, 金丸光隆, 植松俊彦, 高山文夫, 亀井一男：新規アンギオテンシン 受容体拮抗薬 MK-954 の第 1 相試験 単回経口投与. 臨床薬理 26, 671-684 (1995)

中島光好, 金丸光隆, 植松俊彦, 高山文夫, 亀井一男：新規アンギオテンシン 受容体拮抗薬 MK-954 の第 1 相試験 連続経口投与. 臨床薬理 26, 685-696 (1995)

中島光好, 植松俊彦, 長嶋 悟, 小菅和仁, 金丸光隆：Grepafloxacin の臨床第一相試験. 日本化学療法学会雑誌 43(S1), 155-175 (1995)

中島光好, 植松俊彦, 長嶋 悟, 角部行信, 梶保徳昭, 松田康男：Omeprazole 注射剤の第 1 相試験 単回投与および連続投与試験. 薬理と治療 23, S2081-2096 (1995)

中島光好, 植松俊彦, 福地美保, 中野真子：Balofloxacin の臨床第 1 相試験 . 単回経口投与. 日本化学療法学会雑誌 43(S5), 115-140 (1995)

中島光好, 植松俊彦, 福地美保, 中野真子：Balofloxacin の臨床第 1 相試験 . 反復経口投与. 日本化学療法学会雑誌 43(S5), 141-159 (1995)

丹羽雅之, 植松俊彦, 長嶋 悟：メナテトレノン (オールトランス型ビタミン K2) の吸収に及ぼす食餌中脂肪含有量の影響について. 臨床薬理 26, 135-136 (1995)

安田公夫, 堀内 正, 中村光浩, 森 充浩, 丹羽雅之, 野崎正勝, 鶴見介登, 片桐義博：医学部学生の TDM 実習に関する検討. TDM 研究 12, 69-73 (1995)

太田宗一郎, 丹羽雅之, 野崎正勝, 服部雅仁, 下中浩之, 土肥修司：麻薬・拮抗性鎮痛薬の μ , および オピオイド受容体親和性について. 麻酔 44, 1228-1232 (1995)

太田宗一郎, 丹羽雅之, 野崎正勝, 服部雅仁, 下中浩之, 土肥修司：モルヒネ依存におけるモルモット脳内オピオイド受容体の変動について. 麻酔 44, 1452-1457 (1995)

原著 (欧文・国外)

Iwai T, Niwa M, Yamada H, Nozaki M, Tsurumi K: Hypothermic prevention of the hippocampal damage following ischemia in mongolian gerbils: Comparison between intraischemic and brief postischemic hypothermia. *Life Sci* 52, 1031-1038 (1993)

Al-essa L Y, Niwa M, Kobayashi M, Nozaki M, Tsurumi K: Glucagon modulates superoxide generation in human polymorphonuclearleucocytes. *Life Sci* 53, 1439-1445 (1993)

Uematsu T, Nakano M, Kosuge K, Nagai A, Sato A, Nakashima M: Pharmacokinetic properties of a novel gastric proton pump inhibitor, (+ /-)-2-[(4-methoxy-6,7,8,9-tetrahydro-5H-cyclohepta[b]pyridin-9-yl)sulfinyl]-1H-benzimidazole sodium salt, in healthy subjects. *J Pharm Sci* 83, 1407-1411 (1994)

Uematsu T, Nagashima S, Umemura K, Kanamaru M, Nakashima M: Pharmacokinetics and safety of intravenous recombinant human superoxide dismutase (NK341) in healthy subjects. *Int J Clin Pharmacol Ther* 32, 638-641 (1994)

Nakashima M, Uematsu T, Nagashima S, Inaba H, Hirasawa T, Tomono Y, Ohno T, Okano K, Morishita N: Phase I study of E1077, a novel parenteral cephem antibiotic. *J Clin Pharmacol* 34, 1053-1059 (1994)

Nakano M, Uematsu T, Sato H, Kosuge K, Nishimoto M, Nakashima M: Using ofloxacin as a time marker in hair analysis for monitoring the dosage history of haloperidol. *Eur J Clin Pharmacol* 47, 195-202 (1994)

Nishiyama H, Umemura K, Saniabadi AR, Takiguchi Y, Uematsu T, Nakashima M: Enhancement of thrombolytic efficacy of tissue-type plasminogen activator by adjuvants in the guinea pig thrombosis model. *Eur J Pharmacol* 264, 191-198 (1994)

Uematsu T, Kanamaru M, Nakashima M: Comparative pharmacokinetic and pharmacodynamic properties of oral and intravenous (+)-sotalol in healthy volunteers. *J Pharm Pharmacol* 46, 600-605 (1994)

Nakashima M, Uematsu T, Kosuge K, Okuyama Y, Morino A, Ozaki M, Takebe Y: Pharmacokinetics and safety of NM441, a new quinolone, in healthy male volunteers. *J Clin Pharmacol* 34, 930-937 (1994)

Hirata Y, Umemura K, Nakano M, Uematsu T, Nakashima M: Enhancement of thrombotic

arterial occlusion following cholesterol feeding in the guinea-pig: A role for thromboxane A₂. Prostaglandins Leukotrienes & Essential Fatty Acids 51, 81-86 (1994)

Hirata Y, Umemura K, Kondoh K, Uematsu T, Nakashima M: Experimental intimal thickening studies using the photochemically induced thrombosis model in the guinea-pig femoral artery. Atherosclerosis 107, 117-124 (1994)

Yamaguchi T, Hashizume T, Matsuda M, Sakashita M, Fujii T, Sekine Y, Nakashima M, Uematsu T: Pharmacokinetics of the H₁-receptor antagonist ebastine and its active metabolite carebastine in healthy subjects. Arzneim-Forsch 44, 59-64 (1994)

Nakashima M, Uematsu T, Kosuge K, Nakagawa S, Hata S, Sanada M: Pharmacokinetics and safety of BO-2727, a new injectable 1-beta-methyl carbapenem antibiotic, and its effect on the faecal microflora in healthy male volunteers. J Antimicrob Chemother 33, 987-998 (1994)

Uematsu T, Nakashima M: Pharmacokinetic and pharmacodynamic properties of a novel xanthine oxidase inhibitor, BOF-4272, in healthy volunteers. J Pharm Exp Ther 270, 453-459 (1994)

Hashimoto H, Umemura K, Araki S, Ishiye M, Nagashima S, Uematsu T, Nakashima M: Comparison of electrophysiologic and hemodynamic effects of SD-3212, a new antiarrhythmic drug, and flecainide in a canine myocardial infarction model. Biol Pharm Bull 17, 548-550 (1994)

Uematsu T, Ohsawa Y, Mizuno A, Nakashima M: Analysis of a new fluoroquinolone derivative (Q-35) in human scalp hair as an index of drug exposure and as a time marker in hair. Int J Leg Med 106, 237-243 (1994)

Kondoh K, Hashimoto H, Nishiyama H, Umemura K, Ozaki T, Uematsu T, Nakashima M: Effects of MS-551, a new class III antiarrhythmic drug, on programmed stimulation-induced ventricular arrhythmias, electrophysiology, and hemodynamics in a canine myocardial infarction model. J Cardiovasc Pharmacol 23, 674-680 (1994)

Mizuno A, Uematsu T, Nakashima M: Simultaneous determination of ofloxacin, norfloxacin and ciprofloxacin in human hair by high-performance liquid chromatography and fluorescence detection. J Chromatogr B 653, 187-193 (1994)

Suzuki Y, Uematsu T, Mizuno A, Ninchoji T, Fujii K, Nakashima M: Analysis of the transport of valproic acid into saliva from serum. *Biol Pharm Bull* 17, 340-344 (1994)

Uematsu T, Hirayama H, Umemura K, Kosuge K, Nakashima M: A prospective study for validation of Bayesian prediction approach to adjust individual lidocaine dosage. *Int J Clin Pharm Ther* 32, 33-37 (1994)

Uematsu T, Kondo K, Yano S, Yamaguchi T, Umemura K, Nakashima M: Measurement of temafloxacin in human scalp hair as an index of drug exposure. *J Pharm Sci* 83, 42-45 (1994)

Umemura K, Wada K, Uematsu T, Mizuno A, Nakashima M: Effect of 21-aminosteroid lipid peroxidation inhibitor, U74006F, in the rat middle cerebral artery occlusion model. *Eur J Pharmacol* 251, 69-74 (1994)

Uematsu T, Nagashima S, Inaba H, Mizuno A, Kosuge K, Nakashima M: Pharmacokinetic and pharmacodynamic profiles of CS-518, a selective, long-lasting thromboxane synthase inhibitor, after single and multiple oral administration to healthy volunteers. *J Clin Pharmacol* 34, 41-47 (1994)

Niwa M, Nozaki M, Tsurumi K, Suzuki T: Opioid receptor binding in CXBK mice brain. *Regul Peptides* S29-S30 (1994)

Niwa M, Iwai T, Al-Essa L Y, Nozaki M, Tsurumi K: Characterization of opioid receptors in the mongolian gerbil cerebellum. *Life Sci* 55, 1277-1283 (1994)

Niwa M, Al-Essa L Y, Nozaki M, Tsurumi K, Iwamura T, Kataoka T: Opioid receptor affinity of dihydroetorphine in comparison with etorphine. *Regul Peptides* 54, 211-212 (1994)

Nakashima M, Uematsu T, Kosuge K, Kusajima H, Ooie T, Masuda Y, Ishida R, Uchida H: Single and multiple-dose pharmacokinetics of AM-1155, a new 6-fluoro-methoxy quinolone, in humans. *Antimicrob Agents Chemother* 39, 2635-2640 (1995)

Uematsu T, Mizuno A, Nagashima S, Oshima A, Nakamura M: The axial distribution of nicotine content along hair shaft as an indicator of changes in smoking behaviour: evaluation in a smoking-cessation programme with or without the aid of nicotine chewing gum. *Br J Clin*

Pharmacol 39, 665-669 (1995)

Uematsu T, Nakamura M, Kosuge K, Hara K, Uchiyama N, Takenaga N, Tanaka W, Friedman BS, Nakashima M: Pharmacokinetic and pharmacodynamic analysis of a novel leukotriene biosynthesis inhibitor, MK-0591, in healthy volunteers. *Br J Clin Pharmacol* 40, 59-66 (1995)

Ishiyae M, Umemura K, Uematsu T, Nakashima M: Angiotensin AT1 receptor-mediated attenuation of cardiac hypertrophy due to volume overload: involvement of endothelin. *Eur J Pharmacol* 280, 11-17 (1995)

Nakashima M, Uematsu T, Kosuge K, Umemura K, Hokusui H, Tanaka M: Pharmacokinetics and tolerance of DU-6859a, a new fluoroquinolone, after single and multiple oral doses in healthy volunteers. *Antimicrob Agents Chemother* 39, 170-174 (1995)

Hirata Y, Umemura K, Uematsu T, Nakashima M: An experimental myocardial infarction model in the rat and its properties. *Jap J Pharmacol* 67, 51-57 (1995)

Uematsu T, Kosuge K, Araki S, Ishiyae M, Asai Y, Nakashima M: Time course of appearance of ofloxacin in human scalp hair after oral administration. *Ther Drug Monit* 17, 101-103 (1995)

Kato K, Ito H, Hasegawa K, Inaguma Y, Suzuki A, Kozawa O, Asano T: Enhancement of the stress-induced synthesis of stress proteins by mastoparan in C6 rat glioma cells. *J Biochem* 118, 149-153 (1995)

Ito H, Hasegawa K, Inaguma Y, Kozawa O, Asano T, Kato K: Modulation of the stress-induced synthesis of stress proteins by a phorbol ester and okadaic acid in C6 rat glioma cells. *J Biochem* 118, 629-634 (1995)

Kozawa O, Suzuki A, Oiso Y: Tyrosine kinase regulates phospholipase D activation at a point downstream from protein kinase C. *J Cell Biochem* 57, 251-255 (1995)

Imamura Y, Kozawa O, Suzuki A, Watanabe Y, Saito H, Oiso Y: Mechanism of phospholipase D activation induced by prostaglandin D2 in osteoblast-like cells: Function of Ca²⁺/calmodulin. *Cell Signal* 7, 45-51 (1995)

Watanabe Y, Tokuda H, Suzuki A, Shinoda J, Kotoyori J, Ito Y, Oiso Y, Kozawa O: Glucocorticoid amplifies vasopressin-induced phosphoinositide hydrolysis in aortic smooth muscle cells. *J Cell Biochem* 57, 522-529 (1995)

Kozawa O, Suzuki A, Tokuda H: Pituitary adenylate cyclase-activating polypeptide autoregulates cAMP production due to activation of protein kinase C in PC12 pheochromocytoma cells. *Horm Metab Res* 27, 110-112 (1995)

Kozawa O, Suzuki A, Watanabe Y, Shinoda J, Oiso Y: Function of Ca²⁺ influx in phospholipase D activation induced by prostaglandin F₂ in osteoblast-like cells. *Prostaglandins Leukot Essent Fatty Acids* 52, 319-323 (1995)

Kozawa O, Suzuki A, Shinoda J, Oiso Y: Genistein inhibits potentiation by wortmannin of protein kinase C-activated phospholipase D in osteoblast-like cells. *Cell Signal* 7, 219-223 (1995)

Suzuki A, Shinoda J, Oiso Y, Kozawa O: Mechanism of phospholipase D activation induced by extracellular ATP in osteoblast-like cells. *J Endocrinol* 145, 81-86 (1995)

Kozawa O, Shinoda J, Suzuki A: Genistein inhibits Ca²⁺ influx by extracellular ATP in PC12 pheochromocytoma cells. *Horm Metab Res* 27, 272-274 (1995)

Miwa M, Kozawa O, Suzuki A, Watanabe Y, Shinoda J, Oiso Y: Vasopressin activates phospholipase D through pertussis toxin-insensitive GTP-binding protein in aortic smooth muscle cells: function of Ca²⁺/calmodulin. *Biochem Cell Biol* 73, 191-199 (1995)

Oiso Y, Suzuki A, Kozawa O: Effect of prostaglandin E₂ on phospholipase D activity in osteoblast-like cells. *J Bone Miner Res* 10, 1185-1190 (1995)

Shinoda J, Suzuki A, Oiso Y, Kozawa O: Thromboxane A₂-stimulated phospholipase D in osteoblast-like cells: possible involvement of protein kinase C activation. *Am J Physiol* 269, E524-E529 (1995)

Kozawa O, Suzuki A, Watanabe Y, Shinoda J, Oiso Y: Effect of platelet-derived growth factor on phosphatidylcholine-hydrolyzing phospholipase D in osteoblast-like cells. *Endocrinology* 136, 4473-4478 (1995)

Morishita R, Nakayama H, Isobe T, Matsuda T, Hashimoto Y, Okano T, Fukada Y, Mizuno K, Ohno S, Kozawa O, Kato K, Asano T: Primary structure of a β subunit of G protein, 12, and its phosphorylation by protein kinase C. *J Biol Chem* 270, 29469-29475 (1995)

Niwa M, Kohno K, Al-Essa L Y., Kobayashi M, Nozaki M, Tsurumi K: Ibutilast, an anti-allergic and cerebral vasodilator, modulates superoxide production in human neutrophils. *Life Sci* 56, 107-115 (1995)

Niwa M, Al-Essa L Y, Ohta S, Kohno K, Nozaki M, Tsurumi K, Iwamura T, Kataoka T: Opioid receptor interaction and adenylyl cyclase inhibition of dihydroetorphine: Direct comparison with etorphine. *Life Sci* 56, PL395-PL400 (1995)

Al-Essa L Y, Niwa M, Kohno K, Nozaki M, Tsurumi K: Heterogeneity of circulating and exudated polymorphonuclear leukocytes in superoxide-generating response to cyclic AMP and cyclic AMP elevating agents: investigation of the underlying mechanism. *Biochem Pharmacol* 49, 315-322 (1995)

Iwai T, Hara A, Niwa M, Nozaki M, Uematsu T, Sakai N, Yamada H: Temporal profile of nuclear DNA fragmentation in situ in gerbil hippocampus following transient forebrain ischemia. *Brain Res* 13, 305-308 (1995)

Chowdhury S A, Kawashima T, Konishi T, Niwa M, Matsunami K: GABA_B receptor antagonist CGP 35348 shortens transcallosal response latency of pyramidal tract neurones. *Eur J Pharmacol* 285, 99-102 (1995)

Hara A, Yoshimi N, Mori H, Iwai T, Sakai N, Yamada H, Niwa M: Hypothermic prevention of nuclear DNA fragmentation in gerbil hippocampus following transient ischemia. *Neurol Res* 17, 461-464 (1995)

Matsuno H, Stassen JM, Vermeylen J, Deckmyn H: A fast and reproducible vascular neointimal formation in the hamster carotid artery: effects of trapidil and captopril. *Thromb Haemost* 74, 1591-1596 (1995)

Uematsu T, Kosuge K, Umemura K, Nakano M, Terakawa M, Nakashima M: Pharmacokinetic and pharmacodynamic properties of FK070 (KDI-792), a novel

thromboxane receptor antagonist/thromboxane synthetase inhibitor after single and multiple oral administrations to healthy volunteers. *J Pharm Pharmacol* 48, 381-386 (1996)

Uematsu T, Kosuge S, Inaba H, Kajiho T, Kageyama H, Sugiyama A, Nakashima M: Design of a suitable formulation of FK613, a novel antiallergic agent, based on its pharmacokinetic and pharmacodynamic properties in healthy subjects. *Eur J Clin Pharmacol* 49, 279-284 (1996)

Ito H, Hasegawa K, Inaguma Y, Kozawa O, Kato K: Enhancement of stress-induced synthesis of hsp27 and α B crystallin by modulators of the arachidonic acid cascade. *J Cell Physiol* 166, 332-339 (1996)

Suzuki A, Shinoda J, Oiso Y, Kozawa O: Tyrosine kinase is involved in angiotensin I-stimulated phospholipase D activation in aortic smooth muscle cells: Function of Ca^{2+} influx. *Atherosclerosis* 121, 119-127 (1996)

Kato K, Ito H, Hasegawa K, Inaguma Y, Kozawa O, Asano T: Modulation of stress-induced synthesis of hsp27 and β crystallin by cyclic AMP in C6 rat glioma cells. *J Neurochem* 66, 946-950 (1996)

Hara A, Iwai T, Niwa M, Uematsu T, Yoshimi N, Tanaka T, Mori H: Immunohistochemical detection of Bax and Bcl-2 protein in gerbil hippocampus following transient forebrain ischemia. *Brain Res* 711, 249-253 (1996)

Mizuno A, Uematsu T, Ishikawa T, Yoshimine N, Nakashima M: Clinical Outcome of Smoking-Cessation Trial of Nicotine Chewing Gum Evaluated by Hair Analysis of Nicotine. *Ther Drug Monit*, in press

Uematsu T, Nagashima S, Niwa M, Kohno K, Sassa T, Ishii M, Tomono Y, Yamato C, Kanamaru M: Effect of dietary fat content on oral bioavailability of menatetrenone in humans. *J Pharm Sci*, in press

Mizuno A, Uematsu T, Goto S, Kato E, Nakashima M: The measurement of caffeine concentration in scalp hair as an indicator of liver function. *J Pharm Pharmacol*, in press

Uematsu T, Kosuge K, Hirose S, Kadobe Y, Hibi T, Nakashima M: Pharmacokinetic and

safety of a novel, long-acting and prodrug-type potassium channel opener (Y-27152) in healthy volunteers. *J Clin Pharmacol*, in press

Uematsu T, Nakashima M, Fujii M, Hamano K, Yasutomi M, Kodaira S, Kato T, Kotake K, Oka H, Masuie T: Measurement of 5-fluorouracil in scalp hair: a possible index of patient compliance with oral adjuvant chemotherapy. *Eur J Clin Pharmacol*, in press

Araki S, Uematsu T, Nagashima S, Matsuzaki T, Gotanda K, Ochiai H, Hashimoto H, Nakashima M: Cardiac and hemodynamic effects of TZC-5665, a novel pyridazinone derivative, and its metabolite in humans and dogs. *Gen Pharmacol*, in press

Kozawa O, Suzuki A, Shinoda J, Oiso Y: Effect of retinoic acid on prostaglandin F₂ -induced phospholipase D activity in osteoblast-like cells. *Prostaglandins Leukot Essent Fatty Acids*, in press

Suzuki A, Kozawa O, Oiso Y, Kato K: Protein kinase C activation inhibits stress-induced synthesis of heat shock protein 27 in osteoblast-like cells: function of arachidonic acid. *J Cell Biochem*, in press

Ito Y, Suzuki A, Watanabe-Tomita Y, Oiso Y, Kozawa O: Okadaic acid enhances prostaglandin E₁-induced alkaline phosphatase activity downstream from protein kinase A. *Prostaglandins Leukot Essent Fatty Acids*, in press

Suzuki A, Kozawa O, Shinoda J, Watanabe Y, Saito H, Oiso Y: Thrombin induces proliferation of osteoblast-like cells through phosphatidylcholine hydrolysis. *J Cell Physiol*, in press

Tokuda H, Suzuki A, Watanabe-Tomita Y, Shinoda J, Imamura Y, Igata A, Oiso Y, Kozawa O: Function of Ca²⁺ in phosphatidylcholine-hydrolyzing phospholipase D activation in osteoblast-like cells. *Bone*, in press

Shinoda J, Suzuki A, Oiso Y, Kozawa O: Involvement of phosphatidylcholine hydrolysis by phospholipase D in extracellular ATP-induced arachidonic acid release in aortic smooth muscle cells. *Arterioscler Thromb*, in press

Suzuki A, Shinoda J, Kanda S, Oiso Y, Kozawa O: Basic fibroblast growth factor stimulates phosphatidylcholine-hydrolyzing phospholipase D in osteoblast-like cells. *J Cell Biochem*, in

press

Matsuno H, Stassen JM, Vermeylen J, Hoylaerts MF: Restenosis of injured hamster carotid artery is effectively prevented by the combination quinapril and G4120. Thromb Haemost, in press

その他

丹羽雅之ら：末梢血由来および腹腔内滲出多形核白血球の活性酸素産生に対する cAMP 系の反応性の差． 岐阜大学地域共同開発センター研究成果報告書 No.3, 13-18 (1993)

植松俊彦：臨床薬理学からみた降圧剤の選択について． 岐阜県保険医新聞 第 207 号, 9 (1995)

植松俊彦：看護婦国家試験対策カード． 薬理学 クリニカルスタディ 16, 特別付録 (1995)

病理学第一講座

著書 (和文)

森 秀樹:ラット肝初代細胞, 研究テーマ別動物培養細胞マニュアル. 瀬野悍二, 古山秀機, 黒木登志夫編, 東京,共立出版, 1993. 96-97

森 秀樹:しょうが「がん抑制の食品」. 西野輔翼編, 東京,法研社, 1994. 180-185

森 秀樹:微量元素の抗がん作用,「海からのエネルギー;海草塩と海草炭の魅力」. 山原條二編, サンロード社, 1994. 73-92

森 秀樹:不定期 DNA 合成を検出する方法, 抗変異原, 抗発がん物質とその検索法. 黒田行昭編, 東京,講談社, 1995. 350-356

森 秀樹:発がん性を検出する方法, 抗変異原, 抗発がん物質とその検索法. 黒田行昭編, 東京,講談社, 1995. 405-415

田中卓二, 森 秀樹:プロトカテキュ酸, がん予防食品の開発. 大澤俊彦 監修, 東京, シーエムシー, 1995. 175-181

森 秀樹:不定期 DNA 合成試験法, 組織培養の技術. 日本組織培養学会編, 東京,朝倉書店, 1996. 372-374

森 秀樹:口腔癌, 食品安全性辞典. 榎本 真編, 東京,共立出版, 印刷中

著書 (欧文)

Mori H, Morishita Y, Shinoda T, Tanaka T: Preventive effect of magnesium hydroxide on carcinogen-induced large bowel carcinogenesis in rats, Antimutagenesis and Anticarcinogenesis Mechanisms III, (eds Bonzetti G, de Flora S, Schankel DM, Hayatsu H). Penum Press, New York and London, 1993. 111-118

Mori H, Tanaka T, Ohnishi M, Makita H: Chemoprevention of oral cancer by nutritional factors and related synthetic agents, Oral Cancer 4A, (eds Valma AK, Mori M). Macmillan India Limited, New Delhi, 1995. 45-48

Tanaka T, Makita H, Ohnishi M, Mori H: Chemoprevention of 4-NQO-induced oral

carcinogenesis by xanthophylls (astaxanthin and canthaxanthin) and a xanthine oxidase inhibitor l-acetoxychavicol acetate, *Oral Cancer 4B*, (eds Valma AK, Mori M). Macmilan India Limited, New Delhi, 1995. 365-368

Sugie S, Okamoto K, Ueda F, Yano J, Yoshimi N, Tanaka T, Mori H: Connexin 43, a possible new marker protein for preneoplastic and neoplastic lesions in rat hepatocarcinogenesis, *Intercellular Communication through GAP Junction*, (ed Kanno Y). *Progress in Cell Research* 4, Elsevier Sci Corp, 1995. 127-131

Makita H, Tanaka T, Ohnishi M, Tatematsu N, Oka N, Mori H: Inhibition of 4-NQO-induced rat oral carcinogenesis by dietary exposure of a new retinoidal butenolide, KYN-54, during the initiation and postinitiation phases, *Oral Cancer 4B*, (eds Valma AK, Mori M). Macmilan India Limited, New Delhi, 1995. 361-364

Mori H, Tanaka T, Sugie S, Yoshimi N, Kawamori T, Hirose Y, Osawa T: Protective role of dietary factors in carcinogenesis of digestive organs, *Proceeding of International Conference on Food Factors; Chemistry and Cancer Prevention*, (eds Osawa T, Ohigashi H). Springer-Verlag, Tokyo, in press

Tanaka T, Makita H, Ohnishi M, Murakami A, Koshimizu K, Nakamura Y, Ohigashi H, Mori H: Chemoprevention of oral and colon carcinogenesis by natural compounds protocatechuic acid, l-hydroxychavicol acetate, S-methyl methane thiosulfonate, and hesperidin from vegetables and fruits, *Proceeding of International Conference on Food Factors; Chemistry and Cancer Prevention*, (eds Osawa T, Ohigashi H). Springer-Verlag, Tokyo, in press

Sugie S, Tanaka T, Morishita Y, Wang A, Yoshimi N, Mori H: Chemopreventive effect of magnesium hydroxide on colon carcinogenesis, *Proceeding of International Conference on Food Factors; Chemistry and Cancer Prevention*, (eds Osawa T, Ohigashi H). Springer-Verlag, Tokyo, in press

総説 (和文)

森 秀樹, 田中卓二 : コチニールの発癌性の検索. *Food & Food Ingredients Journal* 157, 42-45 (1993)

森 秀樹, 田中卓二, 杉江茂幸, 吉見直己, 川森俊人 : 大腸癌の化学予防 . 特集「がんのケモプリベンション」. *Oncologia* 27, 128-133 (1994)

森 秀樹, 吉見直己, 汪 愛今, 田中卓二: カルシウム・マグネシウムと発癌. *Clinical Calcium* 4, 72-75 (1994)

森 秀樹, 杉江茂幸, 吉見直己, 田中卓二, 川森俊人: 大腸癌の化学予防. *Oncologia* 27, 128-133 (1994)

田中卓二: 食物と癌. *Food & Food ingredients J Jpn* 160, 25-33 (1994)

田中卓二: ケルセチンは変異原物質か抗発癌物質か?. *Food & Food Ingredients J Jpn* 162, 46-50 (1994)

降旗千恵, 森 秀樹: 不定期 DNA 合成 (UDS) 試験 Recommendations for the performance of UDS tests in vitro and in vivo. *Environ Mut Res Commun* 16, 161-164 (1994)

森 秀樹: 環境性発癌. 第 24 回日本医学会総会会誌. I, 412-413 (1995)

森 秀樹, 吉見直己, 田中卓二: 大腸癌の予防 『癌の化学予防』 *Molecular Medicine* 33, 424-433 (1996)

総説 (欧文・国内)

Mori H, Tanaka T, Sugie S, Yoshimi N: Chemopreventive effects of plant derived phenolic, organosulfur and other compounds on carcinogenesis in digestive organs. *Environ Mut Res Commun* 17, 127-134 (1995)

Mori H, Sugie S, Tanaka T, Makita H, Yoshimi N: Suppressive effects of natural antioxidants on carcinogenesis in digestive organs. *Environ Mut Res Commun* 18, 73-77 (1996)

総説 (欧文・国外)

Mori H, Tanaka T: Chemopreventive retinoids. *Drugs of the Future* 18, 737-742 (1993)

Tanaka T: Cancer chemoprevention by natural products (Review). *Oncol Reports* 1, 1139-1155 (1994)

Tanaka T: Chemoprevention of oral carcinogenesis. *Oral Oncol Eur J Cancer* 31B, 3-15 (1995)

Betton L, Whitely L, Anver M, Brown R, Deschl U, Elwell M, German PG, Hartig F, Kuettler K, Mori H, Nolte T: Nomenclature of tumors/proliferative lesions of the mouse-Gastrointestinal tract. ILSI/STP Standard Nomenclature, in press

原著 (和文)

多羅尾 信, 後藤明彦, 市橋正嘉, 角 泰広, 福地貴彦, 不破義之, 長井孝太郎, 高木康雄, 田口文五, 田中卓二: 甲状腺超微小濾胞癌の 2 例. 羽島市民病院紀要 2, 139-146 (1993)

神原健治郎, 荒川迪生, 田中春仁, 土屋真砂, 田中卓二, 五十嵐 敢, 田口義夫, 本多淳郎, 木下 博, 佐野郁生, 片桐真人, 松島敏春, 早瀬 満: 日本における原発性市中感染レジオネラ肺炎と成人呼吸窮迫症候群との関連性 - その疫学調査結果の予報 - . Prog Med 13, 1667-1670 (1993)

山際三郎, 飯田晃司, 中川祥子, 大口典子, 丹羽秀政, 渡辺徳子, 小寺喜子, 河合信, 高井 哲, 松波和寿, 高木愛子, 丹羽憲司, 村瀬稔子, 玉舎輝彦, 田中卓二: 岐阜県子宮癌検診 (車) の検討. 東海産科婦人科学会雑誌 30, 33-41 (1993)

宇野雅博, 山田伸一郎, 尾関茂彦, 岡野 学, 出口 隆, 栗山 学, 坂 義人, 河田幸道, 奥村 中, 田中卓二, 星山直基, 野尻 真: レニン産生腎腫瘍の 1 例. 日本泌尿器科学会雑誌 84, 1130-1133 (1993)

船戸崇史, 小久保光治, 嘉屋和夫, 中野龍雄, 堀田満喜男, 篠田徳郎, 石田範香, 平野良尚, 田中卓二: 閉塞性小腸炎を合併した横行結腸癌による胃横行結腸瘻の 1 例. 岐阜県医師会医学雑誌 6, 221-225 (1993)

多羅尾 信, 後藤明彦, 市橋正嘉, 角 泰広, 福地貴彦, 田中卓二: モノクローナル抗体 115D8 および DF3 を用いた乳腺腫瘍の免疫組織学的検討. 岐阜県医師会医学雑誌, 6, 183-189 (1993)

大久保恒正, 田中卓二, 大埜間 勉, 藤塚秀樹, 立松憲親, 岡 伸光, 松下捷彦: 家兔 VX2 舌癌に対する Lentinan の抗腫瘍効果増強 - 少量との投与タイミング - . BIOTHERAPY 7, 1493-1498 (1993)

新井 正, 成宮茂利, 早川和良, 高屋忠丈, 安田 洋, 戸島 敏, 打田 敦, 吉見直己, 白紙伸一, 山田 弘: 悪性脳室上衣腫術後に続発した悪性リンパ腫の 1 例. 岐阜県医師会雑誌 6, 351-353 (1993)

新井 正, 成宮茂利, 早川和良, 高屋忠丈, 戸島 敏, 打田 敦, 吉見直己, 安田 洋: IBL-like T cell lymphoma の 2 症例. 岐阜厚生連医学雑誌, 13, 51-54 (1993)

新井 正, 成宮茂利, 早川和良, 高屋忠丈, 戸島 敏, 打田 敦, 大前真由美, 大前勝正, 吉見直己, 安田 洋: 細胞診が確定診断に有用であった肺アスペルギローマの 3 症例. 日本臨床内科医会雑誌 8, 188-191 (1993)

田中卓二, 川森俊人, 森 秀樹: 実験的ラット消化器発癌に対する protocatechuic acid の抑制効果. 消化器癌の発生と進展 6, 53-55 (1994)

川森俊人, 田中卓二, 森 秀樹: Azoxymethane 誘発ラット大腸発癌に対する protocatechuic acid の抑制効果 - biomarker の変化 -. 消化器癌の発生と進展 6, 111-114 (1994)

餌取文昌, 沢田和子, 加地秀樹, 杉江茂幸, 田中卓二: 胸水中に腫瘍細胞が出現した肉腫様肝細胞癌の 1 例. 日本臨床細胞学会雑誌 33, 91-92 (1994)

多羅尾 信, 橋本昌紀, 福地貴彦, 市橋正嘉, 後藤明彦, 田中卓二: 甲状腺腫瘍に合併した骨形成症例の検討. 岐阜県医師会医学雑誌 7, 183-187 (1994)

岡本清尚, 中村淳博, 杉江茂幸, 田中卓二: 穿刺吸引細胞診にて診断された授乳期乳癌の 1 例. 日本臨床細胞学会雑誌 33, 579-580 (1994)

山田伸一郎, 藤本佳則, 磯貝和俊, 出口 隆, 根笠信一, 川本正吾, 西田泰幸, 玉木正義, 江原英俊, 高橋義人, 岡野 学, 竹内敏視, 河田幸道, 田中卓二: 膀胱癌に対する動注治療の予測因子の検討 - ATP - 法による抗癌剤感受性試験の有用性について -. 日本泌尿器科学会雑誌 85, 1528-1533 (1994)

成宮茂利, 新井 正, 早川和良, 高屋忠丈, 戸島 敏, 打田 敦, 味元弘道, 富田良照, 吉見直己, 大前真由美, 大前勝正, 安田 洋: 同時期に発見された兄弟の肺癌. 日本臨床内科医会雑誌 8, 285-288 (1994)

新井 正, 成宮茂利, 早川和良, 高屋忠丈, 戸島 敏, 打田 敦, 吉見直己, 安田 洋: 左鎖骨下動脈瘤の 1 例. 心臓 26, 427-432 (1994)

新井 正, 成宮茂利, 早川和良, 高屋忠丈, 戸島 敏, 荒木 誠, 打田 敦, 吉見直己, 渋谷智顕, 安田 洋: Cytarabine Ocfosfate により不完全寛解に至った骨髄異形成症候群の 1 症例. 癌と化学療法 21, 1085-1088 (1994)

新井 正, 成宮茂利, 早川和良, 高屋忠丈, 安田 洋, 桑原まゆみ, 戸島 敏, 打田 敦, 渋谷智顕, 吉見直己: 70 歳で発症した Henoch-Schoenlein 紫斑病の 1 例. 岐阜医師会雑誌 7, 387-392 (1994)

戸島 敏, 打田 敦, 渋谷智顕, 新井 正, 成宮茂利, 早川和良, 高屋忠丈, 安田洋, 吉見直己: 4 症例の悪性リンパ腫における細胞診標本を用いた免疫染色の有用性について. 岐阜医師会雑誌 7, 393-398 (1994)

戸島 敏, 新井 正, 吉見直己, 安田 洋: 単純ヘルペスウイルスによると思われる成人呼吸促迫症候群の診断に気管支洗浄液の細胞診が有用であった 1 症例. 日本臨床細胞学会雑誌 33, 1175-1176 (1994)

戸島 敏, 渋谷智顕, 打田 敦, 伊東祐二, 早川和良, 新井 正, 成宮茂利, 高屋忠丈, 伊藤俊哉, 山本 悟, 吉見直己, 安田 洋, 檜木良友: 当院における過去 5 年間の細胞診依頼件数の推移について. 岐阜県厚生連医学雑誌 15, 62-64 (1994)

田中卓二, 井野夏子, 奥村 中, 牧田浩樹, 森 秀樹: セイヨウアネ由来新規天色素 MADDERROOT の急性および亜急性毒性に関する研究. 日本食品化学学会誌 1, 17-22 (1995)

田中卓二, 牧田浩樹, 大西将美, 川森俊人, 森 秀樹: アスタキサンチン, カンタキサンチン及び 1-acetoxychavicol acetate の実験的口腔がん抑制作用. 消化器癌の発生と進展 7, 239-242 (1995)

川森俊人, 田中卓二, 森 秀樹: Azoxymethane 誘発ラット大腸 aberrant crypt foci に対する D,L-alpha-difluoromethylornithine (DFMO) の抑制効果. 消化器癌の発生と進展 7, 223-225 (1995)

大埜間 勉, 大久保恒正, 田中卓二, 藤塚秀樹, 立松憲親, 岡 伸光: VX2 舌癌における MDP・CDDP の抗腫瘍効果について - ウサギ CD4, CD5, CD11b 抗体を用いて - . BIOTHERAPY 9, 447-448 (1995)

白子隆志，横尾直樹，二村 学，棚橋 忍，岡本清尚，田中卓二：肋骨原発骨肉腫の 1 例. 臨床外科 50, 367-370 (1995)

新井 正，成宮茂利，伊東祐二，早川和良，高屋忠丈，戸島 敏，渋谷智顕，吉見直己，柴山磨樹，安田 洋：肋骨浸潤をきたした，壁側胸膜原発と思われる malignant fibrous histiocytoma の 1 例 . 臨床画像 11, 94-97 (1995)

新井 正，伊東祐二，成宮茂利，早川和良，高屋忠丈，戸島 敏，渋谷智顕，吉見直己，柴山磨樹，安田 洋：サルコイドーシスと慢性関節リウマチが合併した 1 症例 . 日本臨床内科医会誌 10, 70-73 (1995)

新井 正，高屋忠丈，伊東祐二，早川和良，成宮茂利，戸島 敏，渋谷智顕，河合洋，佐藤正二，吉見直己，安田 洋：メソトレキセートによると考えられる低血糖発作が出現した 1 症例 . Progress in Medicine 15, 1292-1297 (1995)

天野和雄，瀬古 章，高木昌一，清水洋孝，藤澤 攻，渡辺 正，長野俊彦，大角幸男，和田啓明，島田 武，長井孝太郎，高木康雄，川森俊人，吉見直己：内視鏡的胃粘膜生検を契機に診断された全身性原発性アミロイドーシスの 1 例 . 羽島市民病院紀要 4, 85-99 (1995)

新井 正，高屋忠丈，伊東祐二，早川和良，成宮茂利，安田 洋，戸島 敏，渋谷智顕，荒木 誠，川島和子，打田 敦，吉見直己：Ubenimex が有効であった再生不良性貧血の一症例. 岐阜県医師会医学雑誌 8, 293-296 (1995)

戸島 敏，打田 敦，渋谷智顕，新井 正，伊東祐二，成宮茂利，早川和良，高屋忠丈，安田 洋，吉見直己：非小細胞型原発性肺癌における免疫染色 Glutathione-S-Transferase- と細胞異型度について. 岐阜県医師会医学雑誌 8, 297-301 (1995)

長田真二，野々村 修，小瀬木 理，竹内 賢，佐藤元一，佐藤好永，田中卓二：肝外発育型肝細胞癌の 1 切除例. 癌の臨床 42, 683-687 (1996)

阪本研一，福地貴彦，角 泰廣，市橋正嘉，瀬古 章，多羅尾 信，天野和雄，後藤明彦，吉見直己：絨毛状発育を呈した多発性 型早期胃ガンの 1 例 . 消化器外科 19, 382-386 (1996)

原著 (欧文・国内)

Tanaka T, Morishita Y, Kawamori T, Suzui M, Kojima T, Mori H: Synergistic effect of radiation on colon carcinogenesis by methylazoxymethanol acetate in ACl/N rats. *Jpn J Cancer Res* 84, 1031-1036 (1993)

Sugie S, Okumura A, Tanaka T, Mori H: Inhibitory effects of benzyl isothiocyanate and benzyl thiocyanate on diethylnitrosamine-induced hepatocarcinogenesis in rats. *Jpn J Cancer Res* 84, 865-870 (1993)

Yoshimi N, Shibuya C, Morishita Y, Tanaka T, Mori H: The numerical aberrations of chromosome 7 detected by fluorescence in situ hybridization in human breast cancers. *Acta Pathol Jpn* 43, 730-735 (1993)

Yoshimi N, Suzui M, Wang A, Kojima T, Mori H: One step procedure of PCR-DNA extraction from paraffin-embedded materials by Chelex-100. *Acta Pathol Jpn* 43, 790-792 (1993)

Morishita Y, Tanaka T, Mori H, Sasaki S: Synergistic effects of X-irradiation on N-methyl-N-Nitrosourea-induced multi-organ carcinogenesis in rats. *Jpn J Cancer Res* 84, 26-33 (1993)

Niwa K, Murase T, Furui T, Morishita S, Mori H, Tanaka T, Mori H, Tamaya T: Enhancing effects of estrogens on endometrial carcinogenesis initiated by N-methyl-N-nitrosourea in ICR mice. *Jpn J Cancer Res* 84, 951-955 (1993)

Kawamori T, Tanaka T, Kojima T, Suzui M, Ohnishi M, Mori H: Suppression of azoxymethane-induced rat colon aberrant crypt foci by dietary protocatechuic acid. *Jpn. J Cancer Res* 85, 686-691 (1994)

Niwa K, Morishita S, Murase T, Itoh N, Tanaka T, Mori H, Tamaya T: Inhibitory effects of medroxyprogesterone acetate on mouse endometrial carcinogenesis. *Jpn J Cancer Res* 86, 724-729 (1995)

Ino N, Tanaka T, Okumura A, Morishita Y, Makita H, Kato Y, Nakamura M, Mori H: Acute and subacute toxicity tests of madder root, natural colorant extracted from madder (*Ribia tinctorium*), in (C57BL/6 X C3H)F1 mice. *Toxicol Industrial Health* 11, 449-458 (1995)

Niwa K, Morishita S, Murase T, Itoh N, Tanaka T, Mori M, Tamaya T: Inhibitory effects of medroxyprogesterone acetate on mouse endometrial carcinogenesis. *Jpn J Cancer Res* 86,

724-729 (1995)

Okamoto K, Sugie S, Ohnishi M, Makita H, Kawamori T, Watanabe T, Tanaka T, Mori H: Chemopreventive effects of taurine on diethylnitrosamine and phenobarbital-induced hepatocarcinogenesis in male F344 rats. *Jpn J Cancer Res* 87, 30-36 (1996)

Ohnishi M, Tanaka T, Makita H, Kawamori T, Mori H, Satoh K, Hara A, Murakami A, Ohgashi H, Koshimizu K: Chemopreventive effect of a xanthin oxidase inhibitor l'-acetoxychavicol acetate on rat oral carcinogenesis. *Jpn J Cancer Res* 87, 349-356 (1996)

Hirose Y, Tanaka T, Makita H, Yang M, Satoh K, Hara A, Maeda M, H Baba-Toriyama, Mori H, Tsuda H: Suppressing effects of 6-(2,5-dichlorophenyl)-2,4-diamino-1,3,5-triazine and related synthetic compounds on azoxymethane-induced aberrant crypt foci in rat colon. *Jpn J Cancer Res* 89, 549-554 (1996)

Hirose Y, Yoshimi N, Makita H, Hara A, Tanaka T, Mori H: Early alterations of apoptosis and cell proliferation in azoxymethane-initiated rat colonic epithelium. *Jpn J Cancer Res* 87, 575-582 (1996)

Tanaka T, Mori H: Inhibition of colon carcinogenesis by non-nutritive constituents in foods. *J Toxicol Pathol* 9, 139-149 (1996)

Okumura A, Tanaka T, Mori H: Simultaneous measurement of unscheduled and replicating DNA synthesis in a new cell culture insert DNA retention method- Rapid induction of replicating DNA synthesis responding to genotoxic carcinogens. *Jpn J Cancer Res* 87, 805-815 (1996)

Sugie S, Okamoto K, Makita H, Ohnishi M, Kawamori T, Watanabe T, Tanaka T, Mori H: Inhibitory effect of chlorophyllin on diethylnitrosamine and phenobarbital-induced hepatocarcinogenesis in male F344 rats. *Jpn J Cancer Res* 87, 1045-1051 (1996)

Ino N, Sugie S, Ohnishi M, Mori H: Lack of inhibitory effect of isothiocyanate on 2-amino-1-methyl-6-phenylimidazo[4,5-b]pyridine (PhIP)-induced mammary carcinogenesis in rats. *J Toxicol Sci* 21, 189-194 (1996)

原著 (欧文・国外)

Tanaka T, Kojima T, Hara A, Sawada H, Mori H: Chemoprevention of oral carcinogenesis by D,L-alpha-difluoromethylornithine, an ornithine decarboxylase inhibitor- Dose-dependent reduction in 4-nitroquinoline 1 oxide-induced tongue neoplasms in rats. *Cancer Res* 53, 772-776 (1993)

Tanaka T, Kojima T, Okumura A, Sugie S, Mori H: Inhibitory effect of the non-steroidal antiinflammatory drugs, indomethacin and piroxicam on 2-acetylaminofluorene-induced hepatocarcinogenesis in male ACI/N rats. *Cancer Lett.* 68, 111-118 (1993)

Tanaka T, Kojima T, Kawamori T, Yoshimi N, Mori H: Chemoprevention of diethylnitrosamine-induced hepatocarcinogenesis by a simple phenolic acid protocatechuic acid in rats. *Cancer Res* 53, 2775-2779 (1993)

Tanaka T, Kojima T, Suzui M, Mori H: Chemoprevention of colon carcinogenesis by the natural product of a simple phenolic compound protocatechuic acid- Suppressing effects on tumorigenesis. *Cancer Res* 53, 3908-3913 (1993)

Tanaka T, Okumura A, Mori H: Juxtaglomerular cell tumor. *Arch Pathol Lab Med* 117, 1161-1164 (1993)

Tanaka T, Kojima T, Kawamori T, Wang A, Suzui M, Okamoto K, Mori H: Inhibition of 4-nitroquinoline 1-oxide-induced rat tongue carcinogenesis by the naturally occurring plant phenolics caffeic, ellagic, chlorogenic and ferulic acids. *Carcinogenesis* 14, 1321-1325 (1993)

Sugie S, Yoshimi N, Okumura A, Tanaka T, Mori H: Modifying effects of benzyl isothiocyanate and benzyl thiocyanate on DNA synthesis in primary culture of rat hepatocytes. *Carcinogenesis* 14, 281-283 (1993)

Sugie S, Tanaka T, Mori H, Reddy BS: Effect of restricted caloric intake on the development of the azoxymethane-induced glutathione S-transferase placental form positive hepatocellular foci in male F344 rats. *Cancer Lett.* 68, 67-73 (1993)

Yoshimi N, Tanaka T, Hara A, Bunai Y, Kato K, Mori H: Extraadrenal pheochromocytoma-ganglioneuroma A case report. *Pathol Res Pract* 188, 1098-1100 (1993)

Yoshimi N, Gimenez-Conti IB, Slaga TJ: Morphological Changes of the Nucleolar Organizer

Regions induced by 7,12-dimethylbenz[a]anthracene in the Hamster Cheek Pouch. *J Oral Pathol* 22, 97-100 (1993)

Hara A, Sakai N, Yamada H, Yoshimi N, Tanaka T, Mori H: Immunoblot analysis of the placental form of glutathione-S-transferase in protein extracted from paraffin-embedded human glioma tissue. *J Cancer Res Clin Oncol* 119, 493-496 (1993)

Hara A, Sakai N, Yamada H, Niikawa S, Yoshimi N, Mori H: Localization of the placental form of glutathione S-transferase messenger ribonucleic acid in human glioma cell lines. *Neurosurgery* 33, 100-105 (1993)

Hara A, Sakai N, Yamada H, Niikawa S, Yoshimi N, Mori H, Shimokawa K: Expression of the placental form of glutathione S-transferase in pediatric gliomas. *Child's Nerv Syst* 9, 142-146 (1993)

Hara A, Niikawa S, Zhang W, Sakai N, Yamada N, Yoshimi N, Mori H: Identification of placental form of glutathione S-transferase in ACNU-resistant murine glioma cell lines. *J Neuro-Oncol* 17, 205-213 (1993)

Hara A, Araki Y, Shinoda J, Hirayama H, Niikawa S, Sakai N, Yamada H: Central neurocytoma: proliferative assessment by nucleolar organizer region staining. *Surg Neurol* 39, 343-347 (1993)

Kojima T, Tanaka T, Mori H, Kato Y, Nakamura M: Acute and subacute toxicity tests of onion coat, natural colorant extracted from onion (*Allium cepa* L.), in (C57 BL/6 X C3H)F1 mice. *J Toxicol Environ Health* 38, 89-101 (1993)

Kojima T, Tanaka T, Kawamori T, Suzui M, Hara A, Mori H: Chemoprevention of dietary D,L-difluoromethylornithine, an ornithine decarboxylase inhibitor, on initiation and post-initiation stages of diethylnitrosamine-induced rat hepatocarcinogenesis. *Cancer Res* 53, 3993-3908 (1993)

Wang A, Yoshimi N, Tanaka T, Mori H: Inhibitory effects of magnesium hydroxide on c-myc expression and cell proliferation induced by methylazoxymethanol acetate in rat colon. *Cancer Lett* 75, 73-78 (1993)

Okumura A, Tanaka T, Mori H: Juxtaglomerular cell tumor cell line producing active renin and its precursors. *Archiv B Cell Pathology* 64, 303-307 (1993)

Deguchi T, Doi T, Hideo E, Ito S, Takahashi Y, Nishino Y, Fujihira S, Kawamura T, Komeda H, Horie M, Shimokawa K, Tanaka T, Kawada Y: Detection of micrometastatic prostate cancer cells in lymph nodes by reverse transcriptase-polymerase chain reaction. *Cancer Res* 53, 5350-5354 (1993)

Zhang W, Hara A, Sakai N, Ando T, Yamada H, Nozawa Y: Radiosensitization and inhibition of deoxyribonucleic acid repair in rat glioma cells by long-term treatment with 12-O-tetradecanoylphorbol 13-acetate. *Neurosurgery* 32, 432-437 (1993)

Zhang W, Hara A, Murakawa T, Niikawa S, Ando T, Sakai N, Yamada H: Effect of interferon- α on ACNU-induced DNA damage and cytotoxicity in human glioblastoma cells. *Neurol Med Chir* 33, 275-279 (1993)

Niikawa S, Hara A, Shirakami S, Zhang W, Sakai N, Yamada H, Shimokawa K: Relationship between ricinus communis agglutinin-1 binding and nucleolar organizer regions in human gliomas. *Neurol Med Chir* 33, 345-349 (1993)

Niikawa S, Sakai N, Yamada H, Zhang W, Hara A, Shimokawa K: Histochemistry with Helix pomatia agglutinin in human germ cell tumors: detection of nongerminomatous components and correlation between HPA reactivity and radiosensitivity in germinomas. *Child's Nerv Syst* 9, 266-271 (1993)

Mori H, Kawamori T, Tanaka T, Ohnishi M, Yamahara J: Chemopreventive effect of costunolide, a constituent of oriental medicine on azoxymethane-induced intestinal carcinogenesis in rats. *Cancer Lett* 83, 171-175 (1994)

Tanaka T, Morishita Y, Suzui M, Kojima T, Okumura A, Mori H: Chemoprevention of mouse bladder carcinogenesis by the naturally occurring carotenoid astaxanthin. *Carcinogenesis* 15, 15-19 (1994)

Tanaka T, Kawamori T, Ohnishi M, Okamoto K, Mori H, Hara A: Chemoprevention of 4-nitroquinoline 1-oxide-induced oral carcinogenesis by dietary protocatechuic acid during initiation and postinitiation phases. *Cancer Res* 54, 2359-2365 (1994)

Tanaka T, Makita H, Ohnishi M, Hirose Y, Wang A, Mori H, Satoh K, Hara A, Ogawa H: Chemoprevention of 4-nitroquinoline 1-oxide-induced oral carcinogenesis by dietary curcumin and hesperidin: Comparison with the protective effect of beta-carotene. *Cancer Res* 54, 4653-4659 (1994)

Sugie S, Yoshimi N, Tanaka T, Mori H, Williams GM: Alterations of nuclear pores in preneoplastic and neoplastic rat liver lesions induced by 2-acetylaminofluorene. *Carcinogenesis* 15, 95-98 (1994)

Sugie S, Mori Y, Okumura A, Yoshimi N, Okamoto K, Sato S, Tanaka T, Mori H: Promoting and synergistic effects of chrysazin on 1,2-dimethylhydrazine-induced carcinogenesis in male ICR/CD-1 mice. *Carcinogenesis* 15, 1175-1179 (1994)

Sugie S, Okamoto K, Okumura A, Tanaka T, Mori H: Inhibitory effects of benzyl thiocyanate and benzyl isothiocyanate on methylazoxymethanol acetate-induced intestinal carcinogenesis in rats. *Carcinogenesis*, 15, 1555-1560 (1994)

Sugie S, Tanaka T, Shima H, Shinoda T, Mori H, Muto Y: Effects of a synthetic polyprenoic acid (E-5166) on the gap junction of rat hepatocytes treated with liver tumor promoters, phenobarbital, and p,p'-dichlorodiphenyltrichloroethane. *Toxicol Pathol* 22, 398-403 (1994)

Yoshimi N, Sato S, Makita H, Wang A, Hirose Y, Tanaka T, Mori H: Expression of cytokines, TNF- α and IL-1 α , in methylazoxymethanol acetate and 1-hydroxyanthraquinone-induced colon carcinogenesis of rats. *Carcinogenesis* 15, 783-785 (1994)

Yoshimi N, Wang A, Makita H, Suzui M, Mori H, Okano Y, Banno Y, Nozawa Y: Reduced expression of phospholipase C-delta, a signal-transducing enzyme, in rat colon neoplasms induced by methylazoxymethanol acetate. *Mol Carcinogenesis* 11, 192-196 (1994)

Hara A, Zhang W, Kobayashi H, Niikawa S, Sakai N, Yamada H: A single cell gel electrophoresis technique for the detection of DNA damage induced by ACNU, an alkylating agent or irradiation in murine glioma cell lines. *Neurol Res* 16, 234-240 (1994)

Hara A, Kaku Y, Nishimura Y, Sakai N, Yamada H: Successful remission of recurrent primary intracranial malignant lymphoma presenting uncus herniation after high dose intra-arterial

corticosteroid administration preceding intra-arterial chemotherapy. *Neurol Med Chir* 34, 700-703 (1994)

Kojima T, Tanaka T, Mori H: Chemoprevention of spontaneous endometrial cancer in female Donryu rats by dietary indole-3-carbinol. *Cancer Res* 54, 1446-1449 (1994)

Madle S, Dean SW, Andrae U, Brambilla G, Burlinson B, Doolittle D.J, Furihata C, Hertner T, McQueen CM, Mori H: Recommendations for the performance of UDS tests in vitro and in vivo; Unscheduled DNA synthesis working group, international workshop on standardization of genotoxicity test procedures. *Mutat Res* 312, 263-285 (1994)

Kawamori T, Tanaka T, Kawase Y, Shiroko J, Tanahashi S, Mori H: An alpha-fetoprotein producing pancreatic cystadenocarcinoma. *Clin Investig* 72, 377-380 (1994)

Asanoma M, Takahashi K, Miyabe M, Yamamoto K, Yoshimi N, Mori H, Kawazoe Y: Inhibitory effect of topical application of polymerized ferulic acid, a synthetic lignin, on tumor promotion in mouse skin-two stage tumorigenesis. *Carcinogenesis* 15, 2069-2071 (1994)

Wang A, Yoshimi N, Tanaka T, Mori H: The inhibitory effects of magnesium hydroxide on the bile acid-induced cell proliferation of colon epithelium in rats. *Carcinogenesis* 15, 2661-2663 (1994)

Yamagiwa S, Niwa K, Yokoyama Y, Tanaka T, Murase T, Shimonaka E, Shimokawa K, Kato K, Tamaya T: Primary adenoid cystic carcinoma of Bartholin's gland A case report. *Acta Cytol* 38, 79-82 (1994)

Niwa K, Yokoyama Y, Tanaka T, Murase T, Morishita S, Itoh M, Itoh N, Shimokawa K, Tamaya T: Successful pregnancy in a patient with endometrial carcinoma treated with medroxyprogesterone acetate. *Arch Gynecol Obstet* 255, 91-94 (1994)

Tanaka T, Okumura A, Yoshimi N, Sugie S, Shimonaka A, Mori H: Ki-I-positive large cell anaplastic lymphoma diagnosed by urinary cytology. *Acta Cytologica* 75, 1433-1439 (1995)

Tanaka T, Kojima T, Kawamori T, Mori H: Chemoprevention of digestive organs carcinogenicity by natural product protocatecuic acid. *Cancer* 75, 1433-1439 (1995)

Tanaka T, Ohnishi M, Kojima T, Mori H, Satoh K, Hara A: Chemoprevention of N-methyl-N-nitrosourea-induced rat glandular stomach carcinogenesis by a natural product-protocatechuic acid. *Cancer Journal* 8, 150-156 (1995)

Tanaka T, Makita H, Ohnishi M, Mori H, Satoh K, Hara A: Inhibition of oral carcinogenesis by the arotenoid mofarotene (Ro 40-8757) in male F344 rats. *Carcinogenesis* 16, 1903-1907 (1995)

Tanaka T, Makita H, Ohnishi F, Mori H, Satoh K, Hara A: Chemoprevention of rat oral carcinogenesis by naturally occurring xanthophylls, astaxanthin and canthaxanthin. *Cancer Res* 55, 4059-4064 (1995)

Tanaka T, Suzui M, Kojima T, Okamoto K, Kawamori T, Wang A, Mori H: Chemoprevention of the naturally occurring carcinogen I-hydroxyanthraquinone-induced carcinogenesis by the non-steroidal anti-inflammatory drug indomethacin in rats. *Cancer Detect Prev* 19, 418-425 (1995)

Tanaka T, Kawamori T, Ohnishi M, Makita H, Mori H, Satoh K, Hara A: Suppression of azoxymethane-induced rat colon carcinogenesis by dietary administration of naturally occurring xanthophylls astaxanthin and canthaxanthin during the postinitiation phase. *Carcinogenesis* 16, 2957-2963 (1995)

Sugie S, Okamoto K, Tanaka T, Mori H, Reddy BS, Satoh K: Effect of fish oil on the development of azoxymethane-induced glutathione-induced S-transferase placental form positive hepatocellular foci in male F344 rats. *Natl Cancer* 24, 187-196 (1995)

Yoshimi N, Ino N, Suzui M, Tanaka T, Nakashima S, Nakamura M, Nozawa Y, Mori H; The mRNA overexpression of inflammatory enzymes, phospholipase A2 and cyclooxygenase, in the large bowel mucosa and neoplasms of F344 rats treated with naturally occurring carcinogen, I-hydroxyanthraquinone. *Cancer Lett* 97, 75-82 (1995)

Hara A, Yoshimi N, Hirose Y, Ino N, Tanaka T, Mori H: DNA fragmentation in granular cells of human cerebellum following global ischemia. *Brain Res* 697, 247-250 (1995)

Hara A, Yoshimi N, Mori H, Iwai T, Sakai N, Yamada H, Niwa M: Hypothermic prevention of nuclear DNA fragmentation in gerbil hippocampus following transient forebrain ischemia.

Neurol Res 17, 461-464 (1995)

Kawamori T, Tanaka T, Har A, Yamahara J, Mori H: Modifying effects of naturally occurring products on the development of colonic aberrant crypt foci induced by azoxymethane in F344 rats. *Cancer Res* 55, 1277-1282 (1995)

Kawamori T, Tanaka T, Suzui M, Okamoto K, Mori H: Chemoprevention of azoxymethane-induced intestinal carcinogenesis by a novel synthesized retinoid, 5-hydroxy-4-(2-phenyl-(E)-ethenyl)-2(5H)-furanone, in rats. *Carcinogenesis* 16, 795-800 (1995)

Suzui M, Yoshimi N, Ushijima T, Hirose Y, Makita H, Wang A, Kawamori T, Tanaka T, Mori H, Nagao M: No involvement of ki-ras or p53 gene mutations in colitis-associated rat colon tumors induced by l-hydroxyanthraquinone and methylazoxymethanol acetate. *Mol Carcinogenesis* 12, 193-197 (1995)

Kawamori T, Tanaka T, Hirose Y, Satoh K, Hara A, Torihara M, Tamai Y, Yamahara J, Mori H: Suppression of azoxymethane-induced colonic aberrant crypt foci by dietary exposure to a novel synthesized retinoidal butenolide, 5-hydroxy-4-(2-phenyl-(E)ethenyl)-2(5H)-furanone, in rats. *Cancer Lett* 92, 159-165 (1995)

Kawamori T, Tanaka T, Ohnishi M, Hirose Y, Nakamura Y, Satoh K, Hara A, Mori H: Chemoprevention of azoxymethane-induced colon carcinogenesis by dietary feeding of s-methyl methane thiosulfonate in male F344 rats. *Cancer Res* 55, 4053-4058 (1995)

Makita H, Tanaka T, Ohnishi F, Tamai Y, Torihara M, Yamahara J, Mori H, Satoh K, Hara A: Inhibition of 4-nitroquinoline l-oxide-induced rat oral carcinogenesis by dietary exposure of a new retinoidal butenolides, KYN-54, during the initiation and postinitiation phases. *Carcinogenesis* 16, 2171-2176 (1995)

Hirose Y, Tanaka T, Kawamori T, Ohnishi M, Makita H, Mori H, Satoh K, Hara A: Chemoprevention of urinary bladder carcinogenesis by the natural phenolic compound protocatechuic acid in rats. *Carcinogenesis* 16, 2337-2342 (1995)

Suzui M, Yoshimi N, Tanaka T, Mori H: Infrequent Ha-ras mutations and absence of Ki-ras, N-ras, and p53 mutations in 4-nitroquinoline l-oxide-induced rat oral lesions. *Mol Carcinogenesis* 14, 294-298 (1995)

Shiojiri N, Wada J, Tanaka T, Noguchi M, Ito M, Gebhardt R: Heterogenous hepatocellular expression of glutamine synthetase in developing mouse liver and in testicular transplants of fetal liver. *Lab Invest* 72, 740-747 (1995)

Murase T, Niwa K, Morishita S, Itoh N, Mori H, Tanaka T, Tamaya T: Rare occurrence of p53 and ras gene mutations in preneoplastic and neoplastic mouse endometrial lesions induced by N-methyl-N-nitrosourea and 17 β -estradiol. *Cancer Lett* 92, 223-227 (1995)

Niwa K, Murase T, Morishita S, Tanaka T, Shimokawa K, Tamaya T: Changes in the number of silver-stained nucleolar organizer regions in the normal, preneoplastic, and neoplastic endometrium. *Cancer Detect Prev* 19, 436-440 (1995)

Iwai T, Hara A, Niwa M, Nozaki M, Uematsu T, Sakai N, Yamada H: Temporal profile of nuclear DNA fragmentation in situ in gerbil hippocampus following transient forebrain ischemia. *Brain Res* 671, 305-308 (1995)

Iwai T, Hara A, Niwa M, Nozaki M, Uematsu T, Sakai N, Yamada H: DNA fragmentation in gerbil hippocampus after transient forebrain ischemia- its time course and effect of hypothermia. *J Cereb Blood Flow Metab* 15, S149 (1995)

Mori H, Ohnishi M, Kawamori T, Sugie S, Tanaka T, Ino N, Kawai K: Toxicity and tumorigenicity of purpurin, a natural hydroxyanthraquinone in rats; induction of bladder neoplasms. *Cancer Lett* 102, 193-198 (1996)

Yoshimi N, Ino N, Suzui M, Hara A, Nakatani K, Sato S, Mori H: Telomerase activity of normal tissues and neoplasms in rat colon carcinogenesis induced by methylazoxymethanol acetate and its difference from human tissues. *Mol Carcinogenesis* 16, 1-5 (1996)

Hara A, Iwai T, Niwa M, Uematsu T, Yoshimi N, Tanaka T, Mori H: Immunohistochemical detection of Bax and Bcl-2 protein in gerbil hippocampus following transient forebrain ischemia. *Brain Res* 711, 249-253 (1996)

Kawamori T, Tanaka T, Hirose Y, Ohnishi M, Mori H: Inhibitory effects of d-limonene on the development of colonic aberrant crypt foci induced by azoxymethane in F344 rats. *Carcinogenesis* 17, 369-372 (1996)

Wang A, Yoshimi N, Suzui M, Yamauchi M, Tarao M, Mori H: Different expression patterns of cyclin A, D1 and E in human colorectal cancer. *Cancer Res Clin Oncol* 122, 122-126 (1996)

Niwa K, Morishita S, Murase T, Mudigdo A, Tanaka T, Mori H, Tamaya T: Chronological observation of mouse endometrial carcinogenesis induced by N-methyl-N-nitrosourea and 17 β -estradiol. *Cancer Lett* 104, 115-119 (1996)

Mori H, Sugie S, Ino N, Mahidor R, Tanaka T, Hara A, Morishita Y: Inhibitory effects of naturally-occurring and related synthetic organosulfur compounds on genotoxicity in hepatocytes and digestive organs carcinogenesis. *J Environ Pathol Toxicol Oncol*, in press

Hara A, Hirose Y, Wang A, Yoshimi N, Mori H: Localization of Bax and Bcl-2 proteins, regulators of programmed cell death in human central nervous system. *Virchows Archiv*, in press

Hara A, Sakai N, Yamada H, Iwata T: Clinoidal meningioma arising from falxiforme process of optic canal: Case report and review. *Neurol Res* 18, 237-240 (1996)

Ikezaki S, Nishikawa A, Furukawa F, Tanakamaru Z, Kim H-C, Mori H, Takahashi M: Chemopreventive effects of 24R,25-dihydroxyvitamin D₃, a vitamin D₃ derivative, on glandular stomach carcinogenesis initiated by N-methyl-N'-nitro-N-nitrosoguanidine and sodium chloride in rats. *Cancer Res* 56, 2767-2770 (1996)

Onogi N, Okuno M, Komaki C, Moriwaki H, Kawamori T, Tanaka T, Mori H, Muto Y: Suppressing effect of perilla oil on azoxymethane-induced foci of colonic aberrant crypts in rats. *Carcinogenesis* 17, 1291-1296 (1996)

Muto Y, Moriwaki H, Ninomiya M, Adachi S, Saito A, Takasaki T, Tanaka T, Tsurumi K, Okuno M, Tomita E, Nakamura T, Kojima T: Prevention of second primary tumors by a retinoid, polyphenolic acid, in patients with hepatocellular carcinoma. *N Engl J Med* 334, 1561-1567 (1996)

Komaki C, Okuno M, Onogi N, Moriwaki H, Kawamori T, Tanaka T, Mori H, Muto Y: Synergistic suppression of azoxymethane-induced foci of colonic aberrant crypts by the combination of β -carotene and peilla oil in rats. *Carcinogenesis* 17, 1897-1901 (1996)

Kanematsu E, Matsui H, Deguchi T, Yamamoto O, Korematsu M, Kobayashi A, Nezasa S, Yamamoto N, Takeuchi T, Tanaka T, Kawada Y: Significance of AgNOR counts for differentiating between benign and malignant neoplasms of the parathyroid gland. Human Pathol, in press

その他

田中卓二 : Protocatechuic acid のラット口腔 , 胃 , 膀胱発癌に対する抑制効果の検討. 佐川がん研究助成振興財団研究報告第 5 集 (1993 年度) 24-31 (1995)

病理学第二講座

著書 (和文)

高見 剛：免疫増殖性症候群，現代病理学大系 6，飯島宗一他編，東京，中山書店，1994. 237-255.

高見 剛：感染症各論，新病理学総論，菊地浩吉，吉木 敬編，東京，南山堂，1993 第 15 版発行，1994 2 刷発行，330-342.

高見 剛：免疫増殖性症候群，医科免疫学，菊地浩吉編，東京，南江堂，1995 年第 4 版発行，1996 年 2 刷発行，441-459.

総説 (和文)

高見 剛：消化管のリンパ増殖性疾患～MALToma～. 医学のあゆみ 166, 50-53 (1993)

高見 剛：皮膚科領域のリンパ増殖性疾患の免疫組織化学. 臨床皮膚科 47, 105-110 (1993)

高見 剛：免疫染色と抗体の特性. 病理と臨床 12 (臨増号), 53-58 (1994)

今信一郎, 笠井 潔, 高見 剛, 菊地浩吉：新しい CD 抗原分類 (1993 年 11 月). Annual Review 免疫 1994, 菊地浩吉他編，東京，中外医学社，298-304 (1994)

斉尾征直, 高見 剛：CD 抗原 up-date. 免疫・Immunology Frontier 4, 381-384 (1994)

山田鉄也, 斉尾征直, 中山 崇, 高見 剛：劇症肝炎とアポトーシス. 肝胆膵 32, 215-221 (1996)

原著 (和文)

市橋直樹, 森 俊二, 高見 剛：パラフィン切片での NOR 銀染色と免疫染色の二重染色の有用性 - 悪性リンパ腫に関して - . 皮膚のリンフォーマ 2 88-91 (1993)

岩田晶子, 清水信雄, 桑原尚志, 近藤直実, 折居忠夫, 森 芳郎, 高見 剛：悪性リンパ腫を合併した Bloom 症候群の 1 例. 小児科 9, 1157-1160 (1993)

小久保光治, 石川健二, 立山健一郎, 杉山 彰, 片山元之, 高見 剛：白血球増多によって発

見された G-CSF 産生肺癌. 肺癌 34, 955-958 (1994)

加藤智美, 加藤善一郎, 岩田晶子, 山田幸治, 近藤直実, 折居忠夫, 後藤裕夫, 高見 剛 : 悪性リンパ腫の腹部転移を来した Bloom 症候群の 1 例. 小児科臨床 48, 159-163 (1995)

小久保光治, 田中常雄, 立山健一郎, 片山元之, 杉山 彰, 高見 剛 : 心膜脂肪織にも浸潤した 5 年半の経過を有する MALT 型肺リンパ腫の 1 例. 肺癌 35, 471-475 (1995)

長田真二, 田中千凱, 伊藤隆夫, 種村廣己, 大下裕夫, 浅野雅嘉, 金田成宗, 高橋 健, 加地秀樹, 高見 剛 : T 細胞性胃悪性リンパ腫の 1 例. 癌の臨床 41, 1644-1648 (1995)

原著 (欧文・国内)

Oshita Y, Itokazu M, Matsunaga T, Takami T and Ohya I: Histochemical demonstration of hyaluronic acid in human meniscus using hyaluronic acid binding protein. 日関外誌 14, 123-130 (1995)

原著 (欧文・国外)

Kuwashima Y, Yamada T, Saio M, Takami T: Formation and growth of multicellular spheroids in media containing low concentration of agarose. Cancer Letters 71, 31-33 (1993)

Kuwashima Y, Yamada T, Saio M, Takami T: Growth characteristics of murine B16 melanoma multicellular spheroids - A model for invasion and effects of Doxorubicin treatments. Anticancer Res 13, 1215-1218 (1993)

Tanaka T, Yoshimi N, Sawada K, Takami T, Sugie S, Etori F, Kachi H, Mori H: Ki-1 positive large cell anaplastic lymphoma diagnosed by urinary cytology. A case report. Acta Cytologica 37, 520-524 (1993)

Watanabe K, Kondo N, Fukutomi O, Takami T, Agata H, Orii T: Characterization of infiltrating CD4 + cells in atopic dermatitis using CD45R and CD29 monoclonal antibodies. Ann Allergy 72, 39-44 (1994)

Toida M, Oka N, Takami T, Adany R: Accumulation of cells containing Factor XIII subunit a around the foci of intense fibrosis in human epulides. Histochemical J 27, 440-448 (1995)

Toida M, Okumura Y, SweWin K. K, Oka N, Takami T, Adany R: Characterization of cells

containing Factor XIII subunit a in benign and malignant buccal lesions. *Histochemical J* 27, 449-456 (1995)

Takami T, Yamada T, Saio M, Nakayama T: The utility of workshop B-cell panel murine mAb B062(L40a) and B063(L40b) in the immunohistochemical diagnosis of B-cell lymphomas embedded in paraffin section. *Leukocyte Typing V* (1), 733-735 (1995)

Shiota M, Nakamura S, Ichinohasama R, Abe M, Akagi T, Takeshita M, Mori N, Fujimoto J, Miyauchi J, Mikata A, Nanba K, Takami T, Yamabe H, Takano Y,

Izumo T, Nagatani T, Mohri N, Nasu K, Satoh H, Katano H, Fujimoto T, Yamamoto T, Mori S: Anaplastic large cell lymphomas expressing the novel chimeric protein p80 NAM/ALK - A distinct clinicopathologic entity. *Blood* 86, 1954-1960 (1995)

微生物学講座

著書 (和文)

江崎孝行：スピロヘータ (Spirochaetes) 感染症. 臨床遺伝医学 [] 分子病, 東京, 診断と治療社, 1993. 607-610

江崎孝行: Pseudomonas 属とその類縁菌群の新しい分類体系. 緑膿菌 - その基礎と臨床 -, 東京, 緑膿菌感染症研究会, 1993. 10-14

江崎孝行：微生物学コメンタリー, 東京, 中外医学社, 1994

江崎孝行, 河村好章: 細菌感染症の DNA 診断方法, 細菌感染症の分子医学, 渡辺治雄編, 東京, 羊土社, 1995. 131-140

江崎孝行：シンプル微生物学, 東国伸 小熊恵二編, 東京, 南江堂, 1995. 7-17

江崎孝行：細菌の分類. 医系微生物学, 加藤延夫編, 東京, 朝倉書店, 1995. 5-6

江崎孝行：腸チフス 輸入感染症 - 国際化時代への警告 -, 多田功編, 東京, 医歯薬出版, 1996. 62-65

江崎孝行: ユニヴァーサルプライマーを使った敗血症の診断, 遺伝子診療 96, 森徹編, 東京, 医学書院, 1996. 74-77

著書 (欧文)

Kohbata S, Shimokawa K: Circulating antibody to Nocardia in the serum of patients with Parkinson's disease, *Advances in Neurology*, (eds Narabayashi H, Nagatu T, Yanagisawa N, Mizuno Y). Raven Press, New York, 1993, 355-357

Kohbata S, Hayashi R: Cell wall-defective forms of *Nocardia asteroides* require tetrahydrobiopterin for their growth, *Alzheimer's and Parkinson's diseases*, (eds Hanin I et al.). Plenum Press, New York, 1995, 333-337.

Hirose K, Masaki M, A Q Khan, Hashimoto Y, Ezaki T: Survival of various mutants of *Salmonella typhi* within macrophage cell line THP-1 Typhoid Fever and other Salmonellosis ,

Southeast J. Tropical Medicine and Public Health. 26: Suppl. in Suttipant Sarasombath, and Sansnee Senawong (eds), Bangkok, 1995, 173-175.

Ezaki T, Ito K, A Q Khan, Hirose K, Miyake M, Hashimoto Y: Toward complete genetic identification and detection system of major Salmonella serovars Typhoid Fever and other Salmonellosis , Southeast J. Tropical Medicine and Public Health. 26: Suppl. in Suttipant Sarasombath, and Sansnee Senawong (eds), Bangkok, 1995, 225-227.

総説 (和文)

江崎孝行:特集・感染症の分子生物学 - 細菌性感染症の分子診断 - . Molecular Medicine 30, 4-9 (1993)

島田 馨, 江崎孝行, 牛島廣治, 木村 哲, 大泉耕太郎:特集・感染症の分子生物 - 感染症の分子生物学をめぐって - . Molecular Medicine 30, 28-41 (1993)

江崎孝行: DNA を使った感染症の迅速診断. 現代医療 25, 725-728 (1993)

江崎孝行:細菌感染症の迅速診断のための PCR 法 - その基礎と臨床 - . 今日の感染症 12, 12-15 (1993)

江崎孝行: エイズ/HIV 感染症の臨床経過. 治療 別冊 75, 6 (1993)

江崎孝行: 特集/メディカルバイオテクノロジー - 先端研究からベッドサイドへ - PCR 法. 診断と治療 81, 7 (1993)

江崎孝行: DNA 診断の進歩と臨床検査への導入. 日本臨床微生物学雑誌 3, 1 (1993)

江崎孝行: 抗酸菌染色における死菌判定について. Medical Technology 21, 13 (1993)

江崎孝行: 感染症の分子生物学 - 細菌性感染症の分子診断 - . Molecular Medicine 30, 4-9 (1993)

島田 馨, 江崎孝行, 牛島廣治, 木村 哲, 大泉耕太郎: 感染症の分子生物学 - 感染症の分子生物学をめぐって - . Molecular Medicine 30, 28-41 (1993)

江崎孝行: DNA を使った感染症の迅速診断. 現代医療 25, 725-728 (1993)

江崎孝行:細菌感染症の迅速診断のための PCR 法 - その基礎と臨床 -. 今日の感染症 12, 12-15 (1993)

江崎孝行:エイズ/HIV 感染症の臨床経過. 南山堂, 治療 75, 6 (1993)

江崎孝行:メディカルバイオテクノロジー - 先端研究からベッドサイドへ - PCR 法. 診断と治療 81, 7 (1993)

江崎孝行:DNA 診断の進歩と臨床検査への導入. 日本臨床微生物学雑誌 3, 1 (1993)

江崎孝行:DNA を使った感染症の迅速診断. 現代医療 25, 725-728 (1993)

江崎孝行:抗酸菌染色における死菌判定について. Medical Technology 21, 13 (1993)

山本啓之:技法シリーズ:DNA-DNA ハイブリダイゼーションの基礎と応用. 微生物生態学会報 8, 157-166 (1993)

江崎孝行:細菌の遺伝子を使った同定方法. 日本臨床 52, 71-74 (1994)

江崎孝行:感染症の遺伝子診断. 臨床医 20, 453-455 (1994)

江崎孝行, 河村好章:細菌感染症の DNA 診断. 臨床科学 30, 979-982 (1994)

江崎孝行, 河村好章:細菌感染症診断の迅速化 DNA プローブ法の展望. メディアサークル 39, 286-288 (1994)

江崎孝行, 河村好章:血液中の病原体の PCR 法による検出. 臨床検査 38, 1405-1408 (1994)

三浦宏明, 江崎孝行:PCR 法による結核菌の検出. 臨床検査 42, 103-214 (1994)

江崎孝行:細菌の遺伝子を使った同定方法. 日本臨床 52, 71-74 (1994)

江崎孝行:感染症の遺伝子診断. 臨床医 20, 453-455 (1994)

江崎孝行, 河村好章: 細菌感染症の DNA 診断. 臨床科学 30, 979-982 (1994)

江崎孝行, 河村好章: 細菌感染症診断の迅速化 DNA プローブ法の展望. メディアサークル 39, 286-288 (1994)

江崎孝行, 河村好章: 血液中の病原体の PCR 法による検出. 臨床検査 38, 1405-1408 (1994)

河村好章: 蛍光サイクルシーケンス法による塩基配列決定. 日本細菌学雑誌 49, 837-838 (1994)

河村好章: 定量的 DNA/DNA hybridization 化学発光法による測定. 日本細菌学雑誌 49, 849 (1994)

河村好章, 江崎孝行: グラム陽性菌の DNA の抽出と精製. Microbiol Cult Coll 10, 35-37 (1994)

江崎孝行, 河村好章: 感染症と分子生物学. 臨床成人病 25, 69-72 (1995)

中嶺マチ子, 大城俊弘, 江崎孝行: PCR による子豚由来大腸菌の病原因子の検出. 臨床獣医 13, 43-50 (1995)

江崎孝行, 河村好章: 感染症の遺伝子診断の現状と将来の展望. Pharma Medica 13, 63-67 (1995)

河村好章, Sultana F, 侯 暁剛, 江崎孝行: レンサ球菌の新しい同定キットメストレプトグラムの同定精度. 日本臨床微生物学雑誌 5, 4-16 (1995)

江崎孝行, 渡辺治雄: 新しい病原細菌名リストと予防衛生研究所のバイオセーフティレベル. 日本細菌学雑誌 50, 803-838 (1995)

江崎孝行, 河村好章: 感染症診断の進歩. 臨床透析 11, 1691-1696 (1995)

江崎孝行, 劉 淑君, 広瀬健二, 侯 暁剛, Sultana F, 河村好章: 1980 年から 1994 年までに発表された細菌菌種名リスト. Microbiol Cult Coll 11, 31-91 (1995)

江崎孝行, 河村好章: コアグラールゼ陰性のブドウ球菌の新分類. 臨床検査 40, 387-391

(1996)

山本啓之, 千浦 博:特集 生物によって造られる地球 - 原核生物の進化とウイルスの役割
- . 地球 18, 36-40 (1996)

河村好章:新しいレンサ球菌同定キット. 臨床検査 40, 409-416 (1996)

河村好章, 江崎孝行: Enterococcus 属の分類. 検査と技術 24, 545-547 (1996)

河村好章:同定キットの使用法 - 誤同定をなくすために - . 検査と技術 24, in press (1996)

総説 (欧文・国外)

Kohbata S: Circulating antibody to Nocardia in the serum of patients with Parkinson's disease,
Parkinson / Alzheimer Digest 6, 11-12 (1993)

原著 (和文)

米田尚生, 出口 隆, 多田孝司, 伊藤康久, 岩田英樹, 原田吉将, 岡野 学, 斎藤昭弘, 山田伸
一郎, 坂 義人, 河田幸道, 江崎孝行, 玉木正義, 前田真一, 斎藤 功:男子クラミジア性尿道
炎の治療効果判定における PCR 法の応用. Chemotherapy 41, 770-773 (1993)

荒川迪生, 稲松孝思, 江崎孝行, 大井田隆, 斎藤厚, 副島林造, 田口善夫, 原 耕平, 藪内英
子, 山口恵三, 上田 泰:本邦レジオネラ肺炎患者について - 1979 年から 1992 年まで - .
環境感染 8, 2 (1993)

楠 信治, 村田 豊, 南出和喜夫, 五十君裕玄, 内田清久, 佐藤明正, 三浦宏明, 江崎孝行:2
段階 PCR 法による喀痰中の Mycobacterium avium, M. intracellulare および M. kansasii
の検出. 感染症学雑誌 68, 42-49 (1994)

青木正和, 片山透, 江崎孝行 et al.: PCR 法を利用した抗酸菌 DNA 検出キット(アンプリ
コマイコバクテリウム) による臨床検体からの抗酸菌の迅速検出. 結核 39, 593-605
(1994)

米田尚生, 出口隆, 江崎孝行: polymerase chain reaction 法による男子非淋菌性尿道炎患者
からの Mycoplasma genitalium の検出. 感染症学雑誌 68, 1376-1380 (1994)

河村好章, Sultana F, 候 暁剛, 江崎孝行: ストレプトグラムによるレンサ球菌およびその

関連菌種の同定精度の検討. 日本臨床微生物学雑誌 5, 4-12 (1995)

中家一郎, 中澤宗生, 橋本安弘, 池内俊久, 野間 進, 鳥飼善郎, 江崎孝行: 牛からの *Pasteurella trehalosi* の分離. 日獣会誌 48, 750-754 (1995)

小松 方, 島川宏一, 相原雅典, 松尾収二, 江崎孝行: Polymerase chain reaction およびアルカリフォスターゼ標識オリゴヌクレオチドプローブを用いた 3 菌種の抗酸菌及び属の検出同定法. 感染症学雑誌 70, 141-150 (1996)

原著 (欧文・国内)

Funada H, Machi T, Yoneyama H, Mathuda T, Miura H, Ezaki T, Yokota Y: Capnocytophaga sputigena bacteremia associated with acute leukemia. Jpn J of Inf Disease 67, 622-628 (1993)

Yamamoto H, Hashimoto Y, Ezaki T: Comparison of detection methods for Legionella Species in environmental water by colony isolation, fluorescent antibody staining, and polymerase chain reaction. Microbiol Immunol 37, 617-622 (1993)

Miura H, Kawamura Y, Ezaki T: Genetic Identification of Mycobacterial Strains in the Borderland among Mycobacterium avium, M. intracellulare, and M. scrofulaceum. Microbiol Cult Coll 10, 45-57 (1994)

Miura H, Ezaki T, Kawamura Y, Yamamoto H: Specific sequence for Mycobacterium interjectum and detection of the species in the members previously designated as Mycobacterium avium complex. Microbiol Cult Coll 10, 21-28 (1994)

Nishibuchi M, Ezaki T: The thermostable direct hemolysin Gene(tdh) of Vibrio hollisae is dissimilar in prevalence to and phylogenetically distant from the tdh Genes of other Vibrios - Implications in the horizontal transfer of the tdh Gene. Microbiol Immunol 40, 59-65 (1996)

Kohbata S: Acid-fastness of Nocardia asteroides GUH-2 cultured in brain heart infusion broth supplemented with paraffin. Microbiol Immunol 40 (1996), In press.

原著 (欧文・国外)

Li N, Hashimoto Y, Ezaki T: Analysis of 16S rRNA gene partial nucleotides sequencing of two strains of Leptospira. J Chi Zoon 9, 7-10 (1993)

Hashimoto Y, Li N, Yokoyama H, Ezaki T: Complete nucleotide sequence and molecular characterization of *via B* region encoding Vi antigen in *Salmonella typhi*. *J Bacteriol* 175, 4456-4465 (1993)

Shatha A, Li N, Miura H, Hashimoto Y, Yamamoto H, Ezaki T: Covalently immobilized DNA plate for luminometric DNA-DNA hybridization to identify viridans streptococci in under 2 hours. *FEMS Microbiol Lett* 106, 139-142 (1993)

Makino S, Okada Y, Maruyama T, Ezaki T, Sasagawa C, Yoshikawa M: Direct detection of *Bacillus anthracis* DNA in animals by polymerase chain reaction. *J Clin Microbiol* 13, 547-551 (1993)

Ezaki T, Li N, Hashimoto Y, Miura H, Yamamoto H: 16S ribosomal RNA sequences of anaerobic cocci and proposal of *Ruminococcus hansenii* comb. nov., *Ruminococcus productus* comb. nov. *Int J Syst Bacteriol* 44, 130-136 (1993)

Li N, Hashimoto Y, Ezaki T: Determination of 16S ribosomal RNA sequences of all members of the genus *Peptostreptococcus* and their phylogenetic position. *FEMS Microbiol Lett* 116, 1-6 (1993)

Ohkuni H, Todome Y, Mizuse M, Ohtani N, Suzuki H, Igarasi H, Hashimoto Y, Ezaki T, Harada K, Imada Y, Ohkawa S, Kotani S: Biologically active extracellular products of oral viridans streptococci and the aetiology of Kawasaki disease. *J Med Microbiol* 39, 352-362 (1993)

Ezaki T, Li N: 16S ribosomal RNA sequences of anaerobic cocci and proposal of *Ruminococcus hansenii* comb. nov., *Ruminococcus productus* comb. nov. *Int J Syst Bacteriol* 44, 130-136 (1994)

Li N, Hashimoto Y, Ezaki T: Determination of 16S ribosomal RNA sequences of all members of the genus *Peptostreptococcus* and their phylogenetic position. *FEMS Microbiol Lett* 116, 1-6 (1994)

Makino S, Okada Y, Ezaki T: Direct and rapid detection of *Erysipelothrix rhusiopathiae* DNA in animals by PCR. *J Clin Microbiol* 32, 1526-1531 (1994)

Hashimoto Y, Itho Y, Yamamoto H, Ezaki T: Development of nested PCR based on the *ViaB* sequence to detect *Salmonella typhi*. *J Clin Microbiol* 33, 775-777 (1995)

Muthotho J N, Furuse K, Ezaki T: Enterotoxin-like factor of *Aeromonas* species isolated in Kenya. *Afr J Heal Scie* 1 103-107 (1995)

Deguchi T, Komeda H, Yasuda M, Tada K, Iwata K, Asano M, Ezaki T, Kawada Y: *Mycoplasma genitalium* in non-gonococcal urethritis. *Int J STD & AIDS* 6, 144-146 (1995)

Kawamura Y, Hou X, Sultana F, Miura H, Ezaki T: Determination of 16S rRNA sequences of *Streptococcus mitis* and *Streptococcus gordonii* and phylogenetic relationships among members of the genus *Streptococcus*. *Int. J. Syst. Bacteriol* 45, 406-408 (1995)

Kawamura Y, Hou X, Sultana F, Liu S, Yamamoto H, Ezaki T: Transfer of *Streptococcus adjacens* and *Streptococcus defectivus* to *Abiotrophia* gen. nov. as *Abiotrophia adiacens* comb. nov. and *Abiotrophia defectiva* comb. nov., respectively. *Int J Syst Bacteriol* 45, 798-803 (1995)

Takemura H, M. Kaku, Konno S, Ezaki T, et al.: Cloning and expression of human defensin HNP-1 genomic DNA in *Escherichia coli*. *J. Microbiol. Method.* 25, 287-293 (1995)

Hashimoto Y: Detection of *Salmonella typhi* by nested PCR based on the *ViaB* sequence. *J Clin Microbiol* 33, 3361 (1995)

Wayne L G, Good R C, Bottger E C, Butler R, Dorsch M, Ezaki T: Semantide- and chemotaxonomy-based analyses of some problematic phenotypic clusters of slowly growing mycobacteria, a cooperative study of the international working group on mycobacterial taxonomy. *Int J Syst Bacteriol* 46, 280-297 (1996)

Tishyadhigama P, Srisawai P, Yabuuchi E, Ezaki T: Environmental surveillance of *Legionella* Species in Thailand. *J Med Assoc Thai* 78, 58-70 (1996)

Hashimoto Y, Khan A Q, Ezaki T: Positive Autoregulation of *vipR* expression in *ViaB* region encoded *Vi* antigen of *Salmonella typhi*. *J Bacteriol* 178, 1430-1436 (1996)

Deguchi T, Yasuda M, Nakano M, Ozeki S, Ezaki T, Saito I, Kawada Y: Quinolone-resistant

Neisseria gonorrhoeae: correlation of alterations in the GyrA subunit of Gyrase and the ParC subunit of topoisomerase IV with antimicrobial susceptibility profiles. *Antimicro Agents and Chemotherapy* 40, 1020-1023 (1996)

Sang W K, Saidi S M, Yamamoto H, Ezaki T, Iida T, Yoh M, Honda Y: Haemorrhagic colitis due to *Escherichia coli* 0157: H7 in Kenya. *Journal of Tropical Pediatrics* 42, (1996)

Yamamoto H, Hashimoto Y, Ezaki T: Study of nonculturable *Legionella pneumophila* cells during multiple-nutrient starvation. *FEMS Microbiol Ecol* 20, 149-154 (1996)

Deguchi T, Yasuda M, Nakano M, Ozeki S, Ezaki T, Maeda S, Saito I, Kawada Y: 1996. Rapid detection of point mutations of the *Neisseria gonorrhoeae* *gyrA* gene associated with decreased susceptibilities to quinolones. *J. Chin. Microbiol.* 34, 2255-2258 (1996)

Deguchi T, Yasuda M, Nakano M, Ezaki T, et al.: Uncommon occurrence of mutations in the *gyrB* gene associated with Quinolone resistance in clinical isolates *Neisseria gonorrhoeas*. *Antimicrobial. Agents. Chemo.* 40, 2437-2438 (1996)

衛生学講座

著書 (和文)

岩田弘敏：産業保健の方法と実際 2，衛生・公衆衛生学，4 版．和田攻編，東京，1994.
167-173

岩田弘敏，井奈波良一，竹内宏一，上家和子，清水義治，吉田英世，藤田節也，奥村まゆみ，児玉文夫，田中 耕：徳川旧藩に組替えてみた地域死亡特性，岐阜，岐阜大学医学部衛生学教室，1995．131p

岩田弘敏：家庭と地域社会でできるばけぜ口作戦，岐阜，岐阜新聞社，1996．122p

総説 (和文)

岩田弘敏：日本における手腕系振動の許容基準 (案) について．労働の科学 48，49-53 (1993)

井奈波良一：職業ストレス (特に OA 機器)による健康障害の予防．日本医事新報 3667, 162-163 (1994)

井奈波良一，杉浦春雄，岩田弘敏：音と免疫．日本医事新報 3679, 20-22 (1994)

岩田弘敏：産業医学に関連する整形外科的疾患 予防医学の立場から．骨・関節・靭帯 8, 269-273 (1995)

総説 (欧文・国内)

Inaba R, Mirbod SM, Iwata H: Pathophysiology of vibration-induced white finger and safety levels for hand-transmitted vibration. J Occup Health 38, 1-5 (1996)

原著 (和文)

藤田節也，永田知里，井奈波良一，岩田弘敏：レイノー現象を有する小型振動工具取扱者における抗核抗体について．日本災害医学会会誌 41, 39-42 (1993)

井上真人，岩田弘敏：「ストレスとストレス処理に関する質問紙」の産業保健への応用に関する研究．岐阜大医紀 41, 601-614 (1993)

河村容子，藤田節也，吉田英世，井奈波良一，岩田弘敏：レイノー現象発作と気温の関係 - 山間部と平野部におけるレイノー現象有症者の長期観察 - . 日本温泉気候物理医学会誌 56, 235-242 (1993)

河村容子，藤田節也，吉田英世，井奈波良一，岩田弘敏：健常者およびレイノー現象有症者における抗核抗体 . 西日本皮膚科 55, 915-919 (1993)

杉浦春雄，西田弘之，鷺野嘉映，井奈波良一，岩田弘敏：運動負荷がマウスの免疫機能に及ぼす影響 . 日本衛生学雑誌 48, 845-851 (1993)

井奈波良一，鷺野嘉映，藤田節也，吉田英世，岩田弘敏：わが国の自動車運転者の人身事故の実態と要因についての横断的研究 . 民族衛生 59, 284-290 (1993)

小野桂子，吉田英世，井奈波良一，岩田弘敏：高尿酸血症への生活行動習慣の関与 . 公衆衛生 57, 880-884 (1993)

井奈波良一，岩田弘敏，榎木直子，吉田英世：事業所が産業医に望む産業保健上の課題 . 公衆衛生 58, 68-71 (1994)

高原康光，加藤邦夫，井奈波良一，岩田弘敏：木酢液による悪臭除去に関する研究 (第2報) . 日本公衛誌 41, 147-156 (1994)

井奈波良一，鷺野嘉映，藤田節也，吉田英世，杉浦春雄，小野桂子，岩田弘敏：シートベルト着用状況と着用要因 - 公務員を対象として - . 民族衛生 60, 223-226 (1994)

岩崎秀哉，井奈波良一，岩田弘敏：スポーツマンの咬合力と体力 . 日本衛生学雑誌 49, 654-659 (1994)

前野浩子，杉浦春雄，植屋悦男，岩田弘敏：機能性のある食品「ボンナリネ」の生体防御機構に及ぼす影響 . 基礎と臨床 28, 2861-2871 (1994)

杉浦春雄，前野浩子，植屋悦男，井奈波良一，岩田弘敏，西田弘之：機能性のある食品「ボンナリネ」の免疫の機能に及ぼす影響 . 日本衛生学雑誌 49, 914-923 (1994)

宮本教雄，青木貴子，武藤紀久，井奈波良一，岩田弘敏：若年女性における四肢の冷え感と日常生活との関係 . 日本衛生学雑誌 49, 1004-1012 (1995)

井奈波良一，岩田弘敏，杉浦春雄：医学生の東洋医学，温泉医学に対する意識調査．日本医事新報 3707, 31-34 (1995)

岩崎秀哉，藤田節也，吉田英世，井奈波良一，岩田弘敏：咬合力と顎顔面形態との関係．日本衛生学雑誌 50, 683-692 (1995)

安藤篤美，井奈波良一，吉田英世，岩田弘敏：いちご栽培作業者の冷えに関する自覚症状調査．公衆衛生 59, 429-432 (1995)

井奈波良一，岩田弘敏，越路正敏，藤原久義，杉浦春雄：漢方外来受診者の東洋医学，温泉医学に関する意識調査．日本医事新報 3728, 46-50 (1995)

岩田弘敏，井奈波良一，藤田節也，高田晴子，島村清志，高塚直子，宮田延子，小野桂子，松田好美，前野浩子，梶間和枝，梅村貞子：老人性痴呆発症の要因探索のための患者・対照研究 - 主として生活要因について - ．厚生指標 42, 32-38 (1995)

正村一人，井奈波良一，岩田弘敏：唾液カルシウムおよび総蛋白の齶蝕との関連性．日本衛生学雑誌 50, 886-892 (1995)

清水容子，吉田英世，藤田節也，岩田弘敏：基本健康診査受診者からの一検討 検診内容の理解について．公衆衛生 59, 787-789 (1995)

高田晴子，鷺野嘉映，Harrell JS，長岡千春，岩田弘敏：10歳から11歳への成長に伴った血清脂質変化に関連する要因．日本臨床生理学会雑誌 26, 119-126 (1996)

岩崎秀哉，井奈波良一，藤田節也，吉田英世，山沢和子，大森正英，岩田弘敏：女子短期大学生の咬合力と体力ならびに踵骨骨密度．民族衛生 62, 3-12 (1996)

井奈波良一，正村一人，岩田弘敏：岐阜県飛騨地方の民有林業労働者における労働災害の発生状況．日本災害医学会会誌 44, 24-28 (1996)

鷺野嘉映，高田晴子，岩田弘敏：加速度脈波波形に及ぼすニトログリセリン負荷，寒冷負荷，及び起立負荷の影響．日本臨床生理学会雑誌 26, 145-153 (1996)

高田晴子，鷺野嘉映，相羽洋子，岩田弘敏：加速度脈波の4種類の波形型を特徴づける要因の検討．日本臨床生理学会雑誌 26, 245-252 (1996)

原著 (欧文・国内)

Mirbod SM, Tanbara K, Fujita S, Yoshida H, Nagata C, Komura Y, Inaba R, Iwata H: A survey on noise exposure level in an aluminum can production plant. *Ind Health* 31, 1-12 (1993)

Mirbod SM, Yoshida H, Inaba R, Iwata H: Exposure to segmental vibration and noise in orthopaedists. *Ind Health* 31, 155-164 (1993)

Ichimura S, Sasaki R, Takemura Y, Iwata H, Obata H, Okuda H, Imai F: the prognosis of idiopathic portal hypertension in Japan. *Internal Med* 32, 441-444 (1993)

Mirbod SM, Lanphere C, Fujita S, Komura Y, Inaba R, Iwata H: Noise in aerobic facilities. *Ind Health* 32, 49-55 (1994)

Miyashita K, Miyamoto K, Kuroda M, Takeda S, Iwata H: Hand-arm vibration exposure and the development of vibration syndrome. *Nagoya J Med Sci* 57(Supple), 43-48 (1994)

Mirbod SM, Inaba R, Iwata H: Operating hand-held vibrating tools and prevalence of white fingers. *Nagoya J Med Sci* 57(Supple), 173-183 (1994)

Nakamura Y, Oshiro H, Nose T, Hossaka K, Yamamoto M, Omura T, Iwata H, Nakamura K, Kasamatsu T, Hashimoto T, Yanagawa H: A case-control study of ossification of posterior longitudinal ligament of the spine in Japan. *J Epidemiol* 5, 29-33 (1995)

Sugiura H, Nishida H, Mori H, Maeno H, Inaba R, Iwata H: Effects of *Eleutherococcus senticosus* on the oxidative enzyme activity in mouse skeletal muscle. *J Traditional Med* 12, 61-65 (1995)

Mirbod SM, Fujita S, Miyashita K, Inaba R, Iwata H: Some aspects of occupational safety and health in green tea workers. *Ind Health* 33, 101-117 (1995)

Inaba R, Sugiura H, Iwata H: Immunomodulatory effects of Maharishi Amrit Kalash 4 and 5 in mice. *Jpn J Hyg* 50, 901-905 (1995)

原著 (欧文・国外)

Nagata C, Yoshida Y, Mirbod SM, Komura Y, Inaba R, Iwata H, Maeda M, Shikano Y, Ichiki S, Mori S: Cutaneous signs (Raynaud's phenomenon, sclerodactylia, and edema of the hands)

and hand-arm vibration exposure. *Int Arch Occup Environ Health* 64, 587-591 (1993)

Komura Y, Inaba R, Fujita S, Mirbod SM, Yoshida Y, Nagata C, Iwata H: Lesions dont se plaignent les professeurs daerobic. *Medecine des Arts*, 37-40 (1993)

Inaba R, Maeda M, Fujita S, Kasiki N, Komura Y, Nagata C, Yoshida H, Mirbod SM, Iwata H, Shikano Y, Ichiki Y, Mori S: Prevalence of Raynaud's phenomenon and specific clinical signs related to progressive systemic sclerosis in the general population of Japan. *Int J Dermatol* 32, 652 (1993)

Nakamura Y, Kobayashi M, Nakai M, Iwata H, Nose T, Yamamoto M, Omura T, Motegi K, Kurosawa Y, Hossaka K, Nakamura K, Hashimoto T, Yanagawa H: A case-control study of ulcerative colitis in Japan. *J Clin Gastroenterol* 18, 72-79 (1994)

Mirbod SM, Yoshida Y, Komura Y, Fujita S, Nagata C, Miyashita K, Inaba R, Iwata H: Prevalence of Raynaud's phenomenon in different groups of workers operating hand-held vibrating tool. *Int Arch Occup Environ Health* 66, 13-22 (1994)

Okuda H, Yamagata H, Obata H, Iwata H, Sasaki R, Imai F, Okudaira M, Ohbu M, Okuda K: Epidemiological and clinical features of Budd-Chiari syndrome in Japan. *Journal of Hepatology* 22, 1-9 (1995)

Mirbod SM, Yoshida H, Miyamoto K, Miyashita K, Inaba R, Iwata H: Subjective complaints in orthopedists and general surgeons. *Int Arch Occup Environ Health* 67, 179-186 (1995)

Nagata C, Fujita S, Iwata H, Kurosawa Y, Kobayashi K, Kobayashi M, Motegi K, Omura T, Yamamoto M, Nose T, Nakamura K, Hashimoto T, Nakamura Y, Yanagawa H: Systemic lupus erythematosus: A case-control epidemiologic study in Japan. *Int J Dermatol* 34, 333-337 (1995)

Takada H, Washino K, Harrell JS, Iwata H: Acceleration plethysmography to assess atherosclerosis - The association between the wave pattern and aging - . *Med Prog Technol*, In press

その他 (和文)

井奈波良一, 藤田節也, 永田知里, 吉田英世, 岩田弘敏, 前田 学, 森 俊二: 強皮症

の患者対照研究．厚生省特定疾患難病の疫学調査研究班平成 4 年度研究業績集，112-114 (1993)

岩田弘敏，吉田英世，藤田節也，佐々木隆一郎，市村尚二，木幡 裕，奥田宏明，今井 深，二川俊二：IPH の患者・対照研究について．厚生省特定疾患門脈血行異常症調査研究班平成 5 年度研究報告書，88 (1994)

岩田弘敏，吉田英世，藤田節也，佐々木隆一郎，市村尚二，木幡 裕，奥田宏明，今井 深，二川順二：IPH の患者・対照研究 - さらに症例数を加えて - ．厚生省特定疾患門脈血行異常症調査研究班平成 5 年度研究報告書，98-101 (1994)

今井 深，駒場正雄，鴨下宏海，空閑和人，戸島恭一郎，植松幹雄，戸田剛太郎，岩田弘敏，吉田英世，佐々木隆一郎，市村尚二，二川順二：特発性門脈圧亢進症調査集計報告．厚生省特定疾患門脈血行異常症調査研究班平成 5 年度研究報告書，83-87 (1994)

今井 深，駒場正雄，鴨下宏海，空閑和人，戸島恭一郎，植松幹雄，戸田剛太郎，岩田弘敏，吉田英世，佐々木隆一郎，市村尚二，二川順二：特発性門脈圧亢進症長期生存例の疫学的検討．厚生省特定疾患門脈血行異常症調査研究班平成 5 年度研究報告書，93-97 (1994)

岩田弘敏，吉田英世，藤田節也，佐々木隆一郎，市村尚二，木幡裕，奥田宏明，今井 深，二川俊二：IPH の患者・対照研究のまとめ．厚生省特定疾患門脈血行異常症調査研究班平成 6 年度研究報告書，95-97 (1995)

岩田弘敏：老人性痴呆発症の環境因子の探索と社会的支援のモデル地区設定に関する研究．平成 4 年度 - 6 年度文部省科学研究費補助金（一般研究 B）研究成果報告書，(1995)

その他 (欧文)

Inaba R, Mirbod SM, Komura Y, Yoshida H, Nagata C, Miyashita K, Fujita S, Iwata H: A vibration-dose limit for Japanese workers exposed to hand-arm vibration. Proceedings of 6th International Conference on Hand-Arm Vibration, 913-918 (1993)

公衆衛生学講座

著書 (和文)

清水弘之：悪性新生物，公衆衛生・予防医学，1 版，大野良之編，東京，南山堂，1996. 286-297

清水弘之：疫学，疾病予防，公衆衛生学，吉田克巳他編，2 版，東京，光生館，1993. 33-45, 55-61

川上憲人：精神保健と予防医学，公衆衛生・予防医学，1 版，大野良之編，東京，南山堂，1996. 502-518

川上憲人：精神保健，コンパクト公衆衛生学，千葉百子，中村 泉，川名はつ子編，東京，朝倉書店，1994. 99-103

総説 (和文)

川上憲人，荒記俊一：ビジネスマンの日常生活動態と特有な病態像. 臨床と薬物治療 12, 42-48 (1993)

清水弘之：前立腺がんの疫学的特徴. 病理と臨床 11, 654-656 (1993)

川上憲人，伊藤弘人：EAP と米国の産業精神保健. こころの臨床 12, 110-114 (1993)

荒記俊一，川上憲人：職場ストレスの健康管理・総説. 産業医学 35, 88-97 (1993)

川上憲人，清水弘之：わが国と欧米における白血病の発生動向の差異. Medicina 30, 584-588 (1993)

川上憲人，荒記俊一：Karasek 職業性ストレス尺度. 医学のあゆみ 166, 216 (1993)

川上憲人：職業別にみた生活習慣. 公衆衛生 58, 844-847 (1994)

川上憲人：Epidemiologic catchment area (ECA) project. 季刊 精神科診断学 5, 13-22 (1994)

清水弘之：肺癌の現状と発生要因に関する疫学的研究. 日本胸部疾患学会雑誌 32, 183-186

(1994)

井戸正代, 清水弘之: 造血障害の疫学. 日常診療と血液 4, 21-29 (1994)

清水弘之: 各領域癌における集団検診の限界 総論 がん集検の評価. Karkinos 7, 295-300 (1994)

川上憲人: Myrna M. Weissman & G.L. Klerkman (1997) Sex differences and the epidemiology of depression. Archives of general psychiatry 34, 98-111. 季刊 精神科診断学 5, (1994)

清水弘之: MDS (骨髄異形成症候群). 日常診断と血液 5, 41-45 (1995)

永田知里, 清水弘之: 閉経後女性に及ぼす食生活の影響. 産婦人科の実際 44, 515-519 (1995)

清水弘之: 日系米人の癌パターンと食生活. 栄養 - 評価と治療 12, 127-130 (1995)

荒記俊一, 村田勝敬, 横山和仁, 川上憲人: 環境因子による非顕性の神経・精神行動障害の評価方法と最近の知見. 日本衛生学雑誌 50, 713-729 (1995)

永田知里, 清水弘之: 乳癌の予防. Oncology & Chemotherapy 11, 184-187 (1995)

川上憲人: 職場のメンタルヘルス - 第 1 次, 第 2 次および第 3 次予防の方法 -. 産業医学ジャーナル 19, 20-24 (1996)

原著 (和文)

橋本修二, 福富和夫, 清水弘之, 佐々木隆一郎, 大野良之, 永井正規, 柳川 洋: 難病の全国疫学調査の方法上諸問題に関する検討. 公衆衛生研究 42, 219-228 (1993)

寺田純雄, 岩沢邦明, 清水靖仁, 川上憲人, 荒記俊一: 医学生と精神障害との社会的距離に関する研究. 公衆衛生 57, 735-738 (1993)

石井敏弘, 清水弘之, 西村周三, 梅村貞子: 入院・入院外別老人医療費と社会・経済, 医療供給, 福祉・保健事業との関連性. 日本公衆衛生雑誌 40, 159-169 (1993)

川上憲人, 荒記俊一, 村田勝敬, 原谷隆史, 岩田昇, 今中雄一: 職業性ストレスおよび運動が心身の健康に及ぼす相互作用の解析 - 精神症状および心疾患リスクファクターを指標として - . 体力研究 83, 45-52 (1993)

玉腰暁子, 大野良之, 清水弘之, 五十里明, 橋本修二, 坂田清美: 全国市町村における高齢者の社会活動に関する実態調査の実施状況. 公衆衛生 58, 738-742 (1994)

松下陽子, 川上憲人, 清水弘之, 松本弘子: がん検診の受診希望とそれに影響を及ぼす因子. 日本公衆衛生雑誌 41, 926-932 (1994)

清水弘之, 掛札啓資, 土井衛誉: がん検診への期待度とがん検診における偽陽性・偽陰性の許容限界. 消化器集団検診 32, 17-20 (1994)

川上憲人, 井戸正代, 清水弘之: 地域の高齢者における大うつ病エピソードの有病率および関連要因. 日本公衆衛生雑誌 42, 792-798 (1995)

玉腰暁子, 青木利恵, 大野良之, 橋本修二, 清水弘之, 五十里明, 坂田清美, 川村 孝, 若井健志: 高齢者における社会活動の実態. 日本公衆衛生誌 42, 888-896 (1995)

大脇淳子, 高塚直能, 川上憲人, 清水弘之: 24 時間思い出し法による各種栄養素摂取量の季節変動. 栄養学雑誌 54, 11-18 (1996)

原著 (欧文・国内)

Hu YH, Shimizu H, Kawakami N, Takatsuka N, Ido M, Hirose H: Increasing trends in mortality rate of aortic aneurysms in Japan 1955-90. Tohoku J Exp Med 171, 221-228 (1993)

Shimizu H, Nagata C, Tsuchiya E, Nakagawa K, Weng SY: Risk of lung cancer among cigarette smokers in relation to tumor location. Jpn J Cancer Res 85, 1196-1199 (1994)

Takatsuka N, Kawakami N, Ohwaki A, It Y, Matsushita Y, Ido M, Shimizu H: Frequent hard physical activity lowered serum β -carotene level in a population study of a rural city of Japan. Tohoku J Exp Med 176, 131-135 (1995)

Nagata C, Hara S, Shimizu H: Factors affecting response to mail questionnaire: research topics, questionnaire length, and non-response bias. J Epidemiol 5, 81-85 (1995)

Hu YH, Shimizu H, Takatsuka N, Ido M, Hirose H: Trends in prevalence rates of asymptomatic aortic aneurysms in Japan based on autopsy series. *J Epidemiol* 5, 159-163 (1995)

Shimizu H, Matsushita Y, Aoki K, Nomura T, Yoshida Y, Mizoguchi H: Prevalence of the myelodysplastic syndromes in Japan. *Int J Hematol* 61, 17-22 (1995)

Nagata C, Hu Y, Shimizu H: Effects of menstrual and reproductive factors on risk of breast cancer -Meta-analysis of the case-control studies in Japan. *Jpn J Cancer Res* 86, 910-915 (1995)

Ezoe S, Araki S, Ono Y, Kawakami N, Murata K: Effects of marital status and position on personality traits in engineers of a computer manufacturing plant. *Ind Health* 33, 77-82 (1995)

Kawakami N, Araki S, Ohtsu H, Hatashi T, Matsumoto T, Yokoyama K: Effects of mood states, smoking and urinary catecholamine excretion on hemoglobin A_{1c} in male Japanese workers. *Ind Health* 33, 153-162 (1995)

Takatsuka N, Kawakami N, Kawai K, Okamoto Y, Ishiwata K, Shimizu H: Validation of recalled food intake in the past in a Japanese population. *J Epidemiol* 6, 9-13 (1996)

原著 (欧文・国外)

Nagaya T, Okuno M: No effects of smoking or drinking habits on salivary amylase. *Toxicol Lett* 66, 257-261 (1993)

Nagaya T, Ishikawa N, Hata H, Otobe T: Subclinical and reversible hepatic effects of occupational exposure to trichloroethylene. *Int Arch Occup Environ* 64, 561-563

Nagaya T, Takahashi A, Yoshida I, Usui Y, Okamoto Y: Urinary calcium and renal function in the Japanese female population. *Clin Physiol Biochem* 10, 24-27 (1993)

Kawakami N, Araki S, Haratani T, Henmi T: Relations of work stress to alcohol use and drinking problems in male and female employees of a computer factory in Japan. *Environ Res* 62, 314-324 (1993)

Nagura E, Hamajima N, Kimura K: Analysis of long-term survivors of acute leukemia in adults. *Cancer Chemother* 8, 236-243 (1993)

Ezoe S, Ono S, Kawakami N, Murata K: Work stress in Japanese computer engineers: effects of computer work or bioeducational factors? . *Environ Res* 63, 148-156 (1993)

Takashi M, Nakano Y, Sakata T, Miyake K, Hamajima N: Multivariate evaluation of prognostic determinants for renal cell carcinoma. *Urol Int* 50, 6-12 (1993)

Ezoe S, Araki S, Ono Y, Kawakami N, Murata K: Assessment of personality traits and psychiatric symptoms in workers in a computer manufacturing plant in Japan. *Am J Ind Med* 25, 187-196 (1994)

Nagaya T, Ishikawa N, Hata H, Takahashi A, Yoshida I, Okamoto Y: Early renal effects of occupational exposure to low-level hexavalent chromium. *Arch Toxicol* 68, 322-324 (1994)

Nagaya T, Nakaya K, Takahashi A, Yoshida I, Okamoto Y: Relationships between serum saturated fatty acids and serum total cholesterol and HDL-cholesterol in humans. *Ann Clin Biochem* 31, 240-244 (1994)

Jin HQ, Araki S, Wu XK, Zhang YW, Kawakami N, Duan LL: The relationship between certain climate factors and traffic accidents -An epidemiological analysis in China. *Chin J Epidemiol* 15, 9-16 (1994)

Mushiake K, Motoyoshi F, Kondo N, Shimizu H, Orii T: Long-term follow up of patients with common variable immunodeficiency treated with intravenous immunoglobulin: reevaluation of intravenous immunoglobulin replacement therapy. *Biotherapy* 7, 101-107 (1994)

Koo LC, Matsushita H, Ho JH-C, Wong MC, Shimizu H, Mori T, Matsuki H, Tominaga S: Carcinogens in the indoor air of Hong Kong homes -Levels, sources, and ventilation effects on 7 polynuclear aromatic hydrocarbons. *Environ Technol* 15, 401-418 (1994)

Iwata N, Roberts CR, Kawakami N: Japan-U.S. comparison of responses to depression scale items among adult workers. *Psychiatry Res* 58, 237-245 (1995)

Kawakami N, Robers RE, Lee ES, Araki S: Changes in rates of depressive symptoms in a

Japanese working population -Life-table analysis from a 4-year follow-up study. *Psychol Med* 25, 1181-1190 (1995)

Riboli E, Haley NJ, Tredaniel J, Saracci R, Preston-Martin S, Trichopoulos D, Becher H, Burch JD, Fontham ETH, Gao YT, Jindal SK, Koo LC, Marchand LL, Segnan N, Shimizu H, Stanta G, Wu-Williams AH, Zatonski W: Do the nonsmoking daughters of smokers tend to marry smokers? Implications for epidemiological research on environmental tobacco smoke - The IARC collaborative study. *Cancer Epidemiology Biomarkers & Prevention* 4, 821-824 (1995)

Hayashi T, Kawakami N, Kondo N, Agata H, Fukutomi O, Shimizu H, Orii T: Prevalence of and risk factors for allergic diseases -Comparison of two cities in Japan. *Annals of Allergy, Asthma & Immunology* 75, 525-529 (1995)

Kawakami N, Roberts CR, Haratani T: Job stress characteristics of computer work in Japan. *Symbiosis of Human and Artifact*, 705-710 (1995)

Yoshida H, Nagaya T, Hayashi T, Takahashi H, Kawai M: Milk consumption decreases activity of human serum alkaline phosphatase -A cross-sectional study. *Metabolism* 44, 1190-1193 (1995)

Kawakami N, Kobayashi F, Araki S, Haratani T, Furui H: Assessment of job stress dimensions based on the Job Demands-Control model of employees of telecommunication and electric power companies in Japan -Reliability and validity of the Japanese version of Job Content Questionnaire. *Int J Behav Med* 2, 358-375 (1995)

Aoki R, Ohno Y, Tamakoshi A, Kawakami N, Nagai M, Hashimoto S, Ikari A, Shimizu H, Sakata K, Kawamura T, Wakai K, Senda M: Life style determinants for social activity levels among the Japanese elderly. *Arch Gerontol Geriatr* 22, 261-269 (1996)

Simizu H, Nagata C, Komatsu S, Morita N, Higashiiwai H, Sugahara N, Hisamichi S: Decreased serum retinol levels in women with cervical dysplasia. *Br J Cancer* 73, 1600-1604 (1996)

Kawakami N, Araki S, Kawashima M, Masumoto T, Hayashi T: A controlled study on effects of a work environment-oriented stress reduction on depressive symptoms in Japanese blue-

collar workers. Scand J Work Environ Health, in press

Kawakami N, Iwata N, Tanigawa T, Oga H, Araki S, Fujihara S, Kitamura T: Prevalence of mood and anxiety disorders in a working population in Japan. J Occup Environ Med 38, 899-905 (1996)

Hu YH, Nagata C, Shimizu H, Kaneda N, Kashiki T: Association of body mass index, physical activity and reproductive histories with breast cancer: a case-control study in Gifu, Japan. Breast Cancer Res Treat, in press

Hu YH, Kuroishi T, Matsushita Y, Nagata C, Shimizu H: Birth season and breast cancer risk in Japan. Breast Cancer Res Treat 39, 315-319 (1996)

その他

川上憲人：トピックス - 国際産業保健学会および国際行動医学会より. 公衆衛生 59, 117-120 (1995)

川上憲人：医学講座・勤労者の気分・不安障害, ラジオたんぱ (1995.2.23)

法医学講座

総説 (和文)

大谷 勲: 肺に関わる二, 三の知見について - 法医剖検例を中心として - . 日法医誌 48, 379-394 (1994)

永井 淳, 大谷 勲: サル類の遺伝標識 . Viva Origino 22, 221-256 (1994)

武内康雄: 心筋症の病理 . 法医病理 1, 106-118 (1995)

原著 (和文)

永井 淳, 山田定男, 武内康雄, 大谷 勲: ヒト毛髪および各種動物毛の二次元電気泳動パターン . 犯罪誌 59, 49-54 (1993)

武内康雄, 永井 淳, 松浦一也, 大谷 勲: 交通事故に遭遇後 13 日目に脾再破裂により突然死した 1 例 . 法医学の実際と研究 36, 211-217 (1993)

永井 淳, 山田定男, 武内康雄, 大谷 勲: 岐阜県在住の日本人における MCT118 (D1S80) 座位の interallele について . DNA 多型 2, 82-86 (1994)

高山知周, 山田定男, 平田敬二, 大谷 勲: 指紋検出処理後の切手からのだ液アミラーゼおよび血液型検査について . 法医学の実際と研究 37, 93-96 (1994)

武内康雄, 松浦一也, 永井 淳, 大谷 勲: トルエンの飲用が疑われた急性中毒死の 1 例 . 法医学の実際と研究 37, 257-263 (1994)

高山知周, 山田定男, 永井 淳, 渡辺芳久, 平田敬二, 武内康雄, 大谷 勲: 等電点電気泳動における血液と精液との PGM1 型バンドの移動度の差異について . 科警研報告 48, 58-61 (1995)

永井 淳, 渡辺芳久, 山田定男, 大谷 勲: vWF, F13B および TH01 の日本人における出現頻度 . DNA 多型 3, 133-136 (1995)

渡辺芳久, 高山知周, 平田敬二, 山田定男, 永井 淳, 武内康雄, 大谷 勲: 混合血痕からの血液型および DNA 型 (MCT118, HLADQ) の検出に関する検討 . 法医学の実際と研究 38, 37-41 (1995)

高山知周，山田定男，永井 淳，渡辺芳久，平田敬二，武内康雄，大谷 勲：PAGE-IEF による型判定に及ぼす各種タンパク質の影響について．法医学の実際と研究 38，111-114 (1995)

武内康雄，永井 淳，佐藤元一，大谷 勲：体外式心臓マッサージにより肝破裂をきたした 2 例．法医学の実際と研究 38，315 - 319 (1995)

松浦一也：モルモット肝臓のカルボニル還元酵素の組織内局在および薬物ケトン類に対する基質特異性について．岐阜大学医学部紀要 43，22-30 (1995)

平松 哲，和田栄二，西本虎正，大谷 勲：DXA 法による腰椎骨塩定量に関する研究．岐阜大学医学部紀要 43，440-449 (1995)

原著 (欧文・国内)

Oshita Y, Itokazu M, Matsunaga T, Takami T, Ohya I: Histochemical demonstration of hyaluronic acid in human meniscus using hyaluronic acid binding protein. Japanese Journal of Rheumatism and Joint Surgery 14, 123-130 (1995)

Takayama T, Yamada S, Watanabe Y, Hirata K, Nagai A, Bunai Y, Ohya I: Isoelectric focusing differences in the mobility of blood and semen PGM1 bands - the role of hemoglobin as a cause - . Jpn J Legal Med 50, in press

原著 (欧文・国外)

Nagai A, Yamada S, Bunai Y, Ohya, I: Analysis of the VNTR locus D1S80 in a Japanese population. Int J Legal Med 106, 268-270 (1994)

Matsuura K, Bunai Y, Ohya I, Hara A, Nakanishi M, Sawada H: Ultrastructural localization of carbonyl reductase in mouse lung. Histochem J 26, 311-316 (1994)

Sato K, Nakanishi M, Deyashiki Y, Hara A, Matsuura K, Ohya I: Purification and characterization of dimeric dihydrodiol dehydrogenase from dog liver. J Biochem 116, 711-717 (1994)

Matsuura K, Deyashiki Y, Bunai Y, Ohya I, Hara A: Aldose reductase is a major reductase for isocaproaldehyde, a product of side-chain cleavage of cholesterol, in human and animal adrenal glands. Arch Biochem Biophys 328, 265-271 (1996)

Matsuura K, Tamada Y, Deyashiki Y, Miyabe Y, Nakanishi M, Ohya I, Hara A: Activation of human liver 3 β -hydroxysteroid dehydrogenase by sulphobromophthalein. *Biochem J* 313, 179-184 (1996)

Nagai A, Yamada S, Watanabe Y, Bunai Y, Ohya I: Analysis of the STR loci HUMF13A01, HUMBFXIII, HUMLIPOL, HUMTH01, HUMTPOX and HUMVWFA31 in a Japanese population. *Int J Legal Med* 109, 34-36 (1996)

寄生虫学講座

著書 (和文)

高橋優三：横川吸虫症，今日の治療方針，医学書院，東京，日野原重明，阿部正和編，1993. 176-177

伊藤 亮：条虫に対するエフェクター機構，NEW 寄生虫病学，小島莊明，東京，南江堂，1993. 108-113

粕谷志郎：アニサキス症，今日の治療指針，1993 年版. 日野原重明，阿部正和編，東京，医学書院，1993. 170-171

高橋優三：肺吸虫症，今日の治療方針，医学書院，東京，日野原重明，阿部正和編，170-171

伊藤 亮：エキノкокクス症（多包虫症）：血清診断法の現状，BMSA 国際フォーラム Proceedings，バイオメディカルサイエンス研究会，1994. 83-89

粕谷志郎：横川吸虫症，今日の治療指針，1994 年版. 日野原重明，阿部正和監修，東京，医学書院，1994. 170-171

粕谷志郎：タテツツガムシとフトゲツツガムシに媒介される感染の二重構造 - 岐阜県のツツガ虫病を中心に - ，ダニと疾患のインターフェイス，YUKI 書房，1994. 104-109

粕谷志郎：寄生虫，免疫実験操作法，右田俊介編，南江堂，1995. 208-210

荒木恒治，高橋優三：トキソプラズマ感染症，周産期の感染と免疫，一条元彦，矢田純一編，東京，南江堂，1995. 153-157

高橋優三：肺寄生虫にはどのようなものがありますか？，呼吸器感染症 Q&A，那須 勝，泉 孝英編，東京，医薬ジャーナル社，1995. 148-149

高橋優三：旋毛虫症，標準医動物学，第 2 版 石井 明，鎮西康雄，太田伸生編，医学書院，東京，印刷中

高橋優三：エキノコックス症，今日の治療方針，医学書院，東京，日野原重明，阿部正和編，印刷中

伊藤 亮：リケッチア症，新内科学教科書，黒川 清，齊藤英彦，矢崎義雄編．京都，金芳堂，印刷中

著書 (欧文)

Ito A: Serodiagnosis of alveolar and cystic echinococcosis by Em18 and Em16 Western blot analysis, Alveolar Echinococcosis, (ed Uchino J, Sato N). Fuji-Shoin, Sapporo, 1996. 139-146

総説 (和文)

高橋優三：医学研究における組織化学．岐阜大学医学部紀要 41, 904-909 (1993)

総説 (欧文・国外)

Ito A: Advances in serodiagnosis of alveolar echinococcosis-Approach for production of recombinant eptiopes. Parasitic Zoonoses in Asian-Pacific Regions 1994, (ed Tsuji M, Chen, E). 49-57 (1994)

Fan PC, Ito A: Prophylactic therapy of praziquantel against the developmental stages of Hymenolepis parasites in rats and mice. Parasitic Zoonoses in Asian-Pacific Regions 1994, (ed Tsuji M, Chen E). 111-116 (1994)

Ito A: Serodiagnosis of alveolar echinococcosis-approach for production of recombinant Em18. Proceedings of the 7th Asian-Pacific Congress of Clinical Biochemistry. in press

Ito A: Basic and applied immunology in cestode infections: from Hymenolepis to Taenia and Echinococcus. International Journal for Parasitology 26, in press

Ito A: Immunology and immunodiagnosis in cestode infections: from Hymenolepis to Taenia and Echinococcus. Parasitic Zoonoses in Asian-Pacific Regions 1996, (ed Chen, E, Yamaguchi T), OCAPCPZ, Taipei, 66-73 (1996)

Ito A: Serodiagnosis of alveolar echinococcosis: detection of antibody against Em18 in patients and rodents. Southesast Asian Journal of Tropical Medicine and Public Health 26, in press

Ortega-Pierres M G, Yopez-Mulia L, Homan W, Gamble, H R, Lim P, Takahashi Y, Wasson D L and Appleton J A: Workshop on a detailed characterization of *Trichinella spiralis* Antigens: A platform for future studies on antigens and antibodies to this parasite. *Parasite Immunol* 18, 273-284 (1996)

原著 (和文・国内)

粕谷志郎, 今井直幸, 岡本秀樹, 今峰 徹, 荒木国興: 気胸にて発症したウエステルマン肺吸虫症の 4 例. *呼吸* 14, 764-769 (1995)

粕谷志郎: 岐阜県における恙虫病の研究 第 6 報 患者発生数と気象要素との関連. *感染症学雑誌* 69, 1110-1117 (1995)

後藤千寿, 粕谷志郎, 高橋優三: シソ (*Perilla frutescens*) とショウガ (*Zingiber officinale*) 成分の抗幼線虫作用について. *岐阜大学医学部紀要* 43, 498-508 (1995)

長野 功, 高橋優三: 便宜的なプライマー (arbitrary primer)を用いた PCR 法によるゲノム分析の基礎的な検討. *寄生虫学雑誌* 44, 238-243 (1995)

伊藤 亮, 伊藤 誠, 堀井俊宏, 岡本宗裕: エキノコックス症と囊虫症とに関する血清学的鑑別診断法の現状と問題点. *臨床寄生虫学* 6, 28-30 (1995)

伊藤 亮, 大澤陽介, 伊藤 誠, 堀井俊宏, 岡本宗裕, 王 小恨, 劉 約翰: 中国四川省住民 (多包虫症, 単包虫症患者) の抗体応答 - Em18, Em16 エピトープに対する IgG, IgG サブクラスの解析. *臨床寄生虫学* 5, 199-201 (1994)

伊藤 亮, Wilson JF, Schantz PM: 多包虫抗原に対する抗体応答の有無は活性病巣を有する多包虫症患者と癒痕病巣を有す患者との鑑別に役立つか?. *臨床寄生虫学* 5, 202-203 (1994)

伊藤 亮, 王 小恨, 劉 約翰: 多包虫抗原 (Em18, Em16) に対する抗体応答に基づく多包虫症の鑑別診断の可能性について - 中国人血清を用いたブラインドテスト成績 - . *臨床寄生虫学* 4, 134-135 (1993)

原著 (欧文・国内)

Uno T, Mizuno N, Suzuki H, Takahashi Y and Araki T: Effects of pepsin-HCL digestion on the infectivity of *Trichinella spiralis* muscle larvae. *Jpn J Parasitol* 42, 128 (1993)

Takahashi Y, Okaichi K, and Ohnishi Y: Occurrence of variants of repeated DNA Sequences in *Trichinella spiralis*. *Jpn J Parasitol* 42, 345-349 (1993)

Takahashi Y, Nagano I, Wu Z, Fukumoto S, Saito S, Yamaguchi T: Further justification of arbitrarily primed polymerase chain reaction (AP-PCR) for use of genomic analysis of *Trechinella*. *Jpn J Parasitol* 44, 133-137 (1995)

原著 (欧文・国外)

Takahashi Y, Homan W L: Subcellular localization of antigens recognized by monoclonal antibodies against *Trechinella spiralis* larvae group 1 (TSL-1) antigens. Campbell WC, Pozio E, Bruschi F, ed. *Trechinellosis* 279-282 (1993)

Otsuka, S, Kasuya, S, Hirose, M: Fatal transfusion-associated graft-vs-host disease. *Aust NZ J Med* 23, 308-309 (1993)

Asano K, Ito A, Okamoto K: The role of OX22- helper T cells in protective immunity to reinfection with *Taenia taeniformis* in rats. *Parasite Immunol* 15, 663-668 (1993)

Ito A, Schantz PM: Differential serodiagnosis of active alveolar hydatid disease (AHD) from inactive AHD based on antibody response against one specific epitope Em18. *International Archives of the Hydatidosis* 31, 261-263 (1993)

Ito A, Wang X, Liu Y: Differential serodiagnosis of alveolar and cystic hydatid disease in the People's Republic of China. *Am J Trop Med Hyg* 49, 208-213 (1993)

Ito A, Hashimoto A: Vaccination with hatched but non-activated, non-viable oncospheres of *Taenia taeniformis* in rats. *J Helminthol* 67, 165-168 (1993)

Ito A, Nakao M, Kutsumi H, Lightowlers MW, Itoh M, Sato S: Serodiagnosis of alveolar hydatid disease by Western blotting. *Trans Roy Soc Trop Med Hyg* 87, 170-172 (1993)

Takahashi Y, Gota C, Kita K: Ultrastructural study of *Trichinella spiralis* with emphasis on adult male reproductive organs. *J Helminthol* 68, 353-358 (1994)

Takahashi Y, Mizuno N, Araki T, Okuda H: Immunocytochemical localization of antigens in

adult worms of *Trichinella spiralis* recognized by Fischer rats. *Parasitol Res* 80, 291-296 (1994)

Ito A, Nakao M, Ito M, Matsuzaki T, Kamiya M, Kutsumi H: Antibody responses in the wild vole, *Clethrionomys rufocanus bedfordiae*, naturally infected with *Echinococcus multilocularis* by Western blotting. *J Helminthol* 68, 267-269 (1994)

Negita T, Ito A: In vitro hatching of oncospheres of *Taenia taeniaeformis* using eggs isolated from fresh, frozen, formalin-fixed and ethanol-fixed segments. *J Helminthol* 68, 271-272 (1994)

Ito A, Asano K, Okamoto K: Protective antibodies against *Taenia taeniaeformis* in rats infected with eggs or injected with non-viable oncospheres or recombinant antigens of oncospheres. *Parasite Immunol* 16, 463-468 (1994)

Asano K, Ito A, Ikeda K, Okamoto K: Adoptive transfer of protection to *Taenia taeniaeformis* infection in rats with immune spleen cells. *Internat J Parasitol* 24, 413-415 (1994)

Ito A, Fan PC, Chung WC, Suzuki M: Cross protection against *Taenia taeniaeformis* in rats vaccinated with non-viable oncospheres of Asian *Taenia* or *T. saginata*. *J Helminthol* 68, 83-85 (1994)

Yamashita T, Kasuya S, Noda N: Transmission of *Rickettsia tsutsugamushi* strains among humans, wild rodents, and trombiculid mites in an area of Japan in which tsutsugamushi disease is newly endemic. *J Clin Microbiol* 32, 2780-2785 (1994)

Takahashi Y, Goto C, Kita K: Ultrastructural study of *Trichinella spiralis* with emphasis on female reproductive organs. *J Helminthol* 69, 247-252 (1995)

Fujino T, Takahashi Y, and Fried B: A comparison of *Echinostoma trivolvis* and *E. caproni* using random amplified polymorphic DNA analysis. *J Helminthol* 69, 263-264 (1995)

Xu M, Ito A: Diagnosis and classification of hepatic echinococcosis by ultrasonography. *Southeast Asian Journal of Tropical Medicine and Public Health* 26, 588-590 (1995)

Ito A, Osawa Y, Nakao M, Horii T, Okamoto M, Itoh M, Yamashita T: Em18 and Em16, new serological marker epitopes for alveolar echinococcosis in Western blot analysis, are the only two epitopes recognized by commercially available weak positive (cut off) sera for Em2plus-ELISA. *J Helminthology* 69, 369-371 (1995)

Wen H, Craig PS, Ito A, Vuitton DA, Bressan-hadni S, Allan JC, Rogan MT, Paollilo E, Shambesh M: Immunoblot evaluation of IgG and IgG-subclass antibody responses for immunodiagnosis of human alveolar echinococcosis. *Ann Trop Med Parasitol* 89, 485-495 (1995)

Okamoto M, Ito A, Kurosawa T, Oku Y, Kamiya M, Agatsuma T: Intraspecific variation of isoenzymes in *Taenia taeniformis*. *Internat J Parasitol* 25, 221-228 (1995)

Fan PC, Ito A: The minimum effective dose of praziquantel in treatment of *Hymenolepis diminuta* in rats. *J Helminthol* 69, 91-92 (1995)

Takemoto Y, Negita T, Ohnishi K, Suzuki M, Ito A: A simple method for collecting eggs of taeniid cestodes from fresh, frozen or ethanol-fixed segments. *Internat J Parasitol* 25, 537-538 (1995)

Ito A, Schantz PM, Wilson JF: Em18, a new serodiagnostic marker for differentiation of active and inactive cases of alveolar hydatid disease. *Am J Trop Med Hyg* 52, 41-44 (1995)

Ghosh NK, Sinha Babu SP, Sukul NC, Ito A: Cestocidal activity of *Acacia auriculiformis*. *J Helminthol* 70, 171-172 (1996)

Yoshikawa H, Nagano I, Yap EH, Singh M, and Takahashi Y: DNA Polymorphism revealed by arbitrary primers polymerase chain reaction among *Blastocystis* strains isolated from humans, a chicken, and a reptile. *J Euk Microbiol* 43, 127-130 (1996)

Wu Z, Takahashi Y: Primer selection for arbitrarily primed polymerase chain reaction to reveal fingerprint of pathogen. *Parasitic Zoonoses in Asian-Pacific Regions 1996*, (ed Chen, E, Yamaguchi T,) OCAPCPZ, Taipei, In press

Takahashi Y, Homan W, Lim PL: Ultrastructural localization of the phosphorylcholine-associated antigen in *Trechinella spiralis*. *J Parasitol* 79, 604-609 (1993)

Wu Z, Nagano I, Xu D, Takahashi Y: PCR primer to detect parasite DNA. Tenth Japan-China Joint Seminar on Parasitic Diseases 43-45 (1996)

Ito A, Chung WC, Chen CC, Ito M, Nomura T, Okamoto M, Fan PC: Human *Taenia* eggs develop into cysticerci in mice with severe combined immunodeficiency (scid). *Parasitol*, In press

Ito A, Ma L, Itoh M, Cho S, Kong Y, Kang S, Horii T, Pang X, Okamoto M, Yamashita T, Lightowers MW, Wang X, Liu Y- Immunodiagnosis of alveolar echinococcosis by ELISA using partially purified Em18/16 enriched fraction. *J Clin Microbiol*, In press

Nakaya K, Nakao M, Ito A: *Echinococcus multilocularis*: mouse strain difference in production of protoscoleces. *J Helminthol*, In press

Ito A, Okamoto M, Kariwa H, Ishiguro T, Hashimoto A, Nakao M: Antibody responses against *Echinococcus multilocularis* antigens in Norway rats naturally infected with this parasite. *J Helminthol*, In press

Ma K, Ito A, Liu Y, Wang X: Evaluation of the diagnostic value of 18 / 16 kDa antigens in *Echinococcus multilocularis* by Western blotting. *Chinese Journal of Parasitology Parasite Diseases*, In press

Ito A, Wen H, Craig PS, Nakao M, Horii T, Okamoto M, Itoh M, Osawa Y, Wang X, Liu Y: Antibody responses against Em18 and Em16 serodiagnostic markers for alveolar and cystic echinococcosis patients from northwest China. *Southeast Asian Journal of Tropical Medicine and Public Health* 27, In press

Nagano I, Wu Z, Nakayama M, and Takahashi Y: A simple method to design PCR primer to detect genomic DNA parasites and its application to *Dirofilaria immitis*. *Mol Cell Probes*, In press

Fujino T, Wu Z, Nagano I, Takahashi Y, and Fried B: Specific primers for the detection of genomic DNA of *Echinostoma trivoluis* and *E. caproni* (Trematoda: Echinostomatidae). *Mol Cell Probes*, In press

その他

高橋優三：最近の寄生虫疾患診断法：岐阜保険医新聞， 184号, 1993

粕谷志郎：長良川下流域のユスリカ発生調査，長良川下流域生物相調査報告書，長良川下流域生物相調査団, 1994. 136-143

伊藤 亮：腸管寄生条虫感染における虫卵の免疫生物学的役割の再検討（条虫感染の免疫学的研究），金原一郎記念医学医療振興財団助成金研究報告集第 1 集, 1995. 13-14

伊藤 亮：遺伝子工学に基づく，新しいエキノкокクス（多包虫）症の免疫学的診断法の研究. 大山健康財団年報 No.20, 1995. 5-8

内科学第一講座

著書 (和文)

村瀬全彦，武藤泰敏：主要症候よりみた救急処置 - 20. 肝性昏睡，最新内科学大系第 5 巻 標準救急医療，井村裕夫他編，東京，中山書店，1993．196-201

森脇久隆，加藤昌彦，三輪佳行，武藤泰敏：アミノ酸，アンモニア，消化器診療プラクティス 1 肝障害の診断的アプローチ，東京，文光堂，1993．154-155

大西弘生，武藤泰敏：劇症肝炎の発症機序，肝の生化学 - 箱根シンポジウム 5，肝不全，胆汁分泌，磁気共鳴分光法，箱根シンポジウム記録刊行会編，東京，中外医学社，1993．2-11

杉原潤一：急性肝不全，平成 4 年度病栄協ガイドブック「肝臓のすべて」，1993．16-23

足立定司，植松孝弘，福富 尉，山田鉄也，森脇久隆，武藤泰敏：消化器領域 (肝，脾) における超音波検査，腹部超音波検査 PART - 実地臨床での活用をめざして - ，岐阜市内科会編，1993．6-25

武藤泰敏，村瀬全彦：肝不全，Annual Review 消化器，1994，岡 博他編，東京，中外医学社，1994．138-145

富田栄一，原瀬一郎，白鳥義宗，白子順子，村上啓雄，加藤則廣，杉原潤一，斎藤公志郎，森脇久隆，武藤泰敏，山田鉄也：劇症肝炎における脾病変 - 血中脾酵素の変動を中心として - ，腹部臓器相関 - 肝，脾相関について - ，腹部臓器相関研究会編，東京，医療科学社，1994．3-11

森脇久隆，武藤泰敏：癌とビタミン I，ビタミン A 誘導体の癌への応用，図説 臨床ビタミン学，折茂 肇，稲田雅美編，東京，科学評論社，1994．189-199

大西弘生，村瀬全彦，武藤泰敏：肝性昏睡，内科治療ガイド '94，和田攻編，東京，文光堂，1994．658-662

大西弘生，武藤泰敏：特殊アミノ酸製剤の種類と使い方，消化器診療プラクティス 8．肝硬変と肝癌，小林健一編，東京，文光堂，1994．79-83

大西弘生，武藤泰敏：経口特殊組成アミノ酸製剤は栄養状態を改善するか，FOCUS 消化器 1 肝，胆，膵疾患の薬物療法，総編集 鎌田武信，専門編集 小林健一，東京，中山書店，1994．6-16

山田鉄也，武藤泰敏：劇症肝炎，図説病態内科講座「肝，胆，膵」，戸田剛太郎編，東京，メディカルビュー社，1994．88-99

山田鉄也，杉原潤一，森脇久隆，武藤泰敏：遅発性肝不全 (LOHF)，新臨床肝臓病学 - 症例による生検，電検，画像，治療 - ，市田文弘，市田隆文編，東京，日本メディカルセンター，1994．102-110

武藤泰敏，三輪佳行，加藤昌彦，森脇久隆：肝不全の栄養管理，臨床栄養の進歩，1994．116-133

武藤泰敏，奥野正隆，森脇久隆：ビタミン A，カロテノイド，最新内科学大系 6．代謝疾患 1，井村裕夫，尾形悦郎，高久史磨，垂井清一郎編，1995，175-184

武藤泰敏：アンモニア代謝異常と疾患 - 肝不全，医科アンモニア学，渡辺，佐伯編，東京，メディカルビュー社，1995．204-215

武藤泰敏：肝癌の再発 - レチノイド，消化器病セミナー 60．ウイルス肝炎と肝細胞癌 - 治療法の進歩と今後の展開，小俣政男編，東京，へるす出版，1995．204-215

森脇久隆，大西弘生，武藤泰敏：劇症化の機序，肝炎 - C 型肝炎の新展開，3 版．鈴木 宏編，南江堂，1995．261-264

森脇久隆，武藤泰敏：劇症肝炎，本邦における肝疾患の展望，国際医書出版，1995．51-61

森脇久隆，加藤昌彦，村上啓雄，杉原潤一，武藤泰敏：肝疾患と肝不全，ベッドサイドの水電解質管理と腎不全の診療，和田 攻，大内尉義，平田恭信編，メディカル葵出版，1995，63-68

森脇久隆：急性ウイルス肝炎，疾患別最新処方，2 版．矢崎義雄，戸田剛太郎監修，メディカルビュー社，1995．326-327

森脇久隆：劇症肝炎，疾患別最新処方，2 版．矢崎義雄，戸田剛太郎監修，メディカルビュー社，1995，328-329

森脇久隆：内科領域における臨床栄養師への期待と役割，臨床栄養師，細谷憲政，中村丁次編，第一出版，1995．16-20

森脇久隆，奥野正隆：ビタミン A (レチノイド，カロテノイドを含む)，臨床検査ガイド '95，大久保昭行編，文光堂，1995．279-280

大西弘生，村瀬全彦，武藤泰敏：肝性昏睡，内科治療ガイド '95，和田 攻，大久保昭行，永田直一，矢崎義雄編，東京，文光堂，1995．666-670

奥野正隆，森脇久隆，今井章子，沼口 諭，武藤泰敏：障害肝における細胞外マトリックス産生に及ぼすレチノイドの影響，肝類洞壁細胞研究の進歩 第 7 巻，谷川久一編，国際医書出版，東京，1995．97-102

村上啓雄，杉原潤一，大西弘生，石木佳英，内藤智雄，森脇久隆，武藤泰敏：C 型肝炎ウイルスによる劇症肝炎の診断と治療，カレント内科 No.1 C 型肝炎，林 直諒，金山正明編，東京，金原出版，1994．84-94

著書 (欧文，国内)

Muto Y, Ohnishi H, Nagaki M, Ando K: Pathobiology of fulminant hepatitis. International Symposium on Viral Hepatitis and Liver Disease. Viral Hepatitis and Liver Disease, (ed Nishioka K, et al.). Springer-Verlag, Tokyo, 1993. 200-203

Fowler P, Nayersina R, Missale G, Bertoletti A, Penna A, Ando K, Cerny A, Fiaccadori F, Ferrari C, Chisari FV: The role of the cytotoxic T lymphocyte response in hepatitis B virus immunobiology and pathogenesis. International Symposium on Viral Hepatitis and Liver Disease. Viral Hepatitis and Liver Disease, (ed Nishioka K, et al.). Springer-Verlag, Tokyo, 1993. 173-177

総説 (和文)

武藤泰敏，森脇久隆，杉原潤一，越野陽介：劇症肝炎．日本臨床 50 (増刊「本邦臨床統計集 (上)」)，634-648 (1992)

武藤泰敏：重症肝炎の臨床． 岐阜内科医会誌 6， 81-84 (1992)

武藤泰敏：急性肝不全をめぐる最近の進歩． 臨床消化器内科 8， 319-321 (1993)

大西弘生， 酒井 勉， 武藤泰敏：急性肝不全の発症機序をめぐるトピックス (1) 肝炎ウイルスの重感染． 臨床消化器内科 8， 323-329 (1993)

武藤泰敏：レチノイドの発癌予防に関する研究． 日本栄養， 食糧学会誌 46， 1-8 (1993)

武藤泰敏：臨床医学の最近の進歩 - 肝臓病学． 日本薬剤師会雑誌 45， 3， 281-286 (1993)

武藤泰敏：臨床医学の展望 - 肝臓病学． 日本医事新報 3594， 3-15 (1993)

武藤泰敏， 杉原潤一， 村上啓雄， 石木佳英， 内藤智雄：劇症肝炎に対する肝移植の適応． 肝胆膵 26， 587-595 (1993)

森脇久隆， 村瀬全彦， 杉原潤一， 武藤泰敏：肝性脳症． 総合臨床 42， 913-918 (1993)

大西弘生：C 型慢性肝炎の治療． 岐阜県医師会医学雑誌 6， 73-85 (1993)

四童子好廣， 武藤泰敏：脂溶性ビタミン受容体の分子生物学． 日本臨床 51， 842-845 (1993)

四童子好廣， 西脇理英：カロチン類 (カロテノイド)． 栄養， 食生活情報 6， 33-40 (1993)

奥野正隆， 沼口沙登史， 森脇久隆， 武藤泰敏：細胞内結合蛋白の分子生物学． 日本臨床 51， 879-885 (1993)

奥野正隆：研究システムで日本が学ぶべきこと． Laboratory and Clinical Practice 11， 149-151 (1993)

奥野正隆， 沼口沙登史， 森脇久隆， 武藤泰敏：ビタミンとがん - 発がんの危機群に対する予防手段． からだの科学 174， 85-92 (1993)

武藤泰敏：劇症肝炎． 日内会誌 83， 441-445 (1994)

武藤泰敏，奥野正隆，鶴見 寿，沼口沙登史，四童子好廣，森脇久隆：レチノイドによる発癌の化学予防． *Oncologia* 27， 134-138 (1994)

武藤泰敏：劇症肝炎「NHK きょうの健康：肝臓病」鈴木宏監修．日本放送出版協会， 66-68 (1994)

森脇久隆：レチノイドの発癌抑制作用． *Health Digest* 9， 1-6 (1994)

森脇久隆，石木佳英，越野陽介，杉原潤一，大西弘生，武藤泰敏：重症肝障害と成因ウイルス． *ICU と CCU* 18， 27-30 (1994)

森脇久隆，武藤泰敏：成因別脂肪肝とその対策 - 栄養，内分泌疾患性脂肪肝 - ． *JJPEN* 16， 653-656 (1994)

森脇久隆，田近正洋：アメリカの Nutrition Support Team (NST)． *臨床栄養* 83， 865-867 (1993)

森脇久隆，四童子好廣： - カロチンの効果的な摂取法． *日本医事新報* 3674， 134-135

森脇久隆，加藤昌彦，村瀬全彦，武藤泰敏：非代償性肝硬変治療法の進歩． *日本臨牀* 52， 192-196 (1994)

大西弘生，武藤泰敏：肝再生をめぐる諸問題 肝再生と免疫． *肝胆膵* 28， 853-860 (1994)

大西弘生：ウイルス肝炎の診断． *岐阜医師会医学雑誌* 7， 43-56 (1994)

大西弘生，武藤泰敏：肝臓病の診断的アプローチ：診断に役立つ臨床検査とその意義 () 劇症肝炎． *モダンフィジシャン* 13， 1657-1661 (1993)

杉原潤一，村上啓雄，内藤智雄，石木佳英，森脇久隆，武藤泰敏：劇症肝炎に対する肝移植の適応． *Monthly Book of Gastro* 3， 33-40 (1993)

杉原潤一，内藤智雄，石木佳英，村上啓雄，森脇久隆，武藤泰敏：劇症肝炎に対する血漿交換療法． *消化器科* 18， 242-254 (1994)

奥野正隆，沼口沙登史，森脇久隆，武藤泰敏：ビタミンと癌． *からだの科学* 174， 85-

92 (1994)

奥野正隆, 森脇久隆, 沼口沙登史, 武藤泰敏: レチノイドと肝線維化. *Molecular Medicine* 31, 216-223 (1994)

加藤昌彦, 森脇久隆, 武藤泰敏: アミノ酸蛋白代謝異常. *日本臨床* 52, 145-149 (1994)

永木正仁, 武藤泰敏: ハイブリッド型バイオ人工肝研究の動向. *日本臨床* 52, 2205-2213 (1994)

永木正仁, 四童子好廣, 内藤智雄, 武藤泰敏: ハイブリッド型人工肝. *医学と薬学* 31, 305-312 (1994)

鶴見 寿, 高橋 健, 加藤則廣, 四童子好廣, 森脇久隆, 武藤泰敏: 急性前骨髄球性白血病の分子病態とレチノイン酸による分化誘導療法. *岐阜県内科医会雑誌* 7, 17-26 (1994)

武藤泰敏: 劇症肝炎の概念と変遷. *肝胆膵* 30, 41-49 (1995)

武藤泰敏: 肝癌発生の予防. *肝胆膵* 30, 381-387 (1995)

武藤泰敏, 森脇久隆: 肝癌発生母地対策ーレチノイド. *肝胆膵* 31, 273-283 (1995)

森脇久隆, 四童子好廣, 加藤昌彦, 武藤泰敏: レチノール結合蛋白 (RBP). *日本臨床* 53 (増刊)「広範囲血液, 尿化学検査, 免疫学的検査」(上巻), 207-209 (1995)

森脇久隆, 奥野正隆, 小野木啓人, 武藤泰敏: ビタミン A. *日本臨床* 53 (増刊)「広範囲血液, 尿化学検査, 免疫学的検査」(上巻), 688-690 (1995)

森脇久隆, 葛西哲宏, 下村哲也, 武藤泰敏: レチニルパルミテート. *日本臨床* 53 (増刊)「広範囲血液, 尿化学検査, 免疫学的検査」(上巻), 681-683 (1995)

森脇久隆, 武藤泰敏: 血漿アミノ酸測定とその意義. *医学のあゆみ* 173, 297-300 (1995)

森脇久隆: 総合ビタミン剤経口投与時の留意事項. *日本医事新報* 3732, 132 (1995)

森脇久隆, 奥野正隆, 武藤泰敏: 病気と栄養 - 肝臓病. *からだの科学* (増刊)「栄養療法

の新知識」, 164-167 (1995)

森脇久隆, 奥野正隆, 四童子好廣: カロテノイド (β-カロテン) と癌予防. 栄養 - 評価と治療 12, 123-126 (1995)

森脇久隆, 武藤泰敏: がん化学予防. 臨床栄養 86, 392-393 (1995)

森脇久隆, 加藤昌彦: 内蔵蛋白, アミノ酸. 日本臨床栄養学会誌 17, 52-56 (1995)

森脇久隆, 鶴見 寿: Conn 症候群の診断と治療. 総合臨床 44, 985-986 (1995)

森脇久隆: 肝癌の発生機序と発症抑制. 岐阜県医師会医学雑誌 8, 43-46 (1995)

森脇久隆, 足立定司, 植松孝弘, 武藤泰敏: 進行肝癌の治療. 岐阜県医師会医学雑誌 8, 53-55 (1995)

大西弘生, 杉原潤一, 武藤泰敏: 本邦 C 型劇症肝炎, C 型亜急性肝炎の臨床統計的研究. 日本臨床 53 (増刊)「分子肝炎ウイルス病学 - 基礎, 臨床, 予防」(上巻), 528-533 (1995)

大西弘生, 武藤泰敏: 肝壊死 - 再生の病態連繋機構 - 劇症肝炎における肝再生不全の機序. 医学のあゆみ 172, 754-755 (1995)

大西弘生, 武藤泰敏: 劇症肝炎における肝再生不全. 消化器科 21, 96-101 (1995)

大西弘生, 武藤泰敏: 肝再生不全の分子メカニズム. モダンフィジシャン 15, 55-58 (1995)

大西弘生, 杉原潤一, 武藤泰敏: 劇症肝炎とプロスタグランジン. 現代医療 27, 2085-2090 (1995)

村瀬全彦, 武藤泰敏: 消化器疾患の診療と初療 - 意識障害. 救急医学 19, 674-676 (1995)

四童子好廣, 武藤泰敏: レチノイドと癌発生. 医学のあゆみ 173, 371-374 (1995)

山田鉄也, 齊尾征直, 中山 崇: C 型劇症肝炎, C 型亜急性肝炎の病理形態学的特徴. 日本臨床 53 (増刊)「分子肝炎ウイルス病学 - 基礎, 臨床, 予防」(上巻), 541-545 (1995)

永木正仁，大西弘生，武藤泰敏：サイトカインの発現，作用 - 肝細胞死と再生．肝胆膵 31，55-67 (1995)

永木正仁，武藤泰敏：肝細胞壊死とスーパー抗原．Minophagen Medical Review 40，227-230 (1995)

安藤量基，森山貴志：Review. 免疫系によるウイルス肝炎の発症機序．Immunology Frontier 5，185-190 (1995)

石木佳英，杉原潤一，加藤昌彦，森脇久隆，武藤泰敏：輸液療法の実際 - 肝不全と輸液．臨床と研究 72，1599-1603 (1995)

小野木啓人，奥野正隆，森脇久隆，武藤泰敏：カロテノイド．日本臨床 53 (増刊)「広範囲血液，尿化学検査，免疫学的検査」(上巻)，684-687 (1995)

田近正洋，加藤昌彦，森脇久隆，武藤泰敏：間接カロリーメトリー．臨床栄養 (臨時増刊号) 86，708-709 (1995)

田近正洋，加藤昌彦，三輪佳行，平岡哲也，吉田 貴，森脇久隆，武藤泰敏：間接カロリーメトリーによる肝硬変患者の栄養管理．JJPEN 17，365-369 (1995)

総説 (欧文・国内)

Muto Y: Present status of fulminant hepatitis in Japan. Gastroenterol Jpn 28, 120-127 (1993)

原著 (和文)

加納 隆，大谷雅彦，川本智章，井戸健一，木村 健，河合秀子，杉原潤一，富田栄一，武藤泰敏：劇症肝炎における糖代謝異常に関する臨床的，基礎的検討．肝臓 33，914-924 (1992)

友田 隆，杉原潤一，森脇久隆，武藤泰敏：急性肝不全における血清ジキタリス様物質の動態とその臨床的意義に関する研究．肝臓 34，8-17 (1993)

杉原潤一，越野陽介，村上啓雄，白鳥義宗，内藤智雄，石木佳英，大西弘生，森脇久隆，武藤泰敏：亜急性肝炎の臨床的検討 - とくに肝性昏睡と予後の面から．肝臓 34，270-272 (1993)

杉山 宏，杉原潤一，村上啓雄，越野陽介，森脇久隆，武藤泰敏：重症肝炎患者における血清ヒト肝細胞増殖因子 (hHGF) の測定とその臨床的意識に関する研究．肝臓 34，493-503 (1993)

竹村正男，吉田伸行，中村茂孝，奥野正隆，清島 満，野間昭夫，杉原潤一，村上啓雄，杉山 宏，森脇久隆，武藤泰敏：ヒト肝細胞増殖因子に関する臨床検査医学的研究 () ヒト肝細胞増殖因子の定量とその臨床的有用性について．臨床病理 40，1168-1172 (1992)

清島真理子，市橋直樹，柳原 誠，森 俊二，高橋 健，武藤泰敏：HIV 患者に見られた Pruritic Papular Eruption の組織学的検討．日皮会誌 103，1171-1177 (1993)

西野 聡：ウイルス肝炎における 2',5'-oligoadenylate synthetase 活性の臨床的意義に関する研究 () B 型慢性肝炎に対するインターフェロン療法における検討．岐阜大学医学部紀要 41，1-13 (1993)

西野 聡：ウイルス肝炎における 2',5'-oligoadenylate synthetase 活性の臨床的意義に関する研究 () 非 A 非 B 型劇症肝炎における検討．岐阜大学医学部紀要 41，14-24 (1993)

足立定司，植松孝弘，山田鉄也，森脇久隆，武藤泰敏：小肝細胞癌 (径 2cm 以下) に関する臨床病理学的研究．岐阜大学医学部紀要 41，257-266 (1993)

山田泰弘：レチノイドのヒト肝癌細胞株に対する抗腫瘍作用に関する研究．岐阜大学医学部紀要 41，504-521 (1993)

村島直哉：Prospective にみた大酒家肝硬変の予後の検討 - 特に HCV 感染合併との関連について．岐阜大学医学部紀要 41，566-584 (1993)

山田鉄也：急性肝不全剖検例における肝細胞の壊死と再生に関する免疫組織化学的研究．岐阜大学医学部紀要 41，829-849 (1993)

住田敦子，大西弘生，武藤泰敏：肝内胆汁うっ滞に対するウルソデオキシコール酸の有用性とその機序に関する実験的研究．岐阜大学医学部紀要 41，1017-1029 (1993)

川瀬光八郎，吉田 貴，森脇久隆，武藤泰敏：代償性肝硬変症患者における運動トレーニングの臨床的効果に関する研究．肝臓 34，950-951 (1993)

服部 信，佐藤俊一，山中正巳，小林健一，中沼安二，武藤泰敏，沖田 極，堺 隆弘：ヒト天然型インターフェロンアルファ (MOR-22) の非 A 非 B 型慢性肝炎に対する有効性および安全性の検討 - MOR-22 肝炎研究会．臨床と研究 70，917-924 (1993)

服部 信，佐藤俊一，山中正巳，小林健一，中沼安二，武藤泰敏，沖田 極，堺 隆弘，加藤 仁：ヒト天然型インターフェロンアルファ (MOR-22) の非 A 非 B 型慢性肝炎に対する用法，用量別比較試験 - 封筒法による well-controlled study．臨床と研究 70，925-942 (1993)

服部 信，佐藤俊一，山中正巳，小林健一，中沼安二，武藤泰敏，沖田 極，堺 隆弘，鶴浦雅志，加藤 仁：ヒト天然型インターフェロンアルファ (MOR-22) の C 型慢性肝炎に対する用量間二重盲検比較試験．臨床と研究 70，3613-3636 (1993)

浅野文祐：劇症肝炎患者より分離した末梢血単核球におけるロイコトリエン B₄ 産生能の亢進．岐阜大学医学部紀要 41，1000-1011 (1993)

北川浩司，村瀬全彦，斎藤公志郎，森脇久隆，武藤泰敏：事象関連電位を用いた潜在性肝性脳症の評価に関する研究．肝臓 35，416-423 (1994)

沼口 諭：3T3 L1 前脂肪細胞によるコラーゲン合成，分解におよぼすレチノイドおよびサイトカインの影響．岐阜大学医学部紀要 42，144-152 (1994)

斉藤雅也：B 型肝炎ウイルスの DNA polymerase に対する各種薬剤の阻害効果に関する実験的研究 特に 9-β-D-arabinofuranosyladenine 5'triphosphate (araATP) と 1-β-D-arabinofuranosylthymine 5'triphosphate (araTTP) の阻害様式について．岐阜大学医学部紀要 42，405-414 (1994)

森 厚：慢性閉塞性肺疾患患者の栄養アセスメントに関する研究．岐阜大学医学部紀要 42，341-350 (1994)

白子順子：急性肝不全における上部消化管出血に関する臨床病理学的検討．岐阜大学医学部紀要 42，351-360 (1994)

名倉一夫，大西弘生，武藤泰敏：劇症肝炎における網内系機能に関する臨床的ならびに実験的研究 とくに貧食能を中心に．岐阜大学医学部紀要 42，415-425 (1994)

鈴木 宏，佐藤俊一，鈴木一幸，武藤泰敏，渡辺明治：Lactitol (NS-4) の高アンモニア血症に対する臨床前期第 相試験．臨床医学 11，961-988 (1995)

鈴木 宏，佐藤俊一，鈴木一幸，武藤泰敏，渡辺明治，栗山欣弥：Lactitol (NS-4) の高アンモニア血症に対する臨床後期第 相試験 - 至適用量の検討．臨床医学 11，989-1032 (1995)

鈴木 宏，佐藤俊一，鈴木一幸，武藤泰敏，渡辺明治：Lactitol (NS-4) の高アンモニア血症に対する臨床第 相試験 - 対照薬ラクツロースとの比較．臨床医学 11，1439-1473 (1995)

鶴見 寿，山田俊樹，沢田道夫，中村憲昭，高橋 健，森脇久隆，武藤泰敏：急性前骨髄球性白血病の治療法の検討 - 特に all-trans retinoic acid と rhG-CSF の使用について．日本臨床血液学会雑誌 36，582-588 (1995)

鶴見 寿，三浦宣久，山田俊樹，沢田道夫，中村憲昭，友田 隆，高橋 健，大山正巳，森脇久隆，武藤泰敏：急性骨髄性白血病に対する cytosine arabinoside, etoposide 少量持続点滴療法 of 検討 - 特に強力化学療法不応例において - ．日本臨床血液学会雑誌 36，657-664 (1995)

畠山啓朗：非環式レチノイドによる肝発癌抑制とその機構に関する研究 - とくに c-Ha-ras 遺伝子変異からみた検討 - ．岐阜大学医学部紀要 43，250-263 (1995)

内藤智雄：ハイブリッド型バイオ人工肝開発の基礎的検討 - 初代培養ラット肝細胞の培養系におよぼす劇症肝炎患者血漿の影響．岐阜大学医学部紀要 43，282-291 (1995)

原著 (欧文・国内)

Kato T, Koshino Y, Ninomiya M, Kato M, Sakai T, Nagaki M, Yamada T, Yoshida T, Moriwaki H, Muto Y: Effect of endoscopic injection sclerotherapy on acute bleeding from esophageal varices in cirrhotic patients with advanced hepatocellular carcinoma. Dig Endos 5, 151-155 (1993)

Takechi K, Ohashi M, Koda K, Shimojo H, Moriwaki H, Muto Y, Yamada T: Gastric pit

density and depth of foveolae of the gastric body mucosa assessed by dye endoscopy. *Dig Endos* 5, 231-237 (1993)

原著 (欧文・国外)

Kasai T, Moriwaki H, Okuno M, Numaguchi S, Murakami N, Seishima M, Ohnishi H, Shidoji Y, Muto Y: The clearance rate of chylomicron retinyl ester from plasma can be used to distinguish rats with cirrhosis from those with portacaval shunt. *Hepatology* 17, 125-130 (1993)

Asano F, Moriwaki H, Shiratori Y, Shimazaki M, Sakai T, Koshino Y, Murakami N, Sugihara J, Ohnishi H, Saito K, Muto Y: Enhanced production of leukotriene B₄ by peripheral blood mononuclear cells in patients with fulminant hepatitis. *J Gastroenterol Hepatol* 8, 228-231 (1993)

Seishima M, Noma A: Compensatory increase in intestinal apolipoprotein A-IV mRNA levels in the experimental nephrotic rat. *Metabolism* 42, 1375-1380 (1993)

Turumi H, Shimazaki M, Takahashi T, Moriwaki H, Muto Y: Flow cytometric determination of active oxygen (hydroperoxide) produced by peripheral neutrophils in patients with hematological disorders. *Internat'l J Hematol* 57, 213-219 (1993)

Takahashi T, Ozawa K, Takahashi K, Okuno Y, Takahashi T, Muto Y, Takaku F, Asano S: DNA replication of parvovirus B19 in a human erythroid leukemia cell line (JK-1) in vitro. *Arch Virol* 131, 201-208 (1993)

Ando K, Moriyama T, Guidotti LG, Wirth S, Schreiber RD, Schlicht HJ, Huang S, Chisari FV: Mechanisms of class I-restricted immunopathology. A transgenic mouse model of fulminant hepatitis. *J Exp Med* 178, 1541-1554 (1993)

Nagaki M, Hughes RD, Keane HM, Goka J, Williams R: Clearance and tissue distribution of staphylococcal enterotoxin A in the rat and potential use of adsorbents for removal from plasma. *J Med Microbiol* 38, 354-359 (1993)

Nagaki M, Hughes RD, Keane HM, Lau JYN, Williams R: In vitro plasma perfusion through adsorbents and plasma ultrafiltration to remove endotoxin and cytokines. *Circ Shock* 38, 182-188 (1992)

Kuwashima Y, Yamada T, Saio M, Takami T: Growth characteristics of murine B16 melanoma multicellular spheroids: a model for invasion and effects of doxorubicin treatments. *Anticancer Res* 13, 1215-1218 (1993)

Kuwashima Y, Yamada T, Saio M, Takami T: Formation and growth of multicellular spheroids in media containing low concentrations of agarose. *Cancer Let* 71, 31-33 (1993)

Ohta T, Nishiwaki R, Yatsunami J, Komori A, Suganuma M, Fujiki H: Hyperphosphorylation of cytokeratin 8 and 18 by microcystin-LR, a new liver tumor promoter, in primary cultured rat hepatocytes. *Carcinogenesis* 12, 2443-2447 (1992)

Turumi H, Tojo A, Takahashi T, Ogawa K, Moriwaki H, Asano S, Muto Y: Differentiation induction of human promyelocytic leukemia cells by acyclic retinoid (polyprenoic acid). *International Journal of Hematology* 59, 9-16 (1993)

Kita H, Moriyama T, Kaneko T, Harase I, Nomura M, Miura H, Nakamura I, Yazaki Y, Imawaki M: HLA B44-restricted Cytotoxic T Lymphocytes Recognizing an Epitope on Hepatitis C Virus Nucleocapsid Protein. *Hepatology* 18, 1039-1044 (1993)

Ohnishi H, Muto Y: Immunological approach to impaired liver regeneration in Fulminant hepatic failure. *Tropical Gastroenterology* 14, 127-131 (1993)

Nishida H, Omori M, Fukutomi Y, Ninomiya M, Nishiwaki S, Suganuma M, Moriwaki H, Muto Y: Inhibitory effect of (-)-epigallocatechin gallate on spontaneous hepatoma in C3H/HeNCrj mice and human hepatoma-derived PLC/PRF-5 cells. *Jpn J Cancer Res* 85, 221-225 (1994)

Numaguchi S, Okuno M, Moriwaki H, Muto Y: Modulation of collagen synthesis and degradation by retinoids and cytokines in 3T3 L1 preadipocytes. *Internal Medicine* 3, 309-316 (1994)

Nagaki M, Muto Y, Ohnishi H, Yasuda S, Sano K, Naito T, Maeda T, Yamada T, Moriwaki H: Hepatic injury and lethal shock in galactosamine-sensitized mice induced by the superantigen staphylococcal enterotoxin B. *Gastroenterology* 106, 450-458 (1994)

Yamada Y, Shidoji Y, Fukutomi Y, Ishikawa T, Kaneko T, Nakagawa H, Imawari M, Moriwaki H, Muto Y: Positive and negative regulations of albumin gene expression by retinoids in human hepatoma cell lines. *Mol Carcinogenesis* 10, 151-158 (1994)

Ando K, Guidotti LG, Wirth S, Ishikawa T, Missale G, Moriyama T, Schreiber RD, Schlicht Hans-Jugen, Huang Shao-nan, Chisari FV: Class-I restricted cytotoxic T lymphocytes are directly cytopathic for their target cells in vivo. *J. Immunol* 152, 3245-3253 (1994)

Ando K, Guidotti LG, Cerny A, Ishikawa T, Chisari FV: CTL access to tissue antigen is restricted in vivo. *J. Immunol* 153, 482-488 (1994)

Guidotti LG, Ando K, Hobbs MV, Ishikawa T, Runkel L, Schreiber RD, Chisari FV: Cytotoxic T Lymphocytes inhibit hepatitis B virus gene expression by a noncytolytic mechanism in transgenic mice. *Proc Natl Acad Sci USA* 91, 3764-3768 (1994)

Nishiwaki R, Ohta T, Sueoka E, Suganuma M, Harada K, Watanabe MF, Fujiki H: Two significant aspects of Microcystin-LR; specific binding and liver specificity. *Cancer Letters* 83, 283-289 (1994)

Inoue K, Hirohara J, Nakano T, Seki T, Sasaki H, Higuchi K, Ohta Y, Onji M, Muto Y, Moriwaki H: Prediction of prognosis of primary biliary cirrhosis in Japan. *Liver* 15, 70-77 (1995)

Ohnishi H, Muto Y, Sakai T, Sugihara J, Harase I, Moriwaki H: Hepatitis C virus infection involved in fulminant hepatic failure in Japan. *Internat'l. Hepatol Commun* 2, 347-351 (1994)

Seishima M, Nishimura M, Moriwaki H, Muto Y, Noma A: Reduced intestinal apoA-IV mRNA levels in patients with liver cirrhosis. *Internat'l Hepatol Commun* 4, 153-159 (1995)

Asano J, Suzuki Y, Yajima S, Inoue K, Shimosawa N, Kondo N, Murase M, Orii T: Effects of erucic acid therapy on Japanese patients with X-linked adrenoleukodystrophy. *Brain & Development* 16, 454-458 (1994)

Yamato M, Muto Y, Yoshida T, Kato M, Moriwaki H: Clearance rate of plasma branched-chain amino acids correlates significantly with blood ammonia level in patients with liver cirrhosis. *Internat'l Hepatol Commun* 3, 91-96 (1995)

Okuno M, Moriwaki H, Kato M, Muto Y, Kojima S: Changes in the ratio of branched-chain to aromatic amino acids affect the secretion of albumin in cultured rat hepatocytes. *Biochem Biophys Res Commun* 214, 1045-1050 (1995)

Okuno M, Caraveo VE, Goodman DW S, Blaner WS: Regulation of adipocyte gene expression by retinoic acid and hormones: effects on gene encoding cellular retinol-binding protein. *J Lipid Res* 36, 137-147 (1995)

Sueoka E, Nishiwaki S, Okabe S, Iida N, Suganuma M, Yano I, Aoki K, Fujiki H: Activation of protein kinase C by Mycobacterial cord factor, trehalose 6-monomycolate, resulting in tumor necrosis factor- release in mouse lung tissue. *Jpn J Cancer Res* 86, 749-755 (1995)

Nagaki M, Shidoji S, Yamada Y, Sugiyama A, Tanaka M, Akaike T, Ohnishi H, Moriwaki H, Muto Y: Regulation of hepatic genes and liver transcription factors in rat hepatocytes by extracellular matrix. *Biochem Biophys Res Commun* 210, 38-43 (1995)

Wirth S, Guidotti LG, Ando K, Schlicht HJ, Chisari FV: Breaking tolerance leads to autoantibody production but not autoimmune liver disease in hepatitis B virus envelope transgenic mice. *J Immunol* 154, 2504-2515 (1995)

Schirmbeck R, Bohm W, Ando K, Chisari FV, Reimann J: Nucleic acid vaccination primes hepatitis B surface antigen specific cytotoxic T lymphocytes in nonresponder mice. *J Virol* 69, 5929-5934 (1995)

Asakura H, Shiratori Y, Jokaji H, Saito M, Uotani C, Kumabashiri I, Morishita E, Yamazaki M, Matsuda T: Changes in plasma levels of prothrombin fragment F1 + 2 in cases of disseminated intravascular coagulation. *Acta Haematol* 89, 22-25 (1993)

Okwu AK, Xiang-Xi Xu, Shiratori Y, Tabas I: Regulation of threshold for lipoprotein-induced acyl-CoA: cholesterol O-acyltransferase stimulation in macrophages by cellular sphingomyelin content. *J Lipid Res* 35, 644-655 (1994)

Shiratori Y, Tabas I: Free cholesterol loading of macrophages stimulates phosphatidylcholine biosynthesis and up-regulation of CTP: phosphocholine cytidyltransferase. *J Biol Chem* 269, 11337-11348 (1994)

Asakura H, Kamikubo Y, Goto A, Shiratori Y, Yamazaki M, Jokaji H, Saito M, Uotani C, Kumabashiri I, Morishita E, Aoshima K, Nakamura S, Matsuda T: Role of tissue factor in disseminated intravascular coagulation. *Thromb Res* 80, 217-224 (1995)

Miwa Y, Kato M, Moriwaki H, Okuno M, Sugihara J, Ohnishi H, Yoshida T, Muto Y, Nakayama M, Morioka Y, Asagi K: Effects of branched-chain amino acid infusion on protein metabolism in rats with acute hepatic failure. *Hepatology* 22, 291-296 (1995)

Kita H, Moriyama T, Kaneko T, Harase I, Nomura M, Miura H, Nakamura I, Yazaki Y, Imawari M: HLA B44-restricted cytotoxic T lymphocytes recognizing an epitope on hepatitis C virus nucleocapsid protein. *Hepatology* 18, 1039-1044 (1993)

Kita H, Moriyama T, Kaneko T, Hiroishi K, Harase I, Miura H, Nakamura I, Inamori H, Kodama T, Ohnishi S, Yazaki Y, Imawari M: A helper T-cell antigen enhances generation of hepatitis C virus-specific cytotoxic T lymphocytes in vitro. *J Med Biol* 45, 386-391 (1995)

Harase I, Moriyama T, Kaneko T, Kita H, Nomura M, Suzuki G, Ohnishi H, Muto Y, Yazaki Y, Imawari M: Immune response to hepatitis C virus core protein in mice. *Immunol Cell Biol* 73, 346-352 (1995)

Araki H, Shidoji Y, Yamada Y, Moriwaki H, Muto Y: Retinoid agonist activities of synthetic geranyl geranoic acid derivatives. *Biochem Biophys Res Commun* 209, 66-72 (1995)

Nakamura N, Shidoji Y, Yamada Y, Hatakeyama H, Moriwaki H, Muto Y: Induction of apoptosis by a acyclic retinoid in the human hepatoma-derived cell line, HuH-7. *Biochem Biophys Res Commun* 207, 382-388 (1995)

Nishiwaki MR, Shidoji Y, Yamada Y, Hatakeyama H, Moriwaki H, Muto Y: Suppression by carotenoids of microcystin-induced morphological change in mouse hepatocyte. *Lipid* 30, 1029-1034 (1995)

Katsumura N, Okuno M, Onogi N, Moriwaki H, Muto Y, Kojima S: Suppression of Mouse Skin Papilloma by Canthaxanthin and β -Carotene In Vivo: Possibility of the Regression of Tumorigenesis by Carotenoids Without Conversion to Retinoic Acid. *Nutr Cancer* 26, 203-208 (1996)

Muto Y, Moriwaki H, Ninomiya M, Adachi S, Saito A, Takasaki KT, Tanaka T, Tsurumi K,

Okuno M, Tomita E, Nakamura T, Kojima T: Prevention of second primary tumors by an acyclic retinoid, polyprenoic acid, in patients with hepatocellular carcinoma. *N Engl J Med* 334, 1561-1567 (1996)

Maeda T, Ohnishi H, Hayashi T, Ishiki Y, Moriwaki H, Muto Y: Treatment with a novel lipid A analogue, FS-112, and partial hepatectomy causes submassive liver necrosis and impaired liver regeneration in mice. *J Gastroenterol Hepatol* 11, 471-477 (1996)

Imamine T, Okuno M, Moriwaki H, Shidoji Y, Muto Y, Seishima M, Noma A, Kojima S: Impaired synthesis of retinol-binding protein and transthyretin in rat liver with bile duct obstruction. *Digestive Diseases and Sciences* 41, 5, 1038-1042 (1996)

Koda H, Okuno M, Imai S, Moriwaki H, Muto Y, Kawada N, Kojima S: Retinoic acid-stimulated liver stellate cells suppress the production of albumin from parenchymal cells via TGF- β . *Biochem Biophys Res Commun* 221, 565-569 (1996)

Usui T, Moriwaki H, Hatakeyama H, Kasai T, Kato M, Seishima M, Okuno M, Ohnishi H, Yoshida T, Muto Y: Oral supplementation with branched-chain amino acids improves transthyretin turnover in rats with carbon tetrachloride-induced liver cirrhosis^{1,2}. *J Nutr* 126, 1412-1420 (1996)

Muto Y, Fujii Y, Moriwaki H, Kawaguchi T, Noda T: Growth retardation in human cervical dysplasia-derived cell lines by β -carotene through down-regulation of epidermal growth factor receptor¹⁻³. *Am J Clin Nutr* 62(suppl), 1535S-1540S (1996) #26;

内科学第二講座

著書 (和文)

藤原久義：冠動脈疾患の多面的展開 - 治療へのバースペクティブ - , 科学評論社, 1993

藤原久義：心筋の構造と代謝, 六法出版社, 1994. 113-117

湊口信也, 藤原久義:再灌流障害. 循環器疾患最新の治療, 監修:安田寿一, 編集:杉本恒明, 篠山重威, 南江堂, 1996. 77-80

著書 (欧文)

Ito H, Minatoguchi S, Asano K, Wada H, Takai K, Koshiji M, Uno Y, Segawa T, Inoue K, Hirakawa S: Baroreflex modifies the effect of vasodilators on systemic capacitance vessel in dogs. Veins:Their Functional Role in the Circulation, Hirakawa, Rothe, Tyberg (eds), Springer-Verlag, Tokyo, 1993. 79-89

Hirakawa S, Gotoh K, Yagi Y, Tsukamoto T, Terashima Y, Ishimura K, Minatoguchi S: Mental arithmetic produces pulmonary and systemic venoconstriction. Veins:Their Functional Role in the Circulation, Hirakawa, Rothe, Tyberg(eds), Springer-Verlag, Tokyo, 1993. 109-115

Kambara K, Arakawa M, Ando F, Ohno M, Kano A, Tsutiya M: Validity of airway thermal volume and pulmonary blood flow measured by changes of expired air temperature during hyperventilation. Pulmonary Circulation Research (ed H. Nagano, T. Nakada and Y. Sagawa). Sendai, Japan, 1993. 51-54

Arakawa M, Noda T, Misao J, Kagawa K, Miwa H, Nishigaki K: Changes in plasma concentration of atrial natriuretic peptide in the pulmonary vascular bed - A preliminary report -. Pulmonary Circulation Research, (ed H. Nagano, T. Nakada and Y. Sagawa). Sendai, Japan. 1994. 41-44

Kambara K, Ando F, Kano A, Nishigaki K, Arakawa M, Fujiwara H: Effect of ventilation on measurements of pulmonary tissue volume and blood flow by airway gas thermometry method. Pulmonary Circulation Research (ed, H. Nagano, T. Nakada and Y. Sagawa). Sendai, Japan, 1994. 1-4

Nishigaki K, Kambara K, Kagawa K, Miwa H, Noda T, Ito Y, Kano A, Xiao-Wen Jiang, Arakawa M, Fujiwara H: Estimation of pulmonary venous resistance with the pulmonary arterial occlusion using a thermodilution catheter in patients with ischemic heart disease. Pulmonary Circulation Research (ed H. Nagano, T. Nakada and Y. Sagawa). Sendai, Japan, 1994. 49-52

Xiao-Wen Jiang, Kambara K, Kano A, Nishigaki K, Gotoh N, Fujiwara H: Effect of high-dose beraprost sodium on ischemia-reperfusion pulmonary capillary injury in rabbit. Pulmonary Circulation Research, (ed H. Nagano, T. Nakada and Y. Sagawa). Sendai, Japan, 1995. 63-66

総説 (和文)

藤原久義, 藤原兌子: 川崎病による心筋病変の病理. 川崎病の診断と治療, 62-69 (1993)

荒川迪生, 神原健治郎, 加納亜紀, 土屋真砂: . 急性呼吸不全の病態 - 最近の考え方, 肺水腫(ARDS を含む). 集中治療 5(10), 977-983 (1993)

湊口信也: 慢性心不全の最近の治療薬. 岐阜医学会館だより 1993. 28(5)

伊藤裕康, 湊口信也, 浅野喜代治, 鷹津久登: 慢性心不全の薬物療法の現状. - 主に生命予後に対する検討 - 岐阜県医師会医学雑誌 6(1), 105-118 (1993)

伊藤裕康, 後藤紘司, 湊口信也, 浅野喜代治, 和田久泰, 高井国之: 血管拡張療法の現状. - Present Aspects of Vasodilator Therapy- Japanese Circulation Journal 57(Suppl 4), 1367-2374 (1993)

藤原久義, 藤原兌子: 成人の川崎病冠動脈障害. 川崎病の診断と治療, 287-292 (1993)

加川憲作, 藤原久義: 無症候性心筋虚血の発現機構. 現代医療 26(11), 27-34 (1994)

伊藤裕康, 湊口信也, 浅野喜代治: Metabolic Syndrome X. - インスリン抵抗性を基盤とする一連の病態群 - 薬局 45(4), 25-31 (1994)

伊藤裕康, 浅野喜代治: 腎不全を伴った心不全の治療. 今月の治療 2, 33-35 (1994)

伊藤裕康, 里見和夫, 加納亜紀, 田中春仁, 浅野喜代治, 下川邦泰: 脳梗塞. - 肺癌 - "慢性型 DIC" 循環器学 14, 88-92 (1994)

井形昭弘, 大澤仲弘, 柏木征三郎, 藤原久義 : 長寿科学と漢方 - 分化から総合への漢方的アプローチ - . 漢方医学 19(1), (1995)

藤原久義 : 成人期川崎病の諸問題. 岐阜県心臓病児物者の会 特集号 179, 5-6 (1995)

藤原久義 : 漢方外来診療. 治療 77(7), 118-119 (1995)

藤原久義 : 証と循環器疾患. 第 2 回漢方ライフ談話会 '95.9 講演録 13-18 (1995)

河合忠一, 藤原久義 : 医学と人生. キッセイクール 13(6), 2-8 (1995)

藤原久義 : 心筋梗塞発症のメカニズム. 県医師会雑誌 8(1), 9-12 (1995)

藤原久義 : 第 59 回日本循環器学会. Congress FORUM 1, 44-45 (1995)

西垣和彦, 藤原久義 : 心肥大. 現代医療 27(11), 33-37 (1995)

井形昭弘, 大澤仲昭, 柏木征三郎, 藤原久義 : 長寿科学と漢方. 漢方医学 19(1), 1-10 (1995)

神原健治郎, 加納亜紀, 藤原久義 : 肺水分量測定と輸液療法. 臨床医 21(7), 46-49 (1995)

後藤紘司, 安田憲生 : 呼吸困難が高度な例の薬物療法. THE LUNG 3, 112-114 (1995)

荒川迪生, 田中春仁, 神原健治郎 : プラクティカル呼吸管理マニュアル - 肺水腫. 中外医学社, 164-174 (1995)

神原健治郎, 加納亜紀, 藤原久義 : ARDS の臨床 - 肺水分量測定と輸液療法. 臨床医 21(7), 46-49 (1995)

西垣和彦, 藤原久義 : Q6 弁膜症における心筋障害は. 循環器 NOW 13, 59-60 (1996)

野田俊之, 藤原久義 : 心不全への対策, 臨床医 21(8), 74-77 (1995)

湊口信也, 藤原久義 : 病理学的にみた再灌流療法の有効性. Cardiologist 1(1), 17-20 (1996)

西垣和彦, 操 潤, 早川幸博, 藤原久義, 田中 晶 : 肥大型心筋症における拡張型心筋症様

所見へのリモデリングについて. 循環器科 39(1), 86-90 (1996)

伊藤裕康, 荒木 肇, 奥野邦彦, 篠田修司, 湊口信也, 渡辺佐知郎: カルシウム拮抗剤. 医薬ジャーナル 32, 31-46 (1996)

竹村元三, 藤原久義: 拘束型心筋症 - アミロイドーシス. 医学のあゆみ 循環器疾患 -State of arts, 634-638 (1996)

神原健治郎, 藤原久義: 医師のための在宅ケア・在宅治療ガイド - 慢性心不全患者の在宅治療のすすめ方. Medical Practice, (1996) in press

原著 (和文)

藤原兌子, 藤原久義: 川崎病陳旧期冠動脈病変と成人の冠動脈動脈硬化病変との比較 - 免疫組織学的検討 - . Prog Med 13, (1993)

紀田 貢, 藤原久義, 宮前雅見, 横田良司, 山崎憲蔵, 堂山 清, 長谷川浩二, 桂川正幸, 田中雅寛, 田中 晶: 31P-MRS によるエネルギー代謝からみた ischemic preconditioning の虚血心筋保護作用. 循環器科 33, 93-95 (1993)

横田良司, 藤原久義, 宮前雅見, 田中 晶, 山崎憲蔵, 伊藤修司, 古賀けい子, 藪内洋一, 篠山重威: 虚血・再灌流中のブタ心筋代謝と心機能に及ぼすアデノシン虚血前投与の効果. 心筋の構造と代謝 16, 113-117 (1993)

桂川正幸, 藤原久義, 篠山重威: 慢性冠閉塞に対する PTCA の病理学的背景 - tapering type と abrupt type , short segment と long segment の比較. 循環器 32, (1993)

藤原久義, 川村 淳, 桂川正幸: イヌ PTCA モデルにおける冠動脈組織所見の経時的変化について. 循環器 32, (1993)

荒川迪生, 神原健治郎, 宮崎英隆, 瀬川 孝, 安藤文夫, 河田智男, 中原康治, 平川千里: アロキサン肺水腫における活性酸素の関与. 過酸化脂質研究 17(2), 104-106 (1993)

神原健治郎: 肺水腫の回復機序. 血管 16(2), 29-37 (1993)

神原健治郎, 荒川迪生, 田中春仁, 土屋真砂, 田中卓二, 五十嵐敢, 田口善夫, 本多淳郎, 木下 博, 佐野郁生, 片桐真人, 松島敏春, 早瀬 満: 日本における原発性市中感染レジオネ

ラ肺炎と成人呼吸窮迫症候群との関連性. Progress in Medicine 13(8), 1667-1670 (1993)

荒川迪生, 神原健治郎: 肺微小血管壁の透過性. 侵襲時の体液・代謝管理 8, 58-61 (1993)

各務雅夫, 伊藤裕康, 湊口信也, 渡辺啓子, 今井洋子, 越路正敏, 宇野嘉弘, 横山仁美, 平川千里: 動的運動負荷時の血漿遊離型 noradrenaline(NA) 濃度変化と運動負荷時末梢静脈圧上昇量 (VP) との関係. 心臓 25(suppl 2), 1-3 (1993)

越路正敏, 伊藤裕康, 湊口信也, 今井洋子, 宇野嘉弘, 横山仁美, 平川千里: 各種交感神経経作動性降圧薬と ACE 阻害薬による降圧機序. - Cold pressor test (CPT) による presynaptic receptor 関与の検討 - . Therapeutic Research 14, 171-176 (1993)

越路正敏, 伊藤裕康, 湊口信也, 渡辺啓子, 今井洋子, 宇野嘉弘, 各務雅夫, 横山仁美, 平川千里: ヒトにおける交感神経刺激法としての cold pressor test (CPT) の臨床応用. - ACE 阻害剤と 遮断剤からする presynaptic receptor の役割の推定 - . 第 13 回血管無侵襲診断法研究会誌, 65-66 (1993)

湊口信也, 伊藤裕康, 各務雅夫, 浅野喜代治, 今井洋子, 越路正敏, 宇野嘉弘, 横山仁美, 鈴木孝彦, 平川千里: 虚血性心疾患患者における抱合型ノルアドレナリンの脱抱合促進因子. - pH の関与について - . 循環制御 14(3), 335-340 (1993)

宇野嘉弘, 湊口信也, 今井洋子, 越路正敏, 各務雅夫, 横山仁美, 伊藤裕康, 平川千里: Adriamycin 心筋症における 受容体を介する noradrenaline 遊離反応. 循環制御 14(3), 307-312 (1993)

各務雅夫, 伊藤裕康, 湊口信也, 浅野喜代治, 今井洋子, 越路正敏, 宇野嘉弘, 横山仁美, 平川千里: 血漿抱合型 noradrenaline(NA) と adrenaline(A) の動態. - 心疾患患者と血液透析中の腎不全患者から推定する腎からの排泄 - . 臨床薬理 24, 25-26 (1993)

浅野喜代治, 伊藤裕康, 八木安生, 平川千里, 森 矩尉, 岩砂和雄, 加藤俊彦, 渡辺郁雄, 渡辺佐知郎, 日江井邦彦, 平野高弘, 杉下総吉, 麻生哲郎, 堀江和子, 山口正人, 大角幸男, 石黒現之, 今井直幸, 長野俊彦, 塚本達夫, 皆川太郎, 森田則彦, 瀬川 孝, 佐橋照親, 森也寸史, 西田佳雄, 永井洋史: 1 遮断剤 (bisoprolol) の心室性期外収縮に対する効果. - 日内変動における解析を中心に - . Progress in Medicine 13(9), 1873-1885 (1993)

湊口信也, 伊藤裕康, 各務雅夫, 浅野喜代治, 今井洋子, 越路正敏, 宇野嘉弘, 横山仁美, 鈴木

木孝彦, 平川千里: 抱合型 noradrenaline(NA) の心臓における脱抱合の可能性. - 心疾患患者における検討 - . 心臓 25(suppl 3), 61-63 (1993)

西垣和彦, 荒川迪夫, 赤松 繁, 寺澤悦司, 土肥修司, 加川憲作, 三輪啓志, 伊藤義巳, 野田俊之, 平川千里: 肺静脈血流速波形から推定するヒト左房機能. 岐阜大医紀 41, 72-79 (1993)

野田俊之, 荒川迪夫, 高屋忠丈, 長野俊彦, 加川憲作, 三輪啓志, 西垣和彦, 平川千里: 心筋梗塞患者の右房機能. 岐阜大医紀 41(1), 96-104 (1993)

三輪啓志, 荒川迪夫, 加川憲作, 野田俊之, 西垣和彦, 伊藤義巳, 河田智男, 平川千里: 慢性心房細動除細動後における心房収縮の経時的回復に関する研究. 岐阜大医紀 41, 203-213 (1993)

野田俊之, 荒川迪夫, 平川千里, William C Little: 左室収縮末期圧 - 容積関係の曲線性に関する検討. Ther Res 14(4), 268-271 (1993)

野田俊之, 荒川迪夫, 三輪啓志, 神原健治郎, 加川憲作, 西垣和彦, 伊藤義巳, 大野道也, 加納亜紀, 平川千里: 慢性心房細動患者における血漿心房性ナトリウム利尿ペプチド濃度. - 電氣的除細動後の経時的変化 - . 日本臨床生理学学会雑誌 23(5), 437-444 (1993)

野田俊之, 荒川迪夫, 高屋忠丈, 長野俊彦, 加川憲作, 三輪啓志, 西垣和彦, 平川千里: 心筋梗塞心と "正常" 心とにおける右房・左房機能の比較. 心臓 25(12), 1369-1376 (1993)

加藤和三, 長田洋文, 杉本恒明, 井上 博, 細田瑳一, 岸田 浩, 飯沼宏之, 山崎 昇, 河合忠一, 藤原久義, 平盛勝彦, 戸山靖一, 中島光好: プラニジピン (OPC-13340) の狭心症に対する至適容量の検討 - 他施設二重盲検試験 - . 薬理と臨床 4(5), 397-414 (1994)

加藤和三, 飯沼宏之, 杉本恒明, 井上 博, 細田瑳一, 岸田 浩, 長田洋文, 山崎 昇, 河合忠一, 藤原久義, 平盛勝彦, 戸山靖一: 狭心症に対するプラニジピン (OPC-13340) の初期臨床試験成績. 薬理と臨床 4(5), 363-377 (1994)

戸嶋裕徳, 和泉 徹, 河合祥雄, 河村慧四郎, 楠川禮造, 関口守衛, 松森 昭, 矢崎義雄, 由谷親夫, 足達 教, 石山 茂, 岡田了三, 岡本俊昭, 香川 昇, 北浦 泰, 小玉 誠, 世古義規, 鈴木 紳, 廣江道昭, 福田信二, 藤岡重和, 藤原久義, 松崎益徳, 森本紳一郎, 山口洋: 診断基準 慢性心筋炎の診断基準に関する研究. Japanese Circulation Journal 58, 1104-

1110 (1994)

李 林雪, 野原隆司, 小野晋司, 奥田和美, 田中 昌, 藤原久義, 的場芳樹, 松森 昭, 藤田正俊, 玉木長良, 小西淳二, 篠山重威: 拡張型心筋症における 201TI 心筋シンチグラフィ像と心内膜心筋生検での心筋線維化像の対比検討. 核医学 31(3), 231-240 (1994)

加藤和三, 岸田 浩, 飯沼宏之, 杉本恒明, 井上 博, 細田瑳一, 長田洋文, 山崎 昇, 河合忠一, 藤原久義, 平盛勝彦, 戸山靖一: 異型狭心症に対するプラニジピン (OPC-13340) の有用性の検討 - 臨床症状ならびに 24 時間ホルター心電図記録による評価 -. 薬理と臨床 4(5), 379-396 (1994)

西垣和彦, 荒川迪生, 加川憲作, 三輪啓志, 野田俊之, 伊藤義己, 神原健治郎, 富田政明, 三輪陽子, 田中隆平, 小木曾祐一, 田中 孜, 山口正人, 高屋忠丈, 長野俊彦: 当科で経験した心房中隔欠損症の検討 - 臨床症状・所見, 肺静脈血流速波形 -. 岐阜県内科医会雑誌 8(1), 45-51 (1994)

田中春仁, 宮島克明, 浅野喜代治, 神原健治郎, 荒川迪生, 伊藤裕康: PCR 法により早期診断が可能であったレジオネラ肺炎の 1 例. 日本胸部疾患学会雑誌 32(6), 591-595 (1994)

加川憲作, 荒川迪夫, 三輪啓志, 野田俊之, 西垣和彦, 伊藤義己, 平川千里: 左房・左室造影による左室拡張期左房機能の検討. J Cardiol 24(4), 317-325 (1994)

西垣和彦, 荒川迪夫, 加川憲作, 三輪啓志, 野田俊之, 伊藤義己, 神原健治郎, 富田政明, 三輪陽子, 田中隆平, 小木曾祐一, 田中 孜, 山口正人, 高屋忠丈, 長野俊彦: 当科で経験した心房中隔欠損症の検討. - 臨床症状・所見, 肺静脈血流速波形 -. 岐阜県内科医会雑誌 8, 45-51 (1994)

三輪啓志, 荒川迪夫, 加川憲作, 野田俊之, 西垣和彦, 伊藤義己: ヒト肺静脈血流動態に及ぼす呼吸の影響. Ther Res 15(4), 3-5 (1994)

西垣和彦, 荒川迪夫, 佐野浩毅, 山 ユミ, 加川憲作, 三輪啓志, 野田俊之, 伊藤義己: 心房細動患者の運動による RR 間隔変動の分析. Ther Res 15(1), 10-12 (1994)

田中春仁, 後藤紘司, 八木安生, 出口富美子, 寺島 寧, 長島賢司, 澤 祥幸, 野村万寿美, 平川千里: ステロイド投与とサルコイドーシスの安静時 201TI 心筋 SPECT の経過. 心臓 26(1), 22-28 (1994)

澤 祥幸, 後藤紘司, 八木安生, 飯田真美, 出口富美子, 寺島 寧, 長島賢司, 田中春仁, 野村万寿美, 安田憲生, 平川千里: 体位性誘発ラ音 (posturally induced crackles: PIC) の出現機序. - 安静時肺 1 回換気仕事量と粘性仕事量からの検討 - . Therapeutic Research 15(8), 34-38 (1994)

横山仁美, 伊藤裕康, 湊口信也, 浅野喜代治, 越路正敏, 今井洋子, 各務雅夫, 宇野嘉弘, 平川千里: 左心疾患患者における左心ポンプ機能と右心ポンプ機能の同時推定. - 下肢交互屈伸運動負荷による検討 - . 心臓 26(suppl 3), 61-63 (1994)

越路正敏, 伊藤裕康, 湊口信也, 今井洋子, 宇野嘉弘, 各務雅夫, 横山仁美, 平川千里: ACE 阻害剤の血漿 noradrenaline 濃度におよぼす影響. - 運動負荷, cold pressor test と pithed rat 電気刺激による検討 - . 心臓 26(suppl 4), 41-45 (1994)

兼松雅之, 山脇義春, 松井英介, 水野晋二, 後藤裕夫, 林 真也, 今枝孟義, 柴山磨樹, 縄田万寿美, 橋本和明, 湊口信也, 桐生拓司, 石口恒男, 土井偉誉: Self-expandable metallic stent 留置拡張術を行なった悪性腫瘍による気管 気管支狭窄の 3 例. 気管支学 16(4), 376-380 (1994)

越路正敏, 伊藤裕康, 湊口信也, 各務雅夫, 宇野嘉弘, 今井洋子, 横山仁美, 浅野喜代治, 平川千里: 軽症心不全患者における血漿抱合型ノルアドレナリンの動態. 岐阜県内科医会雑誌 7, 63-67 (1994)

湊口信也, 伊藤裕康, 浅野喜代治, 越路正敏, 宇野嘉弘, 各務雅夫, 今井洋子, 渡辺啓子, 平川千里: 心不全の noradrenaline 遊離調節. - 交感神経末端 2 受容体の関与 - . 岐阜県内科医会雑誌 8, 39-43 (1994)

浅野喜代治, 伊藤裕康, 八木安生, 平川千里, 森 矩尉, 岩砂和雄, 加藤俊彦, 渡辺郁雄, 渡辺佐知郎, 日江井邦彦, 平野高弘, 杉下総吉, 麻生哲郎, 堀江和子, 山口正人, 大角幸男, 石黒現之, 今井直幸, 長野俊彦, 塚本達夫, 皆川太郎, 森田則彦, 佐橋照親, 森也寸史, 長野俊彦, 塚本達夫, 皆川太郎, 森田則彦, 佐橋照親, 森也寸史, 西田佳雄, 永井洋史: 心室性期外収縮の日内変動タイプに対する 1 遮断剤 (ピソプロロール) の効果. Ther Res 15, 317-320 (1994)

横山仁美, 伊藤裕康, 湊口信也, 浅野喜代治, 今井洋子, 越路正敏, 各務雅夫, 宇野嘉弘, 平川千里: Nitroglycerin が軽症心不全患者において運動負荷時末梢静脈圧上昇 (VP) を抑制

する機序の推定. 静脈学 5, 69-75 (1994)

田中春仁, 宮島克明, 浅野喜代治, 神原健治郎, 荒川迪生, 伊藤裕康: PCR 法により早期診断が可能であったレジオネラ肺炎の一例. 日本胸部疾患学会雑誌 32, 591-595 (1994)

浅野喜代治, 伊藤裕康, 湊口信也, 各務雅夫, 今井洋子, 越路正敏, 宇野嘉弘, 横山仁美, 平川千里: 運動負荷時促進する抱合型 Noradrenaline 脱抱合の検討. - 脱抱合促進因子, pH の関与 -. 臨床薬理 25, 39-40 (1994)

野村万寿美, 後藤紘司, 八木安生, 飯田真美, 出口富美子, 長島賢司, 澤 祥幸, 安田憲生, 藤原久義: 体位性誘発ラ音 (PIC) の出現 "時相"に関する検討. Therapeutic Research 16(7), 79-82 (1995)

野村万寿美, 後藤紘司, 八木安生, 飯田真美, 出口富美子, 寺島 寧, 長島賢司, 田中春仁, 安田憲生: 心筋梗塞患者の運動負荷時の心拍出量増加について. - 拡張機能障害例における検討 -. 心臓 27(5), 33-35 (1995)

井奈波良一, 岩田弘敏, 越路正敏, 藤原久義, 杉浦春雄: 漢方外来受診者の東洋医学, 温泉医学に関する意識調査. 日本医事新報 3728, 46-50 (1995. 10. 7)

浅野喜代治, 伊藤裕康, 湊口信也, 今井洋子, 越路正敏, 宇野嘉弘, 各務雅夫, 横山仁美, 平岡実子, 平川千里: 心不全時に生ずる血漿抱合型 noradrenaline 上昇機序の推定. 心臓 27(suppl 2), 60-63 (1995)

木下道廣, 松本圭司, 市川桂二, 鷹津良樹, 尾野 亘, 竹村元三, 藤原久義: Guillain-Barre 症候群を合併した急性劇症型心筋炎の 1 例. 日本内科学会雑誌 84, 284-286 (1995)

浅野喜代治, 伊藤裕康, 後藤紘司, 藤原久義, 森 矩尉, 岩砂和雄, 加藤俊彦, 渡辺郁雄, 杉下総吉, 堀江和子, 上村博之, 大角幸男, 大平敏樹, 小田 寛, 茜部 寛, 今井直幸, 皆川太郎, 森田則彦, 佐橋照親, 西尾 斉, 土屋邦彦, 篠田徳郎: 抗不整脈薬 Ic 剤ピルジカイニドの心室性期外収縮に対する効果. - PQ 間隔延長と効果の関連 -. Ther Res 16, 174-177 (1995)

平岡実子, 浅野喜代治, 湊口信也, 今井洋子, 越路正敏, 宇野嘉弘, 各務雅夫, 横山仁美, 藤原久義, 伊藤裕康: 腎機能障害を有する左心疾患患者に対する Ca^{++} 拮抗剤 (Barnidipine) の血行動態・腎機能への急性効果. 臨床薬理 26, 255-256 (1995)

飯田真美, 後藤紘司, 八木安生, 出口富美子, 寺島 寧, 長島賢司, 野村万寿美, 安田憲生, 藤原久義, 平川千里: ヒトの左心拍出量曲線と肺静脈還流曲線. 日本心臓病学会 27(1), 21-27 (1996)

宇野嘉弘, 湊口信也, 大野 嗣, 苅谷達也, 越路正敏, 藤原久義, 藤原兎子: Nicorandil の心筋梗塞サイズ縮小効果. - 側副循環のないウサギモデルにおける検討 - . Therapeutic Research 17, 35-36 (1996)

野田俊之, 加川憲作, 西垣和彦, 早川幸博, 後藤紘司, 藤原久義: 成人川崎病後遺症患者における無症候性心筋虚血と側副血行路の検討. 循環器科 39(6), 602-606 (1996)

小野木浩人, 鷹津久登, 香田雅彦, 藤原久義, 鈴木雅雄: 小腸食物異物の 1 例. 内科 (1996) in press

佐藤幸人, 竹村元三, 尾野 亘, 竹内雄三, 片岡一明, 伊藤晴康, 鷹津良樹: 肥大型心筋症の自然経過と最近の話題. 内科専門医会誌 (1996) in press

原著 (欧文・国内)

Katsuragawa M, Fujiwara H, Kawamura A, Htay T, Yoshikuni T, Mori K, Sasayama S: An animal model of coronary thrombosis and thrombolysis: Comparison of vascular damage and thrombus formation in the coronary and femoral arteries after balloon angioplasty. Jpn Cir J 57, 1000-1006 (1993)

Katsuragawa M, Fujiwara H, Kawamura A, Htay T, Yoshikuni T, Mori K, Sasayama S: An animal model of coronary thrombosis and thrombosis: Comparison of vascular damage and thrombus formation in the coronary and femoral arteries after balloon angioplasty. Jpn Circ J 57, 1000-1006 (1993)

Ito H, Minatoguchi S, Asano K, Watanabe K, Imai Y, Koshiji M, Kakami M, Hirakawa S: Non-invasive estimation of the left heart pumping function in patients with mild left-sided heart failure. Journal of Cardiology 23, 249-255 (1993)

Uno Y, Minatoguchi S, Imai Y, Koshiji M, Kakami M, Yokoyama H, Ito H, Hirakawa S: Modulation of noradrenaline release via activation of presynaptic α -adrenoceptors in rabbits with adriamycin-induced cardiomyopathy. Jpn Circ J 57, 426-433 (1993)

Hirakawa S, Shimabukuro S, Asano K, Minagawa T, Iguchi H, Hiraoka J: Transport of Na⁺ and HCO₃⁻ out of red blood cells is simultaneous with a chloride shift in canine and human whole blood exposed to CO₂-rich gas. *Japanese Journal Physiology* 43(1), 35-49 (1993)

Ando F, Arakawa M, Kambara K, Segawa T, Kawada T, Ohno M, Kano A, Hirakawa S: Effect of acetylsalicylic acid on longitudinal distribution of vascular resistance in in situ blood-perfused dog lung. *郡上中央病院年報* 1(1), 59-62 (1994)

原著 (欧文・国外)

Hasegawa K, Fujiwara H, Doyama K, Mukoyama M, Nakao K, Fujiwara T, Imura H, & Sasayama S: Ventricular expression of atrial and brain natriuretic peptides in dilated cardiomyopathy. An immunohistochemical study of the endomyocardial biopsy specimens using specific monoclonal antibodies. *Am J Pathol* 142, 107-116 (1993)

Katsuragawa M, Fujiwara H, Miyamae M, Sasayama S: Histological studies in percutaneous transluminal coronary angioplasty for chronic total occlusion: Comparison of tapering and abrupt types of occlusion and short and long occluded segments. *J Am College Cardiol* 21(3), 604-611 (1993)

Miyamae M, Fujiwara H, Kida M, Yokota R, Tanaka M, Katsuragawa M, Hasegawa K, Ohura M, Koga K, Yabuuchi Y: Preconditioning improves energy metabolism during reperfusion but does not attenuate myocardial stunning in porcine hearts. *Circulation* 88, 223-234 (1993)

Hasegawa K, Fujiwara H, Doyama K, Miyamae M, Fujiwara T, Suga S, Mukoyama M, Nakao K, Imura H, Sasayama S: Ventricular expression of brain natriuretic peptide in hypertrophic cardiomyopathy. *Circulation* 88, 372-380 (1993)

Kida M, Fujiwara H, Uegaito T, Miyamae M, Ohura M, Miura I, Yabuuchi Y: Dobutamine prevents both myocardial stunning and phospho-creatine overshoot without affecting ATP level. *J Mol Cell Cardiol* 25, 875-885 (1993)

Muso E, Fujiwara H, Yoshida H, Hosokawa R, Yashiro M, Hongo Y, Matumiya T, Yamabe H, Kikuta H, Hironaka T, Hirai K, Kawai C: A fatal case of Epstein-Barr virus genome-positive tubulo-interstitial nephritis associated with Kawasaki disease-like coronary aneurysms. *Clin Nephrol* 40, 7-15 (1993)

Muso E, Fujiwara H, Yoshida H, Hosokawa R, Yashiro M, Hongo Y, Matumiya T, Yamabe H, Kikuta H, Hironaka T, Hirai K, Kawai C: Epstein-Barr virus genome-positive tubulo-interstitial nephritis associated with Kawasaki disease-like coronary aneurysms. *Clinical Nephrology* 40(1), 7-15 (1993)

Arakawa M, Kambara K, Segawa T, Ando F, Kawada T, Ohno M: Usefulness of sodium chloride as a nondiffusible indicator in the measurement of extravascular lung thermal volume in dogs. *MBEC* 7, S67-S72 (1993)

Oda H, Arakawa M, Kambara K, Nakahara K, Segawa T, Ando F, Kawada K, Hirakawa S, Shoumura S, Isono H: Ultrastructural substrates for increased lung water content in experimental pulmonary edema. *Histol Histopath* 8, 73-82 (1993)

Segawa T, Arakawa M, Kambara K, Miyazaki H, Ando F, Kawada T: Correction for apparent prolongation of mean transit time resulting from response time in thermodilution system. *IEEE* 40(1), 1-7 (1993)

Kambara K, Arakawa M, Segawa T, Ando F, Ohno M, Kano A: Effects of acetylsalicylic acid on pulmonary vascular tone and membrane permeability in blood-perfused dog lung. *J Appl Physiol* 75, 2561-2569 (1993)

Takemura G, Onodera T, Millard RW, Ashraf M: Demonstration of hydroxyl radical and its role in hydrogen peroxide-induced myocardial injury: hydroxyl radical dependent and independent mechanisms. *Free Rad Biol Med* 15, 13-25 (1993)

Takemura G, Fujiwara H, Ogawa J, Fujiwara T, Sasayama S: Fixation of biological specimens by high hydrostatic pressure. *Arch Histol Cytol* 56, 411-416 (1993)

Arakawa M, Miwa H, Kagawa K, Noda T, Nishigaki K, Ito Y, Kawada T, Hirakawa S: Acute effects of conventional oral dose of disopyramide on left atrial and ventricular function. *International J Clin Pharmacol Toxicol* 31, 253-259 (1993)

Cheng CP, Noda T, Nozawa T, Little WC: Effect of heart failure on the mechanism of exercise-induced augmentation of mitral valve flow. *Circ Res* 72, 795-806 (1993)

Noda T, Arakawa M, Takaya T, Nagano T, Kagawa K, Miwa H, Hirakawa S: Right atrial contractile performance in patients with myocardial infarction. *Eur Heart J* 14, 876-884 (1993)

Noda T, Cheng CP, De Tombe PP, Little WC: Curvilinearity of LV end-systolic pressure-volume and dP/dt max -end-diastolic volume relations. *Am J Physiol* 265, H910-H917 (1993)

Inoko M, Kihara Y, Morii I, Fujiwara H Sasayama S: Transition from compensatory hypertrophy to dilated, failing left ventricles in Dahl salt-sensitive rats. *Am J physiol* 267 (Heart Circ. Physiol 36), H2471-2482 (1994)

Hasegawa K, Fujiwara H, Doyama K, Inada T, Ohtani S, Fujiwara T, Hosoda K, Nakao K, Sasayama S: Endothelin-1-selective receptor in the arterial intima of patients with hypertension. *Hypertension* 23, 288-293 (1994)

Tanaka M, Fujiwara H, Yamazaki K, Miyamae M, Yokota R, Hasegawa K, Fujiwara T, Sasayama S: Ischemic preconditioning elevates cardiac protein but does not limit infarct size 24 or 48 h later in rabbits. *Am J Physiol* 267 (Heart Circ. Physiol. 36), H1476-H1482 (1994)

Nomoto S, Fujiwara H, Ban Y, Ohara K: Cardiotoxicity of long-term intravenous administration of FK506 in rabbits: Dose relationship and recovery after discontinuance. *Transplantation Proceeding* 26(2), 855-857 (1994)

Tanaka M, Fujiwara H, Yamasaki K, Sasayama S: Superoxide dismutase and N-2-mercaptopropionyl glycine attenuate infarct size limitation effect of ischemic preconditioning in the rabbit. *Cardiovascular Research* 28, 980-986 (1994)

Arakawa M, Miwa H, Noda T, Ito Y, Kagawa K, Nishigaki K, Kambara K, Tomita M, Hirakawa S: Usefulness of the pulmonary vein flow velocity-time profile as an estimate of left atrial star age fraction. *Angiology* 45(10), 841-849 (1994)

Nozawa T, Cheng CP, Noda T, Little WC: Relation between left ventricular oxygen consumption and pressure-volume area in conscious dogs. *Circulation* 89(2), 810-817 (1994)

Cheng CP, Noda T, Nordlander M, Little WC: Comparison of effects of dihydropyridine calcium antagonists on left ventricular systolic and diastolic performance. *J Pharm Exp Ther*

268, 1232-1241 (1994)

Arakawa M, Miwa H, Noda T, Ito Y, Kambara K, Kagawa K, Nishigaki K, Tomota M, Hirakawa S: Usefulness of the pulmonary vein flow velocity-time profile as an estimate of left atrial storage fraction. *Angiology* 45(10), 841-849 (1994)

Nishigaki K, Arakawa M, Miwa H, Kagawa K, Noda T, Ito Y: A study on left atrial transport function. Effect of age or left ventricular ejection fraction on left atrial storage fraction. *Angiology* 45(11), 953-962 (1994)

Nozawa T, Cheng CP, Noda T, Little WC: Effect of exercise on left ventricular mechanical efficiency in conscious dogs. *Circulation* 90(6), 3047-3054 (1994)

Takemura G, Onodera T, Ashraf M: Characterization of exogenous hydroxyl radical effect on myocardial function, metabolism and ultrastructure. *J Mol Cell Cardiol* 26, 441-454 (1994)

Minatoguchi S, Majewski H: Modulation of norepinephrine release in adriamycin-induced heart failure in rabbits: role of presynaptic α_2 -adrenoceptors and presynaptic angiotensin II receptors. *J Cardiovasc Pharmacol* 23(3), 438-445 (1994)

Suzuki H, Fujiwara H, Tanaka M, Yoshifusa H, Nakamura Y, Shibata Y: Antithrombotic effect of ticlopidine on occlusive thrombi of small coronary arteries in (NZWxBXSB)F1 male mice with myocardial infarction and systemic lupus erythematosus. *Journal of Cardiovascular pharmacology* 25, 9-13 (1995)

Yokota R, Fujiwara H, Miyamae M, Tanaka M, Yamaseki K, Itoh S, Koga K, Yabuuchi Y, Sasayama S: Transient adenosine infusion before ischemia and reperfusion protects against metabolic damage in pig hearts. *Am J Physiol* 268 (Heart Circ. Physiol. 37), H1149-H1157 (1995)

Fujiwara H, Nishigaki K: Small coronary artery disease in cardiomyopathy: hypertrophic cardiomyopathy resembling dilated cardiomyopathy. *Coronary Artery Disease* 6, 213-219 (1995)

Kano A, Kambara K, Ando F, Nishigaki K, Tsutiya M, Ohno M, Fujiwara H: Effects of ventilation and pleural effusion on measurements of airway thermal volume and blood flow in dog lungs. *J Appl Physiol* 79(4), 1320-1329 (1995)

Takatsu H, Uno Y, Fujiwara H: Modulation of left ventricular iodine-125-MIBG accumulation in cardiomyopathic syrian hamsters using the renin-angiotensin system. *J Nucl Med* 36, 1055-1061 (1995)

Takatsu H, Scheffel U, Fujiwara H: Sympathetic tone assessed by washout of iodine 125-labeled metaiodobenzylguanidine from the murine left ventricle. -influence of immobilization-. *J Nucl Cardiol* 2, 507-512 (1995)

Hirakawa S, Suzuki T, Gotoh K, Ito H, Tanaka T, Ohsumi Y, Yagi Y, Terashima Y, Fujiwara H, Nagashima K, Sawa T, Tsukamoto T: Human pulmonary vascular and venous compliances are reduced before and during left-sided heart failure. *J Appl Physiol* 78(1), 323-333 (1995)

Minatoguchi S, Ito H, Ishimura K, Suzuki T, Tonai N, Mori M, Hirakawa S, Fujiwara H: Plasma adrenaline modulates α_1 -adrenoceptor mediated pressor responses and the baroreflex control in patients with borderline hypertension. *Blood Pressure* 4, 105-112 (1995)

Minatoguchi S, Ito H, Kakami M, Asano K, Koshiji M, Uno Y, H Yokoyama, Fujiwara H: Behavior of plasma free and conjugated noradrenaline. -a comparison of patients with mild heart failure and patients with chronic hemodialysis-. *Biogenic Amines* 11(4), 355-361 (1995)

Minatoguchi S, Ito H, Ishimura K, Watanabe H, Imai Y, Koshiji M, Asano K, Hirakawa S, Fujiwara H: Modulation of noradrenaline release through presynaptic α_2 -adrenoceptors in congestive heart failure. *Am Heart J* 130, 516-521 (1995)

Minatoguchi S, Ito H, Suzuki T, Koshiji M, Kakami M, Uno Y, Asano K, Yamashita K, Hirakawa S, Fujiwara H: Conversion of plasma noradrenaline from conjugated form into free form in the heart and its physiological significance in patients with cardiac diseases. -a comparison between at rest and during exercise-. *Biogenic Amines* 11(5), 417-432 (1995)

Cai Q, Takemura G, Ashraf M: Beneficial effects of histidine and its effect on myocardial injury during ischemia/reperfusion injury in isolated rat heart. *J Cardiovasc Pharmacol* 25, 147-155(1995)

Takemura G, Takatsu Y, Ono K, Miyatake T, Ono M, Izumi T, Fujiwara H: Usefulness of electron microscopy in the diagnosis of cardiac sarcoidosis. *Heart & Vessels* 10, 275-278

(1995)

Takemura G, Fujiwara H, Takatsu Y, Fujiwara T, Nakao K: Ventricular expression of atrial and brain natriuretic peptides in patients with myocarditis. *Int J Cardiol* 52, 213-222 (1995)

Minatoguchi S, Ito H, Ishimura K, Watanabe H, Imai Y, Koshiji M, Asano K, Hirakawa S, Fujiwara H: Modulation of noradrenaline release through presynaptic α_2 -adrenoceptors in congestive heart failure. *Am Heart J* 130(3), 516-521 (1995)

Minatoguchi S, Ito H, Suzuki T, Koshiji M, Kakami M, Uno Y, Asano K, Yamashita K, Hirakawa, Fujiwara H: Conversion of plasma noradrenaline from conjugated form into free form in the heart and its physiological significance in patients with cardiac disease. -a comparison between at rest and during exercise-. *Biogenic Amines* 11(5), 417-432 (1995)

Arakawa M, Miwa H, Noda T, Ito Y, Kambara K, Kagawa K, Nishigaki K, Kano A, Hirakawa S: Alternations in atrial natriuretic peptide release after DC cardioversion of non-valvular chronic atrial fibrillation. *Eur Heart J* 16, 977-985 (1995)

Noda T, Arakawa M, Miwa H, Ito Y, Kagawa K, Nishigaki K, Hirakawa S, Fujiwara H: Effects of heart rate on flow velocity of the left atrial appendage in patients with nonvalvular atrial fibrillation. *Clin Cardiol* 19, 295-300 (1996)

Ito Y, Arakawa M, Noda T, Miwa H, Kagawa K, Nishigaki K, Fujiwara H: Atrial reservoir and active transport function after cardioversion of chronic atrial fibrillation. *Heart Vessels* 11, 30-38 (1996)

Hasegawa K, Fujiwara H, Koshiji M, Inada T, Ohtani S, Doyama K, Tanaka M, Matsumori, A Fujiwara T, Shirakami G, Hosoda K, Nakao K, Sasayama S: Endothelin-1 and its receptor in hypertrophic cardiomyopathy. *Hypertension* 27, 259-264 (1996)

Takatsu H, Carlos M. Duncker, Arai M, M. D. Lewis, C. Becker: Neuronal and Non-neuronal A accumulation of [¹³¹I] Metaiodobenzylguanidine (MIBG) in reperfused myocardium after 60 min after 60 min ischemia in the anesthetized dog. *J Nucl Cardiol* (1996) in press

Takemura G, Hayakawa Y, Fujiwara H: Ultrastructure of apoptosis of smooth muscle cells. *Circulation* (1996) in press

Takemura G, Takatsu Y, Kaitani K, Ono M, Ando F, Tanada S, Niwa H, Tankawa H, Fujiwara T, Yamabe H: Metastasizing uterine leiomyoma: a case with cardiac and pulmonary metastasis. *Pathol Res Pract* (1996) in press

Nishigaki K, Tomita M, Kagawa K, Noda T, Minatoguchi S, Oda H, Watanabe S, Morita N, Nakao K, Fujiwara H: Marked expression of plasma brain natriuretic peptide is a special feature of hypertrophic obstructive cardiomyopathy. *J Am Coll Cardiol* (1996) in press

内科学第三講座

著書 (和文)

山北宜由, 三浦 清: 副腎偶発腫, Annual Review 内分泌代謝 1993, 岡 博, 永田直一, 金澤康徳, 柳沼 編, 東京, 中外医学社, 1993. 267-269

安田圭吾, 三浦 清: 副腎皮質ホルモンの生理作用, 最新内科学大系 15 副腎疾患, 水・電解質異常, 猿田亨男, 長瀧重信, 松倉 茂編, 東京, 中山書店, 1993. 37-42

山北宜由, 三浦 清: コルチゾ - ル, 小児臨床検査マニュアル, 大國真彦, 河野均也編, 東京, 文光堂, 1993. 322-326

安田圭吾: クッシング症候群, 今日の治療指針, 日野原重明, 阿部正和監修, 東京, 医学書院, 1994. 528

安田圭吾: 特発性浮腫 Idiopathic Edema, 今日の治療指針, 日野原重明, 阿部正和監修, 東京, 医学書院, 1995. 544

石塚達夫, 安田圭吾: インスリンの分泌・作用機序と糖尿病の成因, インスリン拮抗ホルモン, 糖尿病 分子メカニズムから病態・診断・治療まで, 門脇 孝, 河盛隆造, 渥美義仁編, 東京, 羊土社, 1995. 56-57

安田圭吾: 原発性アルドステロン症, 今日の治療指針, 日野原重明, 阿部正和監修, 東京, 医学書院, 1996. 557-558

森田浩之, 安田圭吾: 検査値のみかた, 中井利昭編, 東京, 中外医学社, 1996. 404-405

石塚達夫, 安田圭吾: 皮膚線条, 図説病態内科学講座 19, 症状, 症候- 2, 高久史磨監修, 東京, メジカルビュー社, 1996. 127-130

安田圭吾, 大洞尚司: 副腎皮質 糖質コルチコイド, Annual Review 内分泌代謝 1996, 岡博編, 東京, 中外医学社, 1996. 242-246

総説 (和文)

武田則之, 安田圭吾: 褐色細胞腫. 医学と薬学 29, 37-44 (1993)

- 山北宜由, 三浦 清: 先天性副腎皮質過形成. 日本臨床 51(増刊号), 150-159 (1993)
- 森田浩之, 安田圭吾: 検査値のみかた - 尿中 17 - OHCS -. 臨床医 19(増刊号), 734-735 (1993)
- 宗 友厚, 安田圭吾, 三浦 清: ステロイドホルモン異常症 - 分子生物学的アプローチ - Glucocorticoid Suppressible Hyperaldosteronism. 最新医学 48, 96-103 (1993)
- 安田圭吾: 糖尿病の概念と成因. 岐阜県医師会医学雑誌 6, 119-122 (1993)
- 武田則之: 糖尿病の鑑別診断と治療の選択. 岐阜県医師会医学雑誌 6, 123-127 (1993)
- 石塚達夫: 糖尿病性合併症 - 病態と治療 -. 岐阜県医師会医学雑誌 6, 129-135 (1993)
- 井上 洋: 特殊な状態における糖尿病の管理. 岐阜県医師会医学雑誌 6, 137-141 (1993)
- 安田圭吾: 糖尿病日常診療と内分泌疾患 - 症例を中心に -. 岐阜県医師会医学雑誌 6, 143-146 (1993)
- 安田圭吾, 武田則之, 石森正敏: 糖尿病の病態と成因 - 二次性糖尿病の病態と成因 -. medicina 30, 1416-1418 (1993)
- 安田圭吾, 三浦 清: 特殊な臨床像と治療効果を示すクッシング病 - 周期性クッシング症候群とプロモクリプチン大量療法 -. 日内分泌会誌 70, 11-16 (1994)
- 森田浩之, 安田圭吾, 三浦 清: 副腎 incidentaloma. 現代医療 26, 316-320 (1994)
- 森田浩之, 安田圭吾: 内分泌のはたらき. 薬局 45, 371-374 (1994)
- 坂田茂樹, 松井郁雄, 猿井 宏, 宅野 洋, 安田圭吾: TSH レセプター部分構造合成ペプチドを用いる抗 TSH レセプター抗体の受容体結合部位の同定法. 日本臨床 52, 193-198 (1994)
- 石森正敏, 武田則之, 安田圭吾: よくみる異常所見への First-line 検査 - 血糖値異常 -. medicina 31, 788-790 (1994)

和田 攻, 小林 功, 伊藤国彦, 坂田茂樹: 甲状腺疾患 診療のポイントとコツ. Medical Practice 11, 1367-1382 (1994)

坂田茂樹: 甲状腺ホルモン抗体. カレントセラピー 13, 133-137 (1994)

安田圭吾, 森田浩之: 下垂体前葉疾患-診断と治療のポイントと注意点, Cushing 病. 日内会誌 83, 2064-2068 (1994)

上久保啓太, 小川 徹, 平松佳子, 板谷聡実: 脂質異常の病態と治療 粥状硬化症の予防のために. 岐阜県内科医会雑誌 9, 1-12 (1995)

安田圭吾, 武田則之, 奥村昇司: 作業関連疾患 糖尿病. 産業医学ジャーナル 18, 24-30 (1995)

坂田茂樹: 甲状腺ホルモン抗体. カレントセラピー 13, 659-663 (1995)

大洞尚司, 柴田敏朗, 安田圭吾: クッシング症候群. 総合臨床 44, 2817-1810 (1995)

大洞尚司, 柴田敏朗, 安田圭吾: クッシング症候群. 循環科学 16, 14-17 (1996)

大洞尚司, 柴田敏朗, 安田圭吾: グルココルチコイド抑制性高アルドステロン症. 遺伝子病マニュアル Molecular Medicine 臨時増刊号, 294-295, (1996)

総説 (欧文・国内)

Yasuda K: Cyclic Cushing's disease: Pitfalls in the diagnosis and problems with the pathogenesis. Internal Medicine 35, 169-170 (1996)

総説 (欧文・国外)

Sakata S: Autoimmunity against thyroid hormones. Clinical Reviews Immunology 14, 157-191 (1994)

原著 (和文)

村井敏博, 井上 洋, 山田浩司, 石森正敏, 奥村昇司, 武田則之, 石塚達夫, 安田圭吾, 三浦清: 多嚢胞性卵巣症候群 (polycystic ovary syndrome, PCOS) における耐糖能に関する研究 - 臨床的観察並びにテストステロン投与ラットにおける検討 - . 岐阜大医紀 41, 80-95

(1993)

森岡康夫, 宮崎青爾, 嘉村正徳, 三浦 清 : L - アルギニンの血圧に対する作用 - ヒト及び無麻酔ラットでの検討 - . 岐阜大医紀 41, 416-431 (1993)

今井龍幸, 嘉村正徳, 永島寿彦, 和田啓明, 中島和也, 河村 暁, 鬼束惇義, 山田直樹: プレドニゾロンとウリナスタチンの頻回併用動注が有効であった潰瘍性大腸炎の 1 例. 岐阜県医師会医学雑誌 6, 337-340 (1993)

森田浩之, 諏訪哲也, 武田則之, 宗 友厚, 不破義之, 村山正憲, 安田圭吾, 三浦 清 : レセルピンと少量の下垂体照射で寛解した Cushing 病の 1 例. ホルモンと臨床 41(増刊号), 30-33 (1993)

高見和久, 上久保啓太, 諏訪哲也, 高見利恵子, 坂田茂樹 : きわめて少量のグリチルリチン製剤により著明な横紋筋融解をきたした偽性アルドステロン症の 1 例. 日本臨床内科医学会誌 8, 195-198 (1993)

吉田尚司, 森田浩之, 宗 友厚, 村山正憲, 遠藤順子, Ni HP, 安田圭吾 : Low dose ACTH 負荷試験時の健常者における各種副腎皮質ステロイド反応. ACTH RELATED PEPTIDE 4, 10-105 (1993)

高見利恵子, 上久保啓太, 諏訪哲也, 岡本清尚, 坂田茂樹 : いわゆる「慢性甲状腺炎急性増悪」の 2 例 - 亜急性甲状腺炎との比較検討 - . 高山赤十字病院紀要 17, 89-94 (1993)

谷口 治, 石塚達夫, 山本眞由美, 永島寿彦, 梶田和男, 和田啓明, 武田則之, 井上 洋, 安田圭吾 : 糖尿病における血小板凝集能および血小板イノシトール燐脂質代謝 - 治療による変動 - . 岐阜大医紀 42, 10-19 (1994)

石塚達夫, 谷口 治, 山本眞由美, 宗 友厚, 森田浩之, 森岡康夫, 地守研三, 五島英一 : 糖尿病治療と血小板のイノシトール燐脂質代謝との関連. 内科専門医会誌 6, 35-40 (1994)

遠藤順子, 武田則之, 安田圭吾, 武知桂史 : "Growth without GH" を呈した視床下部性汎下垂体機能低下症の 45 才男性例. 岐阜県内科医会雑誌 7, 69-73 (1994)

齊尾友希江, 嘉村正徳, 井上 洋, 石塚達夫, 安田圭吾 : 興味ある MR 像を示した鞍内発生 Germinoma の 1 例. 内科 73, 996-999 (1994)

古橋直樹, 三島 等, 竹腰昭道, 村雲芳樹, 猿井 宏, 宮崎青爾: マクロクレアチンキナーゼ血症を伴いウイルス性筋炎と思われる症状を繰り返した NIDDM の 1 例. 内科 73, 975-978 (1994)

小牧卓司, 吉野功二, 石森正敏, 斉藤雅之, 北田雅久: 著明な貧血をきたし, 原発性甲状腺機能低下症及び Empty sella を合併した ACTH 単独欠損症の 1 例. 岐阜県医師会医学雑誌 7, 317-320 (1994)

齊尾友希江, 嘉村正徳, 井上 洋, 石塚達夫, 安田圭吾: Fanconi 症候群, 骨軟化症をきたした K 型 Bence Jones 骨髄腫の 1 例. ホルモンと臨床 42(増刊号), 276-280 (1994)

嘉村正徳, 齊尾友希江, 井上 洋, 石塚達夫, 下川邦泰, 安田圭吾: MRI で興味ある画像を示した鞍内発生 germinoma の 1 例. ホルモンと臨床 42(増刊号), 63-66 (1994)

足立佳代子, 高見和久, 華房順子, 武田則之, 安田圭吾: Mild form 3 β -hydroxysteroid dehydrogenase 欠損症成人女性の 1 例. ホルモンと臨床 42(増刊号), 187-190 (1994)

倪 卉屏, 宗 友厚, 森田浩之, 大洞尚司, 華房順子, 柴田敏朗, 山北宜由, 安田圭吾: Effects of in vivo administration of antigluco-corticoid and antioxidants on suppression of aldosterone secretion following chronic ACTH treatment in rats. 岐阜大医紀 42(6), 437-445 (1994)

石森正敏, 武田則之, 奥村昇司, 中島和也, 杉本美雪, 村井敏博, 井上 洋, 安田圭吾: 内分泌疾患に伴う糖尿病でのインスリン感受性, インスリン分泌能 - NIDDM との比較 -. 岐阜大医紀 42, 446-454 (1994)

嘉村正徳, 齊尾友希江, 山本眞由美, 安田圭吾: 近位及び遠位尿細管性アシドーシスにおける骨軟化症. 岐阜県内科医会雑誌 8, 53-59 (1994)

山本眞由美, 石塚達夫, 梶田和男, 永島寿彦, 谷口 治, 安田圭吾: グルココルチコイドのインスリンによる糖輸送能抑制機序の検討 - グルココルチコイドによる蛋白質リン酸化反応への効果 -. PEPTIDE HORMONES IN PANCREAS 14, 60-63 (1994)

安藤祥子, 猿井 宏, 宅野 洋, 石塚達夫, 安田圭吾: ハプトグロビンが発作性夜間血色素尿症の腎障害防止に有効と考えられた 1 例. 内科 74, 747-750 (1994)

森田浩之, 石塚達夫, 山本眞由美, 吉田尚司, 遠藤順子, 柴田敏朗, 安田圭吾: ACTH 産生下垂体腺腫の ACTH 分泌機構 -reserpine, bromocriptine 前処置による検討. ACTH RELATED PEPTIDES 5, 21-26 (1994)

征矢英昭, 富田俊一, 花井淑晃, 吉里秀雄, 浜中健二, 石塚達夫: 発育期の筋トレーニングが糖輸送能に及ぼす効果とそれに対するインスリン様成長因子の貢献. 体力研究 85, 155-164 (1994)

原山美知子, 宮崎青爾, 小鹿丈夫, 三輪俊幸: 糖尿病診断エキスパートシステムの構築に関する研究. 岐阜大工研究報告 44, 101-108 (1994)

宮崎青爾, 嘉村正徳, 原山美知子, 小鹿丈夫: 高血圧の診断・治療エキスパートシステム, 診断を中心に. 岐阜大学医療技術短期大学部紀要 1, 109-119 (1994)

松井郁雄, 坂田茂樹, 宅野 洋, 猿井 宏, 安田圭吾: TSH レセプター部分構造合成ペプチドを用いた抗 TSH レセプター抗体の受容体結合部位に関する検討. 岐阜大医紀 43, 398-407 (1995)

華房順子, 宗 友厚, 森田浩之, 大洞尚司, Ni HP, 柴田敏朗, 村山正憲, Ahmed Shah Mokaddas Selim, 安田圭吾: ラットにおけるコルチコステロン代謝変動の視床下部 - 下垂体 - 副腎系への影響. 岐阜大医紀 43, 408-415 (1995)

山本眞由美, 石塚達夫, 梶田和男, 永島寿彦, 和田啓明, 板谷聡実, 安田圭吾: ラット脂肪細胞におけるグルココルチコイドによるプロテインキナーゼ C (PKC) 活性化について. 岐阜大医紀 43, 416-425 (1995)

板谷聡実, 石森正敏, 宅野 洋, 宗 友厚, 武田則之, 石塚達夫, 安田圭吾: 腎障害, 尿細管性アシドーシスを合併した Laurence-Moon-Biedl 症候群の 1 例. 日内会誌 84, 290-292 (1995)

奥村昇司, 森田浩之, 宅野 洋, 武田則之, 石塚達夫, 安田圭吾: 周期性嘔吐と共に ACTH・ADH・カテコラミンの周期性変動を示した成人女性例. ホルモンと臨床 43(秋季増刊号), 28-33 (1995)

猿井 宏, 奥村昇司, 嘉村正徳, 宅野 洋, 石塚達夫, 安田圭吾, 鷹尾博司, 梅本敬夫, 深田代

造, 下川邦泰, 吉本勝彦: 嚢胞性グルカゴノーマを発症した多発性内分泌腺腫症 1 型の 1 例. ホルモンと臨床 43(秋季増刊号), 183-188 (1995)

柴田敏朗, 華房順子, 山本眞由美, 大洞尚司, 森田浩之, 宅野 洋, 武田則之, 石塚達夫, 安田圭吾: 密閉型創傷被覆剤が奏効した難治性糖尿病性潰瘍の 1 例. 糖尿病 38, 721-726 (1995)

梶田和男, 石塚達夫, 山本眞由美, 永島寿彦, 板谷聡実, 和田啓明, 山田浩司, 安田圭吾: 糖質ステロイド (GC) によるインスリン抵抗性発現機序に関する検討 - GC による protein kinase C (PKC) の活性化機序に関する検討 - . PEPTIDE HORMONES IN PANCREAS 15, 70-74 (1995)

華房順子, 森田浩之, 宗 友厚, 大洞尚司, 柴田敏朗, 山本眞由美, Ni HP, 安田圭吾: Cushing 病における海綿静脈洞血漿中 CRF 濃度について. ACTH RELATED PEPTIDES 6, 89-93 (1995)

石森正敏, 武田則之, 奥村昇司, 中島和也, 杉本美雪, 井上 洋, 安田圭吾, 村井敏博: 副腎ホルモン過剰症における耐糖能の検討. 岐阜県内科医会雑誌 9, 21-26 (1995)

武藤直哉, 伊藤康文, 清水幸雄, 池田庸子, 杉本美雪: ヒトパルボウイルス B19 感染により aplastic crisis をきたした遺伝性球状赤血球症の孤発例と考えられる 1 例. 岐阜県内科医会雑誌 9, 41-44 (1995)

谷口 治, 石塚達夫, 村井敏博, 森田浩之, 和田栄二, 安田圭吾: MRSA による化膿性脊椎炎を合併した糖尿病の 1 例. 岐阜県内科医会雑誌 9, 59-64 (1995)

山田浩司, M. L. Standaert, 永島寿彦, 山本眞由美, 梶田和男, 石塚達夫, 安田圭吾, R. V. Farese: パナデートによるプロテインキナーゼ C 活性化とグルコース取り込み. PEPTIDE HORMONES IN PANCREAS 15, 75-79 (1995)

安田紀久子, 鈴木英司, 柴田敏朗, 武田則之, 井上 洋, 石塚達夫, 北田雅久, 幅浩嗣, 松波英一, 安田圭吾: 磁気共鳴画像による糖尿病性神経障害の非侵襲的検討. 糖尿病 39, 1-7 (1996)

永島寿彦, 石塚達夫, 梶田和男, 山本眞由美, 安田圭吾: ラット脂肪細胞における糖輸送能およびプロテインキナーゼ C (PKC) 活性に対する wortmannin の効果. 岐阜大医紀 44,

427-434 (1996)

嘉村正徳, 磯村幸範, 石森正敏, 宅野 洋, 安田圭吾 : Pamidronate disodium (アレディア (R)) 投与による骨代謝マーカーの変動を検討し得た PTHrP 産生舌癌の 1 例. CLINICAL CALCIUM 6, 100-102 (1996)

原著 (欧文・国内)

Morita H, Mune T, Yasuda K, Yamakita N, Miyazaki S, Miura K: Low plasma 19-hydroxyandrostenedione levels in patients with aldosterone-producing adenoma. *Endocr J* 40, 89-97 (1993)

Mune T, Yasuda K, Ishii M, Matsunaga T, Miura K: Tetany due to hypo-magnesemia induced by cisplatin and doxorubicin treatment for synovial sarcoma. *Intern. Med.* 32, 434-437 (1993)

Nakamura S, Hattori J, Ogawa T, Sakata S: Thyroid hormone autoantibodies in patients with untreated Graves' disease: with special reference to age. *Endocr J* 40, 337-342 (1993)

Sakata S, Matsuda M, Takuno H, Ogawa T, Matsui I, Sarui H, Maekawa, Kotani T, Okuda K, Tarutani O, Miura K: Immune recognition of hormonogenic sites of human thyroglobulin: Studies of Graves' sera and a murine monoclonal antibody with thyroid hormone antibody activity. *Endocr J* 40, 393-398 (1993)

Minamori Y, Yasuda K, Murayama M, Morita H, Yamakita N, Miura K: Effects of reserpine treatment on pituitary-adrenocortical axis in patients with Cushing's disease. *Endocr J* 40, 545-556 (1993)

Tanaka K, Shimizu N, Imura H, Hukata J, Hibi I, Tanaka T, Nakagawa S, Hujieda K, Takebe K, Yoshinaga K, Takakura K, Suwa S, Tachibana K, Kato K, Yoshimi T, Miura K, Kuwayama A, Ota Z, Kato Y, Saito S, Takahara J, Hashimoto K, Nawata H, Matsukura S, Yanaihara N: Human corticotropin-releasing hormone (hCRH) test: sex and age differences in plasma ACTH and cortisol responses and their reproducibility in healthy adults. *Endocr J* 40, 571-579 (1993)

Fukata J, Shimizu N, Imura H, Hibi I, Tanaka K, Tanaka T, Nakagawa S, Takebe K, Kimura K, Yoshinaga K, Takakura K, Demura H, Irie M, Miyachi Y, Yanaihara N, Yoshimi T, Miura K, Kuwayama A, Ota Z, Kato Y, Saito S, Takahara J, Hashimoto K, Nawata H, Matsukura S:

Human corticotropin-releasing hormone test in patients with hypothalamo-pituitary-adrenocortical disorders. *Endocr J* 40, 597-606 (1993)

Matsui I, Sakata S, Ogawa T, Takuno H, Sarui H, Komaki T, Manshoury T, Atassi MZ: Biological activities of rat antisera raised against synthetic peptides of human thyrotropin receptor. *Endocr J* 40, 607-612 (1993)

Sakata S, Takuno H, Ogawa T, Sarui H, Matsui I, Tanaka S, Okuda K: Antigenic structure of human thyroglobulin-epitopes containing hormonogenic tyrosines, 80 years of Hashimoto disease, (ed Nagataki S, Mori T, Torizuka K). Elsevier Science B.V. 1993. 437-443

Murayama M, Yasuda K, Minamori Y, Mercado-asis LB, Yamakita N, Morita H, Miura K: Long term follow-up of Cushing's disease treated with reserpine and pituitary irradiation followed by subtotal adrenalectomy. *Tohoku J Exp Med* 172, 97-109 (1994)

Kajita K, Ishizuka T, Yamamoto M, Nagashima T, Taniguchi O, Mune T, Murayama M, Kitagawa S, Yasuda K: ACTH and phorbol ester stimulated redistribution of protein kinase C in human cortisol-producing adrenal adenoma. *Endocr J* 41, 107-113 (1994)

Yamamoto M, Ishizuka T, Nagashima T, Taniguchi O, Yasuda K: Gluco-corticoids induce protein phosphorylation mediated by protein kinase C in rat adipocytes. Current status of diabetes mellitus in East Asia, (ed Mimura G, Rong-Li Quan, Murakami K). Elsevier Science B.V. 1994. (201-204)

Ishimori M, Takeda N, Okumura S, Murai T, Inouye H, Yasuda K: Increased insulin sensitivity in patients with aldosterone producing adenoma. Current status of diabetes mellitus in East Asia, (ed Mimura G, Rong-Li Quan, Murakami K). Elsevier Science B.V. 1994. (307-310)

Ishizuka T, Taniguchi O, Yamamoto M, Kajita K, Nagashima T, Takeda N, Inouye H, Yasuda K: Effect of treatment on thrombin-induced platelet aggregation, phosphoinositide metabolism and protein phosphorylation in diabetic patients. Pathogenesis and treatment on NIDDM and its related problems, (ed Sakamoto N, Alberti KGMM, Hotta N). Elsevier Science B.V. 1994. 427-432

Iwata J, Morita H, Yasuda K, Kuwayama A, Suzuki T, Demura H: Daily excretion levels of an unidentified ketosteroid in the urine of patients with Cushing's syndrome and healthy subjects

measured by a new method. *Endocr J* 42, 449-453 (1995)

Morita H, Daidoh H, Nagata K, Okano Y, Sudoh Y, Maruyama T, Sarui H, Ishizuka T, Akagi K, Nishino I, Yasuda K: A family of multiple endocrine neoplasia type 2A: Genetic analysis and clinical features. *Endocr J* 43, 25-30 (1996)

Suzuki E, Shibata T, Yasuda K, Takeda N, Inouye H, Ishizuka T, Yasuda K: Can administration of an aldose reductase inhibitor improve diabetic neuropathy ?, *Diabetic neuropathy*, (ed Hotta N,) Elsevier Science B.V. 1996. 393-398

原著 (欧文・国外)

Sakata S, Komaki T, Ogawa T, Takuno H, Matsui I, Sarui S, Kojima N, Takamatsu J, Miura K: Evaluation of thyroid function in patients with thyroid hormone autoantibodies. *Clinica Chimica Acta* 219, 23-34 (1993)

Mune T, Morita H, Yasuda K, Murayama M, Yamakita N, Miura K: Elevated plasma 19-hydroxyandrostenedione levels in Cushing's disease: stimulation with ACTH and inhibition with metyrapone. *Clin Endocrinol* 38, 265-272 (1993)

Mune T, Katakami H, Kato Y, Yasuda K, Matsukura S, Miura K: Production and secretion of parathyroid hormone-related protein in pheochromocytoma: participation of an α -adrenergic mechanism. *J Clin Endocrinol Metab* 76, 757-762 (1993)

Ishizuka T, Yamamoto M, Kajita K, Yasuda K, Miura K, Hernandez H, Farese RV: Differential effect of aging on protein kinase C activity in rat adipocytes and soleus muscle. *Metabolism* 42, 420-425 (1993)

Shimada T, Yasuda K, Mori A, Ni HP, Mercado-Asis LB, Murase H, Miura K: Aldosterone binding to mineralocorticoid receptors of mononuclear leukocytes in diabetic subjects. *Acta Endocrinol* 128, 529-535 (1993)

Mune T, Morita H, Yasuda K, Yamakita N, Miura K: Reduced response to metoclopramide and anomalous rising response to upright posture of plasma aldosterone concentration in Japanese patients with aldosterone-producing adenoma. *J.Clin.Endocrinol.Metab.* 77, 1020-1027 (1993)

Mitsuuchi Y, Kawamoto T, Miyahara K, Ulick S, Morton DH, Naiki Y, Kuribayashi I, Toda K, Hara T, Orii T, Yasuda K, Miura K, Yamamoto Y, Imura H, Shizuta Y: Congenitally defective aldosterone biosynthesis in humans: inactivation of the P-450c18 Gene (CYP11B2) due to nucleotide deletion in CMO I deficient patients. *Biochem Biophys Res Comm* 190, 864-869 (1993)

Yamakita N, Gomez-Sanchez CE, Mune T, Yoshida H, Miyazaki S, Yasuda K, Nakai T: Regulation of 18-oxocortisol and 18-hydroxycortisol by the renin-angiotensin system and ACTH in man. *J.Steroid Biochem Molec Biol* 46, 395-399 (1993)

Sakata S, Fuwa Y, Goto S, Fukui M, Yuasa H, Takuno H, Sarui H, Matsui I, Ogawa T, Sasano N: Two cases of Graves' disease with presentation of unilateral diffuse uptake of radioisotopes. *J Endocrinol Invest* 16, 903-907 (1993)

Mune T, Katakami H, Morita M, Noguchi S, Ushiroda Y, Matsukura S, Yasuda K, Miura K: Increased serum immunoreactive parathyroid hormone-related protein levels in chronic hypocalcemia. *J Clin Endocrinol Metab* 78, 575-580 (1994)

Yamakita N, Mune T, Morita H, Yasuda K, Miura K, Gomez-Sanchez CE: Plasma 18-oxocortisol levels in the patients with adrenocortical disorders. *Clin Endocrinol* 40, 583-587 (1994)

Morita H, Yasuda K, Nakashima K, Noritake N, Murayama M, Shimokawa K, Yamakita N, Sano T, Sasano N, Miura K: Cushing's syndrome caused by an ectopic pituitary adenoma of the sphenoid sinus: Adrenal crisis after partial resections of the adenoma. *Endocr Pathol* 5, 123-130, (1994)

Ishizuka T, Taniguchi O, Yamamoto M, Kajita K, Nagashima T, Takeda N, Inouye H, Yasuda K, Miura K: Thrombin-induced platelet aggregation, phosphoinositide metabolism and protein phosphorylation in NIDDM patients treated by diet, sulphonylurea or insulin. *Diabetologia* 37, 632-638 (1994)

Farese RV, Standaert ML, Arnold TP, Yamada K, Musunuru K: Preferential activation of microsomal diacylglycerol/protein kinase C signaling during glucose treatment (De Novo Phospholipid Synthesis) of rat adipocytes. *J Clin Invest* 93, 1894-1899 (1994)

Sakata S, Matsuda M, Ogawa T, Takuno H, Matsui I, Sarui H, Yasuda K: Prevalence of thyroid hormone autoantibodies in healthy subjects. *Clin Endocrinol* 41, 365-370 (1994)

Yamakita N, Gomez-Sanchez CE, Mune T, Morita H, Yoshida H, Miyazaki S, Yasuda K: Simultaneous measurement of plasma 18-oxocortisol and 18-hydroxycortisol levels in normal man. *Eur J Endocrinol* 131, 74-79(1994)

Ogawa T, Sakata S, Nakamura S, Takuno H, Matsui I, Sarui H, Yasuda K: Thyroid hormone autoantibodies in patients with Graves' disease: effect of anti-thyroid drug treatment. *Clinica Chimica Acta* 228, 113-122 (1994)

Ishimori M, Takeda N, Okumura S, Murai T, Inoue H, Yasuda K: Increased insulin sensitivity in patients with aldosterone producing adenoma. *Clin Endocrinol* 41, 433-438 (1994)

Agarwal AK, Mune T, Monder C, White PC: NAD⁺-dependent isoform of 11 β -hydroxysteroid dehydrogenase. *J Biol Chem* 269, 25959-25962 (1994)

Suzuki E, Yasuda K, Yasuda K, Miyazaki S, Takeda N, Inoue H, Omawari N, Miura K: 1H-NMR analysis of nerve edema in the streptozotocin-induced diabetic rat. *J Lab Clin Med* 124, 627-637 (1994)

Ishizuka T, Yamamoto M, Kajita K, Nagashima T, Taniguchi O, Wada H, Itaya S, Yasuda K: Phorbol ester and insulin stimulate protein kinase C isoforms in rat adipocytes. *Diab Res and Clin Prac* 26, 91-99 (1994)

Standaert ML, Musunuru K, Yamada K, Cooper DR, Farese RV: Insulin-stimulated phosphatidylcholine hydrolysis, diacylglycerol/protein kinase C signalling, and hexose transport in pertussis toxin-treated BC3H-1 myocytes. *Cellular Signalling* 6, 707-716 (1994)

Farese RV, Standaert ML, Yamada K, Huang LC, Zhang C, Cooper DR, Wang Z, Yang Y, Suzuki S, Toyota T, Larner J: Insulin-induced activation of glycerol-3-phosphate acyl transferase by a chiroinositol-containing insulin mediator is defective in adipocytes of insulin-resistant, type 2 diabetic Goto-Kakizaki rats. *Proc Natl Acad Sci USA* 91, 11040-11044 (1994)

Yamada K, Standaert ML, Yu B, Mischak H, Cooper DR, Farese RV: Insulin-like effects of sodium orthovanadate on diacylglycerol-protein kinase C signaling in BC3H-1 myocytes.

Archiv Biochem Biophys 312, 167-172 (1994)

Ishizuka T, Yamamoto M, Nagashima T, Kajita K, Taniguchi O, Yasuda K, Miura K: Effect of dexamethasone and prednisolone on insulin-induced activation of protein kinase C in rat adipocytes and soleus muscles. *Metabolism* 44, 298-306 (1995)

Mune T, Rogerson FM, Nikkila H, Agarwal AK, White PC: Human hypertension caused by mutations in the kidney isozyme of 11 β -hydroxysteroid dehydrogenase. *Nature Genetics* 10, 394-399 (1995)

Daidoh H, Morita H, Mune T, Murayama M, Hanafusa J, Ni HP, Shibata T, Yasuda K: Responses of plasma adrenocortical steroids to low dose ACTH in normal subjects. *Clin Endocrinol* 43, 311-315 (1995)

Agarwal AK, Mune T, Monder C, White PC: Mutations in putative glycosylation sites of rat 11 β -hydroxysteroid dehydrogenase affect enzymatic activity. *Biochem Biophys Acta* 1248, 70-74 (1995)

Ni HP, Mune T, Morita H, Daidoh H, Hanafusa J, Shibata T, Yamakita N, Yasuda K: Inhibition of aldosterone turn-off phenomenon following chronic adrenocorticotropin treatment with in vivo administration of antigluco-corticoid and antioxidants in rats. *European J Endocrinol* 133, 578-584 (1995)

Ishizuka T, Nagashima T, Yamamoto M, Kajita K, Yamada K, Wada H, Itaya S, Yasuda K, Nozawa Y: Effects of wortmannin on glucose uptake and protein kinase C activity in rat adipocytes. *Diab Res and Clin Prac* 29, 143-152 (1995)

Ishizuka T, Morita H, Mune T, Daidoh H, Hanafusa J, Yamamoto M, Shibata T, Yasuda K: Growth hormone secretion in human acromegalic pituitary adenoma: cyclic adenosine monophosphate and protein kinase C responses. *Metabolism* 45, 206-210 (1995)

Agarwal AK, Mune T, Monder C, White PC: Cloning of cDNA encoding an NAD⁺ dependent isoform of 11 β -hydroxysteroid dehydrogenase in sheep kidney. *Endocr Res* 21, 389-398 (1995)

White PC, Mune T, Agarwal AK: Functional studies of 11 β -hydroxysteroid dehydrogenase.

Steroids 60, 65-68 (1995)

Agarwal AK, Rogerson FM, Mune T, White PC: Gene structure and chromosomal localization of the human HSD11K gene encoding the kidney (Type 2) isozyme of 11 β -hydroxysteroid dehydrogenase. Genomics 29, 195-199 (1995)

Agarwal AK, Rogerson FM, Mune T, White PC: Analysis of the human gene encoding the kidney isozyme of 11 β -hydroxysteroid dehydrogenase. J Steroid Biochem Molec Biol 55, 473-479 (1995)

Yamada K, Avignon A, Standaert ML, Cooper DR, Spencer B, Farese RV: Effects of insulin on the translocation of protein kinase C α and other protein kinase C isoforms in rat skeletal muscles. Biochem J 308, 177-180 (1995)

Avignon A, Standaert ML, Yamada K, Mischak H, Spencer B, Farese RV: Insulin increases mRNA levels of protein kinase C α and β in rat adipocytes and protein kinase C α , β , and δ in rat skeletal muscle. Biochem J 308, 181-187 (1995)

Ishizuka T, Morita H, Mune T, Daido H, Hanafusa J, Yamamoto M, Shibata T, Yasuda K: Growth hormone secretion in human acromegalic pituitary adenoma: Cyclic adenosine monophosphate and protein kinase C responses. Metabolism 45, 206-210 (1996)

Morita H, Suwa T, Daidoh H, Takeda N, Ishizuka T, Yasuda K: Diabetic microangiopathic hemolytic anemia and thrombocytopenia with antiphospholipid syndrome. Am J of Med Sci 311, 148-151 (1996)

その他

三浦 清, 遠藤順子, 安田圭吾, 宗 友厚, 森田浩之, 吉田尚司, Ni HP: コルチコステロン代謝変動時のラット血漿 ACTH 反応. 厚生省特定疾患間脳下垂体機能障害調査研究班平成 4 年度総括研究事業報告書, 154-157, 1993

三浦 清, 宗 友厚, 森田浩之, 安田圭吾: 副腎腺腫による原発性アルドステロン症およびクッシング症候群における血漿 19-OH-androstenedione 値, ならびにその分泌機序. 厚生省特定疾患副腎ホルモン産生異常症調査研究班平成 4 年度研究報告書, 102-111, 1993

安田圭吾: 教授就任にあたって. 岐阜医学会館だより 31, 2-3, 1993

安田圭吾：ホルモン分泌異常を伴う内分泌疾患による二次性糖尿病．毎日ライフ 11, 88-90, 1993

安田圭吾, 山北宜由, 森田浩之, 吉田尚司, 宗 友厚, 遠藤順子: 健常者および副腎疾患患者における血漿 18-oxocortisol 濃度とその分泌調節機構. 厚生省特定疾患「副腎ホルモン産生異常症」調査研究班平成 5 年度研究報告書, 97-108, 1994

安田圭吾：記憶に残る講義. オルコス 25, 18-19, 1994

安田圭吾：副腎疾患の診療 - 最近の進歩 - , 日本内科学会東海支部第 11 回生涯教育講演会 14 , 1994

安田圭吾, 山本蒔子, 奥村昇司, 山本眞由美, 石森正敏, 武田則之, 石塚達夫, 井上 洋: 耐糖能, ストレスホルモンに及ぼす隔日交代勤務および夜勤勤務の影響に関する検討. 平成 4 - 6 年度労働省作業関連疾患総合対策研究「作業態様と糖尿病」研究報告書, 15-34, 1995

安田圭吾, 森田浩之, Ni HP, 宗 友厚, 華房順子, 大洞尚司, 柴田敏朗, Ahmed SMS : ラットにおける慢性 ACTH 投与時のアルドステロン分泌抑制に対する RU486 , DMSO , ビタミン E の影響. 副腎ホルモン産生異常症調査研究班平成 6 年度研究報告書, 40-50, 1995

安田圭吾, 山北宜由, 三浦 清, 森田浩之: 副腎腺腫による Subclinical Cushing's Syndrome から顕性 Cushing's Syndrome への移行の可能性. 副腎ホルモン産生異常症調査研究班平成 6 年度研究報告書, 149-158, 1995

山本眞由美：学術研究助成を授与されて. 日本女医会誌, 143, 7-8, 1995

安田圭吾：平先生の思い出. 平則夫教授退官記念業績集 28 , 1995

石塚達夫, 安田圭吾：糖尿病 臨床検査の最新情報. MEDICAMENT NEWS 1472, 5-6, 1995

安田圭吾：肝性・膵性糖尿病と一次性糖尿病の差異. 日本医事新報 3704, 127-128, 1995

武田則之：糖尿病と産後の甲状腺機能異常. 岐阜医学会館だより 37, 9-10, 1995

石塚達夫, 安田圭吾：膵性糖尿病の診断, 治療法および予後. 日本医事新報 3750 , 159-

160, 1996

武田則之：シンドローム X とその周辺. 岐阜市医師会だより 28, 8-10, 1996

安田圭吾：保健管理センター年報まえがき. 保健管理センター年報 19, 1996

外科学第一講座

総説 (和文)

松本興治：2. 代用血管. 四肢動脈疾患のすべて, 250-256 (1993)

広瀬 一：心疾患と栄養管理. 栄養 - 評価と治療 11, 423-427(1994)

広瀬 一：若年者心疾患外科的治療後の Quality of Life - 特に岐阜県の現状について - . 若年者心疾患対策協議会誌 22, 31-41 (1994)

鬼束惇義, 広瀬 一：消化管症候群 (食道・胃・腸・中垂・肛門) - その他の消化管疾患を含めて - (上巻) 十二指腸閉塞症「先天性, 後天性」. 日本臨床 5, 796-798 (1994)

林 勝知, 飯田辰美：特集食道外科と QOL 食道癌の予後決定因子は何か. 外科 56, 402(1994)

林 勝知, 鬼束惇義：肝内胆管腺扁平上皮癌. 肝胆道系症候群 - その他の肝胆道系疾患を含めて - 肝臓編 (上巻), 405-407 (1994)

飯田辰美, 広瀬 一：消化器外科 下部胆管癌術後・救急・重症疾患管理における上部消化管出血対策の実際. 臨床症例集, 52-53 (1994)

広瀬 一：新薬展望 1995 免疫抑制剤. 医薬ジャーナル 31, 159-165 (1995)

広瀬 一：病態と栄養：進歩した栄養治療の実際 心不全. エキスパートナース 11, 114-116 (1995)

鬼束惇義：膵腺房細胞癌. 日本臨床領域別症候群シリーズ, 266-268 (1996)

原著 (和文)

鬼束惇義, 安田博之, 宮田知幸, 荒川博徳, 千賀省始, 林 勝知：S 8 肝癌に対する開胸開腹アプローチの有用性. 岐阜大学医学部紀要 41, 1012-1016 (1993)

後藤裕夫, 望月亮三, 兼松雅之, 森省一郎, 井上明美, 飯沼 元, 曾根康博, 鈴木雅雄, 土井偉誉, 東健一郎, 広瀬 一, 下川邦泰, 池田庸子：びまん性粘膜下異所腺

に合併した多発早期胃癌の 1 例 . 胃と腸 28, 581-592 (1993)

小久保光治, 杉本浩志, 野垣晴彦, 石川 真, 酒井 聡, 広瀬 一, 下川邦泰: 若年女性の肺硬化性血管腫の 1 例 . 日本呼吸器外科学会誌 7, 673-677 (1993)

不破誠行, 田中常雄, 橋本昌紀, 石川 真, 東健一郎, 広瀬 一: 循環停止法併用心室細動下の冠血行再建術の 1 治験例 - 広範性上行大動脈石灰化例への応用 - . 日胸外会誌 41, 2378-2382 (1993)

不破誠行, 岩田 尚, 橋本昌紀, 久保清景, 石川 真, 荒川博徳, 東健一郎, 広瀬 一: DDD ペースメーカーリード被膜破損による大胸筋攣縮と心室偽抑制の 1 例 . THERAPEUTIC RESEARCH 14, 1703-1704 (1993)

不破誠行, 松本興治, 荒川博徳, 広瀬 一: 弓部大動脈瘤に対する手術成績向上を目指した工夫 . 脈管学 33, 329-333 (1993)

飯田辰美, 伊藤英夫, 片桐義文, 荒川博徳, 宮田知幸, 酒井 聡, 千賀省始, 林 勝知, 広瀬 一: 虚血性心疾患をともなった肝臓癌症例に対する心肝同時手術の 1 治験例 . 日本消化器外科学会雑誌 26, 2069-2073 (1993)

小池茂文, 松本興治, 稲田 潔, 広瀬 一: 術後深部静脈血栓症に関する研究 - とくに予防について - . 岐阜大学医学部紀要 41, 365-373 (1993)

味元宏道, 森 義雄, 村川真司, 林 勝知, 広瀬 一: 体外循環中の凝固線溶系, および血小板機能の変動について 特にアプロチニンとメシル酸ガベキサートの効果 . 岐阜大学医学部紀要 41, 480-496 (1993)

森 義雄, 村川真司, 東健一郎, 山田 拓, 橋本昌紀, 広瀬 一: コンダクタンスカテテルを用いた左室圧容積関係による術中及び体外循環中左心機能評価に関する臨床的検討 . 日本外科学会雑誌 94, 625-630 (1993)

森 義雄, 広瀬 一, 梅田正五, 小久保光治, 村川真司, 酒井 聡, 東健一郎, 山田 拓, 橋本昌紀: 体外循環中の左室 Emax を指標とした体外循環後心機能予測に関する臨床的検討 . 日胸外会誌 41, 1276-1280 (1993)

酒井 聡, 島袋勝也, 久保清景, 石川 真, 東健一郎, 不破誠行, 下川邦泰, 稲田

潔，小久保光治，広瀬 一：多発性毛細血管拡張型肺動静脈瘻の一例．日本胸部臨床 52, 640-644 (1993)

酒井 聡，広瀬 一，岩田 尚，久保清景，石川 真，東健一郎，不破誠行：rhG-CSFを用いた肺癌化学療法における好中球機能の検討．BIOTHERAPY 7, 1517-1519 (1993)

酒井 聡，森 義雄，味元宏道，富田良照，田中春仁，中原康治，広瀬 一：乳癌の肺転移により気胸を併発した 1 例．日本胸部疾患学会雑誌 31, 1596-1600 (1993)

東健一郎，広瀬 一，松本興治，荒川博徳：経食道心房ペーシング負荷法による虚血性心疾患のスクリーニングについて - とくに下肢閉塞性動脈硬化症例と大動脈瘤症例に対して - ．日本心臓血管外科学誌 22, 456-461 (1993)

宮田知幸，林 勝知，林 昌俊，伊藤英夫，松友寛和，片桐義文，千賀省始，飯田辰美，広瀬 一：びまん浸潤型大腸癌の 5 例．日本大腸肛門病学会雑誌 46, 895-899 (1993)

渡辺 敬，林 勝知，千賀省始，宮田知幸，飯田辰美，鬼束惇義，広瀬 一：閉塞性黄疸肝虚血再灌流時における高エネルギー燐酸化合物及び組織血流量の変動に関する実験的研究 - 間歇的反复虚血の影響について - ．日本外科学会雑誌 94, 796-800 (1993)

山田 拓，広瀬 一，林 勝知，飯田辰美，田辺 博，鬼束惇義：臍頭十二指腸切除術後および胃切除術後症例の骨障害の検討 - digital image processing method(DIP) 法を用いて - ．日本臨床外科医学会雑誌 54, 1-5 (1993)

山田 拓，広瀬 一，梅田正五，村川真司，森 義雄，岩田 尚：右心室粘液腫の一治験例．日胸外会誌 41, 1069-1073 (1993)

久保清景，大川育秀，小池茂文，野垣晴彦，村瀬恭一：SJM 弁による人工弁置換術後の急性期溶血に関する臨床的検討 Sewing cuff の比較．人工臓器 22, 1168-1171 (1993)

今井直基，田辺 博，渡辺 進：鼠径ヘルニア内中垂嵌頓の 1 例．外科診療 35, 599-602 (1993)

今井直基，関野昌宏，清水幸雄，細野竜司，後藤全宏，田辺 博，藤井 純：消化管出血シンチグラフィーが有用であった十二指腸憩室大量出血の 1 例．日本消化器外科学会雑誌 26, 1266-1270 (1993)

橋本昌紀， 広瀬 一， 幸村定昭， 八木國夫：心移植後の冠動脈内膜肥厚と過酸化脂質レベルの動態について． 岐阜大学医学部紀要 41, 497-503 (1993)

橋本高志， 千賀省始， 飯田辰美， 林 勝知， 下川邦泰， 広瀬 一：陶器様胆嚢の 1 例． 外科診療 35, 1441-1445 (1993)

鬼束惇義， 安田博之， 山田直樹， 宮田知幸， 可知稔己：C 型肝炎に対するインターフェロン投与後， 自然破裂で診断された急速発育型肝細胞癌の 1 例． 日本外科学会雑誌 95, 838-842 (1994)

松本興治， 広瀬 一， 林 勝知， 小久保光治， 不破誠行， 小池茂文：術後深部静脈血栓症に関する研究． 脈管学 5, 163-170 (1994)

林 勝知， 宮田知幸， 千賀省始， 飯田辰美， 下川邦泰， 広瀬 一：大腸癌における腫瘍内浸潤リンパ球についての検討． 岐阜大学医学部紀要 42, 361-365 (1994)

林 勝知， 澤田 傑， 林 昌俊， 伊藤英夫， 片桐義文， 松友寛和， 千賀省始， 飯田辰美， 下川邦泰， 広瀬 一：von Recklinghausen 病に合併した両側嚢胞内乳癌の 1 例． 外科 56, 875-877 (1994)

小久保光治， 酒井 聡， 広瀬 一， 下川邦泰：Hemangiopericytoma 様所見を呈した胸腺腫の 1 例． 日本呼吸器外科学会雑誌 8, 717-720 (1994)

千賀省始， 伊藤英夫， 林 昌俊， 片桐義文， 松友寛和， 宮田知幸， 渡辺 敬， 宮本康二， 飯田辰美， 林 勝知， 広瀬 一， 鬼束惇義：ラット肝虚血障害時の胆汁流量の回復率と生存率の関係に関する実験的検討． 移植 29, 6-12 (1994)

千賀省始， 柴田雅也， 林 昌俊， 片桐義文， 松友寛和， 渡辺 敬， 飯田辰美， 林 勝知， 伊藤英夫， 今井直基， 広瀬 一， 鬼束惇義， 宮田知幸：ラット肝虚血再灌流障害時の血漿アミノ酸値に関する実験的検討 - liposomal encapsulated superoxide dismutase 投与の意義について - ． 移植 29, 166-173 (1994)

村川真司， 広瀬 一， 森 義雄， 東健一郎， 石川 真， 橋本昌紀， 岩田 尚：³¹P-NMR 法を用いた UW 液のラット摘出心低温虚血に対する影響の検討． 移植 29, 116-126 (1994)

酒井 聡，片桐義文，石川 真，東健一郎，不破誠行，林 秀男，井上 洋，松井英介，下川邦泰，小久保光治，広瀬 一：転移性肺腫瘍と鑑別が困難であった肺クリプトコッカス症の 1 例．日本胸部臨床 53, 59-64 (1994)

石川 真，広瀬 一，佐々木栄作，伊藤英夫，森 義雄：電気インピーダンスを用いた保存心 viability 評価法の確立に関する実験的研究．移植 29, 127-136 (1994)

佐々木栄作，不破誠行，村川真司，梅田正五，東健一郎，関野孝史，村上栄二，広瀬 一：左心補助人工心臓と IABP との交互駆動法を用いて，補助人工心臓より円滑な離脱を行えた 1 例．人工臓器 23, 1025-1028 (1994)

東健一郎，広瀬 一，松本興治：下肢閉塞性動脈硬化症および大動脈瘤に虚血性心疾患が合併した際の外科治療法の選択についての検討．日本心臓血管外科学会雑誌 23, 409-414 (1994)

前田直子，島崎 信，加藤則廣，村瀬全彦，二ノ宮三生，森脇久隆，武藤泰敏，林勝知，広瀬 一，下川邦泰：術前に US によって描出し得た魚骨による S 状結腸膿瘍の 1 例．岐阜県内科医会雑誌 7, 27-32 (1994)

不破誠行，広瀬 一，村川真司，熊田佳孝，古沢泰伸，高木寿人，久保清景，柴田雅也，佐々木栄作，松本興治：胸部臓器偽腔灌流を伴う DeBakey b 型慢性解離性大動脈瘤手術症例の検討．日本胸部外科学会雑誌 43, 30-35 (1995)

不破誠行，広瀬 一，橋本昌紀，岩田 尚，久保清景，石川 真，荒川博徳，東健一郎，松本興治：末梢側両腔吻合法を用いた DeBakey b 型解離性大動脈瘤手術症例の検討．日本心臓血管外科学会雑誌 24, 281-285 (1995)

飯田辰美，広瀬 一，林 昌俊，伊藤英夫，片桐義文，宮田知幸，東健一郎，酒井聡，千賀省始，不破誠行，林 勝知：虚血性心疾患を併存する一般外科手術 - 特に胸腹部悪性腫瘍症例 - ．日本臨床外科医学会雑誌 56, 2546-2552 (1995)

味元宏道，松本興治，荒川博徳，橋本昌紀，東健一郎，不破誠行，広瀬 一：腹部交感神経 (節) 切除術の治療成績．脈管学 35, 39-44 (1995)

千賀省始，関野孝史，伊藤英夫，今井直基，柴田雅也，林昌俊，片桐義文，松友寛

和，宮田知幸，飯田辰美，林 勝知，鬼束惇義，広瀬 一：Omeprazole の経管投与が著効を示した十二指腸潰瘍穿孔術後出血の 1 例．岐阜大学医学部紀要 43，666-68 (1995)

酒井 聡，島袋勝也，村上栄司，岩田 尚，不破誠行，広瀬 一：重症筋無力症と赤芽球癆を合併した浸潤型胸腺腫の 1 例．日本胸部外科学会雑誌 43, 60-64 (1995)

酒井 聡，久保清景，荒川博徳，不破誠行，松本興治，広瀬 一：肺癌と腹部大動脈瘤に対する一期的根治術を行った 1 例．日本呼吸器外科学会雑誌 9, 199-204 (1995)

酒井 聡，飯田 豊，不破誠行，縄田万寿美，田中春仁，澤 祥幸，広瀬 一：顆粒状コロニー刺激因子 (G - CSF) 産生肺癌の 1 例．日本胸部臨床 54, 814-818 (1995)

東健一郎，広瀬 一，松本興治：下肢閉塞性動脈硬化症例に対するアームエルゴメーター負荷法による虚血性心疾患のスクリーニングとその外科治療法の選択について．日本心臓血管外科学会雑誌 24, 89-94 (1995)

荒川博徳，広瀬 一，松本興治，柴田雅也，林 雅俊，不破誠行，清島 満，矢野容子，野間昭夫：閉塞性動脈硬化症における動脈壁組織 Lp(a) 値の検討．脈管学 35, 161-166 (1995)

石川 真，広瀬 一，佐々木栄作，伊藤英夫，村川真司，森 義雄，不破誠行：電気インピーダンスを用いた単純浸漬保存の保存時間限界の予測に関する実験的研究．日本胸部外科学会雑誌 43, 31-38 (1995)

松友寛和，松本興治，関野孝史，荒川博徳，不破誠行，広瀬 一：腹部大動脈瘤術後，残存した腎動脈下大動脈に瘤化をきたした 1 例．日本血管外科学会雑誌 4, 453-457 (1995)

佐々木栄作：第 41 回 ASAIO 印象記．人工臓器 24, 1015-1017 (1995)

高木寿人，広瀬 一，松本興治，不破誠行，村川真司，森 義雄，石川 真，久保清景，熊田佳孝，岩田 尚，古沢泰伸，坂東道哉：閉塞性動脈硬化症合併弓部大動脈瘤に対する脳分離体外循環時に順行性下半身灌流を試みた一例．胸部外科 48, 873-876 (1995)

久保清景，熊田佳孝，林 昌俊，柴田雅也，古沢泰伸，高木寿人，村川真司，不破誠行，松本興治，広瀬 一：b. 解離性大動脈瘤（症例 1）自家腎移植を含む胸腹部大動脈置換術を施行した DeBakey b 型解離性大動脈瘤の 1 例．腹部大動脈分枝の外科，185-186 (1995)

久保清景，広瀬 一，松本興治，不破誠行，森 義雄，石川 真：胸骨浸食を呈した術後仮性遠位弓部大動脈瘤に対する左開胸/低体温脳循環停止法による 1 再手術治験例．日本胸部外科学会雑誌 44, 188-191 (1995)

今井直基，飯田辰美，千賀省始，片桐義文，松友寛和，広瀬 一：表層拡大型早期胆嚢管癌の 1 例．手術 49, 1873-1876 (1995)

江里健輔，安田慶秀，阿部忠昭，星野俊一，石丸 新，堀豪 一，広瀬 一，宮本巍，伊藤勝朗，内田發三，加藤逸夫夫，岡留健一郎，中島光好，三島好男，勝村達喜：Prostacyclin 誘導体（クリンプロスト）含有製剤 TTC - 909 の慢性動脈閉塞症に対する臨床的検討 - 多施設二重盲検法による至適用量設定試験 - ．臨床医学 11, 91-121 (1995)

岩田 尚，松本興治，荒川博徳，柴田雅也，不破誠行，広瀬 一：腎動脈が瘤より分枝し腎動脈再建を要した腹部大動脈瘤の 3 手術例．日本血管外科学会雑誌 4, 103-107 (1995)

坂東道哉，佐々木栄作，石川 真，広瀬 一：電氣的周波数特性の解析による保存中の心筋の viability の評価．医用電子と生体工学 33, 248 (1995)

坂東道哉，広瀬 一，不破誠行，森 義雄，村川真司，熊田佳孝，高木寿人，古沢泰伸，東健一郎：上行大動脈硬化例に対する冠状動脈バイパス術の検討．胸部外科 48, 933-936 (1995)

千賀省始，林 勝知，鬼束惇義，杉本浩志，今井直基，柴田雅也，広瀬 一：虫垂腫瘍と鑑別が困難であった虫垂炎の 1 例．外科 58, 772-776 (1996)

佐々木裕茂，広瀬 一，酒井 聡，張玉 清：ラット肺移植における急性期拒絶反応時白血球及び bronchoalveolar lavege の変化に関する研究．岐阜大学医学部紀要 44, 435-442 (1996)

松友寛和，広瀬 一，千賀省始，伊藤英夫，林 昌俊，片桐義文，飯田辰美，林 勝

知，鬼束惇義：Thioacetamide によるラット硬変肝の虚血耐用能に関する実験的検討．日本消化器外科学会雑誌 29, 983-389 (1996)

高木寿人，広瀬 一，松本興治，不破誠行，村川真司，森 義雄，佐々木栄作，久保清景，熊田佳孝，古沢泰伸，松尾 浩，可知宏隆：Stanford A 型慢性解離を合併した真性弓部大動脈瘤破裂の 1 治験例．胸部外科 49, 239-242 (1996)

福地貴彦，鬼束惇義，林 勝知，千賀省始，片桐義文，林 昌俊，今井直基，柴田雅也，山内希美，二村直樹，角 泰廣，広瀬 一：胃，大腸手術における術後持続硬膜外モルヒネ投与の安全性および問題点の検討．日本消化器外科学会雑誌 29, 960-964 (1996)

二村直樹，中村栄男，越川 卓，須知泰山，小島 勝，鬼束惇義，林 勝知，広瀬一：消化管原発悪性リンパ腫における Epstein-Barr Virus 関連腫瘍の検討．日本消化器病学会雑誌 93, 322-330 (1996)

原著 (欧文・国内)

H. Hirose, E. Sasaki: Bridge use for cardiac transplantation. (ed Sezai Y), Artificial Heart 1993, Switzerland, Harwood Academic. Publishers 209-211 (1993)

Y. H. Hu, H. Shimizu, N. Kawakami, N. Takatsuka, M. Ido and H. Hirose: Increasing trends in mortality rate of aortic aneurysms in Japan, 1955-90. Tohoku J Exp Med 171, 221-228 (1993)

A. Onitsuka, N. Yamada, H. Yasuda and T. Miyata: Rapid growth of hepatocellular carcinoma after or during Interferon treatment for chronic hepatitis C. Surgery Today 26, 126-130 (1996)

原著 (欧文・国外)

A. Onitsuka, N. Yamada, H. Yasuda and T. Miyata: Ruptured hepatoma managed as embolization followed by hepatic resection. Dig Surg 10, 259-261 (1993)

Y. Mori, H. Hirose, S. Murakawa, T. Yamada, H. Arakawa and M. Ishikawa: Simple cold storage of the heart with the University of Wisconsin Solution: Evaluation in canine Heterotopically and orthotopically transplanted heart. Transplantation Proceedings 25, 1580-1581 (1993)

S. Akamatsu, N. Ueda, E. Terazawa, H. Hirose and S. Dohi: Mitral prosthetic dehiscence with laminar regurgitant flow signals assessed transesophageal echocardiography. *Chest* 104, 1911-1913 (1993)

M. Hashimoto, H. Hirose, S. Fuwa, S. Komura, N. Ohishi and K. Yagi: Increase in serum lipid peroxide level and development of intimal proliferation in coronary artery after heart transplantation in rats. *J Clin Biochem Nutr.* 14, 113-119 (1993)

H. Iwata, S. Kitagawa, S. Sato, A. Kosugi and H. Hirose: Suppression of allograft responses by combining donor alloantigen-specific intravenous presensitization with suboptimal doses of FK506. *Transplantation* 56, 173-180 (1993)

H. Hirose, S. Umeda, Y. Mori, S. Murakawa, K. Azuma and T. Hashimoto: Another approach for aortic valve replacement through left thoracotomy. *Ann Thorac Surg* 58, 884-886 (1994)

Y. Mori, H. Hirose, S. Murakawa, T. Yamada and M. Ishikawa: Evaluation of hypothermic heart preservation with University of Wisconsin Solution in heterotopically and orthotopically transplanted canine hearts. *J Heart & Lung Transplant* 13, 688-695 (1994)

Y. Mori, K. Ueno, A. Hattori and H. Mimoto: Emergency cardiopulmonary bypass support in patients with cardiac arrest by myocardial infarction. *Artificial Organs* 18, 698-701 (1994)

E. Sasaki, T. Nakatani, Y. Taenaka, H. Takano and H. Hirose: Novel method to determine instantaneous blood volume in pulsatile blood pump using electrical impedance. *Artificial Organs* 18, 603-610 (1994)

E. Sasaki, J.L. Conger, K.A. Kadipasaoglu: Simultaneous evaluation of cardiac wall motion and myocardial ischemic injury by measurement of electrical impedance. *ASAIO Journal* 43, 356-359 (1994)

H. Iwata, T. Nagano, K. Toyo-oka, H. Hirose, T. Hamaoka and H. Fujiwara: Suppression of allograft responses by combining alloantigen-specific IV: Presensitization with suboptimal doses of FK 506 or rapamycin. *Transplantation Proceedings* 26, 851-854 (1994)

A. Onitsuka, H. Hirose, Y. Ozeki, A. Hino, S. Senga and T. Iida: Clinical study on

hepatocellular carcinoma with extrahepatic malignancies. International Surgery 80, 128-130 (1995)

E. Sasaki, H. Hirose, H. Ito, M. Bando and S. Senga: Dielectric spectrogram for instantaneous evaluation of ischemic injury of the liver. ASAIO J 41, M356-M359 (1995)

T. Imaeda, M. Kanematsu, S. Asada, M. Seki, E. Matsui, H. Doi, S. Sakai, M. Kokubo and H. Hirose: Prediction of pulmonary function after resection of primary lung cancer utility of inhalation-perfusion SPECT imaging. Clin Nucl Med 20, 792-799 (1995)

Y. Hu, H. Shimizu, N. Takatsuka, M. Ido and H. Hirose: Trends in prevalence rates asymptomatic aortic aneurysms in Japan based on autopsy series. J Epidemiol 5, 159-163 (1995)

H. Matsuda, M. Kaneko, Y. Miyamoto, T. Masai, T. Nakatani, E. Sasaki and OH. Frazier: Overseas transport of a patient with an extracorporeal left ventricular assist device. Ann Thorac Surg 59, 522-523 (1995)

Y. Katagiri, H. Hirose, A. Onitsuka, S. Senga, M. Hayashi, N. Imai, T. Iida, M. Hayashi: Influence of CO₂ tension on hepatic hemodynamics during portal arterialization. J Surg Res 61, 39-43 (1996)

M. Ishikawa, H. Hirose, E. Sasaki, M. Bando, Y. Mori and S. Murakawa: Evaluation of myocardial viability during simple cold storage with the use of electrical properties in broad frequencies. J Heart & Lung Transplant (in press)

M. Ishikawa, H. Hirose, Y. Mori, S. Murakawa, K. Kubo, E. Sasaki and H. Ito: Detection of myocardial ischemic injury during simple cold storage by measurement of myocardial electrical impedance. J Cardio Vasc Surg (in Press)

その他

厚生省報告書

広瀬 一： 3 指 - 2 (分担研究課題) 人工循環法の開発と制御に関する研究 (高野班：一時的使用人工循環装置の改良・開発に関する研究. 補助人工心臓のポンプ内血液量の非侵襲的リアルタイム計測に関する研究) 厚生省循環器病研究委託費による研究報告集 67, (平成 5 年度)

広瀬 一： 5 指 - 1 (分担研究課題) 心臓・心肺移植に関する総合的研究 (松田班：心臓・心肺移植に関する基礎的研究。電気インピーダンスを用いた保存心の VIABILITY 評価法の確立に関する実験的研究) 厚生省循環器病研究委託費による研究報告集 373, (平成 5 年度). 128 (平成 6 年度)

外科学第二講座

著書 (和文)

佐治重豊, 高橋治海: 細胞死の生物学, 三羽信比古編, 東京書籍, 1993. 141-147

佐治重豊, 峠 哲哉: 外科医のための癌治療マニュアル, メディカルレビュー - 社, 1994. 1-142

佐治重豊: 腫瘍, 標準外科学, 医学書院, 1995. 181-207

総説 (和文)

佐治重豊: 悪性腫瘍治療の最近の動向 - 特に消化器外科領域を中心に - . 岐阜県内科医会雑誌 6, 11-20 (1993)

佐治重豊, 宮 喜一, 杉山保幸: 癌性腹膜炎・腹膜仮性粘液腫 . 外科治療 68, 969-972 (1993)

佐治重豊, 国枝克行, 杉山保幸: 胃癌の補助化学 (免疫) 療法の再評価 . 消化器癌 3, 303-310 (1993)

杉山保幸, 佐治重豊, 国枝克行, 山田 誠: 担癌宿主側要因からみた胃癌の補助免疫療法の再評価 . 消化器癌 3, 323-329 (1993)

杉山保幸, 佐治重豊, 国枝克行, 山田 誠: 胃癌に対する免疫療法の臨床評価と展望 . BIOTHERAPY 7, 1765-1771 (1993)

佐治重豊: 癌免疫療法の現状 . 医学のあゆみ 168, 144-145 (1994)

佐治重豊, 杉山保幸, 宮 喜一: 腫瘍外科 . 外科診療 36, 465-470 (1994)

佐治重豊, 深田代造: 直腸・肛門手術のための局所解剖 . 外科治療 71, 433-442 (1994)

佐治重豊, 杉山保幸, 国枝克行: 手術侵襲によるサイトカイン変動 . Surgery Frontier 1, 7-13 (1994)

佐治重豊：癌免疫療法の効果. 検査と技術 23, 364-365 (1995)

佐治重豊, 杉山保幸, 国枝克行, 宮 喜一, 深田代造：胃癌の補助免疫化学療法. 消化器癌 5, 207-216 (1995)

佐治重豊, 梅本敬夫, 加藤元久：イレウスの診断と治療. 日本医事新報, 15-20 (1995)

佐治重豊, 若原正幸, 梅本敬夫：癌治療における好中球の役割. BCG・BRM 療法研究会会誌 19, 15-24 (1995)

宮 喜一, 佐治重豊：腎障害. 医薬ジャーナル 32, 585-590 (1996)

佐治重豊, 国枝克行：癌性腹膜炎. 日本臨床 11, 87-90 (1996)

佐治重豊：臓器障害の発生機序とそのメデイエ - タ. 日本外科系連合学会誌 21, 110 (1996)

原著 (和文)

加藤元久, 佐治重豊, 古田智彦, 種村広巳, 東 修次, 西科琢雄, 久野壽也, 高橋健 (同第一内科)：CDDP 併用化学療法により根治的手術可能となり, 術後 5 年目に二次性白血病を発症した胃癌の 1 例. 癌と化学療法 20, 137-140 (1993)

長田真二：実験的肝障害ラット肝細胞の代謝に及ぼす Hepatocyte Growth Factor の影響に関する研究. 岐阜大学医学部紀要 41, 25-42 (1993)

佐治重豊, 東 修次, 日比俊也：超低位直腸前方切除術の適応と問題点. 外科治療 68, 212-217 (1993)

加藤元久, 佐治重豊, 宮 喜一, 加藤浩樹, 高木 肇 (皮膚科), 尾関俊彦 (皮膚科), 関松蔵 (放射線科), 下川邦泰 (臨床検査医学)：胆嚢転移をきたしたきわめて稀な悪性黒色腫の 1 例. 胆と膵 14, 581-586 (1993)

山田 誠, 佐治重豊, 杉山保幸, 梅本敬夫, 国枝克行, 日下部光彦：PSK を用いた免疫療法の有効例選択に関する因子の検討. BIOTHERAPY 7, 14-21 (1993)

加藤元久, 佐治重豊, 宮 喜一, 菅野昭宏：再々発直腸癌の凍結手術後に一過性の肝・腎機能障害を発生した興味ある 1 例. 低温医学 18, 96-99 (1993)

佐治重豊， 杉山保幸：検査値のみかた (TPA) . 臨床医 19 増刊号， 571-572 (1993)

宮 喜一， 佐治重豊， 古田智彦， 種村広巳， 東 修次， 梅本敬夫， 国枝克行， 鷹尾博司， 杉山保幸， 下川邦泰 (臨床検査医学)：教室における CE 領域胃癌症例の検討 . 岐阜大学医学部紀要 41, 666-673 (1993)

佐治重豊， 東 修次， 梅本敬夫， 日比俊也：排便機能と肛門内圧 - この症例の病態の評価と対策 - . 臨床雑誌「外科」55, 606-609 (1993)

菅野昭宏：ラット部分肝保存時の肝切離面の影響に関する実験的研究 . 岐阜大学医学部紀要 41, 637-649 (1993)

菅野昭宏：ラット部分肝保存時のフィブリン糊を用いた肝切離面被覆処置の有用性に関する実験的研究 . 岐阜大学医学部紀要 41, 650-665 (1993)

坂本純一， 手良向聡， 佐治重豊， 小池明彦， 大橋靖雄， 中里博昭 (SIP 研究会)：胃癌治癒切除手術における生体免疫反応 . BIOTHERAPY 7, 718-720 (1993)

国枝克行， 佐治重豊， 辻 恭嗣， 榎塚登美男， 浅野雅嘉， 杉山保幸， 鷹尾博司， 梅本敬夫， 宮 喜一， 東 修次， 古田智彦：胃癌症例における術中腹腔内洗浄細胞診の評価 - とくに漿膜面浸潤面積および漿膜面肉眼分類との関係 - . 日本臨床外科医学会誌 54, 1167-1172 (1993)

金田成宗， 佐治重豊， 榎塚登美男， 河合雅彦， 杉山保幸， 宮 喜一：転移性肝癌に対する内因性 LAK 誘導療法の抗腫瘍効果に関する実験的研究 . BIOTHERAPY 7, 813-815 (1993)

宮 喜一， 佐治重豊， 古田智彦， 東 修次， 梅本敬夫， 鷹尾博司， 杉山保幸， 金田成宗：原発性および転移性肝癌に対する間欠的肝動注免疫化学療法の検討 . BIOTHERAPY 7, 826-828 (1993)

日下部光彦， 佐治重豊， 上西 宏， 波頭経明， 杉山保幸， 梅本敬夫， 東 修次， 古田智彦：胃癌患者術前好中球の Chemiluminescence 活性からみた潜在性易感染性と手術侵襲の影響について . BIOTHERAPY 7, 708-710 (1993)

佐治重豊：QOL と私の考え . 癌治療と宿主 5, 322-323 (1993)

浅野雅嘉: ヒト胃癌の転移陽性リンパ節遺残による再発防止策に関する研究 () 微粒子活性炭 (CH40) 胃漿膜下注入による所属リンパ節描出について . 岐阜大学医学部紀要 41, 704-714 (1993)

浅野雅嘉: ヒト胃癌の転移陽性リンパ節遺残による再発防止策に関する研究 () Neocarzinostatin (NCS) 胃漿膜下投与による抗腫瘍効果について . 岐阜大学医学部紀要 41, 715-724 (1993)

浅野雅嘉: ヒト胃癌の転移陽性リンパ節遺残による再発防止策に関する研究 () 取り残しリンパ節に対する Neocarzinostatin (NCS) と CH40 併用胃漿膜下投与の有用性について . 岐阜大学医学部紀要 41, 725-739 (1993)

佐治重豊, 東 修次, 橋本俊幸: 直腸癌に対する超低位直腸前方切除術 - その適応と治療成績 - . 臨床外科 48, 1177-1182 (1993)

山田 誠, 佐治重豊, 杉山保幸, 梅本敬夫, 上西 宏, 波頭経明, 日下部光彦: PSK のヒト末梢血単核球のサイトカイン産生に及ぼす影響 . BIOTHERAPY 7, 296-297 (1993)

山田 誠, 杉山保幸, 鷹尾博司, 国枝克行, 梅本敬夫, 宮 喜一, 東 修次, 古田智彦, 佐治重豊: 癌患者末梢血単核球の IL-6 遺伝子発現に及ぼす手術侵襲の影響と PSK の効果 . BIOTHERAPY 7, 747-749, (1993)

杉山保幸, 宮 喜一, 東 修次, 古田智彦, 佐治重豊: 癌性胸腹膜炎に対する BRM と抗癌剤の体腔内投与後の局所における免疫学的変動 . BIOTHERAPY 7, 839-841 (1993)

佐治重豊, 種村広巳, 国枝克行: 逆流防止機能を重視した胃全摘後再建法 . 手術 47, 1663-1670 (1993)

長田真二, 佐治重豊, 宇野郷三, 加藤元久, 杉山保幸, 鷹尾博司, 梅本敬夫, 宮 喜一, 東 修次, 古田智彦: 硬変併存肝癌の肝切除後早期予後因子としての術後血中 human hepatocyte growth factor 値測定意義について - 臨床的および実験的検討 - . 日本消化器外科学会雑誌 26, 2401-2409 (1993)

青木信一郎, 梅本敬夫, 佐治重豊, 鷹尾博司, 杉山保幸, 国枝克行, 宮 喜一, 東修次, 古田智彦, 下川邦泰: von Recklinghausen 病に合併した乳癌の 2 例 . 日本臨床外

科医学会雑誌 54, 2037-2042 (1993)

古田智彦, 宮 喜一, 佐治重豊: 手持ち探触子 (メカニカルセクタスキャナー) を用いた乳房超音波断層法の有効性について - 乳腺嚢胞描出率および乳房の厚さからみた検討 - . 超音波医学 20, 596-601 (1993)

高橋治海: 走査型電子顕微鏡を用いた各種活性化リンパ球の細胞膜表面超微細構造に関する研究 () - LAK, P-LAK, OK-AK 細胞の細胞障害活性との関連について . 岐阜大学医学部紀要 41, 966-981 (1993)

高橋治海: 走査型電子顕微鏡を用いた各種活性化リンパ球の細胞膜表面超微細構造に関する研究 () - MLTC 後 IL-2 にて誘導した細胞障害性 T 細胞について . 岐阜大学医学部紀要 41, 982-999 (1993)

加藤元久, 佐藤哲也, 松尾 篤, 佐治重豊, 山田幸治, 折居忠夫, 下川邦泰: 右側胸壁から胸腔内外に発育し呼吸困難を伴った巨大悪性神経鞘腫の 1 例 . 日本臨床外科医学会雑誌 54, 2807-2811 (1993)

杉山保幸, 加藤元久, 鷹尾博司, 木田 恒, 国枝克行, 梅本敬夫, 宮 喜一, 東 修次, 古田智彦, 佐治重豊: 転移性肝癌の局所免疫化学療法における担癌生体の免疫学的応答 . 癌と化学療法 20, 1461-1464 (1993)

佐治重豊: 癌免疫療法の臨床評価と展望 - 序文 - . BIOTHERAPY 7, 1757-1758 (1993)

吉田 穰, 佐治重豊, 高井 弘, 竹内新治, 津田宏信, 二村雄次, 水本龍二, 宮崎逸夫, 小林俊三, 野口昌邦, 舟橋啓臣, 村居 寛, 三浦重人: 乳癌の術後補助療法における Ftorafur, Ftorafur/Tamaxifen 併用, Tamoxifen の比較 . 癌と化学療法 20, 2325-2333 (1993)

坂本純一, 中里博昭, 小池明彦, 佐治重豊 (SIP 研究会): 消化器癌の集学的治療としての外科的補助免疫化学療法の臨床的評価と問題点 . BIOTHERAPY 7, 1759-1764 (1993)

佐治重豊, 杉山保幸, 梅本敬夫: 担癌に伴う免疫機能低下とその対策 . 癌治療と宿主 6, 59-66 (1994)

佐治重豊, 山田 誠, 杉山保幸, 国枝克行, 梅本敬夫: PSK による癌の微小環境の修

飾 . Biotherapy 8, 221-225 (1994)

加藤元久, 杉山保幸, 梅本敬夫, 宮 喜一, 佐治重豊: 術後イレウスに対するロングチューブを用いた保存的治療の適応と限界 . 手術 48, 229-233 (1994)

佐治重豊, 国枝克行, 杉山保幸, 加藤元久, 竹村茂之, 天岡 望, 下川邦泰: 肝転移と癌性腹水を伴った再発胃癌に対し 5-FU, leucovorin cisplatin の併用化学療法が奏効した 1 症例 . KARKINOS 7, 277-282 (1994)

杉山保幸, 佐治重豊, 梅本敬夫, 国枝克行, 上西 宏, 波頭経明, 山田 誠: モノクローナル抗体製剤 G-001 を用いたミサイル療法の検討 . Biotherapy 8, 459-460 (1994)

国枝克行, 佐治重豊, 宮 喜一, 梅本敬夫, 杉山保幸, 鷹尾博司, 加藤元久, 波頭経明, 山田 誠: 非特異的免疫抑制因子に対する PSK 由来拮抗物質の検索 . Biotherapy 8, 352-353 (1994)

山田 誠, 佐治重豊, 上西 宏, 梅本敬夫, 上西 宏, 波頭経明: ヒト末梢血免疫担当細胞のサイトカイン産生に及ぼす非特異的免疫賦活剤の影響 . Biotherapy 8, 372-373 (1994)

上西 宏, 佐治重豊, 杉山保幸, 河合雅彦, 波頭経明, 山田 誠: OK-432, IL-2 の脾内投与により誘導される活性化脾細胞を用いたラット癌性腹膜炎の治療に関する検討 . Biotherapy 8, 428-429 (1994)

佐治重豊, 鷹尾博司: いわゆる「摘脾熱」. 消化器外科 17, 980-981 (1994)

佐治重豊: 高齢者のイレウス - この症例に対する治療方針 - . 外科 56, 456-460 (1994)

佐治重豊, 東 修次, 杉山保幸: 直腸癌に対する標準手術 - 低位前方切除術 - . 外科治療 70, 586-593 (1994)

佐治重豊, 国枝克行, 杉山保幸: スキルス胃癌に対する姑息療法 . 消化器外科 17, 1063-1071 (1994)

杉山保幸, 波頭経明, 加藤元久, 鷹尾博司, 国枝克行, 梅本敬夫, 宮 喜一, 佐治重豊: 胃癌の肝転移, 腹膜播種性転移に対する局所免疫化学療法の検討 . Biotherapy 8,

610-613 (1994)

野澤志朗，佐治重豊他 58 名：卵巣癌の新しい腫瘍マ - カ - CA54/61 および CA602 の基礎的，臨床的有用性の検討．Biotherapy 21, 823-832 (1994)

金田成宗：転移性肝癌に対する内因性 LAK 誘導療法の有用性に関する実験的・臨床的研究 () - 家兔 VX-2 腫瘍を用いた転移性肝癌モデルによる検討 - ．岐阜大学医学部紀要 4, 304-315 (1994)

金田成宗，佐治重豊，宮 喜一，杉山保幸：転移性肝癌に対する内因性 LAK 誘導療法の有用性に関する実験的・臨床的研究 () - ヒト転移性肝癌に対する治療成績 - ．岐阜大学医学部紀要 42, 316-328 (1994)

川口順敬，佐治重豊，古田智彦，日下部光彦，津屋 洋，宇野郷三，下川邦泰：腫瘍側要因としての乳癌原発巣と転移巣における癌細胞の増殖形態について．Biotherapy 8, 736-739 (1994)

上西 宏，佐治重豊，杉山保幸，河合雅彦，日下部光彦，波頭経明，山田 誠：ラット癌性腹膜炎モデルにおける摘出脾を用いた養子免疫療法 (AIT) の有用性について．Biotherapy 8, 635-637 (1994)

佐治重豊，国枝克行：再発胃癌. 日本臨床 5, 589-592 (1994)

佐治重豊，深田代造：食道・胃接合部胃癌．日本臨床 5, 611-613 (1994)

作間久美，東 修次，佐治重豊，林 光子，戸田由紀子：装具の変更により QOL を向上することができたウロストーマ保有者の一症例．東海ストーマリハビリテーション研究会誌 14, 29-32 (1994)

作間久美，杉山保幸，東 修次，佐治重豊，安藤真由実，戸田由紀子：手術創の肥厚性瘢痕 (ケロイド) 治療における皮膚保護剤の応用．東海ストーマリハビリテーション研究会誌 14, 85-88 (1994)

国枝克行，佐治重豊，青木信一郎，加藤元久，杉山保幸，鷹尾博司，梅本敬夫，東修次，下川邦泰：カテーテル十二指腸瘻造設部に再発した膵頭部癌の 1 例．日本消化器外科学会雑誌 27, 1820-1824 (1994)

津屋 洋：大腸癌の生物学的悪性度と予後との関連に関する臨床的研究（ ） - 細胞内核 DNA 量からの検討. 岐阜大学医学部紀要 42, 366-378 (1994)

津屋 洋：大腸癌の生物学的悪性度と予後との関連に関する臨床的研究（ ） - Nucleolar Organizer Regions からの検討. 岐阜大学医学部紀要 42, 379-388 (1994)

津屋 洋：大腸癌の生物学的悪性度と予後との関連に関する臨床的研究（ ） - 細胞内核 DNA 量と Nucleolar Organizer Regions からの検討. 岐阜大学医学部紀要 42, 389-397 (1994)

檜塚登美男, 杉山保幸, 国枝克行, 佐治重豊：大腸癌異時性肝転移に対する術中腫瘍掻き出し操作の影響について - 家兔結腸癌自然肝転移モデルを用いた検討 - . 日本外科系連合学会誌 19, 87-94 (1994)

佐藤元一, 梅本敬夫, 佐治重豊, 石川 亨, 加藤元久, 鷹尾博司, 杉山保幸, 国枝克行, 下川邦泰：膵胆管合流異常症に合併した早期胆嚢癌の 1 例. 日本臨床外科医学会雑誌 55, 2376-2381 (1994)

橋本俊幸, 佐治重豊, 深田代造, 梅本敬夫, 国枝克行, 杉山保幸, 浅野雅嘉, 近石登喜雄：胃, 大腸癌に対する Neocarzinostatin 局所投与による補助化学療法の検討. 癌と化学療法 21, 2302-2304 (1994)

杉山保幸, 佐治重豊, 国枝克行, 浅野雅嘉, 近石登喜雄, 辻 恭嗣：再発・転移形式別にみた胃癌治療の工夫. 日本消化器外科学会誌 27, 2293-2297 (1994)

檜塚登美男, 佐治重豊, 宮 喜一, 深田代造, 梅本敬夫, 国枝克行, 鷹尾博司, 杉山保幸：大腸癌の異時性肝転移に関する臨床的・実験的研究（ ） - 異時性肝転移症例の臨床病理学的特徴と周手術期の影響について. 岐阜大学医学部紀要 42, 455-462 (1994)

檜塚登美男：大腸癌の異時性肝転移に関する臨床的・実験的研究（ ） - ヒト大腸癌手術時の腫瘍掻き出し操作による癌細胞遊離と脈管内移行の可能性について. 岐阜大学医学部紀要 42, 463-467 (1994)

檜塚登美男：大腸癌の異時性肝転移に関する臨床的・実験的研究（ ） - 大腸癌自然肝転移家兔モデルを用いた腫瘍掻き出し操作の影響について. 岐阜大学医学部紀要 42, 468-475

(1994)

杉山保幸，佐治重豊，国枝克行，浅野雅嘉，日下部光彦，山田 誠：担癌侵襲に対する対策の現況と展望 - とくにサイトカインを用いた癌治療 . 侵襲と免疫 3, 10-18 (1994)

加藤元久，佐治重豊，古田智彦，東 修次，宮 喜一，梅本敬夫，木田 恒，鷹尾博司，杉山保幸：胃癌症例における外科侵襲後の TPN 併用アミニック使用時の栄養評価 . JJPEN 16, 366-369 (1994)

宮 喜一，深田代造，梅本敬夫，国枝克行，鷹尾博司，杉山保幸，加藤元久，川口順敬，辻 恭嗣：胃癌術前後合併症に対する PNI 測定意義について . 岐阜大学医学部紀要 43, 31-37 (1995)

日下部光彦：担癌生体における好中球機能と抗腫瘍活性に関する研究 () - 胃癌患者の術前好中球機能と手術侵襲の影響に関する研究 - . 岐阜大学医学部紀要 43, 126-135 (1995)

日下部光彦：担癌生体における好中球機能と抗腫瘍活性に関する研究 () - OK-432 および rhG-CSF を用いたラット好中球の貪食活性と抗腫瘍作用の増強法に関する実験的研究 . 岐阜大学医学部紀要 43, 136-145 (1995)

佐治重豊，鷹尾博司：消化管瘻の治療，4) 膵液瘻 . 外科 57, 181-184 (1995)

山田 誠：サイトカイン産生能からみた BRM の作用機序と適応症例選択基準に関する研究 () - 末梢血単核球を用いた PSK 刺激による IL-6 産生量と IL-6 遺伝子発現誘導能からの検討 . 岐阜大学医学部紀要 43, 155-165 (1995)

山田 誠，杉山保幸，国枝克行，佐治重豊：サイトカイン産生能からみた BRM の作用機序と適応症例選択基準に関する研究 () - 末梢血全血を用いた BRM 刺激によるサイトカイン産生量の検討 - . 岐阜大学医学部紀要 43, 166-177 (1995)

辻 恭嗣，佐治重豊，国枝克行，上西 宏，波頭経明，橋本俊幸，日比俊也：胃癌腹膜播種性転移早期診断法としての Phosphatidylinositol-phospholipase C を用いた CEA 抗原遊出法の有用性について . 日本消化器外科学会誌 28, 104 (1995)

佐治重豊，杉山保幸：血液・尿化学検査 免疫学的検査 - その数値をどう読むか - , 組織ポリペプチド抗原. 日本臨床 53, 761-763 (1995)

宮 喜一， 国枝克行， 梅本敬夫， 佐治重豊， Richard B Bankert : SCID mouse に移植したヒト末梢血・悪性リンパ腫・肺癌に対する抗 CD38 抗体投与の効果 . Biotherapy 9, 296 (1995)

山田 誠， 佐治重豊， 杉山保幸， 梅本敬夫， 上西 宏， 波頭経明， 若原正幸 : BRM 療法の有効症例選択のための末梢血全血を用いた BRM 感受性試験の試み . Biotherapy 9, 360-361 (1995)

上西 宏， 佐治重豊， 杉山保幸， 波頭経明， 若原正幸， 山田 誠 : ラット転移性肝癌モデルを用いた BRM-Iohexol-Lipiodol-Emulsion(BILE)製剤の抗腫瘍効果増強法の可能性について . Biotherapy 9, 374 (1995)

佐治重豊， 深田代造， 杉山保幸 : 結腸切除術 . 外科治療 72, 775-778 (1995)

佐治重豊， 山田 誠， 杉山保幸， 永田 緑 : 腫瘍・宿主側要因を考慮した BRM 製剤感受性試験の開発. 外科治療 72, 1123-1124 (1995)

山田 誠， 若原正幸， 波頭経明， 上西 宏， 杉山保幸， 梅本敬夫， 佐治重豊 : 末梢血免疫担当細胞のサイトカイン産生に及ぼす PSK と OK-432 の影響 . Biotherapy 9, 606-607 (1995)

白子隆志， 佐治重豊， 川口順敬， 蔭山 徹， 国枝克行， 梅本敬夫 : 核 DNA 量 と PCNA, laminin, p53, nm23, 免疫組織染色からみた胃癌の臨床病理学的検討 . 癌と化学療法 22 suppl, 118-123 (1995)

波頭経明， 上西 宏， 山田 誠， 杉山保幸， 佐治重豊 : 胃癌， 大腸癌所属リンパ節より誘導した CD3 陽性・CD8 陽性細胞の機能と細胞表面超微細構造に関する検討 . Biotherapy 9, 411-412 (1995)

深田代造， 川越 肇， 木田 恒， 坂田一記 : 下行結腸切除術後に発症した急性結腸偽閉 11 塞症の 1 例. 日本臨床外科医学会雑誌 56, 1402-1406 (1995)

鴻村 寿， 山田 誠， 高橋治海， 立花 進， 杉山保幸， 佐治重豊 : OK-432 の末梢血免疫担当細胞に対する作用機序の基礎的検討 . Biotherapy 9, 595-597 (1995)

国枝克行，佐治重豊，本多俊太郎，吉田明彦，辻 恭嗣，杉山保幸，梅本敬夫，深田代造，宮 喜一：粘膜下層浸潤部に腺扁平上皮癌の組織像を呈し，急速な経過をたどった直腸絨毛腫瘍の 1 例．日本消化器外科学会誌 28, 1957-1961 (1995)

杉山保幸，佐治重豊，宮 喜一，深田代造，梅本敬夫，国枝克行，鷹尾博司，加藤元久，辻 恭嗣：大腸癌肝転移に対して有効な在宅局所化学療法レジメンの開発．癌と化学療法 22, 1460-1463 (1995)

国枝克行，佐治重豊，長田真二，杉山保幸，田中千弘，佐藤元一，今枝孟義，下川邦泰：膵癌と鑑別困難であった小膵漿液性嚢胞腺腫の 1 例．外科 57, 1353-1356 (1995)

佐治重豊，国枝克行，杉山保幸，山田 誠：癌治療の反省と将来への展望（進行・再発癌） - 免疫療法 - ．日本外科系連合学会誌 20, 349-354 (1995)

国枝克行，佐治重豊，梅本敬夫，杉山保幸，波頭経明，山田 誠，上西 宏：手術侵襲に伴う免疫活性低下に対する PSK の作用．Biotherapy 9, 609-610 (1995)

山田 誠，杉山保幸，佐治重豊：MTT-assay を用いた非特異的免疫賦活剤感受性試験の試み．日本外科系連合学会誌 20, 231-238 (1995)

白子隆志：各種免疫組織染色所見から評価した胃癌の生物学的悪性度と予後に関する臨床的研究（ ） - 癌細胞内核 DNA 量と Proliferating Cell Nuclear Antigen 標識率からの検討 - ．岐阜大学医学部紀要 43, 459-468 (1995)

白子隆志：各種免疫組織染色から評価した胃癌の生物学的悪性度と予後に関する臨床的研究（ ） - 腫瘍形態学学特徴および予後と laminin, type collagen, p53, nm23 免疫組織染色所見との関連 - ．岐阜大学医学部紀要 43, 469-479 (1995)

石川 亨：胃切除後患者の新しい機能評価法としての経皮的胃電気活動記録 (Electrogastrography) の測定意義について（ ） - 経皮的胃電気活動記録の発現機序に関する実験的・臨床的検討．岐阜大学医学部紀要 43, 618-628 (1995)

石川 亨，佐治重豊，国枝克行，深田代造，平岡敬正：胃切除後患者の新しい機能評価法としての経皮的胃電気活動記録 (Electrogastrography) の測定意義について（ ） - 胃癌患者における術前・後の経皮的胃電気活動記録について - ．岐阜大学医学部紀要 43, 629-641 (1995)

深田代造，若原正幸，木田 恒，坂田一記：前腹壁に発生した神経鞘腫の 1 例．臨床外科 50, 1241-1243 (1995)

杉山保幸，佐治重豊，国枝克行，永田 緑，李 宗一：進行胃癌に対する補助免疫化学療法．消化器科 22, 6-15 (1996)

国枝克行，佐治重豊，杉山保幸：癌薬物治療の現状と問題点 - 胃癌 - ．日本病院薬剤師会雑誌 32, 33-37 (1996)

宇野郷三：凍結融解処理肝組織感作血清の肝細胞増殖促進作用に関する研究 () - ラット脾内移植肝細胞の増殖程度からの評価 - ．岐阜大学医学部紀要 44, 246-254 (1996)

宇野郷三，佐治重豊，加藤元久，長田真二，足立尊仁，竹内 賢：凍結融解処理肝組織感作血清の肝細胞増殖促進作用に関する研究 () - ラット初代培養肝細胞を用いた複製 DNA 合成活性と増殖因子の性格について - ．岐阜大学医学部紀要 44, 255-263 (1996)

佐治重豊：免疫賦活剤 (PSK, OK-432, Lentinan) の新しい展開 - 特集にあたって - ．Biotherapy 10, 7-8 (1996)

杉山保幸，佐治重豊，国枝克行，山田 誠，永田 緑，李 宗一，石原和浩：PSK の作用機序. Biotherapy 10, 18-25 (1996)

国枝克行，蔭山 徹，辻 恭嗣，須原貴志，日比俊也，杉山保幸，佐治重豊，下川邦泰：胃癌術前血清 CEA 値および組織 CEA 局在様式と予後との関連について. 日本消化器外科学会雑誌 29, 677-683 (1996)

杉山保幸，石原和浩，李 宗一，永田 緑，佐治重豊：BRM 製剤のアポトーシス誘導能に関する基礎的検討. Biotherapy 10, 292-295 (1996)

安田邦彦，李 宗一，波頭経明，上西 宏，杉山保幸，佐治重豊，日野知証，山本浩充，竹内洋文，川島嘉明：BRM 含有 W/O/W 型エマルジョンを用いた局所免疫療法に関する基礎的検討. Biotherapy 10, 386-388 (1996)

加藤元久，佐治重豊，川口順敬，R.B. Bankert：Recombinant human IL-12(rhIL-12) と抗 IL-12 抗体の SCID マウス移植ヒト肺腫瘍におよび TIL に及ぼす影響について，

Biotherapy 10, 434-437 (1996)

若原正幸, 日下部光彦, 梅本敬夫, 佐治重豊: 好中球枯渇化単抗体 (RP3) と BRM(G-CSF, OK-432) を用いた, 担癌生体における好中球の抗腫瘍効果に関する実験的検討. Biotherapy 10, 449-452 (1996)

深田代造, 川越 肇, 坂田一記, 田中千凱: 上腹壁ヘルニアの 2 手術例. 外科 58, 643-645 (1996)

深田代造, 佐治重豊, 宮 喜一, 梅本敬夫, 国枝克行, 杉山保幸: 消化管機能を考慮した胃全摘術後再建術式. 手術 50, 513-517 (1996)

深田代造, 佐治重豊, 川口順敬, 永田 緑, 下川邦泰, 古田智彦: 各種乳腺疾患における PyNPase の局在. 癌と化学療法 23, 703-706 (1996)

鷹尾博司, 辻 恭嗣, 加藤元久, 杉山保幸, 国枝克行, 梅本敬夫, 深田代造, 宮 喜一, 佐治重豊: 胃癌肝転移巣に対して肝動注免疫化学療法が有効であった 2 例. Biotherapy 10, 541 (1996)

佐藤元一, 辻 恭嗣, 加藤元久, 杉山保幸, 鷹尾博司, 国枝克行, 梅本敬夫, 深田代造, 宮 喜一, 佐治重豊: 直腸癌仙骨転移に対して局所免疫化学療法と放射線療法が奏効した一例. Biotherapy 10, 538 (1996)

佐治重豊, 鷹尾博司: 下痢. 消化器外科 19, 711-712 (1996)

加藤元久, 足立尊仁, 宇野郷三, 竹内 賢, 長田真二, 宮 喜一, 佐治重豊: 凍結融解処理肝組織感作ラット血清の肝細胞増殖作用について. 日本外科系連合学会誌 21, 178-181 (1996)

山田 誠, 李 宗一, 安田邦彦, 若原正幸, 波頭経明, 杉山保幸, 国枝克行, 梅本敬夫, 佐治重豊: 全血法によって得られた BRM 添加培養上清の腫瘍細胞増殖抑制効果に関する検討. Biotherapy 10, 742-743 (1996)

永田 緑, 杉山保幸, 佐治重豊, 山田 誠: BRM 製剤の腫瘍細胞アポトーシス誘導能に関する基礎的検討. Biotherapy 10, 744-746 (1996)

原著 (欧文・国外)

Shinji Osada, Yukio Okano, Shigetoyo Saji, Yoshinori Nozawa: Spontaneous Ca²⁺ Release from a caffeine and Ryanodine-sensitive Intracellular Ca²⁺ Store in Freshly Prepared Hepatocytes. HEPATOLOGY 19, 514-515 (1994)

Hiroaki Nakazato, Akihiko Koike, Shigetoyo Saji, Nobuya Ogawa, Junichi Sakamoto: Efficacy of immuno-chemotherapy as adjuvant treatment after curative resection of gastric cancer. THE LANCET 343, 1122-1226 (1994)

Takahito Adachi, Shigeru Nakashima, Shigetoyo Saji, Toshikazu Nakamura, Yoshinori Nozawa: Roles of Prosta-glandin Production and Mitogen-Activated Protein Kinase Activation in Hepatocyte Growth Factor-Mediated Rat Hepatocyte Proliferation. HEPATOLOGY 21, 1668-1674 (1995)

その他

医学教育ビデオ

佐治重豊, 梅本敬夫, 国枝克行, 膵頭部癌に対する今永変法を用いた膵頭十二指腸切除術, GRAFFITI, 1993

佐治重豊, 胃癌の術後補助療法におけるクレスチンの有用性と作用機序, 呉羽化学工場株式会社, 1995

佐治重豊, Double-tract 型 J-Graham 変法による胃全摘後再建術, 日本外科系連合学会, 1995

医学関係の内容での新聞, 週刊誌記事

岐阜新聞, 第 8 回日本 BRM 学会開催 平成 7 年 12 月

中日新聞, 第 8 回日本 BRM 学会開催 平成 7 年 12 月

メデイカル・アカデミ - ニュ - ス, 第 8 回日本 BRM 学会を開催して, 平成 8 年 2 月 11 日

医学教育番組でのラジオ・テレビ出演

第 8 回日本 BRM 学会を開催して，ニュース EYE，テレビ朝日，1995.12.1

第 8 回日本 BRM 学会を終えて，ラジオたんぱ，1996.1.31

消化器疾患とサイトカイン，ラジオたんぱ，1996.2.27

産婦人科学講座

著書 (和文)

玉舎輝彦：妊娠と TORCH 疾患，今日の治療指針，1993 年度版．東京，医学書院，1993. 664-665

伊藤直樹，玉舎輝彦：産婦人科領域における超音波検査法，腹部超音波検査，岐阜市内科会編，1993. 26-35

玉舎輝彦：婦人科薬物療法の実際，大阪，永井書店，1994. 224p

玉舎輝彦：十代における避妊法，図説産婦人科 VIEW-7 小児・思春期婦人科疾患とその管理，川越慎之助他編，東京，メジカルビュー社，1994. 196-203

玉舎輝彦：子宮穿孔に対する処置・出血に対する処置，図説産婦人科 VIEW-8 産科小手術，荒木 勤他編，東京，メジカルビュー社，1994. 36-44

玉舎輝彦：産褥感染症．産婦人科学書 2 周産期医学，杉山陽一他編，東京，金原出版，1994. 799-806

玉舎輝彦：性分化異常．今日の治療指針，日野原重明他編，東京，医学書院，1995. 654

玉舎輝彦：産婦人科手術書～基本・応用・進歩～，京都，金芳堂，1995. 214p

玉舎輝彦：抗癌剤の種類と作用機序，産婦人科の薬物療法，岡田弘二編著，医薬ジャーナル社，1995. 366-375

玉舎輝彦：BRM 療法．産婦人科の薬物療法，岡田弘二編著，医薬ジャーナル社，1995. 376-378

玉舎輝彦：産科手術と偶発症対策，大阪，永井書店，1995. 136p

総説 (和文)

玉舎輝彦：尿管損傷の防止対策．臨婦産 47, 134-137 (1993)

玉舎輝彦：柴苓湯による妊娠中毒症の予防．現代東洋医学 多器官障害の漢方治療 14, 255-257 (1993)

玉舎輝彦：婦人科救急疾患．産婦治療 66, 642-646 (1993)

今井篤志，大野 元，古井辰郎，高橋京子，玉舎輝彦：生下時にただちに「オギャー」と泣く不思議．岐阜県母性衛生学会雑誌 11, 19-24 (1993)

玉舎輝彦：ホルモンレセプター．QUESTIONS & ANSWERS 21, 28-29 (1993)

玉舎輝彦：投与前後の検査をどうするか．臨婦産 47, 882-883 (1993)

玉舎輝彦：女性における性ステロイドホルモン作用発現機構と臨床．日医新報「ジュニア版」324, 3-7 (1993)

玉舎輝彦：月経障害と漢方．産婦治療 67, 385-388 (1993)

藤本次良，玉舎輝彦：Thyrotropin Releasing Hormone Receptor (TRHR) の調節機構．最新医学 48, 133-140 (1993)

玉舎輝彦：子宮筋腫の薬物療法～その適応と限界～．日医雑誌 110, 1324-1328 (1993)

玉舎輝彦：性ステロイドの細胞生物学と臨床．日内分泌会誌 69, 963-972 (1993)

今井篤志，大野 元，高橋京子，玉舎輝彦：卵巣癌のオートクリン増殖機構とゴナドトロピン放出因子 (Gn-RH)．Oncol Chemother 9, 244-249 (1993)

玉舎輝彦：更年期障害を考える ～その 1～．産婦治療 68, 89-93 (1993)

三嶋廣繁，伊藤邦彦，玉舎輝彦：婦人科領域における真菌症治療の現状と問題点．Progress in Medicine 13, 42-46 (1993)

玉舎輝彦：性ステロイド剤合剤の臨床応用．日産婦会誌研修コーナー 46, N7-N10 (1994)

玉舎輝彦：更年期障害を考える - その 1 - ．産婦治療 68, 89-98 (1994)

- 玉舎輝彦：更年期障害を考える - その 2 - . 産婦治療 68, 217-224 (1994)
- 玉舎輝彦：更年期障害と漢方 . 漢方と最新治療 3, 65-70 (1994)
- 玉舎輝彦：血腫 . 産婦の実際 43, 607-609 (1994)
- 玉舎輝彦：不妊症とホルモン療法 . 産婦治療 68, 440-444 (1994)
- 今井篤志 , 玉舎輝彦：子宮内膜症と免疫 . 日産婦会誌 46, N67-N70 (1994)
- 三鴨廣繁 , 伊藤邦彦 , 玉舎輝彦：尿症状 . 臨婦産 48, 392-393 (1994)
- 玉舎輝彦：漢方外来の現状 . 臨婦産 48, 537-539 (1994)
- 玉舎輝彦：中間期出血 . 産と婦 61, 192-193 (1994)
- 玉舎輝彦：女性とお血 - 西洋医学的解釈 - . 漢方と最新治療 3, 161-165 (1994)
- 玉舎輝彦：非特異性膣炎 . 産婦治療 69, 57-60 (1994)
- 玉舎輝彦：尿路結石合併妊娠の取り扱い . 産婦の実際 43, 1071-1074 (1994)
- 玉舎輝彦：未婚患者の子宮筋腫 . 産婦の実際 43, 1187-1189 (1994)
- 玉舎輝彦：エストロゲン・プロゲステロン併用療法 . 臨婦産 48, 1128-1130 (1994)
- 玉舎輝彦：お血からみる産婦人科疾患 . 産婦治療 69, 335-342 (1994)
- 今井篤志 , 古井辰郎 , 玉舎輝彦：子はなぜ親に似るのか？遺伝子の不思議 岐阜県母性衛生学会雑誌 14, 9-12 (1994)
- 玉舎輝彦：hCG , hCG サブユニット . 臨検 38, 178-179 (1994)
- 玉舎輝彦：腹式帝王切開術 . 産婦治療 69, 482-492 (1994)
- 玉舎輝彦：流産の予防と処置 . 産婦治療 69, 597-603 (1994)

- 今井篤志 , 玉舎輝彦 : 女兒の性器出血 . 東海産婦誌 31, 1-5 (1994)
- 玉舎輝彦 : 子宮外妊娠 . 産婦治療 70, 9-14 (1995)
- 玉舎輝彦 : 婦人科がんの疫学と予防 . 日産婦会誌 47, N-3 -N-6 (1995)
- 玉舎輝彦 , 川鱒市郎 : 産道と MRI . 産と婦 62, 337-342 (1995)
- 玉舎輝彦 : 思春期における婦人科医療によるサポート . ペリネイタルケア 14, 21-24 (1995)
- 玉舎輝彦 : 妊娠時合併症手術 . 産婦治療 70, 244-250 (1995)
- 今井篤志 : 女兒の性器出血と腹部膨満 ; 生殖器腫瘍の警告シグナル . 岐阜医学会館だより 36, 7-10 (1995)
- 玉舎輝彦 : 思春期における女性内性器異常と悩み . 思春期学 13, 8-11 (1995)
- 玉舎輝彦 , 今井篤志 : Gn - RH アナログによる卵巣癌治療の可能性 . Horm Front Gynecol 3, 49-53 (1995)
- 玉舎輝彦 : HRT と QOL . Oncol Chemether 11, 27-32 (1995)
- 玉舎輝彦 : 異常分娩に関連した手術 . 産婦治療 70, 367-374 (1995)
- 玉舎輝彦 : 開腹 , 閉腹のポイント . 産婦の実際 44, 283-287 (1995)
- 玉舎輝彦 : 体癌・乳癌リスク女性と患者の HRT による管理 . 産婦の実際 44, 485-490 (1995)
- 玉舎輝彦 : 産婦人科領域における感染症 日和見感染について . 産婦治療 70, 505-512 (1995)
- 今井篤志 , 古井辰郎 , 玉舎輝彦 : 思春・小児期における生殖器腫瘍と訴え . 思春期学 13, 23-27 (1995)

玉舎輝彦：皮膚の切開と縫合． 臨婦産 49, 678-682 (1995)

玉舎輝彦：更年期障害の治療法． 産婦治療 70, 926-931 (1995)

今井篤志， 堀部進次， 玉舎輝彦：妊娠すると色素沈着が生じるのは何故か？． 岐阜県母性衛生学会雑誌 16, 15-18 (1995)

玉舎輝彦：羊水感染症． 産婦治療 71, 21-24 (1995)

玉舎輝彦：子宮内膜症と免疫． 産婦治療 71, 152-157 (1995)

玉舎輝彦：婦人科疾患と性ステロイド療法． 日産婦学会鹿児島地方部会雑誌 3, 1-3 (1995)

玉舎輝彦：婦人科治療での卵巣機能温存の是正． 産婦治療 71, 312-317 (1995)

玉舎輝彦：性ステロイド療法の進歩． 第24回日本医学会総会誌 2, 330-331 (1995)

玉舎輝彦：体癌の予防． Oncology & Chemotherapy 11, 166-169 (1995)

玉舎輝彦：産婦人科領域感染症 ～骨盤内感染症（骨盤内炎症性疾患）を中心に～． Pharma Medica 13, 99-107 (1995)

堀部進次， 今井篤志， 大野 元， 古井辰郎， 玉舎輝彦：婦人科領域の遺伝疾患（1）～内分泌疾患を中心に～． 産と婦 62, 721-728 (1995)

高橋雄一郎， 横山康宏， 玉舎輝彦：細胞周期の調節機構と細胞周期抑制蛋白質． 東海産婦誌 32, 5-15 (1995)

玉舎輝彦：卵巣癌の内分泌関連性． 産婦治療 72, 329-356 (1996)

玉舎輝彦：造脘術～腔式手術操作を中心として～． 産婦の実際 45, 87-92 (1996)

玉舎輝彦：性ステロイドホルモン． 産と婦 63, 306-309 (1996)

玉舎輝彦：婦人科腫瘍とホルモンレセプター． Horm Front Gynecol 3, 25-31 (1996)

玉舎輝彦：画像による下腹部腫瘍の診断． 日産婦会誌 48, N67-N70 (1996)

玉舎輝彦：骨盤腹膜を用いた造脘術． 産婦治療 72, 889-896 (1996)

操 良， 玉舎輝彦：Sex hormone-binding globulin (SHBG) の遺伝的多型性・遺伝子変異． 最新医学 51, 131-136 (1996)

今井篤志， 堀部進次， 玉舎輝彦：何故妊娠 40 週まで子宮が収縮しないのか？ ～やさしい G タンパクのはなし～． 岐阜県母性衛生学会雑誌 18, 17-21 (1996)

総説 (欧文・国外)

Imai A, Horibe S, Takagi H, Fuseya T, Furui T, Tamaya T: Gonadotropin-releasing hormone (Gn-RH) receptor in the reproductive tumor: physiological role and signal transduction pathway. *Oncol Reports* 2, 625-631 (1995)

Imai A, Horibe S, Takagi H, Fuseya T, Tamaya T: Signal transduction of GnRH receptor in the reproductive tract tumor. *Endocr J* 43, 249-260 (1996)

原著 (和文)

岡田弘二， 玉舎輝彦， 伊藤邦彦， 山田新尚他：産婦人科領域感染症に対する新しい経口セフェム剤 ME1207 の臨床的検討． 産婦の世界 45, 53-70 (1993)

花林隆裕， 森 秀弘， 玉舎輝彦：骨盤内子宮内膜症患者の腹腔マクロファージにおける interleukin(IL)-1 遺伝子および IL-1 receptor antagonist 遺伝子の発現． 岐阜大医紀 41, 343-364 (1993)

伊藤邦彦， 三嶋廣繁， 玉舎輝彦：骨盤内感染症． 救急医学 17, 446-447 (1993)

三嶋廣繁， 和泉孝治， 伊藤邦彦， 玉舎輝彦：婦人科悪性腫瘍患者に合併した深在性真菌感染症の検討． *Biotherapy* 7, 505-508 (1993)

和泉孝治， 三嶋廣繁， 伊藤邦彦， 玉舎輝彦， 澤村治樹， 澤 赫代， 野間昭夫：産婦人科の検体から検出される細菌の傾向について (1989-1991 年)． 岐阜県母性衛生学会雑誌 11, 27-31 (1993)

和泉孝治， 三嶋廣繁， 川鱈市郎， 伊藤邦彦， 玉舎輝彦：妊娠腔内細菌叢と分娩経過につ

いて． 岐阜県母性衛生学会雑誌 11, 63-66 (1993)

和泉孝治， 三嶋廣繁， 伊藤邦彦， 玉舎輝彦：正常褥婦の子宮内から検出される細菌について． 岐阜県母性衛生学会雑誌 11, 91-93 (1993)

川鱒市郎， 森下重雄， 大西尚美， 堀 昌志， 玉舎輝彦， 天野功二， 鈴木康之：IPT 合併妊婦に対する妊娠中の治療が出生児の血小板数に及ぼす効果． 日本産婦人科・新生児血液学会誌 3, S101-102 (1993)

伊藤美穂， 伊藤直樹， 花林隆裕， 森 秀弘， 玉舎輝彦：子宮内膜症腹水単核細胞における RT - PCR 法によるサイトカイン mRNA の検出． エンドメトリオーシス研究会誌 14, 45-50 (1993)

操 良， 和田圭介， 伊藤俊哉， 伊藤直樹， 森 秀弘， 玉舎輝彦：外性子宮内膜症組織におけるエストロゲン結合部位と Sex hormone binding globulin (SHBG) 分泌能． エンドメトリオーシス研究会誌 14, 91-94 (1993)

岡田弘二， 玉舎輝彦， 伊藤邦彦， 三嶋廣繁， 和泉孝治， 山田新尚ほか：産婦人科領域における Cefozopran(SCE-2787)の基礎的・臨床的検討． 産婦の世界 45, 73-93 (1993)

玉舎輝彦， 三嶋廣繁， 森 秀弘， 伊藤邦彦， 山田新尚， 早崎源基， 伏屋龍夫， 太田俊治， 和泉孝治， 脇田勝次：産婦人科領域における S - 1108 の基礎的， 臨床的検討． Chemotherapy 41, 602-617 (1993)

玉舎輝彦， 川鱒市郎， 伊藤俊哉， 伏屋龍夫， 馬淵道夫， 脇田勝次， 長谷川幸生， 伊藤綾子， 馬場義孝：妊婦肥満度別による DHA - S の投与効果の比較検討． 産婦の世界 45, 63-68 (1993)

玉舎輝彦， 伊藤俊哉， 脇田勝次：Gn - RH に無効の子宮内膜症に対するダナゾール療法の治療効果． 日不妊誌 38, 415-422 (1993)

川鱒市郎， 藤本次良， 今井篤志， 玉舎輝彦：女性生殖生理における estriol 結合部位の生物学的意義． 岐阜大医紀 41, 679-691 (1993)

伊藤邦彦， 三嶋廣繁， 和泉孝治， 山田新尚， 玉舎輝彦：セフェム剤とアストロマイシンの併用時の骨盤死腔滲出液中薬剤濃度の検討． 産と婦 60, 1394-1399 (1993)

玉舎輝彦：婦人科の慢性疼痛．漢方と最新治療 2, 259-264 (1993)

三嶋廣繁，市古 哲，和泉孝治，横山康宏，伊藤邦彦，玉舎輝彦，渡辺邦友，上野一恵：産婦人科医が再認識すべき虫垂炎穿孔によりダグラス窩膿瘍をきたした一例．診療と新薬 30, 129-134 (1993)

三嶋廣繁，和泉孝治，伊藤邦彦，玉舎輝彦：セフトキシム単独投与時およびアストロマイシン併用時の腎毒性に対する影響．Chemotherapy 41, 859-862 (1993)

伊藤邦彦，三嶋廣繁，和泉孝治，玉舎輝彦，山田新尚：産婦人科領域における loracarbef の基礎的臨床的検討．Chemotherapy 41, 497-504 (1993)

和泉孝治，三嶋廣繁，森 秀弘，伊藤邦彦，玉舎輝彦，伊藤俊哉，荒堀憲二，伏屋龍夫，市古 哲，熊田俊夫，村田修吾，伊藤直哉，伊藤綾子，長谷川幸生，松波和寿，山際三郎，飯田晃司，馬淵道夫，西垣美紀，山本和重，早崎源基，高木 博，太田俊治，馬場義孝，菅井亮世：術後感染予防に関する薬物投与法の検討 - 第 2 報 Sulbactam/Cefoperazone 投与での検討 - ．新薬と臨床 42, 37-40 (1993)

和泉孝治，三嶋廣繁，伊藤邦彦，玉舎輝彦，澤村治樹，澤 赫代，渡辺邦友，上野一恵：正常褥婦の子宮内から検出される細菌～第 6 報 (Lenampicillin 投与時) ～ ．診療と新薬 30, 125-128 (1993)

三嶋廣繁，和泉孝治，伊藤邦彦，玉舎輝彦：膣真菌症診断に対するガンジダ培地「フジ」の有用性．産婦の世界 45(9), 45-48 (1993)

川鱈市郎，森下重雄，大西尚美，堀 昌志，玉舎輝彦：ITP 合併妊娠に対する γ -グロブリン投与が出生児の血小板数 に及ぼす効果．新薬と臨床 24, 121-124 (1993)

伊藤邦彦，三嶋廣繁，和泉孝治，玉舎輝彦：Cefazolin および Ceftizoxime を点滴静注した時の基礎的検討．診療と新薬 30, 113-118 (1993)

伊藤俊哉，藤本次良，玉舎輝彦：女性生殖生理における末梢血単球のエストロゲン結合部位の生物学的意義子宮内膜症での抗エストロゲン剤ダナゾールの効果と関連して．岐阜大医紀 41, 1030-1044 (1993)

川鱈市郎，玉舎輝彦：周産期の MRI . 周産期医学 23, 217-222 (1993)

伊藤邦彦，三鴨廣繁，和泉孝治，玉舎輝彦，山田新尚：産婦人科感染症に対する cefozopran の基礎的・臨床的検討 . Chemotherapy 41, 475-480 (1993)

山本和重，馬淵道夫，西垣美紀，早崎源基，丹羽憲司，富田真知子，各務政志，加納至朗：当科不妊外来における洗浄 AIH (GPM 80%パーコール法) 症例の統計と成績について . 診療と新薬 30, 159-163 (1993)

三鴨廣繁，和泉孝治，伊藤邦彦，玉舎輝彦：Cefodizime の乳汁中への移行に関する検討 . Chemotherapy 41, 1268-1271 (1993)

青野敏博，玉舎輝彦ほか：高プロラクチン血症（下垂体腺腫・排卵障害）に対する ZK31224 (Terguride) の長期投与試験成績 . 新薬と臨床 42, 57-72 (1993)

高橋京子，今井篤志，玉舎輝彦：婦人科悪性腫瘍増殖におけるエストロゲンの関与に関する研究 特に卵巣癌（上皮性）と卵巣間質細胞におけるアロマターゼ (P450arom) 発現の差異からみる細胞間相互作用 . 岐阜大医紀 42, 1-9 (1994)

西垣美紀，藤本次良，玉舎輝彦：アンドロゲン受容体およびその mRNA からみる女性生殖器官でのアンドロゲンの生物学的意義 . 岐阜大医紀 42, 48-56 (1994)

玉舎輝彦，伊藤美穂，伊藤俊哉：不定愁訴症候群，特に更年期障害に対する漢方剤（柴胡桂枝乾姜湯，加味逍遙散，柴胡加竜骨牡蛎湯）の有用性の検討 . 日東洋医誌 44, 71-81 (1994)

市古 哲，藤本次良，玉舎輝彦：婦人科悪性腫瘍における浸潤，転移の機構 . 岐阜産婦人科紀要 7, 1-9 (1994)

森下重雄，丹羽憲司，玉舎輝彦：癌遺伝子・癌抑制遺伝子 . 岐阜産婦人科紀要 7, 10-19 (1994)

松田静治，三鴨廣繁，和泉孝治，伊藤邦彦，玉舎輝彦他全 44 名：産婦人科領域における SY5555 の基礎的・臨床的検討 . 産婦の世界 46, 59-71 (1994)

川鱈市郎，玉舎輝彦：MRI を用いた産道のみかた . ペリネイタルケア 13, 35-40 (1994)

伊藤邦彦，三嶋廣繁，和泉孝治，玉舎輝彦，市古 哲，近藤英明，熊田俊夫，村田修吾，脇田勝次，荒堀憲二，大野 康，伊藤綾子，長谷川幸生，広瀬玲子，山田新尚，早崎源基，山際三郎，馬場義孝，伏屋龍夫，古田典夫，高木博，太田俊治：クラミジア子宮頸管炎に対する ofloxacin の臨床的検討．医学と薬学 31, 557-563 (1994)

真木正博，玉舎輝彦ほか：産科的 DIC に対するアンチトロンビン 濃縮製剤の治療効果 - 多施設共同研究成績 - ．日産婦新生児血会誌 4, 37-49 (1994)

伊藤邦彦，三嶋廣繁，和泉孝治，玉舎輝彦，山田新尚：産婦人科における SY5555 の基礎的・臨床的検討．Chemotherapy 42, 573-579 (1994)

和泉孝治，三嶋廣繁，川添香子，伊藤邦彦，玉舎輝彦：術後感染予防に関する薬物投与法の検討 - 第 3 報：Cefoperazone(CPZ) 投与での投与 - ．新薬と臨床 43, 22-26 (1994)

伊藤美穂，玉舎輝彦：卵巣癌における p53 遺伝子の異常．岐阜大医紀 42, 115-126, (1994)

大野 元，今井篤志，玉舎輝彦：卵巣癌のゴナドトロピン放出因子とその受容体の生物学的意義に関する研究．岐阜大医紀 42, 174-185 (1994)

操 良，玉舎輝彦：ヒト子宮内膜および骨盤内子宮内膜症における細胞内 SHBG mRNA, CBG mRNA の発現レベルからの細胞増殖に関する研究．岐阜大医紀 42, 209-221 (1994)

三嶋廣繁，伊藤邦彦，玉舎輝彦：産科婦人科領域における嫌気性菌，特に Prevotella bivia についての臨床的意義に関する研究．岐阜大医紀 42, 230-248 (1994)

松田静治，三嶋廣繁，和泉孝治，伊藤邦彦，山田新尚，玉舎輝彦：SY5555 の女性性器組織への移行性．Chemotherapy 42, 421-429 (1994)

藤本次良，堀 昌志，市古 哲，玉舎輝彦：子宮体癌の遺伝子異常と内分泌環境．日更年医誌 2, 123-129 (1994)

和泉孝治，三嶋廣繁，川鱈市郎，伊藤邦彦，玉舎輝彦：産褥子宮内感染症例の細菌学的検討．岐阜県母性衛生学会雑誌 14, 15-18 (1994)

笠原三知代，川鱈市郎，森下重雄，大西尚美，堀 昌志，玉舎輝彦：特発性血小板減

少性紫斑病合併妊婦から出生した児の血小板数の推移． 岐阜県母性衛生学会雑誌 14, 25-28 (1994)

川添香子， 和泉孝治， 三鴨廣繁， 伊藤邦彦， 玉舎輝彦， 澤村治樹， 澤 赫代， 野間昭夫：産婦人科の検体から検出される細菌の種類と抗菌薬の使用状況（1993 年） - 過去 4 年間と比較して - ． 岐阜県母性衛生学会雑誌 14, 113-117 (1994)

和泉孝治， 川添香子， 三鴨廣繁， 川鱒市郎， 伊藤邦彦， 玉舎輝彦：産褥子宮における抗菌薬の細菌再増殖抑制効果について． 岐阜県母性衛生学会雑誌 14, 139-142 (1994)

操 良， 藤本次良， 玉舎輝彦：子宮内膜症組織における性ステロイド結合タンパク mRNA の発現． エンドメトリオーシス研究会誌 15, 73-78 (1994)

三鴨廣繁， 和泉孝治， 伊藤邦彦， 玉舎輝彦：岐阜県におけるクラミジア子宮頸管炎の現状とオフロキサシンによる治療効果． 感染症誌 5, 81-85 (1994)

野澤志朗， 玉舎輝彦ほか：卵巣癌の新しい腫瘍マーカー CA54/61 および CA602 の基礎的， 臨床的有用性の検討 - （第 3 報） 各種良性疾患および悪性疾患患者血清の測定結果 - ． 癌と化学療法 21, 823-832 (1994)

三鴨廣繁， 和泉孝治， 伊藤邦彦， 山田新尚， 玉舎輝彦：Cefbuperazone 単独投与時および Amikacin 併用時の腎毒性． Chemotherapy 42, 952-957 (1994)

堀 昌志， 藤本次良， 伊藤俊哉， 市古 哲， 西垣美紀， 玉舎輝彦：ダナゾールによる単球のエストロゲン受容体および mRNA の発現制御． エンドメトリオーシス研究会誌 15, 232-235 (1994)

岡田弘二， 伊藤邦彦， 三鴨廣繁， 和泉孝治， 玉舎輝彦他全 41 名：産婦人科領域における FK037 の基礎的・臨床的検討． Chemotherapy 42, 328-344 (1994)

三鴨廣繁， 伊藤邦彦， 和泉孝治， 玉舎輝彦：産婦人科領域における FK037 の基礎的， 臨床的検討． Chemotherapy 42, 356-367 (1994)

野田起一郎， 玉舎輝彦他全 28 名 (BMS-181339 卵巣癌研究会)：卵巣癌に対する BMS-181339 の臨床第 II 相試験． 癌と化学療法 21, 2461-2469 (1994)

伊藤邦彦，三嶋廣繁，和泉孝治，玉舎輝彦：産婦人科領域における biapenem の基礎的・臨床的検討． Chemotherapy 42(S-4), 578-582, (1994)

松田静治，玉舎輝彦，伊藤邦彦，三嶋廣繁，和泉孝治，山田新尚ほか：産婦人科領域感染症に対する新しいカルバペネム系抗生物質ピアペネム (L-627) の基礎・臨床的検討． Jpn J Antibiotics 47, 1637-1667 (1994)

森下重雄，丹羽憲司，村瀬稔子，伊藤直樹，横山康宏，玉舎輝彦：酢酸メドロキシプロゲステロン療法と子宮内膜全面搔爬で寛解し，子宮温存が可能となった分化型子宮内膜癌と異型内膜増殖症の 2 例． 東海産婦誌 3, 91-94 (1994)

下野美香，高橋雄一郎，川鱈市郎，玉舎輝彦：胎児脳室穿刺により妊娠期間を延長した水頭症の 1 例． 東海産婦誌 31, 139-142 (1994)

川添香子，三嶋廣繁，山田新尚，和泉孝治，山際三郎，伊藤邦彦，玉舎輝彦：岐阜県におけるクラミジア子宮頸管炎の現状について． 東海産婦誌 31, 143-146 (1994)

玉舎輝彦：不妊症 ～子宮因子～． ラジオ短波放送内容集 女性のヘルスケア 7, 9-12 (1994)

川鱈市郎，玉舎輝彦：MRI でみた胎盤． ペリネイタルケア 14, 17-20 (1995)

松田静治，玉舎輝彦，伊藤邦彦，三嶋廣繁，他 YP - 14 研究会：産婦人科領域における tazobactam /piperacillin の基礎的・臨床的検討． 日化療会誌 43, 371-385 (1995)

川鱈市郎，玉舎輝彦：出生前診断された胎児頭蓋内出血の 2 例． 日産婦新生児血会誌 5, 92-93 (1995)

川鱈市郎，玉舎輝彦：周産期医療における MRI の有効性． 産と婦 62, 679-684 (1995)

古井辰郎，今井篤志，玉舎輝彦：腺維芽細胞の増殖を抑制する新たな蛋白性因子に関する研究 ～子宮内膜癌抽出物よりの分離と精製～． 岐阜大医紀 43, 220-230 (1995)

玉舎輝彦，伊藤直樹，伊藤俊哉，脇田勝次，山田新尚：人参養栄湯投与による婦人科術後患者で抗癌剤投与中または放射線療法中の自覚症状および血液所見に及ぼす影響． 新薬と臨床 44, 95-100 (1995)

伊藤直樹，丹羽憲司，玉舎輝彦：卵巣癌化学療法に伴う好中球減少症における G-CSF の好中球機能に与える影響． Biotherapy 9, 563-567 (1995)

伊藤直樹，丹羽憲司，堀部進次，中西義人，伊藤恒夫，川添香子，森下重雄，玉舎輝彦：1984-1993 年の岐阜大学医学部産婦人科における子宮頸癌・体癌症例の臨床病理学的検討． 岐阜大医紀 43, 373-376 (1995)

山田新尚，大西尚美，杉山三知代，広瀬玲子，玉舎輝彦：他院内科にて診断・治療に難渋した骨盤内腫瘍の 2 例． 岐阜病年報 16, 45-50 (1995)

伊藤直樹，玉舎輝彦：婦人科癌における Biochemical therapy の基礎的検討 ~ antisense oligonucleotides を用いた腫瘍細胞増殖抑制効果． Oncol Chemother 11, 104-108 (1995)

産婦人科領域感染症に対する grepafloxacin の組織内移行並びに臨床的研究． 松田静治，玉舎輝彦，伊藤邦彦，三嶋廣繁，和泉孝治，山田新尚 他：日化療会誌 43, 481-493 (1995)

堀 昌志，藤本次良，市古 哲，伊藤美穂，玉舎輝彦：腹腔内マクロファージの機能における性ステロイドとサイトカインの相互作用． エンドメトリオーシス研究会誌 3, 44-49 (1995)

市古 哲，藤本次良，堀 昌志，操 良，中西義人，玉舎輝彦：単球におけるエストロゲンおよびプロゲステロンによる c-fms mRNA の発現誘導とその生物学的意義． エンドメトリオーシス研究会誌 3, 100-102 (1995)

村瀬稔子，森下重雄，丹羽憲司，玉舎輝彦：子宮内膜症における術中細胞診の有用性． エンドメトリオーシス研究会誌 3, 111-113 (1995)

操 良，中西義人，丹羽憲司，藤本次良，玉舎輝彦：尿管子宮内膜症の一例． エンドメトリオーシス研究会誌 3, 167-170 (1995)

川鱈市郎，玉舎輝彦：MRI により出生前診断された胎児頭蓋内出血の 2 例． 日産婦新生児血会誌 5, 94-101 (1995)

三嶋廣繁，川添香子，和泉孝治，伊藤邦彦，玉舎輝彦，山田新尚：産婦人科領域における pazufloxacin の基礎的・臨床的検討． 日化療会誌 43, 450-458 (1995)

堀部進次， 今井篤志， 玉舎輝彦：索状性腺を伴った染色体異 47,XX, + dic(22)(q11) の一例． ホルモンと臨床 43, 202-203 (1995)

三鴨廣繁， 伊藤邦彦， 和泉孝治， 川添香子， 山田新尚， 玉舎輝彦：産婦人科領域における cefluprenam (CELP, E1077) の基礎的・臨床的検討． 日化療会誌 43, 204-209 (1995)

三鴨廣繁， 川添香子， 和泉孝治， 伊藤邦彦， 玉舎輝彦， 山田新尚：産婦人科領域における balofloxacin の基礎的・臨床的検討． 日化療会誌 43, 439-447 (1995)

松田静治， 玉舎輝彦， 三鴨廣繁， 川添香子， 和泉孝治， 伊藤邦彦ほか：産婦人科領域における azithromycin の基礎的・臨床的検討． 日化療会誌 43, 299-312, (1995)

三鴨廣繁， 川添香子， 和泉孝治， 伊藤邦彦， 玉舎輝彦：産婦人科領域における azithromycin の基礎的・臨床的検討． 日化療会誌 43, 313-318 (1995)

高橋雄一郎， 川鱒市郎， 玉舎輝彦：MRI により出生前診断された胎児頭蓋内出血の 3 例． 東海産婦誌 32, 45-47 (1995)

佐藤泰昌， 丹羽憲司， 森下重雄， 村瀬稔子， 三鴨廣繁， 川鱒市郎， 今井篤志， 玉舎輝彦：卵巣粘液性嚢胞腺癌由来の腹膜偽粘液腫に対しシスプラチン投与後生児を得た症例． 東海産婦誌 32, 61-63 (1995)

川添香子， 和泉孝治， 三鴨廣繁， 玉舎輝彦：細菌性膣症の臨床的および細菌学的検討． 東海産婦誌 32, 69-77 (1995)

川添香子， 三鴨廣繁， 和泉孝治， 玉舎輝彦：産科婦人科領域における Enterococcus faecalis の臨床的意義． 東海産婦誌 32, 79-88 (1995)

伊藤美穂， 下野美香， 高橋雄一郎， 三鴨廣繁， 玉舎輝彦：当科における思春期外来の現状． 思春期学 13, 204-207 (1995)

川鱒市郎， 玉舎輝彦：MRI の臨床応用． 周産期医学 25, 335-340 (1995)

玉舎輝彦：月経困難症． 暮らしと健康 8, 33-39 (1995)

玉舎輝彦：分娩の異常 ～頸管裂傷～． ラジオ短波内容集女性のヘルスケア 14, 24-26

(1995)

川添香子, 三嶋廣繁, 玉舎輝彦: 早産の原因における病原微生物の意義. 岐阜産婦人科紀要 8, 1-5 (1995)

中西義人, 操 良, 玉舎輝彦: 産婦人科領域における apoptosis の生物学的意義. 岐阜産婦人科紀要 8, 6-18 (1995)

横山康宏: 癌遺伝子治療の手段としてのレトロウイルスベクターについて. 岐阜産婦人科紀要 8, 19-24 (1995)

丹羽憲司, 高橋雄一郎, 下野美香, 森下重雄, 村瀬稔子, 玉舎輝彦: 最近 5 年間 (1990 ~ 1994 年) の岐阜大学産婦人科における上皮性悪性卵巣腫瘍の組織分類と治癒成績. 岐阜産婦人科紀要 8, 25-28 (1995)

川鱈市郎, 玉舎輝彦: MRI による胎児異常の診断. ペリネイタルケア 15, 19-24 (1996)

橋山稔子, 丹羽憲司, 玉舎輝彦: マウス子宮内膜癌発癌過程およびヒト子宮内膜癌における癌抑制遺伝子 p53 異常の生物学的意義. 岐阜大医紀 44, 39-48 (1996)

和泉孝治, 三嶋廣繁, 玉舎輝彦: 細菌性膣症に関する基礎的および臨床的検討. 岐阜大医紀 44, 151-176 (1996)

堀 昌志, 藤本次良, 玉舎輝彦: 子宮内膜および子宮内膜癌における性ステロイドによって修飾される癌および関連遺伝子の生物学的意義. 岐阜大医紀 44, 177-192 (1996)

野田起一郎, 玉舎輝彦他 BMS-181339 卵巣癌研究会: Paclitaxel (BMS-181339) の卵巣癌患者に対する臨床第 II 相試験 (3 時間点滴静注). 癌と化療 23, 317-325 (1996)

藤本次良, 堀 昌志, 市古 哲, 広瀬玲子, 玉舎輝彦: 子宮内膜癌の抗腫瘍効果をめざした遺伝子診断と血管新生抑制による増殖および転移抑制. Biotherapy 10, 221-223 (1996)

川鱈市郎, 川添香子, 玉舎輝彦: 先天異常 頭蓋骨内出血. 臨婦産 50, 525-527 (1996)

川鱈市郎, 川添香子, 玉舎輝彦: 先天異常 胎児水腫. 臨婦産 50, 528-530 (1996)

川鱒市郎：胎児採血は有用か．臨婦産 50, 812-814 (1996)

丹羽憲司，森下重雄，玉舎輝彦：化学療法による遅延性悪心・嘔吐に対するグラニセトロン単独とステロイド併用療法の制吐効果の比較．Oncol Chemother 12, 118-123 (1996)

川添香子，三鴨廣繁，和泉孝治，伊藤邦彦，玉舎輝彦：母体血サイトカイン測定による絨毛羊膜診断の有用性．岐阜県母性衛生学会雑誌 18, 23-25 (1996)

原著 (欧文・国内)

Mikamo H, Izumi K, Ito K, Sawarura H, Sawa K, Watanabe K, Ueno K, Tamaya T: Bacterial flora detected in the uterine endometrial cavity of normal puerperae on the puerperal first day and on the puerperal fifth day after incidental use of cefpodoxime proxetil. Jpn J Antibiotics 46, 269-273 (1993)

Mikamo H, Izumi K, Ito K, Watanabe K, Ueno K, Tamaya T: Bacterial flora detected of the uterine endometrial cavity of diabetic patients with myoma uteri. J J A Inf D 67, 654-658 (1993)

Mikamo H, Izumi K, Itoh K, Tamaya T, Watanabe K, Ueno K: Endometrial bacterial flora detected in patients with uterine endometrial cancer. J J A Inf D 67, 712-717 (1993)

Niwa K, Murase T, Furui T, Morishita S, Mori H, Tanaka T, Mori H, Tamaya T: Enhancing effects of estrogens on endometrial carcinogenesis initiated by N-methyl-N-nitrosourea in ICR mice. Jpn J Cancer Res 84, 951-955 (1993)

Mikamo H, Izumi K, Ito K, Watanabe K, Ueno K, Tamaya T: Internal bacterial flora of solid uterine cervical cancer. J J A Inf D 67, 1057-1061 (1993)

Niwa K, Misao R, Hanabayashi T, Morishita S, Murase T, Itoh M, Itoh N, Mori H, Tamaya T: Semi-quantitative analysis of DNA topoisomerase - I mRNA level using reverse transcription - polymerase chain reaction in cancer cell lines: Its relation to cytotoxicity against camptothecin derivative. Jpn J Cancer Res 85, 869-874 (1994)

Niwa K, Morishita S, Murase T, Itoh N, Tanaka T, Mori H, Tamaya T: Inhibitory effects of medroxyprogesterone acetate on mouse endometrial carcinogenesis. Jpn J Cancer Res 86, 724-729 (1995)

原著 (欧文・国外)

Mori H, Sawairi M, Niwa K, Itoh N, Hanabayashi T, Kondoh H, Tamaya T: Interaction of interferon gamma and CPT-11, a new derivative of camptothecin, in human endometrial carcinoma cell line. *Int J Gynecol Cancer* 3, 36-43 (1993)

Imai A, Furui T, Yokoyama Y, Sawairi M, Shimokawa K, Tamaya T: "Case Report" Endodermal sinus tumor of the vagina in an infant; magnetic resonance imaging evaluation. *Gynecol Oncol* 48, 402-405 (1993)

Furui T, Imai A, Tamaya T: Successful outcome of pregnancy complicated with thyroidectomy-induced hypoparathyroidism and sudden dyspnea. *Gynecol Obstet Invest* 35, 57-59 (1993)

Imai A, Iida K, Tamaya T: Gonadotropin-releasing hormone has a biphasic action on aromatase activity through protein kinase C in granulosa cells. *Int J Fertil* 38, 50-56 (1993)

Furui T, Imai A, Yokoyama Y, Tamaya T: Hematosalpinx and torsion of the fallopian tube in a virgin girl. *Gynecol Obstet Invest* 35, 123-125 (1993)

Mikamo H, Izumi K, Ito K, Watanabe K, Ueno K, Tamaya T: Bacterial regrowth-inhibition effect of cefmetazole and netilmicin in the puerperal uterine cavity. *Drug Invest* 5, 250-255 (1993)

Tamaya T, Wada K, Nakagawa M, Misao R, Itoh T, Imai A, Mori H: Sexual dimorphism of binding sites of testosterone and dihydrotestosterone in rabbit model. *Comp Biochem Physiol* 105A, 745-749 (1993)

Yamada Y, Mikamo H, Izumi K, Ito K, Tamaya T: Basic and clinical studies of levofloxacin in obstetrics and gynaecology. *Drugs* 45, 385 (1993)

Imai A, Furui T, Ohno T, Matsunami K, Takahashi K, Tamaya T: Prolactin binds to human endometrial fibroblasts and inhibits mitogenicity of an endometrial carcinoma extract. *Proc Soc Exp Biol Med* 203, 117-122 (1993)

Murase T, Imai A, Itoh N, Tamaya T: Ultrasonically guided follicular aspiration during a

pregnancy with massive ovarian cysts following ovulation induction by gonadotropins. *Fertil Steril* 59, 1132-1134 (1993)

Ohno T, Imai A, Furui T, Takahashi K, Tamaya T: Presence of gonadotropin-releasing hormone and its messenger ribonucleic acid in human ovarian epithelial carcinoma. *Am J Obstet Gynecol* 169, 605-610 (1993)

Kawabata I, Imai A, Tamaya T: Antenatal subdural hemorrhage causing fetal death before labor. *Int J Gynecol Obstet* 43, 57-60 (1993)

Murase T, Imai A, Tamaya T: Massive dermoid cyst of the ovary; magnetic resonance imaging evaluation with ultrasonography and computed tomography correlations. *Int J Gynecol Obstet* 42, 44-46 (1993)

Tamaya T, Itoh-Sawairi M, Imai A: Successful treatment by danazol of a patient with anorexia nervosa. *Res Commun Psycho Psychiat Behav* 18, 19-23 (1993)

Hanabayashi T, Imai A, Itoh N, Tamaya T: Enhanced magnetic resonance imaging evaluation for spread of cervical carcinoma. *Int J Gynecol Obstet* 43, 297-304 (1993)

Imai A, Ohno T, Takahashi K, Furui T, Tamaya T: Lack of evidence for aromatase expression in human ovarian epithelial carcinoma. *Ann Clin Biochem* 31, 65-71 (1994)

Wada K, Imai A, Itoh T, Nishigaki-Nakagawa M, Misao R, Tamaya T: Endocrine features in eutestosteronemic women with polycystic ovaries. *Gynecol Obstet Invest* 37, 106-109 (1994)

Furui T, Imai A, Ochi N, Tamaya T: A putative new proteinous factor negative for stromal growth: purification and identification from endometrial carcinoma extract. *Cancer* 73, 1239-1244 (1994)

Tamaya T: Endocrine therapy of uterine myoma. *Asian Med J* 37, 148-153 (1994)

Mikamo H, Izumi K, Ito K, Katoh N, Watanabe K, Ueno K, Tamaya T: In vitro antibacterial activity of FK037, a new parenteral broad-spectrum cephalosporin, against recent clinical isolates in the fields of obstetrics and gynecology. *Chemotherapy (Basel)* 40, 161-166 (1994)

Suzuki Y, Kawabata I et al: Prenatal diagnosis of peroxisomal disorders biochemical and immunocytochemical studies on peroxisomes in human amniocytes. *Brain & Development* 16, 27-31 (1994)

Yamagiwa S, Niwa K, Yokoyama Y, Tanaka T, Murase T, Shimokawa E, Simokawa K, Kato K, Tamaya T: Primary adenoid cystic carcinoma of Bartholin's gland. *Acta Cytologica* 38, 79-82 (1994)

Morishita S, Imai A, Kawabata I, Tamaya T: Acute myelogenous leukemia in pregnancy: fetal blood sampling and early effects of chemotherapy. *Int J Gynecol Obstet* 44, 273-277 (1994)

Furui T, Imai A, Takagi H, Takahashi K, Ohno T, Tamaya T: Inhibition by prolactin of membrane-associated phosphatidylinositol kinase of human endometrial fibroblast. *Proc Soc Exp Biol Med* 205, 140-145 (1994)

Ohno T, Imai A, Furui T, Takahashi K, Tamaya T: Presence of gonadotropin-releasing hormone and its messenger ribonucleic acid in human ovarian epithelial carcinoma. *Ob/Gyn Digest* 3, 23-25 (1994)

Matsunami K, Imai A, Tamaya T: Hypokalemia in a pregnant woman with long-term heavy cola ingestion. *Int J Gynecol Obstet* 44, 189-190 (1994)

Misao R, Imai A, Wada K, Tamaya T: Possible evidence for estrone specific binding sites in human uterine endometrial carcinoma. *Obstet Gynecol Invest* 37, 275-278, (1994)

Mikamo H, Kawazoe K, Izumi K, Itoh K, Yamada Y, Tamaya T: Drug concentrations in the pelvic retroperitoneal space exudate after the combined administration of cepheems and astromicin. *Cur Ther Res Clin Exp* 55, 632-640 (1994)

Imai A, Furui T, Tamaya T: Gynecologic tumors and symptoms in childhood and adolescence; a last 10-years' experience. *Int J Gynecol Obstet* 45, 227-234 (1994)

Niwa K, Yokoyama Y, Tanaka T, Murase T, Morishita S, Itoh M, Itoh N, Shimokawa K, Tamaya T: Successful pregnancy in a patient with endometrial carcinoma treated with medroxyprogesterone acetate. *Arch Gynecol Obstet* 255, 91-94 (1994)

Hanabayashi T, Imai A, Itoh N, Tamaya T: Valutazione della diffusione di un carcinoma cervicale mediante immagine di risonanza magnetica potenziata nel contrasto. *Giorn It Ost Gin* 16, 395-401 (1994)

Fujimoto J, Nishigaki M, Hori M, Ichigo S, Itoh T, Tamaya T: The effect of estrogen and androgen on androgen receptors and mRNA levels in uterine leiomyoma myometrium and endometrium of human subjects. *J Steroid Biochem Mol Biol* 50, 137-143 (1994)

Mikamo H, Izumi K, Ito K, Katoh N, Watanabe K, Ueno K, Tamaya T: Study on treatment of bacterial vaginosis with oral administration of metronidazole or cefdinir. *Chemotherapy (Basel)* 40, 362-368 (1994)

Sawairi-Itoh M, Imai A, Murase T, Niwa K, Itoh N, Mori H, Tamaya T: Different patterns of p53 gene mutations in endometrial carcinomas and endometrioid carcinomas of the ovary. *Int J Oncol* 5, 583-588 (1994)

Murase T, Imai A, Kasahara M, Tamaya T: Aberrant adnexal blood supply through ovarian vessel. *Int J Gynecol Obstet* 46, 71-72 (1994)

Fujimoto J, Hori M, Ichigo S, Nishigaki M, Itoh T, Tamaya T: Expression of aberrant estrogen receptor mRNA in endometrial cancers in comparison with normal endometria. *Horm Res* 42, 116-119 (1994)

Imai A, Ohno T, Tamaya T: Extra marker chromosome, dic(22)(q11), associated with gonadal dysgenesis and multiple malformations. *Int J Gynecol Obstet* 47, 63-64 (1994)

Furui T, Imai A, Matsunami K, Fuseya T, Takagi H, Horibe S, Tamaya T: Overexpression of c-erbB-2 protein in endometrial carcinoma is associated with advanced stage disease. *Oncol Reports* 1, 1123-1126 (1994)

Imai A, Ohno T, Iida K, Fuseya T, Furui T, Tamaya T: Presence of gonadotropin-releasing hormone receptor and its messenger ribonucleic acid in endometrial carcinoma and endometrium. *Gynecol Oncol* 55, 144-148 (1994)

Misao R, Hori M, Ichigo S, Fujimoto J, Tamaya T: Corticosteroid-binding globulin mRNA levels in human uterine endometrium. *Steroids* 59, 603-607 (1994)

Imai A, Furui T, Takagi H, Fuseya T, Horibe S, Tamaya T: Prolactin receptor-linked tyrosine-phosphorylation of membrane proteins is mediated by GTP-binding protein in endometrial carcinoma and endometrium. *Int J Oncol* 5, 1379-1383 (1994)

Niwa K, Itoh M, Murase T, Morishita S, Itoh N, Mori H, Tamaya T: Alteration of p53 gene in ovarian carcinoma: clinicopathological correlation and prognostic significance. *Br J Cancer* 70, 1191-1197 (1994)

Imai A, Ohno T, Ohsuye K, Tamaya T: Expression of gonadotropin-releasing hormone receptors in human epithelial ovarian carcinoma. *Ann Clin Biochem* 31, 550-555 (1994)

Imai A, Ohno T, Iida K, Fuseya T, Furui T, Tamaya T: Gonadotropin-releasing hormone receptor in gynecologic tumors: frequent expression in adenocarcinoma histologic types. *Cancer* 74, 2555-2561 (1994)

Imai A, Iida K, Tamaya T: Detection of inguinal endometriosis at magnetic resonance imaging (MRI). *Int J Gynecol Obstet* 47: 297-298 (1994)

Fujimoto J, Hori M, Ichigo S, Nishigaki M, Tamaya T: Tissue differences in the expression of mRNAs of Ha-ras, c-myc, fos and jun in human uterine endometrium, myometrium and leiomyoma under the influence of estrogen /progesterone. *Tumor Biol* 15, 311-317 (1994)

Kondo H, Imai A, Furui T, Ichigo S, Tamaya T: FIGO clinical stage IIb carcinoma of the uterine cervix and surgical staging. *Oncol Reports* 1, 1131-1132 (1994)

Mikamo H, Kawazoe K, Izumi K, Ito K, Katoh N, Watanabe K, Ueno K, Tamaya T: Inhibition of bacterial regrowth in the puerperal uterine cavity by cefbuperazone. *Cur Ther Res Clin Exp* 55, 1465-1470 (1994)

Misao R, Itoh N, Mori H, Fujimoto J, Tamaya T: Sex hormone-binding globulin mRNA levels in human uterine endometrium. *Eur J Endocrin* 131, 623-629, (1994)

Fujimoto J, Hori M, Itoh T, Ichigo S, Nishigaki M, Tamaya T: Danazol decreases transcription of estrogen receptor gene in human monocytes. *Gen Pharmac* 26, 507-516 (1995)

Fujimoto J, Hori M, Ichigo S, Misao R, Tamaya T: Preliminary study of oncogene expressions

in endometrial cancers. *Eur J Gynaec Oncol* 16, 40-46 (1995)

Fujimoto J, Nishigaki M, Hori M, Ichigo S, Morishita S, Tamaya T: Effects of estradiol and testosterone on the synthesis, expression and degradation of androgen receptor in human uterine endometrial fibroblasts. *J Biomed Sci* 2, 160-165 (1995)

Misao R, Nishigaki M, Hori M, Ichigo S, Fujimoto J, Tamaya T: Effects of danazol and medroxyprogesterone acetate on estrogen - (estradiol and estriol) specific binding sites in rabbit uterus. *Gynecol Endocrinol* 9, 29-35 (1995)

Imai A, Horibe S, Tamaya T: Genital bleeding in premenarcheal children. *Int J Gynecol Obstet* 49, 41-45 (1995)

Imai A, Iida K, Fuseya T, Takagi H, Horibe S, Tamaya T: Regulation by calcium of choriocarcinoma aromatase activity. *Oncol Reports* 2, 675-677 (1995)

Takagi H, Imai A, Furui T, Horibe S, Fuseya T, Tamaya T: Evidence for tight coupling of gonadotropin-releasing hormone receptors to phosphatidylinositol kinase in plasma membrane from ovarian carcinomas. *Gynecol Oncol* 58, 110-115 (1995)

Fujimoto J, Hori M, Ichigo S, Morishita S, Tamaya T: Clinical implication of fos and jun expressions and protein kinase activity in endometrial cancers. *Eur J Gynaec Oncol* 16, 138-146 (1995)

Murase T, Niwa K, Morishita S, Itoh N, Mori H, Tanaka T, Tamaya T: Rare occurrence of p53 and ras gene mutations in preneoplastic and neoplastic mouse endometrial lesions induced by N-methyl-N-nitrosourea and 17 β -estradiol. *Cancer Letter* 92, 223-227 (1995)

Misao R, Hori M, Ichigo S, Fujimoto J, Tamaya T: Levels of sex hormone-binding globulin (SHBG) and corticosteroid-binding globulin (CBG) messenger ribonucleic acid (mRNAs) in ovarian endometriosis. *Reprod Nutr Dev* 35, 155-165 (1995)

Fujimoto J, Ichigo S, Hori M, Nishigaki M, Tamaya T: Expression of progesterone receptor form A and B mRNAs in gynecologic malignant tumors. *Tumor Biol* 16, 254-260 (1995)

Mikamo H, Kawazoe K, Izumi K, Ito K, Yamada Y, Tamaya T: Penetration of fluconazole into

gynaecological tissues. Clin Drug Invest 10, 48-52 (1995)

Misao R, Nakanishi Y, Niwa K, Fujimoto J, Tamaya T: Ureteral obstruction caused by intrinsic ureteral endometriosis with adenomyosis but without pelvic endometriosis. Gynecol Obstet Invest 40, 66-68 (1995)

Fujimoto J, Nishigaki M, Hori M, Ichigo S, Itoh T, Tamaya T: Biological implications of estrogen and androgen effects on androgen receptor and its mRNA levels in human uterine endometrium. Gynecol Endocrinol 9, 149-155 (1995)

Horibe S, Imai A, Takagi H, Fuseya T, Tamaya T: Gonadotropin-releasing hormone decreases the content of estrogen receptors in endometrial cancer cells. Endocrinol Metab 2, 221-224 (1995)

Mikamo, H, Kawazoe K, Izumi K, Ito K, Tamaya T: Pharmacokinetics of fluconazole in the serum and exudate of the pelvic retroperitoneal space after radical hysterectomy and pelvic lymphadenectomy. Clin Drug Invest 10, 104-109 (1995)

Fujimoto J, Hori M, Ichigo S, Itoh T, Tamaya T: Induction of M-CSF receptor and its mRNA, and activation of tyrosine kinase in peripheral monocytes by oestradiol-17 and progesterone. Ann Clin Biochem 32, 399-404 (1995)

Mikamo H, Izumi K, Ito K, Tamaya T: Comparative study of the effectiveness of oral fluconazole and intravaginal clotrimazole in the treatment of vaginal candidiasis. Infect Dis Ob/Gyn 3, 7-11 (1995)

Mikamo H, Kawazoe K, Izumi K, Bandoh K, Katoh N, Watanabe K, Ueno K, Tamaya T: Inhibition of bacterial regrowth in the puerperal uterine cavity by flomoxef. Cur Ther Res 56, 873-878 (1995)

Imai A, Ohno T, Iida K, Ohsue K, Okano Y, Tamaya T: A frame-shift mutation of the androgen receptor gene in a patient with receptor-negative complete testicular feminization: comparison with a single base substitution in a receptor-reduced incomplete form. Ann Clin Biochem 32, 482-486 (1995)

Niwa K, Murase T, Morishita S, Tanaka T, Shimokawa K, Tamaya T: Changes in the number

of silver-stained nucleolar organizer regions in the normal, preneoplastic endometrium. *Cancer Detect Prevent* 19, 436-440 (1995)

Misao R, Nakanishi Y, Ichigo S, Hori M, Fujimoto J, Tamaya T: Expression of sex hormone-binding globulin mRNA in human endometrial cancers. *J Steroid Biochem Molec Biol* 52, 517-522 (1995)

Hanabayashi T, Imai A, Tamaya T: Effects of ipriflavone and estriol on postmenopausal osteoporotic changes. *Int J Gynecol Obstet* 51, 63-64 (1995)

Imai A, Horibe S, Fuseya T, Iida K, Takagi H, Tamaya T: Possible evidence that the herbal medicine shakuyaku-kanzo-to decreases prostaglandin levels through suppressing arachidonate turnover in endometrium. *J Med* 26, 163-174 (1995)

Horibe S, Imai A, Kawabata I, Tamaya T: Fetal blood sampling in the assessment of acute nonimmune hydrops fetalis. *J Med* 26, 183-188 (1995)

Furui T, Imai A, Takagi H, Horibe S, Fuseya T, Tamaya T: Phosphotyrosine phosphatase activity in membranes from endometrial carcinoma. *Oncol Reports* 2, 1055-1057 (1995)

Fujimoto J, Ichigo S, Hori M, Morishita S, Tamaya T: Oestrogen induces c-Ha-ras expression in the fibroblasts derived from human uterine endometrium. *Ann Clin Biochem* 32, 487-492 (1995)

Misao R, Nakanishi Y, Fujimoto J, Hori M, Ichigo S, Tamaya T: Expression of sex hormone-binding globulin mRNA in human ovarian cancers. *Eur J Endocrinol* 133, 327-334 (1995)

Misao R, Nakanishi Y, Fujimoto J, Ichigo S, Hori M, Tamaya T: Expression of corticosteroid-binding globulin mRNA in human uterine endometrial cancers. *Steroids* 60, 720-724 (1995)

Fujimoto J, Ichigo S, Hori M, Morishita S, Tamaya T: Estrogen induces c-Ha-ras expression via activation of tyrosine kinase in uterine endometrial fibroblasts and cancer cells. *J Steroid Mol Biol* 55, 25-33 (1995)

Morishita S, Niwa K, Ichigo S, Hori M, Murase T, Fujimoto J, Tamaya T: Overexpressions of c-Fos/jun mRNA and their oncoproteins (Fos/Jun) in the mouse uterus treated with three

natural estrogens. *Cancer Letters* 97, 225-231 (1995)

Niwa K, Morishita S, Murase T, Kawabata I, Imai A, Shimokawa K, Tamaya T: CASE REPORT Successful pregnancy in a patient with pseudomyxoma peritonei arising from ovarian mucinous cystadenocarcinoma treated with cisplatin. *Gynecol Oncol* 59, 398-400 (1995)

Mikamo H, Kawazoe K, Izumi K, Ito K, Tamaya T: NM441: Penetration into gynaecological tissues and invitro activity against clinical isolates from obstetric and gynaecological patients. *Drugs* 49, 326-330 (1995)

Misao R, Nakanishi Y, Fujimoto J, Tamaya T: Sex hormone-binding globulin and corticosteroid-binding globulin mRNA levels in infertile women with luteal phase deficiency. *Gynecol Endocrinol* 9, 195-200 (1995)

Izumi K, Kawazoe K, Mikamo H, Ito K, Tamaya T: In vivo bacterial regrowth-inhibition effect of cefbuperazone and amikacin in puerperal uterine cavity. *J Chemother* 7, 173-176 (1995)

Misao R, Nishigaki M, Hori M, Ichigo S, Fujimoto J, Tamaya T: Effects of danazol and medroxyprogesterone acetate on estrogen- (estradiol and estriol) specific binding sites in rabbit uterus. *Gynecol Endocrinol* 9, 29-35 (1995)

Misao R, Nakanishi Y, Fujimoto J, Tamaya T: Expression of sex hormone-binding globulin mRNA in uterine leiomyoma, myometrium and endometrium of human subjects. *Gynecol Endocrinol* 9, 317-323 (1995)

Fujimoto J, Hori M, Ichigo S, Morishita S, Tamaya T: Estrogen induces the expression of c-fos and c-jun genes in fibroblasts derived from human uterine endometrium. *Exp Clin Endocrinol* 103, 378-385 (1995)

Fujimoto J, Hori M, Ichigo S, Morishita S, Tamaya T: Estrogen activates invasiveness of endometrial cancer cells to the interstitium. *Invasion and Metastasis* 15, 135-143 (1995)

Imai A, Takagi H, Furui T, Horibe S, Fuseya T, Tamaya T: Evidence for coupling of phosphotyrosine phosphatase to gonadotropin - releasing hormone receptor in ovarian carcinoma membrane. *Cancer* 77, 133-137 (1996)

Mikamo H, Kawazoe K, Izumi K, Ito K, Katoh N, Watanabe K, Ueno K, Tamaya T: Bacteriological epidemiology and treatment of bacterial vaginosis. *Chemotherapy* 42, 78-84 (1996)

Fujimoto J, Hori M, Ichigo S, Morishita S, Tamaya T: Estrogen activates migration potential of endometrial cancer cells through basement membrane. *Tumor Biol* 17, 48-57 (1996)

Misao R, Fujimoto J, Niwa K, Morishita S, Nakanishi Y, Tamaya T: Progesterone and estrogen receptors in human testis. *Mol Androl* 8, 1-6 (1996)

Mikamo H, Kawazoe K, Izumi K, Ito K, Kato N, Watanabe K, Ueno K, Tamaya T: Comparative study of in vitro activity of NM394 and four other new quinolones against clinical isolates from patients with obstetric and gynecologic infections. *Cur Ther Res* 57, 103-108 (1996)

Itoh N, Mima T, Mikawa T: Loss of fibroblast growth factor receptors is necessary for terminal differentiation of embryonic limb muscle. *Development* 122, 291-300 (1996)

Fujimoto J, Hori M, Ichigo S, Morishita S, Tamaya T: Estrogen induces expression of c-fos and c-jun via activation of protein kinase C in an endometrial cancer cell line and fibroblasts derived from human uterine endometrium. *Gynecol Endocrinol* 10, 109-118 (1996)

Niwa K, Morishita S, Murase T, Ambar M, Tanaka T, Mori H, Tamaya T: Chronological observation of mouse endometrial carcinogenesis induced by N-methyl-N-nitrosourea and 17 β -estradiol. *Cancer Letter* 104, 115-119 (1996)

Imai A, Furui T, Tamaya T: Ultrasound-detected polycystic ovarian syndrome associated with depleted basal level but enhanced response of gonadotropin. *J Med* 26, 337-342 (1996)

Imai A, Tamaya T: Pericentric inversion of chromosome 7 associated with recurrent. *Int J Gynecol Obstet* 52, 187-188 (1996)

Imai A, Kawabata I, Tamaya T: Effect of pregnancy on autoimmune disease. *Int J Gynecol Obstet* 52, 283-284 (1996)

Imai A, Horibe S, Takagi H, Fuseya T, Tamaya T: Alteration of GTP-binding proteins in ovarian tumors. *Oncol Reports* 3, 241-243 (1996)

その他

三嶋廣繁，和泉孝治，伊藤邦彦，玉舎輝彦：婦人科悪性腫瘍患者に合併した深在性菌感染症の検討．*岐阜大医紀* 第 87 回岐阜感染症談話会抄録集 41(2), 586-587 (1993)

玉舎輝彦：巻頭言 女性と穀物摂取．*岐阜県母性衛生学会雑誌* 11, 3 (1993)

今井篤志，大野 元，古井辰郎，玉舎輝彦：産科婦人科でのちょっとした英会話．*岐阜県母性衛生学会雑誌* 11, 145-152 (1993)

三嶋廣繁，和泉孝治，伊藤邦彦，玉舎輝彦，渡辺邦友，上野一恵：羊水の細菌発育阻止作用についての研究．第 10 回日本産婦人科感染症研究会学術講演会記録集 (1993) 2-4

三嶋廣繁，和泉孝治，伊藤邦彦，玉舎輝彦，渡辺邦友，上野一恵：細菌性膣症における *Mobiluncus* 属の検出状況について．第 10 回日本産婦人科感染症研究会学術講演会記録集 (1993) 18-20

玉舎輝彦：STD と薬物療法．第 67 回兵庫県産婦人科学会総会プログラム (1993. 6. 27)

今井篤志：産婦人科ひとくち英会話 1 ~ 5 . *ペリネイタルケア* vol.12 No.8-12 (1993)

玉舎輝彦：思春期 1 "思春期入門・礼賛"．*岐阜新聞* 家庭版 7 月 23 日掲載

玉舎輝彦：思春期 2 "月経"．*岐阜新聞* 家庭版 7 月 30 日掲載

玉舎輝彦：思春期 3 "男と女"．*岐阜新聞* 家庭版 8 月 6 日掲載

玉舎輝彦：思春期 4 "生殖器変形"．*岐阜新聞* 家庭版 8 月 13 日掲載

玉舎輝彦：思春期 5 "10 代の性行動"．*岐阜新聞* 家庭版 8 月 20 日掲載

玉舎輝彦：思春期 6 "肥満とやせ"．*岐阜新聞* 家庭版 8 月 27 日掲載

玉舎輝彦：思春期 7 "隠れた悩み"．*岐阜新聞* 家庭版 9 月 3 日掲載

玉舎輝彦：思春期 8 "子宮がん" . 岐阜新聞 家庭版 9 月 10 日掲載

玉舎輝彦：思春期 9 "男女の性心理" . 岐阜新聞 家庭版 9 月 17 日掲載

玉舎輝彦：思春期 10 "性" . 岐阜新聞 家庭版 9 月 25 日掲載

三鴨廣繁，和泉孝治，伊藤邦彦，玉舎輝彦，早崎源基，渡辺邦友，上野一恵：子宮留膿症における細菌学的検討 . 感染症誌 (第 67 回日本感染症学会総会学術講演会抄録) 67, 900 (1993)

和泉孝治，三鴨廣繁，伊藤邦彦，玉舎輝彦：婦人科領域手術に SBT/CPZ を投与した場合の腔内細菌の変化 . 感染症誌 (第 67 回日本感染症学会総会学術講演会抄録) 67, 900-901 (1993)

和泉孝治，三鴨廣繁，伊藤邦彦，玉舎輝彦：正常褥婦の子宮内から検出される細菌について (産褥 1 日目と 5 日目を比較して) . 岐阜大医紀 (第 88 回岐阜感染症談話会抄録) 41, 783-784 (1993)

玉舎輝彦：駆於血剤が有効 体質改善も期待できる . 朝日ワンテームマガジン 決定版 漢方は効く！ 朝日新聞社編，1993. 12 月

Kawabata I, Tamaya T, Iwata T, Ando T, Yamada H: Prenatal diagnostic evaluation of fetal ventricular dilatation by MRI, 8 cases Annual Review of Hydrocephalus and Spina Bifida 11, 68-69 (1993)

Kawabata I, Tamaya T: Antenatal evaluation of congenital anomalies by magnetic resonance imaging. Fetal Diagnosis and Therapy (Abstract of 9th International Society The Fetus as a Patient) 1993. p7

Mikamo H, Kawazoe K, Izumi K, Ito K, Tamaya T: Penetration of NM441 into gynecological tissues and in vitro activity of NM441 against clinical isolates in the fields of obstetrics and gynecology Abstract of 5th International Symposium on New Quinolones Singapore (Aug 25-27, '94) 1994. 1-8

Mikamo H, Izumi K, Ito K, Satoh M, Tamaya T: Imipenem-induced resistance to antibacterial

-lactams in *Pseudomonas aeruginosa*, *Enterobacter cloacae*, and *Citrobacter freundii*
RECENT ADVANCES IN CHEMOTHERAPY (Proceeding of the 18th International
Congress of Chemotherapy), Einhorn J ed, American Society for Microbiology 1994. 174-175

Ito K, Mikamo H, Izumi K, Tamaya T: Drug disposition in exudate of the pelvic
retroperitoneal space in concomitant use of cefbuperazone with amikacin, micromycin, and
astromycin after radical hysterectomy RECENT ADVANCES IN CHEMOTHERAPY
(Proceeding of the 18th International Congress of Chemotherapy), Einhorn, J ed, American
Society for Microbiology 1994. 397-398

Sawairi M, Morishita S, Itoh N, Mori H, Tamaya T: Effect of K-ras antisense oligonucleotides
on gynecologic cancer cell line RECENT ADVANCES IN CHEMOTHERAPY (Proceeding
of the 18th International Congress of Chemotherapy), Einhorn, J ed, American Society for
Microbiology 1994. 894-895

Morishita S, Sawairi M, Niwa K, Itoh N, Hanabayashi T, Mori H, Tamaya T: Interaction of
gamma interferon and CPT-11, a new derivative of camptothecin, in human endometrial
carcinoma cell line RECENT ADVANCES IN CHEMOTHERAPY (Proceeding of the 18th
International Congress of Chemotherapy), Einhorn, J ed, American Society for Microbiology
1994. 905-906

Itoh N, Morishita S, Sawairi M, Hanabayashi T, Mori H, Yamawaki Y, Tamaya T:
Neoadjuvant intra-arterial infusion chemotherapy by cisplatin-containing combination
regimens for patients with locally advanced uterine cervical cancer RECENT ADVANCES
IN CHEMOTHERAPY (Proceeding of the 18th International Congress of Chemotherapy),
Einhorn, J ed, American Society for Microbiology 1994. 1007-1008

Itoh N, Morishita S, Sawairi M, Murase T, Niwa K, Mori H, Tamaya T: Amplification of HER-
2 and c-myc genes in ovarian cancer and its association with clinicopathologic findings
RECENT ADVANCES IN CHEMOTHERAPY (Proceeding of the 18th International
Congress of Chemotherapy), Einhorn, J ed, American Society for Microbiology 1994. 1027-
1028

Murase T, Morishita S, Sawairi M, Niwa K, Itoh N, Mori H, Tamaya T: Clinicopathologic
features of ovarian cancers showing p53 gene alteration RECENT ADVANCES IN
CHEMOTHERAPY (Proceeding of the 18th International Congress of Chemotherapy),

Einhorn, J ed, American Society for Microbiology 1994. 1028-1029

Yamada Y, Hirose R, Kondoh H, Mikamo H, Itoh N, Hanabayashi T, Mori H, Ito K, Tamaya T: Efficacy of intra-arterial chemotherapy for gynecological malignant tumors RECENT ADVANCES IN CHEMOTHERAPY (Proceeding of the 18th International Congress of Chemotherapy), Einhorn, J ed, American Society for Microbiology 1994. 1030

Imai A, Tamaya T: The male germ cell Spermatogoneium to fertilization Res Comm Chem Pathol Pharmacol 84, 128 (1994)

今井篤志：産婦人科ひとくち英会話 6 ~ 10 . ペリネイタルケア vol.13 No.1-5 (1994)

玉舎輝彦：産婦人科細菌感染症の特徴と治療の実際 . H6 札幌市産婦人科医会新年交礼会記念講演会 講演要旨

伊藤直樹, 伊藤恒夫, 中西義人, 杉山三知代, 川添香子, 玉舎輝彦：岐阜大学医学部産婦人科での子宮癌症例の 10 年間の推移 . 岐阜産婦人科紀要 7, 20 (1994)

玉舎輝彦：なんでも健康相談 漢方の Q&A . NHK きょうの健康 1994 年 4 月号, p146

玉舎輝彦, 伊藤美穂, 伊藤俊哉：更年期障害に対するツムラ加味逍遙散, ツムラ柴胡桂枝乾姜湯の効果 . JAMA 3, 40-41 (1994)

三嶋廣繁, 和泉孝治, 伊藤邦彦, 玉舎輝彦：術前処置における剃毛施行前後の皮膚細菌叢 . 岐阜大医紀 (第 13 回 NI 懇話会抄録集) 42, 276 (1994)

三嶋廣繁, 和泉孝治, 伊藤邦彦, 玉舎輝彦, 加藤直樹, 渡辺邦友, 上野一恵：細菌性膣症の治療に関する検討 . 岐阜大医紀 (第 90 回岐阜感染症談話会抄録集) 42, 278 (1994)

玉舎輝彦：ヒト子宮内膜細胞質中ステロイドレセプターに対するダナゾールの結合親和性 . ボンゾール パンフレット p24

玉舎輝彦：ツムラ加味逍遙散エキス顆粒 (医療用) チラシ

玉舎輝彦：その他のステロイド剤の使用指針 . 産婦治療 68, 婦人科薬物療法の実際内容見本

和泉孝治，三鴨廣繁，伊藤邦彦，玉舎輝彦，加藤直樹，渡辺邦友：正常褥婦の子宮から検出される細菌について (Lenampicillin 投与時と比較して)．第 11 回日本産婦人科感染症研究会学術講演会記録集 1994. 57-58

玉舎輝彦：総会長による今年の学会の話題「第 13 回日本思春期学会」．Medical Academy News 553, 7 (1995)

玉舎輝彦：巻頭言．岐阜県母性衛生学会雑誌 14, 3 (1994)

玉舎輝彦：第 13 回日本思春期学会開催にあたって．医学と薬学 32, 32 (1994)

玉舎輝彦：近くの祭り．臨婦産 48, 1130 (1994)

玉舎輝彦：産科婦人科学講座．岐阜大学医学部 50 年史，附属病院 120 年史．1994. 158-159

玉舎輝彦：分娩部．岐阜大学医学部 50 年史，附属病院 120 年史．1994. 242-243

玉舎輝彦："教授が語る QOL" 司祭パンフレット 1994. p54

玉舎輝彦：思春期学と性行動最前線 (第 13 回日本思春期学会総会，会長インタビュー)．教育医事新聞 1994. 9. 25, p18

川添香子，三鴨廣繁，和泉孝治，伊藤邦彦，玉舎輝彦：当科における前期破水患者の羊水中から検出された GBS の特徴について．岐阜大医紀 (第 91 回岐阜感染症談話会抄録集) 42, 427-428 (1994)

全国医科大学教授名鑑に掲載 (玉舎教授プロフィール)．医事公論社編 p137, (1995)

川添香子，三鴨廣繁，和泉孝治，伊藤邦彦，玉舎輝彦：婦人科領域における深在性真菌症の検討．岐阜大医紀 (第 92 回岐阜感染症談話会抄録集) 42, 479-480 (1994)

川添香子："C. albicans 以外の真菌検出～婦人科領域でも少なくない". Mycology News 8, 10 (1994)

三鴨廣繁：臨床から見た院内感染．岐阜大医紀 (第 14 回 NI 懇話会抄録集) 42, 491 (1994)

玉舎輝彦：産科学婦人科学特論．専攻分野別研究内容等紹介，岐阜大学大学院医学研究科編，p39-40, 1994. 8月

玉舎輝彦：ここまでの先進医療 "子宮筋腫"．週刊朝日 堀口明男，鶴田麻紀編，p118-119, 1995. 12. 30号

玉舎輝彦：カルシウム．岐阜新聞 シリーズ 健康を考える，Vol 17，「女性のからだのために乳製品を」1995. 7. 30号

今井篤志，玉舎輝彦：視床下部ホルモン Gn-RH の抗腫瘍効果．いずみ 41, 18-19 (1994)

玉舎輝彦：女性と於血．漢方ライフ懇話会 (1994. 8. 24) 講演集 p17-27

玉舎輝彦：受容体の変異体の婦人科腫瘍増殖能に関する研究．岡崎国立共同研究機構基礎生物学研究所 共同研究報告書 1992-1993年度 4, 33 (1995)

三嶋廣繁，川添香子，和泉孝治，伊藤邦彦，八谷 滋，佐藤 勝，玉舎輝彦：ラット子宮内感染モデルの作成と抗菌剤による治療効果．第4回実験感染セミナー講演集 1995. 60-65

玉舎輝彦：思春期を考える 1「緒言」．ペリネイタルケア 14, 7 (1995)

玉舎輝彦：性ステロイド療法の進歩．第24回日本医学会総会学術講演要旨 p274 (1995)

玉舎輝彦：企画者のことば (特集：閉経後女性の管理)．産婦の実際 44, 470 (1995)

玉舎輝彦：Pfannenstiel 切開の勧め．臨婦産 49, 774 (1995)

玉舎輝彦：巻頭言．岐阜県母性衛生学会雑誌 16, 3 (1995)

岐阜大学研究者一覧に掲載．p99, 100, 135, 136, (1995)

「漢方上手」全国版 漢方治療にも詳しい医師ガイドに掲載．p145 (1995)

玉舎輝彦 (執筆；狩生聖子)：取材記事 "更年期障害"．週刊朝日 p120-122, 1995. 7. 14日

号

和泉孝治，川添香子，三鴨廣繁，伊藤邦彦，玉舎輝彦：子宮留膿症治療における基礎的検討（マウス留膿症の作成と Panipenem, G-CSF による治療実験）．第 12 回日本産婦人科感染症研究会講演会記録集 1995. 8-9

川添香子，三鴨廣繁，和泉孝治，伊藤邦彦，玉舎輝彦：母体血サイトカイン測定による絨毛羊膜診断の有用性．第 12 回日本産婦人科感染症研究会講演会記録集 1995. 39-40

三鴨廣繁，川鱈市郎，和泉孝治，玉舎輝彦：産婦人科領域におけるカンジダ感染症の現状．岐阜大医紀 第 93 回岐阜感染症談話会抄録 43, 455 (1995)

玉舎輝彦他：更年期障害．週刊朝日増刊号 "先進医療 1996" p53-56 (1995)

玉舎輝彦：女性における予防医療．薬事日報 1995. 10. 9 日号

玉舎輝彦他（執筆；浅原須美）：月経痛の陰に月経困難症あり．家庭画報 1995. 12 月号

玉舎輝彦（執筆；鶴田真季子）："本日回診" 記事 週刊朝日 1995. 12. 1 号，p118

玉舎輝彦：東京田辺製薬．ボンゾールカプセル 100, 200, チラシ

今井篤志，古井辰郎，玉舎輝彦：癌細胞由来の新增殖抑制因子．いずみ 42, 16-17

今井篤志：産婦人科ひとくち英会話 (18)．ペリネイタルケア 14, 89 (1995)

今井篤志：産婦人科ひとくち英会話 (19)．ペリネイタルケア 14, 173 (1995)

Kawabata I: Evaluation of the placenta by magnetic resonance imaging (MRI). Placenta 16: A-5 (1995)

玉舎輝彦：広汎子宮全摘出術．ビデオセミナー "婦人科癌の手術"．朝日サイエンス社主催，京都，1996. 2. 3-4

玉舎輝彦：広汎子宮全摘出術．ビデオセミナー "婦人科癌の手術" テキスト．1995. 3

玉舎輝彦：婦人科的立場から．第 17 回岐阜県メディカルセミナー（1996. 3. 3）～骨粗鬆症の臨床～ 抄録集 p5

川鱒市郎：年賀状．臨婦産 50, 530 (1996)

玉舎輝彦：私のこの一冊 "Williams Obstetrics" 第 48 回日本産科婦人科学会 展示パネル

玉舎輝彦：巻頭言．岐阜県母性衛生学会雑誌 18, 3 (1996)

和泉孝治，川添香子，三鴨廣繁，玉舎輝彦：当科における細菌性膣症の現状と metronidazole(MTN)による治療効果．岐阜大医紀（第 96 回岐阜感染症談話会抄録）44, 473 (1996)

整形外科科学講座

著書 (和文)

系数万正，松永隆信，奥野雅男：吸収スポンジによる指・指尖部損傷の治療．整形外科 Mook (2A) 金原出版，1993. 157-160

系数万正，松永隆信，田中清介：距骨体部切除術による足関節形成術．整形外科 Mook (2A) 金原出版，1994．140-145

和田栄二，各論．外傷 (総論)，エッセンシャル整形外科学，第2版，腰野富久，臼井康正，生田義和編，東京，医歯薬出版株式会社，1994, 101-120

系数万正，松永隆信，宗宮宏尚，丹羽剛雄：抗生剤含浸ハイドロキシアパタイトを用いた骨髓炎の治療法．MB Orthop. 8(3) 別冊，全日本病院出版会，1995．81-87

系数万正：膝蓋の変形 (Deformity of Patella)．「今日の整形外科治療指針」第3版，医学書院，1995. 681-682

系数万正：膝蓋軟化症 (Chondromalacia Patellae)．「今日の整形外科治療指針」第3版，医学書院，1995. 682-683

系数万正：膝蓋窩嚢腫 (Popliteal Cyst)．「今日の整形外科治療指針」第3版，医学書院，1995. 683

大野義幸，系数万正：整形外科領域の感染症ならびにその起炎菌の変遷．MB Orthop. 8(3) 別冊，全日本出版会，1995. 9-18

系数万正，松永隆信：急性関節炎 (感染症)．整形外科手術 10 巻，中山書店，1995．50-57

系数万正：膝関節手術 (靭帯修復・再建術)．新図説整形外科講座 (第8巻 大腿・膝)，メジカルビュー社，1995. 228-234

系数万正：膝関節手術 (半月切除術・縫合術)．新図説整形外科講座 (第8巻 大腿・膝)，メジカルビュー社，1995. 225-227

系数万正:全身性エリトマトーデス. エンサイクロペディア股関節診療, 医学書院, 1996.
in press

系数万正:乾癬性関節炎. エンサイクロペディア股関節診療, 医学書院, 1996. in press

系数万正:ステロイド関節症. エンサイクロペディア股関節診療, 医学書院, 1996. in
press

系数万正:強直性脊椎炎. エンサイクロペディア股関節診療, 医学書院, 1996. in press

著書 (欧文)

Friedlaender GE, Troiano N, Ishii M, Pelker RR, Baron R: Abnormal Bone Remodeling: The
Consequences of Therapeutic Drugs and Physical Modalities, Bone Formation and Repair,
1994. 289-297

総説 (和文)

系数万正:私論「診療と研究の谷間で」. 整形外科 44(1), 66 (1993)

系数万正, 松永隆信:大腿骨切り術 (股関節の術後リハビリテーション 3). J. Clin.
Rehabilitation 3(4), 319-321 (1994)

系数万正:先天性円板状半月と関節鏡. 岐阜医学館だより 36(1), (1995)

系数万正:学会を聞く”18回日本骨・関節感染症研究会. 整形外科 46(11), 1560-1562 (1995)

系数万正:ヘモクロマトーシス (ポスターセッション). 関節外科 14(10), 7-10 (1995)

系数万正:特集:整形外科と薬物療法 (下肢痛と薬物療法). 骨・関節・靭帯 8(10), 1343-
1348 (1995)

原著 (和文)

系数万正, 松永隆信, 宗宮 優:膝関節鏡排液チューブの考案 (IA チューブ). 関西関
節鏡膝研究会誌 4(1), 97-98 (1993)

伊藤正志, 系数万正, 松永隆信, 渡辺邦友:破骨細胞および前破骨細胞の食菌能の比較.

日整会誌 67(8), 1608 (1993)

系数万正, 松永隆信, 益田和明, 楊 文毅, 伊藤正志, 宗宮広尚: 抗生剤含有ポーラスハイドロキシアパタイトブロックの作製. 日整会誌 67(8), 1435 (1993)

横井達夫, 青木隆明, 佐藤克平, 系数万正, 松永隆信, 正村静子: 解剖標本による肘関節およびとう骨頭骨梁構造の観察. 日整会誌 67(8), 1451 (1993)

木田公洋, 系数万正, 勝亦紘一, 伏屋隆男: 大学体育学部短距離選手における足趾足関節可動域の検診結果. 臨床スポーツ医学 10(5), 555-557 (1993)

高橋啓一, 系数万正, 横井達夫, 青木隆明, 佐藤克平, 正村静子: ヒト骨盤における髓内血行の観察 (第一報). 日整会誌 67(8), 1427 (1993)

系数万正, 松永隆信, 益田和明, 宗宮広尚, 坂本 崇: 成形体ハイドロキシアパタイトを用いたヒアルロン酸徐放システムの開発. 中部整災誌 36(6), 1711-1712 (1993)

伊藤正志, 系数万正, 松永隆信, 渡辺邦友, 上野一恵: ニューキノロン系抗生剤の整形外科由来分離菌株に対する抗菌力について. 日本骨・関節感染症研究会 7, 10-13 (1993)

久島泰仁, 伊藤正志, 岩佐一彦, 和田栄一, 系数万正, 松永隆信: 極めて稀な *Alcaligenes Denitrificans* Subspecies *Xyloxidans* 感染症の 2 例. 日本骨・関節感染症研究会 7, 24-26 (1993)

大野義幸, 系数万正, 大島康司, 伊藤正志, 松永隆信: 高齢者 (65 歳以上) の骨関節感染症 (結核を含む) の検討. 日本骨・関節感染症研究会 7, 123-125 (1993)

和田栄二, 松永隆信, 鈴木 康, 栄枝裕文: 頸部前方固定における移植部圧壊因子の検討). 中部整災誌 36, 1555-1556 (1993)

和田栄二, 高橋啓一, 下地昭昌, 松永隆信, 楊 仲仁: 脊髄腫瘍における椎弓再建の試み). 東海脊椎外科 7, 43-45 (1993)

柴田博次, 和田栄二, 青木隆明, 松永隆信: LIDO lift system による掌上運搬動作解析 - 第 4 報 -). 中部整災誌 36, 825-826 (1993)

柴田博次，和田栄二，青木隆明，松永隆信：LIDO lift system による掌上運搬動作解析 - 第 5 報 -) . 日本災害医学会会誌 41, 523-528 (1993)

柴田博次，和田栄二，青木隆明，松永隆信：LIDO lift system による掌上運搬動作解析 - 第 6 報 -) . 中部整災誌 36, 1745-1746 (1993)

富成伸育，細江英夫：汎発性石灰沈着症の 1 例. 羽島市民病院紀要 2, 123-130 (1993)

西本 裕，武内章二，櫛田喜輝，松永隆信：再発類腱腫の治療の検討. 中部整災誌 36, 1623-1624 (1993)

櫛田喜輝，武内章二，西本 裕，松永隆信：悪性骨軟部腫瘍に対する術前持続動注療法の合併症とその対策について. 中部整災誌 36, 1635-1636 (1993)

中村正生，西本 裕，櫛田喜輝，松永隆信，下川邦泰，池田庸子，武内章二：左膝腫瘍. 東海骨軟部腫瘍 5, 82-83 (1993)

石井光一：同種骨移植に関する意識調査 - 岐阜県の一般成人の調査 - . 中部整災誌 36, 469-470 (1993)

系数万正，松永隆信，宗宮広尚，楊 文毅，伊藤正志，種森孝至：乾燥型抗生剤含浸ハイドロキシアパタイトブロックの作製. 日整会誌 68(8), 1600 (1994)

川崎浩史，児玉直樹，重村克巳，坂口康道，系数万正，松永隆信：ヒト関節軟骨におけるヒアルロン酸の局在 - ビオオチン化酸結合蛋白を用いた光顕的観察. 日整会誌 68(8), 1256 (1994)

坂口康道，系数万正，重村克巳，松永隆信：慢性関節リウマチ滑膜細胞層における WGA レクチンを用いた電顕細胞化学. 岐阜大紀要 42(2), 249-255 (1994)

系数万正，松永隆信，岩佐一彦，宗宮 優，高橋啓一，鈴木 誉，日下部良邦：骨髄内におよぶ膝感染症に対し抗生剤含有成形体 Hydroxyapatite を用いた 2 症例. 関西関節鏡膝研究会誌 5(1), 64-66 (1994)

横井達夫，青木隆明，系数万正，松永隆信，正村静子：解剖標本による腕頭関節およびとう骨頭骨梁構造の観察. 日本肘研究会誌 1(1), 37-38 (1994)

系数万正，松永隆信，高見 剛，名取恒夫，宮下剛彦：ヒアルロン酸結合蛋白 (HABP) による滑膜組織におけるヒアルロン酸の証明. 中部整災誌 37(5), 1227-1228 (1994)

高橋啓一，系数万正，横井達夫，青木隆明，佐藤克平，松永隆信，正村静子：ヒト骨盤における髓内血行の観察 (第 2 報). HIP JOINT 20, 137-142 (1994)

系数万正，松永隆信，栄枝裕文，石井光一，徳山 剛，日下部良邦：脛骨陥没骨折における関節鏡の応用とハイドロキシアパタイト移植. 骨・関節・靭帯 7(11), 1215-1222 (1994)

系数万正，松永隆信，石井光一，益田和明，尾下佳史，宮田慶男，平松 哲：臼蓋骨欠損例における THA の移植骨の推移と骨移植法. 人工関節フォーラム '94 記録, 64-69 (1994)

和田栄二，松永隆信，鈴木 康，服部秀高，東 隆雄：サケカルシトニンの骨塩量に対する作用 - DXA 装置による検討 - . 中部整災誌 37, 227-228 (1994)

和田栄二，西本省三，八木澤芳生，栄枝裕文，平松 哲：馬尾性間歇跛行に対する beraprost sodium の臨床効果. 中部整災誌 37, 711-712 (1994)

和田栄二，松永隆信：特発性側彎症の背筋部筋活動非対称性と重量物挙上能力. 脊柱変形 9, 21-27 (1994)

和田栄二，松永隆信，栄枝裕文，鈴木 康：当科で行っている頸椎前方除圧固定法について. 東海脊椎外科 8, 38-41 (1994)

柴田博次，和田栄二，丹羽剛雄，青木隆明，松永隆信：LIDO lift system による挙上運搬動作解析 - 第 7 報 - . 日本災害医学会会誌 42, 697-702 (1994)

平松 哲，西本虎正，渡辺数人，和田栄二，松永隆信：DEXA 法による骨塩定量の現状と問題点について . 中部整災誌 37, 223-224 (1994)

平松 哲，西本虎正，渡辺数人，和田栄二，松永隆信：DEXA 法による腰椎後方要素皮質骨の骨塩量減少の評価 Boneanalyzer による中手骨骨密度評価と比較して . 日本骨形態雑誌 4, 149-153 (1994)

小林源博, 服部秀高, 河合 淳, 和田栄二, 松永隆信: 地域住民における骨塩定量に關与する諸因子の検討 (第 2 報). Osteoporosis Japan 2, 112-115 (1994)

小林源博, 服部秀高, 河合 淳, 和田栄二, 松永隆信: 地域住民における骨塩定量に關与する諸因子の検討. 中部整災誌 37, 191-192 (1994)

大野義幸, 和田栄二, 細江英夫, 石井光一, 松永隆信: Silicon Chamber Technique を用いた末梢神経修復術の実験的研究 (第 3 報). 日本手の外科学会誌 11, 456-459 (1994)

細江英夫, 堀 裕彦: MRI における腰椎椎体輝度変化の検討 (第 3 報). 日脊会誌 5, 138 (1994)

細江英夫, 堀 裕彦: MRI における腰椎椎体輝度変化の検討 (第 2 報). 中部整災誌 37, 247-248 (1994)

細江英夫, 堀 裕彦: MRI における腰椎椎体輝度変化の検討. 羽島市民病院紀要 3, 51-58 (1994)

西本 裕, 松永隆信, 柳川繁雄, 武内章二: 骨軟部悪性腫瘍に対する術中照射の適応と限界. 骨・関節・靭帯 7, 285-292 (1994)

西本 裕, 益田和明, 種森孝至, 松永隆信, 武内章二: 持続動注化学療法時の i. a. dynamic MRI の有用性. 中部整災誌 37, 1537-1538 (1994)

佐藤克平, 西本 裕, 松永隆信, 武内章二, 下川邦泰: 小児の右脛骨骨端部の骨巨細胞腫の 1 例. 東海骨軟部腫瘍 6, 55-56 (1994)

野々村秀彦, 西本 裕, 種森孝至, 松永隆信, 武内章二, 下川邦泰, 丹菊臣生, 細江英夫: 左大腿骨遠位骨腫瘍. 東海骨軟部腫瘍 6, 100-101 (1994)

益田和明, 松永隆信, 系数万正, 喜久生明男, 大橋 勉: 膝 MRI 像における半月内部像の検討. 中部整災誌 37, 79-80 (1994)

益田和明, 松永隆信, 系数万正, 喜久生明男, 宗宮 優: 股関節における正常及び関節症例の MRI 所見の検討. 中部整災誌 36, 1273-1294 (1994)

系数万正，松永隆信，宗宮広尚，益田和明，山本啓二，江崎浩正，野々村秀彦：感染とバイオマテリアルの臨床応用. 関節外科 14(1), 73-78 (1995)

大島康司，系数万正，丹羽剛雄，大野義幸，松永隆信：大腿骨骨髓炎より典型的な経過をたどり急性化膿性膝関節炎を発症した 1 例. 関西関節鏡膝研究会誌 6(1), 87-89 (1995)

加藤忠幸，加藤栄一，系数万正：サーモグラフィーを用いた人工膝関節術後皮膚温の検討. 東海北陸理学療法士会誌 6(1), 87-89 (1995)

宮本 敬，小塚勝久，喜久生明男，系数万正，松永隆信：変形性膝関節症患者の関節液分析 - 軟骨マーカー濃度と病期・生活活動性との関連の検討 - . 中部整災誌 38(1), 121-122 (1995)

加藤忠幸，加藤栄一，尾下英史，徳山 剛，系数万正：理学療法を実施した先天性無痛無汗症の一例. 理学療法学会誌 22(2), 443 (1995)

山本啓二，系数万正，松永隆信，加藤直樹，渡辺邦友：抗菌薬含有フィブリン塊の実験的骨髓炎に対する治療効果. 中部整災誌，in press (1995)

篠崎昌人，系数万正，尾下佳史，土屋昭義，高見 剛，松永隆信：関節滑膜中ヒアルロン酸の分布と組織定量の疾患別検討. 日整会誌 69(8), 1427 (1995)

熊沢慎志，系数万正，西本 裕，楊 文毅，松永隆信：ハイドロキシアパタイトを基材とした徐放性抗癌剤の実験的軟部腫瘍への応用. 日整会誌 69(8), 1628 (1995)

系数万正，松永隆信，Yang Wenyi，青木隆明：術後出血・疼痛対策 - フィブリン接着剤混合エピネフィリン・キシロカイン徐放実験. 中部整災誌，in press (1995)

江崎浩正，系数万正，松永隆信，加藤直樹，渡辺邦友：実験的嫌気性菌に対する抗菌薬含浸ハイドロキシアパタイトブロックによる治療効果. 中部整災誌，in press (1995)

杉山誠一，鈴木 康，系数万正，松永隆信：関節疾患における関節液中の軟骨コラーゲン代謝物. 臨床リウマチ 7(4), 196-202, (1995)

野々村秀彦，大野義幸，系数万正，松永隆信，加藤直樹，渡辺邦友：医療用 Leech (ヒ

ル) の常在菌と薬剤感受性について. 日本骨・関節感染症研究会 9, 19-20 (1995)

山本啓二, 系数万正, 種森孝至, 尾下佳史, 熊沢慎志, 江崎正浩, 松永隆信, 加藤直樹, 渡辺邦友: 実験的化膿性骨髄炎に対する抗菌薬含有デキストラン誘導体ゲルと抗菌薬含有フィブリン塊による治療効果. 日本骨・関節感染症研究会 9, 21-23 (1995)

江崎正浩, 系数万正, 種森孝至, 山本啓二, 松永隆信, 渡辺邦友: 実験的嫌気性菌骨髄炎に対する抗菌薬含浸ハイドロキシアパタイトの治療効果. 日本骨・関節感染症研究会 9, 24-25 (1995)

熊沢慎志, 系数万正, 楊 文毅, 尾下佳史, 松永隆信: ハイドロキシアパタイトを基材とした徐放性抗癌剤の研究. 中部整災誌 38(6), 1587-1588 (1995)

川崎浩史, 児玉直樹, 重村克巳, 坂口康道, 系数万正, 松永隆信: ヒト関節軟骨におけるヒアルロン酸の局在 (第 3 報). 中部整災誌 38(3), 791-792 (1995)

野々村秀彦, 系数万正, 江崎浩正, 山本啓二, 松永隆信: 抗菌薬含浸ハイドロキシアパタイトを用いた化膿性骨髄炎の治療. 中部整災誌 38(4), 961-962 (1995)

尾下佳史, 系数万正, 松永隆信, 高見 剛, 大谷 勲: ヒアルロン酸結合蛋白を用いたヒト膝関節軟骨および半月の組織化学的検討. 中部整災誌 38(6), 1571-1572 (1995)

系数万正: 骨補填材ポーンセラム P 「症例報告」. 住友製薬 No.93-28 (1995)

和田栄二, 松永隆信, 服部秀高, 栄枝裕文, 鈴木 康, 西本省三, 細江英夫, 東 隆雄, 西本虎正, 平松 哲: 原著 馬尾性間歇跛行に対する Prostacyclin 誘導体 Beraprost Sodium の臨床効果. 新薬と臨床 44, 749-757 (1995)

和田栄二, 渡辺 祥: 各科からみた骨粗鬆症 - 整形外科的立場から -. 岐阜県医師会医学雑誌, 投稿中

柴田博次, 和田栄二, 丹羽剛雄: LIDO Lfit System による日本人の拳上力解析. 岐阜大学医学部紀要 43, 146-154 (1995)

飯沼宣樹, 宮本 敬, 前田雅人, 和田栄二, 松永隆信: Isometric 運動における脊柱起立筋内圧と腹腔内圧の検討. 中部整災誌 38, 883-884 (1995)

前田雅人，和田栄二，飯沼宣樹，宮本 敬，松永隆信：重量物挙上動作における腰仙部負荷及び腹腔内圧変化の検討．中部整災誌 38, 885-886 (1995)

宮本 敬，飯沼宣樹，柴田博次，前田雅人，和田栄二，松永隆信：当尺性挙上動作における挙上力と腹腔内圧変動の分析．日本災害医学会会誌 43, 780-787 (1995)

宮本 敬，飯沼宣樹，柴田博次，丹羽剛雄，和田栄二，松永隆信：種々の重量物挙上動作における腹腔内圧変化の検討 - LIDO Lift System を用いた Isokinetic lifting における比較検討 - ．日本臨床バイメカニクス学会誌 16，181-185 (1995)

宮本 敬，飯沼宣樹，前田雅人，和田栄二，松永隆信：腰椎ベルトのバイオメカニクス - Isometric lifting におけるベルト装用効果の検討 - ．中部整災誌 38, 887-888 (1995)

宮本 敬，柴田博次，飯沼宣樹，和田栄二，松永隆信：健常若年者の挙上動作・能力解析 - Athlete 群と非 Athlete 群の比較を中心に - ．理学診療 6, 10-15 (1995)

小林源博，服部秀高，河合 淳，和田栄二，松永隆信：地域住民における骨塩定量に関する諸因子の検討 (第 3 報) - 主成分分析を用いて - ．中部整災誌 38, 425-426 (1995)

小林源博，服部秀高，河合 淳，和田栄二，松永隆信：地域住民における骨塩定量に関する諸因子の検討 (第 4 報)．Osteoporosis Japan 3, 131-134 (1995)

小林源博，和田栄二：地域住民における骨塩量に関する諸因子の検討．岐阜大学医学部紀要 43, 524-536 (1995)

平松 哲，和田栄二，西本虎正，大谷 勲：DXA 法による腰椎骨塩量に関する研究 - 後方要素骨塩量とその年代差について - ．岐阜大学医学部紀要 43, 440-449 (1995)

大野義幸，和田栄二，細江英夫，石井光一：末梢神経架橋修復法における過誤支配 (misdirection) に関する実験的研究．岐阜大学医学部紀要 43, 306-312 (1995)

大野義幸，和田栄二，細江英夫，石井光一，松永隆信：Misdirection から見た神経束縫合，神経上膜縫合の比較．日本手の外科学会誌 12, 投稿中 (1995)

太田牧雄，栄枝裕文，上村修一，和田栄二，松永隆信：軸椎棘突起に発生した骨軟骨腫

による環軸椎関節亜脱臼の 1 症例. 骨, 関節, 靭帯 8, 89-93 (1995)

細江英夫:再生末梢神経の misdirection に関する実験的研究 新しい評価法 "misdirection rate (MR)" の考案. 岐阜大学医学部紀要 43, 119-125 (1995)

細江英夫, 和田栄二, 松永隆信, 坂口康道, 堀 裕彦:腰椎椎体骨棘の MRI 像 (第 1 報). 中部整災誌 38, 775-776 (1995)

堀 裕彦, 坂口康道, 細江英夫: MRI における上位腰椎椎間板変性の検討 (第 2 報). 中部整災誌 38, 773-774 (1995)

細江英夫, 和田栄二, 松永隆信, 坂口康道, 堀 裕彦:腰椎椎体骨棘の MRI 像 (第 3 報). 日脊会誌 6, 300 (1995)

堀 裕彦, 坂口康道, 細江英夫: MRI における上位腰椎椎間板変性の検討. 日脊会誌 6, 301 (1995)

西本 裕, 松永隆信, 武内章二, 植木俊介, 今井秀治:持続動注化学療法時の i. a. dynamic MRI の有用性. 中部整災誌 38, 923-924 (1995)

種森孝至, 西本 裕, 下川邦泰, 武内章二, 佐々木晃:原発性上皮小体機能亢進症による褐色腫の 1 症例. 東海骨軟部腫瘍 7, 28-31 (1995)

西本 裕, 大野貴敏, 松永隆信, 広済芳男, 可知宏隆, 堀谷喜公, 各務雅夫, 下川邦泰, 武内章二:ウェルナー症候群に併発した骨肉腫の 1 例. 東海骨軟部腫瘍 7, 36-37 (1995)

石井光一, 糸数万正, 松永隆信, 武内章二, 櫛田喜輝:当科における同種骨移植の適応と問題点. 中部整災誌 38, 497-498 (1995)

石井光一, 糸数万正, 松永隆信:成人股関節疾患における股関節鏡視の臨床的意義. 整形外科 46, 230-231 (1995)

石井光一, 松永隆信, Friedlaender GE: アドレマイシンおよびメソトレキセート短期投与後の骨代謝の変化に関する実験的研究. 臨床薬理 26, 429-430 (1995)

益田和明：MRI 像から見た膝半月の加齢にともなう内部信号変化について．岐阜大学医学部紀要 43, 426-439 (1995)

大野貴敏，松永隆信，Reddy ESP：Ewing 肉腫におけるキメラ蛋白 EWS/erg の転写活性機能の解析．中部整災誌 38, 1605-1606 (1995)

大野貴敏，西本 裕，松永隆信，武内章二，Reddy ESP：キメラ蛋白 EWS/Fli-1 は転写活性因子である．日整会誌 69, S1140 (1995)

大野貴敏，西本 裕，松永隆信，武内章二，Reddy ESP：EWS 遺伝子の発現と RNA 結合能についての解析．日整会誌 69, S1411 (1995)

伊藤芳毅，伊達和人，児玉博隆，佐藤克平，宮田慶男：外傷性股関節脱臼に合併した大腿骨頭骨折の治療経験．中部整災誌 38, 455-456 (1995)

尾下佳史，系数万正，松永隆信，鈴木 康：MRSA による両化膿性膝関節炎の 1 例．関西関節鏡膝研究会誌 7(1), 67-69 (1996)

種森孝至，系数万正，加藤直樹，渡辺邦友：実験的骨髄炎に対する抗菌薬含浸ハイドロキシアパタイトによる治療効果．岐阜大学医学部紀要 44(2), 372-377 (1996)

岩佐一彦，坂口康道，系数万正：長期ステロイド補填療法中に発症した両側特発性一過性大腿骨頭萎縮症の一例．骨・関節・靭帯 9(6)，in press (1996)

系数万正：US による膝前後動揺性の測定法 (DYNAMIC EVALUATION OF THE KNEE INSTABILITY BY ULTRASONOGRAPHY). INNERVISION. 11(6), 66-67 (1996)

系数万正：MRI 画像からみた十字靭帯の動的観察「科研費研究課題の成果」. INNERVISION 11(8)，128 (1996)

種森孝至，系数万正，加藤直樹，渡辺邦友：実験的化膿性骨髄炎に対する抗菌薬含浸ハイドロキシアパタイトによる治療効果 (第 1 報). Orthopaedic Ceramic Implants 14, in press (1996)

上村修一，系数万正，喜久生明男，松永隆信：TKA 術後患者の椅坐位からの起立動作分析．中部整災誌 39(3), 669-670,(1996)

江崎正浩， 系数万正， 加藤直樹， 渡辺邦友：嫌気性菌による実験的骨髄炎に対する抗菌薬含浸ハイドロキシキシアパタイトブロックの治療効果. 岐阜大学医学部紀要 44(1), 316-323 (1996)

山本啓二， 系数万正， 加藤直樹， 渡辺邦友：抗菌薬含有凍結乾燥フィブリン塊による化膿性骨髄炎の治療実験. 岐阜大学医学部紀要 44(1), 307-315 (1996)

江崎正浩， 系数万正， 加藤直樹， 渡辺邦友：嫌気性菌による実験的骨髄炎に対する抗菌薬含浸ハイドロキシキシアパタイトブロックの治療効果. 岐阜大学医学部紀要 44(1), 316-323 (1996)

系数万正：足部変形と距骨体部切除術. 日本医事新報 No. 3744, 14-15 (1996)

飯沼宣樹， 宮本 敬， 前田雅人， 柴田博次， 和田栄二：脊柱起立筋内圧と腹腔内圧に関する研究. 岐阜大学医学部紀要 44, 70-79 (1996)

前田雅人， 和田栄二：重量物挙上動作における腰仙部負荷および腹腔内圧変化の検討. 岐阜大学医学部紀要 44, 31-38 (1996)

丹羽剛雄， 和田栄二， 柴田博次：体幹筋力と腰椎骨塩量に関する研究. 岐阜大学医学部紀要 44, 284-290 (1996)

堀 裕彦， 坂口康道， 細江英夫：MRI における上位腰椎椎間板変性の検討. 日脊会誌 6, 71-76 (1996)

伊藤芳毅：思春期以降まで観察し得た先天性股関節脱臼治療例の X 線学的検討. 岐阜大学医学部紀要 44, 378-387 (1996)

武内章二， 西本 裕：同種冷凍保存骨による大骨片移植術の長期成績. 低温医学, 22(4), 303-310, (1996)

西本 裕， 伏見一成， 伊達和人， 大野貴敏， 武内章二：骨盤骨腫瘍手術における自己血貯血量の検討. 中部整災誌, 39(5), 1377-1378, (1996)

伊藤芳毅， 伊達和人， 児玉博隆， 佐藤克平， 宮田慶男， 松永隆信：当院における新生

児股関節超音波検診の検討. 日整超研誌 , 7(1),9-12,(1995)

原著 (欧文・国内)

Mune T, Yasuda K, Ishii M, Matsunaga T, Miura K: Tetany due to Hypomagnesemia Induced by Cisplatin and Doxorubicin Treatment for Synovial Sarcome. Internal Medicine 32, 434-437 (1993)

Sugiyama T, Itokazu M Shimoda H, Mori M Matsunaga T, Katagiri YA CASE OF GASTRIC PERFORATION ASSOCIATED WITH CONCOMOTANT USE OF NON-PRESCRIPTING DRUG. Jpn. J. Hosp. Pharm 21(1), 63-69 (1995)

Oshita Y, Itokazu M, Matsunaga T, Takami T, Ohya I: THE HISTOCHEMICAL DEMONSTRATION OF HYALURONIC ACID IN HUMAN MENISCUS USING HUALURPNIC ACID BINDING PROTEIN. Jpn. J. Rheum. Joint Surg 14(2), 123-130 (1995)

Itokazu M, Matsunaga T, Takami T: IMMUNOHISTOCHEMICAL DEMONSTRATION OF HYALURONIC ACID IN THE SYNOVIAL TISSUES OF THE RHEUMATOID ARTHRIRIS BY USING HYALURONIC ACID BINDING PROTEIN. Jpn. Clin. Rheumatology 8(1), 13-17 (1996)

Ishii M: Comparison of Axonal Misdirection during Repair through Four Different Grafting Materials in Rat Sciatic Nerves -Autologous Nerve, Allogeneic Nerve, Vein and Silicone chamber-. Acta Scholae Medicinalis Universitatis in Gifu 44, 291-299 (1996)

原著 (欧文・国外)

Itokazu M, Matsunaga T: ARTHROSCOPIC RESTORATION OF DEPRESSED TIBIAL PLATEAU FRACTURES USING BONE AND HYDROXYAPATITE GRAFTS. Arthroscopy 9(1), 103-108 (1993)

Itokazu M, Matsunaga T, Tanaka S: ANKLE ARTHROPLASTY BY EXCISION OF THE TALAR BODY-SUBTOTAL TALECTOMY-Foot Ankle 15(4), 191-196 (1993)

Ohno T, Rao VN, Reddy ESP: EWS/Fli-1 chimeric protein is a transcriptional activator. Cancer Research 53, 5859-5863 (1993)

Rao VN, Ohno T, DDK Prasad, Reddy ESP: Analysis of the DNA-binding and transcriptional activation functions of human Fli-1 protein. *Oncogene* 8, 2167-2173 (1993)

Itokazu M, Matsunaga T, Ito M: QUANTITATION OF NEUTROPHIL PHAGOCYTOSIS IN SERUM AND SYNOVIAL FLUIDS OF PATIENTS WITH RHEUMATOID ARTHRITIS AND OSTEOARTHRITIS-USING FLOWCYTOMETRY OF FLUORESCENT MICROSPHERES. *J. Orthop. Surg* 2(2), 51-54 (1994)

Itokazu M, Matsunaga T, Somiya H, Kumazawa S: DRUG DELIVERY SYSTEMS USING POROUS HYDROXYAPATITE BLOCKS. *J. Orthop. Surg* 2(2), 47-50 (1994)

Itokazu M, Matsunaga T, Kumazawa S, Oka M: TREATMENT OF OSTEOMYELITIS BY ANTIBIOTIC IMPREGNATED POROUS HYDROXYAPATITE BLOCK. *Clinical Materials* 17(4), 173-179 (1994)

Ishii M, Troiano N, Matsunaga T, Friedlaender GE: Recovery of Bone Remodeling Following Adriamycin and Methotrexate Treatment in a Rat Model. *Transactions of Orthopaedic Research Society* 19, 769 (1994)

Ishii M, Shimoji A, Hosoe H, Wada E, Matsunaga T: An Experimental Study on Axonal Misdirection during Repair through Nerve Autografts and Allografts by WGA-HRP (Wheat Germ Agglutinin-Horse Radish Peroxidase) Method. *Transactions of Orthopaedic Research Society* 19, 696 (1994)

Ohno T, Ouchida M, Lee L, Rao VN, Reddy ESP: The EWS gene, involved in Ewing family of tumors, malignant melanoma of soft parts and desmoplastic small round cell tumors, codes for an RNA binding protein with novel regulatory domains. *Oncogene* 9, 3087-3097 (1994)

Itokazu M, Matsunaga T: SPONTANEOUSLY REMITTING IDIOPATHIC SPINAL EPIDURAL HAEMATOMA: A CASE REPORT. *J. Orthop. Surg* 2(1), 95-99 (1995)

Ohnishi K, Itokazu M, Niwa T, Matsunaga T: SPONTANEOUS ISCHEMIC NECROSIS OF SOLEUS MUSCLE. *J. Orthop. Surg*, in press (1995)

Sakaguchi Y, Itokazu M, Sigemura K, Matsunaga T: LOCALIZATION OF CARBOHYDRATE COMPONENT IN RHEUMATOID ARTHRITIC LINING CELLS-

ULTRASTRUCTURAL CYTOCHEMISTRY. Med. Scien. Res 23, 363-366 (1995)

Itokazu M, Matsunaga T: A NOVEL DRUG DELIVERY SYSTEM FOR OSTEOMYELITIS USING POROUS HYDROXYAPATITE BLOCKS LOADED BY CENTRIFUGATION. J Appl Biomater 6(3), 167-169 (1995)

M. Itokazu T. Matsunaga: CLINICAL EVALUATION OF HIGH MOLECULAR-WEIGHT HYALURONIC ACID TREATMENT FOR PERIARHTRITIS OF THE SHOULDER. Clinical Therapeutics 17(5), 946-955 (1995)

Nonomura H, Itokazu M, Matsunaga T, Kato N, Watanabe K: INDIGENOUS BACTERIAL FLORA OF MEDICAL LEECHS AND THEIR SUSCEPTIBILITIES TO VARIOUS ANTIMICROBIAL AGENTS. 6th Congress of International Federation of Society for Surgery of the Hand. (Monduzzi Editore S.P.A. -Bologna. Italy), 1089-1092 (1995)

Itokazu M, Matsunaga T, Oshita Y: EFFICACY AND SAFETY OF AURANOFIN IN PATIENTS WITH ACTIVE EARLY RHEUMATOID ARTHRITIS. Clinical Therapeutics 17(1), 60-73 (1995)

Itokazu M, Yang W, Ooshima Y, Matsunaga T: SUPPURATIVE KNEE ARTHRITIS FOLLOWING ACUTE OSTEOMYELITIS OF THE FEMUR (DETECTION BY MAGNETIC RESONANCE). Chinese Medical Journal 108(9), 704-707 (1995)

Itokazu M, Matsunaga T, Sakaguchi Y, Ishii K, Masuda K, Yang, W. Y.: ULTRASONOGRAPHY AND RANGE OF MOTION TEST FOR EVALUATION OF KNEE STABILITY AFTER TOTAL KNEE ARTHROPLASTY. J Jpn. Orthop. Ultrasonic 7(1), 7(1),60-63,(1995)

Sakaguchi, Itokazu M: ARTICULAR DISK INJURY OF THE STERNOCLAVICULAR JOINT. J. Orthop. Surg, 3(2),99-102,(1995)

Ishii M, Matsunaga T, Wada E, Hosoe H, Shimoji A, Ohno Y: An Experimental Study on Axonal Misdirection during Repair through Nerve Autografts, Allografts, Veins and Silicone Chambers using WGA-HRP (Wheat Germ Agglutinin-Horse Radish Peroxidase) Method. Transactions of the 2nd Combined Meeting of the Orthopaedic research Societies of U.S.A., Japan, Canada and Europe, 414 (1995)

Ouchida M, Ohno T, Fujimura Y, Rao VN, Reddy ESP: Loss of tumorigenicity of Ewing's sarcoma cells expressing antisense RNA to EWS-fusion transcripts. *Oncogene* 11, 1049-1054 (1995)

Itokazu M, Kumazawa S, Wada E, Yang W.Y: Sustained release of Adriamycin from implanted hydroxyapatite blocks for the treatment of experimental osteogenic sarcoma in mice. *Cancer Letters*, 107,11-18,(1996)

Itokazu M, Tanaka S: Flowcytometric Analysis of C-reactive Protein Binding to Lymphocyte in Rheumatoid Arthritis. *J. Orthop. Surg*, in press (1996)

Itokazu M, Inagaki Y, Okuno M, Matsunaga T, Ishii M, Masuda K, Wada T: Treatment of finger tip injuries in skin defects with porous polyvinyl alcohol. *J. Orthop. Surg*, 3(2),61-63,(1996)

Nonomura H, Ohono Y, Itokazu M, Matsunaga T, Kato N, Watanabe K: INDIGENOUS BACTERIAL FLORA OF MEDICAL LEECHES. (Proceedings 12th symposium) *RECONSTR MICROSURG. (Current Trends)*, 461-462 (1996)

Itokazu M, Takahashi K, Matsunaga T, Hayakawa D, Emura S, Isono H, Shoumura S: A study of the arterial supply of the human acetabulum using a corrosion casting methods. *Clinical Anatomy*, 10,77-81,(1997)

Itokazu M, Matsunaga T, Ishii K, Kusakabe Y: USE OF ARTHROSCOPY AND INTERPOROUS HYDROXYAPATITES A BONE GRAFT SUBSTITUTE ON TIBIAL PLATEAU FRACTURES. *Arch. Orthop. Trauma Surg* 115(1), 45-48 (1996)

Itokazu M, Matsunaga T, Yang W.Y, Okuno M: A NEGLECTED AVULSION FRACTURES OF CALCANEAL TUBEROSITY ASSOCIATED WITH DIABETES MELLITUS: A CASE REPORT. *Chang Gung Medical Journal* 19(2), 19(3),277-280,(1996)

Ishii M, Oshita Y, Itokazu M, Matsunaga T: The effects of Chemotherapeutic Agents (Methotrexate and Doxorubicin) on Fracture Healing. *Transactions of Orthopaedic Research Society* 21, 38 (1996)

Fujimura Y, Ohno T, Siddique H, Lee L, Rao VN, Reddy ESP: The EWS-ATF-1 gene involved in malignant melanoma of soft parts with t(12;22) chromosome translocation, encodes a constitutive transcriptional activator. *Oncogene* 12, 159-167 (1996)

その他

医学教育ビデオ：和田栄二，東海地区整形外科診断治療手技シリーズ 58 分（脊椎疾患に対する手術手技 1，椎弓形成術（還納法）2，軸椎歯突起骨折に対する screw 固定法 3，胸腰椎部におけ後側方固定術），エーザイ株式会社，1994

系数万正：岐阜新聞 「尖足」手術すれば再発せず． 1995 年 7 月 6 日

脳外科学講座

著書 (和文)

坂井 昇, 山田 弘: 最新脳神経外科学, 10.12 母斑症, 坪川孝志, 高倉公朋, 菊池晴彦編, 東京, 朝倉書店 685-689 (1996)

坂井 昇, 篠田 淳, 山田 弘: 「側頭葉 - 機能・解剖・手術」側頭葉の疾患と手術 良性脳腫瘍 (meningioma など). 図説脳神経外科 Essentials 第 1 巻, メジカルビュー社印刷中

坂井 昇, 篠田 淳: 脳腫瘍, 小児癌の診断と治療, 診断と治療社 印刷中

著書 (欧文)

Noboru Sakai, Hiromu Yamada: Clinical study on intracranial arachnoid cysts in children. Annual review of hydrocephalus and spina bifida Vol.11, Satoshi Matsumoto, Kiyoshi Sato, Norihiko Tamaki, Shizuo Oi, Hiromi Sato eds, The Japan Spina Bifida and Hydrocephalus Research Foundation, 1993. 226-227

Sakai N, Yamada H, Andoh T, Nishimura Y, Yanagawa S: Clinical results of IORT on malignant gliomas and its indications. Intraoperative radiation therapy. Schidberg FW, Willich N, Kramling H-J eds, Die Blaue Eule, 1993. 172-177

Sakai N, Nokura H, Deguchi K, Decarlini E, Futamura A, Yamada H: Surgical indications for infantile subdural effusion. Year Book of Diagnostic Radiology, Federle MP, Clark RA, Gross BH, Madewell JE, Maynard CD, Sackett JF, Young LW eds, Chicago, Mosby-Year Book, Inc, 1993. 442-444

Kubota Y, Nishimura Y, Andoh T, Sakai N, Yamada H: Transcranial doppler sonography for intracranial hypertension - The evaluation of the pulsatility index in basilar artery - . Intracranial Pressure IX, Nagai H, Kamiya K, Ishii S eds, Springer-Verlag, 1994. 637-638

Y Kaku, Y Yonekawa, T Andoh, N Sakai, H Yamada: Percutaneous transluminal angioplasty for ostial stenosis of the vertebral artery. Proceedings of the XV Symposium Neuro-radiologicum, Takahashi M, Korogi Y, Moseley I eds, Springer, 1995. 465-466

原著 (和文)

荒木有三, 今尾幸則, 安藤 隆, 坂井 昇, 山田 弘: Single Photon Emission CT による脳腫瘍血流量の検討. 脳外 21, 227-233 (1993)

平山宏史, 原 明, 新川修司, 岩井知彦, 西村康明, 安藤 隆, 坂井 昇, 山田 弘, 高田光昭: 髄膜腫における Nucleolar Organizer Regions の検討 - 病理組織学的所見および再発との関連性 -. 脳神経 45, 355-361 (1993)

吉村紳一, 原 明, 坂井 昇, 西村康明, 安藤 隆, 山田 弘, 下川邦泰: Desmoplastic infantile ganglioglioma(DIG)の 1 例. 小児の脳神経 18, 71-75 (1993)

安藤 隆, 坂井 昇, 山田 弘, 今井 秀, 村川孝次, 中島利彦, 野倉宏晃, 岩井知彦, 西村康明, 船越 孝: 後床突起下の basilar artery aneurysm に対する pterional approach の応用. 脳卒中の外科 21, 225-229 (1993)

白紙伸一, 山田 弘: Volume coil による脳内リン化合物の半定量化, および CSI の作成についての基礎的検討. Innervation 8, 77-80 (1993)

坂井 昇, 山田 弘, 安藤 隆, 西村康明, 今尾幸則, 矢野大仁, 井上 悟: 三叉神経痛, 顔面痙攣を合併した後頭蓋窩 epidermoid の検討. 脳外誌 2, 198-203 (1993)

坂井 昇, 山田 弘: 閉塞性水頭症. Clin Neurosci 11, 888-891 (1993)

坂井 昇, 林 克彦, 安藤弘道, 中島利彦, 西村康明, 安藤 隆, 山田 弘, 高田光昭, 田辺祐介: 小児頭蓋咽頭腫の外科治療. 小児の脳神経 18, 393-399 (1993)

深沢誠司, 中島利彦, 西村康明, 安藤 隆, 坂井 昇, 山田 弘: 培養平滑筋細胞収縮弛緩反応検討用改良型シリコン膜モデル. 脳外速報 3, 1049-1053 (1993)

西村康明, 山田 弘, 坂井 昇, 安藤 隆, 岩井知彦, 今井 秀, 吉村紳一, 高田光昭, 田辺祐介, 矢野 高, 船越 孝, 篠田 淳, 木村隆文, 近藤博昭, 後藤至宏, 酒井秀樹, 出口一樹, 川口雅裕, 中島利彦, 斉藤 晃, 清水言行, 荒木有三, 熊谷守雄: 脳神経外科領域におけるサンエット-A の臨床的有用性に関する研究 - 窒素出納法による経腸栄養剤の投与量の検討 -. Geriat Med 31, 1527-1542 (1993)

村川孝次, 白紙伸一, 熊谷守雄, 坂井 昇, 山田 弘: Excimer Dye Laser を用いた脳

腫瘍に対する PDT の実験的検討 - 第 2 報 深達度と腫瘍・正常脳境界部 - . 第 14 回
日本レーザー医学会大会論文集, 359-362 (1993)

郭 泰彦, 山田 弘:金属コイルを用いた脳血管病変の治療. 総合臨床 43, 73-76(1993)

西村康明, 井上 悟, 矢野大仁, 今井 秀, 中島利彦, 安藤 隆, 坂井 昇, 山田
弘:抗 VS 療法の早期中止で悪化した 3 例 - Transcranial Doppler を中心として - . 脳
血管攣縮 8, 88-90 (1993)

中島利彦, 深沢誠司, 西村康明, 安藤 隆, 坂井 昇, 山田 弘:くも膜下出血後の
脳脊髄液中における血管平滑筋収縮物質に関する研究. 脳血管攣縮 8, 159-162(1993)

吉村紳一, 西村康明, 安藤 隆, 坂井 昇, 山田 弘:10 年以上の長期追跡し得た Giant
Serpentine Aneurysm の 1 例. 脳外 22, 179-183 (1994)

熊谷守雄, 山田 弘, 坂井 昇, 安藤 隆, 岩田辰夫, 岩村真事, 新川修司, 村川
孝次, 白紙伸一, 二村敦朗:Subdural fluid collection(SFC) における髄液拍動流の検討.
小児の脳神経 19, 3-11 (1994)

西村康明, 石澤錠二, 奥村 歩, 原 明, 新川修司, 安藤 隆, 坂井 昇, 山田 弘:
小児 diencephalic astrocytoma の 7 例. 小児の脳神経 19, 27-34 (1994)

小林裕志, 原 明, 今井 秀, 新川修司, 岩井知彦, 西村康明, 安藤 隆, 坂井 昇,
山田 弘:悪性 germ-cell tumor の治療. 小児の脳神経 19, 71-76 (1994)

坂井 昇, 山田 弘:けいれんの診断 CT・MRI. Clin Neurosci 12, 290-292 (1994)

西村康明, 奥村 歩, 久保田芳則, 郭 泰彦, 中島利彦, 安藤 隆, 坂井 昇, 山田
弘:くも膜下出血後の亜急性期例に対する臨床的検討. 脳血管攣縮 9, 372-375 (1994)

山田 弘, 谷川原徹哉, 岩村真事, 出口一樹, 安藤 隆, 坂井 昇:ウィリス動脈輪
閉塞症における血清ウィルス抗体価の検討. 厚生省特定疾患ウィリス動脈輪閉塞症調査研
究班平成 5 年度研究報告書, 37-40 (1994)

山田 弘, 岩村真事, 谷川原徹哉, 熊谷守雄, 安藤 隆, 坂井 昇:Phase contrast cine
MRI によるウィリス動脈輪閉塞症患者の脳血流測定. 厚生省特定疾患ウィリス動脈輪閉

塞症調査研究班平成 5 年度研究報告書, 95-98 (1994)

荒木有三, 野田伸司, 横山和俊, 安藤 隆, 坂井 昇, 山田 弘: 脳死状態下に長期間下肢の異常運動を認めた幼児の 1 例. 小児の脳神経 19, 317-322 (1994)

深沢誠司, 竹中勝信, 横山和俊, 村川孝次, 中島利彦, 西村康明, 安藤 隆, 坂井 昇, 山田 弘: オキシヘモグロビンによる培養平滑筋細胞内収縮蛋白質, 細胞骨格蛋白質の変化. 脳血管攣縮 9, 263-266 (1994)

木村隆文, 今井 秀, 西村康明, 安藤 隆, 坂井 昇, 山田 弘, 篠田 淳, 船越孝, 澤田元史, 矢野大仁: 脳主幹動脈閉塞性病変における SPECT 画像の定性的評価の試み. The Mt Fuji Workshop on CVD, 68-73 (1994)

安藤 隆, 郭 泰彦, 岩井知彦, 西村康明, 坂井 昇, 山田 弘, 大熊晟夫, 平田俊文, 清水言行: モヤモヤ病に合併した脳動脈瘤 - 自験 8 例の検討 -. The Mt Fuji Workshop on CVD, 196-201 (1994)

坂井 昇: 画像診断の最近の進歩 - 脳血管障害を中心に -. 岐阜県医師会医学雑誌 7, 125-137 (1994)

山川弘保, 郭 泰彦, 安藤 隆, 坂井 昇, 山田 弘: 両側視床内側部梗塞の 3 例. 脳卒中 16, 137-145 (1994)

坂井 昇, 安藤 隆, 西村康明, 郭 泰彦, 山田 弘: 無症候性脳動脈瘤とその処置. 臨床成人病 24, 1379-1383 (1994)

熊谷守雄, 山田 弘, 坂井 昇, 安藤 隆, 西村康明, 岩村真事, 村川孝次, 白紙伸一, 平田俊文: 髄液拍動流の成因に関する考察. CI 研究 16, 237-247 (1994)

熊谷守雄, 酒井秀樹, 谷川原徹哉, 白紙伸一, 村川孝次, 西村康明, 安藤隆, 坂井 昇, 山田 弘, 岩村真事: モヤモヤ病の MRI, MRA. 映像情報 26, 1435-1437 (1994)

村川孝次, 白紙伸一, 熊谷守雄, 坂井 昇, 山田 弘: Excimer Dye Laser を用いた脳腫瘍に対する PDT の実験的検討 - 第 3 報 Ethylnitrosourea 誘発脳腫瘍に対する効果 -. 第 15 回日本レ - ザ - 医学会大会大会論文集, 57-60 (1994)

今井 秀: Thallium-201 chloride による脳腫瘍シンチグラフィーに関する基礎的臨床的研

究 . 岐阜大医紀 43, 56-71 (1995)

郭 泰彦, 米川泰弘, 安藤 隆, 坂井 昇, 山田 弘 : 脳静脈奇形の塞栓術 - 適応と限界 - . 第 9 回日本脳神経血管内手術研究会講演集, 207-211 (1995)

山田 弘, 谷川原徹哉, 岩村真事, 出口一樹, 安藤 隆, 坂井 昇 : ウィリス動脈輪閉塞症における EB ウィルス感染の検討 . 厚生省特定疾患ウィリス動脈輪閉塞症調査研究班平成 6 年度報告書, 48-52 (1995)

山田 弘, 白紙伸一, 谷川原徹哉, 岩村真事, 熊谷守雄, 安藤 隆, 坂井 昇 : モヤモヤ病における 31P-MRS, 31P-Chemical Shift image の臨床的検討 . 厚生省特定疾患ウィリス動脈輪閉塞症調査研究班平成 6 年度報告書, 120-124 (1995)

熊谷守雄, 山田 弘, 坂井 昇, 安藤 隆, 西村康明, 今井 秀, 村川次, 白紙伸一, 横山和俊, 上田竜也 : 脳神経領域における MRA の臨床応用 (頭蓋内閉塞性動脈疾患を中心に) 映像情報 26, 24-29 (1995)

横山和俊, 深沢誠司, 竹中勝信, 岩井知彦, 西村康明, 安藤 隆, 坂井 昇, 山田 弘 : 実験的虚血負荷後再灌流および N-methyl-D-aspartate 負荷に対する sodium nitroprusside の細胞内 Ca^{2+} 濃度変化に及ぼす影響 . Brain Hypoxia 9, 35-4 (1995)

横山和俊 : 低酸素グルコース負荷後のラット海馬スライス神経細胞内カルシウムイオン濃度変化に関する実験的検討 . 岐阜大医紀 43, 677-691 (1995)

白紙伸一 : 脳主幹動脈閉塞性疾患例における 31P-MRS, 31P-Chemical Shift Image の臨床的検討 . 岐阜大医紀 43, 712-722 (1995)

郭 泰彦, 西村康明, 安藤 隆, 坂井 昇, 山田 弘 : スパズムの治療 - 塩酸パバペリンの超選択的動中法 - . 脳血管攣縮 10, 126-131 (1995)

熊谷守雄, 坂井 昇, 山田 弘 : MR angiography(MRA) . 脳神経 47, 723-734 (1995)

西村康明, 石澤錠二, 奥村 歩, 安藤 隆, 坂井 昇, 山田 弘 : 慢性硬膜下血腫術後再発の臨床的検討 . Geriat Neurosurg, 87-91 (1995)

村川孝次 : 悪性脳腫瘍に対する光化学治療の基礎的研究 - エキシマ・ダイ・レ・ザ - を用いて - 岐阜大医紀 43, 571-588 (1995)

山川弘保，鷺見靖彦，郭 泰彦，坂井 昇，山田 弘：Helical CT angiography による頸部内頸動脈狭窄病変の検索 - 郡上地区での prospective study による外科療法適応例発見の試み - 脳卒中 17, 109-115 (1995)

川口雅裕，出口一樹，山田実紘，坂井 昇，山田 弘：頭蓋内原発 choriocarcinoma の 1 例．岐阜県医師会医学雑誌 8, 231-236 (1995)

坂井 昇，山田 弘：乳頭浮腫．Clinical Neuroscience 13, 1189-1190 (1995)

熊谷守雄：MRI シネ位相画像による髄液拍動流の臨床的研究．岐阜大医紀 44, 80-98 (1996)

岩村真事：ウィリス動脈輪閉塞症における細菌感染症の関与に関する研究 - 特に Streptococcus sanguis との関連について - ．岐阜大医紀 44, 99-107 (1996)

杉本信吾：Two-dimensional cine phase-contrast MRI を用いた内頸静脈流速測定法の臨床的研究．岐阜大医紀 44, 108-119 (1996)

谷川原徹哉：ウィリス動脈輪閉塞症に関する研究 - 特にウイルス感染症について - ．岐阜大医紀 44, 129-139 (1996)

上田竜也：Supratentorial malignant glioma における予後因子の臨床的検討．岐阜大医紀 44, 201-214 (1996)

浅野好孝：破裂脳動脈瘤によるクモ膜下出血の臨床的研究．岐阜大医紀 44, 215-236 (1996)

西村康明，坂井 昇，山田 弘：老化により病態が修飾される疾患慢性硬膜下血腫．Clin Neurosci 14, 545-548 (1996)

西村康明，奥村 歩，浅野好孝，松久 卓，郭 泰彦，安藤 隆，坂井 昇，山田 弘：前交通動脈瘤に対する pterional approach について - 手術時穿通枝損傷と脳血管攣縮との関係に於いて - ．脳血管攣縮 11, 211-216 (1996)

山田 弘，谷川原徹哉，岩村真事，出口一樹，安藤 隆，坂井 昇：ウィリス動脈輪閉塞症におけるサイトメガロウイルスおよび EB ウイルスの抗体価とウイルスゲノムの検討．厚生省特定疾患ウィリス動脈輪閉塞症調査研究班平成 7 年度報告書，印刷中

原著 (欧文・国内)

Shuji Niikawa, Takeshi Ito, Takatsugu Murakawa, Hiroshi Hirayama, Takashi Ando, Noboru Sakai, Hiromu Yamada: Recurrent of choroid plexus papilloma with malignant transformation -Case report and lectin histochemical study-. *Neurol Med Chir (Tokyo)* 33, 32-35 (1993)

Wei Zhang, Akira Hara, Takatsugu Murakawa, Shuji Niikawa, Takashi Andoh, Noboru Sakai, Hiromu Yamada: Effect of interferon- α on ACNU-induced DNA damage and cytotoxicity in human glioblastoma cells. *Neurol Med Chir (Tokyo)* 33, 275-279 (1993)

Shuji Niikawa, Akira Hara, Shinichi Shirakami, Wei Zhang, Noboru Sakai, Hiromu Yamada, Kuniyasu Shimokawa: Relationship between ricinus communis agglutinin-1 binding and nucleolar organizer regions in human gliomas. *Neurol Med Chir (Tokyo)* 33, 345-349 (1993)

Hiroyasu Yamakawa, Katsunobu Takenaka, Yasuhiko Sumi, Toshihiro Morita, Takashi Suhara, Hiroki Kato, Noboru Sakai, Hiromu Yamada: Intracranial bullet retained since the Sino-Japanese War manifesting as hallucination -Case report-. *Neurol Med Chir (Tokyo)* 34, 451-454 (1994)

Koh Yano, Tatsuya Kuroda, Yusuke Tanabe, Hiromu Yamada: Delayed cerebral ischemia manifesting as peduncular hallucinosis after aneurysmal subarachnoid hemorrhage. -Three case reports-. *Neurol Med Chir (Tokyo)* 34, 593-596 (1994)

Akira Hara, Yasuhiko Kaku, Yasuaki Nishimura, Noboru Sakai, Hiromu Yamada: Remission of recurrent primary intracranial malignant lymphoma after high-dose intra-arterial corticosteroid administration and intra-arterial chemotherapy -Case report-. *Neurol Med Chir (Tokyo)* 34, 700-703 (1994)

Toshihiko Nakashima, Katsunobu Takenaka, Seiji Fukazawa, Koh Yano, Yasuaki Nishimura, Takashi Andoh, Noboru Sakai, Hiromu Yamada: Cytosolic free calcium elevation in vascular smooth muscle cells induced by cerebrospinal fluid from patients with subarachnoid hemorrhage-Biochemical nature of the calcium-mobilizing factor-. *Neurol med chir (Tokyo)* 35, 8-12 (1994)

Koh Yano, Hiroyuki Kanoh, Toshihiko Nakashima, Noboru Sakai, Hiromu Yamada, Yoshinori Nozawa: Activation of phosphoinositide-specific phospholipase C by transferrin in porcine

cerebral arterial smooth muscle cells. *Neurol Med Chir (Tokyo)* 35, 205-208 (1995)

Yasuhiko Kaku: Intra-arterial infusion of papaverine for the treatment of cerebral vasospasm. *岐阜大医紀* 43, 488-497 (1995)

Yoshinori Kubota: Clinical application of transcranial doppler sonography with special reference to the evaluation of pulsatility index in basilar artery. *岐阜大医紀* 43, 589-600 (1995)

Motoshi Sawada, Makoto Iwamura, Toshifumi Hirata, Noboru Sakai: Cervical discitis associated with spinal epidural abscess caused by methicillin staphylococcus aureus -case report-. *Neurol Med Chir (Tokyo)* 36, 40-44 (1996)

Hiroyasu Yamakawa: Experimental study on mechanism of aneurysmal enlargement - aneurism model and its morphological changes-. *岐阜大医紀* 44, 120-128 (1996)

Hiroshi Kobayashi: Clinical applications of single cell gel electrophoretic (SCG) assay in human malignant gliomas -Its role in prediction of the radiosensitivity and correlated with PCNA, MIB-1 and p53 immunoreactivity. *岐阜大医紀* 44, 140-150 (1996)

原著 (欧文・国外)

T Iwai, M Niwa, H Yamada, M Nozaki, K Tsurumi: Hypothermic prevention of the hippocampal damage following ischemia in mongolian gerbils: comparison between intraschemic and brief postischemic hypothermia. *Life Sci* 52, 1031-1038 (1993)

Wei Zhang, Hiromu Yamada, Noboru Sakai, Yoshinori Nozawa: Sensitization of C6 glioma cells to radiation by staurosporine, a potent protein kinase C inhibitor. *J Neuro-Oncol* 15, 1-7 (1993)

Toshihiko Nakashima, Katsunobu Takenaka, Yasuaki Nishimura, Takashi Andoh, Noboru Sakai, Hiromu Yamada, Yoshiko Banno, Yukio Okano, Yoshinori Nozawa: Phospholipase C activity in cerebrospinal fluid following subarachnoid hemorrhage related to brain damage. *J Cereb Blood Flow Metab* 13, 255-259 (1993)

Wei Zhang, Akira Hara, Noboru Sakai, Takashi Andoh, Hiromu Yamada, Yoshinori Nozawa: Radiosensitization and inhibition of deoxyribonucleic acid repair in rat glioma cells by long-

term treatment with 12-O-teradecanoylphorbol 13-acetate. *Neurosurg* 32, 432-437 (1993)

Akira Hara, Yuzo Araki, Jun Shinoda, Hiroshi Hirayama, Shuji Niikawa, Noboru Sakai, Hiromu Yamada: Central neurocytoma: proliferative assessment by nucleolar organizer region staining. *Surg Neurol* 39, 343-347 (1993)

Akira Hara, Noboru Sakai, Hiromu Yamada, Naoki Yoshimi, Takuji Tanaka, Hideki Mori: Immunoblot analysis of the placental form of glutathione S-transferase in protein extracted from paraffin-embedded human glioma tissue. *Cancer Res Clin Oncol* 119, 493-496 (1993)

Akira Hara, Noboru Sakai, Hiromu Yamada, Naoki Yoshimi, Hideki Mori: Localization of the placental form of glutathione S-transferase messenger ribonucleic acid in human glioma cell lines. *Neurosurg* 33, 100-105 (1993).

Akira Hara, Noboru Sakai, Hiromu Yamada, Shuji Niikawa, Naoki Yoshimi, Hideki Mori, Kuniyasu Shimokawa: Expression of the placental form of glutathione S-transferase in pediatric gliomas. *Child's Nerv Syst* 9, 142-146 (1993)

Katsunobu Takenaka, Junji Kishino, Hitoshi Arita, Yukio Okano, Noboru Sakai, Hiromu Yamada, Yoshinori Nozawa: Biological activity of the endothelin family in cultured basilar arterial smooth muscle cells. *Neurol Res* 15, 29-32 (1993)

Shuji Niikawa, Noboru Sakai, Hiromu Yamada, Wei Zhang, Akira Hara, Kuniyasu Shimokawa: Histochemistry with helix pomatia agglutinin in human germ cell tumors: detection of nongerminomatous components and correlation between HPA reactivity and radiosensitivity in germinomas. *Child's Nerv Syst* 9, 266-271 (1993)

Yasuhiko Kaku, Yasuhiro Yonekawa, Tetstuya Tsukahara, Hiromu Yamada: Superselective intra-arterial infusion of papaverine for the treatment of cerebral vasospasm after subarachnoid hemorrhage. *Cerebral Vasospasm*, 361-364 (1993)

Noboru Sakai, Hiromu Yamada, Takashi Andoh, Yasuaki Nishimura, Shuji Niikawa: Long-term survival in malignant intracranial germ-cell tumors: a report of two cases and a review of the literature. *Child's Nervous System* 9, 431-436 (1993)

Katsunobu Takenaka, Neal F. Kassell, Patricia L. Foley, Kevin S. Lee: Oxyhemoglobin-

induced cytotoxicity and arachnoid acid release in cultured bovine endothelial cells. *Stroke* 24, 839-846 (1993)

Katsunobu Takenaka, Yasunobu Gotoh, Neal F. Kassell, Kevin S. Lee: Modification of vascular smooth muscle proteins in rabbit basilar artery after subarachnoid hemorrhage. *Cerebral Vasospasm*, 93-96 (1993)

K Yano, T Kuroda, Y Tanabe, H Yamada: Preventive therapy against delayed cerebral ischemia after aneurysmal subarachnoid haemorrhage: trials of thromboxane A2 synthetase inhibitor and hyperdynamic therapy. *Acta Neurochir (Wein)* 125, 15-19 (1993)

Akira Hara, Shuji Niikawa, Noboru Sakai, Hiromu Yamada, Naoki Yoshimi, Hideki Mori: Identification of placental form of glutathione S-transferase in ACNU-resistant murine glioma cell lines. *J Neuro-Oncol* 17, 205-213 (1993)

Akira Hara, Wei Zhang, Hiroshi Kobayasi, Shuji Niikawa, Nonoru Sakai, Hiromu Yamada: A single cell gel electrophoresis technique for the detection of DNA damage induced by ACNU, an alkylating agent or irradiation in murine glioma cell lines. *Neurol Res* 16, 234-240 (1994)

Hiroyasu Yamakawa, Katsunobu Takenaka, Yasuhiko Sumi, Hiroki Kato, Takashi Suhara, Toshihiro Morita, Hiroshi Sumi, Noboru Sakai, Hiromu Yamada: Clinical analysis head injury in skiing. *International Conference on Recent Advances in Neurotraumatology 1994 Proceeding*, 329-332 (1994)

Y Kubota, Y Nishimura, T Andoh, N Sakai, H Yamada: Transcranial doppler sonography (TCD) for intracranial hypertension in severe head injury -The evaluation of the pulsatility index (PI) in basilar artery (BA)-. *International Conference on Recent Advances in Neurotraumatology 1994 Proceeding*, 345-346 (1994)

Masayuki Niwa, Tomohiko Iwai, Al-Essa Luay, Masakatsu Nozaki, Kaito Tsurumi: Characterization of opioid receptors in the mongolian gerbil cerebellum. *Life Sciences* 55, 1277-1283 (1994)

Hirotake Satake, Tokitaka Konishi, Takashi Kawashima, Kenichi Matsunami, Toshio Uno, Shyuu Imai, Hiromu Yamada, Chisako Hirakawa: Intracranial blood flow measured with single photon emission computer tomography (SPECT) during transient -6° head-down tilt.

Aviation, Space, and Environmental Medicine, 117-122 (1994)

Tomohiko Iwai, Akira Hara, Masayuki Niwa, Masakatsu Nozaki, Toshihiko Uematsu, Noboru Sakai, Hiromu Yamada: Temporal profile of nuclear DNA fragmentation in situ in gerbil hippocampus following transient forebrain ischemia. *Brain Research* 671, 305-308 (1995)

Akira Hara, Yasuaki Nishimura, Noboru Sakai, Hiromu Yamada, Shigeo Yanagawa: Effectiveness of intraoperative radiation therapy for recurrent supratentorial low grade glioma. *J Neuro-Oncol* 25, 239-243 (1995)

Akira Hara, Naoki Yoshimi, Hideki Mori, Tomohiko Iwai, Noboru Sakai, Hiromu Yamada, Masayuki Niwa: Hypothermic prevention of nuclear DNA fragmentation in gerbil hippocampus following transient fore brain ischemia. *Neurol Res* 17, 461-464 (1995)

Katsunobu Takenaka, Satoshi Suzuki, Noboru Sakai, Neal F. Kassel, Hiromu Yamada: Transferin induces nitric oxide synthase mRNA in at cultured aortic smooth muscle cells. *Biochemical and biophysical Res Commun* 213, 608-615 (1995)

T Iwai, A Hara, M Niwa, M Nozaki, T Uematsu, N Sakai, H Yamada: DNA fragmentation in gerbil hippocampus after transient forebrain ischemia: its time course and effect of hypothermia. *J Cereb Blood Flow Metab* 15 Suppl 1, S149 (1995)

Noboru Sakai, Shuji Niikawa, Hiromu Yamada, Yasuaki Nishimura, Takashi Andoh, Kuniyasu Shimokawa: Longer survival in high grade gliomas: intraoperative radiation therapy (IORT) and immunocytochemical assessment of their growth potential. *J Clin Neurosci* 3, 46-51 (1996)

Akira Hara, Noboru Sakai, Hiromu Yamada, Tatsuo Iwata: Clinoidal meningioma arising from falciforme process of optic canal: Case report and review. *Neurol Res* 18, 237-240 (1996)

Hideki Sakai, Shigeo Nakashima, Shin-ichi Yoshimura, Kei Nakatani, Jun Shinoda, Noboru Sakai, Hiromu Yamada, Yoshinori Nozawa: Suppressed expression of CD44 variant isoforms during human glioma A172 cell differentiation induced by cyclic AMP. *Neurosci Lett* 210, 189-192 (1996)

Shin-ichi Yoshimura, Yasuhiko Kaku, Tatsuya Ueda, Yasuaki Nishimura, Takashi Andoh, Noboru Sakai, Hiromu Yamada: Embolization of scalp AVF by direct puncture of venous

pouch. Excerpta Medica International Congress Series (ICS) 1995, 121-123 (1996)

Hiroyasu Yamakawa, Hideki Sakai, Yasuaki Nishimura, Ayumi Okumura, Masahiro Sawafugi, Noboru Sakai, Hiromu Yamada: Primary intracranial arachnoid cyst associated with subdural hematoma. -A case report and 71 cases reviewed in the literature-. J Clin Neurosci, in press

眼科学講座

著書 (和文)

北澤克明：眼科診療 Q&A，5-FU またはマイトマイシン C を用いた緑内障手術，東京，六法出版社，1993．889-890

杉山和久：眼科診療 Q&A，血管微細構造と血流動態，東京，六法出版社，1993．761
ノ 4

山本哲也：レーザー線維柱帯形成術（レーザートラベクロプラスティ），眼科診療プラクティス 3．レーザー治療の実際，田野保雄編，東京，分光堂，1993．156-159

直原修一：レーザー線維柱帯切開術，眼科診療プラクティス 3．レーザー治療の実際，田野保雄編，東京，分光堂，1993．166-168

直原修一：ホルミウム YAG レーザーによるスクレロストミー ab externo，眼科診療プラクティス 3．レーザー治療の実際，田野保雄編，東京，分光堂，1993．206-207

富田剛司：1.白内障に必要な解剖，2. 瞳孔処理，眼科診療プラクティス 5．眼科手術に必要な局所解剖，田野保雄編，東京，分光堂，1993．

北澤克明：総論 分類，眼科学大系 3A．緑内障，北澤克明 塚原重雄編，東京，中山書店，1993．3-8

山本哲也：隅角，眼科学大系 3A．緑内障，北澤克明 塚原重雄編，東京，中山書店，1993．113-120

富田剛司：画像診断（検査），眼科学大系 3A．緑内障，北澤克明 塚原重雄編，東京，中山書店，1993．129-133

北澤克明：原発開放隅角緑内障，眼科学大系 3A．緑内障，北澤克明 塚原重雄編，東京，中山書店，1993．161-175

直原修一：酵素阻害薬，酵素刺激薬，眼科学大系 3B．眼薬物療法，東京，中山書店，1993．205-209

北澤克明:緑内障疾患 (隅角), 眼科学大系 5B. レーザー眼科, 東京, 中山書店, 1994. 149-154

山本哲也:上強膜静脈圧測定とその意義, 眼科診療プラクティス 10. 緑内障診療の進め方, 根木 昭編, 東京, 文光堂, 1994. 45

山本哲也:5-FU, マイトマイシン C の使い方, 眼科診療プラクティス 10. 緑内障診療の進め方, 根木 昭編, 東京, 文光堂, 1994. 240-241

山本哲也:緑内障 (あおそこひ), 家庭の医学 (第 4 版). 東京, 保健同人社, 1994. 1100-1104

井戸忠美:角膜強膜の病気, ぶどう膜の病気, 症状からみた家庭の医学. 東京, 保健同人社, 1994. 1074-1081

廣沢和代, 白土城照, 山本哲也:眼内レンズ, 図説臨床看護医学新版 17. 人工臓器と臓器移植, 東京, 同朋舎出版, 1994. 264-267

富田剛司:各種誘発試験とその意義, 眼科診療プラクティス 10. 緑内障診療の進め方, 根木 昭編, 東京, 文光堂, 1994. 42-43

富田剛司:緑内障における眼内血流動態, 眼科診療プラクティス 10. 緑内障診療の進め方, 根木 昭編, 東京, 文光堂, 1994. 77

直原修一:混合型緑内障, 眼科診療プラクティス 10. 緑内障診療の進め方, 根木 昭編, 東京, 文光堂, 1994. 148-149

直原修一:レーザー治療. C. その他の使用方法, 眼科診療プラクティス 10. 緑内障診療の進め方, 根木 昭編, 東京, 文光堂, 1994. 236-237

富田剛司:メラニン色素と薬沈着, 眼科診療プラクティス 11. 眼科治療薬ガイド, 本田孔士編, 東京, 文光堂, 1994. 91

北澤克明:開発途上の眼圧降下薬, 眼科診療プラクティス 11. 眼科治療薬ガイド, 本田孔士編, 東京, 文光堂, 1994. 100-101

北澤克明：緑内障の診断と分類，眼科クルグス．東京，南江堂，1994．447-750

北澤克明，直原修一，富田剛司，谷口 徹：緑内障の治療（レーザー治療．手術も含む），眼科クルグス，松井瑞夫，増田寛次郎，本田孔士編，東京，南江堂，1994．451-465

北澤克明：トラベクレクトミー後に眼圧適正化を図るための2方法，眼科手術のコツと落とし穴（第一版）．小暮文雄，林文彦編，東京，中山書店，1995．84

北澤克明：緑内障（薬物治療），今日の治療指針，日野原重明，阿部正和編，東京，医学書院，1995．767

北澤克明：薬剤に対する感受性が遺伝的に規定される事例があるか？，眼科診療プラクティス 18．眼科診療に役立つ遺伝子学，大庭紀雄編，東京，文光堂，1995．39

北澤克明，山本哲也：眼科診療 Q & A 追録 16号．緑内障の分子遺伝学，東京，六法出版，1995．1057の2-1057の3

布田龍祐，白土城照，山本哲也：隅角アトラス，北澤克明編，東京，医学書院，1995．

山本哲也：緑内障手術の歴史，眼科手術書第3巻 緑内障，北澤克明編，東京，金原出版，1995．3-10

富田剛司：緑内障手術に必要な解剖学的知識，眼科手術書第3巻 緑内障，北澤克明編，北澤克明編，東京，金原出版，1995．11-48

井戸忠美：レーザー虹彩切除術，眼科手術書第3巻 緑内障，北澤克明編，東京，金原出版，1995．57-70

井戸忠美：レーザー瞳孔形成術，眼科手術書第3巻 緑内障，北澤克明編，東京，金原出版，1995．71-74

山本哲也：線維柱帯切除術，眼科手術書第3巻 緑内障，北澤克明編，東京，金原出版，1995．75-88

直原修一：レーザー全層濾過手術，眼科手術書第3巻 緑内障，北澤克明編，東京，金

原出版， 1995 . 89-95

杉山和久：全層濾過手術，眼科手術書第 3 巻 緑内障，北澤克明編，東京，金原出版，
1995 . 107-118

山本哲也：線維芽細胞増殖阻害薬とその使用法，眼科手術書第 3 巻 緑内障，北澤克明
編，東京，金原出版， 1995 . 127-136

直原修一：毛様体冷凍術，眼科手術書第 3 巻 緑内障，北澤克明編，東京，金原出版，
1995 . 195-202

直原修一：毛様体光凝固術，眼科手術書第 3 巻 緑内障，北澤克明編，東京，金原出
版， 1995 . 203-213

杉山和久：毛様体解離術，眼科手術書第 3 巻 緑内障，北澤克明編，東京，金原出版，
1995 . 214-221

直原修一：房水の流出 (隅角路)，眼科診療プラクティス 17，眼科診療に必要な生理学，
本田孔士，東京，文光堂， 1995 . 50-52

山本哲也：IMAGEnet，眼科診療プラクティス 18，眼科診断機器とデータの読み方，東
京，文光堂， 1995 . 66-67

山本哲也，望月清文：緑内障濾過胞感染，眼科診療プラクティス 21，眼感染症治療戦略，
東京，文光堂， 1995 . 206-207

山本哲也：眼圧下降薬選択のコツ，眼科治療のコツと落とし穴，小暮文雄，林文彦，三宅
謙作編，東京，中山書店， 1995 . 76-77

山本哲也：眼圧下降薬選択の副作用と予防法，眼科治療のコツと落とし穴，小暮文雄，林
文彦，三宅謙作編，東京，中山書店， 1995 . 82-83

直原修一：遮断薬点眼剤を使うときの注意，眼科治療のコツと落とし穴，小暮文雄，林
文彦，三宅謙作編，東京，中山書店， 1995 . 89

直原修一：炭酸脱水酵素阻害薬を使うときの注意，眼科治療のコツと落とし穴，小暮文雄，

林文彦，三宅謙作編，東京，中山書店，1995．92

著書 (欧文)

Raitta C, Tomita G: Glaucoma In, Principles of Ophthalmology, (ed Tarkkanen A). Recallmed Ltd, 1995, 233-259

総説 (和文)

北澤克明：緑内障のレーザー治療．日本の眼科 65，471-475 (1994)

富田剛司，北澤克明：緑内障・眼圧の展望 (1) - 1993 年度 - ．眼科 37，1-17 (1995)

富田剛司，北澤克明：緑内障・眼圧の展望 (2) - 1993 年度 - ．眼科 37，111-127 (1995)

富田剛司：新しい治療と検査シリーズ 50. ハイデルベルグレチナトモグラフィによる乳頭診断．あたらしい眼科 12，1251-1252 (1995)

山本哲也，北澤克明：線維芽細胞増殖阻害薬を併用するトラベキュトミー：その光と陰．眼科 37，39-46 (1995)

山本哲也：マイトマイシン C 併用線維柱帯切除術の実際．眼科手術 8，393-398 (1995)
マイトマイシン C 併用線維柱帯切除術の実際

澤田 明，山本哲也：近い将来の緑内障新薬 (ブナゾシン，ドルゾラミド)．あたらしい眼科 12，1355-1360 (1995)

山本哲也：緑内障性視神経障害に対する薬物療法の可能性．あたらしい眼科 12，1367-1372 (1995)

総説 (欧文・国外)

Yamamoto T, Kitazawa Y: The place for mitomycin trabeculectomy: an overview, Asia Pacif J. Ophthalmol 7, 2-5 (1995)

原著 (和文)

直原修一：レーザーによる緑内障の治療．臨床眼科 47，14-16 (1993)

曾賀野茂世，山本哲也，北澤克明：正常眼圧緑内障と診断された症例の眼圧経過．日本

眼科学会雑誌 97, 65-70 (1993)

井上隆夫：原発閉塞隅角緑内障における周辺虹彩前癒着の分布，形態．日本眼科学会雑誌 97, 78-82 (1993)

直原修一：他科のための眼科治療学・緑内障，NM シンポジウム．日経メディカル 2, 138-141 (1993)

富田剛司，山田 俊，松原恵子，北澤克明：視野欠損を伴わない緑内障様乳頭と早期正常眼圧緑内障乳頭との関連について．日本眼科学会雑誌 97, 228-231 (1993)

北澤克明：眼科領域でのレーザー医学，特集／最新レーザー医学横断．新医療 20, 98-101 (1993)

井戸忠美，西村幸三九，田中春仁：転移性結膜腫瘍の 1 例．臨床眼科 47, 400-401 (1993)

北澤克明，水上勇三：ALO2145 点眼液の第 1 相臨床試験．眼科臨床医報 87, 773-731 (1993)

北澤克明，東 郁郎，新家 真，白土城照，景山萬里子，真鍋禮三，溝上国義，米虫節夫：ALO2145 点眼液の Argon Laser Trabeculoplasty 後眼圧上昇に対する臨床効果 - 多施設二重盲検群間比較法による用量設定試験 - ．眼科臨床医報 87, 1047-1057 (1993)

河野吉喜，前田美保子，山本哲也，北澤克明：緑内障眼における High-Pass Resolution Perimetry と Differential Light Sensitivity Perimetry の検査結果の比較．日本眼科学会雑誌 97, 644-648 (1993)

北澤克明，東 郁郎，新家 真，白土城照，相沢芙束，景山萬里子，土坂寿行，竹中康雄，塚原重雄，岩田和雄，塩瀬芳彦，桑山泰明，大鳥利文，溝上国義，三嶋 弘，布田龍佑，米虫節夫：Argon Laser Trabeculoplasty 後の眼圧上昇に対する ALO2145 点眼液の臨床評価 - Placebo を対照とした多施設二重盲検試験 - ．眼科臨床医報 87, 1252-1262 (1993)

北澤克明，井戸忠美，清水梅次，松波香代子，水上勇三：炭酸脱水酵素阻害薬 MK-507

点眼液の第 1 相臨床試験 - 第 1 報：健常人における単回投与試験 - . 眼科臨床医報 87 , 1301-1308 (1993)

北澤克明, 井戸忠美, 清水梅次, 松波香代子, 水上勇三：炭酸脱水酵素阻害薬 MK-507 点眼液の第 1 相臨床試験 - 第 2 報：健常人における連続投与および連続投与時の薬物動態 - . 眼科臨床医報 87 , 1309-1325 (1993)

北澤克明, 東 郁郎, 新家 真, 白土城照, 相沢芙束, 景山萬里子, 土坂寿行, 竹中康男, 塚原重雄, 岩田和雄, 塩瀬芳彦, 桑山泰明, 大鳥利文, 溝上国義, 三嶋 弘, 布田龍佑, 米虫節夫：Argon Laser Iridotomy 後の眼圧上昇に対する ALO2145 点眼液の臨床評価 - Placebo を対照とした多施設二重盲検試験 - . 眼科臨床医報 87 , 1508-1518 (1993)

安藤 公, 曾賀野茂世, 富田剛司：網膜中心静脈閉塞症に毛様網膜動脈閉塞を合併した鉄欠乏性貧血の一例 . 眼科臨床医報 87 , 1488-1493 (1993)

西村幸三九, 井戸忠美, 稲積幸介：クリスタリン網膜症の 1 例 . 岐阜市民病院年報 13 , 161-165 (1993)

曾賀野茂世, 松原恵子, 富田剛司：緑内障術後の乳頭変化 - 正常眼圧緑内障と原発開放隅角緑内障との比較 - . 日本眼科紀要 44 , 975-979 (1993)

河合憲司：予後不良と思われた眼内異物の一例 . 眼科臨床医報 87 , 159-163 (1993)

北澤克明, 東 郁郎, 新家 真, 白土城照, 相沢芙束, 景山萬里子, 土坂寿行, 竹中康男, 塚原重雄, 岩田和雄, 塩瀬芳彦, 桑山泰明, 大鳥利文, 溝上国義, 三嶋 弘, 布田龍佑, 米虫節夫：Nd-YAG Capsulotomy 後の眼圧上昇に対する ALO2145 点眼液の臨床評価 - Placebo を対照とした多施設二重盲検試験 - . 眼科臨床医報 87 , 1508-1518 (1993)

山本哲也, 末森央美, 一圓三恵子：線維芽細胞増殖阻害剤を併用する線維柱帯切除術 . あたらしい眼科 10 , 1455-1460 (1993)

北澤克明：炭酸脱水酵素阻害薬 MK-507 点眼液 - 1 回点眼時の眼圧下降作用 - . 日本眼科紀要 44 , 1357-1365 (1993)

啓民， 山本哲也， 北澤克明：緑内障における上強膜静脈圧と眼圧の関係． 日本眼科紀要 44， 1385-1388 (1993)

岡田和正， 直原修一， 山本哲也， 市橋 寛， 吉田英世：未熟児網膜症の発症に関する全身因子． 日本眼科紀要 44， 1410-1414 (1993)

富田剛司， 北澤克明：視神経所見と緑内障診断． 臨床検査 37， 1351-1353 (1993)

北澤克明：シンポジウム IX 緑内障のレーザー治療． 第 14 回日本レーザー医学会大会大会論文集， 219-220 (1993)

河合憲司：予後不良と思われた眼内異物の 1 例． 眼科臨床医報 87， 2039-2043 (1993)

河合憲司， 山田 俊：気体注入を併用した強膜内陥法術後の合併症． 臨床眼科 47， 814-815 (1993)

松波智恵子， 松波香代子， 森田則彦， 直原修一：転移性細菌性眼内炎の 1 例． 眼科 35， 901-904 (1993)

山本哲也：トラベクトミーにおけるマイトマイシン C の使用方法と注意すべき点について． Current Insights in Ophthalmic Surgery 5， 12 (1993)

北澤克明：新しい坑緑内障薬 プロスタグランジン関連物質・交感神経遮断薬． Ophthalmology Update 18， (1993)

本部千博， 富田剛司， 杉山和久， 北澤克明：SLO による黄斑部血流速度の測定． Therapeutic Research 14， 198 (1993)

北澤克明：眼疾患 オーバービュー． 現代医療 26， 511-512 (1994)

山本哲也：緑内障， Up date 早期診断とその対応 (眼疾患)． 現代医療 26， 523-526 (1994)

谷口 徹， 北澤克明：緑内障の診断と治療 - 原発開放隅角緑内障． 医報フジ 92， 5-7 (1994)

山本哲也， 啓民， 北澤克明：UF-021 とピロカルピンの併用による眼圧下降作用 - 原発開放隅角緑内障および高眼圧症における検討 - . 日本眼科学会雑誌 98， 202-205 (1994)

小栗章弘， 川瀬和秀， 曾賀野茂世， 山本哲也：老人性円板状黄斑変性症に多量の脈絡膜出血をきたした 1 例 . あたらしい眼科 11， 290-292 (1994)

本部千博， 富田剛司， 松原恵子， 岡部いづみ， 北澤克明：レーザー走査眼底観察装置 Heidelberg Retina Tomograph による視神経乳頭測定とその再現性 . あたらしい眼科 11， 293-296 (1994)

北澤克明， 塚原重雄， 高瀬正弥， 東 郁郎， 塩瀬芳彦， 米虫節男：原発開放隅角緑内障および高眼圧症に対する塩酸ブナゾシン点眼液の後期第二相臨床治験 - 多施設二重盲検比較試験 - . あたらしい眼科 11， 413-429 (1994)

本部千博， 杉山和久， 富田剛司， 北澤克明：マイクロコンピューターを利用した網膜微小血管の血流速度測定の方法 . あたらしい眼科 11， 471-474 (1994)

北澤克明， 塚原重雄， 高瀬正弥， 東 郁郎， 塩瀬芳彦， 米虫節男：原発開放隅角緑内障および高眼圧症に対する塩酸ブナゾシン点眼液の長期投与試験 . あたらしい眼科 11， 631-635 (1994)

井戸忠美， 稲積幸介：人間ドック受診者の午前と午後の眼圧の差異 . 臨床眼科 48， 287-289 (1994)

杉山和久， 本部千博， Sabbir Resa Haque， 富田剛司， 北澤克明：サル毛様網膜動脈による視神経乳頭表層の分節状血流支配について . 日本眼科学会雑誌 98， 340-343 (1994)

早川澄子， 浜島信之， 山本哲也， 北澤克明：原発開放隅角緑内障の治療内容解析 - 比例ハザードモデルと生命表法による検討 - . 日本眼科学会雑誌 98， 379-384 (1994)

河村充哉， 富田剛司， K. Jansen， C. Raitta：コンピューター画像解析法を用いた正常眼圧緑内障視神経乳頭の形態解析とその視野異常との関連性 . 岐阜大学医学部紀要 42， 398-403 (1994)

河合憲司， 塩谷滝雄：CT 画像構成法を用いた眼内異物の診断 . 臨床眼科 48， 956-957 (1994)

山本哲也，一圓三恵子，末森央美，北澤克明：正常眼圧緑内障に対する線維柱帯切除術の成績．日本眼科学会雑誌 98，579-583 (1994)

小栗章弘，佐藤之英，本部千博，山本哲也，直原修一，北澤克明：ダイオードレーザーによる経強膜毛様体光凝固術．あたらしい眼科 11，967-970 (1994)

河野吉喜，山本哲也：緑内障性視野異常進行の評価．あたらしい眼科 11，1007-1013 (1994)

山本哲也：トラベクレクトミー．眼科 36，1237-1243 (1994)

北澤克明，谷口 徹：緑内障の薬物治療．治療学 28，933-935 (1994)

馬嶋慶直，飯田 了，北澤克明，安藤 公，安藤文隆，河合卓哉，海谷忠良，石川隆，柴田 満：複合止血剤オフトアルム K R 錠の二重盲検法による臨床評価 - レーザー・フレアセルメーターに対する白内障手術時の有用性評価．日本眼科紀要 45，903-913 (1994)

北澤克明，山本哲也，東 郁郎，中島正之，徳岡 寛，新家 真，白土城照：炭酸脱水酵素阻害薬 MK-507 点眼液 - 経口炭酸脱水酵素薬からの切り換え効果の検討 - ．日本眼科紀要 45，914-920 (1994)

北澤克明，新家 真，桑山泰明：炭酸脱水酵素阻害薬 MK507 点眼液 - 遮断薬との併用効果の検討 - ．あたらしい眼科 11，1419-1426 (1994)

北澤克明，山本哲也，岩瀬愛子，井戸忠美，水上勇三：炭酸脱水酵素阻害薬 MK507 点眼液 - ジクロフェナシドとの予備的比較検討 - ．あたらしい眼科 11，1427-1433 (1994)

東 郁郎，増田寛次郎，北澤克明，高瀬正弥：原発開放隅角緑内障および高眼圧症に対する UF-021 (レスキュラメ点眼液)の長期投与試験)．あたらしい眼科 11，1435-1440 (1994)

河合憲司，塩谷滝雄：医原性鋸状縁裂孔網膜剥離と輪状締結術の有無について．眼科臨床医報 88，1607-1608 (1994)

塩谷滝雄， 直原修一：半導体レーザーによる経強膜網膜光凝固術．眼科臨床医報 88，
1613-1615 (1994)

岡田和正， 杉山和久， Sabbir Resa Haque， 谷口 徹， 北澤克明：エンドセリン-1 硝
子体内投与後に生じる眼圧の二相性変動について．日本眼科学会雑誌 98，935-941 (1994)

山本哲也， 末森央美， 一圓三恵子， 川瀬和秀， 北澤克明：緑内障濾過手術 - 手術時期と
線維芽細胞増殖阻害薬．あたらしい眼科 (別刷 1) 11 (Suppl. 1)， 51-58 (1994)

富田剛司， K. Jansen， 河村充哉， C. Raitta， 曾賀野茂世：コンピューター画像解析法
を用いた視神経乳頭と網膜神経線維層の評価．あたらしい眼科 (別刷 1) 11 (Suppl. 1)，
105-110 (1994)

山本哲也：濾過手術の注意点， 術前に考慮すべき点を中心に．臨床眼科 48， 114-115
(1994)

安藤優子， 松波智恵子， 山本哲也， 北澤克明：新しいプロスタグランジン関連薬剤 S-1033
の健常人における眼圧下降効果と安全性．日本眼科学会雑誌 98， 1109-1114 (1994)

稲積幸介， 山本哲也， 北澤克明：最大耐用薬物治療中の緑内障に対するアブラクロニジン
の相加的眼圧下降効果．あたらしい眼科 11， 1767-1770 (1994)

山本哲也：日本に多いことの知られている正常眼圧緑内障の管理はどうしたらよいのでし
ょうか．あたらしい眼科 11 (臨増：緑内障 Q&A)， 9-12 (1994)

井戸忠美：眼圧の日内変動について教えてください．あたらしい眼科 11 (臨増：緑内障
Q&A)， 19-21 (1994)

谷口 徹：臨床的に応用可能な房水動態検査法にはどのようなものがあるのでしょうか。
あたらしい眼科 11 (臨増：緑内障 Q&A)， 25-27 (1994)

河野吉喜：High-Pass Resolution Perimetry とは何でしょうか．あたらしい眼科 11 (臨増：
緑内障 Q&A)， 56-60 (1994)

富田剛司：Laser Scanning Ophthalmoscope の緑内障管理における有用性について教えてく
ださい．あたらしい眼科 11 (臨増：緑内障 Q&A)， 73-75 (1994)

岡部いづみ：いわゆる緑内障発作とその鑑別診断について教えてください。あたらしい眼科 11 (臨増：緑内障 Q&A), 89-92 (1994)

一圓三恵子：線維芽細胞増殖阻害薬 (マイトマイシン C, 5-フルオロウラシル) はどのように用いますか。あたらしい眼科 11 (臨増：緑内障 Q&A), 173-175 (1994)

稲積幸介：緑内障術後の低眼圧黄斑症の対処法について教えてください。あたらしい眼科 11 (臨増：緑内障 Q&A), 179-181 (1994)

杉山和久, 恩田鋭治：視神経乳頭近傍の血管系について, 最近の見解を教えてください。あたらしい眼科 11 (臨増：緑内障 Q&A), 209-211 (1994)

岡田和正, 直原修一, 宮典子：両眼性外眼筋炎の 1 例。臨床眼科 48, 1695-1699 (1994)

北澤克明, 塚原重雄, 岩田和雄：原発開放隅角緑内障および高眼圧症に対する MK-507, 0.5%点眼液の長期投与試験。日本眼科紀要 46, 202-210 (1995)

北澤克明：新しい薬物治療法からみた将来の治療指針。Therapeutic Research 16, 1065-1069 (1995)

杉山和久：サル眼視神経乳頭部微小血管系の立体的構築。血管と内皮 5, 68-73 (1995)

杉山和久：血管鑄型標本を用いた血管収縮の定量的解析の試み。血管と内皮 5, 164-168 (1995)

望月清文：術中の眼内灌流液への抗菌剤添加の必要性について。Current Insights in Ophthalmic Surgery 7, 18 (1995)

小栗章弘, 佐藤之英, 末森央美, 山本哲也, 直原修一：血管新生緑内障に対する経強膜毛様体光凝固術の成績。眼科手術 8, 143-147 (1995)

稲積幸介, 山本哲也, 北澤克明：正常眼圧緑内障の視神経乳頭所見による細分類。あたらしい眼科 12, 135-136 (1995)

山本哲也, 北澤克明, 野間昭夫, 前田悟司, 加藤明子, 安藤優子, 井戸忠美, 稲積

幸介，早川友康，後藤靖彦，一圓三恵子：緑内障患者の血清脂質に対する交感神経遮断薬点眼の影響．緑内障 5，15-18 (1995)

早川友康，山本哲也，北澤克明：マイトマイシン C 併用線維柱帯切除術後のレーザー切糸術．緑内障 5，29-32 (1995)

末森晋典，井上隆夫，山本哲也，北澤克明：原発閉塞隅角緑内障における周辺虹彩前癒着の圧迫隅角鏡による観察．緑内障 5，61-64 (1995)

直原修一：ホルミニウム YAG レーザーによる緑内障濾過手術．眼科手術 8，425-429 (1995)

塩谷滝雄，河合憲司：インターフェロン投与中にぶどう膜炎を来した 1 例．眼科臨床医報 89，385-388 (1995)

杉山和久，Sabbir Reza Haque，岡田和正，谷口 徹，早川友康，北澤克明：エンドセリン受容体拮抗剤，97-139 の家兎眼眼圧などに及ぼす影響について．日本眼科学会雑誌 99，271-276 (1995)

末森央美，岡部いづみ，山本哲也，早川友康，近藤雄司，三宅 幸，北澤克明：緑内障手術後の低眼圧黄斑症 - マイトマイシン C 使用例における検討．日本眼科学会雑誌 99，312-317 (1995)

山本哲也：安全性と減圧効果の定量性の向上を目指して - 線維芽細胞増殖阻害薬の使用法，適応，手術手技，術後管理 - ．眼科手術 緑内障手術 8，745-748 (1995)

啓民，富田剛司，北澤克明：スキャニングレーザーポラリメーターによる網膜神経線維層厚の測定再現性．日本眼科紀要 46，387-391 (1995)

河合憲司：眼内レンズとレーザー波長の関係．臨床眼科 49，911-914 (1995)

山本哲也，北澤克明，野間昭夫，前田悟司，加藤明子，安藤優子，井戸忠美，稲積幸介，早川友康，後藤靖彦，一圓三恵子：緑内障患者の血清脂質に対する交感神経遮断薬点眼の影響．あたらしい眼科 12，799-802 (1995)

早川友康，山本哲也 北澤克明：マイトマイシン C 併用線維柱帯切除術後のレーザー切

糸術． あたらしい眼科 12， 803-806 (1995)

河合憲司， 塩谷滝雄：脈絡膜腫瘍様に増大した網膜下出血の 2 例． 眼科臨床医報 89， 826-830 (1995)

末森晋典， 井上隆夫， 山本哲也， 北澤克明：原発閉塞隅角緑内障における周辺虹彩前癒着の圧迫隅角鏡による観察． あたらしい眼科 12， 949-952 (1995)

井戸忠美， 早川友康， 稲積幸介， 啓民， 富田剛司：糖尿病網膜症における病期別の網膜神経線維層の厚み． 日本眼科紀要 46， 705-708 (1995)

佐久間毅， 山本哲也， 北澤克明：Ultrasound biomicroscope による原発閉塞隅角緑内障の隅角の観察． 日本眼科学会雑誌 99， 806-810 (1995)

細田源浩， 山本哲也， 塚原重雄：緑内障患者の quality of life に対する調査． 臨床眼科 49， 1355-1358 (1995)

稲積幸介， 山本哲也， 北澤克明：Dicon TKS 4000 視野計の使用経験． あたらしい眼科 12， 1167-1170 (1995)

近藤雄司， 河野吉喜， 岡田和正， 山本哲也， 操 忠， 片桐義博， 北澤克明：熱依存性ゲル化剤を配合したチモロール点眼液の眼圧下降効果． あたらしい眼科 12， 1289-1293 (1995)

山本哲也， 佐久間毅， 北澤克明：Ultrasound Biomicroscope による結膜濾過胞の観察 - 眼圧コントロールとの関連 - ． あたらしい眼科 12， 1305-1308 (1995)

小栗章弘， 恩田鋭治， 望月清文， 山本哲也， 直原修一：経毛様体扁平部硝子体手術後の強膜切開創の Ultrasound Biomicroscope 所見． あたらしい眼科 12， 1475-1479 (1995)

富田剛司， 啓民， 北澤克明：レーザースキャニングトモグラフィを用いた緑内障視神経乳頭障害の診断． 臨床眼科 49， 1701-1705 (1995)

内田英哉， 富田剛司， 恩田鋭治， 杉山和久， 北澤克明：緑内障眼における網膜神経線維層欠損と中心部視野障害の関連． 日本眼科学会雑誌 99， 1158-1163 (1995)

北澤克明，山本哲也，曾賀野茂世，安藤 宏，岡田和正，操 忠，米虫節夫：Timolol GS 点眼液の第 相臨床試験 - 健常人における単回投与および連続投与試験 - . 臨床医薬 11, 1817-1826 (1995)

中尾浩子，富田剛司，河野吉喜，北澤克明：傍中心部視野閾値と視神経乳頭耳側網膜神経線維層変化との関連 . 臨床眼科 49, 1783-1786 (1995)

谷口 徹，山本哲也，加藤明子，Haque MSR：手持ち眼圧計 ProTon PRO-100 と Goldmann 圧平眼圧計による眼圧測定値の比較 . 日本眼科紀要 46, 1266-1269 (1995)

早川友康，井戸忠美，稲積幸介：眼内レンズ挿入術後の屈折誤差 . 岐阜市民病院年報 15, 42-45 (1995)

矢島茂裕，榎 明子，浅野直美，鷹尾 明，井戸忠美：難治性新生児涙嚢炎の 1 例 . 岐阜市民病院年報 15, 76-78 (1995)

原著 (欧文・国内)

Hotehama Y, H.K.Mishima H.K., Kitazawa Y, Matsuda K: Ocular hypotensive effect of PhX41 in patients with ocular hypertension or primary open-angle glaucoma. Jpn J Ophthalmol 37, 270-274 (1993)

Azuma I, Masuda K, Kitazawa Y, Takase M, Yamamura H: Double-masked comparative study of UF-021 and timolol ophthalmic solutions in patients with primary open-angle glaucoma or ocular hypertension. Jpn J Ophthalmol 37, 514-525 (1993)

Ando Y, Matsunami C, Yamamoto T, Kitazawa Y: Ocular hypotensive effect of a new prostaglandin analogue, S-1033, in normal human volunteers. Jpn J Ophthalmol 38, 337-342 (1994)

Sugiyama K, M.S.R. Haque, Tomita G, Kitazawa Y: Sectorial blood supply to the monkey optic disc surface from the cilioretinal artery. Jpn J Ophthalmol 38, 382-387 (1994)

Okada K, Sugiyama K, M.S.R. Haque, Taniguchi T, Kitazawa Y: The Effects of Endothelin-1 on Intraocular Pressure and Pupillary Diameter in Rabbits. Jpn J Ophthalmol 39, 233-241 (1995)

M.S.R. Haque, Sygiyama K, Taniguchi T, Okada K, Nakai Y, Kitazawa Y: The Effects of ETB Receptor Selective Agonist on IOP and Blood Aqueous Barrier in Rabbit Eyes; Role of Cyclooxygenase Products. *Jpn J Ophthalmol* 39, 360-367 (1995)

原著 (欧文・国外)

Kitazawa Y, Jikihara S, Yamamoto T: Antiproliferative agents and ocular tissues. *Basic Aspects of Glaucoma Research III.*, E. Lutjen-Drecoll(ed). Scharrauer, 1993. Stuttgart-N.Y., 365-378 (1993)

Kawase K, Nishimura K, Yamamoto T, Jikihara S, Kitazawa, Y: Anterior chamber reaction after mitomycin and 5-fluorouracil trabeculectomy: a comparative study. *Ophthalmic surg* 24, 24-27 (1993)

Tomita G, Maeda M, Sogano S, Kitazawa Y: An analysis of the relationship between high-pass resolution perimetry and neuroretinal rim area in normal-tension glaucoma. *Acta Ophthalmol* 71, 196-200 (1993)

Inoue T, Yamamoto T, Kitazawa Y: Distribution and morphology of peripheral anterior synechiae in primary angle-closure glaucoma. *J Glaucoma* 2, 171-176 (1993)

T.W. Mittag, A. Tormay, C. Severin, Taniguchi T, P-Y Lee, R-F Wang, S.M. Podos: Effects of A13⁺ and Be2⁺ ions combined with NaF on ciliary process adenylyl cyclase activity and aqueous humor dynamics in the rabbit eye. *Invest Ophthalmol Vis Sci* 34, 606-612 (1993)

Taniguchi T, S.M. Podos, T.W. Mittag: Alpha-adrenergic antagonists: effects on aqueous humor dynamics in the rabbit and monkey eye. *Invest Ophthalmol Vis Sci* 34, 928 (1993)

S.M. Podos, R-F Wang, P-K Lee, Taniguchi T, B. Becker, J.B. Serle, T.W. Mittag: Effect of oxymetazoline on aqueous humor dynamics and ocular blood flow in monkeys and rabbits. *Invest Ophthalmol Vis Sci* 34, 928 (1993)

Onda E, D.R. Bacon, G.A. Cioffim, M.E. Berg, E.M. Van Buskirk: Vascular corrosion casting of the human optic nerve head. *Invest Ophthalmol Vis Sci* 34, 1503 (1993)

Sugiyama K, Haque S.R., Honbe K, Ando H, Jikihara S, Kitazawa Y: ICG enhanced vascular effects of diode laser cyclophotocoagulation. *Invest Ophthalmol Vis Sci* 34, 738 (1993)

Honbe K, Tomita G, Sugiyama K, Kitazawa Y: Velocity measurements for the macular blood flow using the scanning laser ophthalmoscope. *Invest Ophthalmol Vis Sci* 34, 1391 (1993)

T.W. Mittag, W-B Guo, Taniguchi T: Interaction of vanadate and iodate oxyanions with adenylyl cyclase of ciliary processes. *Biochem Pharmacol* 45, 1311-1316 (1993)

T.W. Mittag, A. Tormay, Taniguchi T, M. Ortega: Calmodulin activated adenylyl cyclase in ciliary processes: additivity of calcium and cyclic adenosine monophosphate signals on intraocular pressure response of the rabbit eye. *Invest Ophthalmol Vis Sci* 34, 2041-2048 (1993)

Sogano S, Tomita G, Kitazawa Y: Changes in retinal nerve fiber layer thickness after reduction of intraocular pressure in chronic open-angle glaucoma. *Ophthalmology* 100, 1253-1258 (1993)

Kitazawa Y, Sogano S: Early treatment of ocular hypertension and glaucoma suspects(5). *J Glaucoma* 2, 10-11 (1993)

Kitazawa Y, Matsushita H, Yamamoto T, Kawase K: Low-dose and high-dose mitomycin trabeculectomy as an initial surgery in primary open-angle glaucoma. *Ophthalmology* 100, (1993)

Kitazawa Y: Multicenter double-blind comparison of carteolol and timolol in primary open-angle glaucoma and ocular hypertension. *Adv Ther* 10, 95-131 (1993)

Okutomi M, Yoshizaki O, Tomita G: Color stereo matching and its application to 3-D measurement of optic nerve head. *Proceedings of the eleventh IAPR international conference on pattern recognition*, 509-513 (1993)

R-F Wang, P-Y Lee, Taniguchi T, B.Becker S.M. Podos, J.B. Serle T.W. Mittag: Effect of oxymetazoline on aqueous humor dynamics and ocular blood flow in monkey and rabbits. *Arch Ophthalmol* 111, 535-538 (1993)

Taniguchi T, Kitazawa Y: A risk-benefit assessment of drugs used in the management of glaucoma. *Drug Safety* 11, 68-74 (1994)

Kitazawa Y, Yamamoto T: The risk profile of mitomycin C in glaucoma surgery. *Curr Opin Ophthalmol* 5, 105-109 (1994)

Okabe I, Kitazawa Y: Glaucoma secondary to vascular insufficiency: should more attention be focused on microcirculatory factors? *J Glaucoma* 3, 181-183 (1994)

T.W. Mittag, J. Serle, R. Schumer, Taniguchi T, S.H. Rho, S. Podos: Studies of the ocular pulse in primates. *Surv Ophthalmol* 38(Suppl, May), 183-190 (1994)

Yamamoto T, Suemori-Matsushita H, Ichien M, Kawase K, Kitazawa Y: Glaucoma filtering surgery and mitomycin C. *Chibret Internatiol Journal of Ophthalmology* 10, 92-96 (1994)

Kitazawa Y, Azuma I, Iwata K: Dorzolamide a topical carbamic anlydrase inhibitor: A two-week dose-response study in patients with glaucoma or ocular hypertension. *J Glaucoma* 3, 275-279 (1994)

Mohammad SR Haque, Sugiyama K, Ando H, Jikihara S, Kitazawa Y: ICG - enhanced vascular effects of diode laser cyclophotocoagulation: evaluated by microvascular corrosion casting. *Laser and Light in Ophthalmology* 6, 217-227 (1994)

D. Pwyer, D.R. Bacon, Onda E, E.M. Van Buskirk, G.A. Cioffi: Microvascular anatomy of the guinea pig optic nerve. *Invest Ophthalmol Vis Sci* 35, 1759 (1994)

G.A. Cioffi, Onda E, M.E. Berg, D.R. Bacon, E.M. Van Buskirk: Effects of endothelin-induced chronic optic nerve ischemiar. *Invest Ophthalmol Vis Sci* 35, 1820 (1994)

Onda E, D.R. Bacon, E.M. Van Buskirk, G.A. Cioffi: Effects of acute intraocular pressure elevation on the microvasculature of the cat optic nerve. *Invest Ophthalmol Vis Sci* 35, 1840 (1994)

Kawase K, H.T. Steely Jr, A.F. Clark: The effects of dexamethasone and tetrahydrocortisol on protein expression on in cultured human trabecular meshwork cells. *Invest Ophthalmol Vis Sci* 35, 1846 (1994)

Okada K, Sugiyama S, S.R. Haque, Taniguchi T, Kitazawa Y: Biphasic intraocular pressure

response followed by intravitreal injection of endothelin-1 in the rabbit eye and role of cyclooxygenase products. *Invest Ophthalmol Vis Sci* 35, 2048 (1994)

A. Nicoletti, D.J. Wong, Kawase K, L.H. Gibson, T.L. Yang-Feng, J.E. Richard, D.A. Thompson: Molecular characterization of the human gene encoding an abundant 61 kDa protein specific to the retinal pigment epithelium. *Human Molecular Genetics* 4, 641-649 (1994)

Yamamoto T, Kitazawa Y: Residual mitomycin C dosage in surgical sponges removed at the time of trabeculectomy. *Am J Ophthalmol.* 117, 672-673 (1994)

Sugiyama K, G.A. Cioffi, D.R. Bacon, E.M. Van Buskirk: Optic nerve and peripapillary choroidal microvasculature in the primate. *J Glaucoma* 3(Suppl 1), S45-S54 (1994)

Taniguchi T, Okada K, M.S.R. Haque, Sugiyama K, Kitazawa Y: Effects of endothelin-1 on intraocular pressure and aqueous humor dynamics in the rabbit eye. *Curr Eye Res* 13, 461-464 (1994)

Tomita G, K. Nyman, C. Raitta, M. Kawamura: Interocular asymmetry of optic disc size and its relevance to visual field loss in normal-tension glaucoma. *Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol* 232, 290-296 (1994)

K. Nyman, Tomita G, C. Raitta, M. Kawamura: Correlation of asymmetry of visual field loss with optic disc topography in normal-tension glaucoma. *Arch Ophthalmol* 112, 349-353 (1994)

Tomita G, P. Puska, C. Raitta: Interocular differences in optic disc configuration in the unilateral exfoliation syndrome. *Acta Ophthalmol* 72, 162-167 (1994)

Tomita G, Honbe K, Kitazawa Y: Reproducibility of measurements by laser scanning tomography in eyes before and after pilocarpine treatment. *Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol* 232, 406-408 (1994)

Tomita G, M. Kawamura, S. Sogano, K. Jansen, C. Raitta: Optic disc and retinal nerve fiber layer evaluation using computerized image analysis techniques. *Chibret International Journal of Ophthalmology* 10, 68-75 (1994)

Iwase A: Oculokinetic perimetry in a health screening program. *Perimetry - Update* 1994/1995, 329 (1994)

Kitazawa Y: Bewertung von Wirkungen und Nebenwirkungen der Antiglauckommittel. *Search on Glaucoma* 3, 34-38 (1995)

Kitazawa Y, Yamamoto T, Ichien M: Mitomycin trabeculectomy for normal tension glaucoma. *Glaucoma Update*, ed G.K. Kriegelstein Kaden Verlag GmbH, Hedelberg, 357-363 (1995)

Kitazawa Y, D.S. Minckler: Filtration surgery in a young, aphakic, high myope. *J Glaucoma* 4, 287-294 (1995)

Onda E, G.A. Cioffi, D.R. Bacon, E.M. Van Buskirk: Microvasculature of The Human Optic Nerve. *Am J Ophthalmol* 120, 92-102 (1995)

Yamamoto T, Ichien M, Suemori-Matsushita H, Kitazawa Y: Trabeculectomy with mitomycin C for normal-tension glaucoma. *J Glaucoma* 4, 158-163 (1995)

Sugiyama K, G.A. Cioffi, D.R. Bacon, E.M. Van Buskirk: Mikrogefass-system im vorderen abschnitt des sehnervs bei primaten. *Search on Glaucoma* 3, 86-89 (1995)

Ido T, Hayakawa T, Inazumi K, Q. Chi, Tomita G, Kitazawa Y: Diabetic change in retinal nerve fiber layer thickness evaluated by scanning laser polarimetry. *Invest Ophthalmol Vis Sci* 36, 48 (1995)

Onda E, Sugiyama K, Uchida H, Sawada A, Horii N, Nakai Y, Kitazawa Y: Selective angiographic evaluation of the posterior ciliary arterial contribution to the optic nerve in rabbit. *Invest Ophthalmol Vis Sci* 36, 115 (1995)

Sugiyama K, M.S.R. Haque, Onda E, Nakai Y, Okada K, Taniguchi T, Kitazawa Y: The Effect of Intravitreally Injected Endothelin-1 on the Iris-Ciliary Body Microvasculature and Blood-Aqueous Barrier. *Invest Ophthalmol Vis Sci* 36, S134 (1995)

Inazumi K, Tomita G, Q. Chi, Hayakawa T, Ido T, Kitazawa Y: Aging effect on the retinal nerve fibrt layer thickness evaluated by scanning laser polarimetry. *Invest Ophthalmol Vis Sci* 36, 973 (1995)

Sawada A, Ichien K, Ido T, Okabe I, Yamamoto T, Kitazawa Y: Vasospastic response of

peripheral vessels is associated with antinuclera antibody in normal-tension glaucoma. Invest Ophthalmol Vis Sci 36, 218 (1995)

Yamamoto T, Sakuma T, Kitazawa Y: A New classification system for filtering blebs. Invest Ophthalmol Vis Sci 36, 563 (1995)

Sakuma T, Yamamoto T, Kitazawa Y: An ultrasound biomicroscopic study of chamber angles in primary angle-closure glaucoma. Invest Ophthalmol Vis Sci 36, 563 (1995)

Uchida H, Tomita G, Onda E, Sugiyama K, Kitazawa Y: Relationship between the retinal nerve fiber layer bundle defects and parafoveal visual field defects in glaucomatous eyes. Invest Ophthalmol Vis Sci 36, 973 (1995)

E. Vesti, Tomita G, M. Harju, P. Puska, C.Raitta: Parafoveal retinal surface height in glaucomatous eyes measured by laser scanning tomography. Invest Ophthalmol Vis Sci 36, 977 (1995)

M.S.R. Haque, Taniguchi T, Sugiyama K, Okada K, Kitazawa Y: The Ocular Hypotensive Effect of the ETB Receptor Selective Agonist, Sarafotoxin S6c, in Rabbits. Invest Ophthalmol Vis Sci 36, 804-808 (1995)

Sugiyama K, M.S.R. Haque, Okada K, Taniguchi T, Kitazawa Y: Intraocular pressure response to intravitreal injection of endothelin-1 and the mediatory role of ETA receptor, ETB receptor, and cyclooxygenase products in rabbits. Curr Eye Res 14, 479-486 (1995)

Yamamoto T, Sakuma T, Kitazawa Y: An ultrasound biomicroscopic study of filtering blebs following mitomycin trabeculectomy. Ophthalmology 102, 1770-1776 (1995)

S. Orgul, G.A. Cioffi, D.R. Bacon, Onda E, E.M. Van Buskirk: Optic nerve vasomotor effects of arterial blood gases. J Glaucoma 4, 322-326 (1995)

Q-M. Chi, Tomita G, Inazumi K, Hayakawa T, Ido T, Kitazawa Y: Evaluation of the effect of aging on the retinal nerve fiber layer thickness using scanning laser polarimetry. J Glaucoma 5, (1995)

G.A. Cioffi, S. Orgul, Onda E, D.R. Bacon, E.M. Van Buskirk: An in vivo model of chronic

optic nerve ischemia: the dose-dependent effects of endothelin-1 on the optic nerve microvasculature. *Curr Eye Res* 14, 1147-1153 (1995)

Kono Y, Q-M. Chi, Tomita G, Yamamoto T, Kitazawa Y: Relationship between quadrants of neuroretinal rim area of glaucomatous optic disk and both 'neural capacity' of high-pass resolution perimetry and mean deviation of HFA: a comparative study. In Mills RD & Wall M (Eds) *Perimetry Update 1994/1995* p209, Kugler Amsterdam, (1995)

その他

北澤克明：低眼圧緑内障の治療に関する研究，長寿科学総合研究・平成 4 年研究報告 3 . 老年病各論，289-290，長寿科学総合研究費，中央事務局，1993

北澤克明：緑内障の診断と進行予防，日本医事新報，No.3622, 1993

Kitazawa Y: Anatomy, Wound Healing Patterns Keys to Managing Failed Blebs, *Ophthalmology Times* Vol.18, No.6, 1993

Kitazawa Y ; Intraoperative Mitomycin Prolongs Bleb Life, *Ophthalmology Times* Vol.18, No.12 1993

Kitazawa Y, Yamamoto T, Ichien M, Suemori-Matsushita H: Mitomycin trabeculectomy for normal-tension glaucoma. *Glaucoma Update* Vol . Ed by Krieglstein GK 357-363 Kaden Verlag, Heidelberg (Germany) (1995)

Kono Y, Q-M. Chi, Tomita G, Yamamoto T, Kitazawa Y: Relationship between quadrants of neuroretinal rim area of glaucomatous optic disk and both 'neural capacity' of high-pass resolution perimetry and mean deviation of HFA: a comparative study. In Mills RD & Wall M (Eds) *Perimetry Update 1994/1995* p209, Kugler Amsterdam, (1995)

Yamamoto T: Effects of topical β -blockers on serum lipid levels in glaucoma patients. *Problems Associated with the Use of β -Blocker*, 11-12, (1995)

北澤克明，山本哲也：緑内障．高眼圧症，*Medicament News* 第 1463 号, 8-9, 1995

山本哲也：発症機序とその考え方，日本眼科医会生涯教育講座，第 29 回 緑内障の管理 - 原発開放隅角緑内障・正常眼圧緑内障 - テキスト, 3-9, 1995

山本哲也：緑内障患者の血清脂質に対する交感神経遮断薬点眼の影響，第5回日本緑内障学会シンポジウム記録集, 11-12, 1995

北澤克明，山本哲也：点眼薬による緑内障治療，日本医事新報 No.3704, P128-129, 1995

山本哲也：眼圧検査．日本眼科学会専門医制度委員会，専門医制度第24回講習会抄録集, 3-5, 1995

山本哲也：読者の手紙 回答，眼科手術 8, 642, 1995

北澤克明，桑山泰明，谷原秀信，山本哲也：薬物療法か，手術か．緑内障の治療法選択をめぐって，Living Eyes 2, 2-10, 1995

耳鼻咽喉科学講座

著書 (和文)

宮田英雄：スギ花粉症と予防投薬の有効性, 耳鼻咽喉科診療 Q&A (第 19 号), 提 昌巳代表編, 東京, 六法出版社, 1994. 617'14-617'15

宮田英雄： 偏倚検査. 1 足踏み検査, 2 書字検査, 「イラスト」めまいの検査, 日本平衡神経科学会編, 東京, 診断と治療社, 1995. 18-21

宮田英雄：メニエール病, 今日の治療指針 私はこう治療している (1996 版), 日野原重明, 阿部正和監修, 東京, 医学書院, 1996. 818

宮田英雄： めまい, 52 一側迷路の機能低下の場合, 同側に偏倚するが時に反対側に偏倚するのはなぜか, 耳鼻咽喉科・頭頸部外科クリニカルトレンド. 1 版. 野村恭也, 本庄 巖, 平出文久編, 東京, 中山書店, 1996. 123

水田啓介：主訴で何を考える, 慢性めまいの取り扱い, 直立・重心動揺・足踏・歩行検査で何がわかる, Schellong 試験で何がわかるか, メマイ診療の鍵, 1 版. 鈴木淳一編, 東京, 篠原出版, (印刷中)

著書 (欧文)

Mizuta k, Miyata H, Sakuma S, Ito Y: Studies on optokinetic nystagmus in the elderly Japanese. Proceedings of 0 th. Barany society meeting. 1993. 106-109

Ito Y, Miyata H, Kojima T, Sawai S: Equilibrium training for patients with vestibular disorders. Proceedings of 0 th. Barany society meeting. 1993. 345-348

Miyata H, Ito Y, Mizuta K: Clinical experience with saireito (TJ-114) and oren-gedoku-to (TJ-15) in the treatment of vertigo. Proceedings of 0 th. Barany society meeting. 1993. 391-394

Shirato H, Ogawa H, Mizuta K, Ito Y, Miyata H: Gait in the elderly Japanese. 1994 Elsevier Science B.V. All rights reserved Vestibular and neural front. 1994. 187-190

Sawai S, Mizuta K, Ito Y, Miyata H: Rehabilitation of patients with dizziness and

disequilibrium. 1994 Elsevier Science B.V. All rights reserved Vestibular and neural front. 1994. 303-306

総説 (和文)

宮田英雄：実践講座 姿勢反射 1. 運動の姿勢反射. 総合リハビリテーション 21, 885-888 (1993)

水田啓介, 宮田英雄：実践講座 姿勢反射 2. ヒトの直立姿勢. 総合リハビリテーション 21, 985-990 (1993)

小島俊己, 澤井薫夫, 宮田英雄：実践講座 姿勢反射 3. めまい・平衡障害例のリハビリテーション. 総合リハビリテーション 21, 1071-1079 (1993)

宮田英雄：めまい・動揺病の対症療法. JOHNS 9, 1833-1836 (1993)

宮田英雄：外来でのめまいのスクリーニング. 耳鼻臨床 86, 1822-1823 (1993)

伊藤八次, 宮田英雄：特集 外来診療と検査 重心動揺検査法. JOHNS 10, 1404-1411 (1994)

宮田英雄：臨床生理検査実践マニュアル 画像検査を中心として . 重心動揺検査法 3. 検査の実際 1) 検査の進めかた. 検査と技術 23, 305-311 (1995)

宮田英雄：機能検査シリーズ 重心動揺検査. 日本耳鼻咽喉科学会専門医通信 45, 22-23 (1995)

宮田英雄, 秋田茂樹：鼻科手術 5. ESS による術後性頬部嚢胞の治療. JOHNS 12, 136-139 (1996)

原著 (和文)

宮田英雄：めまい治療効果判定の岐阜大方式. Equilibrium Res 52, 36 (1993)

山田剛寛, 大野通敏, 白戸弘道, 高橋英二, 宮田英雄, 時田 喬: 熟練の平衡生理学的研究 - 平衡台における直立姿勢維持において - . Equilibrium Res 52, 225-236 (1993)

水田啓介, 佐久間伸二, 小島俊己, 白戸弘道, 澤井薫夫, 青木光広, 山田匡彦, 藤宮 大, 伊藤八次, 宮田英雄：高齢者の温度眼振と視運動性眼振. Equilibrium Res 52, 411-421 (1993)

山田剛寛, 小島俊己, 澤井薫夫, 水田啓介, 伊藤八次, 熊田貴彦, 藤宮 大, 宮田英雄: 迷路性めまいの治療効果判定 - 自覚症状の評価方法 - . Equilibrium Res 52, 530-535 (1993)

小島俊己, 澤井薫夫, 山田剛寛, 水田啓介, 伊藤八次, 熊田貴彦, 青木光広, 宮田英雄: 迷路性めまいの治療効果判定 - 他覚所見の評価方法 - . Equilibrium Res 52, 536-543 (1993)

時田 喬, 柴田康成, 大川 剛, 宮田英雄, 大野通敏: 迷路性固視機能検査装置の開発とその臨床的利用. Equilibrium Res 52, 602-610 (1993)

水田啓介, 久世文也, 早川和喜, 山田剛寛, 青木光広, 宮田英雄: アンケート調査からみたメニエール病の経過. Equilibrium Res 52, 611-616 (1993)

加藤雅也, 小島俊己, 大西将美, 小塩勝博, 加藤洋治, 澤井薫夫, 白戸弘道, 伊藤敬子, 佐久間伸二, 鈴木智雄: 睡眠時無呼吸症候群成人例の手術効果の検討. 耳鼻臨床 86, 397-404 (1993)

秋田茂樹, 大川 剛, 伊藤敬子, 水田啓介, 小島俊己, 伊藤八次, 宮田英雄: 小児における一側性心因性難聴の 2 症例. 耳鼻臨床 86, 799-805 (1993)

白戸弘道, 水田啓介, 小島俊己, 鈴木智雄, 宮田英雄, 岩田辰夫, 山田 弘: 斜台脊索腫例. 耳鼻臨床 86, 851-859 (1993)

松原茂規, 小泉 光, 中村好克, 澤井薫夫, 伊藤八次, 鈴木智雄, 宮田英雄: 体外衝撃波による唾石の治療 - 適応と合併症 - . 耳鼻臨床 86, 1593-1597 (1993)

白戸弘道, 小川晴子, 加藤雅也, 水田啓介, 伊藤八次, 宮田英雄: 高齢者の歩行 - 肉眼的観察とポリグラフ記録による検討 - . 耳鼻と臨床 39, Suppl. 2, 821-828 (1993)

水田啓介, 佐久間伸二, 伊藤八次, 白戸弘道, 澤井薫夫, 青木光広, 宮田英雄: 高齢者の視運動性眼振緩徐相速度の検討. 耳鼻と臨床 39, Suppl. 2, 829-833 (1993)

小島俊己, 伊藤八次, 澤井薫夫, 水田啓介, 鈴木智雄, 宮田英雄: 一側術後反対側に再発した上顎 ameloblastoma 症例. 日本鼻科学会会誌 31, 320-324 (1993)

伊藤敬子, 伊藤八次, 小島俊己, 水田啓介, 山田剛寛, 宮田英雄, 渡辺邦友, 上野一恵: 慢性

副鼻腔炎における嫌気性菌の臨床的意義. 日本耳鼻咽喉科感染症研究会会誌 11, 45-50 (1993)

藤宮 大, 宮田英雄, 中島 茂, 野沢義則: ラット好塩基球性白血病 (RBL-2H3) 細胞の抗原刺激による二相性 1, 2 - ジアシルグリセロール産生とホスホリパーゼ D 活性化によるホスファチジルコリン分解. アレルギー 42, 64-73 (1993)

熊田貴彦, 藤宮 大, 宮田英雄, 中島 茂, 野沢義則: ラット好塩基球性白血病細胞 (RBL-2H3) の二相性 1, 2 - ジアシルグリセロール産生とホスホリパーゼ D. 脂質生化学研究 35, 201-204 (1993)

小塩勝博, 大橋伸一, 林弘太郎: 鼻腔内に生じた神経線維腫症例. 高山赤十字病院紀要 17, 103-109 (1993)

秋村裕彦, 須藤秀雄, 石井正則, 渡辺 顕, 川原弘靖, 宮田英雄, 水田啓介, 伊藤八次, 金田健作: 宇宙における錯覚・失認対策法に関する研究 その 1 フライトシミュレータによる錯覚・失認の機序解明. 宇宙科学技術連合講演会講演集 37, 65-66 (1993)

奥田 稔, 水田啓介, 宮田英雄, 他 113 名: ペミロラストカリウム (TBX) のアレルギー性鼻炎に対する臨床試験 - トラニラストを対照とする多施設二重盲検比較試験 - . 耳展 36, 377-401 (1993)

中村好克, 澤井薫夫, 鈴木智雄, 宮田英雄, 松原茂規: 小児耳下腺唾石例. 耳鼻臨床 87, 73-77 (1994)

早川和喜, 水田啓介, 久世文也, 山田剛寛, 宮田英雄, 橋本正彦: 巨大喉頭血管腫例. 耳鼻臨床 87, 87-92 (1994)

水田啓介, 伊藤八次, 近藤由香, 宮田英雄: メニエール病に対する柴苓湯の使用経験. 耳鼻臨床 87, 719-726 (1994)

藤井恵子, 伊藤八次, 水田啓介, 白戸弘道, 澤井薫夫, 佐久間伸二, 近藤由香, 熊田貴彦, 青木光広, 宮田英雄: 小児のめまい・平衡障害の検討. Equilibrium Res 53, 374-380 (1994)

伊藤八次, 水田啓介, 青木光広, 熊田貴彦, 澤井薫夫, 佐久間伸二, 鈴木智雄, 宮田英雄, 小泉 光: メニエール病に対するイブジラストの使用成績. Equilibrium Res 53, 429-436

(1994)

宮田英雄, 白戸弘道 : 高齢者の歩行. *Equilibrium Res* 53, 449-457 (1994)

水田啓介, 久世文也, 青木光広, 中村好克, 海田健宏, 小塩勝博, 早川和喜, 小川晴子, 宮崎哲郎, 浅野幸一郎, 宮田英雄 : ヒトの視運動性眼振に対する視運動訓練効果と機構の検討. *Equilibrium Res* 53, 476-481 (1994)

中山雅文, 伊藤八次, 竹内秀行, 澤井薫夫, 白戸弘道, 水田啓介, 鈴木智雄, 宮田英雄 : 当科における低音障害型感音難聴例の検討. *Audiology Japan* 37, 150-154 (1994)

水田啓介, 宮田英雄, 柴田康成, 大川 剛, 松原茂規, 小泉 光, 森 芳郎, 佐久間伸二, 近藤由香 : 慢性副鼻腔炎に対するクラリスロマイシン (クラリシッド) の有効性の検討. *日本耳鼻咽喉科感染症研究会会誌* 12, 26-32 (1994)

白戸弘道, 小川晴子, 藤井恵子, 平松 隆, 水田啓介, 鈴木智雄, 宮田英雄, 柳田正巳, 柴田康成, 近藤由香, 前田正徳, 大野通敏, 林 真理子, 小泉 光, 森 芳郎, 松原茂規, 佐久間伸二, 山田匡彦, 大橋伸一 : 慢性化膿性中耳炎に対するタリビット耳科用液の有用性の検討. *日本耳鼻咽喉科感染症研究会会誌* 12, 107-117 (1994)

熊田貴彦, 藤宮 大, 中村好克, 宮田英雄 : ラット好塩基球性白血病 (RBL-2H3) 細胞のホスホリパーゼ D 活性化とチロシンキナーゼ. *免疫アレルギー* 12, 160-161 (1994)

横山壽一, 宮田英雄 : 耳かきによる外傷性外リンパ瘻の 2 症例. *岐阜赤十字病院医学雑誌* 6, 61-65 (1994)

西尾誠司, 石井正則, 須藤秀雄, 宮田英雄, 伊藤八次, 須藤正道, 金田健作, 川原弘靖, 渡辺 顕 : 宇宙における錯覚・失認対策法に関する研究. *宇宙ステーション講演会講演集* 10, 13-14 (1994)

宮田英雄 : 高齢者の眼運動. *Equilibrium Res* 54, 38-45 (1995)

大野通敏, 時田 喬, 柴田康成, 大川 剛, 宮田英雄 : 迷路性固視機能検査法に関する研究. 地磁気センサによる基準範囲. *Equilibrium Res* 54, 225-235 (1995)

青木光広, 宮田英雄, 水田啓介, 伊藤八次 : 視性訓練による視性平衡機能向上の研究 (1) 視

運動性眼振の訓練効果の検討. *Equilibrium Res* 54, 279-286 (1995)

青木光広, 宮田英雄, 水田啓介, 伊藤八次: 視性訓練による視性平衡機能向上の研究 (2) NMDA 受容体の役割. *Equilibrium Res* 54, 287-295 (1995)

大川 剛, 時田 喬, 柴田康成, 小川徹也, 宮田英雄: 重心動揺検査 単位面積軌跡長の意義 健常者における検討. *Equilibrium Res* 54, 296-306 (1995)

大野通敏, 時田 喬, 柴田康成, 大川 剛, 宮田英雄: 迷路性固視機能検査法に関する研究 迷路障害例の検討. *Equilibrium Res* 54, 379-392 (1995)

中村好克, 中山雅文, 鈴木智雄, 宮田英雄: 咽喉頭異常感を訴えた虚血性心疾患の 2 例. *日気食会報* 46, 242-247 (1995)

小川晴子, 白戸弘道, 藤井恵子, 伊藤八次, 鈴木智雄, 宮田英雄: 喉頭アミロイドーシスの長期経過例. *日気食会報* 46, 485-488 (1995)

中村好克, 藤宮 大, 熊田貴彦, 小塩勝博, 宮田英雄, 中島 茂, 野澤義則: ラット好塩基球形白血病 (RBL-2H3) 細胞の抗原刺激によるホスホリパーゼ D 活性化に対する Pemirolast Potassium の効果. *アレルギー* 44, 624-629 (1995)

小塩勝博, 中村好克, 宮田英雄, 坂野喜子, 中島 茂, 野澤義則: ラット好塩基球形白血病 (RBL-2H3) 細胞のホスホリパーゼ D の活性化及び分泌応答におけるプロテインキナーゼ C アイソザイムの関与. *アレルギー* 44, 1410-1417 (1995)

中村好克, 小塩勝博, 宮田英雄, 中島 茂, 坂野喜子, 野澤義則: IgE 受容体刺激によるホスホリパーゼ D 活性化に対するセラミドの作用. *脂質生化学研究* 37, 157-160 (1995)

大西将美, 鈴木智雄, 澤井薫夫, 水田啓介, 伊藤八次, 宮田英雄: 舌骨大角の異常 (肥厚) により頸捻転時に前頸部に異常音を発生した 1 例. *口腔・咽頭科* 7, 239-243 (1995)

水田啓介, 佐久間伸二, 宮田英雄, 郭 泰彦: 椎骨動脈狭窄例の血行再建術と神経耳科所見. *耳鼻臨床* 88, 19-24 (1995)

森 充広, 平松 隆, 海田健宏: 両側同時性顔面神経麻痺例. *耳鼻臨床* 88, 1263-1268 (1995)

秋田茂樹, 小川晴子, 水田啓介, 伊藤八次, 鈴木智雄, 宮田英雄: 慢性副鼻腔炎に対するロキシシロマイシンの効果. 耳展 38, Suppl 3, 189-194 (1995)

小川晴子, 白戸弘道, 山田剛寛, 宮田英雄, 加藤直樹, 渡辺邦友: 扁桃周囲膿瘍の細菌学的検査. 日本耳鼻咽喉科感染症研究会会誌 13, 86-90 (1995)

高橋義人, 宇野裕巳, 栗山 学, 宮田英雄, 下川邦泰, 河田幸道: 尿路外症状 (嚥下困難と労作時呼吸困難) によって発見された腎細胞癌の 1 例. 癌と化学療法 22, 133-136 (1995)

田中卓二, 牧田浩樹, 大西将美, 川森俊人, 森 秀樹: アスタキサンチン, カンタキサンチン及び 1'-acetoxychavicol acetate の実験的口腔がん抑制作用. 消化器癌の発生と進展 7, 239-242 (1995)

宮田英雄: 平衡機能向上における学習の研究. 平成 6 年度科学研究費補助金 (一般研究 (C)) 研究報告書 (1996)

白戸弘道, 澤井薫夫, 水田啓介, 伊藤八次, 鈴木智雄, 宮田英雄: メニエール病の cluster に対する治療効果判定の検討. Equilibrium Res 55, 26-32 (1996)

大川 剛, 時田 喬, 柴田康成, 小川徹也, 宮田英雄: 重心動揺検査 - 単位面積軌跡長の意義 -, 臨床例における検討. Equilibrium Res 55, 283-293 (1996)

加藤雅也, 正木道熹: 腎癌の副鼻腔転移の 1 例. 日本鼻科学会会誌 34, 323-328 (1996)

森 充広, 平松 隆, 小泉 光, 山田剛寛: 下甲介レーザー手術の有用性の検討 - 術後の鼻腔粘膜反応性について -. 耳鼻臨床 89, 315-319 (1996)

浅野幸一郎, 水田啓介, 伊藤八次, 鈴木智雄, 宮田英雄: 側頸部に迷入した甲状腺腫例. 耳鼻臨床 89, 501-504 (1996)

加藤洋治, 服部彩樹, 堀部昌代, 古田充哉, 伊藤八次, 鈴木智雄: Tornwaldt 病と考えられた上咽頭嚢胞例. 耳鼻臨床 89, 695-699 (1996)

高橋英二, 伊藤八次, 水田啓介, 安藤健一, 宮田英雄: 突発難聴で発症した両側聴神経腫瘍例. 耳鼻臨床 89, 795-799 (1996)

秋田茂樹, 小川晴子, 宮崎貴子, 堀部昌代, 加藤洋治, 水田啓介, 伊藤八次, 宮田英雄: 慢性副鼻腔炎の細菌学的検討. 耳展 39 Suppl 1, 5-10 (1996)

小川晴子, 秋田茂樹, 加藤洋治, 堀部昌代, 宮崎貴子, 白戸弘道, 宮田英雄, 加藤直樹, 渡辺邦友: 慢性副鼻腔炎の細菌学的検査と薬剤感受性の検討. 日本耳鼻咽喉科感染症研究会会誌 14, 64-69 (1996)

高橋英二, 鈴木智雄, 伊藤八次, 水田啓介, 佐久間伸二, 近藤由香, 宮田英雄: 当科における重複癌症例の検討. 耳鼻臨床 89, 1383-1388 (1996)

高橋英二, 鈴木智雄, 伊藤八次, 水田啓介, 白戸弘道, 宮田英雄: 耳下腺 Salivary duct carcinoma 例. 耳鼻臨床 (印刷中)

高橋英二, 西田 基: 鼻腔側壁多形腺腫の 1 例. 日本鼻科学会会誌 (印刷中)

宮田英雄, 水田啓介, 伊藤八次, 久世文也, 浅野幸一郎, 宮崎貴子, 新井信一郎: 水平性視運動性後眼振の検討 - Retinal Slip 速度との関係 - . Equilibrium Res 55, 371-377 (1996)

原著 (欧文・国内)

Fujimiya H, Nakashima S, Kumada T, Nakamura Y, Miyata H, Nozawa Y: An antiallergic drug, pemirolast potassium, inhibits inositol 1,4,5-trisphosphate production and Ca²⁺ mobilization in antigen-stimulated rat basophilic leukemia (RBL-2H3) cells. アレルギー 43, 142-151 (1994)

Kawamori T, Tanaka T, Kojima T, Suzui M, Ohnishi M, Mori H: Suppression of azoxymethane-induced rat colon aberrant crypt foci by dietary protocatechuic acid Jpn J Cancer Res 85, 686-691 (1994)

Nakamura Y, Nakashima S, Fujimiya H, Kumada T, Kato Y, Miyata H, Nozawa Y: Effects of antiallergic drug, pemirolast potassium on tyrosine phosphorylation and MAP kinase activation in antigen-stimulated rat basophilic leukemia (RBL-2H3) cells. アレルギー 44, 34-44 (1995)

Nakamura Y, Nakashima S, Fujimiya H, Kumada T, ojio K, Miyata H, Nozawa Y: Effects of antiallergic drug, pemirolast potassium on phospholipase D activation in antigen-stimulated

rat basophilic leukemia (RBL-2H3) cells. アレルギー 44, 624-629 (1995)

Ojio K, Nakamura Y, Miyata H, Banno Y, Nakashima S, Nozawa Y: The involvement of protein kinase C isozymes in activation of phospholipase D and secretion of serotonin in rat basophilic leukemia cells. アレルギー 44, 1410-1417 (1995)

Okamoto K, Sugie S, Ohnishi M, Makita H, Kawamori T, Watanabe T, Tanaka T, Mori H: Chemopreventive effects of taurine on diethylnitrosamine and phenobarbital-induced hepatocarcinogenesis in male F344 rats Jpn J Cancer Res 87, 30-36 (1996)

Ohnishi M, Tanaka T, Makita H, Kawamori T, Mori H, Satoh K, Hara A, Murakami A, Ohigashi H, Koshimizu K: Chemopreventive effect of a xanthine oxidase inhibitor, 1'-acetoxychavicol acetate, on rat oral carcinogenesis. Jpn J Cancer Res 87, 349-356 (1996)

原著 (欧文・国外)

Kumada T, Miyata H, Nozawa Y: Involvement of tyrosine phosphorylation in IgE receptor-mediated phospholipase D activation in rat basophilic leukemia (RBL-2H3) cells. Biochem Biophys Res Commun 191, 1363-1368 (1993)

Banno Y, Sakai T, Kumada T, Nozawa Y: Potentiation by cholera toxin of bradykinin-induced inositol phosphate production in the osteoblast-like cell line MC3T3-E1. Biochem J 292, 401-408 (1993)

Ito K, Ito Y, Mizuta K, Kojima T, Suzuki T, Miyata H, Watanabe K, Ueno K: Bacteriology of chronic otitis media. Recent Advances in Otitis Media 549-553 (1994)

Kumada T, Banno Y, Miyata H, Nozawa Y: Phosphoinositide hydrolysis in Ki-ras-transformed fibroblasts stimulated by platelet-derived growth factor and bradykinin. Int J Biochem 26, 1049-1054 (1994)

Mori H, Kawamori T, Tanaka T, Ohnishi M, Yamahara J: Chemopreventive effect of costunolide, a constituent of oriental medicine, on azoxymethane-induced intestinal carcinogenesis in rats. Cancer Lett 83, 171-175 (1994)

Tanaka T, Makita H, Ohnishi M, Hirose Y, Wang A, Mori H, Satoh K, Hara A, Ogawa H: Chemoprevention of 4-nitroquinoline 1-oxide-induced oral carcinogenesis by dietary

curcumin and hesperidin: comparison with the protective effect of b-carotene. *Cancer Res* 54, 4653-4659 (1994)

Tanaka T, Kawamori T, Ohnishi M, Okamoto K, Mori H, Hara A: Chemoprevention of 4-nitroquinoline 1-oxide-induced oral carcinogenesis by dietary protocatechuic acid during initiation and posyinitiation phases. *Cancer Res* 54, 2359-2365 (1994)

Ito K, Ito Y, Mizuta K, Ogawa H, Suzuki T, Miyata H, Kato N, Watanabe K, Ueno K: Bacteriology of chronic otitis media, chronic sinusitis, and paranasal mucopyocele in Japan. *Clin Infect Dis* 20, Suppl.2, 214-219 (1995)

Nakashima S, Banno Y, Watanabe T, Nakamura Y, Mizutani T, Sakai H, Zhao Y, Sugimoto Y, Nozawa Y: Deletion and site-directed mutagenesis of EF-hand domain of phospholipase C-d1: effects on its activity. *Biochem Biophys Res Commun* 211, 364-369 (1995)

Kumada T, Nakashima S, Nakamura Y, Miyata H, Nozawa Y: Antigen-mediated phospholipase D activation in rat basophilic leukemia (RBL-2H3) cells: possible involvement of calcium/calmodulin. *Biochem Biophys Acta* 1258, 107-114 (1995)

Nakashima S, Mizutani T, Nakamura Y, Takemura S O, Nakamura M, Miyata H, Katagiri Y, Nozawa Y: Effects of selective phosphodiesterase type IV inhibitor, rolipram, on signal transducing phospholopases in neutrophil: Inhibition of phospholipases A 2, D but not C. *Comp Biochem Physiol* 112C, 137-143 (1995)

Tanaka T, Makita H, Ohnishi M, Mori H, Satoh K, Hara A: Chemoprevention of rat oral carcinogenesis by naturally occurring xanthophylls, astaxanthin and canthaxanthin. *Cancer Res* 55, 4059-4064 (1995)

Tanaka T, Makita H, Ohnishi M, Mori H, Satoh K, Hara A: Inhibition of oral carcinogenesis by the arotinoid mofarotene (Ro 40-8757) in male F344 rats. *Carcinogenesis* 16, 1903-1907 (1995)

Tanaka T, Ohnishi M, Kojima T, Mori H, Satoh K, Hara A: Chemoprevention of N-methyl-N-nitrosourea-induced rat glandular stomach carcinogenesis by a natural product-protocatechuic acid. *The Cancer J* 8, 150-156 (1995)

Kawamori T, Tanaka T, Ohnishi M, Hirose Y, Nakamura Y, Satoh K, Hara A, Mori H: Chemoprevention of azoxymethane-induced colon carcinogenesis by dietary feeding of S-methyl methane thiosulfonate in male F344 rats. *Cancer Res* 55, 4053-4058 (1995)

Makita H, Tanaka T, Ohnishi M, Tamai Y, Torihara M, Yamahara J, Mori H, Satoh K, Hara A: Inhibition of 4-nitroquinoline 1-oxide-induced rat oral carcinogenesis by dietary exposure of a new retinoidal butenolide, KYN-54, during the initiation and post-initiation phases. *Carcinogenesis* 16, 2171-2176 (1995)

Hirose Y, Tanaka T, Kawamori T, Ohnishi M, Makita H, Mori H, Satoh K, Hara A: Chemoprevention of urinary bladder carcinogenesis by the natural phenolic compound protocatechuic acid in rats. *Carcinogenesis* 16, 2337-2342 (1995)

Tanaka T, Kawamori T, Ohnishi M, Makita H, Mori H, Satoh K, Hara A: Suppression of azoxymethane-induced rat colon carcinogenesis by dietary administration of naturally occurring xanthophylls astaxanthin and canthaxanthin during the postinitiation phase. *Carcinogenesis* 16, 2957-2963 (1995)

Ito Y, Corna S, von Brevern M, Bronstein A, Rothwell J, Gresty M: Neck muscle responses to abrupt free fall of the head: comparison of normal with labyrinthine-defective human subjects. *J Physiol* 489, 911-916 (1995)

Nakamura Y, Nakashima S, Banno Y, Ojio K, Miyata H, Nozawa Y: Ceramide inhibits IgE-mediated activation of phospholipase D, but not of phospholipase C, in rat basophilic leukemia (RBL-2H3) cells. *J Immunol* 156, 256-262 (1996)

Kawamori T, Tanaka T, Hirose Y, Ohnishi M, Mori H: Inhibitory effects of d-limonene on the development of colonic aberrant crypt foci induced by azoxymethane in F344 rats. *Carcinogenesis* 17, 369-372 (1996)

Mori H, Ohnishi M, Kawamori T, Sugie S, Tanaka T, Ino N, Kawai K: Toxicity and tumorigenicity of purpurin, a natural hydroxyanthraquinone in rats: induction of bladder neoplasms. *Cancer Lett* 102, 193-198 (1996)

Nakamura Y, Nakashima S, Kumada T, Ojio K, Miyata H, Nozawa Y: Brefeldin A inhibits antigen- or calcium ionophore-mediated but not PMA-induced phospholipase D activation

in rat basophilic leukemia (RBL-2H3) cells. Immunobiology 195, 231-242 (1996)

Kumada T, Nakashima S, Nakamura Y, Miyata H, Nozawa Y: Phenylarsine oxide (PAO)-mediated activation of phospholipase D in rat basophilic leukemia (RBL-2H3) cells: Possible involvement of calcium and protein kinase C. Immunobiology (in press)

Aoki M, Miyata H, Mizuta K, Ito Y: Evidence for the involvement of NMDA receptors in the vestibular compensation. J Ves Res 6, 315-317 (1996)

Aoki M, Mizuta K, Akita S: Sleep apnea syndrome produced by a second branchial cyst. Eur Arch Otorhinolaryngol. (in press)

Ojio K, Banno Y, Nakashima S, Kato N, Watanabe K, Lyerly DM, Miyata H, Nozawa Y: Effect of Clostridium difficile toxin B on IgE receptor-mediated signal transduction in rat basophilic leukemia cells: inhibition of phospholipase D activation. Biochem Biophys Res Commun 224, 591-596 (1996)

Hayakawa MEY, Miyata H: Acoustic neuroma: Diagnostic study in the last 5 years at Otorhinolaryngologic clinic of Gifu University School of Medicine. Brazillian journal of dismorphology and audiology/ speech language pathology (in press)

Ito Y, Gresty M: Shift of subjective reference and visual orientation during slow pitch tilt for the seated human subject. Brain Research Bulletin 40, NOS. 5/6 417-421 (1996)

その他

宮田英雄：読売新聞：医療ルネサンス 600 「健康への指標 - 耳と鼻の病気 6 」 (1994 年 7 月 2 日)

宮田英雄：岐阜新聞：40 回目迎えた耳の日 - 宮田英雄岐阜大医学部教授に聞く (1995 年 3 月 3 日)

宮田英雄：岐阜新聞：耳の日座談会 「専門医が疾患や治療アドバイス」 (1996 年 3 月 2 日)

宮田英雄：日本短波放送：医学講座 「スポーツと平衡機能」 (1994 年 1 月 26 日)

宮田英雄：岐阜放送 (ラジオ)：今小町発ナイスデイ 「あのじん・このじん・とっておきの

話 - 花粉症について」(1995年2月20日)

水田啓介:岐阜新聞:耳の日座談会「専門医が疾患や治療アドバイス」(1996年3月2日)

皮膚科学講座

著書 (和文)

森 俊二：MCTD, 皮膚疾患最新の治療 '93 - '94. 西山茂夫編, 東京,南江堂, 1993. 69

北島康雄：色素性乾皮症, 皮膚疾患最新の治療 '93 - '94. 西山茂夫・堀 嘉明編, 東京,南江堂, 1993. 138

北島康雄：汗疹 - 汗腺膿瘍 -, 今日の小児治療指針, 10 版. 堀 嘉之他編, 東京,医学書院, 1993. 577

前田 学：Bloom 症候群, 日本臨床, 領域別症候群シリーズ 2 版. 東京, 1993. 380-382

前田 学：職業関連性自己免疫疾患, アレルギー, 産業の場からのアプローチ. 田中健一編, 東京, 金芳堂, 1993. 267-277

清島真理子, 森 俊二, 野沢義則：ブラジキニンレセプター, 基礎と臨床, レセプター. 東京, 朝倉書店, 1993 . 557-561

北島康雄：魚鱗癬, 今日の治療指針 '94. 日野重明・阿部正和監修, 東京,医学書院, 1994. 617

前田 学：強皮症, 皮膚科の病名ア・ラ・カルト. 西山茂夫監修, 東京, 協和企画通信, 1994. 38-39

北島康雄：後天性魚鱗癬, 老年病診療 Q & A, 23. 小沢利夫他企画, 東京, 六法出版, 1995. 122-123

北島康雄：毛孔性苔癬, 今日の治療指針'95. 日野重明・阿部正和監修, 東京,医学書院, 1995. 632

北島康雄：魚鱗癬, 皮膚疾患最新の治療'95-'96.西山茂夫・堀 嘉明編, 東京,南江堂, 1995. 119

北島康雄：細胞骨格, 皮膚科キーワード. 塩原哲夫・宮地良樹編, 東京,医学書院, 1995. 92

北島康雄：細胞外マトリックス, 皮膚科キーワード. 塩原哲夫・宮地良樹編, 東京, 医学書院, 1995. 93

北島康雄：細胞骨格と細胞接着の構造・機能とその異常としての皮膚疾患, 分子医科シリーズ, 2, 細胞：構造と機能. 月田承一郎編, 東京, メディカルビュー社, 1996. 89-116

北島康雄：紛らわしい自己免疫性水疱症, 誤りやすい皮膚病変 (追補). 西山茂夫・本田光芳・山本一哉監修, 東京, メジカルビュー社, 1996. 206-209

北島康雄：免疫組織化学検査, 今日の皮膚疾患治療指針. 池田重男編, 東京, 医学書院, 1996. 93-96

北島康雄：腫瘍診断に用いられる抗体, 今日の皮膚疾患治療指針. 池田重男編, 東京, 医学書院, 1996. 138-139

北島康雄：皮膚アミロイドーシス, 今日の診断指針. 亀山正邦他編, 東京, 医学書院, 1996. (印刷中)

前田 学：皮膚潰瘍, III-1a 保存的療法 - 薬物療法. 吉川邦彦監修, 東京, 医事出版, 1996. 87-96

前田 学：お血と皮膚科疾患 - レーダーグラフ (渡邊) を用いた検討. 東京, 緑書房, 1996. 102

前田 学：Raynaud 現象 (症状), 皮膚疾患最新の治療 '95 - '96. 西山茂夫・堀 嘉明編, 東京, 南江堂, 1996. (印刷中)

前田 学：凍瘡, 漢方治療指針. 京都, 緑書房, 1996. (印刷中)

前田 学：凍瘡, 漢方治療指針. 京都, 緑書房, 1996. (印刷中)

前田 学：酒, 漢方治療指針. 京都, 緑書房, 1996. (印刷中)

高木 肇, 可知久代, 前田 学, 北島康雄：乾癬患者の播種状紅斑丘疹型薬疹, 診療と治療. 東京, 診断と治療社, 1996. (印刷中)

高木 肇, 前田 学, 北島康雄, 山田俊樹: 抗腫瘍剤による表皮壊死を伴った薬疹, 療と治療. 東京, 診断と治療社, 1996. (印刷中)

中谷明美: Lymphomatoid granulomatosis, 今日の皮膚疾患治療指針, 2 版. 池田重雄他編, 東京, 医学書院, 1996. (印刷中)

著書 (欧文)

Kitajima Y, Owaribe K, Hirako Y, Owada MK, Yaoita Y: Regulation of hemidesmosomes: the mechanisms for the assembly of the 230 KDa and 180 KDa bullous pemphigoid antigens at dermal-epidermal junctions, *Electron Microscopy in Dermatol Basic & Clinical Res*, (eds Ishibashi Y, Nakagawa H, Suzuki H). Elsevier Sci BV, Netherland 1994. 111-120

Maeda M, Mori S: Clinical features of systemic scleroderma and differentiation in collagen diseases, *Pathogenesis and management of scleroderma and connective tissue disorders*, (eds Nishioka K, Kreig T). Seinoh Press, Gifu, 1994. 85-88

Kitajima Y, Nozawa Y: Lipids of and dimorphism of *Candida albicans* and *Sporothrix schenckii*, *Lipid of Pathogenic Fungi*, (ed R Parasad). CRC Press Inc, London, 1996. 219-233

総説 (和文)

北島康雄: 表皮角化細胞の細胞骨格と細胞接着. *皮膚科の臨床* 35, 1177-1186 (1993)

北島康雄: フリーズレプリカ電顕; 生体膜接着構造, 膜脂質の解析と免疫電顕. *日皮会誌* 103, 1675-1678 (1993)

北島康雄: ケラチノサイトのオーバービューとデスモソーム, ヘミデスモソーム. *日皮会誌* 103, 1595-1604 (1993)

前田 学: 全身性強皮症の最近の概念と症状・診断. *日皮会誌* 103(12), 1549-1553 (1993)

北島康雄: 角化機序. *皮膚科専門医テキスト '92 年度*, 95-119 (1994)

北島康雄: 合成ステロイドホルモンー皮膚科領域. *日本臨床* 52(3), 754-759 (1994)

前田 学: 強皮症. *現代東洋医学* 15(1) (臨増); 難病・難症の漢方治療第 6 集, 25-28 (1994)

前田 学：全身性強皮症の最近の概念と症状・診断. 日本医事新報 3647, 25-28 (1994)

北島康雄：表皮細胞接着構造と抗接着分子抗体による表皮剥離. 医学のあゆみ 174, 95-99 (1995)

北島康雄：水疱症の発症機構—天疱瘡と類天疱瘡. 皮膚病診療 17(11), 1024-1028 (1995)

北島康雄：自己免疫水疱症. 日本医事新報ジュニア版 347, 3-7 (1995)

北島康雄：皮膚に生じる水疱の構造とその形成機序. 岐阜県医師会雑誌 8, 3-8 (1995)

北島康雄：細胞接着の制御からみた角化機序とシグナル伝達. 第10回角化症研究会記録集, 102-106 (1995)

前田 学：全身性強皮症とシェーグレン症候群における諸問題 - 果たして原発性シェーグレン症候群やレイノー病は存在するのか. 皮膚病診療 17(4), 338-344 (1995)

北島康雄：先天性表皮水疱症. 皮膚科の臨床 38, 53-60 (1996)

北島康雄：表皮と角膜のケラチン発現. あたらしい眼科 13(3), 345-350 (1996)

北島康雄：単純型先天性表皮水疱症. Molecular Medicine 33 (臨増; 遺伝子マニュアル), 372-373 (1996)

北島康雄：表皮ケラチンの分子病理. 第24回日本医学総会会誌, 394-395 (1996)

総説 (欧文・国外)

Kitajima Y, Hirako Y, Owaribe K, Yaoita H: A possible cell-biologic mechanism involved in blister formation of bullous pemphigoid; anti-180-kD BPA antibody is an initiator. *Dermatology* 189 (suppl 1), 46-49 (1994)

原著 (和文)

森 俊二：強皮症の皮膚症状 - 特に末梢循環障害について. *Therapeutic Research* 14(5), 2044-2057 (1993)

森 俊二, 前田 学, 松原勝利：本邦臨床統計集 (下巻) X 膠原病, 免疫異常 - 汎発性強皮

症. 日本臨床 51(臨増), 527-534 (1993)

森 俊二：強皮症の 20 年, 日皮会誌 103, 1511-1521 (1993)

森 俊二：耳鼻咽喉科と皮膚疾患 - 耳朶の皮膚病と掌蹠膿疱症について. 耳報, 13-21 (1993)

藤広満智子, 森 俊二：塩酸ブテナフィンクリーム of 表在性白癬に対する臨床的有用性の検討. 新薬と臨床 42(4), 110-116 (1993)

米田和史, 森 俊二, 兼松 勲, 平泉泰久, 近藤富雄：皮膚骨腫を伴った偽性副甲状腺機能低下症の 1 例. 臨皮 47(2), 181-184 (1993)

坂 昌範, 米田和史, 森 俊二：老人性角化腫の臨床的および病理組織学的研究. 岐阜大医紀 41(6), 935-965 (1993)

市橋直樹, 森 俊二, 高見 剛：パラフィン切片での NOR 銀染色と免疫染色の二重染色の有用性—皮膚悪性リンパ腫に関して. 皮膚のリンフォーマ XII, 88-91 (1993)

柳原 誠, 福嶋信夫, 森 俊二：結節性紅斑に認められる異物性肉芽腫—特に肉芽腫形成と membranocystic lesion (那須) の関係について. 静脈学 4(2), 255-259 (1993)

柳原 誠, 南波 正, 中谷明美, 森 俊二, 清水梅次, 北沢克明, 星井嘉信, 内野文弥：斑状アミロイドーシスを伴った全身性アミロイドーシス - 斑状アミロイドーシス病変部における抗ケラチン抗体陽性アミロイド物質と抗アミロイド k 抗体陽性アミロイド物質の分布について. 臨皮 47(8), 641-645 (1993)

坂 昌範, 柳原 誠：外足縁に生じた Intravascular papillary endothelial hyperplasia の 1 例. 羽島市民病院紀要 2, 117-121 (1993)

南波 正, 柳原 誠：アミロイド苔癬および斑状アミロイドーシスにおける細胞質内均一小体の組織学的研究. 岐阜大紀要 41(6), 910-934 (1993)

山崎直也, 柳原 誠, 前田 学, 森 俊二：朱色刺青部に硬化性萎縮性苔癬 - 黒色刺青部に半米大扁平丘疹の発症をみた 1 例. 臨皮 47(8), 663-666 (1993)

後藤裕子, 柳原 誠, 浦田裕次, 加藤司津子, 森 俊二: 環状肉芽腫の定型疹の中央に皮下型環状肉芽腫をみた 1 例. 臨皮 46(10), 793-797 (1993)

中谷明美, 柳原 誠, 森 俊二: 皮膚筋炎—臨床所見を中心として. 臨皮 47, 841-846 (1993)

久野由恵, 渡部裕子, 渡辺久代, 柳原 誠, 森 俊二, 伊藤 隆: H1-blocker および H2-blocker の併用療法が奏効した局所性温熱蕁麻疹の 1 例. 臨皮 47(13), 1199-1202 (1993)

岡 恵子, キョン チンファイ, 斉藤文雄, 野本雅弘, 勝俣道夫, 野崎清恵, 佐々部正孝, 柳原誠: 蛍光顕微鏡所見が有用であったアミロイド苔癬. 西日皮膚 55(2), 270-274 (1993)

加藤幸広, 奥田 孝, 佐木宏吉, 松野充康, 兵庫 巖, 坂本 積, 市原秀記, 奥村康明, 安岡忠, 立松憲規, 岡 信光, 柳原 誠: 尋常性天疱瘡に対する漢方使用経験. 漢方診療 12(6), 17-22 (1993)

前田 学, 牛丸泰久: 岐阜県の一内科医院における過去 5 年間 (1987-1991) の白癬菌相について. 岐阜大医紀 41(2), 585-586 (1993)

前田 学: 各種膠原病患者における お血病態の検討 - “お血”スコアを用いた解析. 日本東洋医学学会誌 44(1), 25-30 (1993)

前田 学: Bloom 症候群. 日本臨床 (領域別症候群シリーズ No.2), 380-382 (1993)

前田 学: Bloom 症候群. 小児科診療 56(臨増), 252 (1993)

前田 学: 酒様皮膚炎. 日本医師会雑誌 110(14), RK285-RK288 (1993)

藤広満智子, 高木 肇, 前田 学, 尾関俊彦, 南波 正: 揖斐総合病院皮膚科における 6 年間の白癬菌相. 西日皮膚 55(4), 718-726 (1993)

川瀬晴美, 平野真理子, 高木真美子, 野間昭夫, 前田 学, 森 俊二, 大橋宏重: 全身性進行性強皮症 (PSS) にみられる心室不整脈の携帯型心電計による検討. 臨床病理 41(11), 1271-1274 (1993)

清島真理子, 柳原 誠, 森 俊二: 小児に発症した硬化性萎縮性苔癬. 臨皮 47(2), 139-142

(1993)

清島真理子：臨床医からみた新薬の評価；皮膚疾患に用いる新薬 - シクロスポリン. 臨床と薬物治療 12(3), 431-433 (1993)

清島真理子, 尾関俊彦, 森 俊二, 安田一郎, 高橋 健, 武藤泰敏：AB triple V 療法が特異疹に対して有効であった急性骨髄性白血病の 1 例. 日皮会誌 103(4), 521-525 (1993)

清島真理子, 川合美里, 森 俊二, 高橋 健, 武藤泰敏：Pruritic papular eruption が診断のきっかけとなった HIV 感染症の 1 例. 日皮会誌 103(7), 963-968 (1993)

清島真理子, 市橋直樹, 柳原 誠, 森 俊二, 高橋 健, 武藤泰敏：HIV 感染患者にみられた pruritic papular eruption の組織学的検討. 日皮会誌 103(9), 1171-1177 (1993)

中谷明美, 清島真理子, 柳原 誠, 森 俊二, 玉舎輝彦, 川鱈市郎：二卵性双生児妊娠中に発症した pruritic urticarial papules and plaques of pregnancy (PUPPP) の 1 例. 皮膚臨床 35(3), 479-483 (1993)

青山裕美, 清島真理子, 米田和史, 柳原 誠, 森 俊二, 山本明史：乾癬治療中に lentigo maligna を含む多彩な色素斑を生じた尋常性乾癬の 1 例. Skin Cancer 8(1), 121-125 (1993)

青山裕美, 清島真理子, 森 俊二, 野沢義則：ヒト表皮細胞における PMA およびカルシウム刺激時の C キナーゼアイソザイムの変化. 第 8 回角化症研究会記録集, 39-41 (1993)

長田和子, 清島真理子, 森 俊二, 柳原 誠：炎症性線状疣状表皮母斑と尋常性乾癬の組織学的検討. 第 8 回角化症研究会記録集, 57-59 (1993)

黒須まゆみ, 清島真理子, 森 俊二：Parakeratosis variegata の 2 例. 皮膚 35(1), 43-46 (1993)

黒須まゆみ, 清島真理子, 森 俊二：Poroid hidradenoma. 西日皮膚 55(3), 445-449 (1993)

黒須まゆみ, 清島真理子, 森 俊二, 諏訪哲也, 森田浩之, 武田則之：サルコイドーシスを合併した強皮症の 1 例. 臨皮 47(13), 1191-1194 (1993)

広瀬美知代, 清島真理子, 森 俊二: 点状汗孔角化症の 1 例. 皮膚 35(1), 37-42 (1993)

野田徳朗, 市来善郎, 鹿野由紀子, 前田 学, 森 俊二, 宇田川俊一: Aspergillus niger が病原菌と考えられた爪真菌症の 1 例. 真菌誌 34(4), 445-449 (1993)

粕田晴之, 北島康雄, 豊田雅司, 西田健一: 老人ホームにおける疥癬の発生 - 施設内感染の経験と栃木県内の施設におけるアンケート調査. 日環感 9(3), 38-43 (1994)

前田 学: 小柴胡湯と桂枝茯苓丸の併用が有効であった成人型アトピー性皮膚炎の男性例. 漢方診療 13(1), 19-21 (1994)

前田 学, 青山裕美, 松原勝利, 山田孝宏, 森 俊二: 全身性強皮症と色素脱失. 皮膚病診療 16(5), 397-400 (1994)

前田 学, 森 俊二, 竹原和彦, 相馬良直, 石橋康正: 全身性強皮症患者の皮膚硬化判定に対する皮膚高度計 (デルマセレン) の有用性について. Ther Res 15(8), 3299-3315 (1994)

前田 学, 長谷川核三, 清島真理子, 野田徳朗, 森 俊二, 大谷道広, 米田和史, 山本明史, 坂 昌範, 桑原まゆみ, 塩谷孝博, 中島智子: 湿疹皮膚炎に対する 0.05% Diflupred-nate lotion の有用性の検討. 西日皮膚 56(6), 1221-1229 (1994)

鹿野由紀子, 前田 学, 市来善郎, 森 俊二: 岐阜市近郊の一地域住民における強皮症の疫学調査. 西日皮膚 56(6), 1192-1199 (1994)

渡部裕子, 前田 学: 全身性強皮症における爪郭部毛細血管顕微鏡所見の検討. 岐阜大医紀要 42(1), 31-47 (1994)

松原勝利, 前田 学, 森 俊二: 岐阜大学皮膚科における抗セントロメア抗体陽性者の統計学的解析. 西日皮膚 56, 1024-1027 (1994)

竹原和彦, 佐々木哲雄, 伝宝憲一, 前田 学, 森 俊二: 強皮症におけるレイノー現象に対するウラピジルの臨床的有用性の検討. 西日皮膚 56(1), 143-149 (1994)

清島真理子, 渡部裕子, 柳原 誠, 森 俊二, 中谷明美, 井奈波こと, 川合美里, 野尻麻里, 長田和子, 大谷道広, 山本明史, 坂 昌範, 藤広満智子, 桑原まゆみ, 浦田裕次, 福嶋信夫, 南波 正, 中島智子, 塩谷孝博: 皮膚科領域における各種細菌感染症に対する Cefpodoxime

proxetil の有用性の検討. 皮膚 36, 534-542 (1994)

青山裕美, 清島真理子, 森 俊二, 柳原 誠, 山本明史, 米田和史: 光線療法中に lentigo maligna を多発した尋常性乾癬. 皮膚病診療 16, 125-128 (1994)

青山裕美, 清島真理子, 北島康雄: インターフェロナー 投与中にみられたシメチジンによる薬疹. 皮膚 36, 785-789 (1994)

川合美里, 清島真理子, 柳原 誠, 森 俊二, 北島康雄: 糖尿病に合併したサルコイドーシスの 1 例. 臨皮 48, 795-789 (1994)

江崎智香子, 長谷川核三, 清島真理子, 森 俊二: 水疱性類天疱瘡に合併したノルウェー疥癬の 1 例. 臨皮 48, 779-782 (1994)

長田和子, 清島真理子, 森 俊二: 右大脳萎縮を伴い左半身に生じた Incontinentia pigmenti achromians (Ito) の 1 例. 皮膚 36, 309-312 (1994)

長田和子, 清島真理子, 森 俊二: 岐阜大学皮膚科における black heel. 皮膚 36, 493-498 (1994)

井上稲子, 清島真理子, 前田 学, 森 俊二, 藤広満智子, 鹿野由紀子: 最近 14 年間の岐阜大学皮膚科におけるケルスス禿瘡. 西日皮膚 56, 300-304 (1994)

井上稲子, 清島真理子, 前田 学, 森 俊二, 藤広満智子: 岐阜大学皮膚科における最近 10 年間のスポロトリコーシスの統計的観察. 皮膚 36, 262-268 (1994)

井上稲子, ファリバ ミルボド, 清島真理子, 森 俊二, 野沢義則: Cryptococcus neoformans の増殖過程における脂質生合成に関する研究. 日本医真菌学会誌 35, 421-427 (1994)

藤沢百合子, 長田和子, 清島真理子, 前田 学, 森 俊二: 顔面に生じた異型白癬の 1 例. 皮膚臨床 36(1), 1503-1506 (1994)

三輪佳行, 中村憲昭, 鶴見 寿, 森脇泰敏, 武藤泰敏, 清島真理子: 顔面蝶型紅斑様皮疹を呈した亜急性壊死性リンパ節炎の 1 例. 岐阜県内科医会雑誌 8, 11-14 (1994)

野田徳朗, 奥村 哲, 鹿野由紀子, 前田 学, 森 俊二, 宇田川俊一 : Scedosporium apiospermum 皮膚感染症の 1 例 - 稀ではあるが典型的な皮膚真菌症. 第 37 回日本医真菌学会総会組織委員会, 97-100 (1994)

野田徳朗, 青山裕美, 鹿野由紀子, 前田 学, 森 俊二 : 多彩な全身症状を呈したシェーグレン症候群 - Provost 型と思われた 1 例. 西日皮膚 56, 694-697 (1994)

野田徳朗, 上西 宏, 五島秀行, 前田 学, 森 俊二 : 偽膜性腸炎の合併をみた汎発性強皮症の 1 例. 臨皮 48, 879-881 (1994)

野田徳朗, 池田庸子, 宇田川俊一 : アルテルナリア症の 1 例. 皮膚 36, 1547-1550 (1994)

神谷秀喜, 小山田 亮, 米田和史, 大原國章 : 進行期乳房外 Paget 病の臨床的検討およびケラチン発現の免疫組織化学的研究. 岐阜大医紀要 42(2), 256-269 (1994)

神谷秀喜, 鄭 憲, 大原國章, 南光弘子 : Blepharochalasis の 2 例. 皮膚臨床 36(4), 503-508 (1994)

野尻麻里, 長田和子, 近藤雅子, 神谷秀喜, 清島真理子, 森 俊二, 米田和史 : 胃癌を合併した Angiosarcoma の 1 例. Skin Cancer 9(3), 291-294 (1994)

中谷明美, 柳原 誠, 森 俊二 : 皮膚筋炎の皮疹部および筋肉の電子顕微鏡的観察. 岐阜大医紀要 42, 57-77 (1994)

前田 学, 藤広満智子 : ニコチン酸アミド欠乏症 (ペラグラ) の皮膚病変. 診療と治療 83(2), 285-288 (1995)

前田 学, 福嶋信夫 : 黄連解毒湯と四物湯の併用が有効であった紅皮症の男性例. 漢方診断 14(3), 19-21 (1995)

前田 学, 松原勝利, 可知久代, 森 俊二, 北島康雄 : 全身性強皮症とプロスタサイクリン製剤 (Beraprost Sodium) - 副作用発現の背景の検討. 西日皮膚 57(4), 825-828 (1995)

前田 学 (強皮症フォトフェレーシス研究班) : 全国多施設における全身性強皮症(PSS)患者に対するフォトフェレーシス・システム (体外循環光化学療法) の治療経験. 西日皮膚 57(1), 127-135 (1995)

前田 学, 松原勝利, 可知久代, 北島康雄: 全身性強皮症にみられた指端潰瘍. 皮膚病診療 17(1), 45-48 (1995)

前田 学, 野田徳朗, 森 俊二, 北島康雄, 沢村治樹, 鹿野由紀子: 岐阜大学における最近 2 年間 (1991-1992 年) の白癬患者 - 10 年前との比較検討. 真菌誌 36(3), 265-270 (1995)

坂 昌範, 前田 学, 藤広満智子: 生毛部急性深在性白癬 - 限局性白癬性肉芽腫を疑った 1 例. 西日皮膚 57(5), 1014-1017 (1995)

松原勝利, 前田 学, 北島康雄, 森 俊二: 岐阜県下における最近 5 年間 (1987~1991 年度) の特定疾患診断書に基づいた全身性強皮症患者 296 例の臨床経過と予後調査. 日皮会誌 105(1), 21-30 (1995)

松原勝利, 前田 学, 森 俊二, 北島康雄: 多施設から膠原病ケースカードの解析 - 診断基準作成のために. 臨皮 49(4), 297-301 (1995)

松原勝利, 前田 学, 森 俊二, 北島康雄: 岐阜県における全身性強皮症認定者の疫学調査. 臨皮 49(4), 309-312 (1995)

可知久代, 松原勝利, 前田 学, 森 俊二, 北島康雄: パルス療法が有効であった全身性強皮症 (PSS) 男児例. 西日皮膚 57(2), 235-240 (1995)

清島真理子, 市橋直樹, 森 俊二, 大谷道広, 井奈波こと, 柳原 誠, 兼松 勲, 山本明史, 藤広満智子, 福嶋信夫, 浦田裕次, 桑原まゆみ, 塩谷孝博, 坂 昌範, 南波 正, 鷲見烈: 各種皮膚潰瘍に対するトレチノイントコフェリル軟膏 (オルセノン軟膏 R) の有用性の検討. 西日皮膚 57, 120-126 (1995)

清島真理子, 井上稲子, 長田和子, 北島康雄: *Trichophyton rubrum* 細胞内カルシウム濃度に対する抗真菌剤イトラコナゾールの影響. 第 1 回 Dermatological Mycology Club 例会記録集, 106-112 (1995)

江崎智香子, 清島真理子, 北島康雄, 森 俊二: 軟 X 線による家族性良性慢性天疱瘡の治療. 日皮会誌 105, 1851-1856 (1995)

川合美里, 南波 正, 清島真理子, 森 俊二, 北島康雄: ペニシリン製剤により誘発された

汎発性膿疱性乾癬の 1 例. 臨皮 49, 803-805 (1995)

秋山朋子, 清島真理子, 北島康雄: 単純疱疹ウイルスが関係した急性苔癬状痘瘡状秕糠疹.
臨皮 49, 809-811 (1995)

野田徳朗, 上西 宏: 骨欠損を伴った爪甲下類上皮嚢腫の 1 例. 臨皮 49(11), 876-878
(1995)

野田徳朗, 森 俊二, 加藤浩樹, 梅本敬夫, 佐治重慶: 尿膜乾嚢腫の 1 例. 臨皮 9(3), 244-
246 (1995)

米田和史, 長谷川核三, 野田徳朗, 森 俊二, 山本明史, 鈴木雅雄: 胃癌を合併したポーエン
病の 4 例. Skin Cancer 10(2), 23-27 (1995)

長谷川核三, 野田徳朗, 浦田裕次, 柳原 誠, 高橋 健: 類白血病反応を呈した多型侵出性
紅斑. 西日皮膚 57(2), 226-229 (1995)

市原美里, 高橋法子, 黒須まゆみ, 野田徳朗, 清島真理子, 北島康雄, 松村都江, 橋本 隆:
抗基底膜部抗体, 抗表皮細胞間抗体がともに陽性であった自己免疫性水疱症の 1 例. 日皮
会誌 105, 1857-1862 (1995)

市橋直樹, 小石まゆみ, 神谷秀喜, 前田 学, 北島康雄, 森 俊二: Granuloma telan-
giectaticum の退縮過程. 日本皮膚病理学会誌 10(1), 62-65 (1995)

長田和子, 清島真理子, 秋山朋子, 中谷明美, 北島康雄: ミノサイクリン内服が有効であっ
た鱗状毛包性角化症の 1 例. 第 10 回角化症研究会記録集, 95-97 (1995)

井上稲子, 市来善郎, 清島真理子, 森 俊二, 柳原 誠: 妊娠のたびに環状紅斑が多発した
2 例. 臨皮 49, 595-598 (1995)

南波 正, 井上稲子, 小山田 亮, 高木 肇, 北島康雄, 柳原 誠, 馬淵愷之: 足背に生じた
多発性ポーエン病の 1 例. 皮膚科の臨床 37(9), 1494-1495 (1995)

小石まゆみ, 井上稲子, 松原勝利, 清島真理子, 前田 学, 北島康雄, 森 俊二, 市橋直樹:
小児の全身性强皮症. 皮膚病診療 17(5), 445-448 (1995)

山田孝宏, 大谷道広, 和泉智子, 北島康雄 : Malignant clear cell hidroacanthoma simplex の 1 例. 日本皮膚病理組織学会誌, (1996) (印刷中)

前田 学, 北島康雄 : 生毛部急性深在性白癬と異型白癬 (顔面) の合併例. 皮膚臨床 38(1), 17-20 (1996)

前田 学 : 皮膚科疾患と加味逍遙散 - レーダーグラフ (渡邊) を用いた検討. 現代東洋医学 17(1), 51-56 (1996)

坂 昌範, 前田 学 : Lupus erythematosus profundus の 1 例. 臨皮, (1996) (印刷中)

秋山朋子, 清島真理子, 北島康雄 : 全身性強皮症に合併した環状肉芽腫. 臨皮 50, 47- 49 (1996)

佐藤史歩, 清島真理子, 秋山朋子, 野尻麻里, 山田孝宏, 小山田 亮, 北島康雄 : 二重濾過血漿交換療法でコントロールできた落葉状天疱瘡の 1 例. 皮膚科の臨床 38(1), 359- 362 (1996)

野尻麻里, 清島真理子, 北島康雄, 若松健一 : 職業性接触皮膚炎 - 洗浄用溶剤 SC-51 による接触皮膚炎. 日皮会誌 106(2), 139-142 (1996)

山田孝宏, 大谷道広, 清島真理子, 北島康雄 : Neumann 型増殖性天疱瘡の 1 例. 臨皮, (1996) (印刷中)

和泉智子, 野田徳朗, 舟橋美雪, 井上稲子, 神谷秀喜, 北島康雄, 浦田裕次 : レックリングハウゼン病にみられた巨大神経線維腫の切除術における Argon beam coagulator の使用例. 臨皮, (1996) (印刷中)

岩崎愛彦, 野田徳朗, 前田 学, 北島康雄, 平岡実子 : IgA 腎症, 皮膚筋炎を伴った小児全身性エリテマトーデスの 1 例. 臨皮 50(1), 43-45 (1996)

広瀬美知代, 市橋直樹, 神谷秀喜, 北島康雄 : 皮疹を初発とした急性単球性白血病の 1 例. 皮膚のリンホーマ, (1996) (印刷中)

佐藤史歩, 神谷秀喜, 中谷明美, 松原勝利, 北島康雄 : 爪下外骨腫の 3 例. 皮膚科の臨床 38(1), 175-178 (1996)

長田和子, 清島真理子, 秋山朋子, 中谷明美, 和泉智子, 北島康雄: ミノサイクリン内服とビタミン D3 外用が有効であった鱗状毛包性角化症の 1 例. 臨皮 50, 275-277 (1996)

佐藤美貴, 長田和子, 中谷明美, 神谷秀喜, 清島真理子, 北島康雄: 腫瘤型を示した進行期乳房外パジェット病の 1 例. Skin Cancer 11(1), 115-118 (1996)

佐藤美貴, 長田和子, 神谷秀喜, 北島康雄: 下腿に有茎性腫瘤を生じた基底細胞上皮腫の 1 例. 皮膚 38(2), 233-237 (1996)

井上稲子, 清島真理子, 北島康雄: 抗真菌剤による *Trichophyton rubrum* 細胞内カルシウム濃度の変化. 第 2 回 Dermatological Mycology Club 例会記録集, 105-111 (1996)

井上稲子, 小石まゆみ, 北島康雄: 足蹠および口腔内に限局した扁平苔癬の 1 例. 臨皮, (1996) (印刷中)

原著 (欧文・国内)

Ban M, Yoneda K, Yanagihara M, Mori S, Seko T: A case of superficial spreading melanoma in situ 2.5mm in diameter. J Dermatol 20(7), 432-435 (1993)

Kitajima Y, Suzuki M, Yaoita H: Localized bullous pemphigoid: Report of a case with an immunofluorescence and electron microscopical studies of the lesional distribution of 180-kD bullous pemphigoid antigen, $\alpha 4$ integrin, and type VII collagen. J Dermatol 20(7), 406-410 (1993)

Maeda M, Matsubara K, Hirano H, Watabe H, Ichiki Y, Mori S: Pitting scars in progressive systemic sclerosis. Dermatol 187, 104-108 (1993)

Yoneda K, Mori S, Takemura M, Noma A, Yamamoto A: Intercellular adhesion molecule-1 on cultured human melanoma cells: Influence of cytokines. J Dermatol 20(3), 144-150 (1993)

Kitajima Y, Hirako Y, Owaribe K, Mori S, Yaoita H: Antibody-binding to the 180-KD bullous pemphigoid antigens at the lateral cell surface causes their internalization and inhibits their assembly at the basal cell surface in cultured keratinocytes. J Dermatol 21, 838-846 (1994)

Saito A, Osada A, Kitajima Y, Furue M, Tamaki K: Interferon- γ -induced HLA-DR, but not

ICAM-1, expression of human keratinocytes is down-regulated by calmodulin antagonist. *J Dermatol* 21, 716-719 (1994)

Maeda M: A case of generalized lichen nitidus with Koebner's phenomenon. *J Dermatol* 21(4), 273-277 (1994)

Mirbod F, Nakashima S, Mori S, Kitajima Y, Nozawa Y: Phospholipid biosynthesis in growing and non-growing conditions in *Candida albicans*. *Jpn J Med Mycology* 36, 53-59 (1995)

Maeda M, Matsubara K, Kachi H, Mori S, Kitajima Y: Histopathological and capillaroscopic features of the cuticles and bleeding clots in ring or middle fingers of systemic sclerosis patients. *J Dermatol Sci* 10, 35-41 (1995)

Ban M, Ohtani M, Seishima M: A case of secondary syphilis with mucous patches on the hard palate. *J Dermatol* 22, 52-54 (1995)

Ichihashi N, Seishima M, Takahashi T, Muto Y, Kitajima Y: A case of AIDS manifesting pruritic papular eruptions and psoriasiform lesions; an immunohistochemical study of the lesional dermal infiltrates. *J Dermatol* 22, 428-433 (1995)

Aoyama Y, Seishima M, Mori S, Kitajima Y, Okano Y, Nozawa Y: Involvement of protein kinase C in bradykinin-induced intracellular calcium increase in primary cultured human keratinocytes. *J Dermatol Sci* 9, 111-116 (1995)

Akiyama T, Seishima M, Watanabe H, Nakatani A, Mori S, Kitajima Y: The relationship of onset and exacerbation of pustulosis palmaris et plantaris to smoking and focal infection. *J Dermatol* 22, 930-934 (1995)

Osada K, Seishima M, Kitajima Y, Yaoita H, Mori S: Decreased integrin α_2 , but not normal response to TGF- β in scleroderma fibroblasts. *J Dermatol Sci* 9, 169-175 (1995)

Maeda M, Kachi H, Mori S: Plasma levels of molecular markers of blood coagulation and fibrinolysis in progressive systemic sclerosis (PSS). *J Dermatol Sci* 11(3), 223-227 (1996)

Maeda M, Kachi H, Matsubara K, Mori S, Kitajima Y: Pigmentation abnormalities in systemic sclerosis examined by using a colorimeter (chromometer CR-200). *J Dermatol Sci* 11(3),

228-233 (1996)

Maeda M, Kachi H, Kitajima Y: Circadian variations of plasma levels of blood coagulation-fibrinolysis molecular markers in progressive systemic sclerosis(PSS). *J Dermatol Sci*, (1996) (in press)

Inoue I, Seishima M, Osada K, Kitajima Y: Different effects of antifungal agents on the regulation of intracellular calcium concentration of *Trichophyton rubrum*. *J Dermatol Sci*, (1996) (in press)

原著 (欧文・国外)

Fariba M, Mori S, Nozawa Y: Method for phospholipid extraction in *Candida albicans* an extraction method with high efficacy. *J Medical & Veterinary Mycology* 31, 405-409 (1993)

Nagata C, Yoshida H, Mirbod SM, Komura Y, Fujita S, Inaba R, Maeda M, Shikano Y, Ichiki Y, Mori S: Cutaneous signs (Raynaud's phenomenon, sclerodactylia, and edema of the hands) and hand-arm vibration exposure. *Int Arch Occup Environ* 64, 587-591 (1993)

Inaba R, Maeda M, Fujita S, Kashiki N, Komura Y, Nagata C, Yoshida H, Mirbod SM, Iwata H, Shikano Y, Mori S: Prevalence of Raynaud's phenomenon and specific clinical signs related to progressive systemic sclerosis in the general population of Japan. *Int J Dermatol* 32(9), 652-655 (1993)

Seishima M, Takagi H, Mori S, Nozawa Y: Ganglioside-induced terminal differentiation of human keratinocytes: early biochemical events in signal transduction. *Arch Dermatol Res* 285, 397-401 (1993)

Suzuki M, Harada S, Kanazawa K, Kitajima Y, Yaoita H: Relationship between antigens and IgG subclasses in bullous pemphigoid. *Autoimmunity* 18, 217-225 (1994)

Seishima M, Seishima M, Mori S, Noma A: Serum lipid and apolipoprotein levels in patients with psoriasis. *Br J Dermatol* 130, 738-742 (1994)

Osada K, Seishima M, Mori S, Seishima M, Takemura M, Noma A: Etretinate administration reduces serum propeptide of type procollagen level in patients with psoriasis. *Br J Dermatol* 131, 655-659 (1994)

Ozeki T, Osada K, Seishima M, Mori S, Nozawa Y: Decreased bradykinin binding sites in fibroblasts from progressive systemic scleroderma. *Arch Dermatol Res* 286, 133-136 (1994)

Falanga V, Takagi H, Ceballos PI, Pardes JB: Low oxygen tension decreases receptor binding of peptide growth factors in dermal fibroblast cultures. *Exp Cell Res* 213, 80-84 (1994)

Kitajima Y, Owada MK, Fujisawa Y, Seishima M, Yaoita H, Hirako Y, Owaribe K: A hemidesmosomal transmembrane collagenous molecule, the 180-kDa bullous pemphigoid antigen (BPA2), is phosphorylated with 12-O-tetradecanoylphorbol-13-acetate in a human squamous cell carcinoma cell line (DJM-1). *Epithelial Cell Biol* 4, 70-75 (1995)

Hashimoto T, Gamou S, Shimizu N, Kitajima Y, Nishikawa T: Regulation of translocation of the desmoyokin / AHNAK protein to the plasma membrane in keratinocytes by protein kinase C. *Exp Cell Res* 217, 258-266 (1995)

Kakoi H, Tamagawa Y, Kitamura K, Anniko M, Hirade F, Kitajima Y: Cytokeratin expression patterns by one-and-two dimensional electrophoresis in pars flaccida cholesteatoma and pars tensa cholesteatoma. *Acta Otolaryngol(Stockh)* 115, 804-810 (1995)

Mirbod F, Banno Y, Ghannoum MA, Ibrahim AS, Nakashima S, Kitajima Y, Cole GT, Nozawa Y: Purification and characterization of lysophospholipase-transacylase (h-LPTA) from a highly virulent strain of *Candida albicans*. *Biochimica et Biophysica Acta* 1257, 181-188 (1995)

Ibrahim AS, Mirbod F, Filler SG, Banno Y, Cole GT, Kitajima Y, Edwards JE, Nozawa Y, Ghannoum MA: Evidence implicating phospholipase as a virulence factor in *Candida albicans*. *Infectious & Immunity* 63, 1993-1995 (1995)

Seishima M, Esaki C, Osada K, Mori S, Kitajima Y: Pemphigus IgG, but not bullous pemphigoid IgG, causes a transient increase in intracellular calcium and inositol 1,4,5-trisphosphate in DJM-1 cells, a squamous cell carcinoma line. *J Invest Dermatol* 104, 33-37 (1995)

Seishima M, Aoyama Y, Mori S, Nozawa Y: Involvement of phospholipase D in ganglioside GQ1b-induced biphasic diacylglycerol production in human keratinocytes. *J Invest Dermatol*

104, 835-838 (1995)

Seishima M, Seishima M, Hus S, Abe A, Noma A: Apo E phenotype does not contribute to the pathogenesis of psoriasis. *Br J Dermatol* 132, 167-171 (1995)

Esaki C, Seishima M, Yamada T, Osada K, Kitajima Y: Pharmacologic evidence for involvement of phospholipase C in pemphigus IgG-induced inositol 1,4,5-trisphosphate generation, intracellular calcium increase, and plasminogen activator secretion in DJM-1 cells, a squamous cell carcinoma line. *J Invest Dermatol* 105, 329-333 (1995)

Takagi H, Helfman T, Ochoa S, Zhou H, Falanga V: Enhanced collagen synthesis and transcription by peak E, a contaminant of L-tryptophan preparations associated with the EMS epidemic. *J Clin Invest* 96, 2120-2125 (1995)

Falanga V, Zhou H, Takagi H, Murata H, Ochoa S, Martin T, Helfman T: Human dermal fibroblast clones derived from single cells are heterogeneous in the production of mRNAs for alpha 1(1) procollagen and transforming growth factor-beta 1. *J Invest Dermatol* 105, 27-31 (1995)

Pardes J, Takagi H, Martin T, Ochoa S, Falanga V: Decreased levels of alpha 1(1) procollagen mRNA in dermal fibroblasts grown on fibrin gels and in response to fibrinopeptide B. *J Cell Physiol* 162, 9-14 (1995)

Maeda M, Nakashima T, Kitajima Y, Inaba H, Hochi: Subcutaneous mucormycosis seen after gypsum fixation for bone fracture. *Cutis* 57(3), 147-150 (1996)

Maeda M, Ichiki Y, Shikano Y, Mori S, Kitajima Y: Detection of scleroderma with capillaroscopic abnormalities of the nailfolds in the participants of annual health examination among the inhabitants of a community of a prefecture, in Japan. *Int J Dermatol* (1996) (in press)

Nojiri M, Seishima M, Hirose M, Fujisawa Y, Satoh S, Yoneda K, Kitajima Y: Immunofluorescence and immunoblot studies of herpetiform pemphigus. *Eur J Dermatol*, (1996) (in press)

その他

森 俊二：日経メディクイズ；皮膚の基本診療 - 治療編. 日経 BP (1993)

森 俊二：第 92 回日本皮膚科学会総会から. 日本医師会雑誌 110(3), 432-433 (1993)

前田 学, 平野久代, 渡部裕子, 松原勝利, 森 俊二, 朝倉英策, 松田 保：全身性強皮症 (PSS) 患者の組織 plasminogen activator (tPA), plasminogen activator inhibitor (PAI), thrombomodulin (TM) の血中値. 厚生省特定疾患強皮症研究班平成 4 年度報告書, 83-90 (1993)

前田 学, 松原勝利, 渡部裕子, 森 俊二, 川瀬美晴, 後藤 清, 野間昭夫：全身性強皮症 (PSS) の心肺機能評価. 厚生省特定疾患強皮症研究班平成 4 年度報告書, 137-143 (1993)

前田 学, 松原勝利, 森 俊二：多施設からの膠原病ケースカードの解析 - 診断基準作成のために. 厚生省特定疾患強皮症研究班平成 4 年度報告書, 170-176 (1993)

前田 学, 山田孝宏, 長谷川核三, 柳原 誠, 森 俊二：Generalized morphea like PSS の 2 例. 厚生省特定疾患強皮症研究班平成 4 年度報告書, 190-198 (1993)

前田 学：わが国における全身性強皮症(PSS)の治療とその現況. 医学のあゆみ 164(9), 644 (1993)

清島真理子：褥瘡のケア. 岐阜県保険医新聞 186, 7 (1993)

Kitajima Y: A letter from Japan. Arch Dermatol 130, 1427-1428 (1994)

北島康雄：単純型先天性表皮水疱症の培養角化細胞におけるケラチン中間径線維分布異常の多様性. 厚生省特定疾患稀少難治性皮膚疾患調査研究班平成 5 年度報告書, 87-90 (1994)

北島康雄：表皮真皮接着機構ーヘミデスモソーム構成分子 180-KD, 230-KD 類天疱瘡抗原の集合機序. 厚生省特定疾患稀少難治性皮膚疾患調査研究班平成 5 年度報告書, 91-95 (1994)

北島康雄：この患者をどう診断するか 20, 原発性全身性アミロイドーシス. Clinician 41, 375-376, 433-434 (1994)

北島康雄：日経メディカルクイズ，皮膚，日経メディカル 7月10号, 32-33 (1994)

前田 学, 山田孝宏, 松原勝利, 平野久代, 森 俊二：全身性強皮症 (PSS) 患における血液凝固 / 線溶分子マーカー値の日内変動. 厚生省特定疾患強皮症調査研究班平成 5 年度報告書, 78-83 (1994)

前田 学, 平野久代, 森 俊二：全身性強皮症(PSS)における冷水および温水負荷による凝固 / 線溶系分子マーカー値の変動. 厚生省特定疾患強皮症調査研究班平成 5 年度報告書, 84-91 (1994)

前田 学, 松原勝利, 森 俊二：岐阜大学皮膚科における抗セントロメア抗体陽性者の解析. 厚生省特定疾患強皮症調査研究班平成 5 年度報告書, 159-165 (1994)

前田 学, 森 俊二, 竹原和彦, 相馬良直, 石橋康正：全身性強皮症患者の皮膚硬化判定に対する皮膚硬化度計 (デルマセレン) の有用性について. 厚生省特定疾患強皮症調査研究班平成 5 年度報告書, 193-202 (1994)

前田 学, 松原勝利, 森 俊二：全身性強皮症(PSS)患者における色素異常一色彩色差計 (ミノルタ R200) を用いた検討. 厚生省特定疾患強皮症調査研究班平成 5 年度報告書, 203-210 (1994)

福嶋信夫, 今井直基, 大橋三興治, 河合秀子, 藤井 淳, 前田 学, 高見 剛：手背の皮膚腫瘍と消化器癌の合併例 - 3 例の検討. 養老中央病院年報 5 号, 10-12 (1994)

清島真理子：ヒト表皮細胞における分化誘導シグナル伝達機構の解明. 日本リディアオリリー協会平成 5 年度年報, 33-36 (1994)

清島真理子：皮膚の腫瘍 - 乳房の腫瘍. The Skin Care 52, 6-9 (1994)

北島康雄：紛らわしい自己免疫性水疱症. The Skin 59, 7-9 (1995)

北島康雄, 坂 昌範：Kindler 症候群 - 劣性栄養障害型表皮水疱症との鑑別. 厚生省特定疾患稀少難治性皮膚疾患調査研究班平成 6 年度報告書, 59-62 (1995)

北島康雄, 清島真理子, 江崎智香子, 長田和子, 橋本 隆：IgG 添加時の表皮細胞における

カルシウムシグナル伝達メカニズム. 厚生省特定疾患稀少難治性皮膚疾患調査研究班平成 6 年度報告書, 225-230 (1995)

前田 学, 松原勝利, 可知久代, 掛札啓資, 北島康雄, 森 俊二: 全身性強皮症 (SSc) 患者の中指と薬指における爪上皮の病理組織像と爪廓毛細血管顕微像—出血像と臨床像との相関. 厚生省特定疾患強皮症調査研究班平成 6 年度報告書, 138-145 (1995)

前田 学, 可知久代, 北島康雄: 全身性強皮症における前腕伸側皮膚生検部の病理組織的検討 - モルフォメトリー法を用いた数量的考案. 厚生省特定疾患強皮症調査研究班平成 6 年度報告書, 146-151 (1995)

前田 学, 松原勝利, 北島康雄: 岐阜県における最近 5 年間 (1987-1991 年) の特定疾患診断書に基いた全身性強皮症患者 296 例の予後調査. 厚生省特定疾患強皮症調査研究班平成 6 年度報告書, 179-185 (1995)

前田 学, 松原勝利, 可知久代, 北島康雄, 森 俊二: 全身性強皮症 (SSc) 患者とプロスタサイクリン製剤 (beraprost sodium) - 副作用発現の背景の検討. 厚生省特定疾患強皮症調査研究班平成 6 年度報告書, 230-235 (1995)

西岡 清, 片山一朗, 近藤啓文, 新海 滂, 植木宏明, 西山茂夫, 竹原和彦, 多島新吾, 前田学, 林 清二, 畑隆一郎, 上阪 等, 小玉 肇, 宮地良樹, 水谷 仁, 藤咲 淳, 佐々木哲雄, 志水正敏, 鍋木淳一, 中島秀喜: 日本における全身性強皮症患者 496 名の予後調査. 厚生省特定疾患強皮症調査研究班平成 6 年度報告書, 240-251 (1995)

前田 学: アンテベート軟膏を併用した角層膿疱症の治療. 医学の門 特別号, (1995)

市橋直樹, 長谷川核三, 山田孝宏, 前田 学, 森 俊二: 岐阜大学皮膚科における皮膚掻痒症の最近の統計. 痒みのシンポジウム記録集, (1995)

清島真理子: ヒト培養表皮細胞における分化誘導シグナル伝達に関する研究 - ホスホリパーゼ D の関与. 日本リディアオリリー協会平成 6 年度年報, 33-36 (1995)

Kitajima Y: Correspondence; Reply. Br J Dermatol, (1996) (in press)

北島康雄, 中谷明美, 佐藤美貴, 野尻麻里, 中島智子: 優性栄養障害型表皮水疱症の表皮下裂隙に関する研究. 厚生省特定疾患稀少難治性皮膚疾患調査研究 班平成 7 年度報告書,

117-121 (1996)

北島康雄, 長田和子, 清島真理子: 天疱瘡水疱形成メカニズムにおける C キナーゼの関与.
厚生省特定疾患稀少難治性皮膚疾患調査研究班平成 7 年度報告書, 293-297 (1996)

泌尿器科学講座

著書 (和文)

河田幸道：膿尿の診断, モダン・クリニカルポイント泌尿器科, 吉田 修, 奥山明彦編, 東京, 金原出版, 1993. 12-13

竹内敏視, 河田幸道：泌尿器科領域 (尿路・男性性器) における超音波検査法, 腹部超音波検査 PART2 - 実地臨床での活用をめざして -, (岐阜市内科会編), 岐阜, トーカイ出版, 1993. 46-61

石原 哲：Vocabulario em Portugues para Uso em Hospitais, 病院でのブラジル・ポルトガル語 (単著), 美濃加茂, 美濃加茂国際交流協会, 1993. 全 218p

栗山 学：前立腺癌の腫瘍マーカー - 特に PSA について -, モダン・クリニカルポイント泌尿器科, 吉田 修, 奥山明彦編, 東京, 金原出版, 1993. 176-177

栗山 学：前立腺腫瘍マーカー (前立腺肥大症・癌の診断手技), 前立腺検診の手引き, 前立腺検診協議会, 前立腺研究財団編, 東京, 金原出版, 1993. 43-51

栗山 学, 河田幸道：泌尿器腫瘍マーカー (腫瘍マーカー), 新しい臨床検査マーカーの開発と展望, 東京, 六法出版, 1993. 58-68

栗山 学, 河田幸道：糖尿病 (その他の合併症), 腎移植マニュアル, 東間紘, 大島伸一, 長谷川昭編, 東京, 中外医学社, 1993. 177-179

山本直樹, 栗山 学, 河田幸道：前立腺特異抗原 (PSA) (腫瘍マーカー), 検査値のみかた (臨床医 1993 年増刊号), 東京, 中外医学社, 1993. 587-588

河田幸道, 高橋義人：MRSA 術後感染症, MRSA 感染症, 横田 健編, 東京, 新興医学出版社, 1994. 31-35

河田幸道：腸球菌, Colour Atlas Medical Microbiology, 三橋 進監修, 東京, 協和企画通信, 1994. 33-36

河田幸道：合成抗菌剤 - フレロキサシン, スパルフロキサシン, 今日の医薬情報 第 16 集,

堀岡正義監修, 東京, 薬事新報社, 1994. 128-131

河田幸道: 尿路感染症の成立機転と原因菌分布, 腸内細菌群の基礎と臨床, 三橋 進, 熊本悦明, 島田 馨編, 東京, ライフサイエンスメディカ, 1994. 129-136

坂 義人: 淋菌性および非淋菌性尿道炎, 今日の治療指針 (1994 年版), 日野原重明, 阿部正和監修, 東京, 医学書院, 1994. 445p

石原 哲, 河田幸道: 抗菌薬物の副作用, 泌尿器科診療 Q&A 第 14 号, 東京, 六法出版, 1994. 950-951

出口 隆, 高橋義人, 河田幸道, 伊藤慎一, 伊藤康久, 土井達朗, 西野好則, 藤広 茂, 河村毅, 小林 覚, 米田尚生, 堀江正宣, 篠田 孝: 前立腺癌のリンパ節微小転移の遺伝子診断, 第 20 回尿路悪性腫瘍研究会記録「前立腺癌の診断・治療の最近の話題, 市川篤二, 新島端夫, 阿曾佳郎編, 東京, 協和企画通信, 1994. 26-29

永井 司, 栗山 学, 河田幸道: エリスロポエチンの貧血改善効果が CAPD 患者食細胞活性酸素産生能に及ぼす影響の検討, 第 2 回腎とエリスロポエチン研究会 Proceeding, 東京, ライフサイエンス出版, 1994. 31-36

栗山 学: 鉄欠乏 (F. 血球・凝固系), 透析療法における合併症, 越川昭三編, 大阪, 医薬ジャーナル, 1994. 186-188

河田幸道: 精巣上体炎, 精巣炎, 今日の治療指針, 日野原重明, 阿部正和 監修, 東京, 医学書院, 1995. 461p

河田幸道: 腎盂腎炎, A. 尿路感染症総論, 最新内科学大系 57, 荒川正昭, 長澤俊彦編, 東京, 中山書店, 1995. 195-204

河田幸道: Q11. 薬効評価をどうするか, Q33. 前立腺炎とは, 泌尿器科領域感染症 Q&A, 熊澤浄一編, 大阪, 医薬ジャーナル社, 1995. 35-36, 82-83

河田幸道: 尿路感染症の部位診断, 尿路感染症の部位診断 - ACB 法, メチシリン耐性黄色ブドウ球菌, 泌尿器科診療 Q&A, 町田豊平編, 東京, 六法出版, 1995. 945-2 ~ 945-3, 945-4 ~ 945-5, 951-2 ~ 951-3

河田幸道, 栗山 学, 伊藤康久, 石原 哲, 伊藤雅康: 尿路感染症における白血球機能に関する研究, H 4 - 6 年度科学研究費補助金 (一般研究 C # 04670958) 研究成果報告書, 岐阜, 1995.

坂 義人: 急性単純性腎盂腎炎の診断は? 急性単純性腎盂腎炎の治療は?, 泌尿器科領域感染症 Q & A, 熊澤浄一編, 大阪, 医薬ジャーナル社, 1995. 56-59

栗山 学: 腫瘍マーカー 診断, 前立腺癌診療マニュアル, 財団法人前立腺研究財団編, 東京, 金原出版, 1995. 161-172

栗山 学, 高橋義人: 前立腺性酸性ホスファターゼ (PAP) (免疫学的検査, Tumor marker), 広範囲血液・尿化学検査, 免疫学的検査 - その数値をどう読むか - (日本臨床 1995 年増刊号), 東京, 日本臨床社, 1995. 771-774

出口 隆: 前立腺特異抗原 mRNA 発現の検出を利用した前立腺癌微小転移の遺伝子診断, 第 33 回日本癌治療学会総会 EDUCATIONAL BOOK, 1995. 486-488

出口 隆, 多田晃司, 米田尚生, 河田幸道: クラミジア, 淋菌の DNA 診断, 遺伝子診断実践ガイド, 中井利昭 編, 東京, 中外医学社, 1995. 382-386

高橋義人: 腎移植症例における術前エリスロポエチン投与の臨床的検討, 岐阜県エリスロポエチン研究会記録, 1995. 41-44

栗山 学, 上野一哉, 鄭 漢彬, 河田幸道: PSA-ACT complex と free PSA, KEY WORD 1996-'97 泌尿器系, 東京, 先端医学社, (印刷中)

栗山 学, 高橋義人, 山本直樹, 河田幸道: PSA の標準化, KEY WORD 1996-'97 泌尿器系, 東京, 先端医学社, (印刷中)

河田幸道: 尿路感染症の化学療法 新しい - ラクタム系抗生物質 嫌気性菌による尿路感染の意義, 泌尿器科診療 Q & A, 町田豊平編, 東京, 六法出版社, 1996. P948-949 P951 P1004-1005

坂 義人: カテーテル留置尿路感染症, 抗生物質療法ガイド, 和田 攻, 大久保昭行, 永田直一, 矢崎義雄編, 東京, 文光堂, (印刷中)

坂 義人：細菌尿検査，検査値のみかた，中井利昭編，東京，中外医学，1996. 800-802

高橋義人，土屋 博，安田 満，楊 睦正，仲野正博，西野好則，尾関茂彦，江原英俊，山本直樹，出口 隆，栗山 学，坂 義人，河田幸道：進行性膀胱腫瘍に対する術前動注化学療法 (Ia-MAC) の臨床的検討， - 膀胱温存の可能性について - 第 22 回尿路悪性腫瘍研究会記録 浸潤性膀胱癌の治療，新島橋夫，阿曾佳郎編，東京，協和企画通信，1996. 37-40

著書 (欧文)

Kuriyama M, Ueno K, Uno H, Nagai T, Yang M, Takahashi Y, Yamamoto N, Shinoda I, Takeuchi T, Kawada Y: Clinical studies of PSA and PSA-ACT complex in Japanese urological patients, Fundamental Approaches to the Diagnosis and Treatment of Prostate Cancer and BPH, Proceeding of the Fifth Tokyo Symposium (ed. Imai K, Shimazaki J & Karr JP). Adenine Press, New York, 1994. 75-81

Kuriyama M, Kawada Y: Can PSA predict staging of prostate cancer?, 4th International Symposium on Recent Advances in Urological Cancer; Diagnosis and Treatment, (ed Murphy G, Khoury S, Chatelain C, Denis L). Scientific Communication International, Channel Islands, 1995. 110-114

Kuriyama M, Takahashi Y, Sahashi M, Ono Y, Ohshima S, Tanaka T, Shimizu H, Miyake K, Kawada Y: Prospective and randomized evaluation of endocrine-chemo combination therapy for initial treatment of prostate cancer. Proceeding of ASCO 15, 1996. 267

総説 (和文)

河田幸道：薬効評価基準の国際的統一. 化学療法の領域 9, 2240-2241 (1993)

河田幸道：図説・診断の基礎 (2) 泌尿器感染症. Medical News (332), 3-5 (1993)

河田幸道：合成抗菌薬 フレロキサシン・スパルフロキサシン. カレントセラピー 11, 2401-2403 (1993)

河田幸道：持続性ニューキノロン剤 スパラ錠臨床試験，副作用. 時の新薬 19, 187-192 (1993)

河田幸道：尿の色と量について. 暮らしと健康 8, 14-15 (1993)

坂 義人：性行為感染症の解析評価総評. 岐阜県結核・感染症サーベイランス情報 [平成 4

年報] No.12, 74-79 (1993)

坂 義人：特集・泌尿器科治療薬マニュアル「MRSA の対策」. 臨床泌尿器科 47(増刊号), 144-146 (1993)

坂 義人：検査値のみかた「細菌尿検査」. 臨床医 19(増刊号), 682-683 (1993)

栗山 学, 河田幸道：Question & Answer - 透析患者の肉眼的血尿. 腎と透析 34, 947-948 (1993)

志田圭三, 秋元 晋, 栗山 学, 荒井陽一：フリータイプの前立腺腫瘍マーカー. Medical Tribune 26 (1993年11月4日号), 34-35 (1993)

出口 隆, 米田尚生, 河田幸道：PCR を用いた病原微生物の検出 Chlamydia trachomatis. 臨床検査 37, 149-153 (1993)

竹内敏視, 前田真一, 河田幸道：特集・小児の内視鏡的治療 - 最近の動向「小児腎盂尿管移行部狭窄に対する endopyelotomy」. 小児外科 25, 1017-1021 (1993)

伊藤康久, 河田幸道：尿路感染症と検査の進め方. Medical Technology 21, 27-33 (1993)

志田圭三, 秋元 晋, 栗山 学, 荒井陽一：フリータイプの前立腺腫瘍マーカー. Medical Tribune 26, 34-35 (1993)

石原 哲, 河田幸道：膀胱炎での膀胱内抗菌剤注入の意義. 日本医事新報 3623, 133 (1993)

山本直樹, 栗山 学, 河田幸道：検査値のみかた「前立腺特異抗原 (PSA)」. 臨床医 19(増刊号), 587-588 (1993)

山本直樹, 坂 義人, 河田幸道：尿路変更術. 臨床看護 19, 935-938 (1993)

河田幸道, 中島光好：メガロシンの泌尿器科領域感染症に対する有用性をめぐって. 日経メディカル 1, 42-45 (1994)

河田幸道, 中島光好：メガロシンの泌尿器科領域感染症に対する有用性をめぐって. ドクターサロン 38, 236-243 (1994)

河田幸道：化学療法に尽くした人々(13)・西浦常雄博士. 化学療法の領域 10, 908-909 (1994)

坂 義人：性行為感染症の解析評価総評. 岐阜県結核・感染症サーベイランス情報 [平成 5 年報] No.13, 70-75 (1994)

坂 義人：特集 / 細胞接着因子「尿路感染症と接着因子」. 腎と透析 37, 507-510 (1994)

坂 義人, 石原 哲：カルバペネム薬の現況・その基礎と臨床「尿路感染症」. 臨床と微生物 21, 449-454 (1994)

栗山 学, 坂 義人, 河田幸道：前立腺癌診断における血清前立腺特異抗原. 臨床泌尿器科 48, 277-288 (1994)

栗山 学：これだけは知っておきたい検査のポイント・第 5 集. 腫瘍マーカー, d. 泌尿器系 2) PSA. Medicina 31(11 増刊号), 496-497 (1994)

栗山 学：特集/前立腺癌の診断と治療の問題点「前立腺癌の腫瘍マーカー」. 癌と化学療法 21, 1915-1922 (1994)

栗山 学, 上野一哉, 宇野裕巳, 高橋義人, 篠田育男, 河田幸道：特集/腫瘍マーカーの進歩と問題点「前立腺癌の腫瘍マーカー」. 癌の臨床 40, 759-767 (1994)

栗山 学, 河田幸道：再燃癌の耐性化と内分泌化学療法への期待 (連載企画：前立腺癌 - 診療の Frontier). Medicament News No.1459(1994.12.5 号), 17-18 (1994)

栗山 学, 横井繁明, 河田幸道：特集/インターフェロン療法の基礎と臨床：インターフェロン療法の実際と効果「腎がん」. 臨床と研究 71, 1463-1467 (1994)

栗山 学：一週一話：rHuEPO 療法と腎不全患者の QOL. 日本医事新報 No.3653(1994.4.30 号), 105 (1994)

栗山 学 (監修)：PSA の登場により簡易なシステムで一次スクリーニングが可能に (前立腺疾患診断の基本技術 - 前立腺腫瘍マーカー). 日経メディカル 1994.6.25 臨時増刊号付録, 15-16 (1994)

栗山 学：腫瘍マーカー（泌尿器癌の診断と治療，最近の進歩に関する第4回国際シンポジウム）. Medical Tribune 27(1994年8月11日号), 14 (1994)

栗山 学：前立腺癌の腫瘍マーカー（特集：前立腺癌の診断と治療の問題点）. 癌と化学療法 21, 1915-1922 (1994)

栗山 学：PSA-ACT 測定の臨床的意義，特に早期前立腺癌診断における有用性. Conference News 第4号 (11/04/1994発行), ヘスコインターナショナル (1994)

出口 隆, 河田幸道：STD 最近の話題「泌尿器科領域 - 淋菌，クラミジア，ウレアプラズマおよびマイコプラズマ -」. Medical Practice 11, 705-707 (1994)

石原 哲, 河田幸道：特集/細菌感染症 - 最新の化学療法「クラミジア - 性器感染症」. 臨床と微生物 21, 81-82 (1994)

石原 哲, 栗山 学, 河田幸道：院内感染「尿路感染症」. Medicament News 1994.8.5号 (1994)

河田幸道：尿路感染症とペニシリン剤 - ユナシン S 静注用の有用性. TODAY'S THERAPY '95 特別号, 53-55 (1995)

河田幸道：尿路感染症. 化学療法の領域 11(S-1), 106-110 (1995)

河田幸道：再発性腎盂腎炎に対する抗生剤の少量長期投与. 医事新報 NO.3712, 136-137 (1995)

河田幸道：尿路感染症にクランベリージュースが有用？. CLINICIAN 42, 701-702 (1995)

坂 義人：抗生物質療法ガイド「カテーテル留置尿路感染症」. Medical Practice 12, 426 (1995)

坂 義人：性行為感染症の解析評価総評. 岐阜県結核・感染症サーベイランス情報 [平成6年報] No.14, 62-67 (1995)

栗山 学, 河田幸道：前立腺癌発症の要因（特集：前立腺癌早期発見・治療のポイント）.

Geriatric Medicine 33, 1373-1376 (1995)

栗山 学, 楊 睦正: 続発性副甲状腺機能亢進症と三次性副甲状腺機能亢進症. 日本臨床
〔特集: 副甲状腺 (上皮小体) 疾患〕 53, 965-967 (1995)

出口 隆, 河田幸道: 特集 各科領域における化学療法の反省 - 感染症 2 「尿路・性器感染
症」. 化学療法の領域 11, 2093-2100 (1995)

出口 隆: 尿道炎の原因と治療 「非淋菌性尿道炎」. Theapeutic Research 16, 4440-4442
(1995)

石原 哲, 河田幸道: 尿定性・半定量検査プラクティス 各論 (I) 7. 亜硝酸塩 B. 臨床.
臨床病理 (臨時増刊) 100, 143-146 (1995)

石原 哲, 河田幸道: 反復性・難治性尿路感染症. Clinical Infection & Chemotherapy 1, 11-
14 (1995)

高橋義人, 河田幸道: 特集; 腎・尿路・性器の外傷の救急治療 - 尿管外傷 -. 泌尿器外科 8,
881-884 (1995)

河田幸道: 感染症と抗生物質の使い方 - 尿路感染症 -. 医学と薬学, (印刷中)

坂 義人: 性行為感染症の解析評価総評. 岐阜県結核・感染症サーベイランス情報 [平成 7
年報], (印刷中)

栗山 学: 癌診断における腫瘍マーカーの有用性とその限界 - 男性生殖器系悪性腫瘍 -. 日
本臨床 54, 1631-1636 (1996)

栗山 学: 腫瘍マーカーはどこまで役立つか (前立腺疾患 '96 - 前立腺癌). 臨泌 50, 163-
165 (1996)

栗山 学: 高齢者の排尿障害. 岐阜県医学会雑誌, (印刷中)

出口 隆, 宇野雅博, 安田 満, 米田尚生, 河田幸道: 注目すべき感染症 Mycoplasma
genitalium. J Clin Infect Chemother 2, 44-45 (1996)

石原 哲, 河田幸道: 最近の性病の傾向と治療の進歩 軟性下疳・鼠径リンパ肉芽腫症. 臨床と研究 37, (印刷中)

総説 (欧文・国外)

Shida K, Akimoto S, Kuriyama M, Arai Y: Free-type prostate tumor markers. Medical Tribune (World Version), November 4, 1993 issue (1993)

Kuriyama M: Prostate-specific antigen as a tumor marker in prostate cancer. Internatl. J. Urol., 1, 99-103 (1994)

Kawada Y, S.E. Lee, C. Chen, B.M. Limson, P. Chan, A. Kongkanand, S. Wudhikarn, K.H. Tung, P. Rahardjo, Saito I, Doi T: Evaluation of clinical efficacy of antimicrobials in complicated urinary tract infections. Drugs 49(S-2), 362-364 (1995)

原著 (和文)

河田幸道, 伊藤康久, 他: 複雑性尿路感染症に対する S-1108 と ceftoram pivoxil の比較検討. CHEMOTHERAPY 41, 1305-1324 (1993)

河田幸道, 藤広 茂, 他: 複雑性尿路感染症に対する S-1108 の臨床用量の検討. CHEMOTHERAPY 41(S-1), 483-498 (1993)

河田幸道, 兼松 稔, 前田真一, 松田聖士, 他: 複雑性尿路感染症に対する loracarbef の臨床用量の検討. CHEMOTHERAPY 41(S-3), 336-352 (1993)

河田幸道, 他: 複雑性尿路感染症に対する loracarbef と cefixime の比較検討. CHEMOTHERAPY 41(S-3), 353-370 (1993)

河田幸道, 他: 非ステロイド性抗アンドロゲン剤フルタミドの前立腺癌に対する治療効果第相用量設定試験. 泌尿器科紀要 39, 391-406 (1993)

栗山 学, 江崎奈々, 篠田育男, 伊藤 慎一, 山田伸一郎, 徳山宏基, 出口 隆, 高橋義人, 河田幸道, 秋元 晋, 島崎 淳: 新しい EIA による前立腺特異抗原の測定, とくに早期前立腺癌と前立腺肥大症との鑑別診断における有用性について. 日泌尿会誌 84, 244-250, (1993)

栗山 学, 小幡浩司, 林 秀治, 島谷政佑, 加藤次朗, 小野佳成, 朴木繁博, 加藤雅史, 米田勝紀, 増田宏昭, 北川元昭, 中野 優: 腎盂尿管腫瘍の臨床的検討 - 東海地方会腫瘍登録 611

例の解析と治療成績の変遷に関して - . 日本泌尿器科学会雑誌 84, 1839-1844 (1993)

栗山 学, 河田幸道, 山田伸一郎, 伊藤慎一, 岡野 学, 高橋義人, 篠田育男, 出口 隆, 大川二郎, 宮脇 章, 藤井昭男: 新しい non-isotopic immunoassay (DELFLIA PSA) を用いた血清 prostate-specific antigen の測定. 腫瘍マーカー研究会誌 8, 255-257 (1993)

出口 隆, 河田幸道, 斉藤 功, 岡崎武二郎, 荒川創一, 守殿貞夫, 田中正利, 熊澤浄一: 男子非淋菌尿道炎に対する tosufloxacin tosilate の臨床的検討. CHEMOTHERAPY 41, 376-391 (1993)

高橋義人, 伊藤慎一, 土井達朗, 出口 隆: 重症尿性敗血症 (urosepsis) に関する臨床的検討. 岐阜市民病院年報 13, 69-72 (1993)

高橋義人, 伊藤慎一, 土井達朗, 出口 隆: 原発性上皮小体 (副甲状腺) 機能亢進症の治療経験. 岐阜市民病院年報 13, 73-75 (1993)

江原英俊, 兼松 稔, 山田伸一郎, 出口 隆, 河田幸道: 右坐骨腫瘤を呈した前立腺癌骨転移. 臨床泌尿器科 47, 328-330 (1993)

西野好則, 藤広 茂, 波多野紘一, 河田幸道: XXmale の 1 例. 泌尿器科紀要 39, 93-95 (1993)

西野好則, 藤広 茂: 非特異性限局性尿管炎の 1 例. 臨床泌尿器科 47, 570-572 (1993)

西野好則, 藤広 茂, 斉藤昭弘, 河田幸道: 腎嚢胞に合併した腎腺腫の 1 例. 西日本泌尿器科 55, 86-88 (1993)

西野好則, 藤広 茂, 小坂譲二, 鳥澤昌紀, 柴田明彦, 藤川明彦: 横紋筋融解症による急性腎不全の 3 例. 岐阜赤十字病院医学雑誌 5, 39-42 (1993)

山本直樹: 腎細胞癌における好銀性核小体形成関連蛋白の研究: 特に増殖能の指標としての意義. 日本泌尿器科学会雑誌 84, 1441-1449 (1993)

兼松 稔, 山田伸一郎, 米田尚生, 斉藤昭弘, 伊藤康久, 藤広 茂, 坂 義人, 河田幸道, 玉木正義, 前田真一: 新規経口用カルバセフェム剤 loracarbef の抗菌力, 前立腺組織内濃度ならびに泌尿器科感染症に対する臨床効果の検討. CHEMOTHERAPY 41, 284-295 (1993)

米田尚生, 出口 隆, 多田晃司, 伊藤康久, 岩田英樹, 原田吉将, 岡野 学, 斉藤昭弘, 山田伸一郎, 坂 義人, 河田幸道, 江崎孝行, 玉木正義, 前田真一, 斉藤 功: 男子クラミジア性尿道炎の治療効果判定における PCR 法の応用. CHEMOTHERAPY 41, 770-773 (1993)

米田尚生, 出口 隆, 伊藤康久, 坂 義人, 河田幸道, 斉藤 功, 前田真一, 嶋津良一, 鄭 漢彬: Chlamydiazyme による男子尿道炎患者の初尿からの Chlamydia trachomatis 検出の有有用性について. 臨床と微生物 20, 223-226 (1993)

米田尚生, 原田吉将, 岩田英樹, 斉藤昭弘, 伊藤康久, 林 秀治, 武田明久, 徳山宏基, 兼松稔, 坂 義人, 河田幸道: 入院患者における尿路感染症分離菌の検討 1983 - 1990 年の臨床統計. 西日本泌尿器科 55, 343-349 (1993)

窪田 実, 川口良人, 野本保夫, 土田弘基, 二瓶 宏, 久保和雄, 大森安恵, 馬場園哲也, 小椋陽介, 原 茂子, 多川 斉, 斉藤 肇, 栗山 哲, 篠田俊雄, 大塚正一, 笹岡拓雄, 東海林隆雄, 高山公洋, 中尾俊之, 下村 旭, 河田幸道, 栗山 学, 林田重昭, 那須誉人, 藤見 星, 保利敬, 小出 輝, 酒井 紀, 堺 秀人, 越川昭三, 三村信英, 前田貞亮: Continuous Ambulatory Peritoneal Dialysis (CAPD) 患者の腎性貧血に対するリコンビナントエリスロポエチンの効果: 皮下投与による維持投与法の検討 - 多施設共同研究-. 日腎誌 35, 1081-1090 (1993)

伊藤康久, 徳山宏基, 山田伸一郎, 米田尚生, 高橋義人, 岡野 学, 斉藤昭弘, 出口 隆, 兼松稔, 河田幸道: 泌尿器科領域におけるメチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA) の分離症例に関する検討. 日本泌尿器科学会雑誌 84, 514-520 (1993)

竹内敏視, 長谷行洋, 石原 哲, 多田晃司, 小出卓也, 杉山誠一, 酒井俊助, 玉木正義, 前田真一, 根笹信一, 小林 寛, 堀江正宣, 河田幸道: 経尿道的尿管腎盂切開術について. 日本泌尿器科学会雑誌 84, 873-878 (1993)

宇野雅博, 山田伸一郎, 尾関茂彦, 岡野 学, 出口 隆, 栗山 学, 坂 義人, 河田幸道, 奥村 中, 田中卓二, 星山直基, 野尻 真: レニン産生腎腫瘍の 1 例. 日泌尿会誌 84, 1130-1133 (1993)

藤田公生, 松島 常, 仲野正博: 経尿道的前立腺切除術後の感染管理期間の検討. CHEMOTHERAPY 41, 1191-1194 (1993)

藤田公生, 宗像昭夫, 松島 常, 金子正志, 仲野正博: 女性の急性単純性膀胱炎に対する Lomefloxacin 7 日間療法の検討. 西日本泌尿器科 55, 1685-1689 (1993)

守殿貞夫, 河田幸道, 坂 義人, 高橋義人, 鄭 漢彬, 武田明久, 他: 新規合成セフェム系注射用抗生物質 DQ-2556 の複雑性尿路感染症に対する臨床効果及び用量の検討. CHEMOTHERAPY 41(11), 1195-1217 (1993)

永井 司, 浅野 学, 蓑島謙一, 米田尚生, 斉藤昭弘, 出口 隆, 栗山 学, 坂 義人, 河田幸道: 特発性腎破裂により Hemoperitoneum をきたし, 保存的に治癒せしめた CAPD の 1 例. 日本透析療法医学会雑誌 26, 407-412 (1993)

松田聖士, 浅野元脩, 栗山 学, 江崎奈々, 永井 司, 岡野 学, 伊藤康久, 斉藤昭弘, 出口 隆, 河田幸道: CAPD における細菌性腹膜炎の基礎的検討 -CAPD 排液中の細菌増殖動態について. 日本透析療法医学会雑誌 26, 1137-1140 (1993)

宇野裕巳, 西田泰幸, 小林克寿, 山本修美, 栗山 学, 坂 義人, 河田幸道: 続発性副甲状腺機能亢進症に合併した甲状腺微小癌. 日本透析療法学会雑誌 26, 1381-1385 (1993)

熊本悦明, 河田幸道, 他: STD としての男子尿道炎と子宮頸管炎に対する Clarithromycin の治療効果の検討 - 特に Chlamydia trachomatis 感染症を中心に -. 日本性感染症学会誌 4, 96-101 (1993)

前田真一, 玉木正義, 竹内敏視, 酒井俊助, 藤本佳則, 磯貝和俊, 米田尚生, 河田幸道: 小児上部尿路通過障害に対する内視鏡的治療の試み. 日本小児外科会雑誌 29, 1239-1244 (1993)

徳山宏基, 出口 隆, 長谷川義和, 説田 修, 栗山 学, 坂 義人, 河田幸道, 加藤直樹, 上野一恵: Fournier's gangrene の 1 例. 西日本泌尿器科 55, 450-454 (1993)

守殿貞夫, 河田幸道, 坂 義人, 伊藤康久, 原田吉将, 土井達朗, 磯貝和俊, 藤本佳則, 兼松 稔, 江原英俊, 他: 複雑性尿路感染症に対する Cefozopran の臨床用量設定試験. 西日本泌尿器科 55, 950-965 (1993)

守殿貞夫, 河田幸道, 伊藤康久, 他: 複雑性尿路感染症に対する Cefozopran と Ceftazidime の臨床的有用性に関する比較検討. 西日本泌尿器科 55, 966-985, (1993)

山田伸一郎, 福岡明久, 宇野雅博, 蓑島謙一, 西田泰幸, 根笹信一, 永井 司, 宇野裕巳, 岩田英樹, 原田吉将, 山本直樹, 米田尚生, 岡野 学, 伊藤康久, 斉藤昭弘, 出口 隆, 栗山 学, 坂 義人, 河田幸道: 表在性膀胱腫瘍 75 例の再発率に影響をおよぼす因子についての検討. 西日本泌尿器科 55, 1543-1546 (1993)

松島 常, 藤田公生, 金子正志, 仲野正博, 宗像昭夫: 巨大な pyelogenic cyst を形成した移行上皮癌の 1 例. 泌尿器外科 6(臨時増刊号, 研究症例集), 1005-1008 (1993)

伊藤慎一, 高橋義人, 土井達朗, 波多野紘一: 両側重複腎盂尿管の 1 手術例. 岐阜市民病院年報 13, 157-160 (1993)

谷口光宏, 尾関茂彦, 永井 司, 原田吉将, 高橋義人, 藤本佳則, 武田明久: 精巣損傷の臨床的検討. 高山赤十字病院紀要 17, 9-12 (1993)

尾関茂彦, 谷口光宏, 武田明久, 永井 司, 水口宏平: 右腎動脈狭窄に対して経皮的腎血管拡張術 (PTR) を施行した 1 小児例. 高山赤十字病院紀要 17, 95-98 (1993)

山田伸一郎, 藤本佳則, 磯貝和俊, 出口 隆, 根笹信一, 川本正吾, 西田泰幸, 玉木正義, 江原英俊, 高橋義人, 岡野 学, 竹内敏視, 河田幸道, 田中卓二: 膀胱癌に対する動注治療の効果の予測因子の検討 - ATP 法による抗癌剤感受性試験の有用性について -. 日本泌尿器科学会雑誌 85, 1528-1533 (1994)

荒川創一, 守殿貞夫, 坂 義人, 河田幸道, 公文裕巳, 大森弘之, 松本哲朗, 熊澤浄一, 片岡陳正, 小川暢也: 複雑性尿路感染症に対する SY-5555 の臨床用量検討試験. CHEMOTHERAPY 42, 70-87 (1994)

河田幸道, 坂 義人, 他: 複雑性尿路感染症に対する FK037 の臨床用量の検討. CHEMOTHERAPY 42, 1048-1065 (1994)

河田幸道, 出口 隆, 他: 複雑性尿路感染症に対する biapenem の臨床用量検討. CHEMOTHERAPY 42, 1114-1127 (1994)

河田幸道, 坂 義人, 他: 複雑性尿路感染症に対する FK037 と ceftazidime の比較検討. CHEMOTHERAPY 42, 1176-1193 (1994)

河田幸道, 出口 隆, 他: 複雑性尿路感染症に対する biapenem と imipenem/cilastatin の比

較検討. CHEMOTHERAPY 42, 1368-1384 (1994)

岩田英樹, 宇野裕巳, 山田伸一郎, 米田尚生, 伊藤康久, 坂 義人, 河田幸道, 林 秀治, 尾関茂彦, 武田明久: 尿路性器感染症に対する SY5555 の基礎的・臨床的検討. CHEMOTHERAPY 42(S-1), 454-461 (1994)

米田尚生, 伊藤康久, 坂 義人, 河田幸道, 多田晃司, 小出卓也, 竹内敏視, 酒井俊助, 玉木正義, 前田真一: 尿路感染症に対する Tazobactam/Piperacillin の基礎的・臨床的検討. CHEMOTHERAPY 42(S-2), 521-528 (1994)

米田尚生, 出口 隆, 安田 満, 多田晃司, 岩田英樹, 石原 哲, 坂 義人, 河田幸道, 江崎孝行, 斉藤 功: Polymerase chain reaction 法による男子非淋菌性尿道炎患者からの *Mycoplasma genitalium* の検出. 感染症学雑誌 68, 1376-1380 (1994)

石原 哲, 米田尚生, 山羽正義, 岡野 学, 伊藤康久, 斉藤昭弘, 坂 義人, 河田幸道, 上野一哉, 藤本佳則, 磯貝和俊, 江原英俊, 兼松 稔: 複雑性尿路感染症に対する FK037 の基礎的・臨床的検討. CHEMOTHERAPY 42(S-3), 243-249 (1994)

出口 隆, 石原 哲, 伊藤康久, 坂 義人, 河田幸道, 武田明久, 前田真一: Biapenem の抗菌力と尿路感染症における臨床的有用性. CHEMOTHERAPY 42(S-4), 477-485 (1994)

出口 隆, 安田 満: 細菌の新しい系統分類と同定方法 . 実技編 A.16S リボゾーム RNA の配列の決定 3. 発色方法を使ったシーケンス法. 日本細菌学雑誌 49, 839-841 (1994)

熊本悦明, 河田幸道, 前田真一, 他: 尿路性器 *Chlamydia trachomatis* 感染症の疫学調査. 日本性感感染症学会誌 5, 32-42 (1994)

藤田知洋, 秋野裕信, 蟹本雄右, 岡田謙一郎: 前立腺偶発癌に関する臨床的検討. 日本腎泌尿器疾患予防医学研究会誌 2, 57-59 (1994)

伊藤康久, 米田尚生, 斉藤昭弘, 出口 隆, 坂 義人, 河田幸道: 泌尿器科領域における癌化学療法時の感染症の検討. 泌尿器科紀要 40, 221-224 (1994)

西野好則, 藤広 茂: 前立腺全摘除術後に発症した肺塞栓症の 1 例. 泌尿器科紀要 40, 253-256 (1994)

西野好則, 藤広 茂 : 外傷性陰茎転位症の 1 例. 西日本泌尿器科 56, 782-784 (1994)

西野好則, 藤広 茂, 上村修一, 栄枝裕文, 島 寛人 : 腰痛を主訴とした腎血管筋脂肪腫自然破裂の 1 例. 岐阜赤十字病院医学雑誌 6, 67-69 (1994)

蟹本雄右, 鈴木裕志, 岡田謙一郎 : 31P-Magnetic Resonance Spectroscopy による尿路性器癌の放射線療法および化学療法の効果に関する実験的研究. 泌尿器科紀要 40, 295-301 (1994)

藤本佳則, 上野一哉, 山田伸一郎, 磯貝和俊, 米田尚生, 坂 義人 : 清潔間欠導尿法の臨床的検討. 泌尿器科紀要 40, 309-313 (1994)

宇野雅博, 小林 寛, 石原 哲, 栗山 学, 河田幸道 : 異時性両側性精巢悪性リンパ腫の 1 例. 泌尿器科紀要 40, 901-903 (1994)

林 秀治, 米田尚生, 原田吉将, 岩田英樹, 武田明久, 斉藤昭弘, 伊藤康久, 徳山宏基, 藤広茂, 兼松 稔, 坂 義人, 河田幸道 : 外来患者における尿路感染症分離菌の変遷と薬剤感受性. 西日本泌尿器科 56, 222-227 (1994)

荒川創一, 坂 義人, 河田幸道, 他 : 複雑性尿路感染症に対する SY5555 と Cefotiam-hexetil の二重盲検比較試験. 西日本泌尿器科 56, 300-319 (1994)

玉木正義, 前田真一, 栗山 学, 河田幸道, 溝口良順, 笠原正男 : カルチノイド様前立腺癌の 1 例. 臨床泌尿器科 48, 49-52 (1994)

玉木正義, 前田真一, 岩田英樹, 山本直樹, 栗山 学, 坂 義人, 河田幸道 : MVP 化学療法により完全寛解を得た腎細胞癌肺転移の 1 例. トヨタ医報 4, 89-92 (1994)

仲野正博, 藤田公生, 松島 常, 金子正志, 宗像昭夫 : 一部に腺癌の組織像を認めた精巢由来と思われる嚢胞状病変の 1 例. 泌尿器外科 7, 51-53 (1994)

古武俊彦, 河田幸道, 他 : 尿路上皮癌患者における化学療法施行時の好中球減少症に対する rG-CSF 注の臨床的有用性の検討. 泌尿器外科 7, 1123-1133 (1994)

杉野信博, 安藤明利, 平沢由平, 河田幸道, 栗山 学, 永井 司, 他 : 保存期慢性腎不全の腎性貧血患者に対する rHuEPO(EPOCH) の薬効評価 - 二重盲検法による 3 用量群間比較

試験 - . 腎と透析 37, 1171-1185 (1994)

高橋義人, 出口 隆, 栗山 学, 仲野正博, 上野一哉, 篠田育男, 武田明久, 伊藤慎一, 土井達朗, 竹内敏視, 堀江正宣, 前田真一, 長谷行洋, 小林 覚, 永井 司, 兼松 稔, 山田伸一郎, 藤本佳則, 磯貝和俊, 坂 義人, 河田幸道: 進行性膀胱腫瘍に対する術前動注化学療法 (Ia-MAC) の臨床的検討. 癌と化学療法 21, 2311-2314 (1994)

高橋義人, 兼松江巳子, 栗山 学, 河田幸道: MRSA 創部感染症に対する Vancomycin 添加 Povidone Iodine Gel の経験. 新薬と臨床 43, 1969-1975 (1994)

高橋義人, 出口 隆, 栗山 学, 仲野正博, 上野一哉, 篠田育男, 武田明久, 伊藤慎一, 土井達朗, 竹内敏視, 堀江正宣, 前田真一, 長谷行洋, 小林 覚, 永井 司, 兼松 稔, 山田伸一郎, 藤本佳則, 磯貝和俊, 坂 義人, 河田幸道: 進行性膀胱腫瘍に対する術前動注化学療法 (Ia-MAC) の臨床的検討. 癌と化学療法 21, 2311-2314 (1994)

矢橋俊文, 木村得次, 坂野信也, 川地俊明, 奥村恭己, 金森勇雄, 藤本佳則, 上野一哉, 磯貝和俊: 超音波像による腎細胞癌浸潤度の検討. 超音波医学 21, 278-285 (1994)

松波和子, 野田紀子, 坂 義人: 盲目患者に対するストーマケア「用具の考察と工夫」. STOMA 6, 163-165 (1994)

宇野雅博, 小林 覚, 石原 哲, 尾関信彦: 陰嚢内硬化性脂肪肉芽腫の 1 例. 岐阜県医師会医学雑誌 7, 297-299 (1994)

伊藤雅康, 長谷川義和: 前立腺肥大症に対する経尿道的単回高温度療法の経験. 岐阜県医師会医学雑誌 7, 383-385 (1994)

尾関茂彦, 谷口光宏, 武田明久, 林 秀治, 栗山 学, 諏訪哲也: 腎上部に発生した後腹膜神経鞘腫の 1 例. 高山赤十字病院紀要 18, 143-146 (1994)

藤広 茂, 西野好則: 岐阜赤十字病院泌尿器科における開設 3 年間 (1991 ~ 1993 年) の入院・手術統計. 岐阜赤十字病院医学雑誌 6, 25-28 (1994)

栗山 学, 上野一哉, 宇野裕巳, 永井 司, 楊 睦正, 安田 満, 横井繁明, 仲野正博, 山本直樹, 高橋義人, 篠田育男, 齊藤昭弘, 竹内敏視, 河田幸道: Enzymun-Test PSA による血清 PSA の測定. 泌尿器外科 7, 739-744 (1994)

宇野雅博, 小林 覚, 石原 哲, 栗山 学, 河田幸道: 異時性両側性精巣悪性リンパ腫の 1 例. 泌尿紀要 40, 901-903 (1994)

杉野信博, 安藤明利, 平沢由平, 平嶋邦猛, 二瓶 宏, 小椋陽介, 久保和雄, 鈴木正司, 佐中 孜, 荒井純子, 小池隆夫, 東 徹, 後藤裕美子, 飯村功, 浦 信行, 吉永 馨, 斉藤喬雄, 福地 總逸, 高橋充彦, 荒川正昭, 河田幸道, 栗山 学, 永井 司, 小川暢也 他: 保存期慢性腎不全の腎性貧血患者に対する rHuEPO(EPOCH) の薬効評価 - 二重盲検法による 3 用量群間比較試験 - . 腎と透析 37, 1171-1185 (1994)

浅野 学, 小口健一, 兼松江巳子, 小林克寿, 栗山 学, 河田幸道: 生体腎移植ドナーの残腎に発生した腎細胞癌の 1 例. 腎移植・血管外科 6, 157-160 (1994)

石原 哲, 安田 満, 多田晃司, 米田尚生, 伊藤康久, 斉藤昭弘, 出口 隆, 栗山 学, 坂 義人, 河田幸道 他, 岐阜 UTI 研究会 14 施設: 複雑性尿路感染症由来 Enterococcus faecalis の臨床的検討と薬剤感受性について. 日本化学療法学会雑誌 43, 451-456 (1995)

石原 哲, 原田吉将, 小出卓也, 米田尚生, 岩田英樹, 岡野 学, 伊藤康久, 斉藤昭弘, 坂 義人, 河田幸道, 尾関茂彦, 武田明久: 尿路感染症における balofloxacin の基礎的・臨床的検討. 日本化学療法学会雑誌 43(S-5), 317-323 (1995)

石原 哲, 小林 覚, 斉藤昭弘, 出口 隆, 兼松 稔, 栗山 学, 坂 義人, 河田幸道, 前田 真一, 小口健一, 小林克寿, 北島和一: 血液透析患者の膿尿, 細菌尿所見 2 . 分離菌種について . 日本透析医学会雑誌 28, 31-37 (1995)

杉野信博, 河田幸道, 栗山 学 他 54 名: 保存期慢性腎不全の腎性貧血患者に対する rHuEPO (EPOCH) 皮下投与の薬効評価 - 二重盲検法によるプラセボとの群間比較試験 - . 腎と透析 38, 151-162 (1995)

高橋義人, 山田伸一郎, 米田尚生, 岩田英樹, 石原 哲, 岡野 学, 斉藤昭弘, 伊藤康久, 兼松 稔, 栗山 学, 坂 義人, 河田幸道, 伊藤慎一, 土井達朗: 尿路・性器感染症に対する grepafloxacin の基礎的・臨床的検討. 日本化学療法学会雑誌 43(S-1), 386-396 (1995)

高橋義人, 宇野裕巳, 栗山 学, 宮田英雄, 下川邦泰, 河田幸道: 尿路外症状 (嚔下困難と労作時呼吸困難) によって発見された腎細胞癌の 1 例. 癌と化学療法 22, 133-136(1995)

永井 司, 兼松 稔, 栗山 学, 河田幸道 : CAPD 患者の QOL に影響を及ぼす因子の検討. 日本透析医学会雑誌 28, 1127-1133 (1995)

永井 司, 兼松 稔, 高木康雄, 江原英俊 : 精巣内に発生した adenomatoid tumor の 1 例. 泌尿器外科 8, 907-909 (1995)

永井 司, 栗山 学, 河田幸道 : CAPD 患者に対するエリスロポエチン少量頻回投与法の検討. 臨床透析 11, 383-387 (1995)

秋元 晋, 赤倉功一郎, 大木健正, 島崎 淳, 栗山 学, 河田幸道 : 前立腺癌治療経過における前立腺特異抗原の高感度測定の有用性. 日泌尿会誌 86, 256-262 (1995)

上野一哉, 栗山 学, 篠田育男, 楊 睦正, 浅野 学, 林 秀治, 河田幸道, 秋元 晋, 島崎 淳 : Ab ビーズ PSA '栄研' による血清 PSA の測定. 泌尿器外科 8, 523-526 (1995)

仲野正博, 多田晃司, 高橋義人, 出口 隆, 栗山 学, 坂 義人, 河田幸道, 華房順子, 森田浩之, 安田圭吾 : ACTH 非依存性両側副腎皮質大結節性過形成 (AIMAH) による Cushing 症候群の 1 例. 泌尿紀要 41, 529-532 (1995)

玉木正義, 前田真一, 岩田英樹, 山本直樹, 栗山 学, 坂 義人, 河田幸道 : Methotrexate, Vinblastine, Peplomycin (MVP) 化学療法により完全寛解をえた腎細胞癌肺転移の 1 例. 泌尿器科紀要 41, 205-507 (1995)

玉木正義, 前田真一, 田代和弘, 仲野正博, 坂 義人, 河田幸道 : 腎平滑筋肉腫の 1 例. 臨床泌尿器科 49, 753-755 (1995)

玉木正義, 前田真一, 田代和弘, 仲野正博, 斉藤昭弘, 栗山 学, 坂 義人, 河田幸道 : 腎平滑筋肉腫の 1 例. トヨタ医報 5, 68-71 (1995)

三摩 宏, 浅野 学, 尾関茂彦, 江原英俊, 高橋義人, 石原 哲, 出口 隆, 栗山 学, 坂 義人, 河田幸道 : 動注化学療法が著効を示した内分泌療法抵抗性前立腺癌の 1 例. 癌と化学療法 22, 1694-1696 (1995)

浅野 学, 川本正吾, 石原 哲, 栗山 学, 河田幸道 : 生体腎移植後に発生した出血性膀胱炎の 1 例. 腎移植・血管外科 7, 171-174 (1995)

秋元 晋, 赤倉功一郎, 大木健生, 島崎 淳, 栗山 学, 河田幸道: 前立腺癌治療経過における前立腺特異抗原の高感度測定の有用性. 日本泌尿器科学会雑誌 86, 256-262 (1995)

宇野裕巳: 前立腺肥大症と前立腺癌の鑑別診断における PSA-density(PSAD) の臨床的意義. 日本泌尿器科学会雑誌 86, 1776-1783 (1995)

河田幸道, 伊藤康久, 山田伸一郎, 蟹本雄右, 岡田謙一郎, 斉藤 功: 腎機能障害患者における grepafloxacin の体内動態に関する検討. 日本化学療法学会雑誌 43(S-1), 190-193 (1995)

河田幸道, 他 20 名: 尿路・性器感染症に対する grepafloxacin の有用性の検討. 日本化学療法学会雑誌 43(S-1), 410-423 (1995)

伊藤康久, 米田尚生, 石原 哲, 斉藤昭弘, 坂 義人, 河田幸道, 兼松 稔, 江原英俊: 尿路感染症に対する pazufloxacin の基礎的・臨床的検討. 日本化学療法学会雑誌 43(S-2), 349-355 (1995)

斉藤昭弘, 米田尚生, 岩田英樹, 林 秀治, 石原 哲, 岡野 学, 伊藤康久, 出口 隆, 坂 義人, 河田幸道, 西野好則, 藤広 茂: 尿路感染症に対する ritipenem acoxil の基礎的・臨床的検討. 日本化学療法学会雑誌 43(S-3), 242-248 (1995)

岡野 学, 上野一哉, 米田尚生, 石原 哲, 斉藤昭弘, 伊藤康久, 出口 隆, 坂 義人, 河田幸道, 酒井俊助, 土井達朗, 嶋津良一: 尿路感染症に対する cefluprenam の基礎的・臨床的検討. 日本化学療法学会雑誌 43(S-4), 111-116 (1995)

加藤直樹, 加藤はる, 田中香お里, 渡辺邦友, 上野一恵, 多田晃司, 河田幸道: マクロライド系抗菌薬 Azithromycin の嫌気性菌と Ureaplasma に対する抗菌力. 日本化学療法学会雑誌 43(S-6), 31-39 (1995)

浅野 学, 小口健一, 兼松江巴子, 北島和一, 河田幸道, 松本哲哉, 山口恵三: Campylobacter による CAPD 腹膜炎の 1 例. 日本透析医学会雑誌 28, 301-305 (1995)

兼松江巴子, 小口健一, 北島和一, 清 正夫, 山本修美, 是松元子, 浅野 学, 河田幸道, 宮村隆三, 小林克寿, 下山博身, 白井哲夫: 上皮小体全摘術後の長期成績. 日本透析医学会雑誌 28, 1367-1373 (1995)

熊本悦明, 河田幸道 他: PCR 法による C. trachomatis 診断キットの基礎的, 臨床的検討. 日本性感染症学会誌 6,51-61 (1995)

米田尚生, 出口 隆, 安田 満, 多田晃司, 石原 哲, 坂 義人, 河田幸道, 江崎孝行, 齊藤功: PCR 法による男子非淋菌性尿道炎患者からの Mycoplasma genitalium の検出. 日本マイコプラズマ学会雑誌 第 20 号・第 21 号合本, 73-74 (1995)

栗山 学, 山本直樹, 篠田育男, 河田幸道, 秋元 晋, 島崎 淳: 日本人症例における TANDEM PSA の臨床的評価と他法との比較. 泌尿器科紀要 41, 39-46 (1995)

栗山 学, 上野一哉, 七里泰正, 大石賢二, 吉田 修, 秋元 晋, 島崎 淳, 今井強一, 山中英壽, 出口修宏, 田崎 寛, 河田幸道: 前立腺癌における PSA- 1-antichymotrypsin 複合体測定 of 臨床的意義. 泌尿器外科 8, 951-958 (1995)

仲野正博, 多田晃司, 高橋義人, 出口 隆, 栗山 学, 坂 義人, 河田幸道, 華房順子, 森田浩之, 安田圭吾: ACTH 非依存性両側副腎皮質大結節性過形成 (AIMAH) による Cushing 症候群の 1 例. 泌尿器科紀要 41, 529-532 (1995)

水谷一夫, 小野佳成, 加藤範夫, 武田明久, 山田 伸, 絹川常郎, 服部良平, 佐藤正文, 松浦治, 竹内宣久, 大島伸一: 前立腺癌に対する根治的前立腺全摘除術および骨盤内リンパ節郭清術の検討: リンパ節郭清術の意義について. 泌尿器科紀要 41, 867-871 (1995)

川本正吾, 篠田育男, 鄭 漢彬, 行岡直哉, 松下 巖, 河田幸道: 黄色肉芽腫性変化を伴った腎軟結石の 1 例. 泌尿器科紀要 41, 1007-1010 (1995)

瀬古恵美, 青山名生子, 山本幸子, 谷口順子, 野田明美, 堀江正宣: 代用膀胱の導尿指導. 東海ストーマ会誌 15, 49-51 (1995)

上野一哉, 栗山 学, 篠田育男, 楊 睦正, 浅野 学, 林 秀治, 河田幸道, 秋元 晋, 島崎淳: Ab ビーズ PSA '栄研' による血清 PSA の測定. 泌尿器外科 8, 523-526 (1995)

杉野信博, 河田幸道, 栗山 学, 他 54 名: 保存期慢性腎不全患者の腎性貧血に対する rHuEPO (EPOCH) 皮下投与の薬効評価 - 二重盲検法によるプラセボとの群間比較試験 - . 腎と透析 38, 151-162 (1995)

中村 豊, 堀江正宣, 長谷川正広: 膜面積と 2MG 除去能. 腎と透析 (ハイパフォーマンス)

スメンブレ 95) 38, 184-188 (1995)

三摩 宏, 浅野 学, 尾関茂彦, 江原英俊, 高橋義人, 石原 哲, 出口 隆, 栗山 学, 坂義人, 河田幸道: 動注化学療法が著効を示した内分泌療法抵抗性前立腺癌の 1 例. 癌と化学療法 22, 1694-1696 (1995)

土井達朗, 三摩 宏, 伊藤慎一, 伊藤康久, 宇野雅博, 小口健一, 高橋義人, 武田明久: 岐阜市民病院泌尿器科における 1985 年から 1994 年までの 10 年間の手術統計. 岐阜市民病院年報 15, 53-57 (1995)

伊藤康久, 伊藤慎一, 土井達朗, 村上典之, 浅野寿夫: 尿管結石による敗血症性ショックの 1 例. 岐阜市民病院年報 15, 86-88 (1995)

伊藤慎一, 伊藤康久, 土井達朗, 加地秀樹, 尾関信彦: 腎盂内自然破裂により発症した腎血管脂肪腫の 1 例. 岐阜市民病院年報 15, 89-91 (1995)

藤広 茂, 根笹信一, 西野好則, 山内 一, 鈴木英司, 島 寛人: 感染性尿管管囊胞の 1 例. 岐阜赤十字病院医学雑誌 7, 33-35 (1995)

岡野 学, 上野一哉, 米田尚生, 石原 哲, 斉藤昭弘, 伊藤康久, 出口 隆, 坂 義人, 河田幸道, 酒井俊助, 土井達郎, 嶋津良一: 尿路感染症に対する cefluprenam の基礎的・臨床的検討. 日本化学療法学誌 43(S-4), 111-116 (1995)

熊澤浄一, 松本哲朗, 熊本悦明, 折笠清一, 阿曾佳郎, 町田豊平, 河村信夫, 岡田敬司, 久住治男, 名出頼男, 河田幸道, 坂 義人, 守殿貞夫, 荒川創一, 大森弘之, 公文裕巳, 藤田幸利, 野田進士, 大井好忠, 永山在明, 小川 暢也: 複雑性尿路感染症に対する Tazobactam/Piperacillin (TAZ/PIPC) と Piperacillin(PIPC) との比較試験. 西日泌尿 57, 360-383 (1995)

太田和夫, 荒井純子, 川口良人, 久保 仁, 二瓶 宏, 清水 公, 中尾俊之, 窪田 実, 秋葉隆, 篠田俊雄, 前波輝彦, 原 茂子, 東海林隆男, 木村靖夫, 三浦靖彦, 北島和一, 下村 旭, 河田幸道, 酒井信治, 藤井正満, 西谷 博, 平野 宏, 山木戸道郎, 中本雅彦: 1.1% アミノ酸含有腹膜透析液 BLA を用いた continuous ambulatory peritoneal dialysis 療法による臨床的有用性の検討. 腎と透析 40, 507-527 (1996)

尾関茂彦, 濱本幸浩, 篠田育男, 石原 哲, 栗山 学, 河田幸道: 前立腺乳頭状腺癌の 1 例. 西日本泌尿器科 58, 68-70 (1996)

尾関茂彦, 安田 満, 仲野正博, 石原 哲, 出口 隆, 坂 義人, 河田幸道, 武田明久: 陰嚢内平滑筋肉腫の 1 例. 泌尿器科紀要 42, 229-232 (1996)

西野好則, 根笹信一, 藤広 茂, 河田幸道: 原発性上部尿路上皮内癌の 1 例. 臨床泌尿器科 50, 139-141 (1996)

西野好則, 根笹信一, 藤広 茂, 波多野紘一, 河田幸道: 前立腺粘液癌の 1 例. 臨床泌尿器科 50, 245-249 (1996)

根笹信一, 藤広 茂, 西野好則, 河田幸道: 孤立性有茎性増殖を呈した嚢胞性膀胱炎. 臨床泌尿器科 50, 312-314 (1996)

藤広 茂, 根笹信一, 西野好則, 山内 一, 鈴木英司, 島 寛人: 感染性尿膜管嚢胞の一例. 岐阜赤十字病院医学雑誌 7, 33-35 (1996)

仲野正博, 多田晃司, 高橋義人, 石原 哲, 出口 隆, 栗山 学, 坂 義人, 河田幸道, 下川邦泰: 検診時に偶然発見された成人片側性多嚢胞性異形成腎 (Unilateral multicystic dysplasticv Kidney). 泌尿器科紀要 42, 373-376 (1996)

栗山 学, 上野一哉, 楊 睦正, 原 啓, 松本英亜, 三井 博, 那須誉人, 林田重昭, 古川利有, 鈴木唯司, 大木健正, 秋元 晋, 島崎 淳, 河田幸道: 前立腺肥大症に対する VLAP の検討 - 多施設共同研究による OPTICA 60Z と Rotalase fiber の評価 - . 泌尿器外科 9, 153-159 (1996)

小幡浩司, 栗山 学, 藤田公生, 酒井俊助, 置塩則彦, 阪上 洋, 東野一郎, 三宅弘治: 前立腺癌の臨床的検討 - 東海地方会腫瘍登録 683 例の集計と予後調査 - . 泌尿紀要 (印刷中)

村瀬達良, 栗山 学, 前田真一, 安藤 裕, 伊藤 博, 渡邊秀輝: 前立腺偶発癌 stage A の予後についての検討. 泌尿紀要 (印刷中)

原著 (欧文・国内)

Maeda S, Tamaki M, Takeuchi T, Sakai S, Fujimoto Y, Isogai K, Yamamoto N, Kawada Y: Endoscopic and fluoroscopic pyeloureteromy for ureteropelvic junction obstruction and ureteral stricture in children. Jpn J Endourol ESWL 6, 182-184 (1993)

Uno M, Yamamoto N, Okano M, Saito A, Deguchi T, Kuriyama M, Ban Y, Kawada Y,

Shimokawa K: A case of xanthogranulomatous pyelonephritis in a child. *Jpn J Nephrol* 35, 1271-1276 (1993)

Kawada Y, Kumamoto Y, Saito I, Kawamura N, Kamidono S, Ohmori H, Kumazawa J: An early phase study on FK037 in urinary tract infections. *CHEMOTHERAPY* 42, 1036-1047 (1994)

Tada K, Takeuchi T, Nagatani Y, Koide T, Ishihara S, Sakai S, Kawada Y: Endoscopic diagnosis and treatment of disorders in the upper urinary tract. *Jpn J Endourol ESWL* 7, 169-173 (1994)

Maeda S, Tamaki M, Takeuchi T, Taniguchi M, Minoshima K, Sakai S, Nagai T, M Kanematsu, Yamamoto N, Nakano M, Ban Y, Kawada Y: Endourological reestablishment of traumatic membranous urethral disruption. *Jpn J Endourol ESWL* 7, 200-203 (1994)

Uno M, Kobayashi S, Ishihara S, Kawada Y: Idiopathic retroperitoneal fibrosis effectively treated with steroid therapy a report of two cases. *Nishinippon Journal of Urolog* 57, 300-303 (1995)

原著 (欧文・国外)

Yamamoto N, Maeda S, Okada J, Takeuchi T, Nagatani Y, Shinoda I, Kuriyama M, Kawada Y: Endoscopic incision of persistent ureteral infoldings. *Urology* 41, 38-42 (1993)

Deguchi T, Doi T, Ehara H, Ito S, Takahashi Y, Nishino Y, Fujiihiro S, Kawamura T, Komeda H, Horie M, Kaji H, Shimokawa K, Tanaka T, Kawada Y: Detection of micrometastatic prostate cancer cells in lymph nodes by reverse transcriptase-polymerase chain reaction. *Cancer Res* 53, 5350-5354 (1993)

Kawada Y: Sparfloxacin in the treatment of genitourinary tract infections. *Drugs* 45(S-3), 339 (1993)

Kawada Y: Multicentre study of ofloxacin in male urethritis in 7 Asian countries. *Drugs* 45(S-3), 375-376 (1993)

Kuriyama M, Takeuchi T, Takahashi Y, Takeda A, Ishihara S, Ozeki S, Ueno K, Taniguchi M, Yamamoto N, Nagatani Y, Kobayashi S, Shinoda I, Sakai S, Kawada Y: Intra-arterial

chemotherapy using a reservoir for endocrine-refractory prostate cancer. *Cancer Chemother. Pharmacol* 35(S), 27-30 (1994)

Tajika M, Tsuchiya T, Yasuda M, Ito Y, Nakamura T, Yamauchi K, Yamauchi H, Nishino Y, Fujihira S, Shima H, Moriwaki H, Muto Y: A male case of synchronous double cancers of the breast and prostate. *Internal Medicine* 33, 31-35 (1994)

Nomoto Y, Kawada Y, et.al.: A multicenter study with once a week or once every two weeks high-dose subcutaneous administration of recombinant human erythropoietin in continuous ambulatory peritoneal dialysis. *Peritoneal Dialysis International* 14, 56-60 (1994)

Saito A, Kawada Y: Reliability of pyuria detection method. *Infection* 22(Suppl.1), S36-S37 (1994)

Kawada Y: Comparison of complicated urinary tract infections in men and women. *Infection* 22(Suppl.1), S55-S57 (1994)

Kawada Y, Saito I, Kamidono S, Ohmori H, Kumazawa J: Preliminary report on Du-6859a for urinary tract infection. *Journal of Infection and Chemotherapy* 1, 139-146 (1995)

Deguchi T, Yasuda M, Asano M, Tada K, Iwata H, Komeda H, Ezaki T, Saito I, Kawada Y: DNA Gyrase Mutations in Quinolone-Resistant Clinical Isolates of *Neisseria gonorrhoeae*. *Antimicrob Agents Chemother* 39, 561-563 (1995)

Deguchi T, Gilroy CB, Taylor-Robinson D: Comparison of Two PCR-Based Assays for Detecting *Mycoplasma genitalium* in Clinical Specimens. *Eur J Clin Microbiol Infect Dis* 14, 629-631 (1995)

Deguchi T, Komeda H, Yasuda M, Tada K, Iwata H, Asano M, Ezaki T, Kawada Y: *Mycoplasma genitalium* in non-gonococcal urethritis. *Int J STD AIDS* 6, 144-145 (1995)

Ehara H, Koji T, Deguchi T, Yoshii A, Nakano M, Nakane PK, Kawada Y: Expression of Estrogen Receptor in Diseased Human Prostate Assessed by Non-Radioactive In Situ Hybridization and Immunohistochemistry. *Prostate* 27, 304-313 (1995)

Ushio Y, Yamamoto N, Sanchez-Bueno A, Yoshida R: Failure to reject an allografted tumor

after elimination of macrophages in mice. Microbiol Immunol (in press)

Kuriyama M, Obata K, Miyagawa Y, Nishikawa E, Koide T, Takeda A, Komeda Y, Kanbayashi T, Nakano M, Miyake K: Serum prostate-specific antigen values for prediction of clinical stages and prognosis in patients with prostate cancer An analysis of 749 cases. International J Urol (in press)

Deguchi T, Yasuda M, Nakano M, Ozeki S, Ezaki T, Saito I, Kawada Y: Quinolone-resistant *Neisseria gonorrhoeae*: correlation of alterations in the GyrA subunit of DNA gyrase and the ParC subunit of topoisomerase IV with antimicrobial susceptibility profiles. Antimicrobial Agents Chemother 40, 1020-1023 (1996)

その他

出口 隆, 永井 司, 河田幸道: 特集・術後感染の予防と治療 泌尿器科領域. Medicament News (1403), 6-8 (1993)

出口 隆, 河田幸道: クラミジア感染症の話題, クラミジアの臨床, 泌尿器科. Medico 24, 10456-10459 (1993)

出口 隆, 米田尚生, 河田幸道: 特集・感染症における遺伝子診断 - 最近の進歩 - クラミジア. Vita 10, 20-24 (1993)

栗山 学 (監修): PSA の登場により簡易なシステムで一次スクリーニングが可能に (前立腺疾患診断の基本技術 - 前立腺腫瘍マーカー). NIKKEI MEDICAL (6/25/1994-臨時増刊), 15-16 (1994)

栗山 学, 河田幸道: エボジン投与による QOL の改善 (エボジンパンフレット). 中外製薬 (1994)

栗山 学, 遠藤 恵: より充実した治療環境づくりを目指す (わが病院の仲間たち, 第 2 回). 透析ライフ 53, 18-20, (1995 年冬号)

栗山 学: 腫瘍マーカーを用いての鑑別診断. 前立腺肥大症クリニカルポイント 4, (1995)

栗山 学, 宇野裕巳, 河田幸道: PSA と前立腺肥大症. BPH TOPICS, (1995)

栗山 学：診断法の進歩（前立腺癌）. ラジオたんぱ 1996.1.29 放送（1996）

栗山 学：前立腺癌初期治療としての内分泌化学療法の意義（UFT パンフレット）. 大鵬製薬（1996）

出口 隆，宇野雅博，安田 満，米田尚生，河田幸道：非淋菌性尿道炎における *Mycoplasma genitalium* の病原的意義. 感染症 26, 29-73（1996）

坂 義人：「尿路感染症，オピニオン 投与量・投与方法などの諸問題について」トスキサシンの適正使用. ダイナボット リーフレット（印刷中）

神経精神医学講座

著書 (和文)

小出浩之：ラカンと精神分析の基本問題，小出浩之編，東京，弘文堂，1993

小出浩之：父の名，基礎的現象，新版精神医学辞典. 加藤，保崎，笠原，宮本，小此木編，東京，弘文堂，1993

小出浩之：ラカンによる無意識の探求 - ボロメオ結び，岩波講座・現代思想 無意識の発見，新田，丸山，子安他編，東京，岩波書店，1993

小出浩之：分裂病症状のレベルと人格水準，分裂病の精神病理と治療 6 - 分裂病症状をめぐって，村上靖彦編，東京，星和書店，1994

小出浩之，若園明彦訳：ラカンの仕事，ピチエ ベンヴェヌート，ロジャー ケネディ，東京，青土社，1994

小出浩之，高岡 健：私の処方・知覚変容発作の対するオーラップの使用経験，精神分裂病治療における私の処方，大阪，診療新社，1994

小出浩之：精神分裂病，青年期の精神医学，青木省三，清水将之編，東京，金剛出版，1995

小出浩之：一般医に必要な精神療法的面接，今日の治療指針 1995，日野原重明，阿部正和監修，東京，医学書院，1995

小出浩之訳：構造と性倒錯，ジョエル・ドール，東京，青土社，1995

小出浩之他訳：精神分析辞典，東京，弘文堂，1995

高岡 健，浜田寿美男，村瀬 学：平成版少年少女論；成熟とは何か，大人とは誰か，大阪，るな書房，1995

植木啓文，高井昭裕：分裂病の再発予防と社会適応 - 認知療法，分裂病者の社会生活支援，昼田源四郎編，東京，金剛出版，1995

高岡 健：病前性格と発症状況，躁鬱病・非定型精神病，木村 敏，井上令一編，東京，中山書店，1994

若林慎一郎：登校拒否 改定 2 版，東京，医歯薬出版，1993.

若林慎一郎：登校刺激について，モダンクリニカルポイント精神科，島園安雄，保崎秀夫編，東京，金原出版，1993

若林慎一郎：登校拒否，精神科レビューNo. 9. 思春期の精神障害 - 今日の問題 - 西園昌久，東京，ライフ・サイエンス，1993

若林慎一郎：小児期に発病する精神分裂病，うつ病，非定型精神病など，今日の小児治療指針 第 10 版，槁 嘉之，三河春樹，重田政信，矢田純一編，東京，医学書院，1993，

総説 (和文)

高橋隆夫，若林慎一郎：古典紹介 (翻訳) Grebelskaya-Albatz 著，早期児童期の精神分裂病の臨床について (前半)．児童青年精神医学とその近接領域 34(4), 364-372 (1993)

高橋隆夫，若林慎一郎：同上 (後半)．児童青年精神医学とその近接領域 34(5), 474-483 (1993)

原著 (和文)

小出浩之：非定型精神病の理念型と位置付け．精神神経学雑誌 46, 1201-1205 (1993)

小出浩之：精神分裂病と薬物療法．臨床精神病理 14, 191-196 (1993)

高橋隆夫，本間博行，山本 健：非定型精神病患者に認められる性格特徴について．臨床精神病理 14, 327-337 (1993)

高岡 健：非定型精神病の診断について - Pauleikhoff による基準と ICD - 10 草案との比較 - ．精神科診断学 4, 89-96 (1993)

高岡 健：妄想型人格障害と境界型人格障害の特徴をもつ 1 症例．臨床精神医学 22, 1513-1518 (1993)

高岡 健， 稲田隆司， 岩間久和， 杉田憲夫：反社会性人格障害に関する批判的考察 - 演技性人格障害および境界性人格障害との異同 - . 臨床精神病理 14, 286-296 (1993)

高岡 健：精神病理学と生物学的精神医学の接点 . 精神神経学雑誌 95, 792-794 (1993)

植木啓文， 瀧澤多加志， 栗栖徹至：幻覚妄想を呈した仮面甲状腺機能低下症の 1 例 . 臨床精神医学 22(11), 1599-1605 (1993)

栗田有代， 高岡 健， 坂井豊雄， 笠原憲司， 岩間久和， 本間博行， 吉村 剛：連携精神医学の臨床的研究 - 総合病院における精神科コンサルテーションの現状と課題 - . 岐阜大医紀 41, 318-339 (1993)

若林慎一郎：登校拒否と家庭内暴力 . こころの科学 51, 38-41 (1993)

喜多久美子， 若林慎一郎：自閉症児の乳幼児期の発達経過について (母親の育児日記より) . 小児の精神と神経 33, 21-32 (1993)

高岡 健：登校拒否と人権 . 岐阜思春期研究 9, 19-23 (1993)

小出浩之：ラカンの精神病論 . イマーゴ 10 月号臨時増刊号「ラカン」青土社, 8-15 (1994)

高橋隆夫：精神分裂病の長期経過について . 精神神経学雑誌 96, 853-856 (1994)

高岡 健， 栗栖徹至：登校拒否と社会状況 . 精神医学 36, 112 (1994)

高岡 健， 小出浩之：精神病理学と生物学的精神医学の関係 . 精神分裂病研究の進歩 4, 75-76 (1994)

高岡 健：摂食障害を伴う境界性人格障害；家族との対象関係 . 臨床精神医学 23, 1383-1391 (1994)

植木啓文：慢性うつ病の自己治癒について - 回復期の状況分析的研究 - . 精神科治療学 9, 973-980 (1994)

植木啓文， 小川直志， 田中昌克， 高井昭裕：集団検診における心理テストとスクリーニ

ング . 日本臨床 52, 1370-1377 (1994)

鬼頭有代 , 高岡 健 , 柴田明彦 , 三輪佳行 , 酒井 勉 , 大西弘生 , 武藤泰敏 : C 型慢性肝炎へのインターフェロン療法における精神医学的フォローアップ . 総合病院精神医学 6, 49-57 (1994)

高木千浩 , 高岡 健 , 山田堅一 , 小出浩之 : エフェドリンを含まずコデインを主成分とする市販鎮咳剤依存の症例 . 臨床精神医学 23, 1483-1489 (1994)

小川直志 , 柴田明彦 , 辻 善久 , 田中昌克 , 植木啓文 : 慢性疲労症候群の一例 - 過敏情動衰弱状態の観点から - . 精神科治療学 9, 75-82 (1994)

小出浩之 : 破瓜型分裂病 . 精神科治療学 臨時増刊号 12, 78-79 (1995)

小出浩之 : 私の母は天皇の妾 - 妄想と近親相姦 - , イマーゴ 6, 9, 49-55 (1995)

高岡 健 : 死に至る心の 記述 論 . ら・るな 1, 77-86 (1995)

高岡 健 : 境界 精神医学 診断論 : 共同体間における交換としての診断 . ら・るな 2, 27-33 (1995)

高岡 健 : マイクロサイコーシス . こころの科学 62, 55-59 (1995)

高岡 健 : 妄想性人格障害 ; その批判的考察 . イマーゴ 6(10), 36-41 (1995)

高岡 健 , 高田知二 , 平田あゆ子 , 藤川明彦 : 「不思議の国のアリス」症候群と小人幻覚を呈した 1 症例 . 精神科治療学 10(10), 1152-1156 (1995)

高岡 健 , 深尾 琢 : 「躁病者犯罪の行動特性」について . 精神医学 37(12), 1342 (1995)

植木啓文 , 高井昭裕 , Michael Szukaj : 分裂病患者家族に対する「心理教育的家族グループ」のこころみ . 精神科治療学 10, 171-179 (1995)

植木啓文 : 青年・成人期をむかえた自閉症者実態について . ぎふ精神保健 32, 55-72 (1995)

植木啓文 : 分裂病患者家族に対する「心理教育的グループ」のこころみ (第 2 報) . 精神

分裂病研究の進歩 5, 112-113 (1995)

高田知二, 高岡 健: Alport 症候群を合併した妄想を伴う側頭葉てんかんの 1 例. 精神科治療学 6, 669-676 (1995)

高田知二, 高木千浩, 小出浩之: 神経性過食症の心的力動に関する一考察. 臨床精神病理 16, (1995)

原著 (欧文・国内)

Ogawa T, Koide H: Cultural variation of endogenous depression -A transcultural study-. Jpn J Psychiatry and Neurology 46, 831-839 (1993)

Koide H: Some nosological considerations of "borderline case". Jpn J Psychiatry and Neurology 46, 839-841 (1993)

Koide H: Pseudo-dementia and delirium in depression. Jpn J Psychiatry and Neurology 46, 841-848 (1993)

原著 (欧文・国外)

Takaoka K, Takata T, Fukao T, Kojima K and Tkagi C: School refusal and social conditions in Japan. Internatinal Medical Journal 2(3), 227-229 (1995)

その他

若林慎一郎, 高岡 健, 木原生雅, 益田恵子, 小出浩之, 曾根靖貴: うつ病の臨床 (その 3), 厚生省「精神・神経疾患研究委託費」(2 指 - 15) 児童・思春期における行動・情緒障害の成因と病態に関する研究. 平成 4 年度研究報告書, 5-12 (1993)

植木啓文: 感情障害の経過と EE との関連について - FMSS を用いた EE の特徴について -, 平成 6 年度厚生省精神・神経疾患研究委託費による研究報告集, 512

小児科学講座

著書 (和文)

近藤直実：ブルーム症候群，免疫学辞典，東京化学同人，1993

近藤直実，折居忠夫：ブルーム症候群 (臨床)，臨床遺伝医学〔 〕 癌と遺伝，古庄敏行ほか編，診断と治療社，1993. 77-85

近藤直実：アレルギーとサイトカイン，小児科学年鑑 1993，小児科の進歩 13，前川喜平ほか編，診断と治療社，1993. 16-19

近藤直実：第五章 食物アレルギーの診断，食物アレルギーと非即時型 (いわゆる遅延型を含む) 反応，実務大系，学校給食の指導と運営管理 第 8 巻 子どもの栄養と様々なアレルギーへの対応，飯倉洋治編著，エムティ出版，1993. 120-142

山口清次：その他の有機酸代謝異常症，今日の小児治療指針 第 10 版．埴 嘉之ほか編，医学書院，1993. 253

鈴木康之：副腎白質ジストロフィー，今日の小児治療指針 第 10 版．埴 嘉之ほか編，医学書院，1993. 255

鈴木康之：ペルオキシソーム病，胎児・新生児の神経学，佐藤 潔ほか編，メディカ出版，1993. 535-551

下沢伸行，鈴木康之，折居忠夫：Zellweger 症候群，遺伝子診断実践ガイド，中井利昭ほか編，中外医学社，1995. 53-56

鈴木康之：酸化系酵素単独欠損症，臨床 DNA 診断法，古庄敏行ほか編，金原出版，1995. 423-424

下沢伸行，折居忠夫：Zellweger 症候群，臨床 DNA 診断法，古庄敏行ほか編，金原出版，1995. 421-422

山口清次，深尾敏幸： - ケトチオラーゼ欠損症，臨床 DNA 診断法，古庄敏行ほか編，金原出版，1995. 374-376

山口清次, 深尾敏幸: グルタル酸尿症 2 型, 臨床 DNA 診断法, 古庄敏行ほか編, 金原出版, 1995. 377-380

折居忠夫: ムコ多糖症 型 (Hurler), 臨床 DNA 診断法, 古庄敏行ほか編, 金原出版, 1995. 391-393

折居忠夫: ムコ多糖症 型 (Hunter), 臨床 DNA 診断法, 古庄敏行ほか編, 金原出版, 1995. 394-396

折居忠夫: ムコ多糖症 型 D (Sanfilippo), 臨床 DNA 診断法, 古庄敏行ほか編, 金原出版, 1995. 397-398

折居忠夫: ムコ多糖症 型 (Morquio), 臨床 DNA 診断法, 古庄敏行ほか編, 金原出版, 1995. 399-402

折居忠夫: ムコ多糖症 型 (Maroteaux-Lamy), 臨床 DNA 診断法, 古庄敏行ほか編, 金原出版, 1995. 403-404

折居忠夫: ムコ多糖症 型 (Sly), 臨床 DNA 診断法, 古庄敏行ほか編, 金原出版, 1995. 405-407

山岸篤至, 戸松俊治, 折居忠夫: Hurler 症候群, 図説分子病態学, 一瀬白帝ほか編, 中外医学社, 1995. 492-497

近藤直実: アレルギーと IL-2, アレルギーとサイトカイン, 医薬ジャーナル社, 1996. 34-40

近藤直実: 食物アレルギー喘息発症予防, 小児気管支喘息の予防・診断・治療, 現代医療社, 1996. 39-54

折居忠夫, 戸松俊治, 祐川和子: ムコ多糖症, 最新内科学体系 11, ミトコンドリア病, リソソーム病, 中山書店, 1996. 247-268

鈴木康之, 橋本 隆, 折居忠夫: 疾患とペルオキシソーム, 最新内科学体系 11. 井村裕夫ほか編, 東京, 中山書店, 1996. 335-339

鈴木康之, 橋本 隆, 折居忠夫: 脳肝腎症候群 (Zellweger 症候群), 最新内科学体系 11. 井村裕夫ほか編, 東京, 中山書店, 1996. 340-343

福田誠司, 折居忠夫: 分子生物学的研究法, 細胞外マトリックス - 臨床医学への応用 -, メディカルレビュー社, 1996. 148-158

近藤直実: 食品アレルギーの臨床的諸問題, 食品アレルギー対策ハンドブック, 上野川修一・近藤直実編, サイエンスフォーラム, 1996. 19-21

近藤直実: アレルギーを起こしやすい体質, 素因, 食品アレルギー対策ハンドブック, 上野川修一・近藤直実編, サイエンスフォーラム, 1996. 60-73

近藤直実: 血液検査 (3): リンパ球の反応, 食品アレルギー対策ハンドブック, 上野川修一・近藤直実編, サイエンスフォーラム, 1996. 113-127

近藤直実: 診断の実際, 食品アレルギー対策ハンドブック, 上野川修一・近藤直実編, サイエンスフォーラム, 1996. 151-159

近藤直実: DHA 添加, 食品アレルギー対策ハンドブック, 上野川修一・近藤直実編, サイエンスフォーラム, 1996. 424-436

近藤直実: アレルギーと遺伝, 今日の治療; 小児アレルギー疾患, 1996. 16-25

近藤直実: 薬物アレルギー, 今日の治療; 小児アレルギー疾患, 1996. 138-146

近藤直実: 蕁麻疹, 小児科学, 医学書院, 印刷中

近藤直実: アトピー性皮膚炎, 小児科学, 医学書院, 印刷中

鈴木康之: Zellweger 症候群, 小児科学, 医学書院, 印刷中

鈴木康之: 酸化酵素欠損症, 小児科学, 医学書院, 印刷中

近藤直実: アトピーと IgE 遺伝子, 分子アレルギー学, メディカルレビュー社, 印刷中

近藤直実: 小児の気管支喘息, 今日の治療指針, 医学書院, 印刷中

近藤直実：免疫疾患，標準小児科学，医学書院，印刷中

近藤直実：原発性免疫不全症候群（1）抗体不全を主とする疾患，新内科学教科書，金芳堂，印刷中

近藤直実：アレルギー疾患，New 小児科，南江堂，印刷中

近藤直実：IgE 抗体産生，アレルギー疾患イラストレイテッド，メディカルレビュー社，印刷中

著書（欧文）

Kondo N, Kasahara K, Fukao T, Kaneko H, Teramoto T, Tashita H, Yokoi Y: Fc RI chain gene and C chain gene expression, Recent Advances in Prediction and Prevention of Childhood Allergy, (eds S. Sasaki, T. Miyamoto, JM. Hopkin), Churchill Livingstone, New York, 1995. 33-43

Kondo N: Corticosteroid therapy for bronchial asthma in children -Prospects for bronchial asthma therapy- Churchill Livingstone (in press)

Suzuki Y, Orii T: Peroxisomal disorders: Zellweger syndrome and Adrenoleukodystrophy, Clinical Studies in Medical Biochemistry, ed Glew RH, Oxford University Press (in press)

総説（和文）

折居忠夫，戸松俊治，福田誠司，祐川和子，近藤直実：ムコ多糖症 型（ - グルクロニダーゼ欠損症）. 日本臨牀 51, 2330-2335 (1993)

近藤直実，小林由季，篠田紳司，福富 悌，折居忠夫：アレルギー疾患の発症予知 臍帯血リンパ球を用いた方法の有用性 . 小児科 34, 6-12 (1993)

近藤直実，福富 悌，縣 裕篤，篠田紳司，小沢武司，内海みよ子，折居忠夫：食物アレルギーにおける食物負荷試験 特に，Double-blind, placebo-controlled food challenge の実際とその位置づけ . 小児科臨床 46, 6-12 (1993)

近藤直実，縣 裕篤，篠田紳司，福富 悌，桑原直樹，折居忠夫：食物アレルギーによるアトピー性皮膚炎の発症機序 ヘルパー T 細胞の役割 . 小児科診療 56, 129-133 (1993)

近藤直実：食物アレルギーの治療. 臨床と研究 70, 3577-3579 (1993)

近藤直実：食物アレルギーの診断と治療 特に関与型反応を中心として , 診断とそのパラメーター. 日本小児アレルギー学会誌 7, 154-165 (1993)

福富 悌, 近藤直実, 山崎松孝, 加藤善一郎, 縣 裕篤, 折居忠夫: 気管支喘息治療のポイント
気管支喘息のテオフィリン治療 点滴から経口投与時の投与設計も含めて . 小児科 34,
421-427 (1993)

鈴木康之：Pseudo-Zellweger 症候群. 小児科診療増刊号「小児の症候群」56, 263 (1993)

鈴木康之：Zellweger-like 症候群. 小児科診療増刊号「小児の症候群」56, 270 (1993)

折居忠夫, 鈴木康之, 下沢伸行, 矢嶋茂裕, 浅野純一: ペルオキシソーム異常症 DNA 診断 . 日本臨床増刊号「本邦臨床統計集 (下巻)」51, 1068-1077 (1993)

鈴木康之：Zellweger 症候群. 日本臨床別冊「内分泌症候群」, 618-620 (1993)

折居忠夫, 下沢伸行, 鈴木康之, 矢嶋茂裕：Zellweger 症候群. 小児科診療 56, 767-773 (1993)

鈴木康之, 下沢伸行, 折居忠夫: ペルオキシソーム欠損症の臨床と分子遺伝学 Zellweger 症候群 (ZS), 新生児型 ALD (NALD), 乳児型 Refsum 病 (IRD) . 日本臨床 51, 2353-2358 (1993)

鈴木康之：ペルオキシソーム病. 小児科診療 Q&A 17, 692-693 (1993)

下沢伸行, 内山 温, 宋 向前, 中島芳博, 今村 淳, 深尾敏幸, 浅野純一, 矢嶋茂裕, 鈴木康之, 折居忠夫：ペルオキシソーム病の遺伝子解析 Zellweger 症候群と副腎白質ジストロフィー , 小児科臨床 47, 2427-2434 (1994)

折居忠夫, 岩田晶子, 国立三恵, 祐川和子, 野間明夫, 安部 彰, 山下寿美子：遺伝性ムコ多糖症のマススクリーニング . 小児科 35, 1361-1367 (1994)

折居忠夫, 岩田晶子, 国立三恵, 祐川和子, 野間明夫, 安部 彰, 山下寿美子, 山崎一広, 平

野智津子, 小川 恵 : 遺伝性ムコ多糖症のマススクリーニング . 日本マス・スクリーニング学会誌 4, 51-54 (1994)

惣宇利正善, 上條岳彦, 深尾敏幸, 橋本 隆 : ミトコンドリア脂肪酸酸化系酵素欠損症. 生体の科学 45, 668-672 (1994)

下沢伸行, 中島芳博, 福田誠司, 鈴木康之, 近藤直実, 折居忠夫 : Zellweger 症候群. 小児科診療 65, 585-590 (1995)

折居忠夫, 下沢伸行, 鈴木康之 : ペルオキシソーム病 - Zellweger 症候群の病因の解明 - . 細胞 27, 262-266 (1995)

折居忠夫, 下沢伸行, 鈴木康之 : ペルオキシソーム異常症. 臨床医 21, 613-617 (1995)

鈴木康之 : Zellweger 症候群. 日本臨床別冊 肝・胆道系症候群 (上), 544-546 (1995)

下沢伸行, 祐川和子, 折居忠夫 : 遺伝性ムコ多糖症. 小児内科 27, 500-503 (1995)

祐川和子 : Hunter 病. 小児科診療 58, 593-597 (1995)

深尾敏幸, 山口清次, 折居忠夫 : - ケトチオラーゼ欠損症. 小児科診療 58, 553-558 (1995)

深尾敏幸 : - ケトチオラーゼ欠損症 (ミトコンドリアアセトアセチル -CoA チオラーゼ欠損症). Molecular Medicine 臨時増刊 遺伝子病マニュアル上 32, 78-79 (1995)

下沢伸行 : ペルオキシソーム病 . Molecular Medicine 臨時増刊 遺伝子病マニュアル上 32, 146-147 (1995)

鈴木康之 : ペルオキシソーム 酸化系酵素単独欠損症 . Molecular Medicine 臨時増刊 遺伝子病マニュアル上 32, 148-149 (1995)

金子英雄, 藤本純一郎 : トランスジェニック動物. 臨床医 21, 1734 (1995)

金子英雄, 近藤直実 : ディーゼル排気ガス中の芳香族炭化水素がヒト IgE 産生を増強する : IgE 産生 B 細胞への直接の作用. (抄訳) Allergy Up To Date 2, 2-3 (1995)

福田誠司：モルキオ病. 小児科診療 58, 598-604 (1995)

福田誠司, 祐川和子, 戸松俊治, 折居忠夫：ムコ多糖症. 日本臨床 53, 139-144 (1995)

折居忠夫, 戸松俊治, 福田誠司, 祐川和子：遺伝性ムコ多糖異常症の分子生物学的解析. 臨床皮 50(5 増), 98-103 (1996)

下沢伸行, 鈴木康之：極長鎖脂肪酸, 小児の臨床検査指針. 小児科診療 59 増刊号, 171-173 (1996)

近藤直実：食物アレルギーの診断. Medico 27, 6-12 (1996)

鈴木康之, 下沢伸行：ペルオキシソーム病. 組織培養 22, 113-116 (1996)

祐川和子, 岩田晶子, 国立三恵, 近藤直実, 折居忠夫：尿中ムコ多糖. 小児科診療 5, 166-168 (1996)

高橋幸利：尿中オリゴ糖. 小児科診療 増刊号 小児の臨床検査指針 59, 168-171 (1996)

深尾敏幸, 金子英雄, 近藤直実：T-cell, B-cell. 小児科診療 59 (増刊号), 364-366 (1996)

福田誠司, 戸松俊治, 祐川和子, 山岸篤至, Golam Md. Maruf Rezvi, 加藤善一郎, 山田直人, 磯貝光治, 近藤直実, 折居忠夫：ムコ多糖症の遺伝子レベルでの病因解析. 日本先天代謝異常学会誌 12, 35-41 (1996)

福田誠司：最近明らかにされた疾患遺伝子 ムコ多糖症. 小児科 37, 815 (1996)

近藤直実：アレルギーの日常診療. 岐阜県医師会医学雑誌 9, 3-10 (1996)

近藤直実：副作用症例データベース. 診断と治療 84 増刊号, 152 (1996)

近藤直実：喘息治療薬の使い方 ステロイド. 小児科, 印刷中

深尾敏幸：Ataxia-telangiectasia の責任遺伝子と免疫不全および発癌. 臨床免疫 28, 印刷中

総説 (欧文・国内)

Yasuyuki Suzuki, Nobuyuki Shimosawa, Tadao Orii: Inborn Error of peroxisome biogenesis and brain malformation: Clinical and biochemical studies. Cong Anom 35, 43-53 (1995)

総説 (欧文・国外)

Fukao T, Yamaguchi S, Orii T, Hashimoto T: Molecular basis of beta-ketothiolase deficiency: Mutations and polymorphisms in the human mitochondrial acetoacetyl-coenzyme A thiolase gene. Hum Mutat 5, 113-120 (1995)

Kondo N: Immunodeficiency and cancer. Asian J Surgery (in press)

原著 (和文)

三河春樹, 馬場 實, 松井猛彦, 遠山 歆, 宮林容子, 吉田隆實, 鶴田 悟, 四家正一郎, 山田 燦, 近藤直実, 福富 悌, 眞弓光文, 伊藤節子, 四宮敬介, 末廣 豊, 廣田常夫, 古庄巻史, 下村正彦: 小児アトピー性皮膚炎に対するテルフェナジンシロップの臨床評価. 臨床医薬 9, 719-731 (1993)

寺澤総介, 李 憲, 近藤直実, 折居忠夫: 乳幼児期の急性散発性非 A 非 B 型肝炎例の HCV 関連各種抗体よりみた C 型肝炎ウイルスの関与についての検討. 日本小児栄養消化器病学会雑誌 7, 198-205 (1993)

安田雅則: GM1-gangliosidosis type 2A の電子顕微鏡的研究. 岐阜大医紀 41, 145-182 (1993)

三河春樹, 馬場 實, 我妻義則, 根本紀夫, 和田博泰, 市村登寿, 吉原重美, 黒梅恭芳, 森川昭廣, 徳山研一, 前田和一, 赤坂 徹, 小田嶋安平, 杉本日出雄, 七条孝三郎, 古川 漸, 津田正晴, 松原知代, 杉本和夫, 西牟田敏之, 関根邦夫, 佐藤好範, 椋沢靖弘, 吉池信男, 松井猛彦, 遠山 歆, 宮林容子, 下田恵子, 正木拓朗, 永倉俊和, 飯倉洋治, 杉原雄三, 赤澤 晃, 有田昌彦, 松本 勉, 杉内政己, 池部敏市, 勝呂 宏, 浅井義之, 山崎扶佐江, 三島 健, 吉田隆實, 四家正一郎, 山田 燦, 中村凱次, 近藤直実, 福富 悌, 鳥居新平, 山田政功, 宇理須厚雄, 上田雅乃, 井口淑子: 小児気管支喘息に対するテルフェナジンシロップの臨床評価
ケトチフェンシロップを対照とした多施設二重盲検比較試験 . 臨床医薬 9, 923-950 (1993)

若園明裕, 深尾敏幸, 山口清次, 折居忠夫: - ケトチオラーゼ欠損症患者の臨床像, 異常

蛋白の検討：予後を左右する因子. 日本小児科学会雑誌 97, 1404-1410 (1993)

佐倉伸夫, 山口清次: 広島県下における 10 年間の有機酸代謝異常症のスクリーニング結果・
広島県下先天代謝異常スクリーニングの成果. その 3 . 広島医学 46, 848-851 (1993)

佐倉伸夫, 松本隆彦, 山根希代子, 山口清次, 安田寛二: - ケトチオラーゼ欠損症に対す
る dl - カルニチンとグリシンの治療効果. 日本小児科学会雑誌 97, 1963-1969 (1993)

山口清次, 折居忠夫, Lisa Kratz, Piero Rinaldo: 脂肪酸代謝異常症の化学診断とその問題点.
日本医用マスペクトル学会講演集 18, 37-42 (1993)

渡辺宏雄, 山口清次, 清水信雄, 松本隆彦, 下田浩子, 佐倉伸夫, 小林正紀, 和田義郎, 折居
忠夫: 3 - ヒドロキシジカルボン酸尿症を呈した Pearson 症候群. 日本医用マスペクト
ル学会講演集 18, 155-158 (1993)

下沢伸行, 鈴木康之, 折居忠夫, 河合 徹, 中村 肇, 塚本利朗, 藤木幸夫: Zellweger 症候
群の病因遺伝子解明. 日本先天代謝異常学会雑誌 9, 41-46 (1993)

戸松俊治, 福田誠司, 山田信二, 祐川和子, 折居忠夫: 細胞への遺伝子導入実験法.
Connective Tissue 24, 267-271 (1993)

岩田晶子, 清水信雄, 桑原尚志, 近藤直実, 折居忠夫, 森 芳郎, 高見 剛: 悪性リンパ腫を
合併した Bloom 症候群の 1 例. 小児科 34, 1157-1160 (1993)

岡本博之, 岩田晶子, 渡辺誠治, 多賀俊明, 下川邦泰, 折居忠夫: 小児科における大腸内視鏡
検査の有用性. 日本小児栄養消化器病学会雑誌 7, (1993)

小川達也, 井上恭子, 兼村敏生, 松原茂規, 浅野智美, 桑原尚志, 大川 剛, 鈴木智雄: 気管
支結核を主病変とした初期変化群肺結核の 1 乳児例. 小児科臨床 46, 1069-1073 (1993)

中村 浩, 山崎嘉久, 伊在井馨, 渡辺 健, 桑原尚志: ジピリダモール負荷心エコーによる川
崎病既往児の冠動脈病変の評価. 日本超音波医学会講演集, 177-178 (1993)

折居忠夫, 鈴木康之, 下沢伸行, 矢嶋茂裕, 升野光雄: Zellweger 症候群の病因遺伝子の解明.
ペルオキシソーム膜の統合を阻害する . 日本先天代謝異常学会雑誌 10, 7-16 (1994)

深尾敏幸, 若園明裕, 山口清次, 折居忠夫, 橋本 隆: ミトコンドリアアセトアセチル - CoA チオラーゼ (- ケトチオラーゼ欠損症) の遺伝子解析 遺伝子変異の多様性とその特徴 . 日本先天代謝異常学会雑誌 10, 25-31 (1994)

下沢伸行, 内山 温, 宋 向前, 中島芳博, 今村 淳, 深尾敏幸, 浅野純一, 矢嶋茂裕, 鈴木康之, 折居忠夫: ペルオキシソーム病の遺伝子解析 Zellweger 症候群と副腎白質ジストロフィー. 小児科臨床 47, 2427-2434 (1994)

渡辺宏雄, 山口清次, 清水信雄, 深尾敏幸, 河野芳功, 折居忠夫: 有機酸代謝異常症と光学異性体分析 ~ 2-ヒドロキシグルタル酸の分析 ~ . 日本医用マススペクトル学会講演集 19, 139-142 (1994)

渡辺宏雄, 山口清次, 斎木加代子, 清水信雄, 河野芳功, 近藤直実, 折居忠夫: 有機酸代謝異常症スクリーニングにおける有機酸の光学異性体分析とその意義. 日本小児科学会雑誌 98, 1705-1710 (1994)

藤井秀比古, 近藤直実, 縣 裕篤, 福富 悌, 篠田紳司, 小林由季, 桑原直樹, 伊上良輔, 近藤富雄, 折居忠夫: アレルギー疾患患者の IgE 産生における遺伝子学的解析. 小児科臨床 47, 43-50 (1994)

近藤直実, 縣 裕篤, 福富 悌, 篠田紳司, 新原光喜, 西田 隆, 折居忠夫: 食物アレルギーの診断 特に, 成立機序からみた検査結果の判読について . 小児科臨床 47, 1910-1918 (1994)

篠田紳司, 近藤直実, 福富 悌, 縣 裕篤, 矢嶋茂裕, 鈴木康之, 折居忠夫: ドコサヘキサエン酸が有効であったアトピー性皮膚炎の 2 症例. アレルギーの臨床 14, 892-897 (1994)

中嶋義記, 兼村敏生, 折居忠夫: Avidin-biotin-peroxidase complex 法を用いた 21 例の IgA 腎症の免疫組織化学的検討. 日本小児科学会雑誌 98, (1994)

川出麻由美, 新垣義夫, 神谷哲郎, 折居忠夫: 小児期の QT 延長における単相性活動電位の検討. 日本小児科学会雑誌 98, 2112-2118 (1994)

佐藤まどか, 横山洋子, 樋口忠義, 石川 治, 宮地良樹, 小林富男, 小林敏宏, 祐川和子, 折居忠夫: ムコ多糖症 型 (Hunter 症候群) の 1 例. 日本皮膚科学会雑誌 105, 841-846 (1995)

渡辺宏雄, 深尾敏幸, 木村正彦, 山口清次, 林 修平, 植竹公明, 折居忠夫, 近藤直実: 脂肪酸代謝異常症 2 例の尿中代謝産物の検討. 日本医用マススペクトル学会講演集 20, 189-192 (1995)

田下秀明, 加納正嗣, 坪内肯二, 河合憲康, 折居忠夫: 遅発型の塩類喪失および軽度の男性化を示した Prader 症候群の 1 男児例. 小児科臨床 48, 1823-1826 (1995)

新原光喜: 鶏卵アレルギー患児における抗原提示機構と T 細胞のサイトカイン産生の解析. 岐阜大学医学部紀要 43, 327-338 (1995)

大宮史朗, 高橋幸利, 中村 浩, 折居忠夫: 遺伝性複合糖質代謝異常症とネフローゼ症候群の尿中オリゴ糖排泄の比較研究. 岐阜大学医学部紀要 43, 231-249 (1995)

寺澤総介, 山田幸治, 鈴木康之, 近藤直実, 折居忠夫: HCV キャリアの母より水平感染したと思われる早期発見の 2 兄弟例 Free HCV-RNA の検出と感染力の関連, 岐阜大学医学部紀要 43, 671-672 (1995)

林 照恵: 食物アレルギー患児における Double-Blind, Placebo-Controlled Food Challenge による症状発現時間の差異とその解析. 岐阜大学医学部紀要 43, 292-298 (1995)

原著 (欧文・国内)

Tada-aki Hori, Mitsuo Masuno, Akihiro Wakazono, Ei-ichi Takahashi, Reiko Katakura, Tadao Orii: Interstitial deletion of the long arm of chromosome 11 determined by fluorescence in situ hybridization. Jpn J Human Genet 38, 219-224 (1993)

Yukikatsu Nakada, Nobuyuki Hyakuna, Yasuyuki Suzuki, Nobuyuki Shimosawa, Etsuko Takaesu, Reiko Ikema, Kiyotake Hirayama: A case of pseudo-Zellweger syndrome with a possible bifunctional enzyme deficiency but detectable enzyme protein. Brain & Development 15, 453-456 (1993)

Mana Kurihara, Komei Kumagai, Saburo Yagishita, Masayuki Imai, Magoie Watanabe, Yasuyuki Suzuki, Tadao Orii: Adrenoleukomyeloneuropathy presenting as cerebellar ataxia in a young child: A probable variant of adrenoleukodystrophy. Brain & Development 15, 377-380 (1993)

Yasuyuki Suzuki, Nobuyuki Shimosawa, Ichiro Kawabata, Shigehiro Yajima, Kyoko Inoue, Yasushi Uchida, Kaoru Izai, Shunji Tomatsu, Naomi Kondo, Tadao Orii: Prenatal diagnosis of peroxisomal disorders. Biochemical and immunocytochemical studies on peroxisomes in human amniocytes. *Brain & Development* 16, 27-31 (1994)

Jun-ichi Asano, Yasuyuki Suzuki, Shigehiro Yajima, Kyoko Inoue, Nobuyuki Shimosawa, Naomi Kondo, Masahiko Murase, Tadao Orii: Effects of erucic acid therapy on Japanese patients with X-linked adrenoleukodystrophy. *Brain & Development* 16, 454-458 (1994)

Tadashi Matsumoto, Tatsuro Kondo, Masuzaki Hideaki, Naoki Harada, Tetsuo Matsuzaka, Ei-ichi Kinoshita, Goh Takeo, Mitsuhiro Tsujihata, Yasuyuki Suzuki, Yoshiro Tsuji: A point mutation at ATP-binding region of the ALD gene in a family with X-linked adrenoleukodystrophy. *Jpn J Human Genet* 39, 345-351 (1994)

Atsushi Imamura, Yasunaga Komori, Osamu Fukutomi, Nobuyuki Shimosawa, Yasuyuki Suzuki, Naomi Kondo, Tadao Orii: Short latency somatosensory evoked potentials and ^{99m}Tc-HMPAO SPECT in a case of flunarizine-effective alternating hemiplegia in infancy. *Brain & Development* 16, 325-328 (1994)

Yasuyuki Suzuki, Nobuyuki Shimosawa, Shigehiro Yajima, Kyoko Inoue, Tadao Orii, Naomi Kondo: Incidence of peroxisomal disorders in Japan. *Jpn J Hum Genet* 41, 167-175 (1996)

Suzuki Y, Shimosawa N, Imamura A, Fukuda Y, Ichihashi H, Orii T, Kondo N: Trial of docosahexaenoic acid supplementation on a Japanese patient with a peroxisome biogenesis defect. *Acta paediatr Jpn* 38, 520-523 (1996)

原著 (欧文・国外)

Masuno M, Tomatsu S, Nakashima Y, Hori T, Fukuda S, Masue M, Sukegawa K, and Orii T: Mucopolysaccharidosis A: Assignment of the human N-acetylgalactosamine-6-sulfate sulfatase (GALNS) gene to chromosome 16q24. *Genomics* 16, 777-778 (1993)

Yamada Y, Tomatsu S, Sukegawa K, Suzuki Y, Kondo N, Hopwood J J, and Orii T: Mucopolysaccharidosis type A (Hunter disease): 13 gene mutations in 52 Japanese patients and carrier detection in four families. *Hum Genet* 92, 110-114 (1993)

Seiji Yamaguchi, Atsuko Sakai, Toshiyuki Fukao, Akihiro Wakazono, Takashi Kuwahara,

Tadao Orii, Takashi Hashimoto: Biochemical and immunochemical study of seven families with 3-ketothiolase deficiency: diagnosis of heterozygotes using immunochemical determination of the ratio of mitochondrial acetoacetyl-CoA thiolase and 3-ketoacyl-CoA thiolase. *Pediatric Research* 33, 429-433 (1993)

Toshiyuki Fukao, Seiji Yamaguchi, Charles R. Scriver, Gail Dunber, Akihiro Wakazono, Tadao Orii, Takashi Hashimoto: Molecular studies of mitochondrial acetoacetyl-coenzyme A thiolase deficiency in two original families. *Human Mutation* 2, 214-220 (1993)

Seiji Yamaguchi, Yasuhiro Indo, Paul Coates, Takashi Hashimoto, Kay Tanaka: Identification of very long chain acyl-CoA dehydrogenase deficiency in three patients previously diagnosed with long chain acyl-CoA dehydrogenase deficiency. *Pediatric Research* 34, 111-113 (1993)

Nobuyuki Shimosawa, Yasuyuki Suzuki, Tadao Orii, Ann Moser, Hugo W. Moser, Ronald J.A. Wanders: Standardization of complementation grouping of peroxisome-deficient disorders and the second Zellweger patient with peroxisomal assembly factor-1 (PAF-1) defect. *Am J Hum Genet* 52, 843-844 (1993)

Nobuyuki Shimosawa, Yasuyuki Suzuki, Tadao Orii, Toshiro Tsukamoto, Yukio Fujiki: Prenatal diagnosis of Zellweger syndrome using DNA analysis. *Prenatal Diagnosis* 13, 149 (1993)

Atsushi Kamei, Sadataka Houdou, Sachio Takashima, Yasuyuki Suzuki, Laurence E. Becker, Dauna L. Armstrong: Peroxisomal disorders in children: Immunohistochemistry and neuropathology. *J Pediatr* 122, 573-579 (1993)

Shinoda S, Kondo N, Hikutomi O, Agata H, Suzuki Y, Shimosawa N, Tomatsu S, Yamada Y, Takemura M, Noma A, Orii T: Suppressive effects of elimination diets on T cell responses to ovalbumin in hen's egg-sensitive atopic dermatitis patients. *Clinical Experimental Allergy* 23, 689-695 (1993)

Suzuki Y, Shimosawa N, Iwai K, Uchida Y, Miura K, Akatsuka H, Nagaya M, Yamaguchi S, Orii T: Peroxisomal 3-ketoacyl-CoA thiolase is partially processed in fibroblasts from patients with rhizomelic chondrodysplasia punctata. *J Inher Metab Dis* 16, 868-871 (1993)

Aoyama T, Uchida Y, Kelley RI, Marble M, Hofman K, Tonsgard JH, Rhead WJ, Hashimoto

T: A novel disease with deficiency of mitochondrial very-long-chain acyl-CoA dehydrogenase. *Biochem Biophys Res Commun* 191, 1369-1372 (1993)

Yukitoshi Takahasi, Shirou Omiya, Yutaka Nakamura, Naomi Kondo, Tadao Orii: Urinary Oligosaccharide Excretion in Nephrotic Syndrome. *Pediatr Res* 34, 429-434 (1993)

Sadataka Houdou, Sachio Takashima, Yasuyuki Suzuki: Immunohistochemical expression of peroxisomal enzymes in developing human brain. *Molecular and Chemical Neuropathology* 19, 235-248 (1993)

Naiki Y, Kawamoto T, Mitsuuchi Y, Miyahara Toda K, Orii T, Imura H, Shizuta Y: A nonsense mutation (TGG[116Trp] TAG[Stop]) in CYP11B1 causes steroid 11 -hydroxylase deficiency. *J Clin Endocrinol Metab* 77, 1677-1682 (1993)

Naiki Y, Mitsuuchi Y, Kawamoto T, Miyahara K, Toda K, Orii T, Miura K, Shizuta Y: Identification of a new mutation steroid 11 -hydroxylase deficiency. *Pediatr Res* 33 suppl S13 (1993)

Mitsuo Masuno, Jun-ichi Asano, Kanji Yasuda, Tomio Kondo, Tadao Orii: Balanced complex rearrangement involving chromosomes 8, 9, and 12 in a normal mother, derivative chromosome 9 with recombinant chromosome 12 in her daughter with minor anomalies. *Am J Med Genet* 45, 65-67 (1993)

Yutaka Nakamura, Yasuo Kuno, Hatsumi Sugiyama, Takashi Kuwahara, Shigehiro Yajima: Follow-up study of coronary artery lesions of Kawasaki disease comparison between patients with careful monitoring and patients without close monitoring more than 8 years from onset of disease. *Proceedings of the Fourth International Symposium on Kawasaki Disease (AHA)*, 379-383 (1993)

Mitsuuchi Y, Kawamoto T, Miyahara K, Toda K, Naiki Y, Kuribayashi I, Yamamoto Y, Imura H, Shizuta Y: Congenitally defective aldosterone biosynthesis in humans: inactivation of the P-450C18 gene (CYP11B2) due to nucleotide deletion in CMO I deficient patients. *Biochem Biophys Res Commun* 190, 864-869 (1993)

Naomi Kondo, Osamu Fukutomi, Takeshi Ozawa, Hiroatsu Agata, Tsukako Kameyama, Naoki Kuwabara, Shinji Shinoda, Tadao Orii: Improvement of food-sensitive atopic

dermatitis accompanied by reduced lymphocyte responses to food antigen following natural measles virus infection. *Clinical and Experimental Allergy* 23, 44-50 (1993)

Naomi Kondo, Osamu Fukutomi, Hiroatsu Agata, Fumiaki Motoyoshi, Shinji Shinoda, Yuki Kobayashi, Naoki Kuwabara, Tsukako Kameyama, Tadao Orii: The role of T lymphocytes in patients with food-sensitive atopic dermatitis. *J Allergy Clin Immunol* 91, 658-668 (1993)

Hiroatsu Agata, Naomi Kondo, Osamu Fukutomi, Shinji Shinoda, Tadao Orii: Effect of elimination diets on food-specific IgE antibodies and lymphocyte proliferative responses to food antigens in atopic dermatitis patients exhibiting sensitivity to food allergens. *J Allergy Clin Immunol* 91, 668-679 (1993)

Hiroatsu Agata, Akihiro Yomo, Yoshimasa Hanashiro, Takayuki Muraki, Naomi Kondo, Tadao Orii: Comparison of the MAST chemiluminescent assay system with RAST and skin tests in allergic children. *Annals of Allergy* 70, 153-157 (1993)

Naomi Kondo, Hiroatsu Agata, Osamu Fukutomi, Takashi Nishida, Tsukako Kameyama, Hidehiko Fujii, Terue Hayashi, Mitsuyoshi Shinbara, Matsutaka Yamasaki, Miyoko Utsumi, Mitsuru Yano, Tadao Orii: Reduced responses of peripheral blood lymphocytes to heat-denatured food antigens in food-sensitive atopic dermatitis. *Annals of Allergy* 70, 467-469 (1993)

Naomi Kondo, Ryosuke Inoue, Mitsuru Yano, Terue Hayashi, Yuka Miwa, Kimiko Kasahara, Matsutaka Yamasaki, Miyoko Utsumi, Mitsuyoshi Shinbara, Tadao Orii: Defective calcium-dependent signal transduction in B lymphocytes of a certain common variable immunodeficiency. *Exp Clin Immunogenet* 10, 16-20 (1993)

Naomi Kondo, Ryosuke Inoue, Satoko Nishimura, Kimiko Kasahara, Tsukako Kameyama, Yuka Miwa, Peregrina Ramos Lorenzo I, Tadao Orii: Defective calcium-dependent signal transduction in T lymphocytes of ataxia-telangiectasia. *Scand J Immunol* 38, 45-48 (1993)

Takeshi Ozawa, Naomi Kondo, Fumiaki Motoyoshi, Yoshihiro Kato, Tadao Orii: Preferential damage to IgM production by Ultraviolet B in the cells of patients with Bloom's syndrome. *Scand J Immunol* 38, 225-232 (1993)

Naomi Kondo, Ryosuke Inoue, Hiroatsu Agata, Yasuyuki Suzuki, Nobuyuki Shimozawa,

Shunji Tomatsu, Yoshihiro Nakashima, Atsushi Yamagishi, Tatsuya Ogawa, Tadao Orii: Expression of secreted immunoglobulin heavy chain genes and immunoglobulin-secreting cells in human lymphocytes. *Scand J Immunol* 38, 320-322 (1993)

Yuko Inoue, Naomi Kondo, Fumiaki Motoyoshi, Ryosuke Inoue, Tadao Orii: Abnormal responses of common variable immunodeficiency patient's B cells to *Staphylococcus aureus* Cowan I and interleukin-2. *Acta Paediatr* 82, 404-407 (1993)

Yoshihiro Kato, Naomi Kondo, Fumiaki Motoyoshi, Takeshi Ozawa, Hiroatsu Agata, Tadao Orii: Kinetics of hypogammaglobulinemia in patients with common variable immunodeficiency. *Acta Paediatr* 82, 739-743 (1993)

Naomi Kondo, Yukiji Yamada, Junichi Asano, Yoshikazu Yagi, Tadao Orii: Malignant lymphoma in a Bloom's syndrome patient treated with insulin. *Clin Genet* 44, 51-52 (1993)

Hiroatsu Agata, Naomi Kondo, Osamu Fukutomi, Shinji Shinoda, Takashi Nishida, Tadao Orii: Evaluation of lymphocyte proliferative responses to food antigens with regard to age and food-specific IgE antibodies in food-sensitive atopic dermatitis. *J Invest Allergol Clin Immunol* 3, 174-177 (1993)

Naomi Kondo, Shinji Shinoda, Geng Pai Li, Zenichiro Kato, Tadao Orii: Immunoglobulin-secreting cells in primary immunodeficiency diseases. *J Invest Allergol Clin Immunol* 3, 265-267 (1993)

Mitsuru Yano, Naomi Kondo, Ryosuke Inoue, Zenichiro Kato, Tadao Orii: Long-term study of the IgM deficiency of Wiskott-Aldrich syndrome. *Pediatric Asthma, Allergy & Immunology* 7, 157-161 (1993)

Naoki Kuwabara, Naomi Kondo, Osamu Fukutomi, Hiroatsu Agata, Tadao Orii: Evaluation of patch test with dimethylsulfoxide in association with lymphocyte proliferation in food-sensitive atopic dermatitis. *Pediatric Asthma, Allergy & Immunology* 7, 173-178 (1993)

Naomi Kondo, Hiroatsu Agata, Osamu Fukutomi, Tsukako Kameyama, Tadao Orii: Suppressive effects of an anti-allergic drug: Azelastine hydrochloride on interferon-production of lymphocytes to food antigens in patients with food-sensitive atopic dermatitis. *Pediatric Asthma, Allergy & Immunology* 7, 163-166 (1993)

Naomi Kondo: Inhibition of proliferative responses of lymphocytes to food antigens by an anti-allergic drug, N (3', 4'-dimethoxycinnamoyl) anthranilic acid (Tranilast) in children with atopic dermatitis. *Dermatology Digest* 1, 5-6 (1993)

Naomi Kondo: Inhibition of proliferative responses of lymphocytes to food antigens by an anti-allergic drug, N (3', 4'-dimethoxycinnamoyl) anthranilic acid (Tranilast) in children with atopic dermatitis. *Clinical Digest Series*, 1091 (1993)

Naomi Kondo: Accelerated expression of secreted alpha-chain gene in anaphylactoid purpura. *Allergy Digest* 2, 30-31 (1993)

Naomi Kondo: Cord blood lymphocyte responses to food antigens for prediction of allergic disorders. *Allergy Digest* 3, 9-10 (1993)

Naomi Kondo: Improvement of food-sensitive atopic dermatitis accompanied by reduced lymphocyte responses to food antigen following natural measles virus infection. *Dermatology Digest* 4, 8 (1993)

Hiroatsu Agata, Naomi Kondo, Osamu Fukutomi, Shinji Shinoda, Tadao Orii: Effect of elimination diets on food-specific IgE antibodies and lymphocyte proliferative responses to food antigens in atopic dermatitis patients exhibiting sensitivity to food allergens. *Dermatology Digest* 8, 7-8 (1993)

Naomi Kondo, Ryosuke Inoue, Tadao Orii: Common variable immunodeficiency due to failure in synthesis of germline C_H transcripts by interleukin-4. *Lymphokine and Cytokine Research* 12, 365 (1993)

Osamu Fukutomi, Naomi Kondo, Hiroatsu Agata, Shinji Shinoda, Naoki Kuwabara, Mitsuyoshi Shinbara, Tadao Orii: Chemotactic factors on atopic dermatitis who are sensitive to hen's egg. *Lymphokine and Cytokine Research* 12, 364 (1993)

Naoki Kuwabara, Naomi Kondo, Hiroatsu Agata, Osamu Fukutomi, Tadao Orii: Relationship between interferon- γ , interleukin-4 and IgE production of lymphocytes from hen egg-sensitive patients. *Lymphokine and Cytokine Research* 12, 364 (1993)

Fumiaki Motoyoshi, Naomi Kondo, Tadao Orii: Bisected N-acetylglucosamine residue of biantennary sugar chains and high-molecular-weight oligosaccharides of neuroblastoma cell membranes. *Tumor Biol* 14, 334-337 (1993)

Kyosuke Mushiake, Fumiaki Motoyoshi, Naomi Kondo, Tadao Orii: μ -chain gene expression in common variable immunodeficiency. *Exp Clin Immunogenet* 10, 189-194 (1993)

Naomi Kondo, Ryosuke Inoue, Shinji Shinoda, Tadao Orii: Immunoglobulin-secreting cells in healthy peripheral blood mononuclear cells. *J Invest Allergol Clin Immunol* 3, 330-332 (1993)

Naomi Kondo, Hiroatsu Agata, Geng Pai LI, Shunji Tomatsu, Nobuyuki Shimozawa, Yasuyuki Suzuki, Yoshihiro Nakashima, Toshinori Hori, Atsushi Yamagishi, Tatsuya Ogawa, Hideki Iwata, Tadao Orii: Correlations between serum immunoglobulin concentrations and immunoglobulin secreting cells in healthy peripheral blood. *Pediatric Asthma, Allergy & Immunology* 7, 239-242 (1993)

Toshifumi Aoyama, Kenji Tsushima, Masayoshi Souri, Takehiko Kamijo, Yasuyuki Suzuki, Nobuyuki Shimozawa, Tadao Orii, Takashi Hashimoto: Molecular cloning and functional expression of a human peroxisomal acyl-coenzyme A oxidase. *Biochem Biophys Res Commun* 198, 1113-1118 (1994)

Mitsuo Masuno, Nobuyuki Shimozawa, Yasuyuki Suzuki, Naomi Kondo, Tadao Orii, Toshiro Tsukamoto, Takashi Osumi, Yukio Fujiki, Kiyoshi Imaizumi, Yoshikazu Kuroki: Assignment of the human peroxisome assembly factor-1 gene (PXP3) responsible for Zellweger syndrome to chromosome 8q21. 1 by fluorescence in situ hybridization. *Genomics* 20, 141-142 (1994)

Yasuyuki Suzuki, Nobuyuki Shimozawa, Shigehiro Yajima, Shunji Tomatsu, Naomi Kondo, Yukikatsu Nakada, Shinjiro Akaboshi, Mizue Iai, Yuzo Tanabe, Takashi Hashimoto, R. J. A. Wanders, R. B. H. Schutgens, H. W. Moser, Tadao Orii: Novel subtype of peroxisomal acyl-CoA oxidase deficiency and bifunctional enzyme deficiency with detectable enzyme protein, identification by means of complementation analysis. *Am J Hum Genet* 54, 36-43 (1994)

Atsushi Imamura, Atsushi Kamei, Yasuyuki Suzuki, Tadao Orii, Sachio Takashima: Developmental immunohistochemistry of bifunctional protein in human brain. *Brain*

Research 640, 236-239 (1994)

Yoshihiro Nakashima, Shunji Tomatsu, Toshinori Hori, Seiji Fukuda, Kazuko Sukegawa, Naomi Kondo, Yasuyuki Suzuki, Nobuyuki Shimozawa, Tadao Orii: Mucopolysaccharidosis , molecular cloning of the human N-acetyl-galactosamine 6-sulfatase (GALNS) gene and analysis of the 5'-flanking region. *Genomics* 20, 99-104 (1994)

Ozawa T, Kondo N, Kato Y, Motoyoshi F, Suzuki Y, Shimozawa N, Kasahara K, Orii T: A wild type μ s C-terminal gene is expressed in Bloom's syndrome cells. *Eur J Immunogenetics* 21, 133-139 (1994)

Atsushi Uchiyama, Shunji Tomatsu, Naomi Kondo, Yasuyuki Suzuki, Nobuyuki Shimozawa, Seiji Fukuda, Kazuko Sukegawa, Norio Taki, Hideki Inamori, Tadao Orii: New Gaucher disease mutations in exon 10: a novel L444R mutation produces a new NciI site the same as L444P. *Hum Mol Genet* 3, 1183-1184 (1994)

Shunji Tomatsu, Seiji Fukuda, Tatsuya Ogawa, Zenichiro Kato, Kouji Isogai, Naomi Kondo, Yasuyuki Suzuki, Nobuyuki Shimozawa, Kazuko Sukegawa, Tadao Orii: A novel splice site mutation in intron 1 of the GALNS gene in a Japanese patient with mucopolysaccharidosis A. *Hum Mol Genet* 3, 1427-1428 (1994)

S. Tomatsu, S. Fukuda, A. Uchiyama, T. Hori, Y. Nakashima, N. Kondo, Y. Suzuki, N. Shimozawa, K. Sukegawa, T. Orii: Molecular analysis by southern blot for the N-acetylgalactosamine-6-sulphate sulphatase gene causing mucopolysaccharidosis A in the Japanese population. *J Inher Metab Dis* 17, 601-605 (1994)

N. Kondo, K. Kasahara, T. Kameyama, Y. Suzuki, N. Shimozawa, S. Tomatsu, Y. Nakashima, T. Hori, A. Yamagishi, T. Ogawa, H. Iwata, Y. Takahashi, R. Takenaka, K. Watanabe, M. Haga, T. Orii: Intravenous immunoglobulins suppress immunoglobulin productions by suppressing Ca²⁺-dependent signal transduction through Fc γ -receptors in B lymphocytes. *Scand J Immunol* 40, 37-42 (1994)

A. Imamura, R. Ito, S. Tanaka, O. Fukutomi, N. Shimozawa, M. Nishimura, Y. Suzuki, N. Kondo, M. Yamada, T. Orii: High-intensity proton and T2-weighted MRI signals in the globus pallidus in juvenile-type of dantatorubral and pallidoluysian atrophy. *Neuropediatrics* 25, 234-237 (1994)

Naomi Kondo, Akira Takao, Shunji Tomatsu, Nobuyuki Shimosawa, Yasuyuki Suzuki, Tatsuya Ogawa, Hideki Iwata, Tadao Orii: Suppression of IgA production by lymphocytes induced by diphenylhydantoin. *J Invest Allergol Clin Immunol* 4, 255-257 (1994)

Toshiro Tsukamoto, Nobuyuki Shimosawa, Yukio Fujiki: Peroxisome assembly factor 1: Nonsense mutation in a peroxisome-deficient chinese hamster ovary cell mutant and deletion analysis. *Molecular and Cellular Biology* 14, 5458-5465 (1994)

Kuno K, Sukegawa K, Ishikawa Y, Orii T, Matsushima K: Acid sphingomyelinase is not essential for the IL-1 and tumor necrosis factor receptor signaling pathway leading to NFkB activation . *International Immunology* 6, 1269-1272 (1994)

Uchiyama A, Suzuki Y, Song X-Q, Fukao T, Imamura A, Tomatsu S, Shimosawa N, Kondo N, Orii T: Identification of a nonsense mutation in ALD protein cDNA from a patient with Adrenoleukodystrophy. *Biochem Biophys Res Commun* 198, 632-636 (1994)

Fukao T, Yamaguchi S, Wakazono S, Orii T, Hoganson G, Hashimoto T: Identification of a novel exonic mutation at -13 from 5' splice site causing exon skipping in a girl with mitochondrial acetoacetyl-coenzyme A thiolase. *J Clin Invest* 93, 1035-1041 (1994)

Song X-Q, Fukao T, Yamaguchi S, Miyazawa S, Hashimoto T, Orii T: Molecular cloning and nucleotide sequence of complementary DNA for human hepatic cytosolic acetoacetyl-coenzyme A thiolase. *Biochem Biophys Res Commun* 201, 478-485 (1994)

Ambrose HJ, Byrd PJ, McConville CM, Cooper PR, Stankovic T, Riley JH, Shiloh Y, McNamara JO, Fukao T, Taylor MR: A physical map across chromosome 11q22-q23 containing the major locus for ataxia telangiectasia. *Genomics* 21, 612-619 (1994)

Hiroatsu Agata, Naomi Kondo, Osamu Fukutomi, Terue Hayashi, Shinji Shinoda, Takashi Nishida, Akihiro Yomo, Yasuyuki Suzuki, Nobuyuki Shimosawa, Shunji Tomatsu, Tadao Orii: Comparison of allergic diseases and specific IgE antibodies in different parts of Japan. *Ann Allergy* 72, 447-451 (1994)

Hiroatsu Agata, Naomi Kondo, Akihiro Yomo, Takayuki Muraki, Shinji Shinoda, Osamu Fukutomi, Yoshihiro Kato, Takashi Nishida, Mitsuyoshi Shinbara, Tadao Orii: Sensitization

to sugar cane pollen in Okinawan allergic children. *Asian Pacific J Allergy Immunol* 12, 151-154 (1994)

Ken Watanabe, Naomi Kondo, Osamu Fukutomi, Tsuyoshi Takami, Hiroatsu Agata, Tadao Orii: Characterization of infiltrating CD4 + cells in atopic dermatitis using CD45R and CD29 monoclonal antibodies. *Ann Allergy* 72, 39-44 (1994)

Naomi Kondo, Osamu Fukutomi, Tsukako Kameyama, Takashi Nishida, Geng Pai Li, Hiroatsu Agata, Mitsuyoshi Shinbara, Shinji Shinoda, Mitsuru Yano, Tadao Orii: Suppression of proliferative responses of lymphocytes to food antigens by an anti-allergic drug, Ketotifen fumarate, in patients with food-sensitive atopic dermatitis. *Int Arch Allergy Immunol* 103, 234-238 (1994)

O. Fukutomi, N. Kondo, H. Agata, S. Shinoda, N. Kuwabara, M. Shinbara, R. Inoue, T. Orii: Identification of monocyte chemotactic factors in supernatants of ovalbumin-stimulated lymphocytes from patients with atopic dermatitis who are sensitive to hen's egg. *Clin Exp Allergy* 24, 359-366 (1994)

Naomi Kondo, Hiroatsu Agata, Osamu Fukutomi, Tsukako Kameyama, Yasuyuki Suzuki, Nobuyuki Shimozawa, Shunji Tomatsu, Yoshihiro Nakashima, Toshinori Hori, Atsushi Yamagishi, Shinji Shinoda, Yukitoshi Takahashi, Tadao Orii: Effects of the antiallergic drug azelastine hydrochloride on proliferative responses of lymphocytes to food antigens in patients with food-sensitive atopic dermatitis. *J Invest Allergol Clin Immunol* 4, 67-70 (1994)

N. Kondo et al.: Reduced responses of peripheral blood lymphocytes to heat-denatured food antigens in food-sensitive atopic dermatitis. *Dermatology Digest* 4, 10-11 (1994)

Osamu Fukutomi, Naomi Kondo, Hiroatsu Agata, Shinji Shinoda, Naoki Kuwabara, Mitsuyoshi Shinbara, Tadao Orii: Timing of onset of allergic symptoms as a response to a double-blind, placebo-controlled food challenge in patients with food allergy combined with a radioallergosorbent test and the evaluation of proliferative lymphocyte response. *Int Arch Allergy Immunol* 104, 352-357 (1994)

M. Yamazaki, O. Fukutomi, N. Kondo, Y. Nakashima, S. Shinoda, H. Agata, T. Kondo, N. Imaeda, T. Orii: The design of oral sustained-release theophylline dosing after conversion from intravenous to oral therapy. *Int J Clin Pharma Therapeu* 32, 625-631 (1994)

Yuki Kobayashi, Naomi Kondo, Shinji Shinoda, Hiroatsu Agata, Osamu Fukutomi, Tadao Orii: Predictive values of cord blood IgE and cord blood lymphocyte responses to food antigens in allergic disorders during infancy. *J Allergy Clin Immunol* 94, 907-916 (1994)

Kato Z, Asano J, Kato T, Yamaguchi S, Kondo N and Orii T: Thyroid cancer in a case with the Alagille syndrome. *Clin Genet* 45, 21-24 (1994)

Kato Z, Kato T, Kondo N and Orii T: Renal failure and long-term survival in Wiskott-Aldrich syndrome. *Pediatric Asthma, Allergy & Immunology* 8, 47-49 (1994)

Kato Z, Fukutomi O, Yamazaki M, Kondo N, Imaeda N and Orii T: Prediction of steady-state serum theophylline concentration in children by first-order and zero-order absorption models. *Int J Clin Pharmacol Ther Toxicol* 32, 231-234 (1994)

Fumiaki Motoyoshi, Naomi Kondo, Shoko Iwata, Tomomi Kato, Tuyoshi Takami, Tadao Orii: A case of Bloom's syndrome with malignant lymphoma. *Pediatric Asthma, Allergy & Immunology* 8, 227-231 (1994)

Sousuke Terazawa, Naomi Kondo and Tadao Orii: Significance of Measurement of Per-S2 antigen for the Prevention of Vertical Transmission of Hepatitis B Virus in infants born to HBsAg Carrier Mothers. *Acta Paediatrica* 83, 30-34 (1994)

Kyosuke Musiake, Fumiaki Motoyoshi, Naomi Kondo, Hiroyuki Shimizu, Tadao Orii: Long-term follow up patients with common variable immunodeficiency treated with intravenous immunoglobulin: Reevaluation of intravenous immunoglobulin replacement therapy. *Biotherapy* 7, 101-107 (1994)

Tatsuya Ogawa, Shunji Tomatsu, Seiji Fukuda, Atsushi Yamagishi, Golam Md. Maruf Rezvi, Kazuko Sukegawa, Naomi Kondo, Yasuyuki Suzuki, Nobuyuki Shimosawa, Tadao Orii: Mucopolysaccharidosis A: screening and identification of mutations of the N-acetylgalactosamine 6-sulfatase gene. *Hum Mol Genet* 4, 341-349 (1995)

Shunji Tomatsu, Seiji Fukuda, Atsushi Uchiyama, Toshinori Hori, Yoshinori Nakashima, Kazuko Sukegawa, Naomi Kondo, Yasuyuki Suzuki, Nobuyuki Shimosawa, Tadao Orii: Polymerase chain reaction detection of two novel human N-acetyl-galactosamine 6-sulfatase

gene polymorphism by single-strand conformation polymorphism analysis or by Styl and Stul cleavages. *Hum Genet* 95, 243-244 (1995)

Shunji Tomatsu, Seiji Fukuda, Alan Cooper, James E. Wraith, Golam Md. Maruf Rezvi, Atsushi Yamagishi, Naoto Yamada, Zenichiro Kato, Koji Isogai, Kazuko Sukegawa, Naomi Kondo, Yasuyuki Suzuki, Nobuyuki Shimozawa, Tadao Orii: Mucopolysaccharidosis type A: identification of six novel mutations among non-Japanese patients. *Hum Mol Genet* 4, 741-743 (1995)

Hideki Iwata, Shunji Tomatsu, Seiji Fukuda, Atsushi Uchiyama, G.M.M. Rezvi, Tatsuya Ogawa, Toshinori Hori, Yoshihiro Nakashima, Atsushi Yamagishi, Kazuko Sukegawa, Nobuyuki Shimozawa, Yasuyuki Suzuki, Naomi Kondo, Tadao Orii: Mucopolysaccharidosis A: polymorphic haplotypes and informative RFLPs in the Japanese population. *Hum Genet* 95, 257-264 (1995)

A. Poulos, J. Christodoulou, C. W. Chow, J. Goldblatt, B. C. Paton, T. Orii, Y. Suzuki, N. Shimozawa: Peroxisomal assembly defects: clinical, pathologic, and biochemical findings in two patients in a newly identified complementation group. *J Pediatr* 127, 596-599 (1995)

X-Q. Song, T. Fukao, Y. Suzuki, A. Imamura, A. Uchiyama, N. Shimozawa, N. Kondo, T. Orii: Identification of a novel frameshift mutation in a Japanese adrenoleukodystrophy patient. *Hum Mol Genet* 4, 1093-1094 (1995)

Nobue Shinnoh, Takeshi Yamada, Takeo Yoshimura, Hirokazu Furuya, Yoshihiro Yoshida, Yasuyuki Suzuki, Nobuyuki Shimozawa, Tadao Orii, Takuro Kobayashi: Adrenoleukodystrophy: The restoration of peroxisomal α -oxidation by transfection of normal cDNA. *Biochem Biophys Res Commun* 210, 830-836 (1995)

Toshinori Hori, Shunji Tomatsu, Yoshihiro Nakashima, Atsushi Uchiyama, Seiji Fukuda, Kazuko Sukegawa, Nobuyuki Shimozawa, Yasuyuki Suzuki, Naomi Kondo, Terumi Horiuchi, Satoshi Ogura, Tadao Orii: Mucopolysaccharidosis type A: common double deletion in the N-acetyl-galactosamine-6-sulphatase gene. (GALNS). *Genomics* 26, 535-542 (1995)

Atsushi Imamura, Atsushi Kamei, Yasuyuki Suzuki, Naomi Kondo, Tadao Orii, Sachio Takashima: Immunohistochemistry for a bifunctional protein in patients with peroxisomal disorders. *Pediatric Neurology* 12, 341-345 (1995)

Shunji Tomatsu, Seiji Fukuda, Alan Cooper, James E. Wraith, Golam Md. Maruf Rezvi, Atsushi Yamagishi, Naoto Yamada, Zenichiro Kato, Kouji Isogai, Kazuko Sukegawa, Naomi Kondo, Yasuyuki Suzuki, Nobuyuki Shimozawa, Tadao Orii: Mucopolysaccharidosis A: identification of a common missense mutation I113F in the N-acetylgalactosamine-6-sulphate sulphatase gene. *Am J Hum Genet* 57, 556-563 (1995)

Shunji Tomatsu, Seiji Fukuda, Alan Cooper, James E. Wraith, Naoto Yamada, Kouji Isogai, Zenichiro Kato, Kazuko Sukegawa, Naomi Kondo, Yasuyuki Suzuki, Nobuyuki Shimozawa, Tadao Orii: Two new mutations, Q473X and N487S, in a Caucasian patient with Mucopolysaccharidosis A (Morquio disease). *Human Mutation* 6, 195-196 (1995)

Toshiro Tuskamoto, Satoshi Miura, Toshiki Nakai, Sadaki Yokota, Nobuyuki Shimozawa, Yasuyuki Suzuki, Tadao Orii, Yukio Fujiki, Fumie Sakai, Akemi Bogaki, Hiroaki Yasumo, Takashi Osumi: Peroxisome assembly factor-2 ; a putative ATPase cloned by functional complementation on a peroxisome-deficient mammalian cell mutant. *Nature Genetics* 11, 395-401 (1995)

Kazuko Sukegawa, Shunji Tomatsu, Toshiyuki Fukao, Hideki Iwata, Xiang-Qian Song, Yukiji Yamada, Seiji Fukuda, Kouji Isogai and Tadao Orii: Mucopolysaccharidosis type (Hunter disease): Identification and characterization of eight point mutations in the iduronate-2-sulfatase gene in Japanese patients. *Hum Mutat* 6, 136-143 (1995)

Ishii N, Oohira T, Sakuraba H, Endo F, Matsuda I, Sukegawa K, Orii T, Suzuki Y: Clinical and molecular analysis of a Japanese boy with Morquio B disease. *Clin Genet* 48, 103-108 (1995)

Fukao T, Song X-Q, Yamaguchi S, Orii T, Wanders RJA, Poll-The BT, Hashimoto T: Mitochondrial acetoacetyl-coenzyme A thiolase gene: a novel 68-bp deletion involving 3' splice site of intron 7, causing exon 8 skipping in a Caucasian patient with beta-ketothiolase deficiency. *Hum Mutat* 5, 94-96 (1995)

Wakazono A, Fukao T, Yamaguchi S, Hori T, Orii T, Lambert M, Mitchell GA, Lee GW, Hashimoto T: Molecular and biochemical, and clinical characterization of mitochondrial acetoacetyl-coenzyme A thiolase deficiency in two further patients. *Hum Mutat* 5, 34-42 (1995)

Fukao T, Wakazono A, Song X-Q, Yamaguchi S, Zacharias R, Donlan MA, Orii T: Prenatal Diagnosis in a family with mitochondrial acetoacetyl-coenzyme A thiolase deficiency with the use of the polymerase chain reaction followed by the heteroduplex detection method. *Prenatal Diagnosis* 15, 363-367 (1995)

Watanabe H, Yamaguchi S, Saiki K, Shimizu N, Fukao T, Kondo N, Orii T: Identification of D-enantiomer of 2-hydroxyglutaric acid in glutaric aciduria type . *Clin Chim Acta* 238, 115-124 (1995)

Sakazaki H, Hirayama K, Murakami S, Yonezawa S, Shintaku H, Sawada Y, Fukao T, Watanabe H, Orii T, Isshiki G: A new Japanese case of succinyl-CoA, 3-ketoacid CoA-transferase deficiency. *J Inher Metab Dis* 18, 323-325 (1995)

Kondo N, Inoue R, Kasahara K, Kaneko H, Kameyama T, Orii T: Failure of IgG production due to a defect in the opening of the chromatin structure of Ig1 region in a patient with IgG and IgA deficiency. *Clin Exp Immunol* 99, 21-28 (1995)

Orii KO, Aoyama T, Souri M, Orii KE, Kondo N, Orii T, Hashimoto T: Genomic DNA organization of human mitochondrial very-long-chain acyl-CoA dehydrogenase and mutation analysis. *Biochem. Biophys Res Commun* 217, 987-992 (1995)

Takashi Nishida, Naomi Kondo, Hiroatsu Agata, Osamu Fukutomi, Shinji Shinoda, Mitsuyoshi Shinbara, Tadao Orii: Evaluation of lymphocyte proliferative responses to case in hydrolysate formula in cow's milk-sensitive children: Response of peripheral blood mononuclear cells to hydrolysate formula. *J Invest Allergol Clin Immunol* 5, 86-90 (1995)

Satoko Iida, Naomi Kondo, Hiroatsu Agata, Shinji Shinoda, Mitsuyoshi Shinbara, Takashi Nishida, Osamu Fukutomi, Tadao Orii: Differences in lymphocyte proliferative responses to food antigens and specific IgE antibodies to foods with age among food-sensitive patients with atopic dermatitis. *Ann Allergy Asthma Immunol* 74, 334-340 (1995)

Hidehiko Fujii, Naomi kondo, Hiroatsu Agata, Osamu Fukutomi, Shinji Shinoda, Naoki Kuwabara, Shunji Tomatsu, Tomio Kondo, Ryosuke Inoue, Tadao Orii: Genetic analysis of IgE and the IGHE, IGHEP1 and IGHEP2 genes in atopic dermatitis. *Int Arch Allergy Immunol* 106, 62-68 (1995)

Mitsuyoshi Shinbara, Naomi Kondo, Hiroatsu Agata, Osamu Fukutomi, Takashi Nishida, Yuki Kobayashi, Tadao Orii: T cell proliferation restricted by HLA class II molecules in patients with hen's egg allergy. *Exp Clin Immunogenet* 12, 103-110 (1995)

Takashi Nishida, Naomi Kondo, Hiroatsu Agata, Osamu Fukutomi, Shinji Shinoda, Yasuyuki Suzuki, Nobuyuki Shimozawa, Shunji Tomatsu, Tadao Orii: Proliferative responses to native, heat-denatured and pepsin-treated ovalbumin by peripheral blood mononuclear cells from patients with hen's egg-sensitive atopic dermatitis. *Biotherapy* 8, 33-40 (1995)

Naomi kondo, Shinji Shinoda, Osamu Fukutomi, Hiroatsu Agata, Satoko Iida, Tadao Orii: Variable proliferation of peripheral blood mononuclear cells to house dust or mites in patients with bronchial asthma. *Pediatric Asthma, Allergy & Immunology* 9, 103-106 (1995)

Terue Hayashi, Norito Kawakami, Naomi Kondo, Hiroatsu Agata, Osamu Fukutomi, Hiroyuki Shimizu, Tadao Orii: Prevalence of and risk factors for allergic diseases: comparison of two cities in Japan. *Ann Allergy Asthma Immunol* 75, 525-529 (1995)

Ryosuke Inoue, Naomi Kondo, Yuki Kobayashi, Osamu Fukutomi, Tadao Orii: IgG2 deficiency associated with defects in production of interferon-gamma; comparison with common variable immunodeficiency. *Scand J Immunol* 41, 130-134 (1995)

Ryosuke Inoue, Naomi Kondo, Naoki Kuwabara, Tadao Orii: Aberrant patterns of immunoglobulin levels in Wiskott-Aldrich syndrome. *Scand J Immunol* 41, 188-193 (1995)

Yukitoshi Takahashi, Hideo Shigematsu, Tateki Fujiwara, Kazuichi Yagi, Masakazu Seino: Self-induced photogenic seizures in a child with severe myoclonic epilepsy in infancy: Optical investigations and treatments. *Epilepsia* 36, 728-732 (1995)

Yukitoshi Takahashi, Hideo Shigematsu, Hidemoto Kubota, Yuushi Inoue, Tateki Fujiwara, Kazuichi Yagi, Masakazu Seino: Nonphotosensitive video game-induced partial seizures. *Epilepsia* 36, 837-841 (1995)

Yukitoshi Takahashi, Tateki Fujiwara, Kazuichi Yagi, Masakazu Seino: Wavelength specificity of photoparoxysmal responses in idiopathic generalized epilepsy. *Epilepsia* 36, 1084-1088 (1995)

Mitsuru Yano, Naomi Kondo, Yoshihiro Kato, Shinji Shinoda, Ryosuke Inoue, Tadao Orii: Expression of surrogate light chain in common variable immunodeficiency. *Experimental and Clinical Immunogenetics* 12, 1-9 (1995)

Toshinori Hori, Shunji Tomatsu, Yoshihiro Nakashima, Atsushi Uchiyama, Seiji Fukuda, Kazuko Sukegawa, Nobuyuki Shimozawa, Yasuyuki Suzuki, Naomi Kondo, Terumi Horiuchi, Satoshi Ogura, Tadao Orii: Mucopolysaccharidosis Type A: Common double deletion in the N-acetylgalactosamine-6-sulfatase gene (GALNS). *Genomics* 26, 535-542 (1995)

Fumiaki Motoyoshi, Naomi Kondo, Sousuke Terasawa, Tadao Orii: Impaired response to HBcAg in a hepatitis B virus carrier. *J Invest Allergol Clin Immunol* 5, 350-353 (1995)

Naoki Kuwabara, Naomi Kondo, Osamu Fukutomi, Hidehiko Fujii, Tadao Orii: Methylation patterns of I region in B cells stimulated with interleukin 4 and Epstein-Barr virus in patients with a high level of serum IgE. *European Journal of Immunogenetics* 33, 265-275 (1995)

Naoki Kuwabara, Naomi Kondo, Osamu Fukutomi, Hiroatsu Agata, Tadao Orii: Relationship between interferon- γ , interleukin-4 and IgE production of lymphocytes from hen's egg-sensitive patients. *J Invest Allergol Clin Immunol* 5, 198-204 (1995)

Nobuyuki Shimozawa, Yasuyuki Suzuki, Shinji Tomatsu, Toshiro Tsukamoto, Takashi Osumi, Yukio Fujiki, Keiju Kamijo, Takashi Hashimoto, Naomi Kondo, Tadao Orii: Correction by gene expression of biochemical abnormalities in fibroblasts from Zellweger patients. *Pediatr Res* 39, 812-815 (1996)

Tomatsu S, Fukuda S, Yamagishi A, Cooper A, Wraith JE, Kato Z, Yamada N, Isogai K, Sukegawa K, Kondo N, Suzuki Y, Shimozawa N, Orii T: Mucopolysaccharidosis 4 A: Four new exonic mutations in patients with N-acetylgalactosamine-6-sulfate sulfatase deficiency. *American Journal of Human Genetics* 58, 950-962 (1996)

Yamagishi A, Tomatsu S, Fukuda S, Uchiyama A, Shimozawa N, Suzuki Y, Kondo N, Sukegawa K, Orii T: Mucopolysaccharidosis Type I: Identification of common mutations that cause Hurler and Scheie syndromes in Japanese populations. *Human Mutation* 7, 23-29 (1996)

Imamura A, Suzuki Y, Song X-Q, Fukao T, Shimozawa N, Orii T, Kondo N: Prenatal

Diagnosis of adrenoleukodystrophy by means of mutation analysis. *Prenatal Diagnosis* 16, 259-261 (1996)

Orii KE, Aoyama T, Souri M, Jiang LL, Orii KO, Hayashi S, Yamaguchi S, Kondo N, Orii T, Hashimoto T: Formation of the enzyme complex in the mitochondria is required for function of the trifunctional protein. *Biochem Biophys Res Commun* 219, 773-777 (1996)

Fukuda S, Tomatsu S, Masuno M, Ogawa T, Yamagishi A, Rezvi GM, Sukegawa K, Kondo N, Suzuki Y, Shimozawa N, Orii T: Mucopolysaccharidosis A: submicroscopic deletion of 16q24.3 and a novel R386C mutation of N-acetylgalactosamine-6-sulfatase gene in a classical Morquio disease. *Human Mutation* 7, 123-134 (1996)

Homma A, Ikeda H, Ishii R, Sukegawa K, Hayasaka K: Multiple sulfatase deficiency and carotenaemia. *J Inher Metab Dis* 19, 88-89 (1996)

Fukao T, Song X-Q, Yamaguchi S, Hashimoto T, Orii T, Kondo N: Immunotitration analysis of cytosolic acetoacetyl-CoA thiolase activity in human fibroblasts. *Pediatr Res* 39, 1055-1058 (1996)

Fukao T, Song X-Q, Watanabe H, Hirayama K, Sakazaki H, Shintaku H, Imanaka M, Orii T, Kondo N: Prenatal diagnosis of succinyl-coenzyme A: 3-ketoacid coenzyme A transferase deficiency. *Prenatal Diagnosis* 16, 471-474 (1996)

Cole DEC, Fukuda S, BA Gordon, JW Rip, AN LeCouteur, CA Rugar, Tomatsu S, Ogawa T, Sukegawa K, Orii T: Heteroallelic missense mutations of the galactosamine-6-sulfate sulfatase (GALNS) gene in a mild form of Morquio disease (MPS A). *Am J Med Genet* 63, 558-565 (1996)

Fukao T, Song X-Q, Yamaguchi S, Kondo N, Orii T, Matthieu J-M, Bachmann C, Hashimoto T: Identification of three novel frameshift mutations (83delAT, 754indCT, and 435 + 1G to A) of mitochondrial acetoacetyl-coenzyme A thiolase gene in two Swiss patients with CRM-negative betaketothiolase deficiency. *Hum Mutat* (in press)

Kaneko H, Inoue R, Yamada U, Kasahara K, Takami T, Kondo N: Ataxia telangiectasia syndrome with B cell lymphoma. *Clinical Genetics* 49, 331-332 (1996)

Kaneko H, Katagiri-Kawade M, Motoyoshi F, Tashita H, Teramoto T, Kondo N: Abnormal B cell response of protein kinase C in some common variable immunodeficiency. *Experimental and Clinical Immunogenetics* 13, 36-42 (1996)

Fukuda S, Tomatsu S, Cooper A, Wraith JE, Kato Z, Yamada N, Isogai K, Sukegawa K, Orii T: Mucopolysaccharidosis A: Three novel small deletions in the N-acetylgalactosamine-6-sulfate sulfatase gene. *Human Mutation* 8, 187-190 (1996)

Shinbara M, Kondo N, Agata H, Fukutomi O, Kuwabara N, Kobayashi Y, Miura M, Orii T: Interferon- and interleukin-4 production of ovalbumin-stimulated lymphocytes in egg-sensitive children. *Ann Allergy* 77, 60-66 (1996)

Kondo N, Shinoda S, Fukutomi O, Agata H, Iida S, Orii T: Variable proliferation of peripheral blood mononuclear cells to house dust or mites in patients with bronchial asthma. *Allergy Digest* (in press)

Suzuki Y, Zhang Z, Shimozawa N, Orii T, Kondo N: Use of buccal smears for rapid detection of peroxisomes. *Eur J Pediatr* (in press)

Fukao T, Sakai S, Shimozawa N, Kuwahara T, Kano M, Goto M, Nakashima Y, Katagiri-Kawade M, Ichihashi H, Masuno M, Orii T, Kondo N: Life threatening cardiac involvement throughout life in a case of Costello syndrome. *Clin Genet* (in press)

Fukao T, Kodama A, Aoyanagi N, Tsukino R, Uemura S, Song X-Q, Watanabe H, Kuhara T, Orii T, Kondo N: Mild form of beta-ketothiolase deficiency (mitochondrial acetoacetyl-CoA thiolase deficiency) in two Japanese siblings: identification of detectable residual activity and cross-reactive material in EB-transformed lymphocytes. *Clin Genet* (in press)

Rezvi GMM, Tomatsu S, Fukuda S, Yamagishi A, Cooper A, Wraith JE, Iwata H, Kato Z, Yamada N, Sukegawa K, Shimozawa N, Suzuki Y, Kondo N, Orii T: Mucopolysaccharidosis A: A comparative study of polymorphic DNA haplotypes in the Caucasian and Japanese populations. *J Inher Metab Dis* 19, 301-308 (1996)

Yasuyuki Suzuki, Nobuyuki Shimozawa, Yukitoshi Takahashi, Atsushi Imamura, Naomi Kondo, Tadao Orii: Peroxisomal disorders: clinical aspects. *Ann N.Y. Acad Sci* (in press)

Mitsuo Masuno, Toshiyuki Fukao, Xiang-Qian Song, Seiji Yamaguchi, Tadao Orii, Naomi Kondo, Kiyoshi Imaizumi, Yoshikazu Kuroki: Assignment of the human cytosolic acetoacetyl-coenzyme A thiolase (ACAT 2) gene to chromosome 6q25.3-q26 . Genomics 36, 217-218 (1996)

Sacha Kassovska-Bratinoba, Toshiyuki Fukao, Xiang-Qian Song, Alessandra M.V.Duncan, Hai Sciene Chen, Marie-France Robert, C.Perez-Cerda, M.Ugarte, Pierre Chartrand, Suzanne Vobecky, Naomi Kondo, Grant A Mitchell: Succinyl CoA: 3-Oxoacid CoA transferase (SCOT): human cDNA cloning, human chromosomal mapping to 5p13, and mutation detection in a SCOT-deficient patient . Am J Hum Genet (in press)

Toshiyuki Fukao, Hideo Kaneko, Takahide Teramoto, Hideaki Tashita, Naomi Kondo: Association between Fc ϵ RI and atopic disorder in Japanese population . Lancet 348, 407 (1996)

その他

折居忠夫, 下沢伸行, 鈴木康之, 塚本利朗, 藤木幸夫 : ペルオキシソーム欠損症の成因と病態に関する研究. 厚生省特定疾患「酸素障害調査研究班」平成 4 年度研究報告書, 5-7 (1993)

折居忠夫, 鈴木康之, 下沢伸行, 矢嶋茂裕, 塚本利朗, 藤木幸夫 : Zellweger 症候群. 厚生省精神・神経疾患研究「代謝障害に基づく中枢神経疾患の発症機構と治療に関する研究班」平成 4 年度研究報告書, 83-87 (1993)

鈴木康之 : 副腎白質ジストロフィーの成因と治療に関する研究. 母子健康協会 第 4 回 研究助成報告書, 1-4 (1993)

近藤直実, 桑原直樹, 藤井秀比古, 福富 悌, 伊上良輔, 縣 裕篤, 篠田紳司, 新原光善, 折居忠夫 : 気管支喘息をはじめとするアレルギー疾患の IgE 産生調節機構の免疫遺伝学的研究. 公害健康被害補償予防協会委託業務報告書, 気管支喘息の免疫遺伝に関する研究報告書 1992, 三河春樹研究班, 44-69 (1993)

近藤直実, 小林由季, 篠田紳司, 福富 悌, 縣 裕篤, 折居忠夫 : 小児アレルギー発症の背景と予知 第 1 編 臍帯血リンパ球を用いたアレルギー発症予知とその解析に関する研究. 公害健康被害補償予防協会委託業務報告書 小児気管支ぜん息の発症背景因子に関する研究報告書 1992, 42-52 (1993)

近藤直実, 篠田紳司, 縣 裕篤, 西田 隆, 福富 悌, 折居忠夫: 小児アレルギー発症の背景と予知 第 2 編 抗原特異的リンパ球幼若化反応を用いた発症早期におけるアレルギー性疾患の経過予測. 公害健康被害補償予防協会委託業務報告書 小児気管支ぜん息の発症背景因子に関する研究報告書 1992, 53-78 (1993)

近藤直実, 縣 裕篤, 福富 悌, 折居忠夫: 小児アレルギー発症の背景と予知 第 3 編 小児アレルギー疾患の地域差. 公害健康被害補償予防協会委託業務報告書 小児気管支ぜん息の発症背景因子に関する研究報告書 1992, 79-91 (1993)

折居忠夫, 近藤直実, 縣 裕篤, 福富 悌, 篠田紳司, 小林由季, 岡本博之, 桑原直樹, 近藤富雄, 鷹尾 明: 気管支ぜん息等の発症に及ぼす環境因子及び個体因子に関する調査報告書. 公害健康被害補償予防協会委託業務報告書 1992. 岐阜大学医学部研究班 (小児科), 1-54 (1993)

近藤直実: 無 (低) ガンマグロブリン血症の B 細胞異常に関する遺伝子学的・生化学的研究. 平成 4 年度科学研究費補助金 (一般 C) 研究成果報告書, 1-85 (1993)

近藤直実, 柳原 誠: アトピーのおはなし, 岐阜県衛生環境部編, 1993

近藤直実: アレルギー疾患の手引, 岐阜県衛生環境部編, 1993

近藤直実: 乳幼児期に繰り返す上気道炎・中耳炎 免疫学的観点から . 日本小児科医会会報 No.8, 23-29 (1993)

近藤直実: こどもとアレルギー. 岐阜県小児科医会報 No.14, 10-12 (1993)

近藤直実: 食物アレルギーの病態と診断. 岐阜県小児科医会報 No.14, 44-46 (1993)

近藤直実: ぜん息とアレルギーの治療と対処. すこやかライフ 1993 春, 6-9 (1993)

近藤直実: 食物アレルギーの診断と治療. メディカルコーナー 93 No.2, 14-18 (1993)

寺澤総介, 近藤直実, 折居忠夫: 著明な肝脾腫と巨細胞性肝炎の所見を呈した輸血後慢性 C 型肝炎の乳児例. Minophagen Medical Review 38, 216-219 (1993)

近藤直実：食物アレルギーの診断と治療，ラジオたんぱ放送，1993年5月9日，東京。

折居忠夫，鈴木康之，下沢伸行，近藤直実，戸松俊治，橋本 隆：ペルオキシソーム 酸化系酵素単独欠損症の相補性解析による診断．厚生省特定疾患「酵素障害調査研究班」平成5年度研究報告書，66-68 (1994)

折居忠夫，下沢伸行，鈴木康之，中島芳博，升野光雄，塚本利朗，藤木幸夫：ペルオキシソーム形成遺伝子の解析およびペルオキシソーム欠損モデルマウス作製にむけて，厚生省精神・神経疾患研究委託費「中枢神経症状を呈する遺伝性代謝病の病態解明と予防・治療に関する研究班」平成5年度研究報告書，25-27 (1994)

近藤直実，小林由季，藤井秀比古，縣 裕篤，篠田紳司，福富 悌，折居忠夫：小児アレルギー疾患発症の背景と予知に関する研究 遺伝子学的検討も含めて ．公害健康被害補償予防協会委託業務，小児気管支ぜん息の発症背景因子に関する研究．平成5年度研究報告書，23-48 (1994)

大嶋勇成，眞弓光文，片村憲司，松本脩三，崎山幸雄，斎藤博久，近藤直実，吉田隆実，鶴田悟，須藤正克，平岡政弘，中村凱次，伊藤節子，三浦真理子，三河春樹：気管支喘息における血中 IgE, IL-4, 可溶性 CD23 値とその臨床的意義．公害健康被害補償予防協会委託業務，気管支喘息の免疫遺伝に関する研究．平成5年度研究報告書，13-23 (1994)

近藤直実，桑原直樹，藤井秀比古，福富 悌，縣 裕篤，篠田紳司，伊上良輔，Peregrina R . Lorenzo I, 折居忠夫：気管支喘息をはじめとするアレルギー疾患の IgE 産生調節機構の免疫遺伝学的研究．公害健康被害補償予防協会委託業務，気管支喘息の免疫遺伝に関する研究．平成5年度研究報告書，64-89 (1994)

鈴木康之，下沢伸行，折居忠夫：ペルオキシソーム形成因子 PAF - 1 の遺伝的欠損症に関する研究．興和生命科学振興財団研究報告 6, 168-172 (1995)

折居忠夫，鈴木康之，下沢伸行，深尾敏幸，福田誠司，今村 淳，内山 温，宋 向前：脂肪酸 酸化系酵素障害の成因と治療に関する研究．小野医学研究財団第6回研究成果報告集，55-61 (1995)

折居忠夫，下沢伸行，鈴木康之，近藤直実，橋本 隆，大隅 隆：ペルオキシソーム欠損症の病因解明に関する研究．厚生省特定疾患酵素障害調査研究班平成6年度研究報告書，11-13 (1995)

祐川和子, 岩田晶子, 折居忠夫, 久繁哲徳: ムコ多糖症スクリーニングの効果評価 (分担研究: スクリーニングの評価に関する研究) 厚生省心身障害研究, 新しいスクリーニングのあり方に関する研究. 平成 6 年度研究報告書, 104-106 (1995)

折居忠夫, 鈴木康之, 下沢伸行, 深尾敏幸, 福田誠司, 今村 淳, 内山 温, 宋 向前: 脂肪酸 酸化系酵素障害の成因と治療に関する研究. 小野医学研究財団第 6 回研究成果報告集, 55-61 (1995)

岩田晶子, 国立三恵, 祐川和子, 折居忠夫: ムコ多糖症マス・スクリーニングのパイロットスタディについて. 平成 7 年度厚生省心身障害研究「新しいスクリーニングのあり方に関する研究」報告書, 62-64 (1995)

折居忠夫, 近藤直実, 縣 裕篤, 西田 隆, 桐畑三弥子: 小児気管支喘息の運動療法に関する研究 剣道の素振りの効果 . 公害健康被害補償予防協会委託業務報告書 助成事業の効果的推進・発展に関する研究報告書 1994 年度, 299-310 (1995)

近藤直実: アトピーの病因遺伝子に関する研究. 厚生省小児医療研究委託費平成 6 年度研究報告書, 82, (1995)

近藤直実: 先天性免疫不全症候群の成因に関する遺伝子学的研究. 平成 6 年度科学研究費補助金 (一般 C) 研究成果報告書, 1-149 (1995)

近藤直実, 伊上良輔, 三輪由佳, 笠原貴美子, 折居忠夫: IgG2 欠乏症の病因に関する検討 第 1 報 . 厚生省特定疾患原発性免疫不全症候群調査研究班平成 6 年度研究報告書, 75-80 (1995)

近藤直実, 伊上良輔, 三輪由佳, 笠原貴美子, 折居忠夫: IgG2 欠乏症の病因に関する検討 第 2 報 . 厚生省特定疾患原発性免疫不全症候群調査研究班平成 6 年度研究報告書, 81-83 (1995)

加藤善一郎: 花粉症. かみのほ 171, 1995. 9

加藤善一郎: 発熱 坐薬の使用法を含めて . かみのほ 172, 1996. 5

折居忠夫: 遺伝子異常と耳鼻咽喉科疾患. 耳報 (号外), 57-63 (1996)

鈴木康之, 下沢伸行, 近藤直実, 折居忠夫, 塚本利朗, 大隅 隆, 藤木幸夫: ペルオキシソーム欠損症の病因解明に関する研究: 新たな病因遺伝子の同定. 厚生省特定疾患酵素障害調査研究班平成 7 年度研究報告書, 40-42 (1996)

鈴木康之, 下沢伸行, 福田誠二, 近藤直実, 折居忠夫, 塚本利朗, 大隅 隆, 藤木幸夫: ペルオキシソーム欠損症の病因解明に関する研究: 新たな病因遺伝子の同定. 厚生省精神・神経疾患研究委託費平成 7 年度研究報告書, 26-29 (1996)

近藤直実, 寺本貴英, 深尾敏幸, 田下秀明, 伊上良輔, 金子英雄, 福富 悌, 林 照恵: 気管支喘息をはじめとするアレルギー疾患の IgE 産生調節機構の免疫遺伝学的研究. 1995 年度公害健康被害補償予防協会委託業務報告書 (真弓光文研究班), 39-49 (1996)

近藤直実, 福富 悌, 篠田紳司, 縣 裕篤, 西田 隆, 窪田美好: 小児気管支喘息の運動療法に関する研究 剣道の素振りの効果 公害健康被害補償予防協会委託業務報告書, 助成事業の効果的推進, 発展に関する研究報告書 1995 年度, 281-289 (1996)

近藤直実: 食物アレルギーの抗原診断における *in vivo* と *in vitro* の関連, 第 45 回日本アレルギー学会シンポジウム「アトピー性皮膚炎における食物アレルギーの関与」記録集, 1996 年 3 月. 47-57

近藤直実: 家庭応急処置アドバイス・湿疹, 中日新聞, 1996 年 4 月

近藤直実: 家庭応急処置アドバイス・アトピー性皮膚炎 (1), 中日新聞, 1996 年 4 月

近藤直実: 家庭応急処置アドバイス・アトピー性皮膚炎 (2), 中日新聞, 1996 年 4 月

近藤直実: 家庭応急処置アドバイス・ぜんそく (1), 中日新聞, 1996 年 4 月

近藤直実: 家庭応急処置アドバイス・ぜんそく (2), 中日新聞, 1996 年 5 月

近藤直実: 家庭応急処置アドバイス・ぜんそく (3), 中日新聞, 1996 年 5 月

近藤直実: 家庭応急処置アドバイス, 中日新聞, 1996 年 5 月

近藤直実: 家庭応急処置アドバイス・せき, 中日新聞, 1996 年 6 月

近藤直実: 家庭応急処置アドバイス・発熱, 中日新聞, 1996 年 6 月

鈴木康之：子供の病気と対策「母子保健」, 岐阜新聞, 1996年2月18日

鈴木康之：子供の病気と対策「予防接種」, 岐阜新聞, 1996年2月25日

鈴木康之：子供の病気と対策「マスキング」, 岐阜新聞, 1996年3月3日

深尾敏幸：子供の病気と対策「アセトン血性嘔吐症」, 岐阜新聞, 1996年5月26日

深尾敏幸：子供の病気と対策「乳幼児突然死症候群」, 岐阜新聞, 1996年6月2日

深尾敏幸：子供の病気と対策「起立性調節障害」, 岐阜新聞, 1996年6月9日

放射線医学講座

著書 (和文)

今枝孟義，土井偉誉：肝臓・胆嚢，MRI 読影アトラス，永井輝夫編，東京，朝倉書店，1993．258-275

鈴木雅雄，下川邦泰，土井偉誉：食道表在癌の深達度診断・X 線，食道表在癌 - 病理と臨床，吉田 操他編，東京，医学書院，1993．81-102

井上明美，鈴木雅雄，土井偉誉，下川邦泰：O-I 型症例，低分化型扁平上皮癌 2 ，食道表在癌 - 病理と臨床，吉田 操他編，東京，医学書院，1993．222-223

尾関 豊，鈴木雅雄：O-IIc 型症例，IIa くらいの隆起を伴うもの 1 ，食道表在癌 - 病理と臨床，吉田 操他編，東京，医学書院，1993，272-273

土井偉誉：胃がん検診，老人保健法による健康診査マニュアル，厚生省老人保健福祉局老人保健課監修，東京，日本医事新報社，1994．109-138

土井偉誉：序，消化管の癌の画像診断，土井偉誉編，東京，秀潤社，1994．3

鈴木雅雄，下川邦泰，土井偉誉：早期食道癌の X 線診断，消化管の癌の画像診断，土井偉誉編，東京，秀潤社，1994．58-69

柴山磨樹，中原康治，加藤敏光，日江井邦彦，大川育秀：肺膿瘍，呼吸疾患の画像診断，石川 徹他編，東京，メジカルビュー社，1994．92-101

柴山磨樹：ダイナミック MRI で初めて確診できた肺動脈瘤，一筋縄でいかなかった胸部画像診断，河野通雄編，東京，医学書院，1994．94-97

柴山磨樹：職歴からじん肺，間質性肺炎などが疑われた肺好酸球性肉芽腫症，一筋縄でいかなかった胸部画像診断，河野通雄編，東京，医学書院，1994．173-175

柴山磨樹：縦隔腫瘍とも考えられた胸膜腫瘍，一筋縄でいかなかった胸部画像診断，河野通雄編，東京，医学書院，1994．264-269

柴山磨樹，柳川繁雄，白木 硬：放射線肺臓炎，最新内科学大系，第 61 卷，肺炎，間質性肺炎，田坂 皓他編，東京，中山書店，1994．319-324

鈴木雅雄，土井偉誉，下川邦泰：早期胃癌の診断，I. X 線診断，1. 隆起形成型の早期胃癌，胃癌 - 診断と治療，丹羽寛文編，東京，日本メディカルセンター，1995．151-161

総説 (和文)

土井偉誉：癌集団検診を考える，胃集検の立場から．日本癌治療学会雑誌，28:1197 (1993)

土井偉誉：上部消化管の早期癌，序説．画像診断 13，17 (1993)

松井英介，望月亮三：肺癌，診断と治療戦略をどのように立てるか，A. 肺癌の診断，肺癌診断における MRI の有用性．臨床医 19，1622-1625 (1993)

今枝孟義，後藤裕夫，兼松雅之，望月亮三，土井偉誉：消化器疾患 2，急性腹症における X 線 CT の有用性について．外科治療 69，83-93 (1993)

今枝孟義：びまん性肝疾患の画像診断，画像診断のポイント，核医学検査．臨床画像 9，29-38 (1993)

浅田修市，今枝孟義：肝シンチグラム - 正常像.臨床放射線 38，371-372 (1993)

鈴木雅雄，土井偉誉：X 線写真の読み方，微小食道病変 (1)，良性粘膜上皮性隆起．臨床消化器内科 8，141-145 (1993)

鈴木雅雄，土井偉誉：X 線写真の読み方，微小食道病変，0-IIa 型微小粘膜内癌．臨床消化器内科 8，279-283 (1993)

鈴木雅雄，土井偉誉：X 線写真の読み方，0-IIc 型食道癌，軽度陥凹内に顆粒状変化を伴う粘膜内癌．臨床消化器内科 8，445-450 (1993)

鈴木雅雄，土井偉誉：X 線写真の読み方，0-IIc 型食道癌，淡い不整陰影斑の上皮内癌．臨床消化器内科 8，587-591 (1993)

鈴木雅雄，土井偉誉：X 線写真の読み方，0-IIc 型食道癌，壁欠損像をもつ粘膜下層癌．臨床消化器内科 8，743-748 (1993)

鈴木雅雄，土井偉誉：X線写真の読み方，0-IIc型食道癌，ルーチン検査発見 m 癌．臨床消化器内科 8，883-889 (1993)

鈴木雅雄，土井偉誉：X線写真の読み方，0-IIc型食道癌，小癌，微小癌．臨床消化器内科 8，1441-1445 (1993)

鈴木雅雄，土井偉誉：X線写真の読み方，混合型食道表在癌．臨床消化器内科 8，1583-1587 (1993)

鈴木雅雄，土井偉誉：X線写真の読み方，0-I型食道癌(1)，0-Ipl型 sm3 表在癌．臨床消化器内科 8，1735-1739 (1993)

鈴木雅雄，土井偉誉：X線写真の読み方，0-I型食道癌(2)，0-Isep型 sm3 表在癌．臨床消化器内科 8，1885-1889 (1993)

鈴木雅雄，土井偉誉：X線写真の読み方，食道未分化癌の X線像，粘膜下層癌の 2 例．臨床消化器内科 8，2021-2026 (1993)

鈴木雅雄，土井偉誉：X線写真の読み方，表層拡大型病変を随伴したいわゆる癌肉腫．臨床消化器内科 8，2167-2172 (1993)

鈴木雅雄，土井偉誉，下川邦泰：X線写真読影のポイント．上部消化管造影写真の読み方，胃多発性透亮像．Medicina 30，359-363 (1993)

鈴木雅雄，美濃輪博英，土井偉誉：X線写真読影のポイント，上部消化管造影写真の読み方，胃幽門狭窄．Medicina 30，364-367 (1993)

鈴木雅雄，下川邦泰，土井偉誉：食道，食道粘膜癌の早期診断，早期癌の画像診断 - 見逃さないためのポイント．臨床画像，9(10月増刊号)，68-77 (1993)

鈴木雅雄，下川邦泰，土井偉誉：早期食道癌の X線診断 - m 癌発見のために - ．画像診断 13，496-507 (1993)

後藤裕夫，土井偉誉：大腸がん集団検診の現況 - 精検(注腸及びコロノファイバースコープ)の実際．岐阜県医師会医学雑誌 6，93-99 (1993)

後藤裕夫，今枝孟義，土井偉誉，小島範子，渡辺和夫，操 潤，平野高広：消化器疾患，1，消化管出血の画像診断．外科治療 68，1151-1157 (1993)

望月亮三，今枝孟義：肝シンチグラフィの読影上の注意点 - 陥りやすい pitfall について，臨床放射線 38，477-478 (1993)

兼松雅之，今枝孟義：肝胆道シンチグラム - 正常像と pitfall．臨床放射線 38，577-578 (1993)

渡辺克司，星博昭：中枢神経領域の核医学診断について．日本医事新報 (東京) 3618，7-12 (1993)

柴山磨樹，今井直幸，加藤正夫，下川邦泰：多型性脂肪腫，日本臨床，領域別症候群シリーズ No.4．呼吸器症候群 (下巻)，140-142 (1994)

柴山磨樹，土井偉誉，酒井 聡，梶間敏彦，土屋十次，星野睦夫：嚢胞性リンパ管腫，日本臨床，領域別症候群シリーズ No.4．呼吸器症候群 (下巻)，445-447 (1994)

柴山磨樹：平成 3 年度岐阜県肺癌検診の実績．岐阜県医師会医学雑誌 7，15-20 (1994)

松井英介，関 松蔵，柴山磨樹，土井偉誉：縦隔リンパ節炎，日本臨床，領域別症候群シリーズ No.4．呼吸器症候群 (下巻)，436-439 (1994)

今枝孟義：肝細胞癌について，その 1．映像情報 26，76-80 (1994)

今枝孟義：肝細胞癌について，その 2．映像情報 26，186-188 (1994)

鈴木雅雄：消化管の画像診断の進歩．岐阜県医師会医学雑誌 7，169-182 (1994)

鈴木雅雄，土井偉誉，下川邦泰：直腸粘膜脱症候群，日本臨床，領域別症候群シリーズ No.6．消化管症候群 (下巻)，605-608 (1994)

後藤裕夫，土井偉誉：虫垂粘液嚢腫，日本臨床，領域別症候群シリーズ No.6．消化管症候群 (下巻)，732-734 (1994)

兼松雅之， 今枝孟義， 土井偉譽：縦隔内甲状腺癌， 甲状腺腫， 日本臨床， 領域別症候群シリーズ No.4． 呼吸器症候群（下巻）， 372-374 (1994)

後藤裕夫， 今枝孟義， 下川邦泰：肝結核， 肝結核腫， 日本臨床， 領域別症候群シリーズ No.7． 肝・胆道系症候群（上巻）， 79-81 (1995)

松井英介：胸部疾患の単純 X 線診断 - 見落としを防ぐ読影技術 - 正常像と variation． 臨床画像 12， 10-25 (1996)

原著 (和文)

後藤裕夫， 飯沼 元， 土井偉譽， 大里英男， 高木愛子：早期胃癌スクリーニング効率と 2 年逐年発見率による胃集検の精度の検討． 消化器集団検診 31， 9-13 (1993)

後藤裕夫， 望月亮三， 兼松雅之， 森 省一郎， 井上明美， 飯沼 元， 曾根康博， 鈴木雅雄， 土井偉譽， 東 健一郎， 廣瀬 一， 下川邦泰， 池田庸子：びまん性粘膜下異所腺に合併した多発早期胃癌の 1 例． 胃と腸 28， 581-592 (1993)

兼松雅之， 山脇義晴， 松井英介， 望月亮三， 後藤裕夫， 浅田修市， 今枝孟義， 柴山麿樹， 土井偉譽：肺門部肺腺癌に対する Cisplatin および Epirubicin hydrochloride, Mitomycin C- lohexol- Lipiodol Emulsion (EMILE) の経気管支動脈超選択的動注療法 - 初期臨床経験． 日本医学放射線学会雑誌 53， 1073-1075 (1993)

飯沼 武， 館野之男， 後藤裕夫， 土井偉譽：胃集団検診における間接 X 線読影の検討 - 読影医の個人差の費用効果面からの解析 - ． 消化器集団検診 31， 19-23 (1993)

桐生拓司：気管支喘息の呼吸管理中， 気腹及び後腹膜気腫を生じた 1 例． 日本胸部疾患学会誌 31， 771-774 (1993)

西田佳雄， 渡辺佐知郎， 松尾仁司， 琴尾泰典， 小田 寛， 松原徹夫， 杉山 明， 松野由起彦， 加納素夫， 谷畠進太郎， 大橋宏重， 後藤 明， 牧田一成， 渡辺浩志， 水谷豪利， 三宅 浩， 今枝孟義：99mTc 標識 PPN-1011 による虚血性心疾患急性期 - 再灌流療法の効果判定． 核医学 30， 79-83 (1993)

加藤元久， 佐治重豊， 宮 喜一， 加藤浩樹， 高木 肇， 尾関俊彦， 関 松蔵， 下川邦泰：胆嚢転移をきたした極めて稀な悪性黒色腫の 1 例． 胆と膵 14， 581-586 (1993)

長町茂樹，小野真一，西川卓志，上田正人，松尾剛志，黒木長充，陣之内正史，星博昭，二見繁美，大西 隆，渡辺克司：糖尿病患者の局所脳血流検査．核医学 30，145-150 (1993)

小野真一，長町茂樹，星 博昭，陣之内正史，大西 隆，二見繁美，渡辺克司：菌状息肉腫症における ^{67}Ga シンチグラフィの検討．臨床放射線 38，359-363 (1993)

長町茂樹，西川卓志，小野真一，川崎健作，江口議八郎，陣之内正史，星博昭，二見繁美，大西隆，渡辺克司：頭部外傷の ^{123}I -IMP SPECT - 定量による評価 - ．核医学 30，707-716 (1993)

長町茂樹，星 博昭，陣之内正史，大西 隆，二見繁美，渡辺克司，池田智明，森憲正：妊娠中絶前後の局所脳血流量の変化．RADIOISOTOPES 42，691-695 (1993)

長町茂樹，小野真一，西川卓志，星 博昭，陣之内正史，二見繁美，大西 隆，渡辺克司： ^{123}I -IMP SPECT にて診断された慢性硬膜下血腫の 1 例．臨床放射線 38，1443-1446 (1993)

宮崎貴浩，大西 隆，星 博昭，陣之内正史，二見繁美，長町茂樹，渡辺克司，浜砂亮一，上田孝，脇坂信一郎：IMP SPECT にて高集積域を呈した頭蓋骨内悪性黒色腫の 1 例．核医学 (東京) 30，1399-1403 (1993)

松木和彦，陣之内正史，星 博昭，長町茂樹，大西 隆，二見繁美，渡辺克司，前田守孝： $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -pertechnetate による異所性胃粘膜シンチグラフィ．臨床放射線 39，1627-1630 (1994)

長町茂樹，星 博昭，大西 隆，陣之内正史，二見繁美，渡辺克司，中津留邦展，年森啓隆，松倉 茂：糖尿病患者に対する ^{123}I -MIBG 心筋シンチグラフィによる評価 - 自律神経障害との関連について．核医学 31，1059-1069 (1994)

後藤裕夫，兼松雅之，土井偉誉：間接 X 線撮影を用いた胃集検による被曝線量測定．消化器集団検診 32，3-7 (1994)

後藤裕夫，今枝孟義，山脇義晴，関 松蔵，望月亮三，兼松雅之，土井偉誉，平野高弘，皆川太郎：造影 CT が診断の契機となった上腸間膜動脈血栓症の 1 例．日本消化器病学会雑誌 91，2106-2110 (1994)

兼松雅之，今枝孟義，望月亮三，山脇義晴，後藤裕夫，関 松蔵，土井偉誉：2 D-TOF MR angiography による右肝動脈および門脈右枝の 3 次元的位置関係の解析-TIPS の穿刺経路決定における有用性の検討．日本医学放射線学会雑誌 54，76-78 (1994)

兼松雅之，山脇義晴，松井英介，水野晋二，後藤裕夫，林 真也，今枝孟義，柴山磨樹，縄田万寿美，橋本和明，湊口信也，桐生拓司，石口恒男，土井偉誉：Selfexpandable metallic stent 留置拡張術を行った悪性腫瘍による気管，気管支狭窄の 3 例．気管支学 16，376-380 (1994)

兼松雅之，山脇義晴，柳川繁雄，関 松蔵，後藤裕夫，松井英介，今枝孟義，土井偉誉，斉尾征直，山田鉄也，片岸達夫，石口恒男：Covered expandable metallic stent 留置による QOL の改善，- 進行食道癌の 1 例．画像診断 14，1311-1315 (1994)

兼松雅之，水野晋二，山脇義晴，今枝孟義，土井偉誉，加藤達雄，森 厚，石口恒男：リトリーバーによりステントの位置修正および体外への回収が容易であった食道狭窄の 1 例．IVR 9，455-457 (1994)

清水弘之，掛札啓資，土井偉誉：がん検診への期待度とがん検診における偽陽性・偽陰性の許容限界．消化器集団検診 32，17-20 (1994)

桐生拓司：筋力低下で発症し，心・肺病変を主体とした骨髄腫に伴うアミロイドーシスの 1 剖検例．日本胸部疾患学会誌 32，106-110 (1994)

桐生拓司：BALF および胸水が C-ANCA 陽性を呈したウェゲナー肉芽腫症の 1 例．気管支学 16，71-76 (1994)

酒井 聡，片桐義文，石川 真，林 秀男，井上 洋，松井英介，下川邦泰，広瀬一，小久保光治：転移性肺腫瘍と鑑別が困難であった肺クリプトコッカス症の 1 例．日本胸部臨床 53，59-64 (1994)

尾関 豊，土谷春仁，鈴木雅雄，林 昌俊，関野考史，下川邦泰：術前診断できた早期回腸癌の 1 例．胃と腸 29，1207-1213 (1994)

柳川繁雄：進行食道癌に対する放射線治療の研究．岐阜大学医学部紀要 43，108-118 (1995)

後藤裕夫：逐年検診発見胃癌からみた胃集検の診断精度の検討．岐阜大学医学部紀要 43，38-47 (1995)

後藤裕夫，水野晋二，飯田高嘉，望月亮三，兼松雅之，関松蔵，山脇義晴，今枝孟義，土井偉誉，平野高弘，石神誠，岩田聡司，川地正英，高間郁尚，竹山誠，川島正治，加藤正幸：注腸 X 線検査の診断能 - 医師施行例と放射線技師施行例の比較 - ．Therapeutic Research 16，269-274 (1995)

梶浦雄一，築山巖：深在性悪性腫瘍に対する放射線併用温熱療法の臨床的研究．岐阜大学医学部紀要 43，72-80 (1995)

望月亮三：悪性の疑い度別にみたマンモグラフィの診断成績．岐阜大学医学部紀要 43，81-88 (1995)

林真也，山下孝：高齢者肺癌に対する放射線治療による障害発生に関する臨床的検討．岐阜大学医学部紀要 43，89-98 (1995)

森省一郎：胃集団検診の追加撮影の有効度の検討．岐阜大学医学部紀要 43，275-281 (1995)

桐生拓司：類上皮性血管内皮腫の 1 例．病院病理 13，in press (1995)

加藤智美，加藤善一郎，岩田晶子，山田幸治，近藤直実，折居忠夫，後藤裕夫，高見剛：悪性リンパ腫の腹部転移を来した Bloom 症候群の 1 例．小児科臨床 48，159-163 (1995)

星博昭：核医学における画像診断 - 特に中枢神経領域の臨床的検査について - 医用画像情報学会誌 (東京) 12，12-18 (1995)

兼松雅之，加藤元久，山脇義晴，今枝孟義，足立充里，石口恒男：逆流防止機構付きカバースtentが有用であった腹部食道および噴門部悪性狭窄の 1 例．IVR 11，79-82 (1996)

桐生拓司，松井英介，塩谷真由美，星博昭，酒井聡，下川邦泰：再発を来した多発性肺軟骨性過誤腫の 1 例．肺癌 36，49-53 (1996)

桐生拓司，松井英介，南立由歌，塩谷真由美，真鍋知子，四方進，水野晋二，兼松雅之，梶浦雄一，関松蔵，後藤裕夫，山脇義晴，星博昭，下川邦泰，池田庸子，柴山麿樹：肋骨転移により発見された腎癌の1例。日本胸部臨床，印刷中

原著 (欧文・国内)

Kanematsu M, Imaeda T, Mochizuki R, et al: Transcatheter arterial chemoembolization therapy with epirubicin hydrochloride, mitomycin C-Iohexol-Lipiodol emulsion (EMILE) for hepatocellular carcinoma. *Gastroenterologia Japonica* 30, 215-223 (1995)

Kanematsu M, Hoshi H, Imaeda T, Yamawaki Y, Ueno K, Yasuda M, Kuriyama M, Shimokawa K: Renal Pelvic and Ureteral Carcinoma with Huge Hydronephrosis: US, CT, and MR Findings. *Radiation Medicine*, in press

原著 (欧文・国外)

Takeyoshi Imaeda, Yoshiharu Yamaaki, Hiroo Goto, Matsuzo Seki, Gen Iinuma, Masayuki Kanematsu, Ryoza Mochizuki and Hidetaka Doi: Growth kinetics of small hepatocellular carcinoma. *Eur J Gastroenterology Hepatology* 5, 739-744 (1993)

Takeyoshi Imaeda, Yoshiharu Yamawaki, Matsuzo Seki, Hiroo Goto, Gen Iinuma, Masayuki Kanematsu, Ryoza Mochizuki, Hidetaka Doi, Shigetoyo Saji, Kuniyasu Shimokawa: Lipiodol retention and massive necrosis after Lipiodol-chemoembolization of hepatocellular carcinoma: Correlation between computed tomography and histopathology. *Cardiovasc Intervent Radiol* 16, 209-213 (1993)

Yoshiaki Hirose, Takeyoshi Imaeda, Hidetaka Doi, Mitsuharu Kokubo, Satoshi Sakai and Hajime Hirose: Lung perfusion SPECT in predicting postoperative pulmonary function in lung cancer. *Ann Nucl Med* 7, 123-126 (1993)

Hitoshi Matsuo, Sachiro Watanabe, Yoshio Nishida, Tetsuo Matsubara, Motoo Kano, Akira Sugiyama, Yukihiko Matsuno, Hiroshi Oda, Yasunori Kotoo, Hiroshige Oohashi, Akira Goto, Kazunari Makita, Hiroshi Watanabe, Taketoshi Mizutani, Hiroshi Miyake, and Takeyoshi Imaeda: Assessment of area at risk and efficacy of treatment in patients with acute coronary syndrome using ^{99m}Tc tetrofosmin imaging in humans. *Ann Nucl Med* 7, 231-238 (1993)

Hiroaki Hoshi, Hiroto Kuwabara, Keger Gabriel, Cumming Paul, Guttman Mark, Gjedde Albert: 6-(¹⁸F)fluoro-L-DOPA Metabolism in living human brain: A comparison of six

analytical methods. *J Cereb Blood Flow Metab* 13, 57-69 (1993)

Tomoaki Ikeda, Tsuyomu Ikenoue, Norimasa Mori, Shigeki Nagamachi, Seishi Jinnouchi, Shigemi Futami, Hiroaki Hoshi, Katsushi Watanabe: Effect of early pregnancy on maternal regional cerebral blood flow. *Am J Obstet Gynecol* 168, 1303-1308 (1993)

Takashi Ohnishi, Shiro Noguchi, Nobuo Murakami, Hiroshi Nakahara, Hiroaki Hoshi, Seishi Jinnouchi, Shigemi Futami, Shigeki Nagamachi, Katsushi Watanabe: Levator palpebrae superioris muscle: MR Evaluation of enlargement as a cause of upper eyelid retraction in graves disease. *Radiology* 188, 115-118 (1993)

Seishi Jinnouchi, Hiroaki Hoshi, Takashi Ohnishi, Shigemi Futami, Shigeki Nagamachi, Katsushi Watanabe, Takashi Ueda, Shinichiro Wakisaka: Thallium-201 SPECT for predicting histological types of meningiomas. *J Nucl Med* 34, 2091-2094 (1993)

Takashi Ohnishi, Shiro Noguchi, Nobuo Murakami, Seishi Jinnouchi, Hiroaki Hoshi, Shigemi Futami, Katsushi Watanabe: Detection of recurrent thyroid cancer: MR versus thallium-201 shintigraphy. *AJNR* 14, 1051-1057 (1993)

Takashi Ueda, Yasuhiro Kaji, Shinichiro Wakisaka, Katsushi Watanabe, Hiroaki Hoshi, Seishi Jinnouchi, Shigemi Futami: Time sequential single photon emission computed tomography studies in brain tumour using thallium-201. *J Nucl Med* 20, 138-145 (1993)

Takeyoshi Imaeda, Ryoza Mochizuki, Masayuki Kanematsu, Yoshiharu Yamawaki, Hiroo Goto, Matsuzo Seki, Hidetaka Doi, Shigetoyo Saji, Kuniyasu Shimokawa: Usefulness and limitations of dynamic magnetic resonance imaging in evaluating the effectiveness of Lipiodol-chemoembolization therapy for small hepatocellular carcinomas. *Eur J Gastroenterology Hepatology* 6, 991-997 (1994)

Takeyoshi Imaeda, Masayuki Kanematsu, Ryoza Mochizuki, Hiroo Goto, Shigetoyo Saji, and Kuniyasu Shimokawa: Extracapsular invasion of small hepatocellular carcinoma, MR and CT findings. *J Comput Assist Tomogr* 18, 755-760 (1994)

Masayuki Kanematsu, Takeyoshi Imaeda, Hirohide Minowa, Yoshiharu Yamawaki, Ryoza Mochizuki, Hiroo Goto, Matsuzo Seki, Hidetaka Doi: Hepatocellular carcinoma with tumor thrombus in the inferior vena cava and right atrium. *Abdominal Imaging* 19, 313-316 (1994)

Hiroaki Hoshi, Takashi Ohnishi, Seishi Jinnouchi, Shigemi Nagamachi, Takao Kodama, Katsushi Watanabe, Takashi Ueda, Shinichiro Wakisaka: Cerebral blood flow study in patients with Moyamoya Disease evaluated by IMP SPECT. J Nucl Med (NEW YORK) 35, 44-50 (1994)

Shigeki Nagamachi, Kenjiro Inoue, Seishi Jinnouchi, Hiroaki Hoshi, Seiji Ono, Takashi Ohnishi, Shigemi Futami, Katsushi Watanabe, Tohru Hayashi: Cardiac involvement of progressive muscular dystrophy (Becker type, Limbgirdle type) evaluated by radionuclide method. Ann Nucl Med 8, 71-74 (1994)

Takashi Ohnishi, Shiro Noguchi, Nobuo Murakami, Jinichi Tajiri, Mototsugu Harao, Hitoshi Kawamoto, Hiroaki Hoshi, Seishi Jinnouchi, Shigemi Futami, Shigeki Nagamachi, Katsushi Watanabe: Extraocular muscles in graves ophthalmopathy: Usefulness of T2 relaxation time measurements. Radiology 190, 857-862 (1994)

Nagamachi Shigeki, Takushi Nishiwaki, Shinishi Ono, Seishi Jinnouchi, Hiroaki Hoshi, Takashi Ohnishi, Shigemi Futami, Shigeki Nagamachi, Katsushi Watanabe: Regional cerebral blood flow in diabetic patients: Evaluation by N-isopropyl-123I-IMP with SPECT. Nucl Med Commun, 190, 857-862 (1994)

Hiroaki Hoshi, Shigeki Nagamachi, Seishi Jinnouchi, Takashi Ohnishi, Shigemi Futami, Katsushi Watanabe: Bone scintigraphy as a prognostic factor in patients with adult T-cell leukemia-lymphoma. Clin Nucl Med 19, 992-995 (1994)

Takeyoshi Imaeda, Masayuki Kanematsu, Shuichi Asada, Matsuzo Seki, Hidetaka Doi, Shigetoyo Saji: Utility of Tc-99m GSA SPECT imaging in estimation of functional volume of liver segments in health and liver diseases. Clin Nucl Med 20, 322-328 (1995)

Takeyoshi Imaeda, Ryoza Mochizuki, Masayuki Kanematsu, Yoshiharu Yamawaki, Hiroo Goto, Matsuzo Seki, Hidetaka Doi, Shigetoyo Saji, Kuniyasu Shimokawa: Hemodynamics of small hepatocellular carcinomas (< 5cm in diameter): Cases with discrepant findings between dynamic MR images and hepatic arteriograms. Abdominal Imaging 20, 534-540 (1995)

Masayuki Kanematsu, Takeyoshi Imaeda, Ryoza Mochizuki, Yoshiharu Yamawaki, Hiroo Goto, Yasuhiro Sone, Hidetaka Doi: Dynamic MR demonstration of the diaphragm. J Comput

Assist Tomogr 19, 67-72 (1995)

Kanematsu M, Imaeda T, Mizuno S: Value of three-dimensional hepatic angiography. AJR 166, 585-591 (1995)

Shigeki Nagamachi, Takushi Nishikawa, Shinnichi Ono, Hiroaki Hoshi, Seishi Jinnouchi, Takashi Ohnishi, Shigemi Futami, Katsumi Watanabe: A comparative study of 123I-IMP SPECT and CT in the investigation of chronic-stage head trauma patients. Nucl Med Commun (LONDON) 16, 17-25 (1995)

Leo G. Flores, Shigemi Futami, Hiroaki Hoshi, Shigeki Nagamachi, Takashi Ohnishi, Seishi Jinnouchi, Katsushi Watanabe: Crossed cerebellar diaschisis: Analysis of iodine-123-IMP-SPECT imaging. J Nucl Med (NEW YORK) 36, 399-402 (1995)

Takashi Ohnishi, Hiroaki Hoshi, Shigeki Nagamachi, Seishi Jinnouchi, Leo G. Flores, Shigemi Futami, Katsushi Watanabe: High-resolution SPECT to assess hippocampal perfusion in neuropsychiatric Diseases. J Nucl Med (NEW YORK) 36, 1163-1169 (1995)

Kanematsu M, Imaeda T, Hoshi H, Yokoyama R, Mizuno S: Methodological Assessment of Combined Spiral CT Angiography and CT Arterial Portography. Abdominal Imaging 22, (in press)

Kanematsu M, Hoshi H, Yokoyama R, Tnahashi T: Truncation Artifact in Dynamic MR Imaging for Small Adrenal Mass. AJR 167, 1070 (1996)

その他

土井偉誉：胃集団検診の死亡率減少効果と将来予測に関する研究。厚生省がん研究助成金による研究報告集 1991. 13-17 (1993)

土井偉誉：胃集団検診の死亡率減少効果と将来予測に関する研究。厚生省がん研究助成金による研究報告集 1991. 524-526 (1993)

土井偉誉：高齢者の胃癌検診の評価とその効率向上に関する研究。厚生省がん研究助成金による高齢者の胃がん検診の評価とその効率向上に関する研究。平成4年度研究報告。岐阜，岐阜大学医学部放射線医学教室，1993. 7-16

後藤裕夫，兼松雅之，土井偉誉：間接 X 線撮影を用いた胃集検による被曝線量測定．厚生省がん研究助成金による高齢者の胃がん検診の評価とその効率向上に関する研究，平成 4 年度研究報告．岐阜，岐阜大学医学部放射線医学教室，1993. 149-158

山田達哉，土井偉誉，岩崎政明，有末太郎，久道 茂，吉川邦生，北 昭一，古賀充，小野良樹，北條慶一：平成 2 年度消化器集団検診全国集計．消化器集団検診 31，90-107 (1993)

山田達哉，土井偉誉，岩崎政明，有末太郎，久道 茂，吉川邦生，北 昭一，古賀充，小野良樹，北條慶一：平成 3 年度消化器集団検診全国集計．消化器集団検診 32，54-72 (1994)

土井偉誉：高齢者の胃癌検診の評価とその効率向上に関する研究．厚生省がん研究助成金による高齢者の胃がん検診の評価とその効率向上に関する研究．平成 5 年度研究報告．岐阜，岐阜大学医学部放射線医学教室，1994. 7-16

山崎秀男，土井偉誉，田村浩一，有末太郎，菅原伸之，池田 卓，藤井 彰，山田達哉，石川 勉，井上修一，福本四郎，池田 敏，中馬康男，草野 健，浜畑昌代，松尾雅司：集検発見高齢者胃がんの予後に関する多施設共同研究．厚生省がん研究助成金による高齢者の胃がん検診の評価とその効率向上に関する研究．平成 5 年度研究報告．岐阜，岐阜大学医学部放射線医学教室，1994. 31-41

菅原伸之，平沢頼久，池田 卓，土井偉誉，後藤裕夫，井上修一，竹内義員，草野健，須古博信：高齢者の間接 X 線診断能に関する prospective study．厚生省がん研究助成金による高齢者の胃がん検診の評価とその効率向上に関する研究．平成 5 年度研究報告，岐阜，岐阜大学医学部放射線医学教室，1994. 65-69

土井偉誉，後藤裕夫，中野 哲，山瀬裕彦：間接 X 線 7 枚法の撮影体位別技術評価．厚生省がん研究助成金による高齢者の胃がん検診の評価とその効率向上に関する研究．平成 4 年度研究報告．岐阜，岐阜大学医学部放射線医学教室，1994. 79-82

飯沼 武，館野之男，後藤裕夫，土井偉誉：胃集団検診における間接 X 線撮影における間接 X 線読影の検討 - 読影医の個人差の費用効果面からの解析 - ．厚生省がん研究助成金による高齢者の胃がん検診の評価とその効率向上に関する研究．平成 4 年度研究報告．岐阜，岐阜大学医学部放射線医学教室，1994. 99-105

麻醉・蘇生学講座

著書 (和文)

土肥修司: 麻醉と蘇生 - 高度医療時代の患者サービス, 中公新書, 中央公論社, 1993. 1122

土肥修司: 臨床中毒 (最新内科学大系 76), 井村裕夫, 高久史麿, 尾形悦郎, 垂井清一郎編集, 1993. 覚醒剤麻薬 130, 覚醒剤中毒, シンナー中毒 130-134, 麻薬中毒 134-139

土肥修司: TEXT 麻醉・蘇生学, 内藤裕史, 土肥修司編集, 南山堂出版, 土肥修司: 最新麻醉科学 (上), 改訂第 2 版, 稲田 豊, 藤田昌雄, 山本 亨編集, 克誠堂出版, § 3. 脳循環・代謝と脊髄循環, 1995. 227-240

土肥修司: クリティカルケア・マニュアル 集中治療管理指針, 窪田達也, 勝屋弘忠, 丸川征四郎, 篠崎正博編集, 秀潤社出版, X. 心肺脳蘇生法と脳死. 1995. 心肺蘇生法 456-458, 溺水の蘇生法 461-462

土肥修司: 麻醉ニューマニュアル, 高折益彦, 弓削孟文編集, 金原出版, 1995. 2. 局所麻醉 (サイドメモ) 19-46, 4. 産科麻醉 350-355, 熱傷患者の麻醉 355-357

赤松 繁: 翻訳; MGH 麻醉の手引き, 第 3 版, 稲田 豊, 稲田英一監訳, メディカル・サイエンス・インターナショナル, 1995. 19. 周術期の循環管理 279-292, 20. 腹部手術の麻醉 307-324

総説 (和文)

土肥修司: 輸液・輸血路確保の実際. 産婦人科治療 5, 610-618 (1993)

土肥修司: 局所麻醉薬の局所作用と全身作用. 医学のあゆみ 167, 113-117 (1993)

赤松 繁, 土肥修司: 経食道心エコー図法. 集中治療 5, 133-145 (1993)

太田宗一郎, 土肥修司: 悪性腫瘍による疼痛とその除痛. 外科 55, 1573-1575 (1993)

土肥修司: 救急医療と脳蘇生. 岐阜医会誌 6, 51-57 (1993)

土肥修司：局所麻酔に関連した医療過誤の現状．医学のあゆみ 168，267-269 (1994)

土肥修司, 橋本友紀：心肺・脳蘇生 - 血液循環とそのモニタリング - ．呼吸 13(6)，542-551 (1994)

飯田宏樹, 土肥修司：流量計の原理と問題点．医科機械学 64(10)，473-479 (1994)

土肥修司：頭蓋内圧 (脳圧) 亢進時の麻酔管理．麻酔 43(増刊号)，S77-S85 (1994)

土肥修司, 濱屋吉弘：腎臓と自律神経反射．Anesthesia Today 13(4)，22-31 (1994)

土肥修司：頭蓋内圧亢進と麻酔 - クッシングの時代からの課題 - ．日本医事新報 3686，3-9 (1994)

土肥修司, 浅野斗志男：脊髄における 2-アドレナリン受容体の鎮痛機構．医学のあゆみ 173 (8)，691-695 (1995)

土肥修司：バランス麻酔の過去 - NLA 出現以前 - ．麻酔 44(増)，141-143 (1995)

西川俊昭, 土肥修司：麻酔前投薬クロニジンのコツと留意点，Pitfalls & Knack，臨床麻酔のコツと落とし穴 Part 1，36-37 (1996)

土肥修司：局所麻酔薬にアドレナリン添加の是非，Pitfalls & Knack，臨床麻酔のコツと落とし穴 Part 1，36-37 (1996)

飯田宏樹, 土肥修司：ケタミン使用のコツと留意点，Pitfalls & Knack，臨床麻酔のコツと落とし穴 Part 1，36-37 (1996)

総説 (欧文・国外)

Nishikawa T, Dohi S: Errors in the measurement of cardiac output by thermodilution. Can. J. Anaesth 40，142-153 (1993)

原著 (和文)

松宮直樹, 遠藤拓男, 永沼利博, 石沢由美子：帯状疱疹患者の受信時期と予後．ペインクリニック 14，83-86 (1993)

石沢由美子, 土肥修司: 術中・術後の肺血栓梗塞症. 麻酔 42, 417-422 (1993)

花岡一雄, 並木昭義, 古賀義久, 土肥修司, 弓削孟文, 西山友貴: 麻酔導入時におけるミダゾラムおよびバルビツレートの併用による臨床的有用性. 日本臨床麻酔学会誌 13, 49-54 (1993)

太田宗一郎, 鈴木 照, 原田知和, 竹中元康, 下中浩之, 土肥修司: 病的鎖骨骨折: まれな術中合併症. 日本臨床麻酔学会誌 13, 104-107 (1993)

西垣和彦, 荒川迪生, 赤松 繁, 寺澤悦司, 土肥修司, 加川憲作, 三輪啓志, 伊藤義巳, 平川千里: 経食道ドブラ心エコー図法による左房機能の解析. 日本臨床生理学会誌 23, 195-202 (1993)

石山忠彦, 土肥修司, 赤松 繁, 下中浩之: 脳血管のデキサメドミジンに対する反応性の検討. 脳循環代謝 4, 120 (1993)

西垣和彦, 荒川迪生, 赤松 繁, 寺澤悦司, 土肥修司, 加川憲作, 三輪啓志, 伊藤義巳, 野田俊之, 平川千里: 肺静脈血流速波形から推測するヒト左房機能. 岐大医紀 41, 72-79 (1993)

田辺久美子, 石山忠彦, 鈴木 照, 太田宗一郎, 下中浩之, 土肥修司: 脳動脈瘤術後に高 CK 血症を呈した 1 症例. 麻酔 43, 119-121 (1994)

佐藤祐子, 水谷太郎, 水山和之, 田中 誠, 大久保直光, 土肥修司: Kabuki Make-up Syndrome 2 症例の麻酔経験. 日本臨床麻酔学会誌 14, 56-59 (1994)

田中 誠, 土肥修司: エフェドリンとフェニレニンの動脈血酸素分圧に及ぼす影響 - 片肺換気時における検討 -. 麻酔 43(8), 1124-1129 (1994)

石沢由美子, 半田裕二郎, 滝 和美, 田中克幸, 土肥修司: カンボジア国での口唇口蓋裂手術における全身麻酔の施行と教育の問題点について. 麻酔 43(10), 1611-1614 (1994)

深尾いづみ, 土肥修司, 加藤利政, 赤松 繁, 下中浩之: 皮膚切開時の心血管反応に対する吸入麻酔薬イソフルレンの濃度効果について. 麻酔 43(12), 1851-1856 (1994)

土肥修司, 石山忠彦, 飯田宏樹, 渡辺章久: K⁺チャネル開口薬の脳微小血管各調査用の

機序 . Therapeutic Research 16(4) , 106-109 (1995)

寺澤悦司 , 下中浩之 , 大畠博人 , 上田宣夫 , 石沢由美子 , 赤松 繁 , 土肥修司 : 心臓手術における血中のカルシトニン遺伝子関連物質および心房性利尿ホルモンレベルの変動 . 麻酔 44(9) , 1202-1207 (1995)

太田宗一郎 , 丹羽雅之 , 野崎正勝 , 服部雅仁 , 下中浩之 , 土肥修司 : 麻薬・拮抗鎮痛薬の μ , および オピオイド受容体親和性について . 麻酔 44(9) , 1228-1232 (1995)

竹田智雄 , 飯田宏樹 , 太田宗一郎 , 浅野斗志男 , 織田章義 , 土肥修司 : 内蔵神経ブロック後, 新たに出現した腹痛に対し星状神経ブロック (SGB) が有効であった 3 症例 . ペインクリニック 16(5) , 698-700 (1995)

太田宗一郎 , 丹羽雅之 , 野崎雅之 , 服部雅仁 , 下中浩之 , 土肥修司 : モルヒネ依存におけるモルモット脳内オピオイド受容体の変動について . 麻酔 44(11) , 1452-1457 (1995)

竹田智雄 , 飯田宏樹 , 太田宗一郎 , 浅野斗志男 , 高田基志 , 赤松 繁 , 土肥修司 : ニコランジルが有効であった幻肢痛の一例 . ペインクリニック 16(6) , 951-953 (1995)

赤松 繁 , 寺澤悦司 , 上田宣夫 , 山本拓巳 , 土肥修司 : 心腔内血流動態と PGE₁ - 経食道ドップラー 心エコー図法による増幅弁逆流血流の評価 - . 現代医療 27(増) , 2445-2453 (1995)

原著 (欧文・国外)

Ishizawa Y, Dohi S: Halothane concentrations required to block the cardiovascular responses to incision (MAC CVR) in infants and children. Can J Anaesth 40, 18-23 (1993)

Mizuyama K, Dohi S: An accidental subdural injection of a local anaesthetic resulting in respiratory depression. Can J Anaesth 40, 83-84 (1993)

Mizuyama K, Dohi S, Harukuni I: Coronary artery spasm with ventricular tachycardia after administration of methoxamine during cervical epidural anesthesia -a case report. Acta Anaesth Scand 37, 79-81 (1993)

Fukuda T, Dohi S, Naito H: Comparisons of tetracaine spinal anesthesia with clonidine or phenylephrine in normotensive and hypertensive humans. Anesth. Analg 78, 106-111 (1994)

Ishizawa Y, Dohi S: Epidural clonidine for treatment of intractable abdominal pain in a patient with diabetes. Pain Research 9, 15-20 (1994)

Tanaka M, Dohi S: Effects of phenylephrine and ephedrine on pulmonary arterial pressure in patients with cervical or lumbar epidural anesthesia, or enflurane anesthesia. J. Anesth 8(2), 125-131 (1994)

Ishizawa Y, Dohi S, Iida H., Akamatsu S., Ohta. S. Shimonaka H: Mechanisms of vasodilation of cerebral vessels induced by the potassium channel opener nicorandil in caine in vivo experiments. Stroke 25(8), 1644-1650 (1994)

Hamaya Y, Nishikawa T, Dohi S: Diuretic effect of clonidine during isoflurane, nitrous oxide, and oxygen anesthesia. Anesthesiology 81(4), 811-819 (1994)

Iida H, Christine A. Gleason, Tomas P. O'brien, Richard J. Traystman: Fetal responses to acute fetal cocaine injection in sheep. Am J Physiol 267, H1968-H1975 (1995)

Ishiyama T, Dohi S, Iida H, Watanabe Y, Shimonaka H: Mechanisms of dexmedetomidine-induced cerebrovascular effects in caine in vivo experiments. Anesth Analg 81, 1208-1215 (1995)

その他

土肥修司：教授の条件：器と責任． 麻酔 42 ， 105 (1993).

土肥修司：文部省科学研究費報告書（一般研究 B）；脳・脊髄血管の反応性及び薬物感受性制御機構の生態内顕微鏡による解析

太田宗一郎：文部省科学研究費補助金（一般研究 C）；平成 4-5 年度研究成果報告書 モルヒネ耐性および依存における脳内オピオイド受容体の変化に関する研究

土肥修司：21 世紀の麻酔学はどうあるべきか 21 世紀における大学麻酔学教室の方向． 臨床麻酔 14(9) ， 45-48 ， 1994

土肥修司：麻酔と蘇生 - 名称の重み - ． 治療 77(4) ， 149-151 (1995)

飯田宏樹，石山忠彦，渡辺章久，土肥修司：脳および脊髄軟膜微小血管の観察．治療
77(4)，152-154 (1995)

土肥修司：レポート 第29回日本ペインクリニック学会総会 - リフレッシャーコース - .
ペインクリニック 16(6)，786-788 (1995)

土肥修司：開業医に役立つ救急蘇生法の理論 (1) . 月刊保団連 481(8)，61-64 (1995)

土肥修司：開業医に役立つ救急蘇生法の理論 (2) . 月刊保団連 482(9)，61-64 (1995)

下中浩之，山本拓巳：Combined Spinal /Epidural Anesthesia とモルヒネ投与について .
臨床麻酔 19(11)，1649-1651 (1995)

竹田智雄，村上典之，原田知和，田辺久美子，下中浩之，土肥修司：気管支ファイバ
ー光による経鼻挿管法．臨床麻酔 21(1)，118-119 (1996)

Shigeru Akamatsu, Yuji Kondo, Shuji Dohi, Norio Ueda, Etsuji Teresawa : Velocity
Measurements and with a new Doppler Catheter Independent of Incidence Angle. , 文部省
科学研究費 (一般研究 B) 研究成果報告書

Yukinaga Watanabe, Hiroki Iida, Tadahiko Ishiyama, Shuji Dohi : Systemic Bupivacaine and
Ropivacaine without Respiratory Acidosis and Alkalosis. , 文部省科学研究費 (一般研究 B)
研究成果報告書

太田宗一郎：急性および慢性疼痛下での脳内オピオイド受容体の変動とモルヒネ投与によ
る影響．平成7年度文部省科学研究費補助金 (一般研究 C) 研究成果報告書

飯田宏樹：心肺蘇生後の脳血流維持における 2 作動薬および Ca 拮抗薬の作用に関する
研究．平成6-7年度文部省科学研究費補助金 (一般研究 C) 研究成果報告書

Toshio Asano, Soichiro Ohta, Hiroki Iida, Shuji Dohi : Spinal Anti-Nociceptive Effects of
Alpha-2 Agonists thorough Epidural Injection in Rats. Japanese Journal of Physiology 45
Suppl(2), S248, 1995

浅野斗志男，飯田宏樹，土肥修司，竹田智雄，織田章義，太田宗一郎：Nicorandil の
鎮痛効果についての検討，Therapeutic Research 17(4), 62-64，1996

臨床検査医学講座

著書 (和文)

野間昭夫：リポタンパク (a)，医科学大事典，補遺巻 10 (最新の医療情報 1993)，岡 博
他編，東京，講談社，1993．28-30

川出真坂，飯田久也，野間昭夫：単項目検査データからの病態診断，4．脂質および関
連物質検査，コレステロール，コレステロールエステル，臨床病理学，第 5 巻．大場
康寛編，東京，医歯薬出版，1993．107-111

野間昭夫，川出真坂：同上，HDL - コレステロール，臨床病理学，1993．111-113

川出真坂，飯田久也，野間昭夫：同上，遊離脂肪酸，臨床病理学，1993．113-115

川出真坂，飯田久也，野間昭夫：同上，リン脂質，臨床病理学，1993．116-118

川出真坂，飯田久也，野間昭夫：同上，過酸化脂質，臨床病理学，1993．118-120

野間昭夫：多項目組み合わせ検査データからの病態診断，5．代謝疾患検査，脂質代謝，臨
床病理学，大場康寛編，東京，医歯薬出版，1993．397-410

竹村正男：日常検査に必要な細胞性免疫の知識 IL - 2 の臨床応用とそのレセプター発
見の意義，卒後教育研修会テキスト，日本臨床衛生検査技師会，1993

野間昭夫：リポ蛋白 (a)，臨床検査ガイド '94，Medical Practice 編集委員会編，東京，
文光堂，1994．344-346

野間昭夫：話題のリポ蛋白 Lp (a)，東京，A&T 社，1994．62p

鈴木雅雄，土井偉誉，下川邦泰：X 線診断 - 隆起形成型の早期胃癌，胃癌 - 診断と治療，
丹羽寛文編，日本メデイカルセンタ - ，1995．151-160

下川邦泰，武内章二：病理組織診断：悪性骨腫瘍，その他の悪性骨腫瘍，OS NOW No.18．
骨腫瘍の診断と治療 最近の知見を中心に，平沢泰介編，メジカルビュー社，1995．
102-105

野間昭夫：リポ蛋白 (a) , 臨床検査ガイド '95 , Med. Practice 編集委員会編 , 東京 , 文光堂 , 1995 . 248-250

武内章二 , 下川邦泰：横紋筋肉腫 , 新図説臨床整形外科講座 13 , 骨・軟部腫瘍および類似疾患 , 富田勝郎他編 , メジカルビュー社 , 1995 . 273-277

武内章二 , 下川邦泰：平滑筋肉腫 , 新図説臨床整形外科講座 13 , 骨・軟部腫瘍および類似疾患 , 富田勝郎他編 , メジカルビュー社 , 1995 . 278-279

野間昭夫：臨床に必要な基礎的知識 , アポ蛋白の臨床的意義 , カレント内科 3 , 高脂血症 , 中村治雄編 , 東京 , 金原出版 , 1995 . 34-41

野間昭夫：老年者臨床検査値の基準値 , 老年病診療 Q & A , 六法出版社 , 1995 . 24:26-29

野間昭夫：Lp (a) と動脈硬化 , 最新内科学大系 9 , 高脂血症・低脂血症 , 東野 , 山本編 , 東京 , 中山書店 , 1995 . 245-262

野間昭夫：動脈硬化惹起性リポ蛋白とは , Lp (a) とは , 循環器 Now 12 , 動脈硬化・高脂血症 , 山田信博編 , 東京 , 南江堂 , 1996 . 64-66

野間昭夫：アポ蛋白とその分画 , 検査値のみかた , 中井利昭編 , 東京 , 中外医学社 , 1996 . 301-303

野間昭夫：リポタンパク (a) と加齢 , 老年病診療 Q & A , 東京 , 六法出版社 , 1996 . 25:1211 / 5 / 8-1211 / 5 / 9

野間昭夫：リポタンパク (a) と動脈硬化 , 老年病診療 Q & A , 六法出版社 , 1996 . 25:1197 / 7 / 2-1197 / 7 / 5

清島 満：リポ蛋白 Lp (a) のアイソフォーム , リポ蛋白 (a) - 基礎と臨床 , 秦 葭哉編 , 東京 , 協和企画通信 , 1996 . 印刷中

牧野和彦：リポ蛋白 Lp (a) の系統発生 , 同上 , 印刷中

野間昭夫：リポ蛋白 Lp (a) の疫学 - 集団の中央値，平均値，性差，人種差，同上，印刷中

野間昭夫，川出真坂：リポ蛋白 Lp (a) と急性相反応，同上，印刷中

安部 彰：リポ蛋白 Lp (a) アイソフォームの決定法，同上，印刷中

野間昭夫：リポ蛋白 (a) のすべて，東京，中外医学社，1996．282p

清島 満，武藤泰敏：成人病と栄養，病態と栄養，岡田 正編，東京，建帛社，1996．印刷中

野間昭夫：リポ蛋白・アポ蛋白，実践臨床検査医学，大久保昭行他編，東京，文光堂，1997．印刷中

総説 (和文)

清島 満，安部 彰，野間昭夫：リポ蛋白 Lp (a) と冠動脈疾患．循環科学 13，16-20 (1993)

野間昭夫：リポ蛋白 (a) [Lp (a)] - その 2．The Lipid 4，82-87 (1993)

野間昭夫：クリングル構造，臨床検査 37，302-304 (1993)

野間昭夫：アポ蛋白とその分画．臨床医 19(増刊号)，641-643 (1993)

野間昭夫：図でみるリポ蛋白 (a) の基礎と臨床，総論．別冊カレントセラピー 1993，5-11 (1993)

安部 彰：図でみるリポ蛋白 (a) の基礎と臨床，Lp (a) の測定法と標準化．別冊カレントセラピー 1993，12-17 (1993)

野間昭夫：図でみるリポ蛋白 (a) の基礎と臨床，我が国における Lp (a) の濃度分布と表現型．別冊カレントセラピー 1993，18-24 (1993)

野間昭夫：老年者の脂質代謝，加齢と Lp (a)．The Lipid 4，262-266 (1993)

清島 満：アポ A - の生理的機能について． Lab Clin Practice 11 , 12-15 (1993)

野間昭夫：脂質代謝異常の解析，第 5 回，血清脂質測定，リン脂質およびその分画，過酸化脂質． The Lipid 4 , 262-266 (1993)

安部 彰：臨床検査実践マニュアル， . 日常検査における異常値への対応， 5 , 脂質・脂質関連物質 リポ蛋白分画． 検査と技術 21(増刊号) , 115-118 (1993)

野間昭夫：検査成績の基準値 老人の基準範囲． 臨床検査 37 , 966-970 (1993)

牧野和彦：Lipoprotein(a) の研究に取り組んでみて， Lab Clin Practice 11 , 154-156 (1993)

川瀬晴美：私は臨床検査技師 - いままで，そしてこれから． Med Technol 21 , 1047-1049 (1993)

鈴木雅雄，下川邦泰，土井偉誉：早期癌の画像診断，各論，食道，食道粘膜癌の早期診断． 画像診断 9(増刊号) , 68-77 (1993)

鈴木雅雄，土井偉誉，下川邦泰：多発性透亮像． Medicina 30, 359-363 (1993)

野間昭夫：Lp (a) 高値は治療できるか． 今月の治療 1 , 1359-1363 (1993)

野間昭夫：血清リポ蛋白 (a) - 特に皮膚を含めた組織修復との関係を中心として． 日本皮膚科学会誌 103 , 1523-1524 (1993)

野間昭夫：トピックス Lp (a) . カレントセラピー 11 , 2333-2336 (1993)

野間昭夫：質疑応答， Lp (a) の生理的機能． 日本医事新報 3633 , 122-123 (1993)

野間昭夫：質疑応答，リポ蛋白 (a) 低値の測定． 臨床検査 37 , 1405-1406 (1993)

野間昭夫：高 Lp (a) 血圧の意義． Med Practice 10 , 2367-2372 (1993)

野間昭夫：Lp (a) の濃度かフェノタイプか． スズケンメディカル 71 , 24-29 (1994)

伊藤裕康，里見和夫，加納亜紀，田中春仁，浅野喜代治，下川邦泰：脳梗塞 - 肺癌 - 慢性型 DIC . 循環科学 14 , 88-92 (1994)

野間昭夫：人間ドックにおけるアポ蛋白測定の意義，動脈硬化症の検査の進め方（Lp (a)，アポ蛋白，その他）．健康医学 8，106-109 (1994)

野間昭夫：リポ蛋白 (a) の概要と正常値．医学のあゆみ 168，995-998 (1994)

柴山麿樹，今井直幸，加藤正夫，下川邦泰：多発性脂肪腫．日本臨床別冊 領域別症候群 4 呼吸器症候群 下巻，140-142 (1994)

野間昭夫：検査リスティング - 日常診療における臨床検査の活用法，脂質代謝異常 - 高脂血症．別冊・医学のあゆみ，228-294 (1994)

口腔外科学講座

著書 (欧文)

Ikeda N, Zain BR, Handa, Y, Axell T: Criteria for Diagnosis of Oral Mucosal Lesions, An Aid for Examiners of Epidemiological Surveys in South East Asia, Oral Mucosal Lesions Survey of Adults in Malasia, (ed Zain BR). Malasia Ministry of Health, Kuala Lumpur, 1995. 1-41

総説 (和文)

半田祐二郎, 池田憲昭: 歯科衛生士と国際医療協力 - Part 1 途上国の現場で必要とされる知識と能力 - . 歯科衛生士 18, 23-29 (1994)

総説 (欧文 国外)

Durward C, Ikeda N, Handa Y: Cleft Lip and Palate Surgery in Cambodia. FDI World 5, 9-10 (1996)

原著 (和文)

安岡 忠, 奥田 孝, Win KKS, 加藤幸弘, 奥村康明, 立松憲親, 岡 伸光: 過去 15 年間に当科で治療を施行した歯原性良性腫瘍: 統計および臨床的検討. 日本口腔外科学会雑誌 39, 58-60 (1993)

保甫典子, 兵東 巖, 神野正康, 富田美穂子, 佐木宏吉, 森 聡次郎, 松野充康, 牧田浩樹, 中島英一郎, 安藤 恵, 阿部一雄, 安田 聡, 坂本 積, 加藤幸弘, 松田一雄, 藤塚秀樹, 坂井隆之, 奥田 孝, 市原秀記, 奥村康明, 安岡 忠, 半田祐二郎, 奥富 直, 立松憲親, 岡伸光: Cefuroxime axetil (CXM-AX) の口腔外科領域における新しい投与方法に関する検討. 診療と新薬 30, 1086-1091 (1993)

加藤幸弘, 奥田 孝, 佐木宏吉, 松野充康, 兵東 巖, 坂本 積, 市原秀記, 奥村康明, 安岡忠, 立松憲親, 岡 伸光, 柳原 誠: 尋常性天疱瘡に対する漢方使用経験. 漢方診療 12, 17-21 (1993)

加藤幸弘, 安岡 忠, 佐木宏吉, 森 聡次郎, 市原秀記, 兵東 巖, 奥田 孝, 奥富 直, 立松憲親, 岡 伸光: 三重複癌の 1 例. 日本口腔腫瘍学会雑誌 5, 290-296 (1993)

伊藤直子, 奥田 孝, 安岡 忠, 兵東 巖, 中田隆明, 中島正人, 土井田 誠: エナメル上皮線維歯牙腫の 1 例および文献的考察. 日本口腔科学会雑誌 44, 108-111 (1995)

中島正人, 奥田 孝, 安岡 忠, 立松憲親, 岡 伸光: 卵巣摘出と咬合の変化が成長期のラット顎関節に及ぼす影響について() エストロゲン投与による変化. 岐阜大学医学部紀要 43, 385-397 (1995)

松野充泰, 市原秀記, 藤塚秀樹, 保甫典子, 半田祐二郎, 立松憲親, 岡 伸光: 最近行っている顎変形症に対する上下同時骨切り術について. 岐阜大学医学部口腔外科学教室年報 18, 59-68 (1993)

佐木宏吉, 市原秀記, 加藤幸弘, 安藤 恵, 阿部一雄, Win KKS, 井上孝典, 藤塚秀樹, 杉山貴敏, 奥田 孝, 奥村康明, 半田祐二郎, 奥富 直, 立松憲親, 岡 伸光: 口腔粘膜疾患および舌痛症に対するセファランチン R 内服療法の臨床的効果の検討. 日本口腔科学会雑誌 43, 84-89 (1994)

石沢由美子, 半田祐二郎, 滝 和美, 田中克幸, 土肥修司: カンボジアでの口唇口蓋裂手術における全身麻酔の施行と教育の問題点について. 麻酔 43, 1611-1614 (1994)

村居正雄, 半田祐二郎, 中村修一, 真木吉信, 上條英之, 池田憲昭: 歯科保健医療分野における国際協力の確立に関する総合的研究 - 発展途上国の問題解決に有効な協力のあり方と方法論 -. 日本歯科医学会雑誌 14, 48-52 (1995)

白木完治, 石丸純一, 半田祐二郎, 土井田 誠, 立松憲親, 岡 伸光: 羊顎関節を用いた変形性顎関節症における Bone remodeling と Osteoid との関連について. 岐阜大学医学部紀要 44, 355-359 (1996)

大久保恒正, 田中卓二, 大埜間 勉, 藤塚秀樹, 立松憲親, 岡 伸光, 松下捷彦: 家兔 vx2 舌癌に対する Lentinan の抗腫瘍効果増強 - 少量 CDDP との投与タイミング -. BIOTHERAPY 7, 1493-1498 (1993)

藤塚秀樹, 大久保恒正, 大埜間 勉: 家兔 VX2 舌癌に対する BRM 製剤 Lentinan の抗腫瘍効果について - 免疫組織学的検討および AgNORs 数測定による経時的効果判定 -. 岐阜大学医学部紀要 43, 611-617 (1995)

加藤幸弘, 奥田 孝, 佐木宏吉, 松野充泰, 兵東 巖, 坂本 積, 市原秀記, 奥村康明, 安岡忠, 立松憲親, 岡 伸光, 柳原 誠: 尋常性天疱瘡に対する漢方使用経験. 漢方治療 12, 17-22 (1993)

加藤幸弘, 安岡 忠, 佐木宏吉, 森 聡次郎, 市原秀記, 兵東 巖, 奥田 孝, 奥富 直, 立松憲親, 岡 伸光: 三重複癌の 1 例. 口腔腫瘍 5, 290-296 (1993)

市原秀記: ラット骨肉腫に対する電磁場刺激の影響. 岐阜大学医学部紀要 43(4), 509-523 (1995)

佐木宏吉, 阿部一雄, 市原秀記, 加藤幸弘, 立松憲親, 岡 伸光: ラット由来骨肉腫 (MSK) に対する G-CSF および M-CSF の影響. 岐阜大学医学部紀要 44(1), 49-58 (1996)
立松憲親, 津屋多美子, 市原秀記, 江崎智香子, 野田徳朗: 顔面腫瘍切除後の広範囲欠損に対する補綴的処置の経験. 岐阜大学医学部紀要 44(2), 388-392 (1996)

市原秀記, 加藤幸弘, 佐木宏吉, 立松憲親, 土井田 誠, 奥富 直: 長期間にわたり再発をくり返し悪性化した頬部多形性腺腫の 1 例. 日本口腔外科学会誌 42(4), 424-426 (1996)

奥富 直, 奥田 孝, 兵東 巖, 藤塚秀樹, 佐木宏吉, 立松憲親, 岡 伸光: 当科における ubenimex (Bestatin R) を加えた口腔癌術後補助的免疫化学療法の臨床効果. Biotherapy 10(3), 506-508 (1996)

兵東 巖, 森 聡次郎, 高木宣雄, 立松憲親, 岡 伸光: 炎症性骨吸収に関する研究 (1) - 内毒素 (LPS) による骨吸収と抗炎症剤の効果について. 岐阜大学医学部紀要 41, 793-803 (1993)

中田隆明, 兵東 巖, 森 聡次郎, 米本武史, 立松憲親, 岡 伸光: 呼吸困難を生じた頸部蜂窩織炎の 1 例. 岐阜大学医学部紀要 43, 554-556 (1995)

井上孝典, 兵東 巖, 森 聡次郎, 米本武史, 中田隆明, 立松憲親, 岡 伸光: 下顎に発生した大きな歯原性角化嚢胞の 1 例. 岐阜大学医学部紀要 43, 557-559 (1995)

中田隆明, 兵東 巖, 森 聡次郎, 谷江勇一, 米本武史, 立松憲親, 岡 伸光: 炎症性骨吸収に関する研究 () - 第 2 報 S. mitis による顎骨骨髓炎における抗炎症剤, 抗菌剤の骨吸収抑制効果について. 岐阜大学医学部紀要 43, 642-650 (1995)

森 聡次郎, 兵東 巖, 中田隆明, 谷江勇一, 米本武史, 立松憲親, 岡 伸光: 炎症性骨吸収に関する研究 () - ゴールデンハムスターを用いた歯周疾患モデルにおける歯槽骨吸収に関する研究. 岐阜大学医学部紀要 43, 758-767 (1995)

谷江勇一, 兵東 巖, 米本武史, 中田隆明, 森 聡次郎, 田川智也, 立松憲親, 岡 伸光: 炎症性骨吸収に関する研究 () - 顎骨骨髓炎モデルにおける組織からの O₂ の生成. 岐阜大学医学部紀要 43, 723-734 (1995)

米本武史, 兵東 巖, 谷江勇一, 森 聡次郎, 和仁俊広, 田川智也, 立松憲親, 岡 伸光: 炎症性骨吸収に関する研究 () - 顎骨骨髓炎モデルにおける炎症部位からの O₂ の生成に対する抗酸化剤の影響について. 岐阜大学医学部紀要 44, 343-354 (1996)

立松憲親, 長井昭彦, 白木完治, 根尾尚志, 岩田千鶴子, 米本武史: OK-432 局注療法における海綿状リンパ管腫の治療. 岐阜大学医学部紀要 44, 324-327 (1996)

原著 (欧文 国内)

Okuda T, Yasuoka T, Nakashima M, Oka N: Alteration of temporomandibular joint remodeling in the growing period: Effect of ovariectomy and reduction of maximal intercuspal position. 岐阜大学医学部紀要 43, 264-274 (1995)

Takahashi T, Kawashima M, Yasuoka T, Kamiyoshi M, Tanaka K: Diuretic and antidiuretic effects of mesotocin as compared with the antidiuretic effect of arginine vasotocin in the hen. Poultry Sc 74, 890-892 (1995)

Ishimaru J, Handa Y, Toida M, Shiraki K, Mori S, Oka N: Temporomandibular joint osteoarthritis following maxillofacial trauma. Annual of Gifu City Hospital 13, 139-144, (1993)

Toida M, Watanabe F, Ishimaru J, Handa Y, Tatematsu N, Oka N: A large cell sub-mandibular sialolith in an asymptomatic patient. Hosp Dent 5, 52-53, (1993)

Ishimaru J, Handa Y, Kurita K, Tatematsu N: Establishment of an animal model for temporomandibular joint osteoarthritis. Acta Scholae Medicinalis Universitatis in Gifu 41, 453-479 (1993)

Ishimaru J, Handa Y, Toida M, Shiraki K, Tatematsu N: Clinical management for temporomandibular joint disorders. Annual of Gifu City Hospital 14, 73-76 (1994)

Win KKS, Toida M, Tsuneyo Kaneda T, Handa Y, Tatematsu N: Studies on ossification in 5,6-dimethoxysterigmatocystin-induced osteosarcoma. Acta Scholae Medicinalis 42, 201-208

(1994)

Toida M, Nakamura K, Ichihara H, Okutomi T, Ishimaru J, Handa Y, Suzuki H, Hayashi K, Koizumi H: Infrared absorption spectrum analysis of a foreign body embedded in an unerupted supernumerary tooth. *Hosp Dent* 6(1), 8-9 (1994)

Ikeda N, Miyazaki H, Zain R B, Khim S P, Win K K S, Handa Y, Kawai T: Validity of Khmer general dentists in diagnosing oral mucosal lesions: training and calibration of examiners for oral cancer screening. *Hosp Dent* 7, 12-15, (1995)

Ishimaru J, Kurita K, Ogi N, Handa Y, Toida M: Effect of tizanidine for a primary care of patients with myofascial pain: a preliminary study. *Hosp Dent* 7, 2-7 (1995)

Toida M, Ishimaru J, Shiraki K, Handa Y, Tatematsu N: Evaluation of tetrachrome method for demonstration of osteoid in sheep temporomandibular joint osteoarthritis model. *Hosp Dent* 7, in press (1995)

Ishimaru J, Handa Y, Kurita K, Goss A N: The effect of occlusal loss on normal and pathological temporo-mandibular joints: an animal study. *Journal of Cranio-Maxillo-Facial Surgery* 22, 95-102 (1994)

Kurita K, Ogi N, Ishimaru J, Handa Y: Diagnostic accuracy of the ultrathin arthroscope for temporomandibular joint osteoarthritis: Comparison of arthroscopic and histologic findings in a sheep model. *Journal of Oral and Maxillofacial Surgery* 52, 278-281 (1994)

Ikeda N, Handa Y, Khim S P, C. Durward C, Axell T, Mizuno T, Fukao H, Kawai T: Prevalence study of oral mucosal lesion in a selected Cambodian population. *C Den Oral Epide* 23, 49-54 (1995)

Ohkubo T, Tanaka T, Ohnoma T, Fujitsuka H, Tanie U, Tatematsu N, Oka N: Anti-tumor effect on intra-tumoral and peripheral administration of lentinan. *高山赤十字病院紀要* 18, 35-39 (1994)

原著 (欧文・国外)

Kawashima M, Takahashi T, Yasuoka Y, Kamiyoshi M, Tanaka T: A Vasoactive Intestinal peptide Binding Component in Hen Granulosa cells. *PS Bio Med* 209, 387-391 (1995)

Takahashi T, Kawashima M, Yasuoka T, Kamiyoshi M, Tanaka K: Mesotocin Binding to Receptors in Hen Kidney Plasma Membranes. PS 75, in press (1996)

Okuda T, Yasuoka T, Nakashima M, Oka N: The Effect of Ovariectomy on the Temporomandibular Joint of Growing Rats. JOMS 54, in press (1996)

Yasuoka T, Kawashima M, Takahashi T, Iwata A, Oka N, Tanaka K: Changes in Parathyroid Hormone Receptor Binding Affinity during Egg Laying: Implication for calcium homeostasis in chicken. JBR 11, in press (1996)

反射研究施設

著書 (和文)

松波謙一, 近藤四郎: 手仕事と脳, 近藤四郎編, 折る・編む・縫うの勤め, 光生館, 印刷中

総説 (和文)

佐竹裕孝: 微小重力下の循環動態. 日本生理学雑誌 55, 431-444 (1993)

原著 (欧文・国内)

Konishi T, Satake H, Matsunami K: Acceleration-induced effects on auditory evoked potentials (AEPs) in rats. 20th Intl Symp Space Technol & Sci, Tokyo, in press

Matsunami K, Kawashima T, Satake H, Konishi T, Mizuta K, Miyata H, Fukai K: Application of head mounted display to induce optokinetic nystagmus and optokinetic after nystagmus in human subjects during microgravity flight experiments. Proc Intl Conf VSMM (Gifu), 302-307 (1995)

Matsunami K, Konishi T, Satake H: Individual variation of EEG, cerebral and systemic blood flows in rats exposed to long term hypergravity (+ Gz) acceleration. Nagoya Symp, The 2nd Joint Meeting of the Physiol Soc Japan & UK & Eire, 418 (1995)

Chowdhury SA, Kawashima T, Konishi T, Matsunami K: Effects of GABA A and GABA B antagonists on transcallosally responding pyramidal and non-pyramidal tract neuron of the cat motor cortex. Nagoya Symp, The 2nd Joint Meeting of the Physiol Soc Japan & UK & Eire, 433 (1995)

原著 (欧文・国外)

Salunga TL, Han XY, Wong SM, Takeuchi H, Matsunami K, Upton C, Mercer AD: Blocking effects of premethazine, triprolidine, and their analogues on the excitation caused by the peptide, achatin-. Europ J Pharmacol 304, 163-171 (1996)

Suzuki M, Matsunami K, Yamazaki Y, Mizuno N: The application of the minimum jerk model to trajectory formation of the center of mass during multijoint limb movements. Folia Primatologica, in press

Suzuki M, Yamazaki Y, Mizuno N, Matsunami K: Trajectory formation of the center-of-mass of the arm during reaching movements. Neuroscience, in press

Chowdhury SA, Kawashima T, Konishi T, Niwa M, Matsunami K: GABA B receptor antagonist CGP 35348 shortens transcallosal response latency of pyramidal tract neuron. Eur J Pharmacol 285, 99-102 (1995)

Matsunami K, Kawahima T: Radioactive 2-DG incorporation in the mesial frontal cortex of task-performing monkeys. Neurosci Res 23, 365-375, (1995)

Satake H, Becker WJ, Wood SJ, Matsunami K, Reschke MF: Cardiovascular responses to KC-135 hyper-gravity. Acta Astronautica 33, 77-87 (1994)

Satake H, Konishi T, Kawashima T, Matsunami K, Uno T, Imai S, Yamada H, Hirakawa C: Intracranial blood flow measured with single photon emission computer tomography (SPECT) during transient -6 ° head-down tilt. Aviat Space Environ Med 65, 117-122 (1994)

Matsunami K, Kawashima T, Ueki S, Fujita M, Konishi T: Topography of commissural fibers in the corpus callosum of the cat. A study using WGA-HRP method. Neurosci Res 20, 137-148 (1994)

Suzuki M, Yamazaki Y, Matsunami K: Relationship between force and electromyographic activity during rapid isometric contraction in power grip. Electroencephalog clin Neurophysiol 93, 218-224 (1994)

その他

松波謙一, 川島 卓, 佐竹裕孝, 小西朝隆, 宮田英雄, 水田啓介: ヘッドマウンテッドディスプレイを使った人工現実感とその客観的評価基準の作製, 文部省重点領域研究報告書 (平成7年度). 人工現実感に関する基礎的研究 (領域代表者・館日章). 平成7年度情報化推進基盤整備:(データベース関連調査)に関する調査報告書, 館日章編, イメージ情報科学研究所, 東京, 1996. グリルナー S (松波謙一訳): 脊椎動物の移動の神経ネットワーク, 日経サイエンス, 76-83, 1996

松波謙一: 運動と脳, 少林寺拳法 13(7), 23-27 (1993)

松波謙一: 運動と脳 (), 少林寺拳法 13(8), 23-27 (1993)

嫌気性菌実験施設

著書 (和文)

渡辺邦友：偏性嫌気性グラム陰性桿菌，最新内科学大系 27，感染症 2，細菌感染症，井村裕夫他編，東京，中山書店，1994，269-275

加藤直樹，加藤はる，田中香お里，渡辺邦友：岐阜嫌気性菌検査実習提要，渡辺邦友編，岐阜，岐阜大学医学部附属嫌気性菌実験施設，1995，1-79

渡辺邦友：39，嫌気性菌総論 40，嫌気性芽胞形成桿菌 41，無芽胞嫌気性菌，医系微生物学，第二版，加藤延夫編集，東京，朝倉書店，1996，183-196

渡辺邦友：グラム陰性嫌気性桿菌グラム陰性嫌気性球菌，標準微生物学，第六版，川名林治監修，東京，医学書院，1996，212-217，222

著書 (欧文)

Watanabe K, Ueno K: Transfer of Beta-Lactam Antibiotic Resistance in Bacteroides, Genetics and Molecular Biology of Anaerobic Bacteria, (ed M. Sebald), Springer-Verlag, New York, 1993. 490-493

総説 (和文)

渡辺邦友：抗菌薬感受性試験 希釈法 2，微量液体希釈法 - 嫌気性菌．臨床検査 37(8)，861-864 (1993)

渡辺邦友：菌交代現象による細菌性下痢症．Medical Technology 21(12)，1062-1066 (1993)

加藤はる、加藤直樹、田中保知、田中香お里、渡辺邦友、上野一恵：パルスフィールドゲル電気泳動法を

用いた Clostridium difficile のタイピング法. 嫌気性菌感染症研究 29,90-93(1993)

上野一恵，武藤吉徳，渡辺邦友：Rokitamycin の嫌気性菌に対する作用，化学療法の領域 10 (7)，110-119 (1994)

加藤直樹，渡辺邦友：特集，整形外科感染症診療マニュアル，細菌感染症，最近の動向．MB (Monthly Book) Orthopedics 8(3)，1-8 (1995)

渡辺邦友，加藤直樹：嫌気性菌分離同定のポイント． Medical Technology 23(4)， 315-320 (1995)

杉本光庸，田中香お里，加藤直樹，渡辺邦友：イミペネムの効果的投与法の検討～マウス腹腔内混合感染モデルを用いて（続報）第4回 実験感染セミナー講演集， 73-77 (1995)

渡辺邦友，加藤はる，加藤直樹：注目されている感染症．院内感染と Clostridium difficile．モダンメディア 41(11)， 426-433 (1995)

加藤はる，加藤直樹，渡辺邦友，上野一恵：Clostridium difficile と院内感染． JARMAM 7 (1)， 11-17 (1995)

加藤直樹：分子生物学的手法を用いた嫌気性菌の検出・同定．嫌気性菌感染症研究 24， 95-100 (1995)

渡辺邦友：抗生物質の正しい使い方；セフェム系抗生物質の正しい投与法はどのようにあるべきか 第二世代セフェム． medicina 51(1)， 37-39 (1996)

加藤はる：主要病原菌の疫学マーカー、パルスフィールドゲル電気泳動法 Clostridium difficile.

臨床と微生物 23(6)， 637-640(1996)

原著 (和文)

加藤直樹，加藤はる，田中保知，坂東香お里，渡辺邦友，上野一恵：新エステル型経口セファロスポリン系抗菌薬 S-1108 の活性体 S-1006 の嫌気性菌に対する抗菌力． Chemotherapy 41(S-1)， 40-49 (1993)

加藤直樹，加藤はる，田中保知，田中香お里，渡辺邦友，上野一恵：新 glycopeptide 系抗菌薬 Teicoplanin の嫌気性菌に対する抗菌力． Chemotherapy 41(S-2)， 56-61 (1993)

加藤直樹，加藤はる，田中保知，田中香お里，渡辺邦友，上野一恵：Teicoplanin のヒト糞便内細菌フローラに及ぼす影響． Chemotherapy 41(S-2)， 103-109 (1993)

加藤直樹，加藤はる，田中保知，田中香お里，渡辺邦友，上野一恵：新経口カルバセ

フェム系抗菌薬 loracarbef のヒト糞便内フローラに及ぼす影響 . Chemotherapy 41(S-3) , 152-159 (1993)

渡辺邦友 , 加藤直樹 , 田中香お里 , 田中保知 , 加藤はる , 上野一恵 : 新規セフェム系抗菌剤 Cefozopran の嫌気性菌に対する抗菌作用およびマウス盲腸内細菌叢への影響 . Chemotherapy 41(S-4) , 46-53 (1993)

加藤直樹 , 加藤はる , 田中保知 , 田中香お里 , 渡辺邦友 , 上野一恵 : 新ニューキノロン系抗菌剤 temafloxacin の嫌気性菌に対する抗菌力 . Chemotherapy 41(S-5) , 43-49 (1993)

加藤信子 , 田中香お里 , 田中保知 , 渡辺邦友 , 上野一恵 : Bacteroides 属に存在する複数種のスフィンゴリン脂質について . 嫌気性菌感染症研究 23 , 40-45 (1993)

加藤直樹 , Moo KS , 加藤はる , 田中香お里 , 渡辺邦友 , 上野一恵 , Yongsop C : Polymerase chain reaction によるエンテロトキシン産生性 Clostridium perfringens の同定 . 感染症学雑誌 67(8) , 724-729 (1993)

加藤直樹 , 加藤はる , 渡辺邦友 , 小林とよ子 , 上野一恵 : PCR による神経毒素生産性 Clostridium tetani と Clostridium botulinum の神経毒素遺伝子の同定 . 日本臨床微生物学雑誌 3(2) , 104-109 (1993)

伊藤正志 , 糸数万正 , 松永隆信 , 渡辺邦友 , 上野一恵 : ニューキノロン系抗菌剤の整形外科由来分離菌株に対する抗菌力について . 日本骨・関節感染症研究会記録誌 7 , 10-13 (1993)

伊藤敬子 , 伊藤八次 , 小島俊己 , 水田啓介 , 山田剛寛 , 宮田英雄 , 渡辺邦友 , 上野一恵 : 慢性副鼻腔炎における嫌気性菌の臨床的意義 . 日本耳鼻咽喉科感染症研究会会誌 11(1) , 44-50 (1993)

三嶋廣繁 , 市古哲 , 和泉孝治 , 横山康宏 , 伊藤邦彦 , 玉舎輝彦 , 渡辺邦友 , 上野一恵 : 産婦人科医が再認識すべき虫垂炎穿孔によりダグラス窩膿瘍をきたした一例 . 診療と新薬 30(7) , 129-134 (1993)

永平和広 , 加藤直樹 , 田中香お里 , 渡辺邦友 , 上野一恵 : SY5555 の嫌気性菌に対する抗菌作用 . Chemotherapy 42(S-1) , 38-50 (1994)

渡辺邦友，田中保知，加藤直樹，田中香お里，加藤はる，上野一恵：Tazobactam / Piperacillin の嫌気性菌に対する in vitro および in vivo 抗菌力およびマウス盲腸内細菌叢への影響． Chemotherapy 42(S-2)， 62-72 (1994)

伊藤康久，兼松 稔，由良二郎，上野一恵，渡辺邦友：臨床分離株の β -Lactamase 生産能と各種抗菌薬に対する感受性の検討． Jap J Antibiotics 47(1)， 11-21 (1994)

河田幸道，坂 義人，熊本悦明，広瀬崇興，阿曾佳郎，押 正也，町田豊平，斎藤功，河村信夫，名出頼夫，久住治男，守殿貞夫，荒川創一，大森弘之，公文裕巳，碓井 亞，香川 征，熊沢浄一，松本哲朗，野田進士，大井好忠，上野一恵，砂川慶介：複雑性尿路感染症に対する FK037 の臨床用量の検討． Chemotherapy 42(9)， 1048-1065 (1994)

河田幸道，坂 義人，熊本悦明，広瀬崇興，阿曾佳郎，押 正也，町田豊平，斎藤功，河村信夫，名出頼夫，久住治男，守殿貞夫，荒川創一，大森弘之，公文裕巳，碓井 亞，香川 征，熊沢浄一，松本哲朗，野田進士，大井好忠，上野一恵，砂川慶介：複雑性尿路感染症に対する FK037 と ceftazidime の比較検討． Chemotherapy 42(10)， 1176-1193 (1994)

加藤直樹，加藤はる，田中香お里，渡辺邦友，上野一恵：新注射用セファロスポリン系抗菌薬 FK037 の嫌気性菌に対する抗菌力． Chemotherapy 42(3)， 37-45 (1994)

松宮良子，桑原裕子，奥村悦子，三輪峰子，加藤はる，加藤直樹，渡辺邦友，上野一恵：産婦人科病棟の診療ユニットにおける温水器内戦場水および温水器の細菌検索． 日環感 9(2)， 24-27 (1994)

岩井紀代身，山添喜久雄，堀内 正，森 充弘，加藤直樹，上野一恵，渡辺邦友，片桐義博：気管内吸引カテーテル用消毒液の細菌汚染と消毒剤の殺菌効果． 病院薬学 20(1)， 97-102 (1994)

加藤直樹，加藤はる，田中保知，田中香お里，渡辺邦友，上野一恵：新カルバペネム系抗菌薬 biapenem の嫌気性菌に対する抗菌力およびマウス盲腸内細菌叢への影響． Chemotherapy 4(S-4)， 55-63 (1994)

小川晴子，白戸弘道，山田剛寛，宮田英雄，加藤直樹，渡辺邦友：扁桃周囲膿瘍の細

菌学的検査．日本耳鼻咽喉科感染症研究会会誌 13(1)，86-90 (1995)

加藤はる，加藤直樹，渡辺邦友，上野一恵，坂田葉子，藤田晃三：ウエスタンブロッティング，パルスフィールドゲル電気泳動法，および Polymerase chain reaction を用いたタイピングにより検討した Clostridium difficile 性腸炎の再発例．環境感染 10(2)，12-17 (1995)

加藤直樹，加藤はる，田中香お里，渡辺邦友，上野一恵：糞便以外から分離された Bacteroides fragilis group からの B. fragilis エンテロトキシンの検出．感染症学雑誌 69(8)，903-907 (1995)

沢村治樹，加藤直樹，渡辺邦友，沢 赫代，木田 忸，佐治重豊，上野一恵：新しい菌種 Bilophila wadsworthia のダグラス窩感染患者からの分離．感染症学雑誌 69(10)，1162-1163 (1995)

加藤直樹，加藤はる，田中香お里，渡辺邦友，上野一恵：マクロライド系抗菌薬 Azithromycin の嫌気性菌と Ureaplasma に対する抗菌力．日本化学療法学会雑誌 43(S-6)，31-39 (1995)

川村千鶴子，中村敏彦，貝森光大，高谷彦一郎，田中香お里，渡辺邦友：胆汁および胸水から β -lactamase 生産性の Bilophila wadsworthia を濃厚に分離した一症例．日本臨床微生物学雑誌 15(2)，48-53 (1995)

田中香お里，加藤直樹，加藤はる，渡辺邦友，上野一恵：ニューキノロン系抗菌薬 balofloxacin の嫌気性菌に対する抗菌力．日本化学療法学会雑誌 43(S-5)，27-33 (1995)

渡辺邦友，上野一恵，和田光一，渡部恂子，水谷潤：新キノロン balofloxacin のヒト糞便内細菌叢に及ぼす影響．日本化学療法学会雑誌 43(S-5)，160-167 (1995)

渡辺邦友，上野一恵，和田光一，渡部恂子，中島光好：Pazufloxacin のヒト糞便内細菌叢に及ぼす影響．日本化学療法学会雑誌 43(S-2)，164-174 (1995)

加藤直樹，加藤はる，田中保知，田中香お里，渡辺邦友，上野一恵：新キノロン系抗菌薬 grepafloxacin の嫌気性菌に対する抗菌力．日本化学療法学会雑誌 43(S-1)，42-49 (1995)

加藤直樹，加藤はる，田中香お里，渡辺邦友，上野一恵：新規ニューキノロン系抗菌薬 pazufloxacin の嫌気性菌に対する抗菌力．日本化学療法学会雑誌 43(S-2)，47-53 (1995)

上野一恵，加藤直樹，渡辺邦友，和田光一，渡部恂子，水谷 潤：Grepafloxacin のヒト糞便内細菌叢に及ぼす影響．日本化学療法学会雑誌 43(S-1)，176-183 (1995)

野々村秀彦，大野義幸，系数万正，松永隆信，加藤直樹，渡辺邦友：医療用 Leech (ヒル) の常在菌と薬剤感受性について．日本骨・関節感染症研究会記録誌 9，19-20 (1995)

栄枝裕文，大田牧雄，飯沼宣樹，加藤直樹，加藤はる，渡辺邦友，松永隆信：劇症型 A 群レンサ球菌によると考えられた下肢壊死性筋膜炎の 1 例．日本骨・関節感染症研究会記録誌 9，8-10 (1995)

松宮良子，市古裕子，三鴨悦子，加藤はる，加藤直樹，渡辺邦友：産婦人科病棟の診療ユニットにおける温水器の細菌防止対策．環境感染 10(3)，37-40 (1995)

加藤はる，加藤直樹，渡辺邦友，上野一恵：PCR による Clostridium difficile のタイピング．嫌気性菌感染症研究 24，67-69 (1995)

荒木光二，田中香お里，岡崎充宏，小川昌子，河内菜穂子，江上照夫，古谷信滋，内村英正，武田英紀，渡辺秀裕，渡辺 登，森田耕司，金森政人，渡辺邦友：カルチャーボトルからの分離とその同定に難渋した嫌気性菌菌血症の一症例．日本臨床微生物学雑誌 6(1)，56-60 (1996)

渡辺邦友，加藤直樹，田中香お里，田中保知，加藤はる，上野一恵：新ペネム抗菌薬 Sulopenem (CP-70429) の抗嫌気性菌作用．Jpn J Antibiotics 49(4)，367-376 (1996)

栄枝裕文，飯沼宣樹，島 寛人，加藤直樹，加藤はる，渡辺邦友：劇症型 A 群レンサ球菌による壊死性筋炎の 1 例．感染症学雑誌 70(3)，273-277 (1996)

栄枝裕文、飯沼宣樹、島寛人、加藤直樹、加藤はる、渡辺邦友：劇症型 A 群レンサ球菌による下肢壊死性筋膜炎の 1 例. 感染症学雑誌 70(3), 273-277(1996)

原著 (欧文・国内)

Mikamo H, Izumi K, Ito K, Sawamura H, Sawa K, Watanabe K, Ueno K, Tamaya T: Bacterial flora detected in the uterine endometrial cavity of normal puerperae on the puerperal first day

and on the puerperal fifth day after incidental use of cefpodoxime proxetil. Jpn J Antibiotics 6(3) , 269-273 (1993)

Mikamo H, Izumi K, Ito K, Watanabe K, Ueno K, Tamaya T: Bacterial regrowth-Inhibition effect of cefmetazole and netilmicin in the puerperal uterine cavity. Drug Invest 5(5) , 250-255 (1993)

Mikamo H, Izumi K, Ito K, Watanabe K, Ueno K, Tamaya T: Endometrial bacterial flora detected in patients with uterine endometrial cancer. 感染症学雑誌 67(8) , 712-717 (1993)

Jotwani R, Tanaka Y, Watanabe K, Bandoh KT, Kato N, Ueno K: Comparison of cytokine induction by lipopolysaccharide of Bacteroides fragilis with Salmonella typhimurium in mice. Microbiol Immunol 38(9) , 763-766 (1994)

Tanaka Y, Jotwani R, Watanabe K, Tanaka K, Kato N, Ueno K: Effect of Escherichia coli lipopolysaccharide on Bacteroides fragilis abscess formation and mortality in mice. Microbiol Immunol 38(2) , 97-102 (1994)

Mikano H, Izumi K, Ito K, Kato N, Watanabe K, Ueno K, Tamaya T: In vitro antibacterial activity of FK037, a new parenteral broad-spectrum cephalosporin, against recent clinical isolates in the fields of obstetrics and gynecology. Chemotherapy 40, 161-166 (1994)

Mikano H, Izumi K, Ito K, Kato N, Watanabe K, Ueno K, Tamaya T: Study on treatment of bacterial vaginosis with oral administration of metronidazole or cefdinir. Chemotherapy 40, 362-368 (1994)

Yamazoe K, Iwai K, Horiuchi T, Mori M, Kato N, Ueno K, Watanabe K, Katagiri Y: Antimicrobial activity of acrinol and pyoktanin against methicillin-resistant Staphylococcus aureus. Jpn J Hosp Pharm 20(3), 200-206 (1994)

Tanaka M, Watanabe K, Sugie S, Ueno K: Pneumatosis cystoides intestinalis in gnotobiotic quails. J Toxicol Pathol 9, 131-137 (1996)

原著 (欧文・国外)

Suata KI, Watanabe K, Ueno K, Homma H: Antimicrobial susceptibility patterns and resistance transferability among Bacteroides fragilis group isolates from patients with

appendicitis, in Bali, Indonesia. *Clin Infect Dis* 16, 561-566 (1993)

Bandoh K, Ueno K, Watanabe K, Kato N: Susceptibility patterns and resistance to imipenem in the *Bacteroides fragilis* group species in Japan: a 4-year study. *Clin Infect Dis* 16 (Suppl 4) , S382-386 (1993)

Kato N, Kato H, Tanaka Y, Bando K, Watanabe K, Ueno K: In vitro activity of FK037, a new parenteral cephalosporin, against anaerobic bacteria. *Antimicrob Agents Chemother* 37(5) , 957-961 (1993)

Kato N, Ou CY, Kato H, Bartley SL, Luo CC, Killgore GE, Ueno K: Detection of toxigenic *Clostridium difficile* in stool specimens by the polymerase chain reaction. *J Infect Dis* 167, 455-458 (1993)

Kato H, Cavallaro JJ, Kato N, Bartley SL, Killgore GE, Watanabe K, Ueno K: Typing of *Clostridium difficile* by western immunoblotting with 10 different antisera. *J Clin Microbiol* 31(2) , 413-415 (1993)

Killgore GE, Kato H: Use of arbitrary primer PCR to type *Clostridium difficile* and comparison of results with those by Immunoblot typing. *J Clin Microbiol* 32(6) , 1591-1593 (1994)

Kato H, Kato N, Watanabe K, Ueno K, Ushijima H, Hashira S, Abe T: Application of typing by pulsed-field gel electrophoresis to the study of *Clostridium difficile* in a neonatal care unit. *J Clin Microbiol* 32(9) , 2067-2070 (1994)

Mikamo H, Kawazoe K, Izumi K, Ito K, Katoh N, Watanabe K, Ueno K, Tamaya T: Inhibition of bacterial regrowth in the puerperal uterine cavity by cefbuperazone. *Curr Ther Res* 55(12) , 1465-1470 (1994)

Jotwani R, Tanaka Y, Watanabe K, Tanaka K, Kato N, Ueno K: Cytokine stimulation during *Salmonella typhimurium* sepsis in *ItyS* mice. *J Med Microbiol* 42, 348-352 (1995)

Ito K, Ito Y, Mizuta K, Ogawa H, Suzuki T, Miyata H, Kato N, Watanabe K, Ueno K: Bacteriology of chronic otitis media, chronic sinusitis, and paranasal mucopyocere in Japan. *Clin Infect Dis* 20, S214-219 (1995)

Tanaka BK, Kato N, Watanabe K, Ueno K: Antibiotic susceptibility profiles of *Bacteroides fragilis* and *Bacteroides thetaiotaomicron* in Japan from 1990 to 1992. *Clin Infect Dis* 20 (Suppl 2) , 352-355 (1995)

Kato M, Muto Y, Tanaka-Bandoh K, Watanabe K, Ueno K: Sphinglipid composition in *Bacteroides* species. *Anaerobes* 1 , 135-139 (1995)

Jotwani R, Kato N, Kato H, Watanabe K, Ueno K: Detection of *Bacteroides fragilis* in clinical specimens by polymerase chain reaction amplification of the neuraminidase gene. *Curr Microbiol* 31 , 215-219 (1995)

Kato N, Karuniawati A, Jotwani R, Kato H, Watanabe K, Ueno K: Isolation of enterotoxigenic *Bacteroides fragilis* from extraintestinal sites by cell culture assay. *Clin Infect Dis* 20 (Suppl 2) , S141 (1995)

Kato H, Kato N, Watanabe K, Ueno K, Sakata Y, Fujita K: Relapses or reinfection; analysis of a case of *Clostridium difficile*-associated colitis by two typing systems. *Curr Microbiol* 45, 490-493(1996)

Kato N, Kato H, Watanabe K, Ueno K: Association of enterotoxigenic *Bacteroides fragilis* with bacteremia. *Clin Infect Dis*,23(Supple 1),S83-86(1996)

Nonomura H, Kato N, Ohno Y, Itokazu M, Matsunaga T, Watanabe K: Indigenous bacterial flora of medical leeches and their susceptibilities to 15 antimicrobial agents. *J Medical Microbiol*, 45,490-493(1996)

Ito Y, Moriwaki H, Muto Y, Kato N, Watanabe K, Ueno K: Effect of lactulose on short-chain fatty acids and lactate production and on the growth of faecal flora, with special reference to *Clostridium difficile*. *J Med Microbiol*, in press (1996)

Kato N, Kato H, Tanaka-Bando K, Watanabe K, Ueno K: Comparative in vitro activity of Du-6859a to Japanese isolates of anaerobic bacteria. *Clin Infect Dis*, in press (1996)

Kato T, Uemura H, Murakami N, Moriwaki H, Muto Y, Ueno K, Watanabe K: Prevalence of anaerobic infection in pulmonary diseases: Japanese experience using transtracheal aspiration and immediate bed side anaerobic inoculation. *Clin Infect Dis*, 23(Suppl 1), S31-35(1996)

Puapermpoonsiri S, Kato N, Watanabe K, Ueno K, Chongsomchai C, Lumbiganon P: Vaginal microflora associated with bacterial vaginosis in Japanese and Thai pregnant women. Clin Infect Dis 23, 748-752 (1996)

Ojio K, Banno Y, Nakashima, S, Kato N, Watanabe K, Lyerly DM, Miyata H, Nozawa Y: Effect of Clostridium difficile toxin B on IgE receptor mediated signal transduction in rat basophilic leukemia cells: Inhibition of phospholipase D activation. Biochem Biophys Res Commun, 224,591-596(1996)

Tada K, DEguchi T, Kato N, Kawada Y: Detection of Ureaplasma urealyticum in urethral swab samples from asymptomatic men and men with urethritis by a polymerase chain reaction-based assay. J Infect Chemother 2, 209-212(1996)

その他

斎藤 厚, 稲松孝思, 岡田 淳, 小栗豊子, 菅野治重, 草野展周, 公文宏巳, 山口恵三, 渡辺 彰, 渡辺邦友: 日本化学療法学会抗菌薬感受性測定法検討委員会報告 - 呼吸器感染症および敗血症におけるブレイクポイント - Chemotherapy 42(8), 906 (1994)

田中香お里, 渡辺邦友: クロストリジウム染色の染色性変化. 検査と技術 22(11), 932-933 (1994)

渡辺邦友: 嫌気性菌感染症. 感染症 Today 2(2), 3 - 4 (1995)

加藤直樹, 加藤はる, 渡辺邦友: 注目されている感染症 Clostridium difficile と院内感染. Today's Therapy'95 19(3), 118-120 (1995)

加藤はる: 検査ファイル C. difficile の型別 (タイピング). 検査と技術 23(12), 998-999 (1995)

加藤直樹, 加藤はる: MT ゼミナール CDC の役割. Medical Technology 23(12), 1130-1133 (1995)

加藤直樹: 学会印象記 ~ 世界嫌気性菌学会 ~ . 臨床と微生物 23, 222 (1996)

動物実験施設

著書 (欧文)

Sugie S, Okamoto K, Ueda F, Yano J, Yoshimi N, Tanaka T, Mori H: Connexin 43, a possible new marker protein for preneoplastic and neoplastic lesions in rat hepatocarcinogenesis, Intercellular Communication through Gap Junction, (ed Kanno Y). Progress in Cell Research 4, Elsevier Sci Corp, 1995. 127-131

Mori H, Tanaka T, Sugie S, Yoshimi N, Kawamori T, Hirose Y, Osawa T: Protective role of dietary factors in carcinogenesis of digestive organs, Proceeding of International Conference on Food Factors; Chemistry and Cancer Prevention, (eds Osawa T, Ohigashi H). Springer-Verlag, Tokyo, in press

Sugie S, Tanaka T, Morishita Y, Wang A, Yoshimi N, Mori H: Chemopreventive effect of magnesium hydroxide on colon carcinogenesis, Proceeding of International Conference on Food Factors; Chemistry and Cancer Prevention, (eds Osawa T, Ohigashi H). Springer-Verlag. Tokyo, 1996 in press

総説 (和文)

森 秀樹, 田中卓二, 杉江茂幸, 吉見直己, 川森俊人: 大腸癌の化学予防. 特集「がんのケモプリベンション」 Oncologia 27, 128-133 (1994)

総説 (欧文・国内)

Mori H, Tanaka T, Sugie S, Yoshimi N: Chemopreventive effects of plant derived phenolic, organosulfur and other compounds on carcinogenesis in digestive organs. Environ Mut Res Commun 17, 127-134 (1995)

Mori H, Sugie S, Tanaka T, Makita H, Yoshimi N: Suppressive effects of natural antioxidants on carcinogenesis in digestive organs. Environ Mut Res Commun 18, 1996 in press

原著 (和文)

餌取文昌, 沢田和子, 加地秀樹, 杉江茂幸, 田中卓二: 胸水中に腫瘍細胞が出現した肉腫様肝細胞癌の 1 例. 日本臨床細胞学会雑誌 33, 91-92 (1994)

岡本清尚, 中村淳博, 杉江茂幸, 田中卓二: 穿刺吸引細胞診にて診断された授乳期乳癌

の 1 例. 日本臨床細胞学会雑誌 33, 579-580 (1994)

原著 (欧文・国内)

Sugie S, Okumura A, Tanaka T, Mori H: Inhibitory effects of benzyl isothiocyanate and benzyl thiocyanate on diethylnitrosamine-induced hepatocarcinogenesis in rats. *Jpn J Cancer Res* 84, 865-870 (1993)

Okamoto K, Sugie S, Ohnishi M, Makita H, Kawamori T, Watanabe T, Tanaka T, Mori H: Chemopreventive effects of taurine on diethylnitrosamine and phenobarbital-induced hepatocarcinogenesis in male F344 rats. *Jpn J Cancer Res* 87, 30-36 (1996)

原著 (欧文・国外)

Tanaka T, Kojima T, Okumura A, Sugie S, Mori H: Inhibitory effect of the non-steroidal antiinflammatory drugs, indomethacin and piroxicam on 2-acetylaminofluorene-induced hepatocarcinogenesis in male AC / IN rats. *Cancer Lett.* 68, 111-118 (1993)

Sugie S, Yoshimi N, Okumura A, Tanaka T, Mori H: Modifying effects of benzyl isothiocyanate and benzyl thiocyanate on DNA synthesis in primary culture of rat hepatocytes. *Carcinogenesis* 14, 281-283 (1993)

Sugie S, Tanaka T, Mori H, Reddy BS: Effect of restricted caloric intake on the development of the azoxymethane-induced glutathione S-transferase placental form positive hepatocellular foci in male F344 rats. *Cancer Lett.* 68, 67-73 (1993)

Sugie S, Yoshimi N, Tanaka T, Mori H, Williams GM: Alterations of nuclear pores in preneoplastic and neoplastic rat liver lesions induced by 2-acetylaminofluorene. *Carcinogenesis* 15, 95-98 (1994)

Sugie S, Mori Y, Okumura A, Yoshimi N, Okamoto K, Sato S, Tanaka T, Mori H: Promoting and synergistic effects of chrysazin on 1,2-dimethylhydrazine-induced carcinogenesis in male ICR / CD-1 mice. *Carcinogenesis* 15, 1175-1179 (1994)

Sugie S, Okamoto K, Okumura A, Tanaka T, Mori H: Inhibitory effects of benzyl thiocyanate and benzyl isothiocyanate on methylazoxymethanol acetate-induced intestinal carcinogenesis in rats. *Carcinogenesis* 15, 1555-1560 (1994)

Sugie S, Tanaka T, Shima H, Shinoda T, Mori H, Muto Y: Effects of a synthetic polyprenoic acid (E-5166) on the gap junction of rat hepatocytes treated with liver tumor promoters, phenobarbital, and p,p'-dichlorodiphenyltrichloroethan. *Toxicol Pathol.* 22, 398-403 (1994)

Tanaka T, Okumura A, Yoshimi N, Sugie S, Shimonaka A, Mori H: Ki-I-positive large cell anaplastic lymphoma diagnosed by urinary cytology. *Acta Cytologica* 75, 1433-1439 (1995)

Sugie S, Okamoto K, Tanaka T, Mori H, Reddy BS, Satoh K: Effect of fish oil on the development of azoxymethane-induced glutathione- S-transferase placental form positive hepatocellular foci in male F344 rats. *Natl Cancer* 24, 187-196 (1995)

Mori H, Sugie S, Ino N, Mahidor R, Tanaka T, Hara A, Morishita Y: Inhibitory effects of naturally-occurring and related synthetic organosulfur compounds on genotoxicity in hepatocytes and digestive organs carcinogenesis. *J Environ Pathol Toxicol Oncol*, in press

Sugie S, Okamoto K, Makita H, Ohnishi M, Kawamori T, Watanabe T, Tanaka T, Mori H: Inhibitory effect of chlorophyllin on diethylnitrosamine and phenobarbital-induced hepatocarcinogenesis in male F344 rats. *Jpn J Cancer Res*, in press

輸血部

著書 (和文)

大塚節子：免疫不全でない症例の臨床例 - 胆石手術症例，輸血後 GVHD，1 版，十字猛夫，伊藤和彦編集，京都，金芳堂，1994．49-56

大塚節子：適合試験，臨床と血液型，1 版，沢口彰子他編，東京，朝倉書店，1993．120-125

総説 (和文)

大塚節子：輸血後 GVHD の臨床像．病態生理 14，95-100 (1995)

原著 (和文)

大塚節子，長屋昌幸，佐藤弦士朗，杉浦節子，野間昭夫：輸血後 GVHD を如何に予防するか？岐阜大医紀 41，786-787 (1993)

大塚節子，木村彰方，高見 剛，柴田雅也，村川真司，林 勝知，広瀬 一，佐藤弦士朗，長屋昌幸，野間昭夫，広瀬光男：免疫能正常患者における致死的輸血後 GVHD：PCR-based DNA typing による証明．日本輸血学会誌 41, 1054 (1994)

矢崎 信，森島泰雄，小寺良尚，山内辰也，山田博豊，北折健次郎，祖父江 良，堀部敬三，仁田正和，谷本光音，南 三郎，松山孝治，平林憲之，三間屋純一，影山慎一，大塚節子，柴田丈夫，斎藤英彦：東海骨髓バンクにおける非血縁者ドナーのコーディネーションの経験 - 骨髓提供に対するドナーの心理．臨床血液 35，738-43 (1994)

田中真司，服部雅仁，大塚節子：宗教上輸血拒否患者の高度貧血状態の麻酔経験．自己血輸血 8，216 (1995)

高橋 健，鶴見 寿，安藤量基，田近正洋，森脇久隆，武藤泰敏，長屋昌幸，佐藤弦士朗，大塚節子：自己免疫性溶血性貧血 (AIHA) 3 例の検討．日本輸血学会誌 40，675 (1994)

西本 裕，河田好泰，嘉本将治，徳山 剛，和田栄二，糸数万正，松永隆信，大塚節子：整形外科予定手術に体する自己血貯血の経験．日本輸血学会誌 40，676-677 (1994)

大塚節子，木村彰方，伊達是志，小柳 毅，Kunstmann E，山田幸治，佐藤弦士朗，長屋昌幸，野間昭夫，広瀬光男：免疫能抑制患者における致死的輸血後 GVHD. 日本輸血学会雑誌 40, 674-675 (1994)

西本 裕，伏見一成，伊達和人，大野貴敏，武内章二，大塚節子：骨盤骨腫瘍手術における自己血輸血の経験．自己血輸血 印刷中 (1996)

原著 (欧文 国外)

Otsuka S, Kasuya S, Hirose M: Fatal transfusion-associated graft-versus-host disease. Aust N J Med 23, 308-309 (1993)

Otsuka S, Kimura A, Date Y, Koyanagi T, Hirose M, Yamada Y, Noma A: Fatal transfusion-associated graft-versus-host disease. Transfusion 34, 936-937 (1994)

Otsuka S, Kimura A, Hirose M : Transfusion-associated graft-versus-host disease in immunocompetent patients: HLA 1-way-match in class I -A and -B antigens but not necessarily in class II loci. Vox Sanguinis 40 / Suppl-2, 177 (1996)

その他

講演 大塚節子：「自己血輸血について」整形外科手術と自己血輸血懇話会 (1993.12.2. 岐阜)

大塚節子：Round Table「整形外科手術における自己血輸血の今後の展望：輸血部の立場から．整形外科手術と自己血輸血懇話会 (1993.12.2. 岐阜)

大塚節子：人工赤血球の開発状況について．第 7 回岐阜麻酔蘇生集中治療疼痛研究会 (1993.12.18. 岐阜)

大塚節子：Round Table「整形外科手術における自己血輸血の経験と問題点．第 2 回整形外科手術と自己血輸血懇話会 (1994.12.8. 岐阜)

大塚節子：HLA-A, -B are the most critical loci of major histocompatibility complex (MHC) in one-way-match in transfusion associated graft-vs-host disease in immunocompetent patients. 第 10 回岐阜麻酔蘇生集中治療疼痛研究会 (1994.12.17)

西本 裕，徳山 剛，喜久生明男，系数万正，松永隆信，大塚節子，野間昭夫：人工

股関節置換術における貯血式自己血輸血療法．第 4 回人工股関節 forum (1995. 8 月 高山)

講演 大塚節子：「輸血医学概論」第 5 回輸血看護業務担当者会，岐阜県赤十字血液センター主催 1995.11.15

薬剤部

著書 (和文)

杉山 正, 片桐義博: 狭心症治療剤, 新編 診断・治療の進歩と新しい薬剤, 鎌田武信・高杉益充編, 大阪, 医薬ジャーナル社, 1995. 150-157

杉山 正, 岩井紀代身, 安田公夫, 片桐義博: 多剤併用・薬物相互作用例, 高齢者への服薬指導・新編, 福地 坦編, 大阪, 医薬ジャーナル社, 1996. 144-149

片桐義博, 杉山 正: 甲状腺疾患と薬剤, 病気と薬剤, 改訂第 4 版, 日本薬剤師会編, 東京, 薬事日報社, 1996. 372-386

総説 (和文)

安田公夫, 石川達也, 森 充弘, 片桐義博: 高齢者への服薬指導. 老化と疾患 6, 563-565 (1993)

片桐義博: 新しい合成ステロイドホルモンの開発動向. 日本臨牀 52, 685-690 (1994)

杉山 正, 森 充弘, 片桐義博: 岐阜大学医学部附属病院における抗癌剤の使用状況 - 注射剤を中心に -. 化学療法の領域 11, 527-534 (1995)

杉山 正, 片桐義博: 高齢者への服薬指導. 老年消化器病 7, 51-56 (1995)

杉山 正, 片桐義博: 抗不整脈薬の使用状況と服薬指導. 薬局 46, 1157-1161 (1995)

安田公夫: 特集 院外処方せん発行における病院薬剤師と開局薬剤師の業務連携 医療の担い手となるために. 日本病院薬剤師会雑誌 32, 275-277 (1996)

堀内 正, 中村光浩, 杉山 正, 片桐義博: 岐阜大学医学部附属病院における TDM. TDM 研究 13, 113-114 (1996)

杉山 正, 片桐義博: 血栓症治療に用いられる抗血栓薬の薬物動態. 薬局 47, 545-549 (1996)

原著 (和文)

吉岡史郎, 澤 赫代, 高木 肇, 久野由恵, 森 俊二, 片桐義博:メチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (臨床分離株) の生物学的性状および消毒剤・抗菌剤に対する感受性の検討. 病院薬学 19, 92-98 (1993)

堀内 正, 今枝憲重, 片桐義博:分子量分画化ヘパリンおよび硫酸化ヘパリンの生物活性について. 腎臓 15, 185-189 (1993)

西村久雄, 小村直之, 岩本喜久生, 古川裕之, 市村藤雄, 折井孝男, 伊賀立二, 櫻井恒太郎, 開原成允, 片桐義博:大学医療情報ネットワークを利用した薬剤情報の共同利用の検討. 病院薬学 19, 248-254 (1993)

杉山 正, 堀内 正, 下田浩欣, 松浦克彦, 森 充弘, 片桐義博:塩酸エペリゾン製剤の品質比較試験. 薬理と治療 21, 1659-1668 (1993)

下田浩欣, 杉山 正, 堀内 正, 松浦克彦, 森 充弘, 片桐義博:テブレノンのカプセル剤および細粒剤の安定性の検討. 臨床医薬 9, 1711-1717 (1993)

堀内 正, 杉山 正, 森 充弘, 片桐義博:硫酸化の異なるヘパリンおよび低分子ヘパリンの抗凝固作用と血小板凝集に及ぼす影響について. 腎臓 16, 56-57 (1994)

岩井紀代身, 山添喜久雄, 堀内 正, 森 充弘, 加藤直樹, 上野一恵, 渡邊邦友, 片桐義博:気管内吸引カテーテル用消毒液の細菌汚染と消毒剤の殺菌効果. 病院薬学 20, 97-102 (1994)

松浦克彦, 堀内 正, 杉山 正, 下田浩欣, 森 充弘, 片桐義博:ニフェジピン徐放性製剤の安定性および溶出特性. 薬理と治療 22, 3391-3399 (1994)

堀内 正, 今枝憲重, 杉山 正, 森 充弘, 森川則文, 武山正治, 片桐義博:バルプロ酸ナトリウム徐放性顆粒剤および錠剤における放出挙動と体内動態の検討. 臨床医薬 10, 1765-1771 (1994)

杉山 正, 下田浩欣, 堀内 正, 松浦克彦, 森 充弘, 片桐義博:テブレノン製剤の安定性に及ぼす包装あるいは光の影響. 臨床医薬 10, 2171-2178 (1994)

安田公夫, 堀内 正, 中村光浩, 森 充弘, 片桐義博, 丹羽雅之, 野崎正勝, 鶴見介登:医学部学生の TDM 実習に関する検討. TDM 研究 11, 229-230 (1994)

岡安伸二, 山添喜久雄, 堀内 正, 杉山 正, 森 充弘, 片桐義博:入院患者における点眼剤の細菌汚染について. 日本病院薬剤師会雑誌 31, 331-334 (1995)

堀内 正, 森 充弘, 片桐義博:フルオレセイン標識化ヘパリンの分子量分画と高速分子排除クロマトグラフィによる測定. 腎臓 17, 51-53 (1995)

安田公夫, 堀内 正, 中村光浩, 森 充弘, 丹羽雅之, 野崎正勝, 鶴見介登, 片桐義博:医学部学生に対する TDM 実習についての検討. TDM 研究 12, 69-73 (1995)

松浦克彦, 堀内 正, 杉山 正, 下田浩欣, 中村光浩, 片桐義博:塩酸アゼラスチン製剤の品質比較試験. 臨床医薬 11, 1099-1106 (1995)

岩井紀代身, 石川達也, 杉山 正, 片桐義博:入院患者における相互作用の組合わせ処方に関する検討. 病院薬学 21, 250-255 (1995)

堀内 正, 中村光浩, 杉山 正, 片桐義博:血中ゾニサミド濃度に及ぼす年齢および他剤併用の影響に関する検討. TDM 研究 12, 249-250 (1995)

近藤雄司, 河野吉喜, 岡田和正, 山本哲也, 操 忠, 片桐義博, 北澤克明:熱依存性ゲル化剤を配合したチモロール点眼液の眼圧下降効果. あたらしい眼科 12, 1289-1293 (1995)

杉山 正, 片桐義博:複数科受診患者の重複・相互作用処方に関する検討. 病院薬学 21, 519-524 (1995)

杉山 正, 岩井紀代身, 片桐義博:処方オーダリングシステムを利用した複数科受診患者の処方監査支援システム. 日本病院薬剤師会雑誌 32, 169-173 (1996)

杉山 正, 松浦克彦, 片桐義博:コンピュータによる在庫管理システムと連動した適正な包装規格への変更システム. 日本病院薬剤師会雑誌 32, 307-310 (1996)

堀内 正, 杉山 正, 片桐義博:フルオレセイン標識化ヘパリンの高速分子排除クロマトグラフィによる測定のための試料調製に関する検討. 腎臓 18, 65-66 (1996)

杉山 正, 各務玲子, 松浦克彦, 岡安伸二, 田中弘美, 猪又佳代, 片桐義博:岐阜大学病院における硫酸モルヒネ徐放錠の処方状況. 日本病院薬剤師会雑誌 32, 415-418 (1996)

杉山 正, 柴山朋子, 片桐義博 : 骨粗鬆症治療剤の適正使用のための処方状況調査. 臨床医薬 12, 945-951 (1996)

原著 (欧文・国内)

Nagasako S, Iwamoto K, Hayashibara M, Katagiri Y, Morioka S, Moriyama K: Utilization of salivary level monitoring of mexiletine in the therapy of arrhythmic patients. *Jpn J Clin Pharmacol Ther* 24, 425-431 (1993)

Yoshioka S, Imaeda N, Okano Y, Mizukami Y, Katagiri Y: Preferential uptake of lactosylceramide-bearing dipalmitoylphosphatidylcholine-liposomes into liver: Role of membrane fluidity. *Biol Pharm Bull* 17, 640-644 (1994)

Yamazoe K, Iwai K, Horiuchi T, Mori M, Kato N, Ueno K, Watanabe K, Katagiri Y: Antimicrobial activity of acrinol and pyoktanin against methicillin-resistant *Staphylococcus aureus*. *Jpn J Hosp Pharm* 20, 200-206 (1994)

Sugiyama T, Itokazu M, Shimoda H, Mori M, Matsunaga T, Katagiri Y: A case of gastric perforation associated with concomitant use of non-prescription drug. *Jpn J Hosp Pharm* 21, 63-69 (1995)

原著 (欧文・国外)

Nagasako S, Iwamoto K, Hayasibara M, Katagiri Y: Dependency of salivary excretion of mexiletine on the plasma concentration in rats. *J Pharm Pharmacol* 45, 154-156 (1993)

Iwamoto K, Naora K, Katagiri Y, Ichikawa N, Hayashibara M, Tanaka K, Yamaguchi T, Sekine Y: Comparative neurotoxicity study of ciprofloxacin and sparfloxacin after coadministration with fenbufen in rats. *Drugs* 45(S3), 290-291 (1993)

Nakashima S, Mizutani T, Nakamura Y, Takemura S O, Nakamura M, Miyata H, Katagiri Y, Nozawa Y: Effects of selective phosphodiesterase type IV inhibitor, rolipram, on signal transducing phospholipases in neutrophil: Inhibition of phospholipases A₂, D but not C. *Comp Biochem Physiol* 112C, 137-143 (1995)

Yamazoe K, Horiuchi T, Sugiyama T, Katagiri Y: Simultaneous high-performance liquid chromatographic determination of carboplatin, epirubicin hydrochloride and mitomycin C in a Lipiodol emulsion. *J Chromatogr A* 726, 241-245 (1996)

2 共同研究・受託研究 (国内・外) の実施状況 (1993年 - 1996年 6月)

(解剖学第一講座)

正村 静子： ヒトの関節の血管支配 (Anatomisches Institut, Universität Würzburg, Germany 1993 - 1996)

(解剖学第二講座)

小野塚 實： 単一ニューロンレベルでの抑制性グルタミン酸レセプターの分子遺伝学的解析 (岐阜大学農学部, 1996 - ; 東京都立大学理学部, 1996 -), 咀嚼運動における頬粘膜内受容体の機能解析 (東京歯科大学, 1992 -), 脳内生理活性物質の加齢変化とその機能的意義 (東京都老人総合研究所, 1996 - ; 神奈川歯科大学, 1993 - ; 藤田保健衛生大学医学部, 1995 -), 痙攣関連蛋白の解析 (愛知県心身障害者コロニー発達障害研究所, 1993 - ; 神奈川歯科大学, 1985 - 1994 ; 東京都立大学理学部, 1987 - 1995 ; 国立台湾大学動物系 (台湾) 1986 -), 唾液腺癌と性ホルモンレセプター (神奈川歯科大学, 1990 -)

(生理学第一講座)

森田啓之： 食塩感受性高血圧の発症機序 (香川医科大学, 1996 -), ネガティブ・フィードフォワード調節機構による体液恒常性維持 (香川医科大学, 1996 -), 心不全時の自立神経性循環調節 (香川医科大学, 1996 -)

李 憲： 神経伝達物質または神経調節因子としての一酸化窒素の役割に関する研究 (京都大学医学部, 1992 -)

渡邊和子： 単一ニューロンレベルでの抑制性グルタミン酸レセプターの分子生物学的解析： whole-cell patch clamp technique と PCR 法の併用 (岐阜大学農学部, 1996 -), 老化促進マウス (SAM) を用いた加齢による脳内神経伝達物質および受容体の動態変化の解析 (藤田保健衛生大学医学部, 1995 - ・ 神奈川歯科大学, 1993 -), 咀嚼運動における頬粘膜内受容体の機能的役割 (東京歯科大学・神奈川歯科大学, 1992 -), 痙攣関連蛋白の解析 (神奈川歯科大学, 1990 - 1994 ・ 東京都立大学理学部, 1990 - 1994)

(生理学第二講座)

恵良聖一, 桑田一夫： $^1\text{H-NMR}$ による血漿アルブミン分子の構造転移と molecular aging および水構造の研究 (岡崎国立共同研究機構・生理学研究所, 1993 - 1994), 生体組織内の水構造及びエネルギー代謝の研究 (岡崎国立共同研究機構・生理学研究所, 1993 - 1994), タンパク質の「モルテン・グロビュール構造」に関する物理化学的研究 (岡崎国立共同研究機構・生理学研究所, 1995 -), $^1\text{H-NMR}$ によるタンパク質の高次構造に関する研究 (藤田保健衛生大学・総合医科学研究所, 1993 - 1995), 電子スピン共鳴法によるタンパク質の分子

運動解析 (北海道教育大学・物理, 1993 -), ラマン分光法によるタンパク質の動的挙動に関する研究 (関西学院大学・理学部・化学, 1993 -)

桑田一夫: 完全緩和行列解析プログラムの開発 (カリフォルニア大学・サンフランシスコ校 (UCSF), 1994 -)

(生化学講座)

野澤義則: ras トランスフェクト線維芽細胞の Ca^{2+} オシレーション機構 (金沢大学医学部・神経情報施設, 1992 -), PAF 受容体 cDNA 発現細胞の情報伝達解析 (東京大学医学部・生化学, 1992 -), 低分子量 G 蛋白質の分子生物学的研究 (東京工業大学理工学部, 1992 - 1995), ホルモン受容体の imprinting 機構 (ハンガリー・セメルweis 大, 1989 -), 原生動物細胞の情報伝達遺伝子解析 (米国・テキサス大, 1992 -), SCF(stem cell factor) によるシグナル伝達機構 (東京大学医学部・物療内科, 1991 - 1994), ras トランスフェクト線維芽細胞の変異ゲルゾリンの機能解析 (北海道大学医学部・癌研究所分子遺伝, 1993 - 1994), 耳下腺低分子量 G 蛋白質 (朝日大学歯学部・口腔生化学, 1993 - 1994), 肝細胞増殖因子 (HGF) のシグナル伝達機構 (大阪大学・バイオメディカル教育研究センター, 1993 -), プロスタグランジン F₂ の情報伝達 (関西医科大学・医化学, 1994 -), PLC の部位特異変異導入による活性化機構解析 (動物遺伝研究所, 1994 -), 血小板 MAP キナーゼ活性化機構 (岐阜薬科大学・生物, 1993 - 1994), 低分子量 G 蛋白質 Ram の組織発現 (東北大学医学部・解剖学, 1994 - 1995), 原生動物細胞 グルコシダーゼ遺伝子クローニング (岐阜薬科大学・生化学, 1994 - 1996), 真菌の情報伝達分子の遺伝子解析 (名古屋大学理学部・分子生物, 1995 -), 核内情報伝達酵素 (PLD) の性状と機能解析 (名古屋大学医学部・病態制御研究所, 1995 -), G 蛋白質 サブユニットによる PLC 活性化機構 (愛知県身障者コロニー研究所・生化学, 1993 - 1995), 病原性真菌の情報伝達分子の遺伝子解析 (オタゴ大, ニュージーランド, 1995 -), 病原性真菌の病原性因子の遺伝子解析 (UCLA, 米国, 1994 -), 情報変換酵素 PLD の遺伝子および細胞機能解析 (ニューヨーク州立大, 米国, 1996 -)

(分子病態学講座)

岡野幸雄: ヒト Aik 遺伝子・ヒト TSC22 遺伝子の染色体局在 (三重大学生物資源学部, 1995 - ; 理化学研究所筑波ライフサイエンスセンター, 1995 -), ヒト Aik 遺伝子の酵母 IPL1 変異株における相補性実験 (University of Texas, Austin, USA, 1995 -), Aik 遺伝子のヒト細胞における機能解析 (理化学研究所筑波ライフサイエンスセンター, 1995 -), 新規ユビキチン付加酵素遺伝子のクローニング (国立遺伝学研究所, 1996 -)

(薬理学講座)

植松俊彦: 毛髪蛋白の糖化度の測定 (三共(株)代謝分析研, 1995 -), 薬効解析のための

PK-PD モデルの母集団薬物動態学的検討(エーザイ(株)臨床薬理センター, 1995 -), 毛髪内薬物分析(ユタ大学 Center for human toxicology, 1995 -)

松野浩之: 血管肥厚と再狭窄のメカニズム (ベルギー, ルーバン大学, Center for Molecular & Vascular Biology, 1995 -), 血小板粘着とインテグリン機能 (ベルギー, ルーバン大学, Laboratory for Thrombosis Research IRC, 1995 -)

(病理学第一講座)

森 秀樹: DL アラニンの安全性再評価 (厚生省, 1995 -), 天然物質の 8 - hydroxyguanine 生成阻害作用 (産業医大産業形態研, 1996 -), 植物成分の大腸発がん抑制作用の検討 (生産開発科学研, 1994 -), Hydroxyanthraquinone 類の長期毒性発癌性の検討 (中京女子大栄養科学, 1993 -), 天然物質の抗酸化作用及び発癌抑制作用 (名古屋大学農学部食品機能科学, 1995 -)

田中卓二: 発癌過程における新規 biomarker の検討 (岐阜薬科大学生化学, 1991 -), 柑橘類由来の発癌修飾物質の同定 (近畿大学生物理工学部, 愛媛県青果連, 1993 - ; 和歌山県青果連, 1996 -), Triazine 誘導体の発癌修飾作用 (国立がんセンター化学療法部, 1995 -), 新規合成セレンウムの発癌修飾作用 (American Health Foundation, Naylor Dana Institute, 1995 -)

吉見直己: グルカロン酸水素カリウムの発癌抑制効果 (テキサス大学 MD アンダーソン癌センター, 1994 -)

(微生物学講座)

江崎孝行: Burkholderia pseudomallei の LPS の構造と生物活性 (北里研究所, タイ国立研究所, 1993 -), 非発酵菌の分類学的研究 (大阪市立大学, 1993 -), Mycobacterium avium complex の分類学的研究 (UCLA, 1993 -), ミール宇宙船内生物相の計測 (宇宙利用開発促進事業団, 1993 -), 微生物の分類同定に関する研究 (バイオインダストリー協会, 1993 -)

山本啓之: 生理活性に基準においた環境細菌群の調査研究 (東京大学海洋研究所, 1993 - 1994), 原始共生系の進化と生態 (信州大学, 岩手大学, 奈良女子大学, 国際基督教大学, 豊橋技術科学大学, 1993 -), 地球史と微生物生態系 (名古屋大学, 岩手大学, 1995 -)

(公衆衛生学講座)

清水弘之: 難病の疫学調査研究 (名古屋大学医学部, 1993 -), コホート研究による発がん要因の評価法に関する研究 (愛知県がんセンター, 1993 -), 高齢者の社会活動に関する研究 (名古屋大学医学部, 1993), ロサンゼルス在住日系人・白人の生活習慣とがん罹患に関する研究 (南カリフォルニア大学医学部, 1993), 日系米人の母国集団におけるがん罹患率と環境因子 (和歌山県立医科大学他, 1993 - 1996), 地域における高齢者の社会年齢とうつ病発

生に関する研究 (昭和大学医学部他, 1994 -), 大規模コホート設定等による保健サービス効果測定に関する研究 (高山保健所, 1995 - 1996), 特発性造血障害調査研究に関する研究 (東京女子医科大学, 1993 - 1996), 少子化時代に対応した母子保健事業に関する研究 (東京大学医学部, 1993), HPV と子宮頸癌 (東京大学医学部分院, 1994 - 1995), 糖尿病の予防・疫学に関する研究班 (国立京都病院他, 1995 - 1996), 保健医療行動に影響を及ぼす健康観の日米比較 (ハワイ大学他, 1994 -)

川上憲人： 職業性ストレスと健康に関する大規模長期コホート研究 (東京医科大学他, 1996 -), 職業性ストレスの日欧比較研究 (ブリュッセル自由大学, 1996 -), NIOSH 職業性ストレス調査票日本語版の開発 (産業医学総合研究所, 米国職業安全保健研究所, 1993 -), 地域住民を対象とした精神障害の疫学調査 (国立精神保健研究所, ミシガン大学, 1995 -), 長期閉鎖環境における精神・心理の健康管理および異文化適応に関する研究 (宇宙環境利用推進センター, 1995 -)

(法医学講座)

大谷 勲, 武内康雄： 薬物代謝酵素の組織化学的研究 (岐阜薬科大学, 継続中)

(寄生虫学講座)

高橋優三： 旋毛虫症 (米国コーネル大学; オランダ NIH; 香港大学; 山形大学; 鳥取大学, 継続中), ブラジル天疱瘡の免疫病理 (ウイスコンシン医科大学, - 1995), 犬回虫症 (神戸大学, 1994), プラストシスチスの遺伝子多型 (奈良女子大学, 継続中), エキノストーマの分類 (九州大学, 継続中), クリプトスポリジウムの遺伝子診断 (大阪市立大学, 1994), タイ肝吸虫症と胆管癌の発生 (コンケン大学, 1996 -)

伊藤 亮： エキノコックス症の分子生物学 (大阪大学微生物病研究所, 大阪大学医学部, 1993 -), 猫条虫, エキノコックス感染病態の画像解析 (北海道大学大学院獣医学研究科, 1993 -), 難治性寄生虫病エキノコックス症, 囊虫症の発症機序 (旭川医科大学, 国立予防衛生研究所, 実験動物中央研究所, 1996 -), 開発途上国の疾病対策に貢献できる医学教育のあり方 (長崎大学熱帯医学研究所, 1996 -), テニア症, 囊虫症, エキノコックス症の遺伝子診断法, 分子分類学 (大阪大学医学部, 北海道衛生研究所, 1995 -) 国際共同研究人体寄生テニア科条虫の実験動物モデル開発 (実験動物中央研究所, 大阪大学医学部, National Yang-Ming University, Taiwan, National Chunbuk University, Korea, 1995 -), エキノコックス症, 囊虫症についての血清診断法 (CDC (USA), UNAM (Mexico), University of Melbourne (Australia), University of Salford (UK), Chongqing University (China), Catholic University (Korea), 1993 -), 実験動物におけるエキノコックス感染動態解析 (Hohenheim Univeristy (Germany), 旭川医科大学, 1993 -), 東南アジアにおける伝統的食習慣と寄生虫病 (Tribhuvan University (Nepal), University of Indonesia (Indonesia), 大阪大学医学部, 国立予防衛生研究所), チベット, 新疆ウイグル自治区におけるエキノコ

ックス症， 囊虫疫学 (CDC (USA), Brigham Young University (USA), University of Salford (UK), Queensland Institute of Medical Research (Australia), Xinjiang Medical College (China), 1995 -)， 囊虫症， 肺吸虫症の分子， 免疫診断法 (Catholic University (Korea), Chongqing University (China), 大阪大学医学部， 帯広畜産大学, 1995 -)

(内科学第一講座)

武藤泰敏： リポ蛋白代謝に関する研究 (Harvard 大学 (米国), 1991 -)， 脂質代謝調節 (Columbia 大学 (米国), 1993 -)， 肝繊維化に関する研究 (Washington 州立大学 (米国), 1994 -)， 人工肝臓の開発に関する研究 (Kings 大学 (英国), 1993 -)， レチノイドによる癌化学予防に関する研究 (東京女子医科大学, 1990 -)，

森脇久隆： 発癌予防に関する基礎的， 臨床的研究 (国立がんセンター， 癌研究会， 埼玉がんセンター， 1995 -)

大西弘生： 肝細胞壊死の免疫学的発生機序に関する研究 (Kings 大学 (英国), 1996 -)

杉原潤一： 重症肝疾患の余地とその対策に関する研究 (木曾川町, 1991 -)

加藤則広： 胃癌と *hericobacter pylori* の関連に関する研究 (国立がんセンター, 1996 -)

村上啓雄： 高齢者の感染症に関する研究 (東京大学, 1993 -)

四童子好弘： レチノイドの作用機序に関する基礎的研究 (東京大学, 1995 -)

奥野正隆： 肝繊維化の病態と治療に関する基礎的研究 (理化学研究所， 大阪医科大学, 1994 -)

武藤泰敏： 人工肝臓の開発 (テルモ(株), 1994 -)

(内科学第三講座)

石塚達夫： インスリン作用の分子機構に関する研究 (米国， 南フロリダ大学)

宗 友厚： 11 水酸化ステロイド脱水酵素異常症に関する研究 (米国， コーネル大学, 1993 - 1994 年, テキサス大学, 1994 - 1995)

森田浩之： アルドステロン生成酵素に関する研究 (米国， ミズーリコロンビア大学, 1994 -)

山本眞由美： 血管内皮細胞機能と PKC に関する研究 (米国， 南フロリダ大学, 1995 -)

(産婦人科学講座)

今井篤志： 子宮癌由来増殖因子のクローニング (サントリー医薬研究所, 1993 -)

藤本次良： 受容体の変異体の婦人科腫瘍増殖に関する研究 (岡崎国立共同研究機構基礎生物学研究所, 1993)

三嶋廣繁： 実験感染モデル (エーザイ東京研究所, 1994 -)， 感染症とサイトカイン (慶応義塾大学・救急部, 1995 -)

(耳鼻咽喉科学講座)

宮田英雄： 宇宙における錯覚・失認対策法に関する研究 (宇宙開発事業団, 1993 - 1995), 宇宙における錯覚・失認機序とその対策法に関する研究, 直線加速度に対する前庭脊髄反応の研究, 視運動性眼振と後眼振に対する重力変化の影響の検討 (宇宙環境利用推進センター, 1996 -)

(皮膚科学講座)

北島康雄： 天疱瘡のシグナルトランスダクションにおけるリン酸化の研究 (京都薬科大学・生命研究所・分子生体制御研究部門, 1993 -), 水疱症に関する免疫電顕学的研究 (慶應義塾大学医学部・皮膚科, 1995 -), ヘミデスモソームの形成と分散機序に関する研究 (名古屋大学情報文科学学部・自然情報科, 1993 -)

(小児科学講座)

近藤直実： Ataxia-telangiectasia の分子遺伝学的研究 (クイーンズ大学, Australia, 1994 -), 免疫不全症の分子遺伝学的研究 (カロリンスカ研究所, Sweden, 1993 -)

鈴木康之： ペルオキシソーム病の病因 (信州大学医学部生化学, 1985 -), 副腎白質ジストロフィーの治療 (Johns Hopkins Univ., USA, 1990 -), 不飽和脂肪酸代謝 (ハリマ化成, 1993 -), エーテルリン脂質代謝異常 (Amsterdam Univ. Netherlands, 1996 -)

下澤伸行： ペルオキシソーム形成機構に関する分子生物学的研究 (姫路工業大学理学部生命科学, 1994 -), 動物細胞を用いた遺伝性ペルオキシソーム欠損症の病因解明 (九州大学理学部生物学科, 1994 -)

深尾敏幸： - ケトチオラーゼ欠損症の病因解析 (信州大学医学部生化学, 1988 -), ミトコンドリア - 酸化系異常症の病因解析 (信州大学医学部生化学, Amsterdam Univ. Netherlands, 1995 -), サクシニル-CoA:3-ケト酸 CoA トランスフェラーゼ欠損症の病因解析 (Hopital Ste-Justine, Canada, 1994 -), Ataxia-telangiectasia の病因解析 (Tel Aviv Univ, Israel, 1995 -)

祐川和子： ムコ多糖症 型 (ハンター病) の分子生物学的研究 (Hadassah Univ Hosp, Israel, 1996 -)

福田誠司： ムコ多糖症 A 型 (モルキオ病) の遺伝子解析 (Univ Krankenhaus Eppendorf, Germany, Univ de los Andes, Colombia, Univ Manchester, England, Adelaide Children's Hosp, Australia, 1993 -), ムコ多糖症 A 型 (モルキオ病) の遺伝子治療 (E Biochimica Generali, Italy, 1994 -), ムコ多糖症 型マウスの作製 (St Louis Univ, USA, 1995 -)

(臨床検査医学講座)

野間昭夫： Lp (a) リポ蛋白の簡易・迅速測定法及びイソ型測定法の開発並びに臨床への

応用 (徳山曹達(株) つくば研究所, (株) SRL 研究所, - 1993)

(口腔外科講座)

安岡 忠：産卵鶏におけるカルシウム代謝：排卵周期中の上皮小体ホルモンおよびカルシトニン受容体の結合能の変動について (岐阜大学農学部教授 川島光夫, 岐阜大学農学部名誉教授 / 東京農業大学教授 田中克英, 継続中)

半田祐二郎：羊を用いた顎関節の変形性関節症モデル：日本, オーストラリア, スウェーデン (岐阜大学, 愛知学院大学, アデレード大学, ルント大学), 口腔粘膜疾患の疫学：日本, カンボジア, マレーシア (岐阜大学, 愛知学院大学, プノンペン大学, マラヤ大学, 継続中)

(嫌気性菌実験施設)

渡辺邦友：熱帯地における慢性下痢症の病因学的研究 (琉球大学, - 1993), *Clostridium difficile* の臨床疫学的研究 (旭川医科大学, 1993), *Clostridium difficile* の疫学的研究 (順天堂大学, 1995), 臨床材料から分離される嫌気性菌に関する研究 (青森県立中央病院検査部, 1995 -)

加藤直樹：熱帯地における慢性下痢症の病因学的研究 (琉球大学, - 1993), *Clostridium difficile* の臨床疫学的研究 (旭川医科大学, 1993), *Clostridium difficile* の疫学的研究 (順天堂大学, 1995), 小児における *Clostridium difficile* の保菌状況 (名鉄病院, 1996), 老人ホーム及び老人病院における *Clostridium difficile* の保菌状況 (名古屋市厚生院, 1996), 肝硬変における *Clostridium difficile* の保菌状況 (日本赤十字病院, 1996), 整形外科領域における嫌気性菌感染症に関する研究 (日本赤十字病院, 1995 -)

田中香お里：*Bilophila wadsworthia* 感染症に関する研究 (青森県立中央病院, 1994), Protein kinase に対する嫌気性菌の sphingophospholipid の影響 (埼玉県立ガンセンター, 1994), 臨床材料から分離される嫌気性菌に関する研究 (青森県立中央病院検査部, 1995 -), 放線菌に関する研究 (浜松医科大学, 1995), 菌血症から分離される嫌気性菌 (杏林大学, 1995)

加藤はる：熱帯地における慢性下痢症の病因学的研究 (琉球大学, - 1993), *Clostridium difficile* の臨床疫学的研究 (旭川医科大学, 1993), *Clostridium difficile* の疫学的研究 (順天堂大学, 1995), 小児における *Clostridium difficile* の保菌状況 (名鉄病院, 1996), 老人ホーム及び老人病院における *Clostridium difficile* の保菌状況 (名古屋市厚生院, 1996), 肝硬変患者における *Clostridium difficile* の保菌状況 (日本赤十字病院, 1996), 整形外科領域における嫌気性菌感染症に関する研究 (日本赤十字病院, 1995 -)

(動物実験施設)

杉江茂幸：有機セレンウムの発癌抑制効果 (Naylor Dana Institute, American Health

Foundation, N.Y., U.S.A. , 1994 -)

(輸血部)

大塚節子： 輸血後 GVHD 発症における免疫遺伝学的解析，自己免疫性甲状腺疾患の遺伝解析（東京医科歯科大学難治疾患研究所成人異常代謝部門，1991 - ），同上（岐阜県日赤血液センター，1987 - ），同上（Tufts University; New England Medical Center 輸血部，Boston , USA , 1987 -)

(薬剤部)

片桐義博, 杉山 正： 薬物代謝酵素に関する研究（岐阜薬科大学・薬剤学, 1994 -)

3 研究費の状況 (1993年 - 1996年)

解剖学第一講座 文部省・総合研究 A, 正村静子: 日本における解剖学的人体諸変異に関する総合的研究 (1995 - 1996, 研究協力者).

解剖学第二講座 文部省・一般研究 (C), 伊藤和夫: 外側膝状体, 上丘, 視蓋前域に投射する網膜 W 細胞サブタイプの形態学的解析 (1993). 文部省・一般研究 (C), 長崎幸雄: 効率よい身体運動のトレーニング開始時期決定に対する神経科学的研究 (1995). 文部省・基盤研究 (C), 小野塚 實: 咀嚼運動に関連する脳内遺伝子発現の加齢変化 (1996).

生理学第一講座 文部省・一般研究 (C), 森田啓之: 肝臓内 NaCl 受容器は NaCl 恒常性維持に関与するか? (1994 - 1995). 国際学術研究, 李 憲: 神経作用性ペプチドの分離ならびにその作用に関する研究 (1993 - 1994, 分担). 国際学術研究, 李 憲: 軟体動物駆除剤の汚染と生体内濃度 (1995, 分担).

厚生省・厚生科学研究費補助金, 森田啓之: 肝硬変時の Na 貯留における肝臓内 Na 受容器の役割に関する研究 (1994). 厚生科学研究費補助金, 森田啓之: 肝硬変時の体液調節破綻における肝臓内受容器の役割に関する研究 (1995).

その他・ソルトサイエンス研究振興財団, 森田啓之: 長期の NaCl バランス調節における肝臓の役割 (1993). ソルトサイエンス研究振興財団, 森田啓之: NaCl 恒常性維持における肝臓の役割: 生理学および病態生理学的検討 (1994).

生理学第二講座 文部省・重点領域研究, 桑田一夫: モルテン・グロビュール状態における分子内運動の O-ROESY 法による研究 (1995).

文部省・一般研究 (C), 桑田一夫: 磁気共鳴イメージングによる脳神経集団活動の直接観測 (1995 -).

生化学講座 文部省・重点領域研究, 野澤義則: 低分子量 GTP 結合蛋白質の作用機構と役割 (1993 - 1995, 代表). がん特別研究, 野澤義則: 細胞増殖・癌化のシグナル伝達とリン脂質代謝 (1992 - 1993, 代表). 重点領域研究, 中島 茂: 細胞増殖・癌化のシグナル伝達とリン脂質代謝 (1994, 分担). 重点領域研究, 中島 茂: NGF 誘導神経突起伸長におけるコリン燐脂質代謝亢進の分子メカニズム (1995 - 1996, 分担). 重点領域研究, 中島 茂: シグナル伝達機構による細胞増殖制御 (1995 - 1997, 分担). 総合研究 (A), 野澤義則: 機能性リン脂質の活性発現機構に関する研究 (1994 - 1996, 代表). 総合研究 (A), 野澤義則: 細胞情報伝達における三量体 G 蛋白質の生理的役割 (1992 - 1993, 分担). 創成的基礎研究費, 野澤義則: 細胞内情報伝達機構網の研究 (1994 - 1998, 分担). 総合研究(A), 野澤義則: 燐

酸化チロシン残基を認識する SH2 領域を介する細胞内情報伝達機構の解析 (1995 - 1997, 分担). 総合研究 (A), 野澤義則: インテリジェント界面システムの構築と応用に関する研究 (1995 - 1996, 分担). 一般 (基盤)研究 (B), 野澤義則: アポトーシス誘導の膜脂質情報変換とその分子機構 (1995 - 1996). 一般研究 (C), 中島 茂: 骨芽細胞におけるプロスタグランジンの増殖刺激作用に関する細胞内シグナル伝達系 (1994 - 1995). 基盤研究 (C), 中島 茂: ホスホリパーゼ D (PLD) の活性制御機構と細胞活動における役割 (1996 - 1997). 一般研究 (C), 坂野喜子: ヒト血小板におけるホスホリパーゼ C の活性制御機構 (1993 - 1994). 一般 (基盤) 研究 (C), 坂野喜子: ヒト血小板のインテグリンを介する凝集シグナルの解析 (1995 - 1996).

その他・岐阜県ニューバイオプロジェクト, 野澤義則: 健康づくりに役立つ有用性生理活性物質遺伝子の導入による新食材の開発 (1995 - 1997). 医科学応用財団助成金, 野澤義則: TNF によるアポトーシス誘導における情報変換機構 (1995). 野澤義則: 内藤記念招へい助成金 (1996).

分子病態学講座 文部省・重点領域研究 (1) (がん生物), 岡野幸雄: 細胞増殖・癌化のシグナル伝達とリン脂質代謝 (1994, 代表). 一般研究 (C), 岡野幸雄: ras 細胞における Thy-1 発現抑制の分子機構の解析 (1994 - 1995). 奨励研究 (A), 永田浩一: ヒト血小板およびラット唾液腺の分泌を調節する低分子量 GTP 結合蛋白質に関する研究 (1994). 基盤研究 (C), 岡野幸雄: 新規ヒトユビキチン結合酵素遺伝子の単離と細胞機能における役割の解析 (1996).

その他・岩城留学生奨学生奨学会研究助成金, 永田浩一: 低分子量 GTP 結合蛋白質 ram p25 のヒト血球細胞における機能の解明 (1994).

薬理学講座 基盤研究 C, 植松俊彦: 生体位血管でのずり応力モデルの開発とずり応力内皮依存性弛緩関係の解明 (1996), 交通・予防医学研究財団助成, 植松俊彦: 毛髪分析による過去の薬物使用歴の判定 (1995). 心臓財団助成, 植松俊彦 (1996).

病理学第一講座 文部省・がん特別研究, 森 秀樹: 前癌病変, 潜在癌および顕在癌の特性に関する分子病理学的追求 (1993, 分担). 森 秀樹: 細胞増殖・癌化のシグナル伝達とリン脂質代謝 (1993, 分担). がん重点研究, 森 秀樹: 発がん抑制性の化学物質, 生体成分とその作用機構 (1994 - 1995, 分担). 森 秀樹: 大腸癌の化学予防に関する研究; 特に発がんプログレッションに対する研究 (1995-, 代表). 一般研究 (C), 森 秀樹: 潰瘍性大腸炎・大腸癌モデルに関する実験病理学的研究 (1993). 森 秀樹: 大腸発癌背景粘膜上皮における apoptosis, サイトカイン発現の解析 (1994 - 1995). 田中卓二: 口腔発癌モデルを用いた口腔癌発生の分子病理学的追求とその化学予防の基礎的研究 (1993 - 1995). 吉見直己: ラット大腸発癌過程のアラキドン酸カスケード系酵素発現と化学予防剤の修飾

作用 (1995 -) . 奨励研究 (A) , 森下由紀雄 : 遺伝子発現の差を利用したヒト肝多段階発がんの初期に関する遺伝子の検索 (1995) .

厚生省・がん研究助成金 , 森 秀樹 : 環境化学物質による発がんの一次予防に関する研究 (1993 - 1995, 分担) . 森 秀樹 : ヘテロサイクリックアミンの生成阻害及び発がん阻止 (1993 - , 分担) . 田中卓二 : 消化器がん発生に影響する食品中の要因に関する研究 (1993 - , 分担) .

その他・第 5 回佐川がん研究助成振興財団がん研究助成 , 田中卓二 : Protocatechuic acid のラット口腔 , 胃 , 膀胱発癌に対する修飾効果の検討 (1993) .

病理学第二講座 文部省・一般研究 (C) , 高見 剛 : アルツハイマー病の老人斑形成におよぼすインターロイキン 6 の役割に関する検討 (1992 - 1993) . 奨励研究 (A) , 斉尾征直 : 遺伝子工学による腫瘍特異的キラー T 細胞の効率的誘導法の確立 (1996) .

微生物学講座 文部省・総合研究 (A) , 江崎孝行 : 微生物の 16S リボソーム RNA のデータベース作成 (1993, 分担) . 総合研究 (A) , 江崎孝行 : 医学部における微生物学教育 (1993, 分担) . 一般研究 (C) , 江崎孝行 : 免疫不全患者から分離された新しい抗酸菌の系統分類学的研究 (1993) . 総合研究 (A) , 江崎孝行 : チフス菌の Vi 抗原と食細胞内寄生 (1994, 分担) . 一般研究 (C) , 江崎孝行 : レンサ球菌の新しい分類同定体系の作成に関する研究 (1994) . 総合研究 (A) , 江崎孝行 : チフス菌の Vi 抗原と食細胞内寄生 (1995, 分担) . 試験研究 (2 - B) , 江崎孝行 : 病原細菌のリボソーム RNA を使った分類同定システムの開発 (1995) . 一般研究 (C) , 江崎孝行 : グラム陽性菌の系統分類学的研究 (1995) . 総合研究 (A) , 江崎孝行 : 細胞内寄生細菌 , 原虫のマクロファージ内増殖機構と感染宿主応答の基礎的研究 (1996, 分担) . 試験研究 , 江崎孝行 : 病原細菌のリボソーム RNA を使った分類同定システムの開発 (1996) . 萌芽的研究 , 江崎孝行 : 体液中の病原微生物の定量的計測法に関する研究 (1996) . 奨励研究 (A) , 橋本安弘 : チフス菌の食細胞内増殖に関連した 45kDa 外膜蛋白質のクローニング (1996) . 奨励研究 (A) , 橋本安弘 : チフス菌 Vi 抗原の病原因子としての役割に関する研究 (1995) . 奨励研究 (A) , 橋本安弘 : 嫌気条件下でのチフス菌 Vi 抗原の発現調節機構の解析 (1994) . 奨励研究 (A) , 橋本安弘 : チフス菌 Vi 抗原の VW 変異の遺伝子解析 (1993) . 奨励研究 (A) , 河村好章 : レンサ球菌の新しい分類と同定方法の確立に関する研究 (1996) .

厚生省・AIDS と日和見感染 , 江崎孝行 : 敗血症の診断システム (1993 - 1995, 分担) .

通産省・江崎孝行 : 微生物分類同手法の検討 (1993 - 1995, 分担) .

日米医学協力結核専門部会 , 江崎孝行 : Mycobacterium avium complex と同定される菌株のリボソーム RNA 塩基配列を使った分類と同定 (1994) . 江崎孝行 : リボソーム配列を使った抗酸菌の同定検出方法 . (1996) .

宇宙科学技術利用事業団 , 江崎孝行 : ミール内微生物相の計測に関する研究 (1996, 分

担).

臨床病理学研究振興基金研究奨励金，山本啓之：高感度光量子検出計と化学発光による病原細菌の定量的検出同定システム (1994).

岐阜大学学内連携プロジェクト<植物生育促進微生物による植物全身抵抗性の誘導と減農薬，減肥料栽培の可能性>，山本啓之：微生物モニタリングシステム (1995，分担). 重点領域研究・全地球史解読，山本啓之：初期地球の生態系モデルとしての温泉バイオマツト (1996).

昭和報公会，河村好章：病原微生物の系統分類と迅速診断法に関する研究 (1996).

ヤクルト，河村好章：レンサ球菌の系統分類学的研究 (1995).

衛生学講座 文部省・一般研究 B，岩田弘敏：老人性痴呆発症の環境因子の探索と社会的支援のモデル地区設定に関する研究 (1993 - 1994).

厚生省・厚生科学研究費補助金 (地域保健対策総合研究事業)，岩田弘敏：市町村保健婦等の資質の向上に関する研究 (1994)，岩田弘敏：学校保健・職域保健等と連携した地域保健事業に関する研究 (1995). 厚生省特定疾患門脈血行異常症調査研究班，岩田弘敏，全国の特発性門脈圧亢進症の患者の実態調査 (1993 - 1995).

労働省・災害科学に関する委託研究，岩田弘敏：手腕振動の量・反応に関する研究 (1993).

その他・喫煙科学研究財団，岩田弘敏：徳川旧藩でみた死因別死亡等健康指標の地理病理学的研究 (1993 - 1994). 名古屋公衆医学研究所集団検診開発助成金，井奈波良一：血清尿酸値と生活行動習慣の関係 (1993). 高田晴子：心循環系に対する加速度脈波の有用性に関する研究 (1994). 井奈波良一：中高年期女性の脂質代謝に関わる要因の総合的研究 (1995).

公衆衛生学講座 文部省・重点領域研究 (1)，清水弘之：日系米人の母国集団におけるがん罹患率と環境因子 (1993 - 1995, 代表). 総括班，清水弘之：コホート研究による発がん要因の評価に関する研究 (1993 - 1996, 分担). 重点領域研究 (2)，川上憲人：職業性ストレスに基づいた高度情報化関連職種の特徴記述および分類に関する研究 (1994). 総合研究 (A)，川上憲人：産業/環境神経行動学の方法論の開発と神経，精神，行動障害への適用に関する研究 (1995, 分担). 一般研究 (C)，川上憲人：一般住民のタバコ依存症の頻度，危険因子およびスクリーニング法に関する疫学的研究 (1994 - 1995). 基盤研究 (C)，川上憲人：地域の高齢者におけるうつ病頻度および危険因子に関する疫学的研究 (1996).

厚生省・がん研究助成金，清水弘之：喫煙関連がんの一次予防のための喫煙習慣への介入に関する研究 (1993 - 1996, 分担). 心身障害研究，清水弘之：少子化時代に対応した母子保健事業に関する研究 (1993). 特定疾患，清水弘之：難病の疫学調査研究 (1993 - 1995, 分担). 地域保健対策総合研究事業，清水弘之：大規模コホート設定等による保健サービス効果測定に関する研究 (1995 - 1996, 代表). 長寿科学総合研究事業，川上憲人：高齢者の

社会活動評価法に関する研究班 (1993 - 1995, 分担). 地域保健対策総合研究事業, 川上憲人: 保健サービスの到達水準に関する研究 (1994 - 1995, 分担).

その他・労働省, 川上憲人: 作業関連疾患の予防に関する研究 (1995, 分担). 骨粗鬆症財団研究助成金, 永谷照男: 中高年女性の骨密度とその測定時, および過去 (5, 10, 15, 20 年前) の生活習慣や血清生化学データとの関連性 (1996). ファイザーヘルスリサーチ振興財団, 清水弘之: 保健医療行動に影響を及ぼす健康観の日米比較 (1994).

法医学講座 文部省・一般研究 (C), 大谷 勲: 乳幼児突然死症候群における肺臓での換気障害に関する病理組織学的・超微形態学的研究 (1992 - 1994). 一般研究 (C), 武内康雄: 血液型物質のヒト組織における超微形態学的分布に関する研究 (1993 - 1995). 奨励研究 (A), 松浦一也: アルデヒド還元酵素に関する法医中毒学的研究 (1993). 奨励研究 (A), 松浦一也: ジヒドロジオール脱水素酵素のヒト肝臓および赤血球における酵素多型の個人差の検討 (1995).

寄生虫学講座 文部省・一般研究 (B), 高橋優三: 旋毛虫症の免疫学的診断法の確立に関する研究 (- 1993, 分担). 文部省・国際学術 (共同研究), 伊藤 亮: エキノコックス症, 囊虫症の血清学的診断法に関する研究 (1994, 代表). 国際学術 (共同研究), 伊藤 亮: 難治性寄生虫病 (エキノコックス症, 囊虫症) の分子・免疫生物学的研究 (1995 - 1996, 代表).

日本学術振興会, 高橋優三: 実験動物における胆管癌の発生に関する超微形態的研究 (1996 -, 論博事業研究指導).

その他・大山健康財団, 伊藤 亮: (1994 年, 代表). 遺伝子工学に基づく, 新しいエキノコックス (多包虫) 症の免疫学的診断法の研究 (1995 年, 代表). 上原記念財団, エキノコックス症, 囊虫症の早期診断, 予後モニタリング法としての新しい免疫・遺伝子診断法の開発 (1996 - 1997, 代表). 日産科学振興財団, アジアにおける伝統的食文化と人畜共通寄生虫病との関わり

内科学第一講座 文部省・総合研究 (A), 武藤泰敏: 肝壊死 - 再生の病態連携機構に関する研究 (1992 - 1994, 代表). 重点研究 (), 癌分化誘導療法に関する研究 (1995 -, 分担). 一般研究 (C), 森脇久隆: 肝発癌監視, 抑制のレチノイドによる制御とその遺伝子機構に関する研究 (1993 - 1995, 代表). 基盤研究 (C), レチノイドによる発癌制御, 監視機構に関する研究 (1996 -, 代表). 一般研究 (C), 大西弘生: 肝壊死, 再生を反復する亜急性肝不全モデルの作成に関する研究 (1993 - 1996, 代表). 基盤研究 (C), 杉原潤一: 急性肝不全における脳浮腫の発生機序と対策に関する研究 (1996 -, 代表). 基盤研究 (C), 奥野正隆: レチノイド拮抗剤による肝線維化抑制効果の研究 (1995 -, 代表).

厚生省・特定疾患調査研究補助金，武藤泰敏：難治性の肝炎に関する調査研究（1992 - ，代表）．特定疾患調査研究補助金，森脇久隆：遅発性肝不全（LOHF）に関する調査研究（1992 - ，分担）．特定疾患調査研究補助金，武藤泰敏：難治性の肝炎に関する調査研究（1994 - ，代表）．特定疾患調査研究補助金，森脇久隆：遅発性肝不全（LOHF）に関する調査研究（1994 - ，分担）．がん研究助成金，武藤泰敏：がんの発生と進展を修飾する化合物の臨床応用への検討（1992 - ，代表）．がん研究助成金，武藤泰敏：肝がんの発生，進展抑制（1995 - ，分担）．厚生科学研究費，武藤泰敏：HIV 感染者発症予防，治療に関する研究（1993 - ，分担）．長寿科学総合研究，武藤泰敏：老年者の免疫異常と感染症に関する研究（1992 - ，分担）．

内科学第二講座 文部省・一般研究 (B)，藤原久義：サイトカインである腫瘍壊死因子は冠動脈粥腫の破裂，血栓形成の成因として重要である（1993）．一般研究 (B)，藤原久義：PTCA 後の再狭窄にエンドセリンおよびその受容体遺伝子の発現が関与する - 免疫組織ならびに *in situ hybridization* を用いた *neointimal hyperplasia* のメカニズムの解明 - （1994）．一般研究 (B)，藤原久義：アポトーシスに対する生存因子である *bcl-2* および遺伝子が虚血心筋に発現する - ヒトの心筋梗塞およびウサギ心筋梗塞モデルを用いた解析 - （1995）．一般研究 (C)，湊口信也，浅野喜代治：静脈系の緊張調節における内皮由来血管作動性物質の役割（1995 - 1996）．一般研究 (B)，藤原久義：PTCA 後の再狭窄にアポトーシスならびにその抑制因子が関与する（1996）．基盤研究 (C)，(2)，神原健治郎：重症心不全に伴う肺水腫に発現するアポトーシスとその意義 - 促進因子と抑制因子およびそれらの遺伝子の検討 - （1996 - 1997）．

日本循環器学会学術委員会研究班計画研究，藤原久義：preconditioning のメカニズムと臨床応用（1994 - 1997）．

内科学第三講座 厚生省特定疾患調査研究補助金，安田圭吾：副腎ホルモン産生異常症に関する研究（1993 - 1995）．

日本女医会学術研究助成，山本眞由美：糖質ステロイドホルモンによるインスリン抵抗性の出現機序解明について - プロテインキナーゼ C (PKC) を中心に（1995）．

外科学第一講座 文部省・一般研究 (C)，広瀬 一：心筋電気インピーダンスを用いた心筋保護効果判定法の実験的，臨床的確立に関する研究（1993 - 1994）．基盤研究 (C)，広瀬 一：異種移植心拒絶反応機構の解析とその制御法の開発に関する実験的研究（1995 - 1996）．一般研究 (C)，村川真司：筋代謝性腎症群 (MNMS) の予防に関する実験的研究（1994 - 1995）

一般研究 (C)，酒井 聡：電気インピーダンス法による病的肝即ち慢性肝炎肝硬変の虚血耐容能に関する研究（1994 - 1995）．一般研究 (C)，千賀省始：肝硬変の進行度と硬変肝の虚血灌流障害に関する実験的研究（1994 - 1995）．基盤研究 (C)，不破誠行：誘電スベ

クトルの解析による心筋のリアルタイムなバイアビリティ評価法の確立 (1995 - 1996) . 基盤研究 (C) , 佐々木栄作 : フィードバックシステムを備えた複数の骨格筋が交互に駆動する高効率な人工心臓システムの開発 (1996 - 1997) . 基盤研究 (C) , 森 義雄 : 開心術における心筋保護モニタとしての誘電スペクトル解析法の確立と臨床応用 (1996 - 1997) .

外科学第二講座 文部省・一般研究 (C) , 加藤元久 : 遊離肝細胞増殖法とその人工肝への応用について (1993 - 1995) . 奨励研究 (A) , 川口順敬 : 癌遺伝子関連タンパク質発現程度と宿主側反応から見た乳癌転移機序に関する検討 (1994) . 一般研究 (B) , 国枝克行 : PI-PLC による CEA 遊出現象を応用した胃癌潜在性腹膜播種性転移検出法の開発 (1994 - 1996) . 奨励研究 (A) , 辻 恭嗣 : ヒト消化器癌血行性転移における腫瘍 , 宿主側要因としての癌転移関連遺伝子の役割 (1995) . 基盤研究 (C) , 加藤元久 : ヒト免疫機構構築 SCID マウスを用いた hIL - 12 のキラー活性増強法に関する研究 (1996 - 1998) .

産婦人科学講座 文部省・一般研究 (A) , 玉舎輝彦 : 子宮内膜癌の発生・増殖におけるエストロゲンやそのレセプター遺伝子機構に関する研究 (1992 - 1994) . 一般研究 (C) , 今井篤志 : ゴナドトロピン放出因子による顆粒膜細胞活性化の分子機構と生理学的意義の研究 (1992 - 1994) . 一般研究 (B) , 今井篤志 : ホルモン依存性腫瘍における GTP 結合蛋白質共役受容体機能と遺伝子変異 (1995 - 1997) . 一般研究 (C) , 藤本次良 : ホルモン特にエストロゲン依存性子宮腫瘍および辺縁病変の発育増殖機構の研究 (1994 - 1995) . 一般研究 (C) , 藤本次良 : 婦人科癌の浸潤と転移における内分泌関与の研究 (1996 - 1998) . 一般研究 (C) , 横山康宏 : 婦人科癌における癌抑制遺伝子 p16 の発現と細胞増殖調節機構 (1995 - 1997) . 一般研究 (C) , 丹羽憲司 : DNA トポイソメラーゼを標的とする婦人科癌化学療法的基础的および臨床的研究 (1993 - 1994) . 一般研究 (C) , 飯田晃司 : 子宮内膜癌で産生される間質細胞増殖抑制因子のアミノ産配列と遺伝子発現機構 (1993 - 1994) . 奨励研究 (A) , 伊藤直樹 : 性ステロイドホルモンとアンチセンス遺伝子による婦人科癌細胞株増殖制御 (1994) . 奨励研究 (A) , 丹羽憲司 : 高エストロゲンマウス内膜発癌過程における fosjun 遺伝子発現の経時的解析 (1995) . 奨励研究 (A) , 丹羽憲司 : 子宮内膜発癌抑制物質の検出とその分子生物学的機序の解明 (1996) . 奨励研究 (A) , 三鴨廣繁 : 早産における病原微生物の意義 (1995) . 奨励研究 (A) , 三鴨廣繁 : 早産における病原微生物の意義 (1996) . 奨励研究 (A) , 操 良 : エストロゲン依存性婦人科疾患における性ステロイド結合蛋白の生物学的意義 (1995) . 奨励研究 (A) , 操 良 : エストロゲン依存性婦人科疾患における性ステロイド結合蛋白の生物学的意義 (1996) . がん重点研究 , 丹羽憲司 : マウス内膜発癌過程における遺伝子異常と形態学的変化との関連 (1994 , 分担) .

その他・日母おぎゃー献金補助金 , 玉舎輝彦 : 妊婦子宮頸管内細菌フローラやエンドトキシンと関連した正期前陣痛・前期破水の予防に関する研究 (1995 - 1997) .

整形外科学講座 文部省・科学研究費 (1995 - 1996) 一般研究 (C), 系数万正: (MRI 画像からみた膝半月及び十字靭帯の動的観察) 07671580, 新しい技術開発シリーズにつながる研究. 和田栄二: 加齢によるヒト筋力動作解析と臨床への応用及び磁気デジタイザーを用いた動作解析しすてむの開発研究 (1996). 一般研究, 大野貴敏: ユーイング肉腫における遺伝子治療の基礎的研究 - アンチセンス EWS Fli-1 を導入して - (1995 -). がん重点研究, 大野貴敏: ユーイング肉腫における遺伝子治療の基礎的研究 - キメラ遺伝子 EWS Fli-1, EWS erg に対するアンチセンスオリゴ DNA およびリボザイムの抗腫瘍効果の検討

脳外科学講座 文部省・奨励研究 (A), 原 明: 単一細胞ゲル電気泳動法による悪性脳腫瘍の化学療法剤及び, 放射線感受性試験の開発 (1993). 一般研究 (C), 山田 弘: クモ膜下出血後の脳脊髄液における脳血管攣縮惹起物質について (1992 - 1994). 一般研究 (C), 坂井 昇: 放射線増感化学療法と術中照射療法の併用による悪性 glioma の治療 (1994 - 1995). 一般研究 (C), 安藤 隆: 低酸素負荷における神経細胞内カルシウム濃度変化に対する一酸化窒素のおよぼす影響 (1994 - 1996).

厚生省・特定疾患ウィリス動脈輪閉塞症調査研究補助金, 山田 弘: ウィリス動脈輪閉塞症の成因 (1985 - 1995, 分担).

眼科学講座 文部省・科学研究費補助金, 一般研究 (B), 北澤克明: 眼圧の変動に伴う視神経, 網膜神経線維層の構造変化の量的解析とその発生機転の解明 (1993 - 1995). 奨励研究 (A), 杉山和久: エンドテリンによる二相性眼圧変動に関する実験的研究 (1994). 一般研究 (C), 山本哲也: 緑内障手術療法の改良に関する臨床的および実験的研究 (1995 -). 一般研究 (C), 富田剛司: 視野欠損を伴わない極早期正常眼圧緑内障の検出 (1995 -). 奨励研究 (A), 杉山和久: エンドセリン-1 の眼圧血液房水柵に与える影響とその眼圧動態及び受容体への結合状況 (1995). 奨励研究 (A), 谷口徹: 眼圧調節にかけるエンドセリンの病態生理学的役割に関する研究 (1995). 基盤研究 (B) (2), 北澤克明: 緑内障性視神経障害の発生と乳頭血流障害・微小血管障害の関連の解明 (1996 -). 奨励研究 (A), 谷口徹: 前眼部レーザー治療後の眼圧上昇の機序とその予防における一酸化窒素 (NO) の役割 (1996).

厚生省・長寿科学総合研究, 北澤克明: 視覚器加齢による障害の成因と治療 (1993).

耳鼻咽喉科学講座 文部省・重点領域研究, 宮田英雄, 水田啓介: 人工現実感に関する基礎的研究 (1995 - 1996, 分担). 一般研究 C, 宮田英雄: 平衡機能向上における学習の研究 (1993 - 1994). 一般研究 C, 宮田英雄: 熟練の平衡生理学的研究 (1995 - 1996). 一般研究 C, 宮田英雄, 水田啓介: 宇宙適応症候群における前庭自律神経反射並びに前庭動眼反射の

役割について (1995 - 1996, 分担). 奨励研究 (A), 水田啓介: 高齢者における直立姿勢障害のメカニズムの検討 (1994).

皮膚科学講座 文部省・一般研究 (B), 北島康雄: 表皮 - 基底膜部接着構造分子 / 分散機序と水疱症および角化異常症の発症病理 (1993 - 1994). 一般研究 (C), 清島真理子: 強皮症線維芽細胞におけるインテグリン 2 1 の細胞内分布異常の解明 (1993 - 1994). 一般研究 (A), 北島康雄: 水疱症, 角化症発症機序をモデルとした細胞骨格 / 細胞接着構造と機能の分子医学的解析 (1995 - 1997). 一般研究 (C), 清島真理子: 天疱瘡水疱形成機序におけるデスモソームカドヘリン抗原 - 抗体反応誘導シグナル (1995 - 1996). 基礎研究 (C) (2), 高木 肇: 創傷治療におけるプラスミノゲン・アクチベータの役割の分子生物学的解析 (1996 - 1997) .

厚生省・特定疾患稀少難治性皮膚疾患調査研究班, 北島康雄: (1993 - 1995). がん研究助成金池田班, 北島康雄: (1994 - 1995). がん研究助成金斎田班, 北島康雄: (1996). 特定疾患強皮症研究班, 前田 学: (1993 - 1995).

その他・日本皮膚科学会基礎医学研究費 (資生堂寄付), 清島真理子: 強皮症線維芽細胞におけるインテグリン 2 1 の細胞内分布異常の解明 (1993 - 1994). 日本リディアオリリー協会研究助成金, 清島真理子: ヒト表皮細胞における分化誘導シグナル伝達機構の解明 (1992 - 1994). 日本リディアオリリー協会研究助成金, 清島真理子: 天疱瘡水疱形成メカニズムにおけるデスモソーム抗原 - 抗体反応誘導シグナル伝達の関与 (1996).

泌尿器科学講座 一般研究 (C), 坂 義人: 尿道炎における *Ureaplasma urealyticum* の DNA 診断法の開発 (1991 - 1993) . 一般研究 (C), 河田幸道: 尿路感染症における白血球機能に関する研究 (1992 - 1994) . 奨励研究 (A), 石原 哲: 発光分析法を用いた精子内 ATP の定量法の確立 (1994) . 奨励研究 (A), 江原英俊: 前立腺癌における androgen receptor の発現と変異に関する遺伝子解析 (1994) . 奨励研究 (A), 山本直樹: 同種皮膚移植拒絶反応のメカニズム (移植片を傷害する effector cell の同定) (1994) .

厚生省・がん研究助成金, 栗山 学: 前立腺癌検診の妥当性に関する研究 (1994 - 1995, 分担) . 奨励研究 (A), 山本直樹: 移植拒絶反応時に出現する細胞傷害性マクロファージの標的細胞特異性「認識分子生物学的解析」(1995) . 一般研究 (C), 河田幸道: *Mycoplasma genitalium* の尿道炎における病原的意義の検討 (1995 - 1997) . 基礎研究 (C) (2), 出口隆: 前立腺癌の進行, 再燃化におけるケラチノサイト増殖因子の役割について (分子生物学的手法を用いた基礎的および臨床的検討) (1996 -) . 厚生省・がん研究助成金, 栗山 学: 前立腺癌検診の妥当性に関する研究 (1996 - , 分担) .

神経精神医学講座 厚生省 若林慎一郎: 「精神・神経疾患研究委託費」2 指 - 15 (H4 年度), 若林慎一郎: 「児童・思春期における行動・情緒障害の成因と病態に関する研究 (主

任研究者：若林慎一郎) (H 5. 3. 31 まで), 植木啓文：厚生省精神・神経疾患研究費委託「感情障害の経過型からみた成因解明と治療法の開発」分担研究者 (1994, 1995)

小児科学講座 文部省・重点領域 (1), 折居忠夫：単一遺伝子病の分子・細胞生物学的研究 (1993、分担). 試験研究 (2), 折居忠夫：遺伝性ムコ多糖代謝異常症の乾燥尿濾紙を用いたマスキング法の開発 (1993). 一般研究 (B), 折居忠夫：先天代謝異常症の病因遺伝子の同定 - 特にムコ多糖症, - ケトチオラーゼ欠損症, ペルオキシソーム病 - (1993 - 1994). 一般研究 (C), 近藤直実：先天性免疫不全症候群の成因に関する遺伝子学的研究 (1993 - 1994). 一般研究 (C), 山口清次： - ケトチオラーゼ欠損症の分子機構と発症メカニズムに関する研究 (1993 - 1994). 一般研究 (C), 鈴木康之：ペルオキシソーム 酸化系酵素欠損症の分子遺伝学的研究 (1994 - 1995). 一般研究 (C), 下澤伸行：ペルオキシソーム病モデルマウス作製による病態解明に関する研究 (1994 - 1995). 一般研究 (C), 近藤直実：原発性免疫不全症候群の病因遺伝子の解明に関する研究 (1995 - 1996). 基盤研究 (C) (2), 鈴木康之：副腎白質ジストロフィーの発症機構に関する研究 (1996 -). 基盤研究 (C) (2), 下澤伸行：遺伝性ペルオキシソーム欠損症の病因解明と遺伝子治療の基礎的検討に関する研究 (1996 -). 基盤研究 (C) (2), 祐川和子：遺伝性ムコ多糖代謝異常症の分子病態の解析 - 遺伝子治療の開発にむけて - (1996 -). 奨励研究 (A), 下澤伸行：動物変異細胞を用いたペルオキシソーム欠損症の病因遺伝子のクローニング (1993). 奨励研究 (A), 戸松俊治：遺伝性ムコ多糖症の病因遺伝子のクローニングと患者解析 (1994). 奨励研究 (A), 深尾敏幸：ミトコンドリアおよび細胞質アセトアセチル - CoA チオラーゼ欠損症の病因解析 (1994). 奨励研究 (A), 深尾敏幸：先天性ケトン代謝異常症の酵素診断と分子病態解析 (1995). 奨励研究 (A), 伊上良輔：B リンパ球分化異常症における B リンパ球の分化に関する遺伝子学的解析 (1996). 奨励研究 (A), 福田誠司：遺伝性ムコ多糖症 A 型の病因解析と治療法開発の為の基礎研究 (1996). 奨励研究 (A), 山田幸治：白血病および悪性リンパ腫の遺伝子解析と再発の早期診断への応用 (1996). 奨励研究 (A), 深尾敏幸：先天性ケトン代謝, 脂肪酸 酸化系異常症の酵素診断と分子病態解析 (1996).

厚生省・小児医療委託研究, 折居忠夫：遺伝性疾患の診断における DNA 関連技術の利用に関する研究 (1993, 分担). 小児医療委託研究, 折居忠夫：遺伝性疾患の分子生物学的研究とその診断治療に関する基礎的, 臨床的研究 (1994 - , 分担). 小児医療委託研究, 近藤直実：小児アレルギー疾患の病因機序解明に関する研究 (1993 - , 分担). 小児医療委託研究, 近藤直実：アレルギー素因に基づく小児難治性疾患の病因, 病態, 治療法に関する基礎的, 臨床的研究 (1994 - , 分担). 精神神経疾患委託研究, 折居忠夫：中枢神経障害を呈する遺伝性代謝病の病態解明と予防・治療に関する研究 (1993 - 1994, 分担). 精神神経疾患委託研究, 鈴木康之：中枢神経障害を呈する遺伝性代謝病の病態解明と予防・治療に関する研究 (1995 - , 分担). 特定疾患調査研究, 折居忠夫：酵素障害調査研究

(1993 - 1994, 分担). 特定疾患調査研究, 近藤直実: 免疫不全症候群調査研究 (1994, 分担). 特定疾患調査研究, 鈴木康之: 酵素障害調査研究 (1995, 分担). 心身障害研究, 折居忠夫: マスクリーニングシステムの評価方法に関する研究 (1993, 分担). 心身障害研究, 折居忠夫: スクリーニングの新しい対象疾患に関する研究 (1994 - 1995, 分担). 心身障害研究, 祐川和子: スクリーニングの評価に関する研究 (1994 - 1995, 分担). 厚生科学研究, 折居忠夫: オーフアンドラッグ開発研究 (1993 - , 分担). 予防接種研究, 近藤直実: 予防接種副反応の解析に関する研究 (1995 - , 分担).

環境庁・公害健康被害補償予防協会委託, 近藤直実: 小児気管支喘息の発症背景因子に関する研究 (1993, 分担). 公害健康被害補償予防協会委託, 近藤直実: 気管支喘息の免疫遺伝に関する研究 (1993, 分担). 公害健康被害補償予防協会委託, 近藤直実: 気管支喘息発症の予知予測のための因子の検索と検査手法の開発 (1994 - , 分担). 公害健康被害補償予防協会委託, 折居忠夫: 小児気管支喘息の運動療法に関する研究 (1994). 公害健康被害補償予防協会委託, 近藤直実: 小児気管支喘息の運動療法に関する研究 (1995).

その他・小野医学研究財団助成金, 折居忠夫 (1993). 興和生命科学振興財団研究助成, 鈴木康之 (1993). 中山科学振興財団国際交流助成金, 鈴木康之 (1993). 上原記念生命科学財団研究奨励金, 下澤伸行 (1993). 森永奉仕会研究奨励金, 下澤伸行 (1993). 病態代謝研究会研究奨励金, 下澤伸行 (1993). 中山科学振興財団国際交流助成金, 深尾敏幸 (1993). 上原記念生命科学財団研究奨励金, 深尾敏幸 (1995). 内藤記念生命科学財団研究奨励金, 深尾敏幸 (1995).

放射線医学講座 厚生省・がん研究助成金, 土井偉誉: 高齢者の胃がん検診の評価とその効率向上に関する研究 (1993 - 1994). 厚生省・がん研究助成金, 土井偉誉: 胃がん検診における個別検診の精度向上方策に関する研究 (1994 - 1995).

麻酔・蘇生学講座 文部省・一般研究 (C), 下中浩之: タキヒニンの前駆体から見た痛みの伝達機構 (1993). 一般研究 (C), 太田宗一郎: モルヒネ耐性および依存における脳内オピオイド受容体の変化に対する研究 (1992 - 1995). 一般研究 (C), 飯田宏樹: 心肺蘇生後の脳血流維持における 2 作動薬および Ca 拮抗薬の作用に関する研究 (1992 - 1995). 奨励 (A), 赤松 繁: 経食道エコー図法・ドプラ法による麻酔及び陽圧呼吸に左心拡張機能への影響 (1991 - 1996). 奨励 (A), 寺澤悦司: 交感神経ブロックの低酸素症肺血管収縮に及ぼす影響: 経食道心エコーによる検討 (1993). 一般研究 (C), 土肥修司: 一酸化窒素 (NO) および不活性ガス吸入時の呼吸・循環の反射性反応 (1994). 奨励 (A), 上田宣夫: 大動脈遮断・解除および二酸化炭素の脳・脊髄微小血管および肺血管に与える影響 (1995). 奨励 (A), 竹田智雄: 心臓交感神経ブロックが 123 I-MIGB 心筋像および心拍変動におよぼす影響 (1995). 奨励 (A), 寺澤悦司: CGRP の肺血管におよぼす影響 NO の役割 (1995). 奨励 (A), 浅野斗志男: 2 アドレナリン作動薬の硬膜外投与による

鎮痛作用の検討 (1995) .

臨床検査医学講座 文部省・試験研究 (B) , 野間昭夫 : Lp (a) リポ蛋白の簡易・迅速測定法及びイソ型測定法の開発並びに臨床への応用 (1992 - 1993) . 一般研究 (C) , 安部 彰 : Lp (a) リポ蛋白構造変異性と病態的意義に関する研究 (1994 - 1995) . 奨励研究 (A) , 斉藤邦明 : 脳神経系疾患における組織修復と各種アポタンパク合成との関係 (1995) . 一般研究 (B) , 野間昭夫 : Lp (a) の急性相反応物質としての役割及び血管内皮・平滑筋細胞への作用について (1995 - 1996) . 一般研究 (C) , 清島 満 : 高脂血症患者のアポ A - 遺伝子多型性に関する研究 (1995 - 1996) .

その他・臨床病理学研究振興基金研究奨励金 , 清島 満 : アポ A - の生理的機能に関する研究 (1993) . 笹川医学医療研究財団在日外国人留学生に対する研究助成金 , 宋 樺 : 血液及び脳脊髄液を用いたリポ蛋白 (a) 及びアポ E の遺伝的関連性に関する研究 (1994) .

口腔外科学講座 文部省・基盤研究 (C) , 川島光夫 , 安岡 忠 : 上皮小体ホルモン受容体を介する骨細胞のカルシウム代謝制御機構に関する研究 (1996 , 代表) . 一般研究 C , 半田祐二郎 : 変形性顎関節症を実験モデル (羊) を用いての関節鏡所見と病理組織所見との比較検討 (1994 , 分担) . 一般研究 C , 半田祐二郎 : 変形性顎関節症モデル (羊) を用いた関節円板切除に関する研究 (1994 , 分担) . 一般研究 B , 半田祐二郎 : ヒアルロン酸ナトリウムの変形性顎関節症発症に対する抑制効果 (1995 , 分担) . 一般研究 C , 半田祐二郎 : 羊顎関節症を用いての顎関節円板転位の発症とその進行過程に関する研究 (1995 , 分担) .

日本歯科医学会・日本歯科医学会テーマ研究 , 歯科保健医療分野における国際協力の確立に関する総合的研究 (1995 , 分担) . 南オーストラリア州歯学教育研究基金 , 半田祐二郎 : The Sheep Temporomandibular Joint Model , The Aso ANZAOMS Fund, (1994 , 分担) .

マレーシア保健省 , 半田祐二郎 : マレーシアにおける口腔粘膜疾患疫学調査 (1994 , 分担) .

厚生省・奨励研究 (A) , 藤塚秀樹 : 口腔癌モデルを用いて , カルコン類の発癌予防物質としての可能性を検討する (1996 , 代表) . 奨励研究 (A) , 市原秀記 : 骨肉腫に対する電磁波の影響 (1993 , 代表) .

反射研究施設 文部省・重点研究 , 松波謙一 : ヘッドマウンテッドディスプレイを使った人工現実感とその客観的評価基準の作製 (1995 - 1996) . 一般研究 (C) , 松波謙一 : リスザル脳内神経活動記録法による宇宙適応症候群の中枢機序の解明 (1996 - 1997) . 一般研究 (C) , 松波謙一 : ネコ運動野交連性ニューロンに対する BABA AGABA B の作用機序差の研究 (1994 - 1995) . 一般研究 (C) , 佐竹裕孝 : 微小重力環境下における循環反応と前庭動眼反

射の相関について (1994) . 一般研究 (C), 佐竹裕孝 : 宇宙適応症候群における前庭自律反射並びに前庭動眼反射の役割について (1995 - 1996) .

高度化推進特別経費 (研究科特別経費), 松波謙一 : 脳循環と脳細胞活動の相互作用の基礎的研究 特に宇宙医学との関連において (1995) .

磁気健康科学研究振興財団助成金, 松波謙一 : 強い定常磁場が神経系に及ぼす影響の基礎的研究 (1995) .

宇宙基地利用基礎実験費, 松波謙一 : リスザル脳内神経活動の記録による宇宙適応症候の機構の解明 (1996) .

ブレインサイエンス振興財団助成金, 内藤栄一 : PET を用いた運動関連高次脳機能地図作製研究 (1996) .

薬剤部 文部省・教育研究学内特別経費 , 片桐義博 : 肝臓がんに対する動脈内注射用製剤調製のための製剤学的検討 (1994) . 奨励研究 (B), 堀内 正 : 肝臓癌に対する多剤併用の動脈内注射用製剤調製のための製剤学的検討 (1995) .

厚生省・厚生科学研究費, 片桐義博 : 再評価制度に基づく医薬品の品質確保に関する研究 (1996 - , 分担) .

その他・財団法人腎研究会, 第 18 回ヘパリン研究会研究助成金, 堀内 正 : フルオレセイン標識化ヘパリンの分子量分画と高速排除クロマトグラフィによる測定 (1993) . 財団法人腎研究会, 第 19 回ヘパリン研究会研究助成金, 堀内 正 : フルオレセイン標識化ヘパリンの高速排除クロマトグラフィによる測定のための試料調製に関する検討 (1994) .

4 学会活動

学会の役員、委員等

学会誌の編集委員等

学会の主催(国内・国外) (1993～1996年)

学会等における活動状況 (1993年 - 1996年)

(1) 学会の役員, 委員等

(解剖学第一講座)

教授 正村静子: 日本解剖学会 (評議員, 継続中), 日本電子顕微鏡学会関西支部 (評議員, 継続中), 日本臨床電子顕微鏡学会 (評議員, 継続中)

(解剖学第二講座)

伊藤 和夫: 日本解剖学会 (評議員, 継続中), 日本神経科学会 (専門会員, 継続中). 藤田雅文: 日本神経科学会 (専門会員, 継続中). 小野塚 實: 日本生理学会 (評議員, 継続中), 日本神経科学会 (専門会員, 継続中). 長崎 幸雄: 日本運動生理学会 (評議員, 継続中), 日本生理学会 (評議員, 1996 -)

(生理学第一講座)

教授 森田啓之: 生理学会 (評議員, 1986 -), 自律神経学会 (評議員, 1986 -), 臨床生理学会 (評議員, 1986 -), 病態生理学会 (評議員, 1991 -). 助教授 李 憲: 薬理学会 (評議員, 1993 -). 講師 渡邊和子: 生理学会 (評議員, 1988 -), 神経科学会 (専門会員, 1989 -). 助手 荒木陽子: 生理学会 (評議員, 1994年 -)

(生理学第二講座)

教授 恵良聖一: 日本生理学会 (評議員, 継続中), 日本磁気共鳴医学会 (評議員, 継続中), 日本分光学会東海支部 (支部幹事, 1993 -), 日本病態生理学会 (評議員, 1994 -). 助教授 桑田一夫: 日本生理学会 (評議員, 継続中), 日本磁気共鳴医学会 (評議員, 1995 -)

(生化学講座)

教授 野澤義則: 日本医真菌学会 (理事, -1993), 日本医真菌学会 (理事長, 1994 -), 日本原生動物学会 (評議員, -1993), 日本原生動物学会 (会長, 1994 -), 日本膜学会 (副会長, 継続中), 日本生化学会 (評議員, -1993), 日本生化学会 (理事, 1994 - 1996), 日本細胞生物学会 (評議員, 継続中), 日本脂質生化学研究会 (幹事, 継続中), 日本心脈管作動物質学会 (評議員, 1993 -), 日本先天性代謝病学会 (評議員, 継続中), 国際原生動物学会 (理事, 1992 -). 講師 中島 茂: 日本血栓止血学会 (評議員, 1994 -), 日本アレルギー学会 (評議員, 1994 -), 日本医真菌学会 (幹事, 1995 -)

(分子病態学講座)

教 授 岡野幸雄： 日本生化学会 (評議員, 1993年 -)

(薬理学講座)

教 授 植松俊彦： 日本薬理学会 (評議員, 継続中), 日本臨床薬理学会 (評議員, 継続中・総務委員, 継続中・認定制度委員, 継続中). 助教授 小澤 修： 日本内分泌学会 (評議員, 継続中). 講 師 丹羽雅之： 日本薬理学会 (評議員, 継続中)

(病理学第一講座)

教 授 森 秀樹： 日本癌学会 (評議員, 継続中), 日本病理学会 (評議員, 継続中), 日本毒性病理学会 (評議員, 継続中), 日本毒科学会 (評議員, 継続中). 助教授 田中卓二： 日本病理学会 (評議員, 継続中), 日本臨床細胞学会 (評議員, 継続中), 日本臨床細胞学会東海連合会 (幹事, 継続中), 日本臨床細胞学会岐阜県支部 (支部長, 継続中). 助教授 杉江茂幸： 日本病理学会 (評議員, 継続中), 日本臨床細胞学会 (評議員, 継続中). 講 師 吉見直己： 日本病理学会 (評議員, 継続中), 日本臨床細胞学会 (評議員, 継続中)

(病理学第二講座)

教 授 高見 剛： 病理学会 (評議員, 継続中), 免疫学会 (運営委員, -1993)

(微生物学講座)

教 授 江崎孝行： 日本細菌学会 (評議員, 1993 -), 日本細菌学会 (用語委員, 1993 -), 日本細菌学会 (日中微生物学委員, 1993 -), 日本微生物資源学会 (理事, 1993 -), 臨床微生物学会 (理事, 1996 -), 臨床微生物学会 (診断薬評価委員長, 1996 -), 日本環境感染学会 (評議員, 1993 -), 日本感染症学会 (評議員, 1993 -), 日本レジオネラ協議会 (幹事, 1993 -), International Committee on Systematic Bacteriology (1993 -), Subcommittee of the Taxonomy of Staphylococcus and Streptococcus (1993 -), International members of Mycobacterium working group of Taxonomy (1993 -), 日米結核専門部会 (委員, 1993 - 1995), 日米コレラ専門部会 (会員, 1996 -)

(衛生学講座)

教 授 岩田弘敏： 日本公衆衛生学会 (理事・評議員, 継続中), 日本衛生学会 (評議員, 継続中), 日本産業衛生学会 (理事・評議員, 継続中), 日本災害医学会 (評議員, 継続中), 日本温泉気候物理医学会 (評議員, 継続中), 日本総合健診医学会 (評議員, 継続中). 助教授 井奈波良一： 日本衛生学会 (評議員, 継続中), 日本民族衛生学会 (評

議委員， 継続中)， 日本産業衛生学会（評議員， 1996 - ）， 日本温泉気候物理医学会（評議員， 1995 - ）

(公衆衛生学講座)

教授 清水弘之： 日本公衆衛生学会（評議員， 1994 - 1996), 日本産業衛生学会（評議員， 1996 - ）， 日本衛生学会（評議員， 継続中), 日本疫学会（評議員， 継続中), 日本がん疫学研究会（評議員， 継続中), 日本癌学会（評議員， 1994 - ）。 助教授 川上憲人： 日本公衆衛生学会（評議員， 1994 - 1996), 日本衛生学会（評議員， 1994 - ）， 日本産業衛生学会（評議員， 継続中), 日本産業ストレス学会（理事， 1996 - ）， 日本産業精神保健学会（理事， 1994 - ）， 日本ストレス学会（理事， 1994 - ）， 日本行動医学会（理事， 1994 - ）。 助手 永谷照男： 日本産業衛生学会（評議員， - 1995)

(法医学講座)

教授 大谷 勲： 日本法医学会（理事， - 1995）， 日本法医学会（庶務委員， - 1995）， 日本法医学会（評議員， 継続中）， 日本賠償医学会（評議員， 継続中）。 助教授 武内康雄： 日本法医学会（評議員， 継続中）， 法医病理研究会（運営委員， 1993 - ）。 助手 永井 淳： 日本毛髪美容学会（評議員， 継続中)

(寄生虫学講座)

教授 高橋優三： 日本寄生虫学会（評議員）， 日本衛生動物学会西日本支部（幹事）， International Commission on Trichinellosis (active member)。 助教授 伊藤 亮： 日本寄生虫学会（評議員， 1995 -)

(内科学第一講座)

教授 武藤泰敏： 日本内科学会（理事， 1994 - 1996）， 日本消化器病学会（理事， 1993 - ）， 日本肝臓学会（理事， 1990 - 1994）， 日本ビタミン学会（理事， 1987 - ）， 日本臨床代謝学会（理事， 1988 - ）， 日本栄養・食糧学会（理事， 1990 - 1992）， 日本内科学会（評議員， 1982 - ）， 日本アルコール医学会（評議員， 1981）， 日本臨床栄養学会（評議員， 1979 - ）， 日本老年医学会（評議員， 1988 - ）， 日本癌学会（評議員， 1993 - ）。 助教授 森脇久隆： 日本消化器病学会（評議員， 1992 - ）， 日本肝臓学会（評議員， 1994 - ）， 日本臨床代謝学会（評議員， 1991 - ）。 講師 大西弘生： 日本消化器病学会（評議員， 1992 -)

(内科学第二講座)

教授 藤原久義： 日本循環器学会（評議員・財務幹事， 継続中）， 日本内科学会（評議員， 継続中）， 日本動脈硬化学会（評議員， 1995 - ）， 日本臨床生理学会（評議員， 1995

-), 日本冠疾患学会 (評議員, 1995 -). 助教授 後藤紘司: 日本胸部疾患学会 (評議員). 日本臨床生理学会 (評議員), 日本静脈学会 (評議員・編集委員). 講師 神原健治郎: 日本臨床生理学会 (評議員), 日本内科学会東海地方会 (評議員), 日本循環器学会東海地方会 (評議員)

(内科学第三講座)

教授 安田圭吾: 日本内科学会 (評議員, 1994 -), 日本内科学会東海支部 (幹事, 1994 -), 日本内科学会 (認定医制度審議会委員, 1994 -), 日本内分泌学会 (評議員, 1984 -), 日本糖尿病学会 (評議員, 1987 -), 日本老年病学会 (評議員, 1996 -), 日本心血管内分泌代謝学会 (評議員, 1996 -), 日本内分泌学会ステロイドホルモン分科会 (評議員, 1996 -). 助教授 石塚達夫: 日本内科学会東海地方会 (評議員, 1995 -), 日本内分泌学会 (評議員, 1988 -), 日本糖尿病学会 (評議員, 1987 -). 講師 武田則之: 日本内科学会東海地方会 (評議員, 1995 -), 日本内分泌学会 (評議員, 1988 -), 日本糖尿病学会 (評議員, 1991 -)

(外科学第一講座)

教授 広瀬 一: 日本外科学会 (評議員, 1990 -), 日本胸部外科学会 (評議員, 1981 -), 日本心臓血管外科学会 (評議員), 日本移植学会 (評議員, 1988 -), 日本循環器学会 (評議員, 1989 -), 日本脈学学会 (評議員, 1990 -), 日本人工臓器学会 (評議員, 1991 -), 日本臨床外科学会 (評議員, 1989 -), 日本呼吸器外科学会 (評議員, 1996 -), 日本血管外科学会 (評議員, 1993 -). 助教授 鬼束惇義: 日本消化器外科学会 (評議員, 1985 -), 日本外科学会 (評議員, 1994 - 1996), 日本臨床外科医学会 (評議員, 1988 -), 日本大腸肛門病学会 (評議員, 1991 -), 日本移植学会 (評議員, 1991 -), 日本肝・胆・膵外科学会 (評議員, 1994 -). 講師 不破誠行: 日本胸部外科学会 (評議員, 1995 -). 助教授 (救急部) 林 勝知: 日本大腸肛門病学会 (評議員, 1983 -). 助手 酒井 聡: 日本呼吸器外科学会 (評議員, 1994 -)

(外科学第二講座)

教授 佐治重豊: 日本外科学会 (評議員, 1986 -), 日本消化器外科学会 (評議員・理事, 1988 -), 日本癌学会 (評議員, 1996 -), 日本癌治療学会 (評議員・理事, 1986 -), 日本臨床外科医学会 (評議員, 1985 -), 日本 BRM 学会 (評議員・理事, 1988), 日本小児外科学会 (評議員, 1982 -), 日本大腸肛門病学会 (評議員, 1986 -), 日本外科系連合学会 (評議員, 1988), 日本腹部救急医学会 (評議員, 1990), 日本肝胆膵外科学会 (評議員, 1994), 日本低温医学会 (評議員, 1986), 日本緩和医療学会 (評議員, 1996), がん集学的治療研究財団 (評議員, 1992), 胃癌研究会 (世話人), 癌免疫外科研究会 (世話人), 癌治療と病態研究会 (世話人), がん転移研究会 (世話人), 癌局所療

法研究会 (世話人), 日本小児ストマ研究会 (世話人), 日本小児消化管機能研究会 (幹事), 日本消化器癌発生研究会 (世話人), がんとリンパ節研究会 (世話人). 助教授 深田代造: 日本外科学会 (評議員, 1996), 日本臨床外科医学会 (評議員, 1996). 講師 宮 喜一: 日本 BRM 学会 (評議員, 1996 -), 日本臨床外科医学会 (評議員, 1996), 日本癌治療学会 (評議員). 助手 杉山保幸: 日本 BRM 学会 (評議員, 1996 -)

(産婦人科学講座)

教授 玉舎輝彦: 日本産科婦人科学会 (理事, 1995 - 1996), 日本母性衛生学会 (理事, 継続中), 日本不妊学会 (評議員, 継続中), 日本思春期学会 (会長, 1994・理事, 継続中), 日本内分泌 (評議員, 継続中), 日本東洋医学会 (評議員, 1993 -), 日本癌治療学会 (評議員, 継続中), 日本婦人科悪性腫瘍化学療法学会 (理事, 1993 -), 日本化学療法学会 (評議員, 継続中), 日本感染症学会 (評議員, 1995 -), 日本更年期学会 (評議員, 1994 -), 日本産婦人科・新生児血液学会 (評議員, 継続中), 東海産科婦人科学会 (理事, 継続中). 助教授 今井篤志: 日本産科婦人科学会 (評議員, 1994 -), 日本不妊学会 (評議員, 1993 -), 東海産科婦人科学会 (評議員, 1994 -), 講師 藤本次良: 日本内分泌学会 (評議員, 1993 -). 助手 川鱈市郎: 日本産科婦人科 ME 懇話会 (幹事, 1993 -), 日本産婦人科新生児・血液学会 (評議員, 1994 -), 日本超音波医学会中部支部 (運営委員, 1993 -). 助手 丹羽憲司: 日本癌治療学会 (評議員, 1995 -). 助手 三鴨廣繁: 日本化学療法学会 (評議員, 1995 -), 日本感染症学会 (評議員, 1995 -)

(整形外科科学講座)

助教授 系数万正: 日本整形外科学会 (認定医試験口頭試験委員), 日本リウマチ学会 (評議員・指導医), 日本臨床リウマチ学会 (評議員), 日本リウマチ関節外科学会 (評議員), 日本股関節学会 (評議員), 日本結合組織学会 (評議員), 日本輸血学会東海支部 (評議員), 中部日本整形災害外科学会 (評議員), 中部リウマチ学会 (評議員), 関西関節鏡・膝研究会 (幹事), 東海関節外科研究会 (幹事), 岐阜人工股関節フォーラム (幹事), 岐阜整形外科集談会 (幹事, 事務局), 中部日本整形外科災害外科学会 (評議員, 1992 -), 東海脊椎外科研究会 (幹事, 1990 -), 東海小児整形外科研究会 (幹事, 1990 -)

(脳外科学講座)

教授 坂井 昇: 日本脳神経外科学会 (評議員, 1975 -), 日本脳卒中学会 (評議員, 継続中), 日本脳循環代謝学会 (評議員). 助教授 安藤 隆: 日本脳神経外科学会 (評議員, 1981 -), 日本脳卒中学会 (評議員, 継続中). 講師 西村康明: 日本脳神経外科学会 (評議員, 1984). 講師 篠田 淳: 日本脳神経外科学会 (評議員, 1987)

(眼科学講座)

教授 北澤克明： 国際緑内障学会 (会長, 1995 -), 国際視野学会 (副会長, 1995 -), アジア・オセアニア緑内障学会 (会長, 1996 -), 日本眼科学会 (理事, 継続中), 日本眼科手術学会 (理事, 継続中), 日本緑内障学会 (理事, 継続中), 日本眼薬理学会 (理事, 継続中), 日本眼 ME 学会 (理事, 継続中), 日本レーザー治療学会 (評議員, 継続中), ニュージーランド眼科学会 (名誉会員, 継続中), チリ眼科学会 (名誉会員, 継続中), イタリア緑内障学会 (名誉会員, 継続中), The Member of The Committee on International Members of American Academy of Ophthalmology (USA) (継続中), Helen Keller prize (USA) (選考委員). 助教授 山本哲也： 日本緑内障学会 (評議員, 継続中)

(耳鼻咽喉科学講座)

教授 宮田英雄： 日本耳鼻咽喉科学会 (評議員, 継続中・専門医認定試験委員, 1995 -), 日本平衡神経科学会 (評議員, 継続中・運営委員, 継続中), 日本耳科学会 (評議員, 継続中), 日本鼻科学会 (評議員, 継続中), 日本口腔咽頭科学会 (評議員, 継続中), 日本喉頭科学会 (評議員, 継続中), 日本気管食道科学会 (評議員, 継続中), 日本頭頸部外科学会 (評議員, 継続中), 耳鼻咽喉科臨床学会 (運営委員, 継続中), 日本耳鼻咽喉科感染症研究会 (運営委員, 継続中), 耳鼻咽喉科リハビリテーション医学研究会 (会長, -1996), 耳鼻咽喉科と老化の研究会 (世話人, 継続中), 日本耳鼻咽喉科学会中部地方部会連合会 (評議員, 継続中), 日本耳鼻咽喉科学会東海地方部会 (運営委員, 継続中), 東海めまい平衡障害研究会 (世話人, 継続中), 東海メニエール病研究会 (代表世話人, 1995 -), 東海咽喉頭異常感症研究会 (世話人, 継続中), 東海耳鼻咽喉科生体防御研究会 (世話人, 1994 -), 東海花粉症研究会 (顧問, 継続中). 助教授 鈴木智雄： 日本耳鼻咽喉科学会 (評議員, 継続中), 日本耳鼻咽喉科学会中部地方部会連合会 (評議員, 継続中), 日本耳鼻咽喉科学会東海地方部会 (運営委員, 継続中), 東海咽喉頭異常感症研究会 (世話人, 継続中). 講師 伊藤八次： 耳鼻咽喉科情報処理研究会 (幹事, 継続中), 日本耳鼻咽喉科学会東海地方部会 (運営委員, 継続中). 講師 水田啓介： 日本平衡神経科学会 (評議員, 1994 -), 東海花粉症研究会 (世話人, 継続中), 東海メニエール病研究会 (幹事, 1995 -)

(皮膚科学講座)

教授 北島康雄： 日本研究皮膚科学会 (理事・事務総長, 1995 -), 日本皮膚科学会 (評議員, 継続中), 日本医真菌学会 (評議員, 継続中), 日本乾癬学会 (評議員, 継続中), 日本電顕皮膚生物学会 (運営委員, 継続中), 日本結合織学会 (評議員, 継続中), 第 95, 96 回日本皮膚科学会総会・学術大会 (プログラム委員, 継続中). 助教授 前田学： 日本研究皮膚科学会 (幹事, 1995 -), 日本結合織学会 (評議員, 継続中), 日本東洋医学学会東海支部 (評議員, 継続中). 講師 清島真理子： 日本研究皮膚科 (評

議員， 1996 -)

(泌尿器科学講座)

教授 河田幸道： 日本泌尿器科学会 (評議員・専門医制度審議会委員・卒後・生涯教育実行委員会委員， 継続中)， 日本化学療法学会 (理事・評議員・薬効評価法制定委員会泌尿器系委員会委員長・西日本支部幹事， 継続中)， 日本感染症学会 (評議員， 継続中)， 日本腎臓学会 (評議員， 継続中)， 尿路感染症研究会 (幹事， 継続中)， International Symposium on UTI (Co-chairman， 継続中)， 東海泌尿器科腫瘍研究会編集委員会 (委員長， 継続中)， 泌尿器科細胞解析研究会 (世話人， 継続中)． 助教授 坂 義人： 日本泌尿器科学会 (評議員・尿路感染症臨床試験ガイドライン作成委員会委員， 継続中)， 日本化学療法学会 (評議員・雑誌編集委員会委員・新薬委員会委員・用語集改訂委員会常任委員・抗菌薬臨床評価法制定委員会委員， 継続中)， 日本化学療法学会西日本支部 (幹事， 継続中)， 日本感染症学会 (評議員， 継続中)， 日本感染症学会中日本支部 (評議員， 継続中)， 日本 EE 学会 (評議員， 継続中)， 日本環境感染学会 (評議員， 継続中)， 日本性感染症学会 (評議員， 継続中)， 尿路感染症研究会 (幹事， 継続中)． 講師 栗山 学： 日本泌尿器科学会 (Voting Member， 継続中)， 日本化学療法学会 (評議員， 継続中)， 日本移植学会 (評議員， 継続中)， 日本透析療法学会 (評議員， 継続中)， 日本腎移植・血管外科研究会 (世話人)． 講師 出口 隆： 日本泌尿器科学会 (Voting Member， 継続中)， 日本化学療法学会 (評議員， 継続中)， 日本性感染症学会 (評議員， 継続中)， 泌尿器科細胞解析研究会 (幹事， 継続中)． 講師 石原 哲： 日本泌尿器科学会 (Voting Member， 継続中)， 日本化学療法学会 (評議員， 継続中)． 助手 高橋義人： 日本泌尿器科学会 (Voting Member， 継続中)

(神経精神医学講座)

名誉教授 若林慎一郎： 日本児童青年精神医学会 (理事長， - 1994 年)， 日本小児精神神経医学会 (理事， 継続中)， 日本心身医学会 (評議員， 継続中)， 日本発達障害学会 (評議員， 継続中)， 世界矯正医学司法学会 (1994 年世界会議組織委員会副会長， - 1994 年)． 教授 小出浩之： 日本精神神経学会 (評議員， - 1994 年)， 日本精神病理学会 (評議員， 継続中)， 日本児童青年精神医学会 (評議員， 継続中)， 日本アルコ - ル精神医学会 (評議員， 継続中)， 日本心身医学会中部地方会 (評議員， 継続中)． 講師 高岡 健： 日本精神神経学会 (評議員， 継続中)， 日本児童青年精神医学会 (評議員， 継続中)， 日本児童青年精神医学会 (理事， 1994 -)， 日本総合病院精神医学会 (評議員， 1994 -)， 第 1 回アジア児童青年精神医学会 (組織委員， 1995 -)， 日本精神病理学会 (第 16 回大会運営委員， - 1994)． 高橋隆夫： 日本精神神経学会 (評議員， 1994 -)． 助手 柴田明彦： 日本児童青年精神医学会 (評議員， 1994 -)

(小児科学講座)

名誉教授 折居忠夫： 日本先天代謝異常学会 (理事・評議員, 継続中), 日本小児神経学会 (評議員, 継続中), 日本小児遺伝医学会 (理事, 継続中), 日本結合組織学会 (理事, 継続中), 日本未熟児新生児学会 (評議員, 継続中), 日本新生児学会 (評議員, 継続中), 日本医用マスペクトル学会 (評議員, -1996). 教授 近藤直実： 日本小児科学会 (評議員, 継続中), 日本アレルギー学会 (評議員, 継続中), 日本小児アレルギー学会 (理事・評議員, 継続中). 助教授 鈴木康之： 日本先天代謝異常学会 (評議員, 1993 -), 日本人類遺伝学会 (評議員, 継続中), 日本小児神経学会 (評議員, 1996 -), 日本小児遺伝医学会 (幹事, 継続中). 講師 下澤伸行： 日本人類遺伝学会 (評議員, 継続中). 助手 高橋幸利： 日本人類遺伝学会 (評議員, -1995). 助手 祐川和子： 日本結合組織学会 (評議員, 継続中)

(放射線医学講座)

教授 星 博昭： 日本医学放射線学会 (評議員, 1993 -), 日本医学放射線学会・中部地方会 (世話人, 1995 -), 日本核医学会 (評議員, 1993 -). 名誉教授 土井偉誉： 日本医学放射線学会 (評議員, 1993 -), 日本医学放射線学会・中部地方会 (世話人, 1993 - 1995), 日本消化器病学会 (評議員, 1993 -), 日本消化器病学会・東海支部 (評議員, 1993 -), 日本消化器集団検診学会 (監事・評議員, 1993 -), 日本消化器集団検診学会 (東海・北陸支部長, 1993 - 1996), 日本磁気共鳴学会 (評議員, 1993 -), 日本画像医学会 (評議員, 1993 -), 胃癌研究会 (世話人, 1993 -). 助教授 後藤裕夫： 日本消化器集団検診学会 (評議員, 1993 -). 助教授 梶浦雄一： 東海放射線腫瘍研究会 (世話人, 1996 -). 講師 松井英介： 日本気管支学会 (評議員, 1993 -), 日本気管支学会・中部支部会 (評議員, 1993 -), 日本肺癌学会 (評議員, 1993 -), 中部肺癌学会 (評議員, 1993 -), 日本胸部疾患学会・東海地方学会 (評議員, 1993 -), 肺癌診断会 (世話人, 1993 -), 中部地区胸部内視鏡懇談会 (代表世話人, 1995 -). 講師 山脇義晴： 中部 IVR 研究会 (幹事, 1993 -).

(麻醉・蘇生学講座)

教授 土肥修司： 日本麻醉学会 (評議員, 1989 -), 世界麻醉学会 (誘致委員, 1995 - ・英文誌編集委員, 1995 - ・麻醉指導医認定委員, 1996 -), 日本臨床モニター学会 (評議員, 1995 -), 日本医療帰省支援システム (幹事, 1996 -), 日本臨床麻醉学会 (評議員, 1995 -), 日本集中治療学会 (評議員, 1989 -), 日本ペインクリニック学会 (評議員, 1994 -), 日本ペインクリニック学会 (機関誌編集委員会, 1995 -), 日本麻醉・薬理学会 (理事, 1993 -), 日本蘇生学会 (理事・評議員, 1995 -), 日本循環制御医学

会 (評議員, 1996 -), 日本手術部医学会 (評議員, 1995 -), 日本小児学会 (理事, 1996 -)

(臨床検査医学講座)

教授 野間昭夫: 日本臨床病理学会 (評議員), 日本臨床化学会 (評議員), 日本老年医学会 (評議員), 日本動脈硬化学会 (評議員), 日本脂質生化学研究会 (幹事), 日本臨床検査自動化学会 (評議員), 日本輸血学会東海支部会 (評議員). 助教授 下川邦泰: 日本臨床病理学会 (評議員), 日本病理学会 (評議員), 日本外科病理学会 (プログラム委員会委員). 講師 (1994. 3 まで) 安部 彰: 日本臨床病理学会 (評議員), 日本臨床化学会 (評議員), 日本薬理学会 (評議員), 日本臨床検査自動化学会 (評議員), 日本生物試料分析学会 (評議員), 日本臨床病理学会標準委員会 SI 単位小委員会 (委員). 講師 清島 満: 日本臨床病理学会 (評議員), 日本動脈硬化学会 (評議員), 日本臨床化学会 (評議員), 日本臨床検査自動化学会 (評議員). 助手 斉藤邦明: 日本トリプトファン研究会 (評議員)

(口腔外科学講座)

講師 半田祐二郎: 日本口腔外科学会 (渉外委員会委員)

(反射研究施設)

教授 松波謙一: 日本生理学会 (評議員, 継続), 日本神経科学会 (評議員, 継続), 日本宇宙航空環境学会 (評議員, 継続), 日本生体磁気学会 (評議員, 継続), Aerospace Medical Association (継続), International Brain Research Organization (IBRO, 継続), 日本宇宙生物学会 (評議員, 継続), 非侵襲脳機能研究会 (幹事, 継続), 日本宇宙生物学会 (会計監査, 継続中). 助教授 川島 卓: 日本生理学会 (評議員, 継続), 日本神経科学会 (継続), 日本神経回路学会 (継続), Society for Neuroscience (継続). 講師 佐竹裕孝: 日本生理学会 (評議員, 継続), 日本宇宙航空環境学会 (評議員, 継続), 日本神経科学会 (継続), 日本宇宙生物学会 (継続), 日本マイクログラビティ応用学会 (継続), Society for Neuroscience (継続), Aerospace Medical Association (継続), The New York Academy of Sciences (継続), American Association for the Advancement of Science (継続). 助手 内藤栄一: 日本生理学会 (継続), 日本心理学会 (継続), 日本神経科学会 (継続), 日本体育学会 (継続)

(嫌気性菌実験施設)

教授 渡辺邦友: 日本細菌学会 (評議員, 1993 -), 日本感染症学会 (評議員, 1985 -), 日本化学療法学会 (評議員, 1984 - ・MIC 測定法検討委員会, 1992 -), 日本臨

床微生物学会 (評議員, 1991 - ・ 幹事, 1991 - 1995 ・ 理事, 1996 - ・ 編集委員, 1991 - 1993), 日本臨床病理学会 (評議員, 1990 -), 嫌気性菌感染症研究会 (運営委員, 継続中), 臨床微生物迅速診断研究会 (幹事, 1987 - ・ 編集委員, 1987 -), Journal of Infection and Chemotherapy (Editorial board, 1995 -). 助教授 加藤直樹: 日本細菌学会 (評議員, 1993 -), 日本感染症学会評議員 (1985 -), 日本化学療法学会 (評議員, 1987 - ・ 新薬委員, 1993 - 1994), 日本感染症学会 (1988 -), 日本臨床微生物学会 (1990 -). 助手 加藤はる: 日本感染症学会 (評議員, 1995 -)

(動物実験施設)

杉江茂幸: 日本病理学会 (評議員, 継続中・認定病理医), 日本臨床細胞学会 (評議員, 継続中・細胞診指導医), International Academy of Cytology, Fellow of International Academy of Cytology (FIAC), 日本臨床病理学会 (認定臨床検査医), 日本毒性病理学会 (認定毒性病理専門家)

(輸血部)

講師 大塚節子: 日本輸血学会 (評議員, 1992 -), 日本輸血学会東海支部会 (幹事, 1992 -) (薬剤部)

教授 片桐義博: 日本臨床薬理学会 (評議員, 1995 -), 日本病院薬学会 (評議員, 1996 -), 日本 TDM 学会 (評議員, 1996 -)

学会誌の編集委員等

(解剖学第一講座)

教授 正村静子： Clinical Anatomy (編集委員), American Association of Clinical Anatomists & the British Association of Clinical Anatomists

(生化学講座)

教授 野澤義則： Molecular Membrane Biology (編集委員), Biophysica et Biochimica Acta (編集委員), Review of Biomembranes (編集委員), Chemistry and Physics of Lipids (編集委員), Platelets (編集委員), Journal of Medical and Veterinary Mycology (編集委員), Journal of Eukaryotic Microbiology (編集委員), European Journal of Protistology (編集委員), Journal de Mycologie Medicale (編集委員), 日本膜学会誌 (編集委員)

(薬理学講座)

教授 植松俊彦： Therapeutic Drug Monitoring (編集委員), Drugs & Therapy Perspectives (編集委員), 老年消化器病 (編集委員)

(微生物学講座)

教授 江崎孝行： Microbiology and Culture Collection (編集委員), J. General and Applied Microbiology (編集委員), Microbiology and Immunology (編集委員), Asia Pacific Journal of Molecular Biology and Biotechnology (編集委員)

(衛生学講座)

教授 岩田弘敏： 日本公衆衛生雑誌 (編集委員), 産業衛生学雑誌 (編集委員)

(公衆衛生学講座)

教授 清水弘之： Japanese Journal of Cancer Research (編集委員). 助教授 川上憲人： American Journal of Health Behavior (編集委員), International Journal of Behavioral Medicine (編集委員), 日本衛生学雑誌および Environmental Health and Preventive Medicine (編集委員), タイプ A (編集委員)

(法医学講座)

教授 大谷 勲： 日本法医学雑誌 (編集委員). 助教授 武内康雄： 法医病理 (編集委員)

(内科学第一講座)

教授 武藤泰敏：日本消化器病学会雑誌（編集委員会副委員長），Gastroenterol Jpn（編集委員会副委員長），日本栄養食糧学会雑誌（編集委員），J Cancer Res Clin Oncol（編集委員），Jpn J Clin Oncol（編集委員），J Gastroenterol Hepatol（編集委員）

(外科学第一講座)

教授 広瀬 一：移植（編集委員），日本胸部外科学会誌（編集委員）

(外科学第二講座)

教授 佐治重豊：日本外科学会雑誌（SURGERY TODAY）（編集員），日本消化器外科学会雑誌（編集員），日本外科系連合学会雑誌（編集員），Biotherapy（編集員）

(産婦人科学講座)

教授 玉舎輝彦：日本産科婦人科学会（編集企画委員会委員），日本内分泌学会（刊行委員），日本東洋医学会（編集委員），Oncology & Chemotherapy（編集委員）。助教授 今井篤志：Oncology Reports（編集委員）

(整形外科科学講座)

助教授 糸数万正：中部日本整形災害外科学会（編集委員），岐阜県整形外科集談会（編集委員）

(眼科学講座)

教授 北澤克明：Ophthalmology (USA)（編集委員），Journal of Glaucoma (USA)（編集委員），Journal of Ocular Pharmacology and Therapeutics (USA)（編集委員），Ophthalmic Surgery and Lasers (USA)（編集委員），Current Opinion in Ophthalmology (USA)（編集委員），Japanese Journal of Ophthalmology (Japan)（編集委員），International Ophthalmology (Holand)（編集委員），New Trends in Ophthalmology (Italy)（編集委員）

(耳鼻咽喉科学講座)

教授 宮田英雄：Equilibrium Research（編集委員），Auris・Nasus・Larynx (Tokyo) (editorial board)

(皮膚科学講座)

教授 北島康雄：Archives of Dermatol (USA) (国際編集委員)，Epithelial Cell Biology (UK)（編集委員），Journal of Dermatol Sci (Japan) (副編集者)。助教授 前田 学：日

本医真菌学会 (編集委員)

(泌尿器科学講座)

教授 河田幸道： Canadian J Infect Dis (International Editorial Board), Int J Urol (Editorial Board), 泌尿器科紀要 (Editorial Board), 泌尿器外科 (Editorial Board), Urological Nursing (編集同人). 助教授 坂 義人： 日本化学療法学会雑誌 (編集委員). 講師 栗山 学： 泌尿紀要 (編集委員), Urology (Editorial Board), Urological Oncology (Editorial Board)

(神経精神医学講座)

名誉教授 若林慎一郎： 日本発達障害学会機関紙「発達障害研究」(編集協力委員). 講師 高岡 健： 日本精神神経学会 (卒後教育検討委員会委員, 継続中), 日本児童青年精神医学会 (子供の人権に関する委員会委員, 継続中), 日本総合病院精神医学会 (在り方・渉外委員会委員), 日本児童青年精神医学会 (医療費問題委員会委員). 助手 鬼頭有代： 日本総合病院精神医学会 (渉外委員)

(小児科学講座)

教授 近藤直実： Acta Paediatrica Japonica (編集委員, 1996 -), アレルギーの領域 (編集顧問, 1996 -)

(放射線医学講座)

教授 星 博昭： 日本アイソトープ協会 (企画専門委員会委員), 日本アイソトープ協会 (全国核医学診療実態調査専門委員会委員). 名誉教授 土井偉誉： 日本消化器集団検診学会 (研修委員会委員長・全国集計委員会副委員長・付置研究会あり方委員会委員), 胃癌研究会 (規約委員会委員). 講師 松井英介： 日本気管支学会 (編集委員会委員), 日本肺癌学会 (気管支鏡所見分類委員会). 助教授 今枝孟義： 日本核医学会 (専門医認定委員会委員). 助教授 後藤裕夫： 日本消化器集団検診学会 (認定委員会委員)

(麻酔・蘇生学講座)

教授 土肥修司： Journal of Anesthesia (日本麻酔学会誌) (Editor)

(臨床検査医学講座)

教授 野間昭夫： 臨床病理 (編集査読委員), 動脈硬化 (編集査読委員), Journal of Atherosclerosis and Thrombosis (編集査読委員), 臨床化学 (編集査読委員). 助手 斉藤邦明： Brain Research (査読委員), Journal of Histochemistry and Cytochemistry (査読委員)

(口腔外科学講座)

講 師 半田祐二郎： Hospital Dentistry 及 Oral- Maxillofacial Surgery (編集幹事，1996)

(反射研究施設)

教 授 松波謙一： 日本生理学雑誌 (編集委員)，日本宇宙生物学会 (データベース委員)。

講師 佐竹裕孝：日本宇宙航空環境医学会 (編集委員)

(薬剤部)

教 授 片桐義博： TDM 研究 (編集委員)

学会の主催(国内・国外)

(解剖学第二講座)

日本解剖学会第 54 回中部地方会 (1994 年 10 月 15 - 16 日, 岐阜大学医学部, 伊藤和夫)

(生化学講座)

教授 野澤義則: 第 2 回日本生化学会春季シンポジウム (1996 年 5 月 18 日, 名古屋国際会議場, 日本生化学会), 第 38 回日本脂質生化学研究会研究集会 (1996 年 6 月 20 - 21 日, 岐阜未来会館, 日本脂質生化学研究会)

(病理学第一講座)

日本臨床細胞学会東海連合会第 12 回総会 (1993 年 3 月 6 日, 岐阜, 田中卓二)

(微生物学講座)

3rd Joint China and Japan Joint Symposium of Molecular Microbiology (1994 年, Beijing, China), 第 2 回日本微生物資源学会総会 (1995 年 6 月 22 - 23 日, 岐阜 未来会館), 第 11 回病原細菌研究会 (1993 年 7 月 27 - 30 日, 岐阜大学医学部内), 第 12 回病原細菌研究会 (1994 年 7 月 26 - 29 日, 岐阜大学医学部内), 第 13 回病原細菌研究会 (1995 年 7 月 11 - 14 日, 岐阜大学医学部内), 第 13 回日本細菌学会技術講習会 (1994 年 8 月 23 - 26 日岐阜大学医学部内)

(衛生学講座)

第 36 回東海学校保健学会総会 (1993 年 10 月 2 日, 岐阜大学医学部, 岩田弘敏), 平成 5 年度日本産業衛生学会東海地方会学会 (1993 年 11 月 27 日, 岐阜大学医学部, 岩田弘敏)

(内科学第一講座)

第 45 回日本ビタミン学会大会 (1993 年, 岐阜), 第 49 回日本栄養, 食糧学会大会 (1995 年, 岐阜), Retinoid Symposium (1993 年, 岐阜)

(内科学第二講座)

第 97 回日本循環器学会東海地方会 (1995 年 6 月 17 日 - 6 月 18 日, 岐阜大学医学部, 藤原久義)

(内科学第三講座)

第 47 回日本糖尿病学会中部地方会 (1993 年 3 月 13 日, 岐阜市市町村会館, 会長: 三浦 清), 第 51 回日本糖尿病学会中部地方会 (1995 年 3 月 11 日, 岐阜大学医学部付属病院外来棟 4 階講堂, 会長: 安田圭吾)

(外科学第一講座)

日本心臓移植研究会 (1994, 岐阜)

(外科学第二講座)

第 8 回日本 BRM 学会学術集会総会 (1995 年 11 月 30 日 - 12 月 1 日, 長良川国際会議場, 佐治重豊), 第 29 回日本小児外科学会東海地方会 (1995 年 12 月 9 日, エ - ザイ株式会社名古屋支店, 佐治重豊)

(産婦人科学講座)

第 13 回日本思春期学会総会・学術集会 (1994 年 8 月 25 日 - 27 日, 岐阜市民会館, 会長: 玉舎輝彦)

(整形外科学講座)

中部日本整形外科災害外科学会 (1993 年), 日本股関節学会 (1994 年), 日本骨・関節感染症研究会 (1994 年), 日本小児整形外科学会 (1995 年), 東海関節外科研究会 (1994 年 11 月 14 日, 名古屋, 当番幹事 系数万正)

(眼科学講座)

第 7 回日本レーザー医学会東海地方会 (1993 年 7 月 3 日, 名古屋, 岐阜大学眼科学教室 北澤克明), 第 13 回日本眼薬理学会 (1993 年 9 月 4 日 - 5 日, 岐阜, 岐阜大学眼科学教室 北澤克明), 第 4 回国際緑内障シンポジウム (1993 年 9 月 25 日 - 26 日, 京都, 岐阜大学眼科学教室 北澤克明), 第 378 回東海眼科学会 (1994 年 6 月 12 日, 岐阜, 岐阜大学眼科学教室 北澤克明), 第 19 回手術学会総会 (1996 年 1 月 25 日 - 28 日, 岐阜, 岐阜大学眼科学教室 北澤克明)

(耳鼻咽喉科学講座)

第 9 回耳鼻咽喉科情報処理研究会 (1993 年 3 月 13 日, 岐阜大学医学部講堂, 担当: 岐阜大学医学部耳鼻咽喉科学教室 宮田英雄), 第 73 回日本耳鼻咽喉科学会東海地方部会連合講演会 (1993 年 6 月 13 日, 岐阜大学医学部講堂, 担当: 岐阜大学医学部耳鼻咽喉科学教室), 第 10 回日本平衡神経科学会医師講習会 (1993 年 8 月 5 日 - 7 日, エーザイ(株)川島工園, 担当: 岐阜大学医学部耳鼻咽喉科学教室 宮田英雄), 第 80 回日本耳鼻咽喉科学会東海地方部会連合講演会 (1995 年 3 月 19 日, 岐阜大学医学部講堂, 担当:

岐阜大学医学部耳鼻咽喉科学教室), 第 5 回耳鼻咽喉科リハビリテーション医学研究会 (1996 年 4 月 13 日, 第一製薬(株)東京本社, 担当: 岐阜大学医学部耳鼻咽喉学教室 宮田英雄)

(皮膚科学講座)

第 92 回日本皮膚科学会総会 (1993 年 4 月 9 日 - 11 日, 岐阜グランドホテル, 森 俊二), 第 187 回日本皮膚科学会東海地方会 (1994 年 3 月 20 日, 岐阜グランドホテル, 森 俊二), 第 9 回表皮細胞研究会 (1995 年 8 月 31 日 - 9 月 1 日, 岐阜グランドホテル, 北島康雄), 東海地区 (愛知・岐阜・三重) 合同皮膚科医会 (1996 年 1 月 28 日, 長良川ホテル, 北島康雄), 第 18 回水疱症研究会 (1996 年 10 月 18 日 - 19 日, 彦根プリンスホテル, 北島康雄)

(泌尿器科学講座)

第 185 回日本泌尿器科学会東海地方会 (1994 年 9 月 24 日, 河田幸道), 第 5 回 Bayer Symposium on UTI (1995 年 8 月 25 日, 河田幸道), 第 192 回日本泌尿器科学会東海地方会 (1996 年 5 月 25 日, 岐阜大学医学部講堂, 河田幸道)

(神経精神医学講座)

第 145 回東海精神神経学会 (1994 年 7 月 2 日, 岐阜大学, 小出浩之会長)

(小児科学講座)

第 187 回日本小児科学会東海地方会 (1993 年, 折居忠夫), 第 26 回日本結合組織学会 (1994 年, 折居忠夫), 第 24 回日本小児科学会セミナー (1994 年, 折居忠夫), 第 98 回日本小児科学会学術集会 (1995 年, 折居忠夫), 第 193 回日本小児科学会東海地方会 (1995 年, 近藤直実), 第 26 回臨床アレルギー講習会 (1996 年, 近藤直実)

(放射線医学講座)

第 1 回中部地区胸部内視鏡懇談会 (1995 年 7 月 22 日, 名古屋, 松井英介), 日本核医学会第 42 回中部地方会 (1996 年 2 月 10 日, 岐阜, 今枝孟義), 第 19 回中部 IVR 研究会 (1996 年 2 月 10 日, 岐阜, 山脇義晴), 日本医学放射線学会第 119 回中部地方会 (1996 年 2 月 11 日, 岐阜, 今枝孟義)

(麻酔・蘇生学講座)

第 83 回日本麻酔学会東海地方会総会 (1993 年 2 月 13 日, 岐阜大学医学部講堂, 岐阜大学医学部麻酔・蘇生学教室), 第 3 回日本集中治療医学会東海北陸地方会 (1995 年 9 月 2 日, 未来会館 (県民文化ホール), 岐阜大学医学部麻酔・蘇生学教室, 同付属病院救急

部・集中治療部)

(臨床検査医学講座)

第 34 回日本臨床病理学会東海・北陸支部総会 (1995 年 3 月 5 日, 岐阜大学, 野間昭夫), 第 35 回日本臨床化学学会年会 (1995 年 10 月 5 日 - 6 日, 長良川国際会議場, 野間昭夫), 中部脂質代謝研究会, 1996 年 3 月 1 日, 名古屋, 野間昭夫)

(嫌気性菌実験施設)

第 23 回嫌気性菌検査技術講習会 (1993, 年 8 月 2 日 - 7 日, 岐阜, 渡辺邦友), サテライト国際シンポジウム (1993 年 8 月 8 日, 岐阜市, 渡辺邦友), 第 7 回臨床微生物迅速診断研究会総会 (1994 年 5 月 14 日, 松山市, 渡辺邦友), 第 24 回嫌気性菌検査技術講習会 (1994 年 8 月 1 日 - 6 日, 岐阜市, 渡辺邦友), 第 25 回嫌気性菌検査技術講習会 (1995 年 7 月 31 日 - 8 月 5 日, 岐阜市, 渡辺邦友), 第 25 回嫌気性菌検査技術講習会 (1996 年 7 月 29 日 - 8 月 3 日, 岐阜市, 渡辺邦友)

(輸血部)

第 25 回全国国立大学附属病院輸血部会議 (1993 年 11 月 5 日, 当番校)

5 学術賞等の受賞状況

桑田一夫： 岐阜医学奨励賞 (Off-resonance rotating-frame nuclear Overhauser effect spectroscopy 1995 年)

森 秀樹： 高松宮妃癌研究助成受領 (大腸発癌予防物質の早期検出と大腸発癌プログレスシヨンの抑制に関する研究 1995 年)

井奈波良一： 第 6 回日本産業衛生学会奨励賞 (1994 年)

伊藤 亮： 第 2 回金原一郎記念基礎医学医療財団研究助成；平成 2 年度持田記念医学薬学振興財団研究助成；第 20 回大山健康財団研究助成；平成 7 年度上原記念生命科学財団研究助成；第 22 回日産科学振興財団研究助成

村上啓雄： 平成 5 年度日本消化器病学会学術奨励賞 (1993 年)

安藤量基： 岐阜医学研究奨励賞 (1993 年)

武藤泰敏： 三井生命厚生事業団成人病研究助成 (1994 年)；第 2 回「疾病予防における抗酸化ビタミンと カロチン」国際会議優秀賞 (1994 年)；三井生命厚生事業団成人病研究助成 (1994 年)

杉原潤一： 公益基金加藤記念難病研究助成基金研究助成 (1994 年)；公益基金加藤記念難病研究助成基金研究助成 (1994 年)

葛西哲宏： 平成 6 年度日本肝臓学会研究奨励賞 (1994 年)

永木正仁： 第 10 回世界消化器病学会 Young Investigators Award (1994 年)；岐阜医学研究奨励賞 (1996 年)；ウイルス肝炎研究財団研究奨励賞 (1993 年)

鷹津久登： 第 33 回日本核医学会賞 (1995 年 10 月 5 日)；The best paper of the year (J Nucl Cardiol 1995 年)

K. Auma, H. Hirose, K. Matsumoto, S. Fuwa, Y. Mori, S. Murakawa, H. Arakawa and M. Ishikawa: Screening of patients with ischemic heart disease by transesophageal atrial pacing

and the selection of surgical therapy: in patients with arteriosclerosis obliterans and aortic aneurysm. J Cardiovasc Surg 36, 61-69 (1995 年)

佐々木栄作： AKZO Nobel Award for Young Scientists (the 10th World Congress of the International Society for Artificial Organs 1996 年)

今井篤志： 日本内分泌学会研究奨励賞 (生殖器腫瘍におけるゴナドトロピン放出因子 (Gn-RH) 受容体の発現と受容・応答機構 1995 年)；日本婦人科悪性腫瘍化学療法学会研究賞 (子宮内膜癌由来増殖抑制因子のクローニングと情報伝達機構 1995 年)

郭 泰彦： 日本脳神経外科学会賞・渡辺賞 (Superselective intra-arterial infusion of papaverine for the treatment of cerebral vasospasm after subarachnoid hemorrhage 1993 年)

山本哲也： 須田賞 (1994 年)

杉山和久： 須田賞 (1996 年)

Mohammad S.R. Haque： (財)白内障研究所助成金 (1993 年)

杉山和久： 公益信託三島濟一記念眼科研究国際交流基金 (1993 年)

i 尺 啓民： 公益信託三島濟一記念眼科研究国際交流基金 (1993 年)

中村好克： 平成 7 年度岐阜医学奨励賞 (Ceramide inhibits IgE-mediated activation of phospholipase D, but not of phospholipase C, in rat basophilic leukemia (RBL-2H3) cells.)

青木光広： 平成 7 年度日本平衡神経科学会賞 (視性訓練による視性平衡機能向上の研究 (1) 視運動性眼振の訓練効果の検討．視性訓練による視性平衡機能向上の研究 (2) NMDA 受容体の役割)

折居忠夫： 小野医学研究財団助成金 (1993 年)

鈴木康之： 興和生命科学振興財団研究助成 (1993 年)；中山科学振興財団国際交流助成金 (1993 年)；岐阜医学奨励賞 (1995 年)；日本小児神経学会長島賞 (1995 年)；日本先天代謝異常学会奨励賞 (1996 年)

下澤伸行： 上原記念生命科学財団研究奨励金 (1993 年)；森永奉仕会研究奨励金 (1993

年)；病態代謝研究会研究奨励金 (1993)；日本人類遺伝学会奨励賞 (1993 年)；岐阜医学奨励賞 (1993 年)

戸松俊治： 日本先天代謝異常学会 IBM 奨励賞 (1994 年)；日本人類遺伝学会奨励賞 (1995 年)

深尾敏幸： 日本先天代謝異常学会 IBM 奨励賞 (1993 年)；中山科学振興財団国際交流助成金 (1994 年)；上原記念生命科学財団研究奨励金 (1995)；内藤記念生命科学財団研究奨励金 (1995 年)

福田誠司： 日本先天代謝異常学会 IBM 奨励賞 (1995 年)

土井偉誉： 労働大臣表彰・功績賞 (1994 年)，岐阜新聞大賞・学術賞 (1995 年)

下川邦泰： 第 1 回白壁賞 (術前診断できた早期回腸癌の 1 例 1995 年)

清島 満： 日本臨床病理学術奨励賞 (アポ A - の生理的機能に関する研究 1993 年)

安岡 忠： 第 37 回日本口腔科学会中部地方会奨励研究賞 (骨副甲状腺ホルモンレセプター-の性状に関する研究：産卵鶏と休産鶏における差異について 1994 年)